
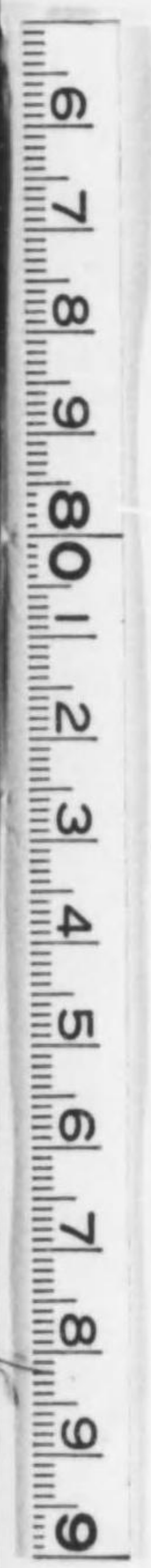


R291.033  
N77(6)

R291.033-N77  
  
1200500766583



始



33.12.19

R291.033  
N 77  
(6)

# 名地本日 典辭大

卷六第

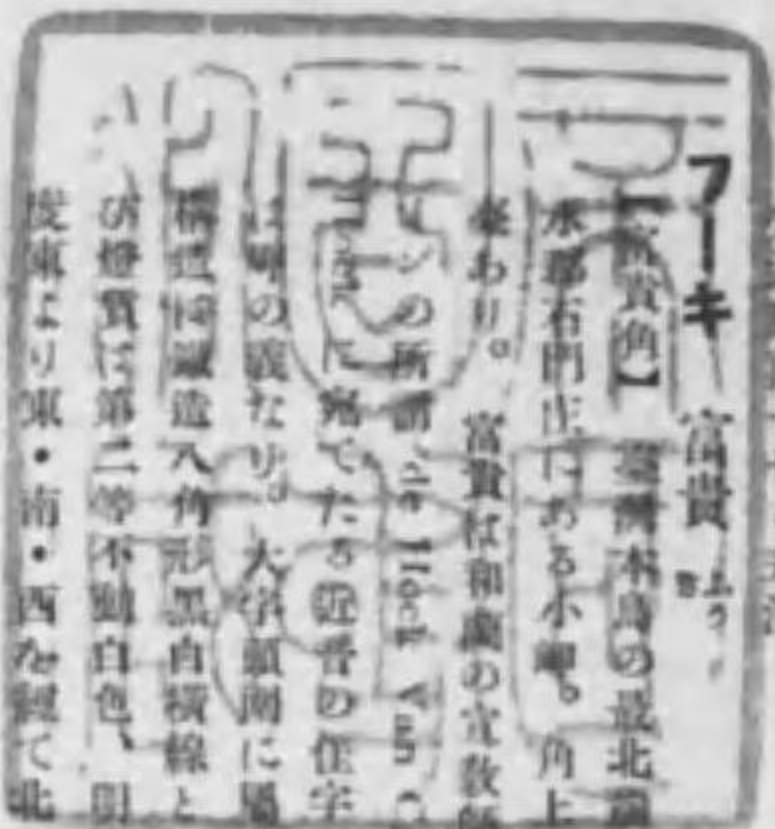
フーフ

發 發 行 發  
社 凡 平 · 房 書 本 日

日本地名大辭典

第六卷

裝幀 恩地孝四郎画伯



**7 鳧島** 朝鮮の西部海岸、仁川港口東水道にある一小島。行政上、京畿道富川郡徳積面に属す。一に皮島と稱し、島上に鳧島燈臺(明治三十七年設置)あり、燈質は連閃白光にして、二〇秒を隔てて二〇秒間に四閃光を發す。紅光副燈あり。光達距離一七・五浬。

**富貴島** 朝鮮本島の最北端、遼北州淡水軍威部の南端、那色軍威面を距る南方約二〇軒。南は建城郡公山面に、西は漆谷郡の東明・梨山の二面に、西北は善山郡長川面に接す。東南隅に八六山(一一九二米)聳ち、その山腹南端と東南境に及び、西北界にも四一五米の山地あるも中部南北には幅狭き低地ありて耕地拓げ農産に麥・大豆・棉花等あり。道路は等外道路のみにて交通なほ便ならず。

(一)二六米、東北境に玉女峰(七三九米)、西境に笠峯(六四一米)、東南境に富貴山(八〇六米)等聳ちて山地多し。富貴川は北部に出でて南流し中部に至りて東折し、東隅上田面に出でて錦江の支流程子川に合し、また南部には東南流する島院川(錦津江上流)に注ぐ小流あり。これ等の流域には幅狭き低地ありて番田・畑地拓げ、農産に米・麥・大豆等を出す。また西境山地の一部は西隣の所屬面にある新元嶺山の嶺區にて金・銀・銅・鉛・亜鉛を産す。全州・嶺安間の二等道路は南部をほぼ東西に貫きバスを通す。

**フーケー** 街溪面 朝鮮慶尙北道軍威部の南端、那色軍威面を距る南方約二〇軒。南は建城郡公山面に、西は漆谷郡の東明・梨山の二面に、西北は善山郡長川面に接す。東南隅に八六山(一一九二米)聳ち、その山腹南端と東南境に及び、西北界にも四一五米の山地あるも中部南北には幅狭き低地ありて耕地拓げ農産に麥・大豆・棉花等あり。道路は等外道路のみにて交通なほ便ならず。

**フーシン** 封仁面 朝鮮平安南道孟山郡の西南端、南は成川郡雙龍面、西は順川郡新倉面に、北は徳川郡鳳鳴面に接す。四周山地を繞らし、中部にも八峰山(六六四米)ありその嶺は東西に延び、西を南北の二地域に分つ。北部は東西に長く、東境に英徳山(八一三米)・朴嶺山(七一四米)聳ち正坪洞川これより發し

て西流し、中部に至りて西境より東流する支流を合して北に向ひ北隣の鳳鳴面に注いで大同江に注ぐ。南部は幅狭くその西部は岐倉後川の上支の、東部はその支流の上源をなす。以上諸川に沿ひて所々に小平地あり耕地拓げ粟・稗・玉蜀黍・大豆・馬鈴薯・煙草等の農産を出す。平元西部線の新倉驛より徳川に至るバス路線は面の西北境嶺脚を越え、正坪洞川の下流に沿ひて通ずるも東部・南部は交通なほ便ならず。

**フーチヤチン** 岬 伊豆國御濱と戸田港との中間にある岬。安政元年十一月露艦アテナ號號河灣にて沈没し、乗組の水師提督フーチヤチンこの岬に來り、幕府に請うてスクーター船を作りしところよりこの稱あり。御濱にはもと東京帝國大學の水泳部あり、その學生が呼び始めしもの。

**フーディー** 楓洞面 朝鮮平安南道中和郡の北西端。平壤の東約二〇軒。西は大同郡青龍面に接し、北は大同江の支流南江を隔てて江東郡曉連面・三登面に對し、東は黄海道嶺安郡公浦面に隣る。面積約一〇〇方軒。謂ゆる浪樂平平原の東部にて東境中部に高雲山(五四三米)、南西境部に帝雲山あるも、其他は緩慢なる起伏をなす高さ四〇―五〇米の凝地性平原にて、北境を西流する南江と南隣祥原面より來りて西北に貫流し、南江に合する祥原川との沿岸には低平地ありて畑

地よく拓く。粟・小麥・棉花・苹果等の農産あり。平壤より京畿道議政府方面への二等道路西南部に通じ、また對岸曉連面驛洞里には平壤炭礦線の終端驛ありて交通不便ならず。昭和の初年、楓洞面に南隣の舊上道面を合併して今の楓洞面を建てしもの。

**フーヒョー** 富坪 咸鏡本線の一驛(大正八年設置)。朝鮮咸鏡南道定平郡廣徳面にあり。

**フーヘー** 富平 京仁線の一驛(明治三十二年設置)。朝鮮京畿道富川郡富内面にあり。

**フーレン** 風連村 北海道天鹽國上川郡の西北部。上川支庁管内とす。天鹽川上流の名寄盆地に位し、北は名寄町に、南は多寄村に接し、西は石狩國に接す。東部を北見山脈、西部を天鹽山脈何れも南北に連亘し、中部天鹽川流域は低平にて耕地及び部落發達す。主生業は農にして、殊に馬鈴薯の産は北海道内有數なるものなり。また濃粉・バター・大豆・甜菜等をも産す。省線宗谷本線中部を南北に貫き風連驛(明治三十六年設置)を置く。昭和十三年二月多寄村を風連村と改め、同年四月更に風連村の一部を以て多寄村を建つ。

**フーレン** 風連湖 北海道釧路國根室灣に面する鹹湖。湖とは太き砂嘴を以て分たる。面積五二一三方軒、南岸六〇軒、深度は大部分二―三米とす。海

フアン フォル

草に被るも中央に深あり、出口の近くに深さ一メートルの最深箇所あり。注入川の主なものは風蓮川にして泥炭質の水を流入す。

フアン

扶安郡 朝鮮全羅北道十四郡の一。道の西岸中部に位し、東北は金堤郡、東南は井邑郡に連り、半島状をなして西方黄海に突出し、南は清海灣を挟みて高敞郡に對し、北は東洋江・萬頃江口の泥海を隔てて沃海郡を望む。面積約四一四方軒。西半の半島部は造山山地にて中部に雙嶺峰(四四八米)、北部に尙上峰(五〇九米)、南東部に鷹峰(二六四米)、西南部に甲南山等ありて、海岸に幅狭き低地あるほか平地乏し。東半部は全北平野の西部に當り、東北境には東洋江、その西には支流八旺川ありて何れも略北流して海に注ぎ、如く拓げ農業盛に行はる。農産は米(約九萬石)を第一に麥・大豆・粟等あり、また棉花・苧麻・大麻・苧草等の工業農産多く、農家の副業として吠の製造盛に行はる。沿海には石首魚をはじめ鯛・鰈・烏賊・太刀魚・貝類の漁獲物多く、製鹽も行はる。工業には酒類・織物・水産製品・硝子工品等を主たるものとす。扶安・清海間の道路にはバスを道し、扶安より金堤に、清海より井州に連絡あるも其他はなほ便利ならず。海上は清海より木浦へ汽船の便あり。行政上、扶安・東洋・平安・上西・下西・山内・清海・保安・舟山・白山の十面に指定さる。

分かれ、郡廳を扶安面東中里(扶安)に置く。

フアン

富安面 朝鮮全羅北道高敞郡の北部。郡邑高敞面を距る北方約一〇軒。北半部は半島をなして北方に突出し、清海灣外の泥海を隔てて扶安郡南部と對す。面積二七方軒。中央部に水崗山(二九二米)、西部に道蓋峰(四四四米)等の山地あり、東南部には興徳面との間に平地あり、其他、半島部の沿岸にも幅狭き低地ありて番・畑よく拓く。米・麥・大豆・棉花等の農産と、半島部の東西兩岸には鹽田拓げて鹽を出す。道路は南部と海岸に沿ひて通ずるも東南部以外は交通なほ便ならず。

フアン

武安面 朝鮮慶尙南道密陽郡の西部。東は郡邑密陽邑との間に府北面を隔て、西南は昌寧郡密陽面に、西は同郡雲山・桂城・昌樂の三面に界す。面積約九五方軒。東境には移南山(六六四米)、西境には靈雲山(七三七米)、岩岩山(五四五米)等あり、それ等の山間内には低地ありて洛東江に注ぐ小川南流し、その沿岸と東西支谷に沿ひて耕地拓く。農産に米・麥・大豆・棉花・大麻等を産す。五徳及び猪山の嶺山ありて金銀を産す。密陽・昌寧間の三等道路通じてバスの便あり。昭和八年一月下西・二回の二面を合併して新に置きし面にて、中央部の武安面に面事務所を置く。武安里には松雲

大師の碑あり。

アイツ

舞乙面 朝鮮慶尙北道善山郡の西北隅。東は郡邑善山面との間に玉城面を挟み、南は金泉郡甘文面、西より北は尙州郡の功城・青里・洛東の三面と接す。土地西北より東南に稍長く、南北兩境上に何れも山嶺連る。高度は南境にて三百米臺、北境は四一七米を示す。中部に幅一軒内外の裾合谷ありて西北より東南に延び、甘川に注ぐ小流東南流し番よく拓げ、その南北の傾斜面には畑地多く、米・麥・大豆等の農産盛なり。善山と朝鮮鐵道慶北線玉山驛(功城面)を繋ぐ道路に當り交通不便ならず。

アエジン

武衛陣 京都市(二一九六頁)

フエフキ

笛吹 山梨縣中部の川。縣下第一の長流。甲武信線南斜面にその源を發し西南に流れて市川大門町附近にて釜無川と合流し富士川となる。流程約八四軒。源より豊山附近に至る上流は、右岸に圓師・奥千丈・劍・黒金等二〇〇〇―二五〇〇米に達する高山壁立し、左岸には古橋・笠原・倉掛・高野等二〇〇〇米内外の峻峰時々、深き割谷の間を流下す。この割谷に沿うて秩父街道通ず。豊山・日下部に至りて初めて廣闊なる甲府盆地に出で、沿岸には漸く平地多く田畑よく發達す。石和に至る途中左岸には重川・日川・御手洗川・金川・淺川等の怪子・

四九表

御坂山地より流出する諸支流を合す。これ等の支流は沿岸に極めて扇形的なる扇狀地形を伴ふ。扇頂附近には近年葡萄の栽培著しく發達し、水田を改めて葡萄畑となす状態なり。上記諸支流の流出する土砂は必然的に本流の河床を高め、夏季の出水時には屢々大洪水を惹起するため、沿岸には大規模の堤防を築く。日川の合流點附近にて平等川を分流し、並行して流る。この附近は甲府盆地中最も低平にて、干拓によりて水田となる部分もあれど今なほ草地・湿地として放置せらるる處少からず。平等川の合流する附近より下流は、その南岸に曾根丘陵の斷層崖連りしてその直下には濕田・沼・湖の發達を認む。丘陵を横斷する小支流は天井川となりて笛吹川に合流す。下曾根村附近にて甲府市の北方に昇傾斜を形成する大支流荒川をその北岸に合す。而して釜無川と合流する所にて御坂山地を縱走する荒川の水を合す。かくて笛吹川は左岸に集むる支流十二、右岸に收むるもの十一、甲府盆地最大の水系と稱することを得。

【雷吹嶺】

【雷吹嶺】 種々未詳(群馬・長野縣境)の古名。

【雷吹嶺】

【雷吹嶺】 長門縣(山口)にありし村。大正十五年に前方・柳の二村と共に廢されその區域を以て小値嘉村を建つ。

フォルモサ

Formosa ↓臺灣

フカ

富家村 岡山縣備中國川上郡の中部。成羽町の西に隣接し、高梁川の支流成羽川の右岸に沿ふ。北は中村、南は手莊・高山二村に、西は平川村に界す。面積二〇・二七方軒。中國山脈に未だ海抜五―六百米の高きにて村約を蔽ひ平地乏しけれど、成羽川は北部を東流して灌水の利を興へ、沿岸にやや耕作行はる。米・麥・蕎麥・木炭・蒟蒻・酒類を主要産物となしまた生柿を産す。河に沿ひて里道通じ成羽町に自動車の便あり。木村及び手莊村に互る蟹窟谷は成羽川の一支出富川が石灰岩と角岩より成れる臺地を深く穿ちて峽谷をなせるもの。いま名勝に指定さる。

フカイ

深井 大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南方約二軒。東南部の五〇米餘の臺地の末端を除く外は全村地形極めて平坦にして處々に灌漑用の池沼横たはる。南部には一湖水より流出する河川ありて西北流し西隣の風町に至りて石津川に合す。米産多く麥・蔬菜の産もあり、また畜産・水産あり。近年は工業發達し其産額著し。風町へバスの便あり。此地は稻名抄、大島郡常流郡にして、中世は深井莊と云ひ春日社領なりしが如し。(野々宮神社)大字深井に鎮座。祭神、祭神、皇孫命。創立年代詳かならず。古より富村の産土神たり。例祭、十月十日。

【深井】

備中國(岡山縣)の古地名。和名

フカエ

深江 深江 今の後醍醐の北部にありきと思はるる國。國造本紀に崇神天皇の朝に高志深江國の國造を置き給ひしことあり。深江國造は四道將軍の一人なる大彦命の裔なる素都乃奈美留命を命じ給ふ。國郡制定の時この國は郡となりて蒲原郡となりしもの如く、延暦三年には蒲原郡の名出づ。

【深江村】

廣島縣安藝國佐伯郡の南部。

抄に都宇郡深井郷あり、布加井と訓す。その郡今都宇郡庄村の邊に當る。

フカイザウ

深伊澤村 三重縣伊勢國鈴鹿郡の東北部。龜山町の東北北方約三・五軒。地形概ね平坦の地を占め耕地よく拓く。西北部と南部は針葉樹林を示すところ多し。米・蕎麥の農産最も多く、工業・林産・畜産等もあり。遠見街道は西部を南北に通じ龜山町へ定期バスあり。もと深溝・伊勢・長原の三村なりしが明治二十二年合併して各一字を取り深伊澤村と名づく。

フカウラ

深浦町 青森縣陸奥國西津輕郡の西南隅。鯉ヶ澤町の西南約二八軒。西北は日本海に面し、南は秋田縣に接す。面積一九・二〇方軒。土地南北に長く、約二四軒あり。北境には樹形山(八二〇米)、東境には圓行山(七八六米)、蓮川山(八四八米)、天狗岳(九五八米)、西境には小箱峰(九二六米)、向白神山(二四三米)、白神山(二二二米)等あり、道長瀬川は南境に發源して町の中を北流し、北部に於て流路を西北に變じ、日本海に注ぐ。同川の南には吾妻川西北に流れ、同じく日本海に入る。全村山地多くして山地海に急斜し、海岸は岩石海岸にして南に黄金崎、中に入前崎、北に鹽見崎の突出あり。村の主産業は農業にして全戸數八九四戸の内三五九戸を占め、漁業(九五五戸)・商業(九一九戸)(昭和十二年)これに次ぎ、米・鮮魚を産す。道路は西

フカエ

深江 今の後醍醐の北部にありきと思はるる國。國造本紀に崇神天皇の朝に高志深江國の國造を置き給ひしことあり。深江國造は四道將軍の一人なる大彦命の裔なる素都乃奈美留命を命じ給ふ。國郡制定の時この國は郡となりて蒲原郡となりしもの如く、延暦三年には蒲原郡の名出づ。

【深江村】

廣島縣安藝國佐伯郡の南部。

四九七

フカエー—フカカ

命。創立年代詳ならず。江戸時代、藩主の崇敬あり。例祭、陰曆八月十五日。〔正覺寺〕 大字深江にあり。淨土宗。豐顯山。もと眞言宗の古刹なりしが、天正七年定寶再興し現宗に改む。本尊阿彌陀如来は空海の作といふ。

【深江村】 長崎縣肥前國南高來郡に屬し、島原半島東部に在り。村の西部は雲仙火山にして火山噴出物より成り、野嶽はその中の最高峰なり。いま村の一部は雲仙國立公園に屬す。此の熔岩山地より有明海に至る傾斜面は東部島原半島に於ける標式的樹野にして河川なく、從つて未だ殆ど侵蝕を見ざる原平面を保存する地域なり。この樹野の南部に深江川あり。幼年期の浸谷をなし、その南側は布津村の岩塊泥流地域に接し、二者の間に階段狀の地形差を見る。右の熔岩地は島原半島第一の傾地帯をなし、水田は僅に深江川の流域と海岸に帶狀の沖積地のみならず、本郡に於ける差置・麥・芋・西瓜・粟・甘藷の重要産地たり。道路は海岸近くに併行して主道通じ、之に沿ふ集落と扇狀面に點在する開拓新田の集落とあり。何れも純農村的集落なり。海岸の砂津は着着集落にて海岸に向ひ發達し、本郡に於ける特色ある形態なり。沿岸は島原海灣に臨み見る深度を有し、島原・茂木・長崎方面へ往來の沿岸汽船は岸近く寄港す。また長崎口之津鐵道の瀬野深江

（昭和七年設置）深江（大正十一年設置）の二郡を置く。深江は深江氏の據地、室町時代より天正年間に来る頃まで此地の地頭たり。島原の亂には本村の瀬野城を挾み官軍軍糧を運ぶに便し。

【深江町】 北海道石狩國空知支廳雨龍郡の南部。南境を石狩川西南流して空知郡を隔て、北は小山田を以て多度志村に界す。面積三二・七四平方。北部の丘陵を除けば南半は悉く石狩川及び支流の氾濫なる氾濫原に占められ、東隣の一巳村、西隣の妹背牛村に續く平坦廣漠たる地帯を有す。極めて農耕に適し耕地多く米・馬鈴薯・甜菜・大豆等の産あり、また澁谷・牛・馬を産す。市街は平野の中央に發達し、省線南前本線の深川驛（明治廿一年設置）あり、幌加内線および留萌本線を分岐す。バスは南隣の菅江村に通じ交通至便なり。此地は明治二十年前後は舊土人の家屋十數戸あるに過ぎざりしが次第に發達し、上川道路・増毛道路の開通後、明治二十三年、最初の開拓者、山室朝行なる者入移住し、ついで蜂須賀農場・菊亭農場經營され、同二十五年に設置されし深川村は今日の一巳・秩父別・多度志・幌加内・鶴内・妹背牛の諸村をも包括し頗る大且つ人煙稀なりしが、明治二十八年屯田兵の入移住ありて深川市街地劃定され、同三十一年、當時の上

川鐵道（爾後本線の前身）が開通するに及び急速に發展し、同四十三年には留萌線が開通し、大正五年には深川土功組合（區域五千町歩）事業完成して畑地は茅田となり、同七年町制を布き、同十二年本町の一部を割きて妹背牛村を置く。いま町内に深川高等女學校・深川女子職業學校あり。（深川神社）宇メム廿三香地に鎮座。祭神、大國主大神・神武天皇。明治三十八年の創祀にして、大正四年現在の本殿落成す。そののち幣殿・拜殿を増築す。

【深川區】 東京市三十五區の一。所謂江東の地の南部にて、直ちに海に臨み、北は本所區、東は城東區、西は隅田川を隔てて日本橋及び京橋兩區に對す。全區低濕地にして、全く近代の生成にかゝる土地なり。地名の起原に關しては二、三の説あり。新風土記によれば、深川は往古海濱の葦野にして人家も田畑もなかりしが、深川八郎右衛門といふもの、攝津國より來りてこの地を開墾し、たまたま家康遊獵のためこの地に來り、八郎右衛門を召し、地名を考ねしところ、この地は一圓の茅野にて定まりたる地名なしと答へたり、然らば汝の苗字を以て村名とすべしと命ありしを以て、また江戸志によれば、昔は野河と書き、多多く居りし土地とあるも、これは恐らく無稽の説と思はる。而してかの八郎右衛門時代には現在

四九六

の元町邊に人家少しありしに過ぎざりしも、のち次第に増加し、深川なる地域も擴大せしものならん。爾來、市街の發展と共に埋立續行せられ、練新後には更に洲を埋立て次第に今日の深川となれり。地形上水運に適したる本區は昔より船藏・糧藏・材木賣場等多く、特殊なる商業地帯として發達せしが、今日も尙ほ倉庫業・廻木問屋・材木問屋等水運を利用する特殊の商業榮華。殊に米の集散地としての佐賀町、材木市場としての所謂本場は深川の異彩なり。練新後、近代工業の發達に伴ひ本區は市内主要の工業地帯となりてここに從來の面目を一新するに至れり。然るに大正十二年の大震災に遭ひ不幸全區灰塵に歸せしが、同十四年都市計畫上能率的生産地帯なる故を以て本所區と共に工場地帯に指定せられ、今や江東工業地帯の要部をなす。水利に富む半面、從來陸上交通の不便なりしも、新大橋・清洲橋・未代橋・相生橋を始め大小百有餘の鐵橋、八十餘の木橋が架設せられ、道路敷設亦遺憾なく舊態を改められ、社線東電氣軌道は本區東隅町に出入して市電と連絡し、城東兼合自動車は本區中央部を縱斷し、市街バス砂町線の開設等により、從來交通機關に恵まれざる本區東部方面の暗も今は皆消えなれり。又近く東京港修築工事の進捗と共に遠中島貨物驛新設の機運にあるより之が

フカカ

實現の曉は南部なる埋立地の利用と相俟ちて區勢の進展大いに期待さる。

フカガワ

【深河】 飛騨國（岐阜縣）の古地名。和名抄に愛城郡深河郷あり、布加加波と訓す。その地今の古城郡古川町の邊に當る。

フカカク

【深草】 京都市（二一九六頁）。

フカサカ

【深坂炭礦】 福岡縣にある重要炭山。鐵道は八幡市及び遠賀郡中間町・香月町に跨りて四八萬餘坪。昭和十一年には塊炭一〇、〇八一噸、粉炭四六、一四四噸、切炭二五、一三九噸、粗炭五、七五二噸（此總價額約五二萬圓）を産し、同年六月末の總夫數は七四七人とす。

フカサク

【深作】 埼玉縣北足立郡にありし村。明治二十五年に春岡村へ合併されて村名を失ふ。

フカサワ

【深澤】 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡深澤郷あり、布加佐波と訓す。今の勢多郡宮城村の邊に當る。

フカカ

【深田】 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡深田郷あり、その地今の勢多郡内ならんも詳かならず。

フカカ

【深田】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に河内郡深田郷あり、布加多と訓す。その地今の河霧郡若松村の邊に當る。

フカカ

【深田】 京都府竹野郡にありし村。昭和八年に吉野村・溝谷村・鳥取村と共に廢され、彌生村を造つ。

フカカ

【深田村】 廣島縣後國御調郡の東南部。尾道市の西に隣接し、南は吉和村、西は三原市に界す。面積一四・九五方。西北より東部に狭長なる地形を有し、村内散れ山なり。西北部と東部に山脈東西に横り、兩山とも中央に向ひて傾く。中央山間に細長き低地存し、耕地拓く。米・麥・粟・木村・木炭・牛・酒類等を産す。何れも少額なり。省線山陽本線尾道驛・三原驛、及び社線尾道電氣鐵道石鹿驛等へ近く、利用の便あり。もと本村は深・久山田の二村なりしが、明治二十二年合併して深田村と名づく。

フカカ

【深田】 筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄に宗像郡深田郷あり、布加多と訓す。今の宗像郡田島村の邊なるべし。

フカカ

【深田村】 熊本縣肥後國球磨郡の中部。人吉盆地の中部に位し、埴田町の北に接す。北部及び中部は山地をなし、北境に最も高くして約五〇〇米の高度を有す。南部は低平なる平地開けて球磨川西南流す。田畑よく拓けて米・麥を産す。北部には岩屋嶺山あり。特産物に松茸が數へらる。村は大正三年より二十箇年計畫にて八百町歩の造林に着手し今は殆ど完成せり。省線海線南線免田驛へは南方一軒たらずにして自動車の便あり。古くは和名抄、球磨郡東村郷の内なるべし。

フカカ

【深田】 廣島縣深安郡にありし村。昭和八年に福山市に編入す。

フカカ

【深津】 廣島縣深安郡にありし村。昭和八年に福山市に編入す。

フカカ

【深津島山】 備後國（廣島縣）の歌枕。深安郡（往昔の安那郡）の穴海の中央にありし島山。今の福山市深津の邊は往昔の穴海なり。さればこの邊の小山を稱せしものならん。萬葉・一、一、路の後深津島山曾くも君が目見れば苦しかりけり。

フカカ

【深津】 廣島縣深安郡にありし村。昭和八年に福山市に編入す。

フカカ

【深津島山】 備後國（廣島縣）の歌枕。深安郡（往昔の安那郡）の穴海の中央にありし島山。今の福山市深津の邊は往昔の穴海なり。さればこの邊の小山を稱せしものならん。萬葉・一、一、路の後深津島山曾くも君が目見れば苦しかりけり。

フカカ

【深津島山】 備後國（廣島縣）の歌枕。深安郡（往昔の安那郡）の穴海の中央にありし島山。今の福山市深津の邊は往昔の穴海なり。さればこの邊の小山を稱せしものならん。萬葉・一、一、路の後深津島山曾くも君が目見れば苦しかりけり。

フカカ

【深津島山】 備後國（廣島縣）の歌枕。深安郡（往昔の安那郡）の穴海の中央にありし島山。今の福山市深津の邊は往昔の穴海なり。さればこの邊の小山を稱せしものならん。萬葉・一、一、路の後深津島山曾くも君が目見れば苦しかりけり。

フカカ

【深津島山】 備後國（廣島縣）の歌枕。深安郡（往昔の安那郡）の穴海の中央にありし島山。今の福山市深津の邊は往昔の穴海なり。さればこの邊の小山を稱せしものならん。萬葉・一、一、路の後深津島山曾くも君が目見れば苦しかりけり。

フカカ

【深津島山】 備後國（廣島縣）の歌枕。深安郡（往昔の安那郡）の穴海の中央にありし島山。今の福山市深津の邊は往昔の穴海なり。さればこの邊の小山を稱せしものならん。萬葉・一、一、路の後深津島山曾くも君が目見れば苦しかりけり。

フカノ—フカヤ

フカノミ 深海村

高来郡の東北部。多良岳火山の東南斜面を占め、愛津地峡北方の有明海に面する農耕村落なり。全境殆ど多良岳火山の噴出による玄武岩より成り、深海川は多良岳より發して村の中央を貫通し、下流は長田村境となり有明海に注ぐ。其他之に併行する一、二の小川ありて、流域に水田・耕地を見る。此等の谷は何れも多良岳火山の開折放射谷にて谷は幼年期に屬す。玄武岩臺地の末端は急崖をなし海に迫る。沿岸は有明海の泥濁りも厚く堆積し、干潟時には泥海の特有景を現出し四夕手網を始め、一枚の板に乗り巧に泥粘の干潟上にて漁獲するなど特殊漁獲法は興味を惹く。海岸に沿うて縣道及び省線長崎本線走りて小江驛(東方約一軒)に近し。縣道にはバス(東方約一軒)あり。阿蘇山中央火山の北西方一七軒前後に當り、南側は熊本縣阿蘇郡内牧町、北側は大分縣日田郡上津江村に屬す。標高一〇四一米。高からざるも深山性を有し、原始林の美を以てその名を知らる。

フカフチ 深淵

土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に香美郡深淵郷あり、不知不知と訓す。其地今の香美郡佐古村の邊に當り、大字深淵は其遺稱なるべし。

フカボリ 深堀村

長崎縣肥前國西彼杵郡の南部。長崎港外に位し、長崎を離ること約一二軒、野母半島西岸の長

崎海岸に臨む農・漁・商の村落。對岸には香焼島を始め、大小幾多の島嶼散布し、沈降海岸の特有景を現す。背後には長崎附近に於ける最高峰八郎岳あり、登れば遠く、島原半島・天草・五島列島を望むを得べし。地質は結晶片岩の堅岩を主とし、海岸の一部には第三紀層局部的に分布す。農耕的平地少く、農産に見るべきものなし。されど村の土色は商業や著はれ附近の中心地たり。長崎との往來は海陸共に至便にして長崎市の近郊村落の傾向を窺ひ得。吉野朝頃より土家深堀氏ここに據して近隣に雄飛せり。天正年間、龍造寺氏の島原征伐に出陣助授せしも、龍造寺氏の滅亡後は衰微す。今日その遺蹟を傳ふるものあり。(深淵神社)大字深淵に鎮座。祭神、猿田彦大神・天國女命。もと寺社と云ひ、明治四年に神社に改め、同七年に現在地に遷す。例祭、十月十五日。

フカマ 布鎌村

千早縣下總國印旛郡の北部。利根川の南岸に位し、南境を流るる將監川との中間地帯を占め安食町の西隣なり。北は利根川を隔てて茨城縣北相馬郡と相對す。全村低地にて東部に沼地あり。一般に水田多く米を主産し、他に蕎麥・粟を産す。縣道安食町に通じ同町に省線成田線安食驛を設く。利根川には水運の便多し。

フカマ 福釜

愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外七箇村と共に廢さ

フカミ 深見

相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡深見郷あり、布加美と訓す。今の高座郡大和村の邊に當る。

フカミ 深海

樺太大泊支廳大泊郡の南東部。大泊町の東隣にて、北は富内郡(富内村)に、東は長濱郡長濱村に界し、南は亞庭灣に臨む。鈴谷山脈の南端にして、北境部にて高さ二七〇米程度に過ぎず、ただ東南境の海岸に近く嶺傍山(四七二米)あり。女麗川中部を南流して澤湖女麗湖に注ぐ。その流域は概ね海岸に沿ひて發達す。道路また海岸を東西に通じ大泊町との交通は不便ならず。

フカミ 深溝

肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に佐賀郡深溝郷あり、布加無曾と訓す。その地今の佐賀郡高木瀬村・春日村・金立村の邊に當る。即ち古の國府のありし所なり。

フカヤ 深谷

宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を設き、大字赤井村を分割

フカヤ 深川

下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に栗田郡深川郷あり、その地今の足利郡栗田村・久野村の邊なるべし。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ—フカワ

フカヤ 深谷村

三重縣伊勢國桑名郡の中部。

フカヤ 深谷村

三重縣伊勢國桑名郡の中部。

フカヤ 深谷村

三重縣伊勢國桑名郡の中部。

属す。海岸に僅少の低地ありて濶漠に部落發達す。農産・水産あり。久玉村には縣道南北に通じて自動車往來す。汽船は日に三角港と二回、水俣と三回往復す。(六郎次山)指定名勝。本村及び早浦村に互る。天草下島の東海岸に近く峙立せる標高四〇五米の一高丘にして、上島の龍ヶ丘と同じく第三紀の硬質礫砂岩より成るも山上は平坦なる草地をなし、龍ヶ丘と共に天草の二大展望臺と稱せらる。天草中ノ海を隔てて其の東方に横ばる長島・獅子島・御所の浦等の諸島群は閣下の長汀曲浦と共に瀬戸内海式の大風景を展開し、遠山近水の大観は殆ど龍ヶ丘に似たるも、其背面の風景として彎曲出入の妙を盡せる羊角灣の大瀨谷を眺め、且つ四面快調にして一大パノラマ臺たるの觀あるは本山の特色とす。

フカムリ 深栗

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に勢多郡深栗郷あり、布加無曾と訓す。その地今の勢多郡柏川村の邊なるべし。

フカムリ 深溝

肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に佐賀郡深溝郷あり、布加無曾と訓す。その地今の佐賀郡高木瀬村・春日村・金立村の邊に當る。即ち古の國府のありし所なり。

フカヤ 深谷

宮城縣桃生郡にありし村。明治二十九年二月、本村の内大字廣瀨村を分割して廣瀨村を設き、大字赤井村を分割

フカヤ 深川

下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に栗田郡深川郷あり、その地今の足利郡栗田村・久野村の邊なるべし。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。

フカヤ 深川

廣島縣安藝國安佐郡の東南部。廣島市の東北約七軒の山中に位し、三篠川下流に沿ふ。北は可部町、東は狩小川村、南は福木村に接す。面積一・二・四二方軒。川を挟みて南北に山地ありて中央は河岸に沿ひて傾斜す。中央河岸の低地は隣村に打抜き、交通の便よく農耕盛なり。米・蕎麥・柿及び繭・木炭・牛・馬等を産す。また北部山中より鐵を産す。省線備前線は河に沿うて村内を貫通し、中深川驛(大正十三年設置)・下深川驛(大正四年設置)を設く。富村内に九萬餘坪の鐵礦を有する金明鐵山あり、重要鐵山とす。鐵種は銅硫化鐵或は銀銅硫化鐵。





フクイ—フクイ

國(福井・敦賀の二市、足羽・吉田・坂井・大野・今立・丹生・南條・敦賀の八郡)と若狭國(三方・遠敷・大飯の三郡)の二市十一郡を管し、縣廳は福井市に置かる。面積四二六四方軒餘、人口約六五八萬餘(昭和十二年十月推計)、一方軒の密度一五四人を有す。内地道府縣中、面積は第三十三位、人口密度は第三十四位に居るも北陸地方諸縣中最も稀薄なり。

〔地形〕本縣は地勢上、嶺ノ木峠・木ノ芽峠・鉢伏山・山中峠を結ぶ線によりて東北・西南の二部に分る。東北部は越前國の大部分を占め、その南部は濃尾山塊の北面をなす大野・今立山地にて、主として古生層・中生層より成り所々に花崗岩露出し、岐阜縣との境上には足羽山岳・濃尾山・屏風山・能登白山・金草山・三國ヶ岳等の高度二〇〇〇—一六〇〇米の山岳を戴き九頭龍・眞名・足羽・日野諸川の上源をなす。北部には白山・大日山・細ヶ岳等の火山岩の山地ありて前二者は石川縣との境に接し、後者は大野盆地の西壁をなす。西部には丹生山地あり、第三紀凝灰岩と第三紀安山岩より成る傾斜地塊にて五〇〇米臺の高度を有し日本海岸に急斜す。西北部は今立・細ヶ岳・丹生三山地の間に位置する福井平野にて、之を潤す九頭龍川は大野山地の東南部に發して西北に流れ、南より来る支流眞名川と大野盆地の沖積地をつくり、大日山・細ヶ岳山地間の谷を西流して福井平野の中

Table with columns for climate (平均気温), precipitation (年間降水量), and other weather data for Fukui Prefecture.

〔交通〕國道北陸道は敦賀縣より嶺ノ木峠を越えて縣の中部を北に走り武生・鯖江・福井等を經て石川縣に通じ、敦賀道は武生・敦賀を繋ぎ、丹後道は敦賀より西に向ひ若狭を繋ぎ、京都府舞鶴市方面に至る。鐵道には省線に北陸本線・三國線・小濱線あり。北陸本線は東海道本線米原驛より岐ノ木・津ノ木を經りて敦賀に來り、これより山中峠を經て今庄に出で國道北陸道と略並走して石川縣に入り、三國線はその金津驛に起り九頭龍川口の三國港に達す。小濱線は敦賀より

Table with columns for monthly precipitation (月別降水量) and monthly temperature (月別平均気温) for Fukui Prefecture.

〔産業〕國道北陸道は敦賀縣より嶺ノ木峠を越えて縣の中部を北に走り武生・鯖江・福井等を經て石川縣に通じ、敦賀道は武生・敦賀を繋ぎ、丹後道は敦賀より西に向ひ若狭を繋ぎ、京都府舞鶴市方面に至る。鐵道には省線に北陸本線・三國線・小濱線あり。北陸本線は東海道本線米原驛より岐ノ木・津ノ木を經りて敦賀に來り、これより山中峠を經て今庄に出で國道北陸道と略並走して石川縣に入り、三國線はその金津驛に起り九頭龍川口の三國港に達す。小濱線は敦賀より

は千飯崎・越前岬の突出ある外著しき出入なきも、西南部は若狭灣の東南岸にて半島・岬角多く、東に敦賀灣、中部に小濱灣、西部に内ノ浦灣等著名の灣入ありて良港地をなす。〔氣候〕日本海に面するを以て冬季は西北季節風の影響を受け、気温はさのめ低からざるも雨雪量多く積雪のため交通社絶することあり。普通積雪量は海岸地方にては一尺餘、福井市附近にては三—四尺なり。夏季は気温も高く晴天多く、日照時数は東京・大阪等よりも多し。いま敦賀・福井兩市の氣象要項を見れば左表の如し。

Table showing agricultural and industrial products (種別) and their prices (價額) and percentages (千分比).

總計約九萬三千軒中、人絹布織造トゾブを切り實に四萬二千軒を占む。これに次ぐ人絹絲とし約六千二百軒なり。以上の数字を以て、如何に本市が人絹織物界に調歩せるかを見るに足る。上述の通り本市は織物工業及びこれに附隨せる工業に立脚せるを以て、其他の産業の如きは殆ど言ふに足るものなき狀況なり。更に市の市街部の略ぼ中央には舊福井城址あり、福井縣廳・市廳舎・圖書館・地方裁判所・縣織物同業組合・福井放送局・佐住校通社・達磨屋百貨店等あり、足羽川の左岸、即ち橋南は凡そ工業地帯にして、錦華紡績會社・服部紡績工場・福井精練加工會社・酒井精練工場・九三染工場・福井染色會社、日本輸出入織物検査所・商工省輸出織物検査所等、人絹・羽二重等の織物工業に關係する會社工場多く、商業區は市街部の中央、即ち佐久長中町・同下町・照手上町・錦中町・大和上町等が股賑を極め、人絹會館・人絹取引所・福屋百貨店を初め福井・十二・安田等の諸銀行・劇場・映画館あり、而して學校は官立の福井高等工業學校を初め、縣立の師範・中學・高女・商業・工業・農林等の各中等學校は殆ど全部市内もしくは市外近くに設置せらる。このほか、福井警察區司令部・赤十字社病院・商工會議所・黒田織工場・錦華紡績工場等各所に在り。又市營事業としては、市内バス・住宅・水道・職業紹介所。

フクイ—フクイ

肥料・織物用具等は、いづれも一〇〇萬圓以上の産出あり。特に絹織物は全国的に著れ、廣幅物に羽二重・縮緬及び雙・縮緬・白縮・縮子・富士縮等、小幅物に縮緬及び雙・縮及び紗・羽二重及び平縮等あり、福井市を初め縣下諸郡邑到處に生産せらる。また紙には光澤紙・鳥ノ子紙・襪紙・奉書紙・傘紙等あり、漆器には若狭遠敷郡地方の若狭塗・河和田塗を主なるものとす。沿海には水産業行はれ鱈・鮭・鰯・鰱・蟹の漁獲物あり、また水産製造物に蒲鉾・竹輪・鹽鰯等を主とし、鮓・鹽干鰯等を出す。

〔福井市〕福井縣越前國の西北部。福井平野にありて吉田郡・足羽郡に介在し、九頭龍川の一支出羽川は市の中央を略東西に流れ市を橋南・橋北の二部に分つ。往時は徳川の親藩松平氏の城下町として北陸の重鎮たりしが、今は織物工業都市としてその名全國に聞ゆ。標高百餘米の足羽山は市の西南にある外、足羽川の沖積地にして土地平坦なり。北國の都市なるを以て毎年十二月中旬には降雪を見、一・二月には積雪尺餘に及び、曇天打撃くを以て陰氣なるを免れず。極寒には零下二度位に降ることあり。これに反して夏時は往々にして三十四五度に上ることあり、全国的にも暑氣烈しき郡邑の中に入る。雨量もまた極めて多きも風は四季を通じて少し。省線北陸本線敦賀方面より來り、市の東部に福井驛(明治廿九年

設置)を置き、また近くは越前縣も美濃國より本縣に入り大野・足羽二郡を經て福井市に入るべく工事進行中なり。また電車は大野町方面に至る京電越前線電線は福井驛口に起り、また三國町方面に至る三國菅原電線も同所より出で、市の北部を廻り北に走り、南方武生町方面に向ふ福武電線は福井驛前より市内を南走す。市内には市營バスあり、その他附近の要地へは各種のバスの連絡ありて交通至便なり。本市の産業は、従來織物を中心として各種の製品あり、他に多少の水産・畜産・農産等ありしも、殊に絹織物を以て主要産物とする。抑も本市の絹織物の起源は相當に古く、既に慶長年間光緒平玉縮の産物あり、其質は較前にして光澤あるを以て維新前までは奉書縮としてその名聞えしも、産額少くして微々たるを免れざりしが、明治八年に至り無費を以て傳習生を京都に派遣し、絹織物を研究せしめし結果、同十年の頃には手巾地・洋傘地を輸出し、同十八年には手巾の印度地方輸出を見るに至り、同二十年以後に於ては群馬縣桐生の機業家を招請して羽二重を製織し、やがてこれを輸出するに至りてより著しき進歩を遂げ、福井羽二重は我邦貿易品中に重要な位置を占むに至り、然るに歐州大戦後の不況に縮緬・富士縮・綿布等の織物の特頭を見、羽二重と共に福井の特産品の觀を呈したり。世は昭和に入り

て人絹應用の織物の製せらるるや、價格低廉・品質優良を以て福井の人絹物は俄然大衆向として名譽を博することとなり、今や織物の大宗として内外に其の名聲大いに揚がる。されば昭和七年には會員組織の人絹取引所の新經營の人絹會館内に設けらるに至り、從つて同十一年の本市の工業總額約四千二百三十六萬圓中、織物は實に二千五百六十六萬圓を算して六割強を占め、而もその約八割は人絹織物なり。織物に次ぐは綿絲紡績に

公設市場・公益質屋・瓦葺・屠殺場・火葬場等あり。本市の地は古くは和名抄足羽郡足羽郷の地にして、延喜式兵部省式

振ふや之を領す。織田信長の越前一揆討伐により初めて柴田修理亮勝家来りて

後子孫相承け十七代二百數十年、以て明治維新に至り城廢す。いま松平侯爵邸の

轉せられしも、此處も亦水害多く遂に明治四年三遷して現地に奉祀せり。岩瀬

社の横に、制長井とて深さ十六丈三寸の井戸あり。〔佐佐木神社〕舊城内、今の城町市會

〔黒龍神社〕足羽山の麓にあり。郷社。祭神、高麗神・開運神。往昔、男大連皇子が三大川御治水の時守護のため祭り給

應神天皇。天徳三年左馬頭源清仲の造營に請る。天正年中兵災にかり結城秀康

城家は代々神宗なるも秀康は既に松平家に復歸せしを以て改めて淨土宗に改稱す

徳寺と改む。元和中福井市吳服町に從り萬治年間現地に移轉せり。松平吉品が丹生郡立待村吉江在在の際の建物と云ふ。寺寶に狩野永徳筆の世界地圖の屏風(國寶)、淨寶法印筆の觀音繪あり。

〔心月寺〕玉井町にあり。曹洞宗。永享元年徳義禪和尙が吉田郡黒丸に本寺を創立。文明年中朝倉敏景が一乘谷に築城せし時ここに移る。天正年中朝倉氏の滅亡するや同寺も丹生郡立待村吉江に移轉し、慶長八年徳天和尙の時に現地に四轉せり。朝倉氏代々の祈願所なるを以て種種の遺留品・古文書もありしに明治三十三年の類焼に焼失し現今にては朝倉敏景の竹俵、敏景が着用せし袈裟、蓮如上人筆の名號等數點を遺す。

〔眞宗寺〕尾上上町の西端にあり。眞宗本願寺派。俗に橋立眞宗寺と云ふ。大野郡下味見村折立の稱名寺の出とも稱せらる。佐佐木盛綱が觀覽流罪の時一夜の宿が縁となり供奉して北越に下り名を光實坊法善と改む。のち今立郡中河村橋立に歸り本寺を創建。一向一揆に大功あり。寛文五年現地に移轉。寺寶に觀覽筆の六字草紙、佐佐木軍中感狀等あり。

〔眞宗寺〕尾上上町にあり。眞宗本願寺派。圓内河派圓一の名刹にて別格寺院。俗に桂御所と云ふ。蓮如上人の甥玄水蓮眞法印の中興。玄水は初め徳中・加賀を巡り其子玄昭に至り世に徳前國柱爲に本寺を中興大成す。其後、堀秀政が福井に

來るや地方の大方を舊御堂町に集めんとし本寺もその時撤されて現地に移る。〔専修寺別院〕寶水上町、福井警察署の後にあり。眞宗高田派。明治五年館町に寺務出張所を置きしに創る。同十四年毛矢町に移し堂宇を完成せしが、同三十五年河川改修工事のため現地に移轉せり。本堂・庫裡・鐘樓・山寺等あり。

〔専修寺〕豐町にあり。眞宗三門徒派の本山。開基如導は平判官康頼の曾孫にして、眞覺上人北國流罪の時その弟子となる。正應三年八月尾羽郡六條村大町に一字を建立して専修寺と號せり。五世淨一の時、阿部麻生津村中野に移り専修寺と改め、天正十年十世善通の時に富市堀小路に移り同十三年八月十一日正親町天皇より勅願所の繪旨を賜ふと傳ふ。江戸時代に京都妙法院に屬して院地となる。現地へ享保九年十七世證如の時に移る。俗に中野本山と號す。

〔本覺寺〕山崎と西別院との中間にあり。眞宗本願寺派。波多野出雲守義重の五子忠正が眞覺上人の弟子となり、信性と稱す。始めは吉田郡東郷島村和田に在りしかば朝倉敏光記等に和名本覺寺として見ゆ。寛永年中に現地に移る。寶物に聖徳太子自作の木像、同無佛二才の尊像、見眞大師自作の木像等あり。

〔福井別院〕尾上中町にあり。俗に西別院と云ふ。眞宗本願寺派別院。文明三年蓮如上人坂井郡吉崎に一字を建立せし

が同六年焼失せしを以て朝倉敏景が足羽郡東郷村に一字を創建し上人に奉れり。これ本別院の遺蹟なり。天正十三年堀秀政の北庄に轉封するや現今の地を寄附して之に移らしむ。寶永十七年に本山流如の男光恕が當別院の住職となりしが寛文年間より住職を置かず輪番を置く。福井縣は西本願寺唯一の法縁の地なるを以て本堂・二祖堂・對面所・白書院・黒書院等規模壯大なり。

〔本覺寺〕乾中町にあり。眞宗大谷派別院。俗に東坊と云ふ。昔、今の妙樂寺、光明寺等の寺主五人が本願寺より祖師の三ツ間の御影を譲り給ふと稱して布教に従事せしが、總て教如は東本願寺を別立するや、特に此の御影を召しあげて各寺に御影を改め本坊寺と號し教如の息女龜姫を住職とす。其後、内訌數年に及びしを以て本山は之に懲り延享三年四月より住職を廢止し輪番を置く事とせり。明治六年より改め別院となし同十一年には明治天皇北陸御巡幸の時に行在所となし給ふ。かくて外観の美も亦完成せしが同廿五年三月の福井市の大火に類焼し、現今の御堂は大正年中の建立なり。御堂・對面所・書院・集會所等あり。今は舊にかへりてまた住職を置く。

〔妙樂寺〕乾上町にあり。眞宗大谷派。東別院即ち本坊寺の前身總坊の一。眞覺聖人三ツ間の御影は當寺の遺物と云ふ。

栽培盛なり。近來、織物業隆盛となりその産額ば農産物の約五・六倍を示す。西部には父史街道南北に走り北隣の風町にパスの便あり。東方の社線南海鐵道の高野線の北野田驛へもパスにて連絡す。もと鶴田・北上神の二村に分れしが、昭和十年合併して福泉町とす。福は神と田の合字にして泉は和泉國の泉を取れるといふ。(日部神社)大字草部に鎮座。村社。祭神、道臣命外二柱。後西院天皇明曆年中火災に罹りて舊記を失ひ沿革不明を聞く。本殿、石燈籠一基(補正儀奉納と傳ふ)は國寶なり。

寶物に聖徳太子作の御院本尊あり。〔明道館〕福井藩政時代の學校。今の福井中學校の前身。松平慶永が安政二年三月福井城内三ノ丸大谷平兵衛屋敷(もと中學校の跡)に學舎を建て明道館と號し藩士の子弟を入學せしめ、經書科・兵書武技科・國史和書科・歴史諸子科・典令科・詩歌詩文科・習字算術醫學科・蘭學科を置きて講習せり。而して經書科は四書五經にて朱子の定本により他説を用ひず。蘭學は當時禁止中なりしも天文・地理・醫學・軍學・火砲・船軍等は民生に益するとして人選の上之を學ばしめ、翌年四月には橋本左内の獻議により館内に別に洋書習學所を設け、兵法・物産・算術等を講習せしめ維新當時には志士名士を出せり。

〔三秀園〕舊八幡町にあり。藩老松平主馬の別邸にして今は市の有となる。建築の宏壯閑雅、庭園の雅趣共に近來大に衰ふるの感あるも、また市の一舊蹟として價値あり。庭内に切丈丹伴天竺の像を彫める一奇燈籠あり。

〔養浩館〕寶永中町にあり。松平侯の別邸にして俗に御泉水邸と云ふ。清麗優雅拘すべし。山利公正の養浩館の記と共に有名なり。

〔榮田勝家墓〕相生町西光寺内にあり。勝家の自害と共に當時住職が愛に葬りしもの。櫻鬼院殿合治遺道大居士天正十一年四月二十四日と彫む。側に北庄城址より掘り出せし城樓の鬼瓦二箇あり。

フクイ フクウ

〔橋本左内墓〕相生町善慶寺内、足羽學校の南にあり。三墓碑のうち中央、花崗石の墓に納骨さる。安政六年十月七日に刑せられ文久年間許されて歸葬す。

〔福井村〕徳島縣阿波國那賀郡の東南部。新野町の東南に接し、東北は橋町に隣りて一部は紀伊水道に臨み、南は山嶺を以

て海部郡と界し一軒餘にして太平洋岸に出づ。全村山脈・丘陵に連り、西部には後世山(五三九米)聳ゆ。中央を一河川東北に貫流し、橋町を経て橋港に注ぐ。沿岸に小低地開け、殊に東部の平地やや大なり。東北岸は小灣をなし丘陵によりて背後を圍まれ、海岸は小平野を作りて白砂青松あり、風景佳なり。東北方灣口には小島横たわり、米・藁・麥を産し畜産には孟宗竹・蜜柑あり。外に林産・畜産あり。また富村と海部郡赤河内村とに跨りて鐵道橋の鐵山あり、鐵區約四十萬坪、昭和十年より事業を開始す。土佐街道は中央を横斷し、それより分れて東北地方に延びて橋港に至る道路もあり、各パスの便あり。省線半線線は北方より中央に南走し來り阿波福井驛(昭和十二年設置)を置く。龜山院御事記に阿波國福井庄と見ゆ。蓋しこの地にして當時御料の一たりしを知るべし。

平にして高さ約六米、後壁は殆ど直立し天井際にて少しく彎曲す。佛像はこの後壁に刻み出せしものにて背壁は後壁に、底部は下の岩に連る。彫刻の手法には平肉と線彫あり、七體の佛像のうち如來部に屬する四體は何れも坐像にして、最も大なるは高さ五座座共一丈七尺あり、他の三體は菩薩の立像なり。これ等の佛像は何れも甚だしく磨損せるも、その輪郭相好の豊満雄大にして、光背の精巧優美なるは、平安時代の様式を傳ふ。(觀音堂石佛)指定史蹟。藥師堂より東北約百未を隔てて後岩屋と呼ばるる丘腹の岩窟にあり。千手觀音の磨崖佛にして立像高さ二丈三尺、上體部を遺存し、藥師堂石佛と同時代の作と思はる。(稻荷神社)大字姥澤に鎮座。縣社。祭神豐受大神。往古は常陸國行方郡大生原村の奥山に鎮座せしに創まるといふ。中世、賊徒の爲に放火掠奪の禍に遭ひ、神體を奉じて逃れ諸處に轉じて、のち現地に移る。神位は文政三年正一位の宣下あり。爾後、領主の崇敬社たり。例祭、四月八日。

〔福井村〕神奈川縣相模國足柄下郡の東南部。眞鶴町の西隣にて、相模灣に臨む小村なり。海岸附近まで山地迫りて海岸は斷崖をなす。麥を産するのみにて記すべき産物なし。眞鶴町に縣道を通じ、同町に省線東海道本線眞鶴驛を置く。本村は眞鶴町・岩村と組合町村をなし役場を眞鶴町に置く。

フクエー フクエ

【福浦村】石川縣能登郡羽咋郡の西端。富家町の南に接し、西は日本海に臨む。村は一〇〇米前後の丘陵地帯に於て略中央に樹状の小高地を挟み此處に稠密なる桑園發達す。海岸は北部は海崖をなし、西部は概ね石海岸にして中央に小灣あり好漁港をなす。主産業は概ね水産にして米・藁等も多少産す。海沿ひに縣道走りまた社線能登鐵道の終點三明峠へ約四軒、縣道にバスの便あり。古くは和名抄羽咋郡富家内なるべし。福良津の名は概ね日本紀・三代實錄等に見ゆるも、此地は地勢懸絶にして港澳狭小なれば商船出入の津頭にはあらずして、一時の假泊修船の所なりしものならん。

【福浦村】島根縣石見國津和郡の西南端。西及び北は日本海に面し、西南は那賀郡に、東は福光村、南は波積村に隣接す。面積二・〇六平方軒。地形南北に長く北海岸に小平地を有すれど他は概ね高く、南部に漸高す。北と西の海岸低地に桑園をなし、附近山麓に耕地や畑を、米・麥・藁・蠶・鯛・鮭等を産す。省線山陰本線福松驛に近く利用の便あり。

フクエー 福江

【福江】石川縣能登郡にありし村。明治四十年に外二箇村と合し根上村を建つ。昭和九年に根上村は町制を布く。

【福江町】愛知縣三河國瀨美郡の西端。豊橋市の西南三〇軒。瀨美半島の先端に位し、北は瀨美灣に臨み、東は泉村、南

福江町

東中部に於ける米及び種がやや知らる。沿岸には福江・富江・豊川・玉ノ浦等の漁港あり、福江町はその首邑にて長崎との間に定期船往來す。

【福江町】長崎縣肥前國南松浦郡五島列島の南端、福江島の東北部。南松浦郡の主要たりし所、いま南松浦支廳の所在地となり郡治の中心地たり。福江市街の南半に高度三三米の鬼ヶ岳を主峰とする五箇の小火山丘あり、其の周囲には百未以下の低平なる熔岩臺地廣く分布す。何れも玄武岩より成る。臺地の周縁部は一般に急斜をなし海岸又は低地に臨み特殊景観をなす。火山丘は何れも圓錐形をなす標式的なる火山丘にして未だ原形を留むるも、中には解折や進み、地形複雑なるものもあり。火山丘並または臺地面の大部分は畑地として利用せられ甘藷・粟・大豆・麥等を栽培するも、土地利用率は割合に少く非集約的の狀態にあり。市街の北部は中生代の地層より成る丘陵性山地にて、北部に聳ゆる佐々ノ嶽その主峰たり。南方熔岩臺地との間は福江、大瀨間に大瀨寺川流れて低地帯をなし、所々火山岩に埋れ臺地狀の地形を見るも多くは沖積平らにして水田・桑園此處に立地し、熔岩臺地と全然異なる景観を示す。海岸は熔岩の流氷急流をなす所にあり、磯濱も見られ一般に卑田なり。されど福江港は港灣を形成し良港たり。往年は港内水淺く風波を避くるにやや不便なりし

フクエー 福栄

【福栄村】山形縣利根郡西田川郡の南部。鶴岡市の南方約一八軒。東は東田川郡、南は新潟縣岩手郡に接す。面積一・八七五平方軒の大村。東端には北より湯ノ澤嶽(九六四米)・三方倉山(九〇五米)・摩耶山(二〇二〇米)等連りて西方に傾斜し、西部には薬師岳(六八六米)・大畑山(六一七米)等聳え、全村概ね山地をなす。五十川以北を、温海川・小川川は中部を、鼠ヶ関川は南部を各東端に發源して西流す。村内は山林面積多くして木材、木炭を産した米・藁の産あり、道路には中部を南北に通ずるもの、川に沿ひて西方日本海岸に通ずるものあり。省線羽越本線温海驛へは西方約一軒あり。人口密度は一方軒につき三〇人なり。本村大字小川は山谷に散在する部落なるも、往昔は廣く羽前・越後境上の汎稱なりしならん。舊く土家小國氏の據りし處にして南北朝の頃には南軍に屬し、羽前勤王四家の一たり。慶長・元和の頃には最上家に仕へ、最上氏の改易と共に退轉したるものなるべし。村民は古來射法を習練し、毎年正月十七日、大的祝儀と稱し一村の百姓集會するを例とす。村民自衛のため、萬一の虞に備へたるものか。明治元年戊辰の役に、莊内の藩兵ここに築壘して國境を守る。八月、薩長の兵來りて攻めしも破ること能はず。九月、莊内藩

歸順の報ありて漸く退去す。

【福栄村】香川県讃岐國大川郡の南部。讃岐山脈の北斜面に位し、引田町の西南二軒餘。南は徳島縣板野郡及び阿波郡に界す。南端には讃岐山脈が五〇〇〜七五〇米の高度を以て東西に連り、北端には五〇〇米以下の丘陵東西に横き虎丸山あり。中央北側の裾谷に海川東流し、東北部より白鳥川に出づ。沿岸や低地回折東北にて廣く附近に灌溉用池あり。純農村にて米・麥を主産し、蠶桑・炭焼を副業とし特産物に松茸あり。引田港へ道路通ずるも概して交通不便なり。古くは和名抄、大内郡與赤郷の内なるべし。もと入野山村・興田山村・西山村・東山村の四箇村に分れしが、明治廿二年合併して一村となし福栄村と名づく。傳説に眞良親王古野を落ちさせ給ひてのち難を此地の興田山に逃げ給ふといふ。(若王寺)古義眞言宗。寺傳に行基草創し、空海再興すといふ。のち屢々兵火に罹り、寛文中、本坊再建成る。

フクエー 福原

【福原】山陽縣の一。廣島縣内を走る。もと福原南線・福原北線に分れたりしも、昭和十三年七月全通せしを以て以上二線名を廢して福原線と稱す。山陽本線福山驛(社線福山驛)にも連絡す。より起り、神邊驛(深安郡神邊町)にて神高鐵道と接続し、新市驛・府中町驛等を經て豐町驛(雙三郡田幸村)に至りて省線福徳線と合し、同線の神杉驛・八

フクオカ 福岡

【福岡町】岩手縣陸奥國二戸郡の北部。一戸町の北方約七軒。北上山地の北部に位し、東・北は附屬休村を経て九戸郡及び青森縣に隣り、南は石切所村に接し、馬淵川を隔てて西に石切所村・斗米村に對す。土地高燥にして積雪厚なり。東に折爪岳を控へ、四面丘陵を以て圍繞せられたる盆地にして第三紀層より成る。農業は主産生産業なるも耕地少く氣候不順の年多きためその産額は少く、商業また不振にして往時に於ける盛況を見ず。農産物(四九、九九五圓)としては大豆・稗を主とし、畜産物(四二、九七八圓)としては家兎・獸毛皮の産最も多く、特に近時軍需品として兎皮の取路大なり。なほ移出物品の一端を見るに繭最も多く、その取引高三萬五千圓(一六・八萬圓)を越え本町に於ける最高移出物にして、木炭・牛馬・豚・毛皮・小麦粉・大豆これに次ぐ。本町は國道、鹿角街道・九戸街道・斗米道路の集點にて交通繁しく貨物の集散多し。何れも貨物自動車・定期乗用自動車・運轉ありて物資の移出入、旅客の便益を圖ること少からず。特に鹿角街道は交通最も頻繁にして省營バスの計畫あり。斗米道路は已に完成し十和田湖に至る最短路線として將來の利用大なる

ものあるべし。北四町と町との間は自動車運轉ありて旅客の便を圖る。明治二十二年町制を布く。福岡は古の二戸の地にしてのち宮野と稱せしが、文治五年南部氏の所領となりし以前は詳ならず。南部の家臣九戸政實は永祿十二年二月豊色を加賜せられ、此地に居城を置しが天正十九年に亡ぶや、南部信直三戸より松ノ丸に移り、名を福岡と改む。南部氏の此處にあること九年、更に城を盛岡に移せしかば、元和二年より代官所を設けて治をとり。(九戸城址(福岡城址))指定史蹟。本町五日市の東に接する丘陵にあり。東西五五〇米、南北四四〇米。自然の地形を利用して強壁など造り居館の形式を存す。城は天正十九年九戸政實が豊臣秀吉麾下の蒲生・井伊・淺野などの大軍に攻圍せられて降人に出でし所にて、其後、南部信直が三戸より來り治し、子利直の代に至りて盛岡に移るまでの居城たり。(横山石器時代遺蹟)本町横山にあり。土器・石器等を地に散在す。石劔・土偶なども皆て發見されしことあり。なほ隣村の爾農休村蝦夷森・大藪野・仁佐平よりも遺物が發見せらる。この地方は昔の爾農休の地に幣伊(閉伊郡地方)と共に東北に於ける蝦夷の二大本據地をなせしが、弘仁二年文屋純廣が陸奥・出羽兩國の兵二萬六千を率ゐてこれを征し、ついで出羽守大伴今人によりて遂に鎮成さる。奈良時代以後の蝦夷

フクエー フクオカ

攻略最後の地なり。「香春積荷神社」...

【福岡村】 岩手縣陸奥國江刺郡の北部...

【福岡村】 宮城縣磐城國刈田郡の中部...

【福岡村】 埼玉縣蕨郡の中部...

【福岡村】 千葉縣上總國山武郡の南部...

【福岡村】 富山縣越前國西礪波郡の北部...

【福岡村】 愛媛縣周桑郡の中部...

【福岡村】 九州島北部の中央を占む...

フクオ——フクオ

【福岡】 山梨縣中野郡にありし村...

【福岡】 香宮方の遺臣は宗良親王の皇子...

【福岡】 未程度の洪積層臺地が起伏し...

【福岡】 愛媛縣周桑郡にありし村...

フクオ—フクオ

博多・二日市・甘木の線に及び、主として御得峠・花崗岩・白雲紀層・古第三紀層・砂岩等より成り、更に洞海階層の北にある石峰山地帯、遠賀川・彦山川の谷を西界とする東部山地帯、遠賀川と福岡三坂峠—福丸—嘉麻川とに介在し主として古第三紀層より成る筑豊炭田、その以西の西部山地帯及び前二者の南なる馬見山地帯に細分せらる。また馬見山地帯の東方、大分縣との境界には火山岩にて成られたる彦山地帯あり。春嶽山地帯は佐賀縣との境を略東西に延び、主として花崗岩より成り、春嶽山(一〇五五米)・雷山(九五五米)等を戴き、その一部は筑前西部山地となり、糸島半島の地域をなす。東部山地帯の東面には今川・飯川・城井川等周防灘に注ぎ、沿岸は豊前平野の一部をなし、筑豊炭田地域には彦山川・嘉麻川相合して遠賀川となり北流して、豊前平野に注ぎ、遠賀川平野をつくり、西部山地の西、春嶽山地帯との間に多々良川・石堂川(御堂川)・那賀川は北流して博多灣に入り、その流域は博多平野をなし、春嶽山地帯と筑前西部山地帯の間には糸島平野あり。縣の南部は瀬戸内階地帯の延長部にて謂ゆる長崎三角地帯の一部に屬し、東部に輝煌岳火山群の火山岩地域あり、これより西に延びるものに、北に古生層の水廻(耳納)地帯、南に御得峠系の八女山地あり、これと北方筑豊山地との間は筑後川・矢部川等の流域にし

て水廻地帯の西南に横き洪積層發達するも、其他の大部分は殆ど沖積層の肥沃なる平地にて筑豊大平野の東半をなし、縣下の重要農産地域たり。海岸は南部の有明海沿岸に距離も短く、筑後川・矢部川の堆積作用により遠淺をなす。北岸は周防灘より豊前・支那灘に互り延長大にして出入多く御得灣に富む。即ち北東には全敷(門司)半島突出して中國の西南端と臨門海峡を挟み、その西には石峰山地帯(遠賀半島)東西に延びて南側に豊前水路を造する洞海の侵入を擁し、前者には門司、後者には若松の二大港を發達せしむ。また西南には海ノ中道の半島西方に半出し、筑前西部山地(糸島半島)との間に博多灣あり。糸島半島は西方の東松浦半島に對し、その間に唐津灣を擁す。〔氣候〕九州島に屬するもその北部に位置する東部と南部に山地を負ひ、北は支那灘・豐前灘に、東は周防灘に面するため、南方諸縣に比すればやや低溫にして降水量も多少。福岡市の氣温は年平均一五・一度、一月五度、八月二六・三度にして佐賀(年一五・五度、一月四・九度、八月二六・九度)、熊本(年一五・五度、一月四・七度、八月二七度)に比すれば年平均均に低きも多し稍暖く夏は却て稍涼し。縣内に於ては北東端部と南西端部最も高濕にして春嶽・筑豊・彦山地に最も低濕にして降水量も支那灘沿岸・周防灘沿岸に

少く(福岡市一六一五戸)、山岳地方に多く、特に東部山地にては二二〇戸以上を達することあり。また一般に六・七月の梅雨期に多し。十一月より三月にかけての降雪期には多少の降雪もあるも積雪量多からず、また解消速かなり。(産業)諸産業みな活潑なるも従業者の最も多きは農業にて商・工・礦業これに次ぎ、生産額より見れば工・礦・農業の順位を示す。農家は約一六・二萬戸、全戸数の二三・八%に當り、耕地面積約二八一、七〇〇町歩、一日當り一町一反九畝歩、全國平均の一町七畝歩に優る。筑後川・矢

職業別戸口(昭和八年)

職業	戸數	人口	百分比
農業	162,000	866,000	33.8
水産業	18,000	61,000	2.3
工業	41,000	338,000	12.8
礦業	11,000	69,000	2.6
交通業	11,000	53,000	2.0
商業	11,000	53,000	2.0
自由業	3,000	15,000	0.6
その他	3,000	15,000	0.6

部川の流域には水田よく發達し、縣下の米産は二七〇萬石(五、五四〇萬圓)、北海道・新潟縣に次ぎ農産の大宗をなす。小麦・粟等の麥類(七一・八萬石、九一・二萬圓)これに次ぎ、其他菜種・綠肥・大豆・甘藷・里芋・馬鈴薯・西瓜・蘭等

四六四

あり、また柑橘(六六萬圓)・梨・柿・葡萄・桃・梅等の果實の産(一一〇萬圓)少からず。特産に橙實(一六七萬圓、二九萬圓)あり。工業は石炭の産地に近く、またその原料・製品の輸移出入に便利なる北東部の海岸に主として行はれ謂ゆる北九州工業地帯を現出し、八幡製鐵所の工場を除くも三六、八〇〇萬圓を超え縣下の全生産額の六一%に當る。工業の主なるものに製鐵・釀造(ビール・清酒等)・

生産額(昭和八年)

産業	價額(千圓)	百分比
工業	36,800	61.0
農業	23,800	39.0
水産業	610	1.0
林産	700	1.1
計	60,910	100.0

イム・製糖・工業用藥品・硝子・肥料・製粉・セメント・綿糸紡績・織物(絹・木綿)等あり。特に官市の日本製鐵會社八幡製鐵所(もとこの官市の日本製鐵會社)東洋第一の大規模工場にして従業員三萬五千人を超え、昭和十年の生産額は鉄一二九萬圓、鋼材一五九萬圓に上り、織物の博多級は福岡市を、また久留米級は久留米市を中心として製織され、久留

米の足袋と共に縣の特産たり。鐵産に石炭・金・銀・石材等あり。特に石炭の産額頗多し、遠賀川流域の筑豊炭田、南境の三池炭田、北部の精炭炭田、北西部の早良炭田より採掘せられ、筑豊炭は若松・門司二港より、三池炭は大牟田の三池港より輸出せらる。石炭の産額一、七六〇萬圓、價額一、〇〇〇萬圓を突破し、全國産額の二分の一を占む。本縣はまた有数の水産縣にして、支那灘の鯛(一一〇萬圓)を筆頭に鰯・鮪・鰯・鰯・鰯・鰯等の水産物、蒲鉾・竹輪・煮乾鰯・鰯等の製造物あり。商業は各種産業の隆盛と共に盛にして門司・若松・小倉・福岡・久留米・大牟田の諸市を中心として行はれ、會社總數一、八三〇、内、商業會社約一、一〇〇、工業會社約五三〇、出資または公稱資本金四八、九〇〇萬圓なり。貿易は門司・若松・博多(福岡)・三池(大牟田)の諸港に於て盛に行はれ特に門司と若松は全國開港中貿易額に於て大阪・神戸・横浜・東京につぎ第五位・第六位を占む。(交通)工・鐵・農業の隆盛は諸都市の發達を促進し、これと共に交通機關も著しく發達し、特に東北部は鐵道網甚だ密なり。省線鹿児島本線は門司驛に起り北部沿岸の諸都市を連ね福岡より南下し久留米・大牟田を経て熊本縣に入り、その間小倉にて岐れる日豊本線は北東周防灘岸に近く東部に走り行橋にて田川線を岐ち大分縣に出で、

フクオ—フクオ

筑豊本線は若松市に起り、折尾にて鹿兒島本線と交叉し遠賀川流域を南下し、中間に於て伊田にて田川線に連る香月線、折野にて宮田線、小竹にて幸袋線、新飯塚にて海生線、飯塚にて上山田線等の諸炭坑への諸支線を樹枝狀に分岐し、原田にて鹿兒島本線に連絡す。室木線は鹿兒島本線の遠賀川驛より起りて南方室木に達し、篠栗線は吉栗・篠栗間に通じ、肥津を経て伊万里線に連り、長崎本線は島橋(佐賀縣内)より岐れ、久大線は久留米に發して筑紫平野の東部を貫き大分縣に出で、また佐賀線は矢部川驛と佐賀市を結ぶ。其他、社線には門司・折尾間の九州電軌、東小倉・彦山口間の小倉鐵道、直方・福九間の鞍手鐵道、西戸崎・宇美間、宮地嶽・新博多間の博多灣鐵道汽船線、吉塚・筑前藤田間の筑前參宮鐵道、福岡・久留米・柳河間、甘木・福島間並に大善寺・柳河間の九州鐵道、二日市・杷木間の朝倉鐵道、上久留米・復津間の九州鐵道大川支線、矢部川・南福岡間の九州鐵道鐵道等あり。また道路も著しく發達してバス營業行はれ、縣内の交通は頗る便利なり。(沿革)明治維新に際して、筑前には福岡藩(黒田氏五二萬石)及び秋月藩(黒田氏支藩五萬石)あり、また筑後には久留米藩(有馬氏二一萬石)・柳河藩(立花氏一三萬石)・三池藩(立花氏支藩一萬石)あり。更に豊前には小倉藩(のち香

春藩、小笠原氏一七萬石)・千束藩(小倉支藩一萬石)置かれ、現今の築上郡の一部は中津藩(奥平氏)に屬せしが、明治維新を経て明治四年の廢藩置縣により、筑前には福岡縣を、筑後には三浦縣を置き、それぞれ筑前・筑後の全國を治めしむ。同様に豊前全國を小倉縣として今日の大分縣の一部をもその管轄下に置き、明治九年に至り、三浦・小倉の二縣を廢しこれを福岡縣に屬せしむ。されどこの時に豊前の下毛・宇佐二郡は大分縣に屬せしめて今日に至る。

【福岡市】福岡縣の首府にて九州第一の大都會。縣の中央よりやや西に偏し、博多灣の南岸に沿ひて横がり、東北部に糟屋郡箱崎町・志免村・宇美町を、東南に筑紫郡大野村・那珂村・日佐村・岩戸村を、西に早良郡の藤山・入部・田隈・壹岐の諸村を擁らす。東西一七軒、南北一二・四軒餘、面積八八・五方軒餘、人口三一・一千餘(昭和十二年末)にして九州諸都市の首位を占め、全國に於ては廣島市に次ぎて第二位に居る。西南境に春嶽山地の一股の油山(五九二米)峙ち、その東北に鴻巣山(一〇一六米)、北に金山(五五米)、更にその北部博多灣岸に荒津山の丘陵あるもその他は土地平坦にして南より北に傾めて緩く低下し、東半には春嶽山地の五ヶ山より北流する那珂川、その東に三都山地に出でて北西流する石堂川、西半には油山の東谷に發し鴻巣山・金山

四六四

フクオ—フクオ

より取れて中部を西方に走り、市内に筑前袋島・筑前高宮・平尾・小笹・島崎・西新・筑前庄・姫濱の諸郷を置く。また糟屋郡糟屋町に至る省線築港線と同郡宇美町に至る社線筑前参宮線は共に吉塚驛より發し、久留米市方面に至る社線九州鐵道(電車)は天神町より起りて南方に走り市内に福岡・總院・平尾・高宮等の停留所を設け、市營電車また市内を東西に横断す。海上は博多港より釜山・壹岐對馬・大連へは毎日、其他諸港へ汽船の往來あり。市の昭和十二年生産總額は七、四〇〇萬圓に近く、その中工業額は六、三三五萬圓、總額の八六%に近く、これを工業種別に見れば化学工業品を第一とし、紡績・機械器具・印刷製本・製材及び木製品・窯業の順位となる。これ等の

Table with 3 columns: 種別 (Industry Type), 昭和十年 (Showa 10), 昭和十二年 (Showa 12). Rows include 工業 (Manufacturing), 農業 (Agriculture), 林業 (Forestry), 畜産 (Livestock), 水産 (Aquaculture), 漁業 (Fishing), 雑産 (Miscellaneous).

工業品中、博多織・博多絞・博多人形・曲物・高取焼・翠先・毛筆等は昔ながら市の特産品たり。工業に次ぐは農業、農

の松あり。最近神祇改革され崇高を極む。例祭九月十三日。(糟屋神社)博多社家町に鎮座。縣社。天照大神・素戔鳴尊・大若子命を祭る。元弘三年に菊池武時、探題北條時時を博多に攻めし時、祠前に至りしに馬過す、武士の上矢の備ひと筋に思ひ切ると神や知らずやと一首の歌を備矢に添へ殿前を射て馬を進むるを得たりと傳ふ。社前に磐石あり、往昔、唐船來船の際禮を繋ぎたるものと云ふ。博多市民の氏神にて俗に祇園社と云ひ、毎年七月十五日の例祭に山笠の儀ありて鐘香を極む。(鳥飼八幡宮)西町に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姬命。この地は神功皇后新羅親征凱旋の時宿らせ給ひ夕儀を召させられし地と傳ふ。西町・地行町・唐人町・通町・笠子町方面市民の氏神として尊崇厚し。例祭、九月十九日。(紅葉八幡宮)新町に鎮座。縣社。祭神、神功皇后・應神天皇外十柱。寛文六年の創建といふ。明治四十三年無格社字寶神社・水川神社・秋葉神社外二社を合併。例祭、十月十一日。(光雲神社)西公園丘上に鎮座。縣社。藩祖黒田孝高・同長政を祭る。社名はその法號龍光院・興雲院の各一字をとりて名づけしもの、俗に御南公様といふ。もと城内木丸にありしを明治四年小島馬場に、四十二年現地に移せるもの。閣下に博多灣を瞰下し、東方に千代松原を望み豊勝の地を占む。社責中、黒田如

フクオ—フクオ

産・水産にして漁産は石炭、農産は米・園藝農産・菜種・麥等、水産は遠洋漁業による漁獲物・水産製造物等を主なるものとす。博多港は明治二十二年特別輸出港に、同二十九年特別輸出入港に定められ、爾來港灣の修築と土庫・倉庫等の諸施設の進捗と共に酒次貿易額を増し、輸出品にゴム靴類・小麦粉・石炭・酒等、輸入品に煤油・原油・飼料・大豆・木材等、移出品には石炭・地下足袋・ゴム靴・綿類・ビール・小麦粉等、移入品に鮮魚・木材・米・大豆・金物等を主要品とし總額四、〇〇〇萬圓に近し。本市及び附近の地は古の鹽竈に屬し博多はその港津にて那津・津・難大津などよばれ、神功皇后新羅親征後、官家(今の三宅)を置かれ、對韓外交の折衝、九州統治上の要地たり。天智天皇の御代官家を今の太宰府に移されし後も、博多はその外府となりて鴻臚北館を設けらる。天平寶字三年、太宰府奏言に「於博多及壹岐對馬等要害之處可置船一百隻以上云々」とあるは博多の名の國史に現はれたる始なりといはる。降りて貞觀年中には營園所設けられ、文武の寮古樂來後は博多津番役の制創られ、建治元年には沿海に石燈を修補増築し、弘安の役には將士の防備に據りて助戦し蒙古軍を一步も上陸せしめざりき。かく對外的要津たるを以て夙く商賈來往し商業地たり。港は始め今の福岡荒津の東側なりしも平安朝初期頃より

水産(瀬木若魚)一箱・黒田長政像(同上)一箱・太刀一丁の三點は國寶たり。例祭四月二十日。(營園神社)瀨院小島馬場に鎮座。縣社。祭神、神直日神・大直日神・八十津日神。神功皇后親征の時勝利と樂兵の營園を祈り給ひしよりその名出づ。もと福岡の山上にありしを慶長年間福岡築城の時この地に移す。營園・赤坂・瀨院方面の氏神なり。例祭、十月十九日。(住吉神社)郷社。祭神、住吉三神外三柱。當社の由緒記に天平十五年の創建に係ると傳へ、古來經濱の産土神たり。例祭、九月廿九日。(八幡宮)大字下月隈に鎮座。郷社。祭神、應神天皇外二柱。例祭、十月十四日。(崇福寺)千代町千代の松原にあり。臨濟宗大徳寺派に屬す。仁治元年、湛慧禪師の宋より歸朝し、太宰府の附近なる濱屋に建立して横岳山と稱し、寛元元年、承天寺と共に官寺となる。天正十四年、高橋紹運の岩屋城陷落の時、兵燹のため灰燼に歸せしを黒田長政入國のち現地に移し、大徳寺の春居國師を請じて中興開山とし、爾後黒田家の菩提寺とす。白妙寺松陰寂の清境にて、本堂の後方には黒田孝高・長政以下累代藩侯及び重臣の墓あり。境内の共同墓地には支社志士の墓、女史夫高場蘭、刺客米島恒喜、福岡醫科大學創設者大森治豊等名士の墓あり。(承天寺)上辻堂町にあり。臨濟宗東福寺派。仁治二年に聖一國師開創、宋より歸朝、

り今の博多運地邊に當る浦の邊に移りて次第に繁榮し、室町時代には伊勢の安濃津、薩摩の坊ノ津と共に三津の一に數へられたり。然るに浦の邊は次第に埋没して船泊不便となり、また坊ノ津の惣興、平戸の開港を見るに及び博多の貿易は衰退の一途を辿り、戰國時代大友氏の將白井安房守ここに居城してより屢々兵燹の災を蒙り始と衰亡するに至れり。天正十五年豊臣秀吉九州征伐の際、市街を方十町と定め石田三成等を奉行として再興せしめ爾來暫く公領たり。のち小早川隆景を経て慶長五年黒田長政入國し、博多の西方福岡の一寒村に地を相して築城し、祖父高政の備前福岡より起りしを記念して福岡城と命名し、那珂川を外郭の東限とし河中の砂洲に中島を築きて町家となし、城下の福岡は古き商業地たる博多と對立せり。明治四年福岡縣の置かるや福岡を一大區、博多を二大區とし、九年合併して第一大區となし、十一年更に福岡區と改め、のち廿二年市制を布く。當時の市域は舊來の福岡・博多を中心とし舊那珂郡春吉村の東中洲・七軒屋裏馬場川浜濱新地、大河村の出来町、堅粕村の石堂川下、早良島島村の地行東町・同西町・柿木屋町・新大工町と西町等の地を含みしが、更に大正元年に筑紫郡豊岡屋村・住吉町の置原を、同四年同郡豊平村の一部を、同八年早良島島村を、同十一年同郡西新町を、次いで筑紫郡住吉

宋の西人謝明の懇請により翌年開創すと傳ふ。寛元元年、官寺に列せられ、吉野時代には征西將軍官儀良親王が錦旗を當寺に樹て給ひし事あり、崇福寺と共にこの地方に於ける名刹たり。法堂安置の拜通三尊像(釋迦・文殊・普賢)は戰國時代の作といはれ國寶なり。(東長寺)上山町にあり。眞言宗。大同元年弘法大師の創建と傳ふ。本堂は大佛堂といひ弘法大師の像を安置す。寺内に黒田忠之・光之の墓あり。千手觀音像(木造)は國寶。(聖福寺)御供所町にあり。臨濟宗妙心寺派。建久六年、源朝朝が榮西禪師を開山として創建せしもの。當時後鳥羽天皇の賜りし扶桑最初禪窟の宸筆の扁額は今も山門に掲げらる。また文化文政頃住職たりし名僧仙居の隱栖虛白院も存す。寺責中の銅鐘・大經師像・高峰斷崖中峯和尚像は共に國寶。(勝立寺)日蓮宗。橋口町にあり。永徳元年に日圓の開創。慶長八年京都妙覺寺の僧來りて切支丹の宗門を破す。黒田長政實して切支丹宗徒の殿閣を奪せ、且つ正法興隆山問答勝立寺の號を下す。(東光院)東原船町にあり。古義眞言宗。大同元年傳教大師の創建と傳へ、もと聖德山東光院藥王寺として天台宗の道場なり。其後、寛政せるを室町時代に再興されしが寛永年間また火災に罹り鳥有に歸す。現今の堂宇はその後藩主によりて復興されしもの。寺内安置の藥師如來立像(木造)・十二神將立像・

フクオ

町を、同十五年更に同郡八幡村を、昭和三年同郡堅粕町を、また千代町を、翌四年早良郡原村・穂井川村を、同八年同郡經濱町並に筑紫郡原田村・三宅村を順次市域に編入し以て今日に至れり。(福岡城)一に舞鶴城といふ。慶長五年黒田長政五十二萬石の大諸侯として豊前中津より入國、翌年福岡の地を相して築城し七年を費して成る。當時の福岡は北は海に面し、西は草ヶ江に臨み、南は鴻巣山北方の嶺脚たりしを山を削りて海濱に新地を築き、草ヶ江を埋め狭めて大濠とし、更に三方に濠を穿ち周圍約四軒に及ぶ要害堅固の城郭を築きしものなり。明治維新後全く廢墟となり、今は東部の城壕も埋められ城址は歩兵第十二旅團司令部・福岡警備隊司令部・歩兵第二十四團司令部にて徳ぶに山なり。昔日の名城も今にしては徳ぶに山なり。(修猷館)福岡藩の藩署。天明四年創立。一に東學問書所といひ、朱子學派の學校。他に復性學派の甘堂館また西學問書所もありしが、のち東學に廢せらる。明治元年更に文武館を興せしが三年十月みな廢す。東學の後は修猷館中學となる。(住吉神社)大字住吉に鎮座。官幣小社。祭神、表筒男命・中筒男命・底筒男命。天照大神・息長足媛命を配祀す。式内の名神大社。古くは筑前一の宮として朝野の崇敬厚く數字安社なりしが中古以來地漸く衰退せしも境内老樹蒼蒼とし、中に神木一窠

樂師坐像・樂師十二神將像・日光菩薩立像及び阿彌陀如來立像はいづれも國寶。(東林寺)曹洞宗。瑞鳳山と號す。創建年代不詳。元祿九年、筑前國守黒田家の臣立花五郎左衛門再興し、加賀國大乗寺前住和尚を招請して開山となし、曹洞宗復古第二禪窟となす。(萬行寺)下紙岡町にあり。眞言宗。天文十年空性の普賢堂町に開創せしもの。理慶の時萬行寺前町に移り、寛永年中更に現地に轉す。寺内に藩儒竹田春庵等の墓と名朝明月の墓あり。明月は近松の戯曲に名高き博多小女郎なり。(大乗寺)内大名町にあり。眞言宗。境内不動堂に安置の不動明王立像は應永時代の作と推定され國寶。(油山觀音)東油山町東油山にあり。普濟上人の胡麻を植みて油を製せし地。その寺額廢して觀音堂のみを存せしを元祿年間藩主寺堂を修葺し更に正覺寺を建つ。本章聖觀音は鎌倉時代の作にて國寶に指定せらる。(東公園)市の東北端千代町、千代の松原にあり。白妙寺松陰く速り清淨の別天地をなす。園内に元寇の際身を以て國難に代らんことを伊勢大崩に祈らせ給ひし龜山上皇の銅像、蒙古襲來の豫言者たる日蓮の銅像の外、元寇記念館・武徳殿・維新殉難志士の墓・動物園等あり。(大濠公園)大濠町にあり。舊福岡城外濠の一部を埋めて設けし近代式公園にて面積約四一ヘクタール。濠の中に柳島・松島・菖蒲島を築き橋を架し

四九天



て運れ、また水泳場・庭球場・児童遊園の施設あり。(西公園) 荒戸町荒津山にあり。東北西三面は博多湾を俯瞰し、北に翠嶽の一角を割る海ノ中道を望み、西北には近く幾ノ島、遠く志賀島浮び、其間、支那海に通ずる水路遠く開け四時の風光に富む、園内に蘇社・光雲神社・御座す。(野村東尼山莊) 平尾にあり。東尼が高杉晋作等の志士と謀議せし處。いま碑を建てて遺蹟を保存す。(貝原益軒墓) 西町金龍寺境内にあり。なほ境内には書見する益軒坐像の銅像あり。隣接の淨土寺境内に藤田龜井南溟の墓あり。(元寇防壘址) 指定史蹟。西新町百道松原にあり。文永役後、鎌倉幕府の小貳頼實に命じて築かしめし石壘址。當時築造せし石壘は、西は柑子岳下の大原邊より今津・今宿・生ノ松原・経ノ濱海岸より東は多々羅海防の箱崎・名島の邊に至る博多灣南岸全帯に亘りしものなり。規模構造は地形と場所により一様ならずも傾斜は内面に緩に外面を急にして馬上にて駆け上り射撃を射下すに便ならしめたりといはれ、その遺構は今も窺ひ得らる。弘安四年の襲来には備西の將士これに據りてよく防戦し敵を退けて上陸するを得ざらしめたり。(湛清庵) 國寶。天神町平岡清原内にあり。三疊牛茶室。車層にして屋根入母屋造茅葺なり。桃山時代に博多三商會、神屋・島井・大賀三家のうち特に豊原秀吉と茶室を通じ關係深かりし神

屋宗湛の好みにして、天正十五年頃再興の博多津に建てられしものなりと云ふ。宗湛の舊居は今の福岡市奈良屋町豊國神社及びその附近にありて本庵も亦其處にありしが、後に黒田家侍醫小野玄琳の荒戸町邸内へ移され、更に同町の興隆五六郎の手に移り、明治の中頃天神町の横田利兵衛の手に歸し、更に明治廿四年故平岡清太郎の所有となり現在地に移築せられ、露地は其際に新しく作られたり。庵名は宗湛、清太郎の流清を取りしもの。今は数寄屋風の座敷に續きて別棟をなす人母屋茅葺草庵風の建築なり。茶室の平面は三疊半、之に床の間及び名器博多文琳を収めたる文琳欄と稱する袋戸欄を茶室口近く設けたり。貴人口附近土間の竹藎子張の三角形部分及びその奥の腰掛の手法等は獨特あり。全體の意匠は簡素にして高雅の風韻あり。秀吉再興の博多に遺れる宗湛好みの山崎深茶室として貴重なるものなり。(島崎) 市の西南部にあり。菊池武時人造反河の首塚あり。近年石塔を建て。(千代ノ松原) 福岡市の東公園附近にあり。菊池町の北方なる多羅瀨に續く松林。古來、日本三松原の一に數へらる。謂ゆる白砂青松の地として幾多の詩歌に詠まれ、またこれに關する古蹟・傳説も多し。元寇役當時にはこの附近に防壘を築造して敵軍を防げり。また豊原秀吉が朝鮮政役のため西下せし當時の舊蹟も少からず。(龜山上皇銅像)

東公園内にあり。元寇の際、龜山上皇甚く宸極を憫まし給ひ、身を以て國難に代らんとい勢大崩に祈らせ給ひしに、一夜颯風おこり、敵艦覆没し遂に大勝を得たり。此の銅像は實に此の大難に於ける大捷を千載に記念せんがため、明治三十七年に建立されしものにして、之が建立に際しては、其の主唱者、湯地丈華氏の十有餘年間に亘る東西遊説に與るところ尠からず。尊像は青松の上に屹立して博多灣を眼許の裡に収めらる。(網場天満宮) 下土居町に御座。菅公左遷の砌に抽の蔭に上陸せられしが、數物なかりしにより、舟人は船の綱を輪に束ねて菅公を座せしめたり。のち此地に祠を建てて公を祀り網輪の天神と稱するに至ると云ふ。今は網輪の天神といひ、またその近くに網輪町なる町名あるはみな網輪を説りしものと思へらる。(元寇記念館) 東公園内、日蓮上人の銅像前にありて、元寇の役に於ける幾多の戦利品を始め、我が勇士の遺物・古器物等を蒐集陳列しあり。(小田部の墓園) 西公園下荒戸町、小田部氏の邸内にあり。晩春初夏には廣き園内一杯に繁茂せる數十株の櫻は紫・白の艶麗なる花房を垂れ、芳香馥郁たり。この櫻は福岡藩の志士にして、平野國臣と相許したる小田部龍右衛門が、その愛花の性癖を傾注して栽培せるものなり。(日蓮上人銅像) 東公園内にあり。龜山上皇銅像建立の議起りし際、日蓮宗の信徒より

た蒙古來襲の豫言者と稱せらるる日蓮上人の銅像をこの地に建設せんことを企圖し、首唱者、佐野前助師、最も力を致して大いに工を起し、明治三十七年に落成せるものなり。像の身長は三丈五尺ありて、その重量は約二萬貫、龜山上皇の銅像と共に高く松林の上に屹立し、本邦屈指の大作にして、古蹟群を通過する列車の中より其の後面を望見することを得。(湯衣塚) 石倉橋の東畔にあり。傳説によれば、聖武帝御代に筑前守佐野近世の後妻が先夫の軀を曾み海人の衣を蔽がせりて近世を欺けり。近世、軀の居室を覆げば妻の言に違はず、軀は濡れし海人の衣を纏うて熟睡中なり。近世これを悲しむ一刀の下に軀を殺す。翌年の忌日に近世は娘の歌二首を詠じ且つ泣ける様を夢み冤罪を惜り、軀母を返し、博多の地に七堂を建立し、自らは出家して松浦山に籠る。世に無實の罪を負ふを湯衣を著ると之より出でしと傳ふ。【福岡炭田】 一名早良炭田。筑豊炭田の一分區にして、福岡市と福岡縣早良郡炭村とに跨る第三紀古層の露出區域をいふ。炭層中最も主要なるものは三尺・四尺の兩炭層にして、炭質は渾青炭にて堅硬且つ粘結性を帯ぶるも破砕分には富むの缺點を有す。現在採行中の最大なるものは早良炭層、次は筑豊炭層にして何れも重要炭山に屬す。【福岡港】 博多灣の別稱。

フクガ 福賀村

山口縣長門國阿武郡の北部。大井川の水源地に位し、北は福賀村を挟みて須佐町に對す。西北は宇田郷村を隔てて日本海に近く、南は高根村に接す。面積四九・七六方軒。四周山嶺に圍繞せられ、福賀村界にイヲ尾山(六四一米)あり。村内海抜五五六六米の山地に疊はれ平地乏しきも、所々の山間窪地に耕作行はる。大井川は西部山地を南流し福賀村を過ぐ。沿岸に狭小なる平地ありて耕地拓く。米・麥・蕎麥及び木炭・醬油等を産す。縣道二線は東西と南方に通じ近隣の福賀・吉部・田方崎村等へパス通す。もと福田上・福田下・宇生賀の三村に分れしが、明治二十二年合併して福賀村と名づく。

フクカワ 福川村

山口縣長門國阿武郡の中部。萩市の東南に接し阿武川上流の北岸に沿ふ。西北は大井川を隔てて日本海に面し、北は福賀村、南は川上村に界す。面積五六・八五方軒。四周山嶺に圍まれ東境に天越山(五八〇米)、西北境に唐人山(四六四米)等々村内丘陵起伏し、中央に窪地あり。天城山北麓より唐人山北麓へ中央を東西に縣道貫通し萩市に至る。阿武川は南境を大井川は北境を西流して溪谷を作る。附近は中央窪地と共に耕作地なり。米産多く、又一般に養蠶盛なり。南部山地より木材・木炭を産す。萩市・地福村へパスの便あり。もと福井上・福井下・黒川の三村に分れ

フクカ—フクサ

フクカワ 福河村

山口縣備前國和氣郡の東南端。瀬戸内海に南面し、前面に廣久居島あり、その東半部は本村に屬す。東は兵庫縣に界し、北は三石・伊里二村に接す。面積二九・九九方軒。南北兩部に山地連り、中央に東西に亘る細長き低地あり。廣久居島は二百米の山地に疊はれ山林繁茂す。海岸には小田入あり。片上町に汽船往來す。村内農業を主とし、米・麥・柿及び少額の蠶を産す。もと福浦・寒河の二村なりしが明治二十二年合併して福河村と名づく。

フクガワ 福川町

山口縣周防國都濃郡の西南海岸。徳山灣に面し、宮岡村の東南、宮岡町の西に接す。西北に夜市村に隣す。面積六・一六方軒。東北に徳山、西に若山等々、北部は山地連るも夜市川山間を東南流して大なる三角湖を形成し羽島・中・室尾等の開作あり。海岸には古來鹽田發達す。海岸は前面に仙島・黒髪島ほか小島數多ありて風を遮り福川港は漁港・商港として好適なり。漁・工業最も盛にして煉瓦・竹製品・木製品・夏物・焼酎・清酒・味噌・機械等の産多し。省線山陽本線福川驛(大正十五年設置)を置き、また之と略ぼ並行に縣道東

フクキ 復記炭嶺

臺灣臺北州七星郡松山庄三疊翠にあり、昭和十年には石炭九、九〇五通を産し、この價額五萬四千餘圓とす。

フクキ 福木村

廣島縣安藝國安佐郡の東南隅。廣島市を距る約三軒の東北に位し、南は安藝郡、北は野小川・落合二村に接す。面積一六・九七方軒。東部及び西部に東北—西南に走る二條の小山脈あり。殊に東南高く吳婁々字山(六八二米)屹立して西北方に傾斜す。即ち二山脈に挟まれし中央に南北に長き平地存し耕地拓く。米・麥・柿・葡萄・松茸・蕎麥・木炭・酒類・牛馬・植木・庭石等を産す。省線藝備線深川驛へ約五軒、自動車を通す。もと福田・馬木の二村なりしが、明治二十二年合併して福木村と名づく。

フクケイ 福溪

京元線の一驛(大正二年設置)。朝鮮江原道平康郡平康面にあり。

フクサカエ 福栄村

鳥取縣伯耆國日野郡の西南部。南は岡山縣に界し、北は日野上村、東は石見村、西は多里村に接す。面積三八・五一方軒。四周山脈に圍繞せられ北に鬼林山(一〇三一米)、西に稻嶺山(一一四三米)、南に三國山(一

フクサキ 福崎町

兵庫縣播磨國神崎郡の西部。市川の西岸に沿ひ、姫路市の北方七軒餘。西北部は飾磨郡に界す。西境には六〇〇米餘の山脈南北に連りて村境をなし、西北隅に七種山(六八一米)聳ゆ。この山地より略ぼ東南方へ續く二條の丘陵は南北兩境を限る。市川は東境に沿ひて南流し、流域には廣潤なる平野開け對岸の田原村の平野に續く。中部にはこの低地より西北方と西方へ續く短き谷あり。産物は米・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶等の農産及び酒製品の産額多く、外に蠶・木製品・醬油・鶏卵等あり。縣道は河津に沿ひて南北に走り、之と交叉して東西に通ずるものもありてパス往來す。省線播磨線は東部を南北に通過し福崎驛(明治二十七年設置)あり。大正十四年町制施行。町内の七種山に七種瀑布あり、高さ六四米、幅三米。この地は播磨風土記に見ゆる高岡郷に當り、いま大字に高岡の名存す。(二之宮神社) 大字山崎に御座。宗社。祭神、山崎明神。明神は伊和神、即ち大己貴神の御子建石敷命なり。神代の御座なるべし。古來本郡の鎮守にして領主・地頭の崇敬

フクサ—フクシ

萬し。例祭、十一月十七日。(金剛城寺) 大字田口にあり。古義眞言宗。七種山。高野末。寺傳に聖德太子、この地は三寶相應の靈地なりとて、僧惠灌を請じて開山とし國家安穩の祈願所となし給ふといふ。惠灌は高麗の僧にて日本三論宗の開祖と稱せられ、本寺また三論宗の遺場たりしが、のち空海本寺に留錫して護摩祕密の修法を行ひしより眞言宗となる。足利尊氏寺領を寄す。いま伽藍堂塔の結構往古を想起せしむるものあり。

フクサワ

【福澤村】 神奈川縣相模國足柄上郡の南部。山北町の南端にて酒匂川に沿ふ。南部は明神ヶ嶽の山裾をなし、北部は酒匂川流域の平地にて麥・甘藷・馬鈴薯を産し、養蠶も行はる。縣道は山北町と東方の松田町に通じ山北町の省線御殿場線山北駅、松田町の同松田線に達からず。此地は和名抄、足下郡足柄郷の内にて、東鑑、承久三年七月の條に足柄山之麓、早河とあるは此處なりと。村内に承久殉難の五忠臣、藤原範茂の遺蹟あり。【福澤村】 富山縣越中府新川郡の南部。神通川一支の野野川左岸。支流黒川を源流す。南は横岳(一六二三米)を初め千數百米の山脈を以て岐阜縣飛騨國に界す。村は中央を東西に走る一山脈を境に南北二部の谷に分れ、中央部は幅一軒餘に狭まる。南部は山岳重疊し神通川の一支を西へ源流し嶺山に富む。北部は野野川一

福島

支の黒川北流して北へ緩傾斜をなす山地なり。北部には多少の平地あり米作はる。米の産に次ぎ薪炭材・木炭の産も多く養蠶も多少行はる。重要産山たる神岡山の嶺區は富村及び岐阜縣吉城郡の船津町・阿曾村に跨り三七一七餘坪。その嶺は金銀銅鉛鋅銻水鉛黒鉛とす。神岡 なる富村内には銀銅鉛山たる田村長嶺嶺山あれど掘らず。黒川に沿ひて中部に至る縣道あり、省線津線大久保町驛および縣道津線間發驛いづれへも約五軒あり、交通は不便なり。古くは和名抄、新川郡車持郷の内にて中世は太田保に屬す。大字東黒牧に津毛城址あり、一に村田城とも櫻木城ともいふ。創業年代は詳かならざるも地名小四郎の部下の居せしことあり。【福治】 佐賀縣杵島郡にありし村。昭和十一年白石町と改稱す。【フクシゲ】 福重村 長崎縣肥前國東彼杵郡の中央南端。大村灣に臨み、大村町(北方約三軒)にあり。東北には郡山(八二六米)を居し、それに連なる山脈南へ延び、山脈は全體に西方へ緩傾斜して中部にて臺地狀の山麓を以て終る。西部海岸には平野發達し、郡川西南部を流れて海に入る。低地は耕地多く拓けて米・麥を産し梨の特産あり。西部を長崎街道及び省線大村線通過して松原驛に近く(北方約〇・五軒)パスの便あり。本村は文化年間より福重村と稱し、大村氏の所領

フクシマ

たり。【福島村】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の東部。津輕海峡に面し、東は上磯郡、西は大澤・小島・大島三村に接す。面積一七四・七三平方軒。西境より東北に連互せると南部を東西に横れるとの二條の山脈に依りて村内概ね山嶺地帯に占めらる。北部に大軒岳(一〇七二米)・七ツ岳(九五七米)・南部に岩部岳(七九四米)・油ノ岱山(五二六米)等の諸山聳え、中央山間の低地に知内川東流して上磯郡に注ぎ、福島川は南流して海に入る。河口に福島漁業あり、鱈・鮭・昆布・鰻魚等の漁獲を主産業となし、木材・米・牛馬等を産す。省線福山線の碓氷坂驛(昭和十三年設置)を置き、また函館市に汽船の便あり。(福島大神宮) 大字福島村に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・豊受大神。創立年代詳かならず。慶安二年福島村に再建、文化四年に今の觀山地方に奉遷す。【福島郡】 奥羽地方の南端。(境域) 東は太平洋に面し、南は茨城・栃木・群馬三縣に、西は新潟縣に、北は山形・宮城二縣にそれぞれ隣接す。面積一三、七八一方軒餘、人口(昭和十二年十一月推計)一六一・二萬餘人、一方軒の密度一六一人にして、内地道府縣中、面積は北海道・岩手縣に次ぐ第三の大縣なるも、人口は第十三位、密度は第四十位に居り、奥羽六縣中にては宮城・山形の二縣に次ぐ。ま

福島

た性別に見れば、男七九・三七萬人に對し女八一・八四萬人にして機業地の特徴を示せり。岩代國一圓(福島・若松・郡山の三市、信夫・伊達・安達・安積・岩瀬・南會津・北會津・耶麻・河沼谷・大沼の十郡)とを管し縣廳を福島市に置く。(地形) 東部に阿武隈山地、中部に奥羽山脈、西境に越後山脈ありて共に略南北に連り、管内は自ら東洋の濱通、中部の中通、西部の會津の三地方に分る。阿武隈山地は主として花崗岩より成る隆起準平原の高原性山地にて幅は最大約五〇軒に達するも、高度は中央西側部にて三五百米、東部にて七八百米を示し、天玉山(一〇五八米)・移岳(九九五米)・大瀧山(一一九三米)・矢大原山(九六五米)等の高峰あるも、何れも殘丘性のものなり。山地の東側には第三紀層の幅狭き段丘地帯あり、阿武隈山地より下る宇田・葛野・新田・諸戸・木戸・夏井の諸川はこれを刻みていづれも小平地をつくり、南北に通ずる濱通地方をなす。中部の奥羽山脈には北部に吾妻・安達女良・磐梯の諸火山群、南邊に那須火山群ありて何れも二〇〇米内外の高度を有し、中部に猪苗代湖の堰塞湖を湛ふ。奥羽山脈と阿武隈山地の中間に北流する阿武隈川の流域にて南に安積盆地、北に信達平野の沖積地、中部に安達原の低き臺地あ

りて調ゆる中通地方をなす。奥羽山脈の西側、越後山脈の間は即ち會津盆地の沖積地にて自ら別天地をなし、南境より来る阿賀川北流し鶴沼・日橋その他の諸流を合せ、西境の越後山脈を截り新潟縣に出で日本海に注ぐ。(氣象) 前に述べたる如くその地形上、濱通・中通・會津の三地方に分る如く、氣候上にもこの三地方によりてそれぞれ特徴を有す。濱通地方は海洋の影響をうくること最も多く最も溫和にして小名濱にては年平均気温一二・五度、一月二・五度、八月二三・五度、降水量も一五八八を測る。中通地方の福島にては平均気温一一・八度、一月〇・五度、八月二四・二度にて濱通に比すれば寒暑共にやや著しく、降水量一二六三耗にて是に少し。會津地方は海を去る最も遠きと、これを圍む奥羽・越後兩山脈は阿武隈山地よりも高度多きため寒暑の差最も多く、冬は西北季節風の影響多く降雪も丈餘に達することあり。(交通) 濱通地方には陸前濱街道と省線常磐線南北に走り、中通地方には陸羽街道と省線東北本線また南北に走り、福島市より成る萬世大路は西方の板谷峠を越えて山形縣米澤市に向ひ、省線奥羽本線また之と並走す。會津地方には郡山より起る越後街道(會津街道)と省線磐城東線に連る磐越西線ありて西方に通ず。其他主なる道路に平市より石川町を経て須賀川町を繋ぐ御齊所街道、平市・郡山市

フクシ—フクシ

Table with 3 columns: 種別 (Agriculture, Industry, etc.), 價額 (千圓), 百分比. Rows include 農産, 工業, 畜産, 水産, 林産, 計.

間の磐城街道、郡山市・富岡町間の郡路街道、福島市・中村町間の中村街道、若松市・白河町・水戸市間の茨城街道、若松市・沼田(群馬縣)間の沼田街道、若松市・喜多方町・米澤市間の米澤街道等あり。鐵道には東北本線と常磐線を繋ぐものに安積水産驛・水戸驛間の省線水郡線、郡山・平岡の省線磐城東線あり、また東北本線松川驛より起れて岩代川俣驛に至る川俣線、若松市より起る省線會津線(一は沼田街道に沿ひ會津田島驛へ、一は會津柳津驛に達す)等あり。(産業) 縣の生産總額約一億五千九百萬圓(昭和九年)にして一人當り百一圓餘、一人當り六百二圓餘に過ぎず、これを昭和八年全國平均の一人當り二百八圓、一人當り一千五十七圓に比すれば甚だ寡少なり。農業は縣下の主要産業にして農家戸數は全戸數の五三%を占め、耕地は一人當り一・三・四反歩

(内、田七・二反歩、畑六・二反歩)となる。農産は米一二六・一萬石(約三、〇六三萬圓)・麥四二・三萬石(三三一萬圓)を主とし、食用農産に大豆・小豆・粟・稗・黍・玉蜀黍・蕎麥・甘藷・馬鈴薯等、工業農産に苧麻・胡麻・大麻・苧麻・蘭・蘇麻・紫標草・藍・除蟲菊・人参・高麗芋・楡・三椏等あり、農家一戸當りの農産額は僅に四〇一圓なり。されば牧畜・林業等を兼營するもの多し。穀類は牧畜高三三六萬圓(約七二〇萬圓)、生糸四二・四萬圓(約一、五〇〇萬圓)に上り、林業に用材、薪炭材・竹材及び木炭等の産ありて産額九二〇萬圓を越す。工業は生産總額六、五〇〇萬圓を示し、縣下諸生産中の首座に居る。その製品には絹織(節絹・檢出向羽二重等の一、二〇〇萬圓)・清酒(八九八萬圓)・綿織(八六八萬圓)等を主とし、木製品・漆器・菓子・工業用藥品・セメント等これに次ぎ、何れも二〇〇萬圓以上の生産あり。其他、鹽産には常磐炭田に於ける石炭を主として硫黄等もあり。水産は沿岸漁獲物の鰯・鯛・鱈・鯉等、遠洋漁業に鱈・鯉・鮭・秋刀魚・鰹等、水産製造物に鮑・鮑・竹輪・鰻節・鮭製品等あり。(沿革) 明治維新の際に松平氏二十萬石の會津藩、板倉氏三萬石の福島藩、丹羽氏十萬七千石の二本松藩、戸田氏五萬石の榎倉藩、阿部氏十萬石の白川藩、安藤氏三萬石の磐城平藩、秋田氏五萬石の三春藩、相馬氏六萬石の中村藩。

福島

本多氏二萬石の泉藩、松平氏二萬石の守山藩、内藤氏一萬五千石の湯長谷藩、立花氏一萬石の下手渡藩の諸藩の外に幕府領・旗本領交錯せり。明治二年、福島・白河・若松の三縣及び平・中村・湯長谷・泉・榎倉・守山・三春・二本松の八藩となす。四年七月藩を改めて縣となし、十一月改めて平・二本松・若松の三縣となす。この時全く縣の制となれり。ついで平縣を磐前縣と改め、二本松縣を廢して福島縣を置き、九年、磐前・若松の二縣を合せ伊具・刈田・互理の三郡を割きて宮城縣治とし、また越後東部郡を管轄せしが、同郡は二十年に分れて新潟縣に入り、以て現今に至る。【福島市】 福島縣の首都市。中通の北部信達(福島)平野の南部に位し、東北流する阿武隈川を以て東南は信夫郡波利村、東北は岡山村と境し、西南は支流須川を以て同吉井田村に對し、西北は同清水村に隣る。東西三軒餘、南北約三・七軒、面積約八・六方軒。北境に信天山(二七三米)の丘陵連る外は土地概して平坦なり。陸羽街道(今の四號國道)と萬世大路(今の五號國道)の分岐點にて夙く陸前・羽前方面と江戸との交通上の要衝に當り元祿以後板倉氏三萬石の城邑たりし處。省線東北本線西部を南北に貫き市の西南部榮町に福島驛(明治廿年設置)を置き、奥羽本線は之より分岐し、社線福島電線の飯坂西線は北方の飯坂温泉に、飯坂東

線は伊達郡保原町に通ず。置鉢類(約二〇六萬圓)・穀物(一五〇萬圓)を主とし、工業物産額五百萬圓を越す。福島縣の行政・金融の中心をなし、縣廳・市役所・地方裁判所等の官廳は市の東南部阿武隈川に近き部分にあり。省縣福島驛より東に通ずる榮町・大町、これと直交する置鉢町・本町等は商業街にして生絲・蠶等の取引盛に行はれ主なる銀行も多くここにあり。縣廳の東南阿武隈川の紅葉山公園はもと福島城址の一部にて、縣社板倉神社あり。北部に連る信天山丘陵は西部を羽山、中部を谷山、東部を熊野崎とよび、羽山の南麓に信天山公園あり、市街を一時に収め、東部に阿武隈川、西方に吾妻火山を望み風景に富む。その北隅に式内黒沼神社と招魂社を祭り、更に登れば藥王寺、その東北谷山の絶頂に羽黒神社あり。(沿革)中世以前は史實の徴すべきものなし。市の北部の御山の西麓宇

る。縣廳周圍一帯は移妻莊にして移妻太郎行信が莊司たり、其後に源頼朝に滅され、その將中村金西入道(伊達氏の祖)により統治さる。戰國時代は伊達政宗の、豊臣氏の頃には木村重次がそれぞれ統治下にあり、重次、その居城大森より移妻大佛城に移りて城を福島城と改め、ここに福島地名生ず。關ヶ原の役後、信達地方は幕府の直轄地となる。其後、元祿十六年に至りて板倉重寛、上野安中より來りて福島を領し、以來十二代明治二年聯建の世となり、創設所若命を命ぜられ、三河重原に移る。同年八月十八日福島縣を置かれ、四年十一月二日本縣と稱し、同月二十八日再び福島縣と改められ、五年六月第一大区に屬し、七月一月區會所を置かれ、十二年一月郡區編成法改正により福島區會所を信達郡役所となして戸長區域を設く。二十二年四月町村制實施に際して町制を布き、四十年市制を施行す。(板倉神社)福島町に鎮座。縣社。祭神、板倉重昌・同重軍。正保元年江戶板倉郡内に祀りて創まり、七代福島入城の時に本丸に遷し、明治維新に三河に奉遷す。明治十三年分靈奉祀を出願し同年十一月許可せられ、同十五年社殿成ると共に之を奉祭す。同十九年重軍を合祀す。例祭、四月三日。(稻荷神社)宮町に鎮座。縣社。祭神、豊受比賣命。永延元年に安倍晴明を奉じて奥羽に下向せし時、この地産興隆の地相ある事

を察し、その信崇するところの信太明神を祀りしに始る。永安元年晴明の孫安倍清明、社殿を改築し輪奐の美を盡せり。爾來幾多の盛衰ありて今日に至る。例祭十一月一日。(黒沼神社)小山麓に鎮座。縣社。祭神、黒沼大神・石比賣命。延喜式信太五座の一。社傳に欽明天皇御宇、皇后石比賣の第二皇子淳中倉敷尊即ち敏達天皇と稱するや、皇后は皇兄淳中大尊の位に即かれざるを歎き、尊と共に内裏を忍び出で、此地に崩じ給へるを奉祀せりと。例祭、七月九日。(康壽寺)西原三丁目にあり。眞宗本願寺派。親鸞の弟子明教の開創に係る。元祿三年寂如より二十四願所中第十七番に列せらる。境内に古河善兵衛の墓あり、善兵衛は上杉氏の家臣、私財を投じて湯野堀開鑿の工事を起し、資金不足のために一時公金を濫用せし責を負うて居服せざるものといふ。(常光寺)清明町にあり。曹洞宗。長規禪師の草創に係り、遠江國中田村雲林寺末。天正十八年、豊臣秀次、九戸政實討征の途次、當寺に慰勞宴を盡りし事あり。のち板倉氏の菩提所となる。(眞淨院)新義眞言宗崇山派。寺寶中、鍬金剛鈴・金剛杵二箇は明治三十八年に國寶に列す。

て凝灰質砂より成り、炭層には本層・下層あり。炭質は不粘性的の亞瀝青炭にて粗悪なり。昭和十年には塊炭一八、〇四〇噸、粉炭一九、三三〇噸、粗炭一、四三〇噸(此種價額約一九萬圓)を産し、同年六月末の積込数は三〇八人とす。文久年間、泉原某が黒き岩の燃料となるを知り、當地の石炭露出部を探知せるが當鎮山の始まりと云ふ。當鎮山に夏井川の支流なる小玉川貫流して水利の便よく、殊に勢越東線の通じてよりは小川郷驛までは山陵の起伏緩慢なるを以て搬出の便あり、平市とも近く物資の便もよし、されば鎮山としては形勝の地とすべし。現在、福島炭礦會社(事務所は赤井村)の經營にて重要鎮山に屬す。

【福島電氣鐵道】私設鐵道。東北本線福島驛前の福島より信太郡飯坂町の飯坂に至る一三・五軒、伊達驛前の伊達より伊達郡保原町の保原に至る二〇・六軒、同郡保原町の保原より掛田町の掛田に至る二〇・〇軒、計五四・一軒の飯坂東線、福島より飯坂温泉に至る九・六軒の飯坂西線の總計六三・七軒を含む。

流ひて西走し上州福島驛(明治三十年設置)を置く。古くは和名抄、甘栗郡領部郷の内にして中世は領部庄と稱せらる。大字福島と大井戸との界に近きところに板碑あり。もと兩大字の界なる小川の石橋として架せられ、大日橋と呼びしものなり。高さ一丈四尺餘、幅約二尺九寸、上部に梵字あり、下部に四行の文字刻され、仁治三至二月八日、合力已上三十餘人の文字に見ゆるも、他は全く磨滅して讀むを得ず。

て遷けらる。明治六年戊辰、年廿六。【福島町】長野縣信濃西筑摩郡の中郡。本曾谷第一の名邑。東は本曾山脈の高峻なる山嶽、經ヶ岳(二九六米)・駒ヶ岳(一九五六米)・前駒ヶ岳(二八四四米)・兼ヶ岳(三〇二六米)・御嶽山(三〇六三米)の諸名山時峙す。本曾川の淺谷なる本曾谷は北は鳥居峠(二九七米)、南には妻籠峠(八〇一米)と約六〇軒に亘り、古くより小木曾谷と呼ばる。江戸時代より特に中仙道の宿驛として發達す。また往時は福島關が置かれ、東海道の荒井關と相應じて江戸と京都との中間にあり、入道關と出女は特に重要な改めが行はれたる番所地なり。江戸へ六八里、京都へ六〇里、副關としては北部に貫川あり。北は鹽尻を経て松本に出で更に北陸地方に通じ、南は中津川町を経て濃尾平野に出づる交通上の重要な地なり。福島を中心とする本曾谷は古來移の産地として年々の伐採量五十萬石を超え、其名著るも耕地面積は極めて少く、僅に谷底を利用するに止る。米産額に實に三萬石にて毎年五萬石を他地方より移入す。古くは本曾山脈を樞兵峠(一五二二米)の隘路を経て伊那に至り同地の米を仰げり。農民が戸毎に何ふ馬は本曾駒にて山路の歩行には天下第一品と稱せられ、御嶽山麓や福島以北の西野黒川の谷地に産せられ、ここ福島に集められて馬市が立てらる。寛文七

年以來無休と言はれ本郡三大馬市として名高し。この市は毎夏七月二日より五日間の御毛附と九月十日より五日間の中見市とにて、全國よりの伯樂にて賑ふ。本曾駒は八月十四・五・六日の三日間に於て數百の本曾人の歡樂たり。更に御嶽登山の白衣の修行者精進し盛夏の候は股服を極む。福島より上松を経て須原に至る間は所謂本曾峽谷にて本曾川が回春して作れる河岸段丘あり、木曾の棧の址・發覺床・小野の瀧等の勝地あり。黒川・八澤川は東・西より本町に來りて本曾川に流入す。(水無神社)大字伊香に鎮座。縣社。祭神、高麗姫命。國幣小社水無神社より勧請すといひ、弘化二年に本曾家仲再興す。領主・代官の崇敬篤く、もとの本曾谷十二箇村の鎮守たり。

本流流川に架せる舟橋附近までを云ひしもの。大正以後、曾根崎川は埋没せられて今は無し。江戸時代も元祿頃までの名稱と考へらる。好色一代女・五・春あきて人の心も見えわたる浣屋橋を越て中の鳥の氣色雲靜にして風絶、福島川の雄聲ゆたかに雨は傘のしめりもやらぬ程ふりて顯ふ所の日和萬の相場定まりて、米市の人立もなきて。

【福島町】福島縣筑後國八女郡の西部。筑紫平野の東南部を占め、西方三軒餘に羽太家町あり。面積僅にして二・三四方軒に過ぎず。全町地形低平にして田畑よく拓け米等を産し、市街地もたたく發達し、郡内の産物みな此地に輻輳するを以て町勢繁盛、郡中第一の都邑たり。若鹿見島街道は南北に走り、東西には羽太家町方面と東方の黒木町方面とを結ぶ縣道ありて道路四方に通じ、また社線南流軌道東西に通じ下福島・福島の二驛を置き、バス

【福島湯】新潟縣北蒲原郡新發田町の西南にある湖。高度二米、湖岸は九・六軒にて、面積五・一五方軒、深度二米。以前は廣かりしが、今は次第に縮小しつつあり。

【福島村】新潟縣越後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

【福島川】大阪の川名。もと北區曾根崎川の下流にして、福島附近流域の名稱と思はる。即ち梅田橋・沙津橋・堂島橋より

【福島町】新田縣筑後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

【福島町】新田縣筑後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

【福島町】新田縣筑後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

【福島町】新田縣筑後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

【福島町】新田縣筑後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

【福島町】新田縣筑後國南蒲原郡の西部。三條市の西南に隣接し、北は信濃川を境に三島・西蒲原・中蒲原の三郷に接す。全村平坦肥沃なる越後平野の一部にして水田開け米の主要なる産地なり。畑も多少あり藪・野菜等を副産す。國道東部を南北に走り三條市へバスの便あり。その他河岸に沿ふ縣道もあり、信濃川は舟楫の便ありて交通比較的便なり。また此地は戊辰の役に激戦のありし地。尊攘の志士片桐省介(新從五位)は本村の人にて諸藩の士と朝臣に列せられ、のち遷にあひ

繼ぐ、安政不評なり。大阪の役後、忠政大阪方に内通し彈藥を送れりと幕府に告ぐ、爲に忠政發覺を被り、その罪未だ決せざるに元和六年卒し、嗣なくして家絶ゆ。安政また遷坐して近江に移され、同九年歿す。〔福島公園石人〕公園は福島城址にして、園内に石人・石馬等多數あり。古へ築城の際、下廣川村一帯の石神山より持運びしものと云ふ。日露戰役記念碑建設の時發見せしものもあり。いま二箇所に集る。圓體石人にて甲を着たるも、坐形のもの、及び標を飾めたる腰飾あり、胴部・頭部の斷片、女體にて胸・乳を露したるもの、石馬の胸飾等あり。文久二年、高良山座主の撰文の碑建つ。〔八幡宮〕大字本町に鎮座。郷社。祭神應神天皇・神功皇后・武内宿禰。古くより當郷の産土神たり。例祭日、十月十九日。〔無量壽院〕淨土宗。若山先光明寺と號す。天平年中行基の開創、當時塔頭六坊ありて寺運隆盛なりしが、のち次第に衰頹す、建保年中、聖光房僧長再興して現宗に改む。國主田中兵部卿の崇敬厚かりき。園内扁額の古刹なり。

亂れて複雑なる地形を構成し、山は海に直視して殆ど平地を見ず。従つて耕地少く農耕の業見るべきものなく、入江・浦に倚る養蚕は漁業的生産繁盛多し。本島の重要性は石炭採出地としてなり。本島の中央部には第三紀夾炭層分布し、幾多の炭層を夾み、南部の鹽濱と崎附近と北方の鶴串地方より盛に採炭されつあり。島の北部・東部・西部には洪積期噴出にかかる玄武岩質熔岩が右第三紀層を被覆す。主なるものは福島炭層と銅之鼻炭層なり。昭和十年に於て、前者は塊炭二〇、二七九冠、粉炭四、〇〇九冠、切込炭七、九〇七冠、粗炭五、五三九冠、此種價額二二萬餘圓を出し、後者は粉炭二〇、三九六冠、切込炭一、二五四冠、粗炭九二八冠(此種價額九萬餘圓)を出し、何れも重要強山に屬す。

水産・漁業・工業あり。海岸に沿ひて鹿兒島縣鹿兒島郡志布志町へ至る縣道あり、東部は油津町へ延ぶ。省線志布志線は南部と東部を通じ、福島今町・福島仲町の二駅(共に昭和十年設置)あり。海上には鹿兒島・大阪に至る定期船の便あり。この地は古くは指間院の内にて、その首里たり。大正十五年町制を布く。(串間神社)大字串間に鎮座。郷社。祭神、彦火火出見命。この地は祭神行宮の古蹟と傳ふ。もと十三所大明神と稱し、高橋藩主秋月氏の崇敬篤かりき。例祭、十一月十四日。

福島の産多し。また竹ヶ鼻町の隣接刺殺に機業も行はる。交通は竹ヶ鼻町に接するため便利なり。本村は和名抄の粟栗部粟栗郷の地にして、中世は西門間庄と呼ばれ、其後は名古屋藩に屬す。大字本郷は粟栗郷の全部たり。古城址はいま田圃となれども、稻葉系圖に「稻葉佐渡守正成(兵庫頭重通義子)は粟栗部本郷の城主なり」とありて、これ山城の淀侯の祖なり。大字間島の太閤山は天正十二年秀吉が竹ヶ鼻城を水攻めの時に壘をここに築きしよりこの名を得たり。これ現在の一夜堤にして、粟侯の一夜城と共に秀吉の非凡なる機略を現せるものなるも、本曾川・長良川の改修の結果、今は瓦堤の陰に僅に舊跡の名を留むるのみ。

フクスカ 福東村

福安八郡の南西部。大垣市の東南二軒。北は牧村・名森村、東は大藪町、南は仁木村、西は川並村・淺草村及び養老郡笠郷村と相接す。西部には排漕川南流し、南端にては木門川・牧田川幅流し、古來水害多き地にして近年改修工事により安定を見る。この地は長良川と排漕川に挟まれその沖積地に屬し、等高線五米以下なり。爲に昔より福東輪中を形成し大藪町・仁木村及び木村の三箇村を合めて長蛇の如き輪中渠を見る。産業は米麥作盛なるも排漕川の堤外地は桑畑に利用せられて養蠶も亦盛なり。交通は輪中なるため他村より孤立的となり島の如き景観をなし、排漕川には今も渡船場存す。大垣より海津郡今尾町方面へのバス西部を通ず。此地は和名抄には地名も見えず、恐らく後世低瀬のため干拓されしものにて、南隣の仁木村附近には福東新田初め多くの新田墾あり。正保年中には幕領たりしが幕末には一部は大垣藩に屬す。一説に大字中郷は和名抄安八郡那珂野の地と云はるるも不詳。福東城は應永廿一年福東藏人十郎益行が土岐左京大夫頼益の命によりて築城せるものにて、その後正長元年より九毛光慶(土岐頼康の従弟明智五郎頼高の子)居城し、その子三郎左衛門光益相繼ぎしが、その子河内守光長は文明二年八月海津郡西村藤田の里に移る。されど光長の子三郎兵衛兼行は

フクス 一 フクタ

福東に歸城し、孫の三郎兵衛光兼は後に兵庫と改め、晩年には河内守と稱し養老氏に屬す。永祿七年齊藤氏が信長に滅さるるや光兼は之に降り、信長は一旦福東城を攻略し、光兼は今尾城を興ふ。秀吉の頃には天正十一年再び福東城に歸り、その子三郎兵衛兼利の時廢城となり、城浦の地名を留むるのみ。他に一つ古城址あり、初め丸茂三郎兵衛安藏(或は兼親)慶長の頃居城す。安藏は小笠原長清の後裔丸茂兵衛の子、多磨郡大垣より轉じ二萬石を食む。關ヶ原の役に西軍に屬して没落し、其後、前田利常に屬し二千石を知りし、正保四年歿す。第五郎兵衛は旗本となり江戸に代々仕せり。

また大字村と京都府船井郡竹野村とに跨り領區八八萬餘坪を有する湯淺山あり、兩者は合一經營にて福住鐵山と稱せられ昭和十年より事業を開始す。この地は和名抄、多紀郡萬葉の地にして、山陰道の古蹟なる小野驛のありし處。小野驛は延喜兵部省式に小野驛馬八疋と見え、丹波志によれば、始め大字二之坪に設けしが、後に大字福住に移せしものならんといふ。中世は親井庄と呼ぶ。福住城址は天正の頃親井教業これに據れり、この人武略あり、渡多野氏を助けて勇名高く丹波の青鬼と呼ばれしと傳ふ。

福住村 兵庫縣丹波國多紀郡の東部。篠山町の東方約八軒。東は京都府船井郡に接し、南は大阪府豊能郡の北端に界す。北端には東西に連る約五〇〇米の連山ありて東北隅に三國嶽(五〇八米)聳ゆ。南部にも丘陵性の山脈起伏し、東南端に深山(七九一米)屹つ。中央には稍廣闊なる淺き谷あるも河川西流し村雲村に入りて篠山川に合す。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農産・果實・繭・鶏卵・製茶及び双物・瓦・醬油・木製品・漆製品等あり。縣道は中央を東西に貫きて篠山町へバスの便あり、また南方の大阪府油川町方面に至る縣道もあり。富村と大字村に跨り、領區九二萬餘坪を有する金銀山あり。

丹波市町の東に接し、北は添上郡に、南は磯城郡に界す。四州山地を繞らし西端に高峯山(六三三米)聳え立つ。西南部に發する布日川の支流は村の中央を東北に貫きて針ヶ原所村に入り布日川に合す。米・麥・繭を産す。中央には道路東西に走り西方の省線奈良線本線に至り、途中にて分る一道路同線丹波市驛に達し共に自動車の便あり。この地は和名抄、山邊郡星川郷の内か。永祿年中この地の郷士山田道安、東大寺大佛の修補をなす。文明以降は福住氏ありて此處に割據せしが筒井氏に滅さる。(水室神社)松ヶ谷所に設かれし水室の一に就きて前祀せられしものなるべしといふ。此地にも水室のありしならん。

フクリー 福相村

國産品部の南部。蘆田川中流南岸に沿ひ府中町の東南約四軒にあり。南は沼隈郡に界し、北は川を挟みて新市町に對す。面積九・五八方軒。南北に細長き地形を有し、南部は山地に覆はる。地勢は北方に傾斜し蘆田川沿岸平野に終る。西部山中に湖沼存し、有地川は村心を東流して蘆田川に注ぐ。灌溉の便良く耕地多し。米・麥・繭・酒類・木炭等の産多し。省線福野線手驛に近く交通便なり。本村はもと福田・相方の二村なりしが明治二十二年合併して福田村と名づく。

フクタ 福田

福田村 福島縣磐城國相馬郡の北部。中村町の北方約一〇軒。北と西は宮城縣に接し、東は太平洋に面す。阿武山地の北部に位し、西端に地蔵森ありて東方に傾斜し、加古川は西部に發源して村の中部を東流し太平洋に注ぐ。沿岸に耕地拓く。米・繭を産す。陸前濱街道は東部を南北に通じ、中村町へバスの便あり。省線常磐線新地驛へ南方約一軒あり。この地は戊辰の際に激戦ありき。

通するもの及び南西部を斜走するものあり。西北方の福島市、東南方の川俣町へはバスの便あり。川俣線岩代駅昇降へは南方約四軒。

【福田村】 埼玉縣武蔵國比企郡の北部、松山町の西北隅にあり。北は大里郡と隣る。大部分は低き丘陵地にて針葉樹林あり。南境附近のみ稍平地ありて滑川流れて米・蕎麦を産す。縣道二條ありて一は熊谷市に通じ、バスの便あり。(泉福寺)大字和泉に鎮座。新義真言宗智山派。本尊阿彌陀如来坐像(木造)は藤原末期の様式を具へ現に國寶たり。

【福田村】 千葉縣下總國東葛飾郡の北部。野田町の東方約四軒にて利根川の西岸にあり。東は茨城縣北相馬郡、北は同縣島郡と隣る。全村低地にて西部に沼田あるも他は畑地をなし、農業行はれて米・蕎麦を産し、養蠶も盛なり。縣道は野田町に通じバスの便あり。利根川は水運の便多く、利根運河は村の南境を過ぎて江戸川に續き水運の便大なり。

【福田村】 富山縣越中郡西礪波郡の東北部。高岡市の南西に隣接する小村にして東は東礪波郡に界す。土地平坦にして水利よく水田開く。主生業は農にして米を主産とす。北部を國道及び省線北陸本線貫き、高岡市へバスの便あり。

【福田】 石川縣江沼郡にありし村。昭和十年に大聖寺町に編入す。

【福田】 信濃國(長野縣)の古地名。和名平にて東境に滑川西流し約一・五軒先にて筑後川に合す。純農村にして米・蕎麦を産す。甘木町より東南方の浮羽郡田主丸町へ至る縣道は東部を通過し自動車通す。村内に久留主塚あり、吉利支丹宗徒を埋めし所と云ふ。明治二十二年本村の内一本村ほか五大字を分割し、その區域と堤城村の大字相窪村とを以て立石村を新設す。

【福田村】 長崎縣肥前國西彼杵郡の西部。長崎港の外側、稻佐山の西麓に在り。海岸は北陸性海岸にて福田町・立日町・観音崎等地並の東端は幾多の岬となり、中に洞を抱く。背後の地は玄武岩質のやや急峻なる山地にして、海岸との間に多少の平地を有するに過ぎず。従つて農耕的生産少きも沿岸の諸地は漁業の中心地となり、牛農半漁的村落なり。この好適地は早くより交通の要地として知られ、既に水陸年間南蠻人この地に入浦し、長崎寄港の船隻の泊るを有す。南蠻人はもと大村領の横濱浦に出入せしも、此地の優越を認めしものか、横濱浦より當地に移すものなり。元龜元年背後の好適地長崎に投訴するまで此地が南蠻文化の接觸地帯たりし事は我國文化史上特筆すべき點なり。山地丘陵踏踏し交通は阻害さる。されど長崎と相接する背後地なる關係上、稻佐山を越ゆる道路通じ、長崎人士の保養遊覽的地帯たり。海上交通は陸上交通に比し便利にして、長崎基點の沿

抄に小縣郡福田郷あり、その地は今の小縣郡泉田村の邊に當る。

【福田村】 静岡縣遠江國勢田郡の南部。東に豊濱村、北に南御厨村、西に於保村あり、南は遠州灘に面す。町域は太田川の右岸にして、中央を西より東にその支流滑川貫流す。地は水田多く、蕎麦・西瓜等の産あり。本町はもと福島村と稱せしが大正十五年福田町と改稱す。福田港は古の今浦の浦口にあらず、慶長五年の開墾に俾る。

【福田村】 兵庫縣播磨國加東郡の西部。加古川の東岸に滑川が北に流す。東北部と東南部は臺地をなすも、他は平野にして西境に滑川が加古川南流し、南部には一支流西流し、注入口は西南境を離れて僅か南にあり。米産多くまた蕎麦類・蔬菜・花卉・養蠶・食用農産・果實・繭・海苔・醬油・製菓品・沿岸漁獲物等の産あり。東西南北に縣道走り、社線播磨丹波道播磨大門驛へ西に一軒餘を距つ。もと上福田村と共に福田一軒餘を距つ。大字古古瀬・西古瀬・中古瀬の地は播磨風土記に見ゆる巨勢里に當るといふ。風土記・起勢里、土下中、黒川、美江、右號・起勢者、巨勢等居於此村、仍爲里名也。(佐保神社)大字東實に鎮座。祭神、天兒辰根命・比賣大御神・大名赤知理命。慶老六年の創建と傳ふ。もと佐保大明神と云へり。天文年中焼亡し元祿十二年再建す。例祭十月十七日。

岸汽船の寄港地なるも、西風超越する時は汽路の自由を缺く。

【福田村】 熊本縣肥後國上益城郡の西北部。木山町の東に接し、西北隅は僅に他託郡の東隅に界す。本村は東北方に繋ゆる阿蘇山の西麓に臨る山地をなし、南境と東北境は四五百米の高度を有すれど西北部は稍低地をなす。赤井川は中央を西流す。米・蕎麦を産す。木山町へバスを通す。この地は和名抄、託麻郡津守郷の内にして村内に朝津名峯あり、肥前風土記によれば、此山は土蜘蛛の根據地にして、朝廷は肥前を討つて之を討たしめしことありといふ。

【福田村】 福武電氣鐵道 社線。福井縣福井市と南條・丹生・今立・足羽の四郡に跨る。武生新驛(北陸本線武生驛に接續す)より起り福井新驛(福井市)に至る。全長一七・八軒。軌間は一・〇六七米にして蒸氣・電車・ガソリンを併用運轉し、省線と連帶運轉をなす。

【福田新田】 岡山縣備前國吉備郡の東北部。北は御津・上房二郡に界し、東は岩田村、西は大和村に接す。四周山地に圍繞せられ、村内概ね四五百米の高地なり。西南に原野横り、東南部の山間低地に耕作行はる。米・蕎麦・柿・薄荷及び酒類・木炭等を産す。社線

【福田村】 岡山縣備前國邑久郡の西部。吉井川下流の左岸に滑川、西は川を隔てて上道郡に對す。北は行幸村、南は今城村、東は笠加・邑久二村に接す。面積五・〇七方軒。吉井川河口の沖積平野上に位置し、村内地勢平坦肥沃、灌溉の便よく、耕地多し。米・蕎麦・柿・薄荷・酒類を産しまた養蠶業盛なり。縣道にバス通じ、また上道郡西大寺町より岡山市に到る輕便鐵道を利用す。明治二十二年、福元・百田・宗三・豆田・福中の部落を合併して福田村と名づく。

【福地村】 秋田縣羽後國平鹿郡の西南部。沼館町の南に在り、西は雄物川を隔てて雄勝郡に接す。横手盆地の西部を占め、土地概ね平坦にして雄物川は西境を北流す。主生業は農業にして産物は米・大豆・馬鈴薯・蕎麦等、また特産に土管を出す。本莊街道は中部を東西に通じ、社線横莊鐵道沼館驛・羽後里見驛へは各約四軒あり。天正年間、小野寺の家老に西野氏あり、大字西野に住ひその在名を稱せしものか、もと深井・南形・道地・柏木・西野の部落を合併して「幸福なる地」たるを願ひ福地と命名せるものといふ。

【福地村】 山梨縣甲斐國南都留郡の中部。富士山の東北斜面を占め、富士箱根國立公園の内、西南隅に富士山頂を含み、南は静岡縣駿東郡に界す。東北に裾野を引き米畑に吉田の嶺發達す。吉田口登山道は之より山頂に向ふものなり。斜面は概ね森林・草原にして山麓部に僅に水田・桑園あり。農耕・養蠶行はる。其他林産・畜産あり。住民の六割は農業に従事し、爾餘は機業・大工・旅館業・自動車業・商業を營み、富士登山者を對象とする者多し。大字吉田は舊鎌倉街道と中山道の會點に發達せる街村にして、今は大月町より社線富士山麓鐵道通じ終點富士吉

【福田村】 香川縣讃岐國小豆郡小豆島の東北部。播磨灘に面す。西南隅に星ヶ城(八一七米)・嶮岨山等そびえて草壁町と界す。山地は東北方へ傾斜し山脚海に延びて東北端に懸崖突出し、其南に小灣を隔てて金ヶ崎東北方へ長く連り、更にその南に灣を抱き灣心に小島あり、各河頭には東北流する河川注ぐ。生業は石村採銅業・漁業・運送業(船)・農業・醸造業にして、石村(負貫花崗岩)・機織・鳥糞・蠶・米・醬油を産す。阪神・高松・多度津港へ定期船の便あり。此地は舊尾美莊に屬す。いま大字福田は瀬戸内海國立公園の内なり。(八幡神社)大字福田に鎮座。祭神、帶津比古神外二柱。創建年次不詳。古來當村の産土神として崇敬厚し、例祭、九月十一日。

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 岡山縣備前國邑久郡の西部。吉井川下流の左岸に滑川、西は川を隔てて上道郡に對す。北は行幸村、南は今城村、東は笠加・邑久二村に接す。面積五・〇七方軒。吉井川河口の沖積平野上に位置し、村内地勢平坦肥沃、灌溉の便よく、耕地多し。米・蕎麦・柿・薄荷・酒類を産しまた養蠶業盛なり。縣道にバス通じ、また上道郡西大寺町より岡山市に到る輕便鐵道を利用す。明治二十二年、福元・百田・宗三・豆田・福中の部落を合併して福田村と名づく。

【福田村】 香川縣讃岐國小豆郡小豆島の東北部。播磨灘に面す。西南隅に星ヶ城(八一七米)・嶮岨山等そびえて草壁町と界す。山地は東北方へ傾斜し山脚海に延びて東北端に懸崖突出し、其南に小灣を隔てて金ヶ崎東北方へ長く連り、更にその南に灣を抱き灣心に小島あり、各河頭には東北流する河川注ぐ。生業は石村採銅業・漁業・運送業(船)・農業・醸造業にして、石村(負貫花崗岩)・機織・鳥糞・蠶・米・醬油を産す。阪神・高松・多度津港へ定期船の便あり。此地は舊尾美莊に屬す。いま大字福田は瀬戸内海國立公園の内なり。(八幡神社)大字福田に鎮座。祭神、帶津比古神外二柱。創建年次不詳。古來當村の産土神として崇敬厚し、例祭、九月十一日。

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 香川縣讃岐國小豆郡小豆島の東北部。播磨灘に面す。西南隅に星ヶ城(八一七米)・嶮岨山等そびえて草壁町と界す。山地は東北方へ傾斜し山脚海に延びて東北端に懸崖突出し、其南に小灣を隔てて金ヶ崎東北方へ長く連り、更にその南に灣を抱き灣心に小島あり、各河頭には東北流する河川注ぐ。生業は石村採銅業・漁業・運送業(船)・農業・醸造業にして、石村(負貫花崗岩)・機織・鳥糞・蠶・米・醬油を産す。阪神・高松・多度津港へ定期船の便あり。此地は舊尾美莊に屬す。いま大字福田は瀬戸内海國立公園の内なり。(八幡神社)大字福田に鎮座。祭神、帶津比古神外二柱。創建年次不詳。古來當村の産土神として崇敬厚し、例祭、九月十一日。

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

【福田村】 福四縣筑前國朝倉郡の西南部。筑紫平野の北に在り、甘木町の南約〇・五方軒。西南は三井郡に接す。全村地形低

フクチー フクチ

十六箇の燔岩樹型とより成る。燔岩の一を崩レ穴と云ひ、長さ五七米、中央に天井の隆起せる所ありて南北の二穴に分たる。南穴中には先鋒發生す。他の隆起を流レ穴と云ひ、延長前者に三倍すれど大部分は燔岩溝をなし、其隆起をなせる部分も穴の位置淺かりしため、天井の隆起をなせる所多く、其隆起は二箇の天然石橋をなせり。燔岩樹型は概ね井戸型の直立樹型にして根脚樹型は少し。殊に根脚山は大なる立木の周囲に燔岩停帯凝固して高さ約五米のマロン型燔岩丘をなせるものにて、中央に口径一米・深さ七米の圓筒型堅穴存し、樹型として珍しきものなり。〔諏訪ノ森〕富士淺間神社の境内に接する赤松の單純林にして、富士登山路の兩側に群立す。樹幹に葛が懸垂して紅葉期には翠綠の間に眞紅を彩り、極めて美觀を呈す。〔西念寺〕時宗。古積山と號す。高澤清淨光寺末。寺傳によれば慶老三年、行基富山を開きて富士道場と稱す。永仁六年、時宗二祖他流教は堂宇を改修して時宗に改め眞海を推して開山とす。これより武田氏の崇敬厚し。

【福地村】岐阜縣美濃國加茂郡の東部。岐阜市の東北五〇軒。北は藤原村に、南は朝市村に、西は久田見村に各相接す。古生層より成る東濃山地の中に在り、東北部には見行山(九〇四米)あり、南端には飯足川西流す。産業としては山地なるため木炭の産出多く、農業は殆ど行はれず。交通は不便にして、北藤原を経て高山線白川口驛に至るを便とす。本村は江戸時代は苗木藩に屬せり。孝子善九郎の出でし地なり。

【福地】福岡縣鞍手郡にありし村。大正十五年に廢され新に直方町を置く。直方町は昭和六年一月市制を布く。古地名。和名抄に伊那郡福智郷あり、布久知と訓す。その地は今の上伊那郡宮原村の邊に當る。

流する由良川(大平川・大雲川)は、本市の中央業務部に於て同じく丹波高原の南部より來れる土師川を併せて急角度に轉回し、北流して丹波國に入る。本市の市街部はその左岸の段丘上に在り、その本支流の沿岸に耕地よく拓け、米麥の産多きも臺地には桑園よく發達す。昭和十年の作付反別は米七、三四七反、麥四、九〇三反に對して、桑園四、九五一反なるを見て知るべし。本市の氣候は概して云へば溫暖にして年平均一四度乃至一四度半なり、最も暑き七、八月の候に於ても平均三一度内外にて、最寒の一、二月の頃に於ても平均一一度内外なり。國道山陰道は京都に起り龜岡・國部を経て土師川に沿ひて本市に入り、市の西北部に於て丹波街道を派し西方但馬國に入る。この外東は鞍部方面、南は篠山方面、西は佐治方面に府道を通ず。省線山陰本線は京都に發し、國部町に於て國道と離れ鞍部町を経て本市に福知山驛(明治三十七年設置)を置き、再び國道に沿ひて但馬國に入る。同福知山線は大阪より來りて福知山驛にて山陰本線に接續し、社線北丹鐵道も福知山驛に起り由良川に沿つて丹波河守町に至り市内に福知山西驛(大正十二年設置)を置く。其他、市内及び四周の主要村落へはバスの運行ありて交通至便なり。本市はもと北丹地方の一商業都邑として知られしが、都是製絲會社及び鐵道勸業會社の福知山工場の相次ぎて

設けらるるに及びて、俄然工業都市に轉換したるに最近の統計に現れたる左表の數字によりて知るべく、工業額は實に總生産額の七割一分を占む。工業の大宗は

生産物總額及び百分比 (昭和十一年)
農産物 1,180,000
畜産物 1,180,000
林産物 1,180,000
工業物 1,180,000
計 1,180,000

云ふまでもなく生絲にして、約八十八萬貫、價額四百萬圓に近く、これに次ぐを日本酒とし、約三十八萬石、約二十七萬圓。これに次ぐを農具・木製品・印刷製本・洋傘・コート・肌着等とし何れも十萬圓を突破し、その他ゴム靴・人毛製品・賣藥・清涼飲料・製糖・金屬製品・足袋等は何れも三萬圓以上とす。工場は前記紡績の二大工場を初め世五を算し、殊に酒造場・醬油醸造場・木工製作所・農具製作場・ゴム製作場・織工場・冷蔵工場・人毛工場等を主とし男女職工三千餘人を使備す。工業に次ぐ農産に就きては、市の外邊部は農村形態を存するを以て農家一八六戸あり、内養蠶を行ふもの一一〇〇戸を下らず。收購量約十二

フクチー フクチ

萬貫、價額約六十三萬圓なり。畜産は主として謂ゆる丹波牛にて市營の家畜市場の設けあり、取引頗る多し。養蠶はこれに次ぐもその數大ならず。林・蠶・水産は殆ど云ふに足らず。本市の地は、古くは和名抄の天田郡宗部郷・我我郷及び和久郷・拜師郷・土師郷の一部に互るもの如く、彼の和泉式部がその夫藤原保昌と共に丹波に下りし時の歌に「吹風山」とあるはフクチヤマと訓すといふ。さすれば當時附近の山にその名を存せしものなるべく、明智光秀の城名を福智山城と改めしもの古名に因みしものか。これを福知山に作りしは享保十三年以後の事といふ。福知山は寛文年間以後、朽木氏三萬二千石の城下町にして丹波の京と呼ばれ、維新後、明治四年には但馬の豊岡縣の治下に入りしが、同九年京都府の管下に移り、天田郡役所の置かるや、その所在地たり。明治二十二年町村制施行の際に福知山町と稱す。大正七年に隣接せる曾我井村を併せ、近くは昭和十一年十月佐部・鹿我・下豊宮の三村を合併し、翌十二年四月に市制を布く。市内には市役所を初め、歩兵第二十聯隊・福知山警察區司令部・大阪逓信局工務局出張所・公會堂・迎賓館・區裁判所・稅務署・警署、その他、市營の家畜市場・屠畜場等あり。金融機關としては兩丹銀行・百三十七銀行の支店等あり、また大小の會社・工場少からず。教育機關としては府

立中學及び高女・私立家政女學校・商業學校等あり、外に昭和御大典記念事業として設置せられたる約八千坪の福知山運動場ありて陸上の運動競技の設備整ふ。市内の名勝としては福知山城址・府社一宮神社をはじめ神社佛閣の名あるもの尠からず。市は由良川の微流の古生層の砂岩の階段段丘に激突する地に主要部を置くを以て、古來氾濫による慘禍を蒙ること多く、近くは明治二十九年・同四十年の大洪水の如きは浸水のために二百有餘の人命と數百戸の家屋を奪ひ去りしが如き慘狀を呈せしが、明治四十二年以後由良川護岸工事を起し、昭和七年に工事竣成し、高さ約一二米、延長約一二〇〇米の大堤防を以て市民の生命財産を保護する事となれり。若し夫れ社線北丹鐵道にして日本海岸の宮津港に連絡するに至らんか、北鮮・滿洲國にその距離近く市はなほ一層の發展を見るに至らん。〔福知山城〕山由良川左岸に屹立する朝暉山にあり。もと横山の臺上城といふ。由良川の斷崖を要害としたる堅城なり。天文年間寛木義村の城に居り、此の國の豪族波多野氏に仕ふ。天正七年明智光秀は織田信長の命を受けて丹波を征するや、これを陥れ、その將四天王但馬守を置き福智山城と改む。同十年光秀の亡ぶるや羽柴秀吉、養子秀勝をして之を守らしめ杉原家次これを輔佐す。文祿元年秀勝朝鮮にて死し、小野木重勝これに代る。重勝は

フクチー—フクナ

廣小路に隣接。無格社。祭神、宇氣母智神にして明智光秀を祀す。天正年間、當地方に陸奥横濱し掠奪を志して住民を苦めしを、光秀これを討伐し住民を安んぜしめしを以て、町民その仁徳に感じ光秀の死後私かに其の靈を祀りしが、朽木氏の時これを許可す。次で神靈會舉行を許されてより御靈祭起り、地方の名物となる。例祭日不詳。(常照寺)寺町あり。寶珠山。日蓮宗の山陰最初の道場として著る。曆應二年の創建といふ。もと荒河にありしを慶安三年現地に移す。境内の法華塔は明暦二年の建立と傳へらる。(久昌寺)寺町あり。補巖山と號す。曹洞宗。文祿元年の創建、開山は雲虎和尚。福知山城主朽木氏代々の靈位を安置す。近郡に二十六箇寺の末寺を有する名刹。(隱願寺)大字猪崎にあり。木塔山と號し臨濟宗南禪寺派。開山は三光國師。鬼ヶ城山と鳥ヶ岳の間の山嶽にあり境内の眺望佳し。(長安寺)姫栗山の山腹なる奥野邊にあり。醫王山と號し臨濟宗南禪寺派に屬す。開山は悅堂禪師にして開基は眼光惠通禪師なり。初代の福知山城主杉原家次深く開山に歸依し、よりに菩提寺となす。其墓いま存す。境内は開基にして櫻樹・杜鵑花の名所なり。(長田野)市の東南部より下六人部村・西中筋村(何鹿郡)に亘る東西約六軒、南北約四軒の鵜野にて平均高度七〇米、陸奥未だ進まざる地勢を呈し、陸奥省の所

フクナ

に、東城への交通は不便ならず。【フクナガ】福永村 廣島縣備後國神石郡の西北部。西は甲奴郡に界し、北は古川村・東は高光・草木二村に接す。面積一六・七六方軒。四周は隣村に接する山地に圍まれ村内は森林地帯にして平地乏し。中部及び西北部の山内四地に耕地を見る。米・麥の外一般に養蠶・牧畜業営まれ、牛・馬等の産多し。山内の僻地なれば道路に約四軒、交通至極不便なり。牧村・草木村・田頭村と組合村をなし役場を牧村に置く。【フクナリ】福生 鳥取縣西伯郡にありし村。昭和十三年末予市に編入す。【フクナリ】福成 鳥取縣日野郡にありし村。大正元年に石見村・福成村を廢しその地域を以て新に石見村を建つ。【福成】福成郡朝倉郡にありし村。明治四十二年に福成村・大庭村を廢し、その區域を以て大福村を置く。【フクノ】福野町 富山縣越中郡東礪波郡の西部。高岡市の西南方約一八軒を隔つ。出町・井波町及び西礪波郡福光町・津澤町の略中間に位し、礪波平野の中央部を占む。小矢部川の支流により灌溉便にして水田よく開く。主産物は綿織物にして年一七六萬圓の産額あり。また地方的交通商業の中心地にして省線中越線福野驛(明治三十年設置)あり、また社線加越鐵道の交錯點をなし、縣道は放射狀

フクナ

管にして第四師團の演習場となり、附近に廢舎を建設す。彼の福知山管頭に「福知山出て長田野こえて駒をはやめて龜山へ」とある長田野なり。龜山は明智光秀の居城にて明治の初め龜岡(いま南桑田郡)と改む。(福知山)郷土藝術として福知山踊は古くより行はれしものにて盆正月の別なく、屋の内を外を問はず、福知山管頭を唄ひ且つ踊る極めて民衆的な舞踊なり。炎暑七・八月の交、澄み渡る月影の下に三鼓・太鼓・胡弓・尺八等の合奏にて男女老若打交りて踊る様は頗る興趣に富む。音頭「福知山さん奏の御紋、いかなお大名も叶やせぬ。トッポッショ、コラッ、トコドッ、コイ、トッポッ、イッ」。【福知山線】省線東海鐵道線の一部。東海道本線の大阪驛に近き神崎驛より分岐して北に向ひ、寶塚・篠山を通り京都府に入り、省線山陰本線の福知山驛に至る一〇・八三軒と、外に神崎驛附近の深口驛より別に神崎を經由して、南方尼崎に至る四・六軒の路線を含む。大阪・神戸方面より山陰方面の城崎温泉・鳥取・出雲大社等に至る旅客のため直通列車をも運轉す。沿線の篠山驛にては社線篠山鐵道に、また三田驛にては社線神戸有馬電鐵に、寶塚驛にては社線阪神急行電鐵にそれぞれ接続す。神崎驛より一・一軒を去る龜岡驛の東六軒には其間公園あり、電車を通ず。なほ神崎より池田にかけて

フクナ

の一帶は清酒醸造地多し。また谷川驛より社線播磨丹波道によりて加古川方面に通ず。【フクト】福戸村 新潟縣越後國古志郡の西端。長岡市の西北方凡そ三軒を距て、西及び南は三島郡に界す。西を玉寺川に、東を上川に扼されたる平地にして流水の便よく、米の産多し。西部を南北に隔めて走る縣道これより分岐して長岡市に至る縣道あり、長岡驛へ約八軒、社線長岡鐵道野町驛へ二軒、この間に不定期バスの便あり。【フクトー】福洞金鑛 朝鮮成鏡南道長津郡中南面にある金銀山。長津驛下福驛の西約四軒に鑛山事務所あり。鑛區は標高一二〇〇米の黃草嶺の高原にありて、地質は花崗岩、鑛床はその裂罅を充塞せる合金石英脈とす。主要鑛脈は四條ありて何れも東西に走り、鑛石は乳白色石英にて黄鐵礦・磁鐵礦・方鉛礦・閃亜鉛礦等を隨伴す。本鑛山は昭和九年に事業を開始したるが成績良好にして同十年重要鑛山に列す。【フクトミ】福富 石川縣石川郡にありし村。昭和九年比叡島村と合して石川村を建つ。【福富】鳥取縣氣高郡にありし村。大正六年東郷村と合して更に東郷村を建つ。【福富村】福富 福知縣後國羽野郡の中部。吉井町の南に接す。南境には耳納山脈東

フクナ

部が東西に連り、村境を隔る僅か西方に鷹取山(八〇二米)聳ゆ。山脈の北麓は斷層を以て中部に移り、北半は平坦なる平地をなす。米・麥・蕎麥を産す。山麓を東西に道路走り、北部は吉井町に接して交通便なり。この地は和名抄、生葉部物部郷の内なるべく、大字屋部は東鑑・寛元二年の條に「筑後國御家人、吉井四郎長廣、與次郎十郎直澄、相論生葉庄得安名、屋敷田島事」とある直澄は此地に在名を稱せし武士なり。【福富村】佐賀縣肥前國杵島郡の東部。六角川吐口の右岸に位し對岸は小城郡なり。東は有明海西北岸に面す。地形低平にて海岸は遠淺なり。主産業は農にして米産多くまた麥・蕎麥を出す。西隣の白石町方面と北方の小城郡牛津町方面とを結ぶ縣道通過して兩者へバスを通ず。【フクナイ】福内面 朝鮮全羅南道寶城郡の北西部。南は郡邑寶城面との間に彌力面を隔て、西は和順郡梨陽面に、北西は同郡安東面に界す。小白山脈西南端の山地に屬し北境に天鳳山(六〇六米)、西境に平峰山(六三〇米)・桂栗山(五八〇米)、南境に天馬山(四七〇米)等あり。東境を鬱津江の支流寶城川北流し、西境山地より下る三小川これに注ぎ、これに沿ひて平地ありて喬よく拓く。米・麥・大豆・棉花・苧麻等の農産あり。また山陽・善濟廟嶺山ありて金・銀を出す。寶城・谷城をつなぐ三等道路は南北に通

フクナ

に附近町村へ分岐し交通便なり。此地は和名抄、福波郡高揚郡の内なるべく、中世以降は野尻氏に此地を稱せし。源平盛衰記に見ゆる野尻氏は此地に在名を稱せしものなり。(西源寺)大字福野にあり。其宗大谷派。本願寺九世實如の次男圓如の開創に係る。のち享祿・天正に互り屋次兵火に罹り、更に元和二年水腫に遭ひて堂宇倒壊せしを以て住持慶榮、一時飛騨高山に逃れしが、元禄二年に至り現地に移る。【フクハマ】福濱 岡山縣御津郡にありし村。昭和六年岡山市に編入す。【フクハラ】福原 茨城縣西茨城郡西内村の大字。省線水戸線の福原驛(明治二十三年設置)を置く。【福原村】埼玉縣武蔵國入間郡の東部。川越市の南隣にあり。全村平地にて畑地多く、農業行はれて麥・大豆・甘藷・茄子・米等を産し、養蠶も盛なり。また綿織物の製造行はる。縣道は川越市と南方の所澤町に通じ、何れもバスの便あり。天文十五年四月、兩上杉氏の兵六萬を以て北條綱成を川越城に圍み、上杉(山内)憲政は本村大字沙久保に陣す。時に北條氏康小田原城にあり、急を聞いて手兵八千を率ゐて來り、夜その不意を襲うて憲政の營を破る。【福原】↓神戸市 【福原村】徳島縣阿波國勝浦郡の西南端。

フクナ

小松島港を臨むこと西南約二〇軒。東南部は横濱町の西南に接し、西及び南は那賀郡に界し、西北部は名西郡に隣る。面積七八・五二方軒を有する郡中第一の山村なり。村内高峻なる地形を呈し四國山脈の雪早山(一四九六米)・高丸山(一四三九米)等西境に屹立し到る處山岳重疊す。西南境に源流する勝浦川は中央南偏を東北流し、東部にて流路は二條に分れて共に高津村に入る。沿岸は低地を見ざるも耕地発達し米・蕎麥を産す。勝浦川沿岸の大字旭より小松島町と徳島市までバスの便あり。此地は勝浦盆地といはれ中生代に屬する重要な化石産出し、櫻原谷には白垩系地層に貝殻化石あり、土俗は千鳥貝と稱す。この地太古は水底たりといふ。【福原】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年に外三村と共に廢され小原村を置く。【フクベ】福ヶ岳 一にヒョウガ岳とも讀む。岐阜市の北東方約二七軒に當る山。岐阜縣郡上郡葛田村の西端にして、南腹は武儀郡下牧村に延ぶ。標高一一六三米。山體は秩父古生層より成る如し。山は嶮峻にして里人雨乞ひの際に登ると雲ふ。東麓を長良川と郡上街道は南方に並走し、西麓は南東流する長良川支流の板取川に限らる。【フクベ】福部村 鳥取縣因幡國岩美郡の西北海岸。鳥取市の東に隣接し、日

フクナ

部山地が東西に連り、村境を隔る僅か西方に鷹取山(八〇二米)聳ゆ。山脈の北麓は斷層を以て中部に移り、北半は平坦なる平地をなす。米・麥・蕎麥を産す。山麓を東西に道路走り、北部は吉井町に接して交通便なり。この地は和名抄、生葉部物部郷の内なるべく、大字屋部は東鑑・寛元二年の條に「筑後國御家人、吉井四郎長廣、與次郎十郎直澄、相論生葉庄得安名、屋敷田島事」とある直澄は此地に在名を稱せし武士なり。【福富村】佐賀縣肥前國杵島郡の東部。六角川吐口の右岸に位し對岸は小城郡なり。東は有明海西北岸に面す。地形低平にて海岸は遠淺なり。主産業は農にして米産多くまた麥・蕎麥を出す。西隣の白石町方面と北方の小城郡牛津町方面とを結ぶ縣道通過して兩者へバスを通ず。【フクナイ】福内面 朝鮮全羅南道寶城郡の北西部。南は郡邑寶城面との間に彌力面を隔て、西は和順郡梨陽面に、北西は同郡安東面に界す。小白山脈西南端の山地に屬し北境に天鳳山(六〇六米)、西境に平峰山(六三〇米)・桂栗山(五八〇米)、南境に天馬山(四七〇米)等あり。東境を鬱津江の支流寶城川北流し、西境山地より下る三小川これに注ぎ、これに沿ひて平地ありて喬よく拓く。米・麥・大豆・棉花・苧麻等の農産あり。また山陽・善濟廟嶺山ありて金・銀を出す。寶城・谷城をつなぐ三等道路は南北に通

フクナ

本海に面す。東は小田村、南は宇倍野村に界す。面積三四・八方軒。村内は概ね割削性の山地にして海岸に向ひて傾く。海岸には有名な濱坂砂丘を存す。東部山地と西部山地とに介在する細長中央低地には小川北流し灌溉の便あり。また西北山麓の湯山池畔に耕地多し。米・蕎麥の産多く、製瓦・木材・組・銅等の産あり。鳥取市に隣接し、國道にバス通じ、また省線山陰本線の豊見驛(明治四十三年設置)を置く。もと服部・豊見の二村たりしが、昭和三年合併して福部村とす。【福クマ】服間村 福井縣越前國今立郡のほぼ中央。北は河和田村、東は上池田村、南は同本村、西は南中山村に相接す。全村殆ど山岳地帯にして南に權現山あり、北に西高尾山(二七七米)あり。また本村と河和田・南北中山の四箇村の分岐點には二九米の八幡山聳ゆ。大字名にも既に室谷・長谷・北坂下・大谷・赤谷・清根・西河内・炭焼等の存するを見て地勢を窺ふことを得べし。されど服間川の流域はやや開け農業大に発達せり。總じて本村は前述の如く山岳多きがため木炭・木材・漆・蕎麥の産極めて多く、穀類・製絲の如き工業も郡下の三、四位を下らず。牧畜も昔日の如き賑は無くもまた山村より木村に入り服間川に沿うて東走し清水谷峠を経て上池田村に入り、バスは南中山村の大字野岡より發して村内を

フクナ

部山地が東西に連り、村境を隔る僅か西方に鷹取山(八〇二米)聳ゆ。山脈の北麓は斷層を以て中部に移り、北半は平坦なる平地をなす。米・麥・蕎麥を産す。山麓を東西に道路走り、北部は吉井町に接して交通便なり。この地は和名抄、生葉部物部郷の内なるべく、大字屋部は東鑑・寛元二年の條に「筑後國御家人、吉井四郎長廣、與次郎十郎直澄、相論生葉庄得安名、屋敷田島事」とある直澄は此地に在名を稱せし武士なり。【福富村】佐賀縣肥前國杵島郡の東部。六角川吐口の右岸に位し對岸は小城郡なり。東は有明海西北岸に面す。地形低平にて海岸は遠淺なり。主産業は農にして米産多くまた麥・蕎麥を出す。西隣の白石町方面と北方の小城郡牛津町方面とを結ぶ縣道通過して兩者へバスを通ず。【フクナイ】福内面 朝鮮全羅南道寶城郡の北西部。南は郡邑寶城面との間に彌力面を隔て、西は和順郡梨陽面に、北西は同郡安東面に界す。小白山脈西南端の山地に屬し北境に天鳳山(六〇六米)、西境に平峰山(六三〇米)・桂栗山(五八〇米)、南境に天馬山(四七〇米)等あり。東境を鬱津江の支流寶城川北流し、西境山地より下る三小川これに注ぎ、これに沿ひて平地ありて喬よく拓く。米・麥・大豆・棉花・苧麻等の農産あり。また山陽・善濟廟嶺山ありて金・銀を出す。寶城・谷城をつなぐ三等道路は南北に通

フクナ

本海に面す。東は小田村、南は宇倍野村に界す。面積三四・八方軒。村内は概ね割削性の山地にして海岸に向ひて傾く。海岸には有名な濱坂砂丘を存す。東部山地と西部山地とに介在する細長中央低地には小川北流し灌溉の便あり。また西北山麓の湯山池畔に耕地多し。米・蕎麥の産多く、製瓦・木材・組・銅等の産あり。鳥取市に隣接し、國道にバス通じ、また省線山陰本線の豊見驛(明治四十三年設置)を置く。もと服部・豊見の二村たりしが、昭和三年合併して福部村とす。【福クマ】服間村 福井縣越前國今立郡のほぼ中央。北は河和田村、東は上池田村、南は同本村、西は南中山村に相接す。全村殆ど山岳地帯にして南に權現山あり、北に西高尾山(二七七米)あり。また本村と河和田・南北中山の四箇村の分岐點には二九米の八幡山聳ゆ。大字名にも既に室谷・長谷・北坂下・大谷・赤谷・清根・西河内・炭焼等の存するを見て地勢を窺ふことを得べし。されど服間川の流域はやや開け農業大に発達せり。總じて本村は前述の如く山岳多きがため木炭・木材・漆・蕎麥の産極めて多く、穀類・製絲の如き工業も郡下の三、四位を下らず。牧畜も昔日の如き賑は無くもまた山村より木村に入り服間川に沿うて東走し清水谷峠を経て上池田村に入り、バスは南中山村の大字野岡より發して村内を

フクナ

部山地が東西に連り、村境を隔る僅か西方に鷹取山(八〇二米)聳ゆ。山脈の北麓は斷層を以て中部に移り、北半は平坦なる平地をなす。米・麥・蕎麥を産す。山麓を東西に道路走り、北部は吉井町に接して交通便なり。この地は和名抄、生葉部物部郷の内なるべく、大字屋部は東鑑・寛元二年の條に「筑後國御家人、吉井四郎長廣、與次郎十郎直澄、相論生葉庄得安名、屋敷田島事」とある直澄は此地に在名を稱せし武士なり。【福富村】佐賀縣肥前國杵島郡の東部。六角川吐口の右岸に位し對岸は小城郡なり。東は有明海西北岸に面す。地形低平にて海岸は遠淺なり。主産業は農にして米産多くまた麥・蕎麥を出す。西隣の白石町方面と北方の小城郡牛津町方面とを結ぶ縣道通過して兩者へバスを通ず。【フクナイ】福内面 朝鮮全羅南道寶城郡の北西部。南は郡邑寶城面との間に彌力面を隔て、西は和順郡梨陽面に、北西は同郡安東面に界す。小白山脈西南端の山地に屬し北境に天鳳山(六〇六米)、西境に平峰山(六三〇米)・桂栗山(五八〇米)、南境に天馬山(四七〇米)等あり。東境を鬱津江の支流寶城川北流し、西境山地より下る三小川これに注ぎ、これに沿ひて平地ありて喬よく拓く。米・麥・大豆・棉花・苧麻等の農産あり。また山陽・善濟廟嶺山ありて金・銀を出す。寶城・谷城をつなぐ三等道路は南北に通

フクナ

部山地が東西に連り、村境を隔る僅か西方に鷹取山(八〇二米)聳ゆ。山脈の北麓は斷層を以て中部に移り、北半は平坦なる平地をなす。米・麥・蕎麥を産す。山麓を東西に道路走り、北部は吉井町に接して交通便なり。この地は和名抄、生葉部物部郷の内なるべく、大字屋部は東鑑・寛元二年の條に「筑後國御家人、吉井四郎長廣、與次郎十郎直澄、相論生葉庄得安名、屋敷田島事」とある直澄は此地に在名を稱せし武士なり。【福富村】佐賀縣肥前國杵島郡の東部。六角川吐口の右岸に位し對岸は小城郡なり。東は有明海西北岸に面す。地形低平にて海岸は遠淺なり。主産業は農にして米産多くまた麥・蕎麥を出す。西隣の白石町方面と北方の小城郡牛津町方面とを結ぶ縣道通過して兩者へバスを通ず。【フクナイ】福内面 朝鮮全羅南道寶城郡の北西部。南は郡邑寶城面との間に彌力面を隔て、西は和順郡梨陽面に、北西は同郡安東面に界す。小白山脈西南端の山地に屬し北境に天鳳山(六〇六米)、西境に平峰山(六三〇米)・桂栗山(五八〇米)、南境に天馬山(四七〇米)等あり。東境を鬱津江の支流寶城川北流し、西境山地より下る三小川これに注ぎ、これに沿ひて平地ありて喬よく拓く。米・麥・大豆・棉花・苧麻等の農産あり。また山陽・善濟廟嶺山ありて金・銀を出す。寶城・谷城をつなぐ三等道路は南北に通

フクナ

部山地が東西に連り、村境を隔る僅か西方に鷹取山(八〇二米)聳ゆ。山脈の北麓は斷層を以て中部に移り、北半は平坦なる平地をなす。米・麥・蕎麥を産す。山麓を東西に道路走り、北部は吉井町に接して交通便なり。この地は和名抄、生葉部物部郷の内なるべく、大字屋部は東鑑・寛元二年の條に「筑後國御家人、吉井四郎長廣、與次郎十郎直澄、相論生葉庄得安名、屋敷田島事」とある直澄は此地に在名を稱せし武士なり。【福富村】佐賀縣肥前國杵島郡の東部。六角川吐口の右岸に位し對岸は小城郡なり。東は有明海西北岸に面す。地形低平にて海岸は遠淺なり。主産業は農にして米産多くまた麥・蕎麥を出す。西隣の白石町方面と北方の小城郡牛津町方面とを結ぶ縣道通過して兩者へバスを通ず。【フクナイ】福内面 朝鮮全羅南道寶城郡の北西部。南は郡邑寶城面との間に彌力面を隔て、西は和順郡梨陽面に、北西は同郡安東面に界す。小白山脈西南端の山地に屬し北境に天鳳山(六〇六米)、西境に平峰山(六三〇米)・桂栗山(五八〇米)、南境に天馬山(四七〇米)等あり。東境を鬱津江の支流寶城川北流し、西境山地より下る三小川これに注ぎ、これに沿ひて平地ありて喬よく拓く。米・麥・大豆・棉花・苧麻等の農産あり。また山陽・善濟廟嶺山ありて金・銀を出す。寶城・谷城をつなぐ三等道路は南北に通

フクナ

フクナ

フクナ

フクナ

フクナ

フクナ

フクナ

フクヤマ フクモ

東西に走り西河内區に至る。古くは和名抄部郡の地なり。惟ふに本村は古來織物・製絲の郷として有名なるを以て服間とは服部の轉字にして、大字殿は地方人の語れる前田利家の居城の存せしより生ぜしにあらざりして、殿部より生ぜしものか。今に至るも殿部たりとは云へず。二重の産出あり。尙考ふべし。名勝舊蹟としては、前記の高尾山は昔の昔玉山如來寺の跡にして頂上は平坦なり。秋は耳狩・蟲狩の遊覧客も多し。また室谷にある古田塚は古田大納言信明が親河天皇の勅諭を蒙り配流せられし所。のち勅諭を得しも歸京せずして親賢聖人の弟子となる。殿には玉の木城址あり。天正年中豊臣秀吉が北庄の柴田勝家を攻むるや、前田又左衛門利家に命じて此處に築城せし所なり。(八幡神社) 大字朽飯にあり。郷社。祭神、天高橋比賣命・譽田別命・外八柱。本社は殿部谷の地にして、架橋の神・應神天皇・殿部姓祖神三柱の神を祀りて國內神明に正五位八架神とあり。尤も天皇の御代に横之連日命十二世の神孫藤原宿禰の後服部連、殿部司の任を蒙り當地に下向して郷民殿部等を總領せしより地名を殿部郷と改め、其後、親天皇の御代百濟國務理使主の藤原久太子の彌和といふ人來りて豐饒を産業とし今に絶えず。是が本誌記に出でしところにて本社に創なり。文治三年源範頼の地に來り本社を尊信し八架神を八幡神

四九二

社と改め子孫ここに遷れり。八月十三日十五日を秋季例祭とす。十三日午後五時に白衣に袴・赤帯の若者たち社殿を出發して獅子頭の前を始め、のち庄家區に一泊し翌日ここを發してまた各區を廻り、十五日は本社境内を限りて獅子頭を行ひ午後五時に式を終ふ。之を朽飯の獅子頭と稱し古來有名なり。(上阪忠七郎) 朽飯の人なり。幼より水戸に赴き漆業に従事し新業を大成せしめ、また公益を曾進し慈善濟衆を業となす。水藩の砂山外史源雅・郡田東湖等と交遊せり。

フクミツ 福光

【福光町】 富山縣越中國西礪波郡の東南部。小矢部川に沿ひ、礪波平野の南部を占む。城崎町(東礪波郡)の西北方約五軒にあり。面積小なるも人口多く本郡南部の主邑たり。市街地の外は水田にして米を産するも本町の生命は諸工業にあり。絹織物を初め生絲・織物の産共に多く、玩具・運動具等の木工業盛にして京濱・阪神等へ移出する主要なる特産品なり。省線中越線通過し隣村吉江村に福光驛あり、また縣道の一集結點をなし交通便なり。傳ふるるところに據ればこの地は遠く延喜の頃福徳と稱せりといふ。その名の起源は此地より清水噴出したため噴瀆の意を取りしものといふ。慶安四年、阿曾三右衛門なる者が官に請ひ福光領内の荒蕪の地六千餘歩を受けて開拓し勢に一部落を作れり、これ今の新町とす。(宇佐八幡宮) 大字福光に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・比賣命・息長帯日賣命。石黒郷の地社として崇信せられ、近世は前田氏の祈願所として尊崇せらる。例祭、九月十五日。

フクモト 福本村

【福光村】 島根縣石見國瀨摩郡の西南部。大濱村を挟みて温泉津町の南に位し西北

フクモト 福本村

は日本海に面す。西南は福浦村、南は渡橋村に接す。面積九・九九方軒。北部・南部は山地にして何れも中央に傾く。中部は一小川西流し流域に海岸より隣村に連る東南に細長き平地展く。河岸に耕作行はれ地は山林地なり。海岸線は短小なれど雙入をなして好適なる漁業根據地なり。鯛・鱈・鯖等の漁獲あり。米・醬油を主産す。特産の福光石は石燈籠に用ひらる。省線山陰本線石見福光驛(昭和三年設置)を設く。福光温泉は皮膚病に卓效ありと稱せらる。此地は和名抄、瀨摩郡湯泉郷の内。中世は福光莊といふ。

フクヤマ 福山

【福山町】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の南部海岸。福山灣に面し、南方の津輕海峡を隔てて陸奥の津輕半島と相對す。東は大澤村、西は小島村にそれぞれ隣接す。面積一七・九四方軒。後背地は山脈に圍まれ、大森山・御堂山等の高峰屹立す。地勢海岸に向ひて低下し海岸に産落發達す。福山の市街は中央海岸に海岸線に沿うて發達し地方道これを東西に貫通す。今は鱈・鮭・昆布等の漁獲に依りて支へらる漁業集落地に過ぎざるも、往昔は本道中に最も早く内地人の移住せし所なり。舊名の松前は原名マトマイにてアイヌ語マトオマイ、即ち婦人居る處の意なりと云ふ。下國安軍氏の居館以率久しく蝦夷全島の首都たりし處。飄崎慶廣、慶長五年に氏を改めて松前氏と稱せしより廣く松前と云ふことになれり。福山は和名にして城の後山の名より出で、慶長十一年新館成りて福山館と稱せりと云ふ。近世に至り人煙集積し松前三千軒の稱あり。近江・加賀・能登等の商賈移住するありて、北海物産の集散地として出船入

のち幾多の盛衰ありて今日に至る。寺寶中、十一面觀音立像(木造)一軀・兩界曼荼羅圖二幅・不動明王像一軀・傳持時筆十二天像十二幅は國寶なり。

フクヤ 福屋

愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に他の二箇村と共に廢され南陽村を置く。

フクヤマ 福山

【福山町】 北海道渡島國渡島支庁松前郡の南部海岸。福山灣に面し、南方の津輕海峡を隔てて陸奥の津輕半島と相對す。東は大澤村、西は小島村にそれぞれ隣接す。面積一七・九四方軒。後背地は山脈に圍まれ、大森山・御堂山等の高峰屹立す。地勢海岸に向ひて低下し海岸に産落發達す。福山の市街は中央海岸に海岸線に沿うて發達し地方道これを東西に貫通す。今は鱈・鮭・昆布等の漁獲に依りて支へらる漁業集落地に過ぎざるも、往昔は本道中に最も早く内地人の移住せし所なり。舊名の松前は原名マトマイにてアイヌ語マトオマイ、即ち婦人居る處の意なりと云ふ。下國安軍氏の居館以率久しく蝦夷全島の首都たりし處。飄崎慶廣、慶長五年に氏を改めて松前氏と稱せしより廣く松前と云ふことになれり。福山は和名にして城の後山の名より出で、慶長十一年新館成りて福山館と稱せりと云ふ。近世に至り人煙集積し松前三千軒の稱あり。近江・加賀・能登等の商賈移住するありて、北海物産の集散地として出船入

フクヤ フクヤ

船編轉するの盛衰を呈し、元禄年間に住民約五千七百を算し、慶應三年には稍衰微し居りしが、なほ北海道都邑の首位を占めたりと稱せらる。探るべき史蹟名勝多く、北海道の鎌倉と呼ぶも過言にあらざると云ふ。主なる産物は島鮫と鱈なり。船入調は昭和六年九月起工、同八年九月竣工、工費約二十萬圓、東南北の三堤を備へ、利用面積九八アールとす。(福山城址) 松前町にあり。東は断崖をなし、その下に川原澤を控へ、西は海邊に接し、南は傾斜をなし一條の街路を隔てて海に面す。大手門・三層樓の遺構を存し、外濠の石臺等殘存す。城は慶長五年松前慶廣これを創建し、同十一年竣工。當時これを福山陣屋と呼べり。寛永十四年罹災し、同十六年慶廣の孫公廣重修す。東西九十三間、南北百二十六間、南東と西北に三門を開き、正南を以て進手門となし、西北に繞る濠は長さ六十間、東に繞る濠は長さ二十間。文化四年、藩主松前章廣、陸中の粟川に封を徙され、松前奉行代りて居りしが、文政四年に松前氏また舊領に復す。嘉永二年松前慶廣は幕府の命を奉じ更に新城をここに築造し、安政元年竣工す。之は兵學者市川一學を聘して設計せしめし處なりと云ふ。明治元年十一月幕府の脱走兵來りて攻むるや、藩兵自ら外郭を燒きて退きしが、翌年事治りて還り居す。同四年七月藩廢して松前修廣は江戸に上り、同八年開拓使これを

置ちてただ樓と門を遺す。城址にいま縣社松前神社・福山公園・松城小學校あり。この城は我國の城のうち最北に位し、最後に築城されしものなり。イ、大手門。松城小學校の裏門として使用せらるるも舊福山城本丸の表門なり。嘉永年間の造營にして東南に面し、兩個に築地塀附屬す。門扉はもと銅板を以て包覆せられしが、維新後に剝取られて今は其儘なり。松城小學校校舎の邊が舊表御殿址にて、その玄關入口に嵌められし鶴龜丸彫の透彫刻物と同内部の樹枝の透彫藝が共に桃山時代の遺作に屬す。後者は五代慶廣が文祿二年に肥前名護屋城に秀吉に謁して蝦夷朱印を受けし際賜はりしものと傳ふ。ロ、三層樓。大手門の東北に位し、築地塀を以て相連る。嘉永年間の築造にて高さ約一六米にして、内部は明治二十年頃に改修を経たるも、外觀等は略ぼ舊態を保つ。城壁に遺る彈痕は明治二年四月賊軍この城によりて固守せし際、官軍の軍艦より放ちし砲彈の命中せしものなり。最上層に登れば南方の津輕海峡を隔てて遙に津輕の諸山を望み、殊に津輕富士(岩木山)の遠望は頗る佳なり。(蝦夷塚) 大字川原町宇小館にあり。永正十二年蝦夷、大館を襲ひたる折、武田光廣、夷酋直野前時兄弟を偽り誘ひてこれを斬り、屍を埋めし處なりと傳ふ。(大館址(徳山館址)) 徳山大神宮の西方一帯の高丘なり。始め蝦夷管領下國氏の一麓下國

四九三

定季の居館にて、長祿元年蝦夷亂に一時陥落せし事あり、東・西・北は急崖をなして要害なり。飄崎(武田)光廣は永正十一年上國より移住し、以下四代ここに居りしも、五代慶廣の時福山城をこの南に築きて之に移る。(おほみづなごどり審藏地) 指定天然記念物。渡島半島の西方約七一軒、日本海の大島なり。「おほみづなごどり」は本邦沿海の島嶼に於てのみ審藏するものにして審藏地は少し。本島は北海方面に於けるその代表的なるものなり。(折戸濱古戦場) 地社堂折戸にあり。建石野の西瀨海濱に下る坂路の所なり。明治二年幕府の脱走軍が疊を築きて官軍を助しが、同年四月十七日、官軍海陸並び進みて攻撃せしため遂に敗れて退きたり。(磐屋址) 大字及部町の及部川西岸の丘陵上にあり。松前藩主出陣の際休息せし場所と云ひ、明治元年藩兵ここに賊軍を阻みて戦ひし所なり。(勝軍山) 本町の西部にあり。一に地蔵山といふ。天文七年、松前義廣が山嶺に勝軍地蔵大菩薩の堂を建てしよりこれ等の名あり。奇巖怪石到處に屹立す。頂上より北約二〇〇米、松前家寄進の不動明王寺三尊を奉安し、麓より參拜する者の爲に道を通る。また山中に四國八十八ヶ所に擬して八十八尊その他の石像を安置す。(建石野) 大字生野町より西方の折戸に至る丘陵をいふ。巨巖突兀として聳え三十三體の觀音像を擁す。ここに首斬澤・



臺場址・露信所・香所址等の遺蹟存す。〔香所址〕及郡中道と生符町建石野無...

りしと、社傳に見ゆ。慶長元年に現地に奉遷せしが、この時より松前藩主の崇敬...

念寺〕西館町にあり。武宗大谷派。西立山。天文二年に崎若狭守季廣の創建...

六世の祖業率先して各地に七箇寺を創始すといふ。〔福山線〕函館線の一。北海道渡島...

連絡する福山入江の如きは其の一なり。此の入江は溝渠として内海と通じ船舶の...

ル・ゴム製品等を主とし菓子類・惣菜・れに次ぐ。以上何れも價額十萬圓以上とす...

野上村・三吉村を合併、大正五年市制を布き福山市と稱す。昭和八年沼部郡草戸...

合併して誠之館と稱す。明治三年分校を諸所に設け、いふ縣立誠之館中學校名は...

また西南の役の古戦場たり。昭和四年町制を布く。福山はもとと題といひ、宇仁田尾には仁田尾城址ありて題氏世々の居所とす。題氏は源三位頼政の俊胤なり。其家譜を按ずるに、頼政の孫肥前守宗綱流罪に處せられて題村を賜はり、世々此地を領し家業榮して仁田尾に居す。十五代の孫兵部少輔久元盲目にて、其子次郎四郎頼貞幼弱なりしに乘じ、永祿四年五月許付河内守兼頼これを襲ひ攻略す。然るに同年六月島津貴久大兵を以てこれを圍み、終に兼頼をして走らしむ。〔宮浦神社〕大字福山に鎮座。縣社。祭神、神倭伊波禮尼古命。創建年次詳ならずも式内小社に列し、神樂三座の一たり。例祭三月十日。

【福良町】兵部東路國三原郡の西南部。鳴門海峡の南口東岸にあり。東部には淡路島の西南部に東北へ深く侵入する灣を抱き廣に良地をなし、北岸に市街地發達す。水深七尋、泥底にして灣の西北側に二湖あり。一を鰐島と言ひ圓形にて密樹に掩はる。一は洲崎と言ひ砂洲なり。北部には東北より西南の方向に丘陵連りて灣を掩ひ尖端の鳴門崎海中に斗出すること一・五軒餘。阿波の孫島と相對して海峡をなす。此間を鳴門と稱し暗礁多く潮流の奔流する奇觀を以て名高し。米・果實・樺葉・蔬菜・花卉・食用農産・觀賞植物・繭・小麦・大豆・雜草等を産し、水産製造物も多く陶磁器(淡路産)はその産額最たるものにして、外に木製品・肥料・履物・紙等あり。人口密度は八一三人を算し福島村の八四四人に次ぎ郡中第二位なり。四國街道及び社線淡路鐵道の終點に當りまた各方面へ汽船の便あり。この地は延喜式に福良郡馬五疋とある地にして、いま馬宿と稱する地は縣家の故址なるべし。中世は福良莊と云ひ、貞應二年の注文に安野實持院領田二十町、島若干、浦一所と見え、正平八年の文書には長講堂領とす。町の西濱なる新羅浦は古へ歸

館あり、政宗の本陣のありし所、城代として飯坂右近大夫・大嶺式部少輔あり。〔本稻寺石塔婆〕大字福原の臨濟宗妙心寺派本稻寺の境内に古き石塔婆二あり。一は本堂の南側、墓地の入口にあり、牛肉彫の結跏趺坐の佛像にて、俗にかさかさ佛、或は一町佛ともいふ。他は本堂の前にあり。阿彌陀三尊率迎佛を牛肉彫にせしもの、共に鎌倉末期の作。

【福吉村】福吉村 福岡縣筑前國糸島郡の西南端。香嶺山境西端の北斜面に位置し、唐津灣の東岸を占めて西と北は海を繞らし、南は佐賀縣東松浦郡に界す。南部一帯の山地は女嶽(七四九米)・浮岳山(八〇五米)・十坊山(五三五米)等を以て佐賀縣界を劃し西方へ高さを減じてその山麓海に迫る。北部海岸所々に低地開け海岸線は單調なるも東北部に配崎、中央に磯崎、西北部に串崎の突出あり。なほ磯崎附近の西方に草島を始め數多の岩嶼散在す。農産・水産を主とし、海岸に沿ひて鐵道走り、また省線筑前線も通過して大入(大正十四年設置)・鹿家・福吉(以上大正十二年設置)の三驛あり。自動車の便もよし。古くは和名抄、怡土郡海部郡の内か。また延喜長部省式に見ゆる佐野郡は大字鹿家の地にや。〔浮城神社〕大字吉井に鎮座。祭神、伊弉那岐命(上宮)・伊弉諾命・菟理媛命(中宮)。舊稱浮城白山妙理大權現。社傳によれば神功皇后、浮岳山上に征伐の事を祈り、

化の新羅人を脱きし地なるべく、鶴島は古嶽の跡にて、元暦元年源氏の要害を掃へし處と傳ふ。また幕末の勤王福浦元吉(曾從五位)はこの地の人にして大和義舉に加はりて戦死す。

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクラ

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクヨネ

御旗陣の後その報賽として營み給へる神社なりと云ふ。藥師如来像・地藏菩薩立像は國寶なり。

【福米】鳥取縣西伯郡にありし村。昭和十三年米子市に編入す。〔福米〕鳥取縣東伯郡にありし村。大正六年に西志村・東志村と共に廢され、その區域を以つて高城村を建つ。【吹浦村】山形縣羽後國飽海郡の西北端。西は日本海に面し、北と東は秋田縣に隣接す。面積六九・七九方軒。東部に島海山聳え、東に新山(二二三〇米)、西に雀ヶ嶽(一六三五米)の新舊二箇のコーニアより成り、共に複式火山にして、美しき山容は秀峰富士に似て、島海富士の名あり。西方は日本海岸に傾斜し山脚海岸に迫る。村民の生業は漁業・農業相半し、米・繭・鮮魚を産す。吹浦は日本海方面に於ける主なる魚港の一をなす。道路は海岸を南北に通じ、北方大崎崎の驛所を経て秋田縣に入る。省線羽越本線吹浦驛(大正九年設置)あり。この地は酒井家藩政の時まで唐船香屋を設けし所。村内に國幣中社大物忌神社あり。湯ノ田嶽泉は吹浦驛の西北一軒半、炭酸泉にして火熱常用、胃腸病・婦人病・リウマチス・痔疾などに効果ありとす。また附近は海水浴場として知らる。〔大物忌神社〕大字吹浦に鎮座。國幣中社。祭神、大物忌神。社傳に景行天皇の御宇富國に

かならず。

【袋井町】靜岡縣遠江國磐田郡の南部。北に今井村・久野村、南西に田原村あり。太田川の右岸沖積平野の中央に位置す。結瓜・西瓜・茶・蘭草等を産し、またこの等物産の集散をなす。なほ小夜中山子前館の名物あり。小夜中山。國道東海道に沿ひ、社線靜岡電鐵秋葉線及び社線中遠鐵道線によりて東南の御前崎附近、北方の遠州森町に通ず。明治四十一年に山名町を袋井町と改稱し昭和三年更に笠西村を編入す。此地は東海道五十三次の一宿驛として榮え、古くは和名抄、山名郡信濃郷の地にや。掛川志稿によれば袋井驛は元和二年新たに建てられし驛家なりといふ。大字高尾宇大門に古墳あり、圓形墳にして明治十五年に發掘し石室の外より古鏡・馬具・玉類・刀身・須恵器などの遺物を得たり。珠に香葉・鏡板等の馬具に特色を認む。明治元年東京行幸、同二年東京御再幸、同十一年北陸東海御巡幸の際この地に御小休遊ばさる。丹波興作侍夜の小室節・駒樂見附の泊と聞けば、誰も惜しまぬ鶴の財布の袋井や、のり掛川を飛びおきて機杼突頭やサア日坂の葉餅。藪栗毛・三中「程なく袋井の宿に入るに袋井より見附へ一里半。雨かはの茶屋にぎはしく、往來の旅人、おの／＼酒のみ食事などしてあたりけるを、彌次郎兵衛見て、ここに來てゆききの腹やふくれけん、されば布

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクロ

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクヤ

【福良村】福岡縣岩代國安積郡の西部。北は猪苗代湖に臨み南は岩瀬郡に接す。土地南北に長く、東南端に高井原山(九八一米)ありて北方に傾斜し、菅川は南境に發源して北流し猪苗代湖に注ぐ。湖畔は福良嶺と稱し風景佳なり。米・繭・木炭を産す。茨城街道は北部を略ぼ東西に通じ、西方の赤津村、東部の省線磐城西線上戸驛へはバスの便あり。此地は和名抄、會津郡安積郡の内にて藩政の頃代官所を設けし所。〔陸津島神社〕大字福良に鎮座。祭神、市杵島比賣命。豊前守佐宮より分靈すと雖も創建年代詳ならず。正徳元年神祇官より式内社たる

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクロ

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクロ

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクロ

【福留】福岡縣(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡福留郷あり布久呂と調す。その地は今の坂井郡内ちんも詳

フクワ—フケン

また袋田灘あり。濃川の岩壁に懸り高さ一二一米、幅七三米にて、四段なすを以て四段ノ瀧ともいふ。紅葉の名所として知られ、その上流に生瀧あり。

フクワタ 福渡戸 ↓鹽原町(栃木縣)

フクワタリ 福渡町 岡山縣美作國

久米郡の西南隅にて旭川の中流左岸に沿ひ、西は川を以て御津郡に對し南は赤磐郡に接す。東北方約五軒に弓削町あり。面積一・四六方軒。西の旭川沿岸を除く三方は山地闊みて山林に蔽はるるも旭川の一支流中央を西流して本流に注ぐ。二川の沿岸は平坦肥沃にて農耕行はる。米・麥・粟・蕎麥及び酒類・木炭を産し豊饒また盛んなり。省線中國鐵道は河津に沿ひて町内を西南に貫通し福渡驛を置く。縣道二線は本支流沿岸にほぼ並行し、勝山にバス通す。大正十一年町制を布く。古くは和名抄、久米郡引削郷に屬せるものか。(志呂神社) 大字下神目に鎮座。神社。祭神、事代主神。和暦六年に中山神社と同時に鎮座すといふ。社領七十石を有せしが宇喜多秀家この地を領するに到りて廢絶す。例祭、十月二十日。

フクワラ 福原村 山形縣羽前

國北村山郡の北端。尾花澤町と大石田町の北に接し、北は最上郡に接す。面積七四・四三方軒。東北境には無ノ尾山(八二八米)、北境に戸山(五八二米)を築き、東境と北境には山地連りて西南方に傾斜

し、野尻川は東北部に發源し、西南に流

れ、龜井田村に入りて最上川に合す。最上川は西部を屈曲しつつ西北に流る。全村概ね山地をなすも西南部は平坦にして耕地拓く。米・蕎麥・蕎麥を産す。羽州街道は西部を西北方に通す。省線奥羽本線蘆澤驛(大正五年設置)あり。富村と最上郡舟形村との境界邊は第三紀新層に屬し、主として砂岩・頁岩より成り偶々凝灰質砂岩を含み亞炭山多し。中にも木友嶺山は重要嶺山にて、平澤嶺山は準重要嶺山たり、その外に木友・蘆澤などの諸亞炭山あり、富村の地域はその諸嶺の一部分をなす。舟形村。富村は近年に開墾されし村落にして、村内に大なる化石あり。明治十四年、明治天皇は山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休おせらるる。

フケ 布計嶺山 ↓山形村(鹿角縣)

富家村 高知縣土佐國香美郡の

南部。野市町の東北にて赤岡町の北にあり。西に金剛山を始め高約三〇〇米餘の山脈南北に連りて東に急斜し中部に至る。東は香長平野の一部を占め耕地發達して農業を營む。米・麥・蕎麥等の産、また園藝も相當盛なり。山麓下を走る縣道は野市町と東北方の西川村を繋ぎ、また香宗村に至る縣道は途中より南走し、何れもバスの便あり。また社線高知鐵道野市驛(は約四軒にて通す。藩政時代は野市郷の一部たり。幕末の勤王家森新太

部(贈從五位)はこの地の人とす。

フケ 深日村 大阪府河内國泉南郡の

西南部。和泉山脈の北部山麓に位して大阪灣に臨む。全村山地をなし南部に高く東南境に飯盛山、南境中央に學文字山あり。南方に發する大川は中央を貫きて北流し河口右岸に主部落發達す。米産多く海岸は水産發達し、外に鹽産・畜産あり。また大阪灣沿岸工業地帯の南端を占めて綿工業を主とする工業盛なり。孝子街道は東北方より來りて大川を渡り、その左岸に沿ひて南方へ延び和歌山市方面へ至る。社線南海鐵道東部を通過して深日驛(明治三十一年設置)あり。本村附近は要塞地帯なり。續日本紀・天平神護元年の條に和泉國日根郡深日行宮とあるは此地にありしものか。(深日の浦) 深日の濱・吹波浦とも稱し、攝津の山々を見渡し風景頗るよく、古來歌詠の名所として知らる。また海永三年阿摩の阿摩六郷や紀伊の國郡兵衛が此地に築を築きて立地りし時、平敵軍が水軍を率ゐてこれを破りし古戰場なり。萬葉・一二「時つ風吹坂の濱に出であつた願ふ命は妹が爲こそし千載・一六「ささ千鳥ふけひの浦に替れて船島が磯に月照きぬ(藤原家基)〔國王神社〕 大字深日に鎮座。神社。祭神、國魂命・別命。延喜の制に官幣小社に列し、のち國內神名帳に正五位下と見ゆる古社。鎮座地は古來歌詠として著名なり。例祭、十月三日。

フケンジ 普賢寺村 京都府山城國

豐喜郡の西南隅。田邊町の南に接し、東南部及び南部は相楽郡に界し、西は大坂府北河内郡及び奈良縣生駒郡に接す。稍東北より西南に長し。東西兩境には丘陵連り西境に連りて山地は約四一五米の高度を有し、東境の丘陵は一五〇米以下なり。西南隅に發する一河川は村の中央を貫きて東北流し二軒餘先に於て木津川に合す。沿岸に僅に低地を見る。米・麥の農産と林産を出しまた工業もあり。省線片町線の田邊驛へは北方約二軒、省線奈良線水戸驛へは東方約三軒の距離なり。此地は和名抄、豐喜郡豐喜郷の地なりといふ。中世は普賢寺莊といふ。大字多々羅の地は古・筒城宮のありし處といふ。仁徳天皇の皇后磐之媛命、八田皇女の事に由り、三十年九月、紀國より此地に到り、韓人奴隷能美の家に就き宮室を興して坐す、これ即ち筒城宮にして、天皇幸して召すも皇后遂に參見せず。三十五年六月この宮に葬す。繼體天皇五年十月、此處に都を遷され、同十二年三月弟國に遷さる迄の皇居とせり。(朱智神社) 大字天王に鎮座。神社。祭神、迦留米尊神外二柱。創建年次詳ならずとも一説に仁徳天皇六十九年の創立といふ。現社地の西三町餘を隔てて一小祠あり、これ本宮なり。中世、別當普賢寺僧侶専ら之を司る。式内小社に列す。例祭、十月十八日。(觀音寺) 大字上にあり。新義

不志と謂じ、伊呂波字類抄・拾芥抄は不

介志と訓す。蓋し和名抄の不志の布は希の誤ならん。後世、私に風至・珠洲二郡を稱して與郡といふ。

フゲシタニ 鳳至谷 石川縣鳳至郡

にありし村。明治四十一年に大屋村と合し、新たに大屋村を置く。

フケト 福門 紀伊國(和歌山縣)の古

地名。和名抄に那賀郡福門郷あり、其地今の那賀郡長田村の邊なるべし。

フケン 普賢面 朝鮮咸鏡南道洪原

郡の北西部。南方洪原面と雲鶴面を隔て、西は新興郡古川面と、北は同郡下元川面と界す。昭和十一年四月もとの好賢・希賢の二面を合併建設せしものにて面積約二二四方軒を有す。赴嶺嶺山脈南面の山地にて北境には八峰(一六八一米)・中徳山(一三七九米)・雲峰(一一六四米)等東西に並び聳え、八峰の山腹は東境に連りて九節峰(九七三米)を起し、中徳山の山嶺は中央部に延びて雲氣峰(一二七二米)となりて西を東西の二谷に分つ。山地廣きも西大川の上支この東西の谷を各南下し、西南部に於て合流して雲鶴面に合す。その流に沿ひて耕地拓け栗栗發達し大豆・麥・粟・馬鈴薯等の農産、金・銀(龍鱗金・南豐里嶺山の銀産あり。成鏡嶺・雲浦(景雲面)より下元川面新興里への三等道路は西谷を南北に通すも交通なほ便ならず。東北部の豊澤里に鹽竈寺あり。

フケシ—フコク

フケンジ 普賢寺村 京都府山城國

豐喜郡の西南隅。田邊町の南に接し、東南部及び南部は相楽郡に界し、西は大坂府北河内郡及び奈良縣生駒郡に接す。稍東北より西南に長し。東西兩境には丘陵連り西境に連りて山地は約四一五米の高度を有し、東境の丘陵は一五〇米以下なり。西南隅に發する一河川は村の中央を貫きて東北流し二軒餘先に於て木津川に合す。沿岸に僅に低地を見る。米・麥の農産と林産を出しまた工業もあり。省線片町線の田邊驛へは北方約二軒、省線奈良線水戸驛へは東方約三軒の距離なり。此地は和名抄、豐喜郡豐喜郷の地なりといふ。中世は普賢寺莊といふ。大字多々羅の地は古・筒城宮のありし處といふ。仁徳天皇の皇后磐之媛命、八田皇女の事に由り、三十年九月、紀國より此地に到り、韓人奴隷能美の家に就き宮室を興して坐す、これ即ち筒城宮にして、天皇幸して召すも皇后遂に參見せず。三十五年六月この宮に葬す。繼體天皇五年十月、此處に都を遷され、同十二年三月弟國に遷さる迄の皇居とせり。(朱智神社) 大字天王に鎮座。神社。祭神、迦留米尊神外二柱。創建年次詳ならずとも一説に仁徳天皇六十九年の創立といふ。現社地の西三町餘を隔てて一小祠あり、これ本宮なり。中世、別當普賢寺僧侶専ら之を司る。式内小社に列す。例祭、十月十八日。(觀音寺) 大字上にあり。新義

フコイ 美江 京本線の一驛

(明治三十八年設置)。朝鮮忠清北道清州郡美善面にあり。

フコイ 釜頂面 朝鮮慶尙北道

金泉郡の西部。郡邑金泉面の西南約二〇軒を隔て、西は全羅北道茂朱郡茂登面・雲川面に、西北は忠清北道永同郡上村面に界す。面積八二方軒餘。小白山脈に屬する三道峰の山地北西境上に連り、高度一〇〇—一一〇〇米を示し面内到處急斜面をなす。甘川の支流鐵川は北部山地に發して東南に流れ、本支流の谷に沿ひて幅狭き低地ありて耕地拓く。農産には米・麥・大豆・棉花・粟草等、鹽産は大旺・昌永・龜浦・大良等の嶺山ありて金・銀・銅・亞鉛等を産す。金泉・晉州間の一等道路は東南隅の知禮面を通ずるも面内の交通はなほ便ならず。

フコイ 武甲山 埼玉縣秩父郡

秩父大宮町の南方にある山。秩父古生層中に夾むる石灰岩より成り、風化作用に對する抵抗が大にして峨々として突出し、一三三六米の標高を有し、周囲の山地より三〇〇—四〇〇米高し。その北麓

は諸はゆる秩父構造盆地に屬する層層

なり。この石灰岩は淺野セメント會社によりて採掘せられ、影響野より秩父鐵道によりて搬出せらるること、五日市の石灰岩が青梅鐵道によりて搬はれると同にて、白色を背景とする嶺山聚落が散出さる。

フコイガ 富興瓦嶺山 朝鮮

全羅北道任實郡にある金銀山。嶺區は江津面と青雄面とに跨り、昭和十年には金九、九四四五、銀二、二五三六瓦、金銀四九〇(この總價額六萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員は五七人なり。

フコイヌ 深溝 愛知縣額田郡

にありし村。明治三十九年に外二村と共に廢され廣田村を置く、廣田村は明治四十一年に幸田村と改稱す。

フコク 釜谷面 朝鮮慶尙南道昌寧

郡の東南隅に位置す。北は密陽郡武安面に、東は同初洞面に接し、南は洛東江を隔てて昌寧郡北面と相對す。面積約四〇方軒。宗岩山(五四五米)の東南嶺北境上に連り、中部より南部にかけても高さ三〇〇米内外の丘陵性山地あるも、東部と西部は土地低平にして洛東江に合する支流南流し耕地よく拓く。東隅の初洞面、西接の吉谷面等と共に農業よく行はれ、米・麥・豆・棉花等の産多し。密陽・昌寧間の道路は北部を東西に貫通しバスの便あり、また南岸には洛東江に水運の利あり。

フサ—フサン

フサ 布佐町 千葉縣下總國東葛飾郡の東部。利根川の西岸にて手賀沼との中間區域を占め、東は川を隔てて茨城縣北相馬郡布川町に、南は印旛郡大森町と隣す。中央部はやや丘陵地をなすも手賀沼と東部の利根川沿岸は低地にて米麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。小貝川は町の北端にて利根川に合す。縣道は中部を横走し、布川町・大森町等に通す。省線成田線これに沿ひ布佐驛(明治廿四年設置)を置く。利根川は水運の便多し。此地は古く和名抄、相馬郡布佐郷の地とす。本町は郡の最東端に位し、平坦にして農耕地に富めども、印旛沼を始め大潮沼・手賀沼その他大小の池沼を擁し居るを以て、しばしば洪水の浸すところとなり、農作物の被害甚からざりしが、近年、耕地整理を行ひ被害軽減せり。鏡子方面より江戸表への鮮魚類揚揚地として相當盛況を極めしが最近衰へず。村内に氣象観測所あり。(竹内神社)大字布佐に鎮座。神社。祭神、天祖具土命。文政二年六月の鎮座にして、爾來この地の鎮守たり。例祭、九月十四日。

フサカミ

フサカミ 總上村 茨城縣下總國結城郡の北部。鬼怒川の東岸にあり、北は眞壁郡下妻町と隣す。全村平地にて農業行はれ、米・大麥・小麥を産す。下妻町と南方の石下町方面に縣道を通じ、常磐鐵道線これに沿ふも村内に驛なく、下妻町に下妻驛を置く。古くは和名抄、豊田郡手向郷の内にして、毛野川の廣道に當る。

フサノ

フサノ 總野村 千葉縣上總國夷隅郡の南部。勝浦町の北隣にあり。東境西境共に二〇〇米前後の丘陵地連り、中央はその場合に夷隅川北流す、山地一帯森林ありて林産多し。川沿ひの狭き平地には農業行はれて米・麥・蕎麥を産し、養鶏も行はる。縣道は川沿ひに南走して勝浦町に通じバスの便あり。この地は中古に新戸郷と稱せし地にして、推新前は岩槻藩領と幕領及び數名の旗下の知行所に分れたりしが、いま十七大字を以て本村をなす。大字新戸には新戸驛あり、里見義弘の居りし所と云ふ。

フサモト

フサモト 總元村 千葉縣上總國夷隅郡の中部。大多喜町の南隣にあり。東西兩境共に一五〇米前後の丘陵をなし中部の裾谷を夷隅川蛇行しつづ北流す。山地一帯針葉樹林ありて林産多し。川沿ひの平地には農業行はれて米・麥を産し、養鶏も行はる。南方の勝浦町より大多喜町に通ずる縣道は川沿ひに北走しバスの便あり。養蚕もこれに沿ひて發達す。省線本原線これに沿ひ、北部に東總元驛(昭和十二年設置)、南部に總元驛(昭和八年設置)を置く。この地は中古、伊保荘に屬す。(資徳神社)大字福ノ内に鎮座。神社。祭神、高麗神。もと木村大明神とも云ひ近隣八箇村の總鎮守とす。例祭、十月九日。

フサワ

フサワ 布澤村 福島縣岩代國南會津郡の北部にて、田島町の西北約二八軒。北及び東は大沼郡に接す。面積五六・三九方軒。北境に白澤山(八六九米)、東境に鎌倉山(九五六米)、一ノ澤山(九六四米)、南境には布富山(九九八米)、鳥越山(九八〇米)、大曾根山(九五三米)、鷹山(七九八米)等々全村概ね山地をなし、田澤川は東境に發源して西流し、布澤川となりて西南に流れ伊南川に合す。沿岸に耕地やや拓く。米・蕎麥・木炭を産す。道路は北部をほぼ東西に通ずるも、交通便ならず。人口密度は一平方軒につき一三人なり。いま小笠村・八幡村と組合村をなし、役場を小笠村に置く。この地は天正十七年、伊達軍の勢、横田城に攻寄せし際に通過せし所なり。

フサン

フサン 夫山面 朝鮮全羅南道長興郡のほぼ中央部。郡邑長興面の東北隅にて、耽津川の支流に位し、面積約三二方軒。北境は龍頭山(五四五米)其他の山地、東南境には鷹峰(四四一米)、西境には騎驛山(三二二米)の山嶺あり、中部以南の中央部は平坦地にて、西隣の有治面より来る耽津江これを潤して南流し、田・畑よく拓く。米を主とし蕎麥・棉花・大豆・芋麻等の農産を出す。長興・資城間の二等道路は東南部を、長興・靈巖間の三等道路は西南部を通じ、前者にはバスの便ありて交通不便ならず。

フサン

フサン 釜山面 朝鮮平安南道大同郡の北部。平壤府の北方約一〇軒、これと西川面を隔て、北境西半は平原郡順安面と境す。面積約八五方軒。平南平野の一部にして、高さ一〇〇米内外の丘陵波状をなすも概ね平坦にして、大同江に注ぐ合掌江は東南部を、普通江は西北部を潤し田・畑拓く。米・粟・豆・麥・棉等の農産あり。京城・平壤・義州間の京義街道は中部を南北に貫き、平壤・泉遠間の二等道路は合掌江に沿ひて東部をほぼ南北に走り、鐵道平元西部線はこれに並行し馬嵐・梨山店の二驛(昭和二年設置)を設け、また南は京義本線の西浦驛(西川面)、北は同線の順安驛にも達からざれば交通の便よろし。

フサン

フサン 釜山府 朝鮮第一の港市。朝鮮半島南岸の東部に位し、西・北・北東には慶尙北道東萊郡の沙上・沙下・龜浦・東萊・南の諸面邑を轄らし、東部は朝鮮海峡に面す。沿岸には東部には赤崎半島、西部には岩南半島の突端の富岡灣突出して其間に釜山灣北方に湧入り、灣口中央に絶影島(牧ノ島)西北より東南に長く横ばり灣を東西の兩港に分つ。市域は東西一〇軒餘、南北一六軒餘にして面積八四方軒餘あり。天馬・峨嵋・九德・高遠見・仙岩・白楊等の諸山西北境を南北に連り、一脈は釜山嶺の西方水晶山となる。水晶山の北方、仙岩山との間は西境知谷に發し釜山嶺の東にて海に入る

フサン

フサン 釜山府 朝鮮第一の港市。朝鮮半島南岸の東部に位し、西・北・北東には慶尙北道東萊郡の沙上・沙下・龜浦・東萊・南の諸面邑を轄らし、東部は朝鮮海峡に面す。沿岸には東部には赤崎半島、西部には岩南半島の突端の富岡灣突出して其間に釜山灣北方に湧入り、灣口中央に絶影島(牧ノ島)西北より東南に長く横ばり灣を東西の兩港に分つ。市域は東西一〇軒餘、南北一六軒餘にして面積八四方軒餘あり。天馬・峨嵋・九德・高遠見・仙岩・白楊等の諸山西北境を南北に連り、一脈は釜山嶺の西方水晶山となる。水晶山の北方、仙岩山との間は西境知谷に發し釜山嶺の東にて海に入る



東川(釜山灣)の流域にて土地平坦、耕地廣し。釜山嶺の東方には時五山・天子洞・龍洞の諸山ありて東南に延びて釜山灣の東口を扼する赤崎半島となる。河流の主なるものは東川の外に高遠見山の東谷に發し東流して釜山灣に注ぐ釜山川と、その南側に出で南流して釜山灣西口に入る寶水川あり。絶影島は周回約二三軒面積約一二方軒、ほぼ中央部に古福山(牧島山)屹立するも西北山麓は工場地帯をなし對岸の南濱と橋梁によりて連絡す。市街の主要部は高遠見山より東南方に延びし一脈の先端部に當る四屏山・伏兵山・龍頭山等の丘陵を繞りて發達し、東港に面する東岸の埠頭區、龍頭山を繞る官衙商業區・工業區・住宅區等に分かれ、街衢井然、その建物も純然たる内地風を示す。南部の西港西岸の富民町、埠頭區の北方に續く草葉町・水晶町・佐川町等は鮮人町なり。釜山の開港は明治九年にて始めは何等の港灣施設を有せざりしが、明治三十九年以降五箇年に互る韓政府の釜山海關工事、同四十二年の居留民團の釜山墾平工事、同四十四年以來大正八年に至る釜山築港第一期工事、更に同八年より昭和二年に互る第二期築港工事等を経て、第一・第二の大橋を始めて港内の浚渫、防波堤の築造、倉庫及び上屋の建築等完成し、二萬噸級巨船の繫留可能となり、この間に鐵道京釜・京義兩本線等の竣工と相俟ち、内地と朝鮮は勿論、

フサン—フシ

漢洲・支那・歐亞大陸を結ぶ交通上の要津となり、一三三哩を隔つる下關とは朝夕二回、一四哩を隔つる博多(福岡)とは毎日一回の鐵道連絡船の發着あり、また下關・門司・神戸・大阪・教員・浦豐をばじめ沿岸各港に定期汽船の往來するありて交通は至便となり、これと共に貿易額も年々増進して昭和十年の輸移出入は一三、四〇七萬圓、輸入は二、三、八二六萬圓、輸出は三、七、三三三萬圓の巨額に達す。これを開港當初の明治十年の四六萬に比すれば實に八百倍以上の増加なり。輸移出品は精米(三、二〇〇萬圓)を筆頭に、玄米・生絲・炸蠶絲・綿絲・生牛・大豆・林檎・煮乾蠶・明太魚卵を主要なるものとし、輸移出品には機械(九八・一萬圓)、綿織物・洋服・肌衣・綿織物・絹織物・綿織物・礦油・ゴム底地下足袋・自轉車並に同部分品等を擧ぐべし。府はまた近時工業勃興し、精製・綿布類・ゴム製品・綿絲類・織物・電球・磁器・陶器・造船・水産製造品等を始め製産總額四六〇〇萬圓を算す。交通は海上には内地及び朝鮮沿岸の各港への定期航路ある外、陸上には京釜本線の釜山棧橋・釜山・草葉・釜山嶺の各驛(共に明治三十八年設置)あり、釜山嶺驛よりは東海南部線分岐す。釜山棧橋驛よりは奉天・新京及び北京に各直通列車を發し、新京へは二〇六八軒、二七時間五分、北京へは二〇六八軒、三八時間四十分にて達す。市内電車

釜山嶺を中心として西南と北に延び、北は温泉郷に及びバスの便もたよろし。官公署には慶尙南道廳・府廳・稅關・地方法院・鐵道事務所・水産試驗場・中華民國領事館・陸軍憲兵本部出張所・同運輸部出張所・海陸檢疫所・移出入檢疫所・放送局等あり。名勝蹟には龍頭山・大正公園・松島・下關・釜山鎮城址(子城臺)・龍影島等を數ふ。釜山地方は上古我國に服屬せし任那國の一部なる駕洛國の地なり。後天原天皇の嘉吉三年、對馬との間に條約の約成りて喜吉三浦の一(野山郡豐浦、熊川郡豐浦)なる東萊郡富山浦に即ち今の釜山なり、其後、永正七年の三浦の亂、文祿・慶長の豊公の朝鮮の役等のため修好の斷絶せる事ありしが慶長十四年に徳川氏にまた舊交を復し、對馬の國守宗氏をして通商を掌らしめたり。明治九年日韓修交條約成立するや管理官廳を置き、同十三年領事館と改む。同三十九年京城に統監府置かるるや理事廳となし、同四十二年日韓併合と共に釜山府と定め府廳を置く。大正十四年慶尙北道慶尙州より府内に移され、爾來本道の政治經濟の中心となり、この間の鐵道開通、港灣施設の完備すると共に、東亞の關門、國際交通の要衝として、また半島の大貿易港として今日の盛況を呈するに至る。(龍頭山)市街の中央にありて公園あり。全山樹木に蔽はれ、晴朗の

日は遙く對馬の島影を望むべく、近くは商船船の去來する釜山灣を瞰下して絶影島の翠巒に對し眺望絶佳なり。山頂には市民の氏神たる國幣小社龍頭山神社・福社龍尾山神社あり。(松島)市の南西部岩南半島の東岸の一部をいふ。波靜かに白砂連り、その中間にある一小半島には老松鬱蒼たり、府營の海水浴場あり。(釜山鎮城址)釜山嶺の海岸に近し。文祿の役に小西行長これを陥れ、次で毛利輝元ここに丸山城を築き日本軍の根據地となす。後人これの子城臺と呼ぶ。(龍頭山日本城址)釜山嶺の背面にて雄臺山脈に連り、釜山鎮城と相對する處に僅に其廢墟を存す。(津江兵庫招魂碑)津江兵庫は宗氏の家臣なり。當時、倭館は古館の地において遠濱にて船舶の駁繋に便ならず、兵庫は主命をうけて移館の事を東萊府使と議せしも府使應ぜず。兵庫主命を辱かしめん事を恐れ非常の決意を以て折衝甚だ努め遂に之を應諾せしめたり。釜山の今日あるは兵庫當年の功によるものなり、のち居留民深くこれを徳とし碑を古館公園に丘上に建つ。

フサン 釜山府 朝鮮第一の港市。朝鮮半島南岸の東部に位し、西・北・北東には慶尙北道東萊郡の沙上・沙下・龜浦・東萊・南の諸面邑を轄らし、東部は朝鮮海峡に面す。沿岸には東部には赤崎半島、西部には岩南半島の突端の富岡灣突出して其間に釜山灣北方に湧入り、灣口中央に絶影島(牧ノ島)西北より東南に長く横ばり灣を東西の兩港に分つ。市域は東西一〇軒餘、南北一六軒餘にして面積八四方軒餘あり。天馬・峨嵋・九德・高遠見・仙岩・白楊等の諸山西北境を南北に連り、一脈は釜山嶺の西方水晶山となる。水晶山の北方、仙岩山との間は西境知谷に發し釜山嶺の東にて海に入る

フジ 不二 釜山府(北海道上磯郡)【不二】 受知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年に外二村と共に廢され高藏寺村を置く。

富士

富士火山帯 富士山を盟主とし、本州中部を横断して南方海中に散在する諸火山帯を包括する大火山帯なり。謂ゆるフシ火山帯なり。多くは新鮮なるコニ...

火山帯あり、伊豆半島の中央には、天城山(一四〇五米)發達し、その山麓には遠笠山・矢野山・大室山・小室山などのコニ...

ども、恐らくは蝦夷語なるべし。アイヌ語の標本チチエラウ氏に從へば、フシは火を意味し、アイヌ民族が富士山以西に...

白雲も、いゆき降り、時しくそ、雪は降りける。語り継ぎ、言ひ継ぎ行かむ。不慮の高嶺は、中世、海道通過の旅客は何れも富士を羨美するも、其の妙到底赤人...

側を形成し萬古の雪を蔽す。火口壁の西側には一段の階段状の平坦面あり。その面は、西方にては幅一二〇米に及び、小内院と稱する窪地及び金明水その上にあり...

(一)二〇二米、西南方には二子山(八〇五米)等を主要なるものとす。この外に燃裂に基因する側火口として最大なるは寶水火口なり。寶水火口には三つの爆裂...

天主山脈の南方に生ぜし一段段地帯の内、富士・愛鷹火山の噴出を見たり。されど愛鷹・箱根等の諸火山は富士山より早く生長し且つ浸蝕さる。恐らく富士は...

黒巖の噴出なり。次に近時の噴出に於ける塊状熔岩流は之を九尾といひ、山腹より裾野にかけて所々に熔岩流地形を遺す。そのうち最も有名なるは青木ヶ原の...

噴出以後、今日まで千餘年を経過せるを以て...

大約五合五勺の邊に至る。其の上は純野といひ、植物の生育を見ざる所とす。

一六二〇米、距離一三・六三五軒。吉田口は一日一五二五米、頂上まで距離一八・二三五軒。

スキー場ありて冬季の客多く、學校の寄宿舎等並ぶ。吉田附近は農業・林業を主業とする村落多く、吉田は真登山口として...

湯谷噴氣孔一帯を含み、外輪山に圍繞せらるる地域を以てその區域とす。

雙葉山塊北端の山。富士南部の唯一の好展望地點。登山の興味多し。

旅館賣店多く舟遊、釣魚・スケートに適す。湖の静寂なる湖。根場部落の原始的景観、南極の熔岩流等興味深きものあり。

坊間、御殿場、須山間、大宮、馬返間は自動車通す。また各登山口には何れも馬の便あり。以上各登山口には何れも馬路に過し、御殿場、須走は砂走り、長月、末日に山を閉す。

方面よりの自動車幹線道路入口に富り富士園地との連絡地点なり。乙女峠と共に富岳展望地帯として名あり。一蘆ノ湖—面積七方軒、最深四三・五米、神山—胸ヶ岳の山麓に横ばり、湖畔は史蹟に富めり。塔ヶ島附近の巡富士及びナンドの群生は多季名高く、夏季は水泳・釣魚・舟遊等利用者多し。湖畔の蘆根町・元蘆根・湖尻間に連絡遊覧船を運航す。一仙石原—神山北部の美しき草原にして湖原植物群落あり。一大涌谷—冠ヶ岳山腹の硫黄噴孔にして硫黄・熱湯四時噴出す。一蘆根神社—蘆ノ湖畔に鎮座する國幣小社。蘆根大権現を祭り古來武將の信仰厚き神社なり。湖畔には蘆根神社・蘆根御道杉並木等の史蹟あり。精進湖—蘆ノ湖附近に多田池の裏・八百比丘尼碑・熊野権現址・弘法大師六道地蔵・二十五菩薩等の遺蹟あり。更に曾我兄弟の墓と稱せらるる供養塔も亦残存す。蘆根山中更に雄水峠・蘆根・親覺上人等の遺蹟多し。一温泉—蘆根は古くより温泉郷として知られ山中の蘆根温泉場開け旅館・賣店等の施設完備す。古來蘆根七湯と稱せられし今には十二湯にして湯本・塔ノ澤・堂ヶ島・宮ノ下・底倉・木貫・蘆根・仙石原・小涌谷・芦ノ湯・姥子等あり。蘆根に登るには東海道線、又は小田原急行電車にて小田原に到り、蘆根登山電車又は自動車にて湯本・宮ノ下方面に到るも、熱海・三島(沼津)の各線より自動車

にて蘆根町方面に到るもの、御殿場線より自動車にて仙石原方面に到るものを数ふる事を得。富士園地とは御殿場を中心として連絡す。其他、自動車は全山に亘りて通じ主要地点間は何れも大型バス通す。蘆ノ湖にモーターボートあり、強羅・堂ヶ島にはクーアルカーありて利用者多し。東京・小田原間一時間半、蘆根一周約四—五時間、東京よりの日帰り可能なり。觀光コースとしては、(1)東京特小田原—湯本・宮ノ下・強羅(自動車又は電車)—大涌谷—湖尻(自動車)—蘆ノ湖—元蘆根(モーターボート又は自動車)—十國峠—熱海(自動車)、(2)東京特小田原—湯本・宮ノ下—仙石原—湖尻(自動車)—元蘆根(自動車又はモーターボート)—三島・沼津(自動車)、(3)東京特御殿場—長尾峠—宮ノ下—小涌谷—元蘆根—舊東海道—湯本—小田原(自動車)特東京等にして以上いづれも東京より日帰りする事を得。富士・蘆根の連絡コースとしては、東京特吉田(汽車・電車)—船津(自動車)—長濱(舟)—西ノ湖(自動車)—根場(舟)—精進湖(自動車)—パノラマ臺(徒歩又は乗馬)—青木ヶ原—船津—吉田—蘆根神社—山中湖—御殿場—長尾峠—仙石原—湖尻(自動車)—元蘆根(舟)—宮ノ下—小田原(自動車)又は熱海。またハイキングコースとしては、(1)小田原—道了堂—明神岳—仙石原、(2)仙石原—金時山—乙女峠—長尾峠—御殿場、(3)元蘆根—胸ヶ岳—神

山—大涌谷—強羅、(4)姥子—湖尻峠—山伏峠—蘆根町、(5)蘆根町—鞍掛山—石垣山—早川(大開路)、(6)蘆根町—十國峠—日金山—熱海、(7)蘆根町—御山(粗筋路) (8)蘆ノ湖—湯坂路—湯本等を舉ぐることを得べし。 【富士五湖】 富士火山の北麓にある一群の湖の總稱にて、東より山中・河口・西・精進・本栖の五湖をいふ。この外に南麓の浮島沼、北方の明見池・四尾連湖(時には明見池を除き蘆根蘆ノ湖)を加へて古來富士八湖と通稱せしが、五湖以外は規模小さく、富士山に全然關係なし。なほ山中湖以外は水位の昇降甚だしく、面積・深度等も著しく變化するが、最近数年間のほぼ最低水位によれば左表の通りなり。

湖名	高度(米)	面積(方軒)	湖岸度(米)	最大深(米)
山中湖	六八二	六・三三	一三・五	一三
河口湖	八三〇	六・三三	一三・五	一三
西ノ湖	九〇〇	二・〇〇	一〇・〇	六
精進湖	九三三	〇・八七	一三・〇	二六
本栖湖	九三三	一・三〇	一三・〇	二六

湖盆形態は簡單ながら二、三の著しき特徴あり。すなはち山中湖の東北方には砂嘴が發達し、河口湖は中央に島あり、その西に最深點あるも産崎嶇以東、船津の前方兩岸に近く一二米の副湖盆あり。精進湖の南方には熔岩突出して半島川まで感し。波木井川・戸栗川・富士川との合流點に於てやや發達し、身延町・膳倉村・富河村の諸集落がやや密集するに過ぎず。富士山山西麓が限る芝川との合流點に芝川町あり、岩本に於て海岸は平野に出づ。河底の平地にはやや見るべきものあり、西島・高島河原・南部等に於て湖盆の水系をなす。富士川はかくの如く湖盆地を流るれども、甲府盆地より表日本に通ずる唯一の交通路として選ばれ、昔は蘆澤より河口まで六一軒、二五〇分の急流にも拘らず、舟舟によりて貨物の運搬・行客の運搬行はれたり。今は身延鐵道中途まで通ずるため、これより上流にプロペラー式の川舟ありて行客に便し、また兩岸に屏風岩その他景勝の地多く天龍峽と並び稱せられ、富士川下りを行ふ者多し。川が南に開け南風の通路となるため比較的溫暖にて降水量も多く、早川流域は天然の美林をなし、また水力發電所等もあり。その合流點の南身延山・鷹取山の南麓たる身延・豊岡には茶畑が發達し、南方には柑橘類の栽培行はる。また兩岸には積・三極の栽培行はれ、河畔にてはこの清流を利用し、製紙を行ふ。北部の市川大門に於ける市川紙、西島村に於ける西島紙、富士に於ける富士紙等は世にあらはる。舟行は慶長十二年に角倉了以が岩石を砕きて改修工事を施せし以來の事にて、その下流は急に傾斜緩くなるため洪水の際氾濫する事となり、水位の高き時は島となる。西ノ湖と本栖湖とは山陰にありて富士の熔岩に埋没されざりしため深く、本栖湖は西日本にては他田湖(二三三米)に次ぎ第二位の深湖なり。(成因) 富士山麓に生ぜし凹地帯に富士山の熔岩流れ、處々にて麓の川を堰止めて生ぜしものなり。先づ猿橋熔岩により宇津湖・蘆湖の二つに分濬し、宇津湖は桂川の浸蝕作用にて乾涸して忍野平野となり、その一部を山中九尾熔岩が堰止めて山中湖を生じたり。河口湖は貞觀六年の青木ヶ原熔岩により堰止められて生ぜしものにて、同時に西ノ湖と精進湖とが分離せり。本栖湖の分離はそれ以前なるべし。(水理) 受水區域は廣きも熔岩なれば殆ど表面河川なく、熔岩中を伏流して流入す。山中湖が桂川を有するほかには天然の表面排水河はなく、他の四湖の水は地下を伏流し或は北方の桂川の谷、乃至東西の芝川の谷に湧泉となりて地上に現はる。河口湖には舊永年間に洪水の被害を少くするため排水路を設け、更に大正二年トンネルを穿ちて發電し、西ノ湖の水も大正八年トンネルにて河口湖に落し發電所を設く。山中湖の水位の變化は一二米なるが、他の四湖は排水不充分のため水位の變化甚大にして最高最低の差は一〇米以上にも及び、洪水時には大被害を見る。されど大正十二年以後は常に水位低く、湖畔には廣き砂濱を生じたり。この原因の一部は

人工的排水によるものならん。(水色) 透明度・水温 西ノ湖と本栖湖は藍色、他は綠色なり。本栖湖は濃藍色にてフーレン標準色の一—二號に相當し、青に我國中にて水色最良なるのみならず世界にも類例少し。されどその透明度は割合小さく一八米、西ノ湖一—一米にて、他の三湖は六—九米位なり。また本栖湖の最低水位は常に五度以上、西ノ湖は四度内外、他の三湖が零度以下に降り結水するは淺きためなり。夏季深層の水温は本栖湖五・五度、西ノ湖五度、精進湖一〇度にて、山中・河口湖は淺くして大なるため容易に攪亂せられ一五—二〇度となる。なほ湖沼標式は何れも調和湖沼型に屬し、本栖・西兩湖は典型的なる賞榮榮型、他の三湖は程度の過まざる賞榮榮型なり。(利用) 魚類としてはナマズ・ドセウ・ウグヒ・アブラハヤ・コヒ・フナ・ヤマメ・ウナギは各湖に棲息し、ヒメマスは西・精進・本栖湖に、オヒカハは河口湖にて探る。なほ最近西ノ湖にてコアユが越冬せり。河口・西兩湖は發電に利用され、山中湖も間接に桂川の流量を調整す。また山中湖は灌溉用として利用され、本栖湖の水は飲料に供せられ、五湖共に餘り多からざれども前記の魚類を産す。また交通にも利用され、昔は富士八湖は修行者の巡行所、近年は自動車路の完成と共に富士山麓巡りの遊覽地となり、富士の國立公園としての存在を價値

づつたり。また夏は遊樂地・キャンプ地、冬はスケート・狩獵行はる。されど水位の昇降甚だしくため沿岸の耕地・住家に浸水し莫大なる被害を興ふ。 【富士八湖】 ↓明見湖 府盆地の水を集め、駿河灣頭に注ぐ川。流域約七一軒。上流は釜無川と信吹川にて、この兩河川は共に市川大門町に於て蘆川と合し富士川となる。富士川は蘆澤に於て富士川下りの峽谷に入る。甲府盆地の水系は蘆澤を扇の要として集まり水量を増加せしむ。蘆澤の下流約一五軒、飯宮村に於て瓦摩山脈背後の構造線に沿うて發達せる早川を合す。この間西側右岸は、瓦摩山脈の源氏山・御殿山の一七〇〇—一八〇〇米の山地より急傾斜を以て高さ六〇〇米まで下り、これより四〇〇米までの間は緩傾斜をなし、その幅約四軒あり。この急斜の變換點は南北の斷層によるものと考へらる。このペンチ・ランドには總積・五間・靜川・櫻等の村落があり、妙法寺・高下・足ノ平・久成・龜久保・古長谷・福原等の聚落は平坦面上にあり、畑作・養蚕・養蠶等を行ふ。左岸、即ち東側に於ても亦これと同じ様式なり。櫻圃山(六三四・八米)及び右岸、身延山(一四八米)以南は山岳重疊し、以北とは大に異なる。早川の合流點以南は、この五〇〇米級のペンチ・ランドに對比せらるべきものの發達は芝

川まで感し。波木井川・戸栗川・富士川との合流點に於てやや發達し、身延町・膳倉村・富河村の諸集落がやや密集するに過ぎず。富士山山西麓が限る芝川との合流點に芝川町あり、岩本に於て海岸は平野に出づ。河底の平地にはやや見るべきものあり、西島・高島河原・南部等に於て湖盆の水系をなす。富士川はかくの如く湖盆地を流るれども、甲府盆地より表日本に通ずる唯一の交通路として選ばれ、昔は蘆澤より河口まで六一軒、二五〇分の急流にも拘らず、舟舟によりて貨物の運搬・行客の運搬行はれたり。今は身延鐵道中途まで通ずるため、これより上流にプロペラー式の川舟ありて行客に便し、また兩岸に屏風岩その他景勝の地多く天龍峽と並び稱せられ、富士川下りを行ふ者多し。川が南に開け南風の通路となるため比較的溫暖にて降水量も多く、早川流域は天然の美林をなし、また水力發電所等もあり。その合流點の南身延山・鷹取山の南麓たる身延・豊岡には茶畑が發達し、南方には柑橘類の栽培行はる。また兩岸には積・三極の栽培行はれ、河畔にてはこの清流を利用し、製紙を行ふ。北部の市川大門に於ける市川紙、西島村に於ける西島紙、富士に於ける富士紙等は世にあらはる。舟行は慶長十二年に角倉了以が岩石を砕きて改修工事を施せし以來の事にて、その下流は急に傾斜緩くなるため洪水の際氾濫する事

多く、正保年中に代官、吉郡孫大夫は岩本集落の西へ一番出し、厩金堀を築造せり。安政元年大地震にて破壊せられ田圃の消失するもの多く、文政年間にも龜甲出し、精進堤・萬保堤を築造せり。かく記載多きため富士川の釣橋は蓋か上流の芝川に元祿の頃作られたり。治承四年十月源頼朝、平氏の軍と富士川を挟みて對陣す。頼朝の將武田信義、平氏の後背を襲はんとして富士川を渡り迂回せんとせしが、水高これがため一時に驚駭散す。平軍この音を聞き敵の大軍襲撃するを疑ひ周章狼狽、一戦をも交へず自ら陣營を燒きて潰走す。之を富士川の戦といふ。夫木・二四「ゆく水のえにたにあらは富士川のがれて人にすまらめやは好忠」 【富士郡】 靜岡縣(駿河國)十三郡の一。縣の中央部。富士山(三七七八米)の西南麓一帯の地にして、北に山梨縣南都留郡、東八代郡、東に駿東郡、南に駿河灣の田子ノ浦、西に庵原郡、西北に山梨縣西八代郡あり。郡は根子・穴・上井出・大宮・吉原に至る富士山南西麓の斷層による窪地をもつて、東北側の富士山の裾野と西南側の毛無山・天子岳の兩域に分る。この窪地に沿ひて芝川の上流及び酒川の流路あり。更に毛無山側の西南域は芝川の下流によりて富士の丘陵地帯を東側に分く。郡の西南境は富士川の下流たり。郡の北部は山林多く、茶・薪炭・甘藷等を

産し、南部は海岸平野にして梨・蜜柑・桃等を産し、特に富士梨の産額高し。また大宮附近は富士の熔岩流下の地下水豊富にして古くは和紙、現在は洋紙の産多し。大宮・富士根・豊岡・泉・原田・吉永・須津・富士・富士川の諸町村に盛んなり。この産額和紙千五百萬圓、西洋紙三千六百萬圓に達す。鐵道は郡の南部海岸に沿ひて東海道線通じ、また富士驛より甲府に通ずる私鐵富士身延鐵道あり。郡の南部に須津沼、中央に官幣大社富士淺間神社の本社あり、登山客多し。郡内に大宮・富士・豊岡・吉原の四町と十八箇村あり。延喜式に郡名見え、和名抄は浮志と訓じ島田・小坂・古家・蒲原・大井・久武・姫名・神戸の八郷を説く。

【富士町】静岡縣駿河國富士郡の西南部。富士川下流の右岸に位し、東に島田村・傳法村、北に豊岡町、西に岩松村あり。地は富士川の沖積平野にして東境に洞川あり、水量豊富にして製紙業盛に行はれまた富士梨の本場なり。東海道線は町域を東西に通じ、中央に富士驛(明治四十二年設置)を置く。富士身延鐵道は富士驛に發して甲府市に至る。本町は東海道より驛に至る細長き聚落にして大字に、十兵衛・楠木・上横割・松本・本市場・川原宿・中島・五味島・森島・稻荷島等あり。富士製紙の設置以來急速に發展し、交通の中心物資の集散地として商工業の樞要となる。富士遊園地・鶴芝碑・天白

地跡・北條氏政首塚・唐人橋・塔の松・遠川・刀工義助井戸・芭蕉の句碑等あり。また梨病害蟲研究所あり。古くは和名抄、富士郡蒲原郷の内とす。もと加島村と稱せしが昭和四年富士町と改稱す。東境に駕島、甲陽軍艦に砲台とあるは皆これとす。往古は富士川の支流その東を流るといひ、治承四年平家の軍ここに陣し富士沼の水禽の羽骨に驚きて潰走せる處といふ。加島(米之宮淺間神社)大字本市場に鎮座。祭神、淺間第八御子神・淺間第十八御子神。創立年代不詳。明治十年大宮の淺間神社の攝社に定めらる。當社を米宮といふは五穀を守護し給ふが故なりと。例祭、五月二日。

【富士山麓電氣鐵道】社線。省線中央本線大月驛より分岐し富士吉田驛(山梨縣南都留郡福地村)に至る。全長二三・六軒。機関は一・〇六七七にして電車を運轉し、省線とは連帶運輸をなす。大月方面より富士登山者はこの電鐵の終點驛富士吉田より登山し、約五時間にて達す。【富士身延鐵道】社線。静岡・山梨二縣に亘る。東海道本線富士驛より分岐し省線中央本線甲府驛に終る。全長八八・一軒。機関は一・〇六七七にして蒸氣及び電車を運轉し、省線と連帶運輸をなす。大宮町驛は富士の登山口として乗降客多く、身延驛(山梨縣西八代郡大河内村)の西約三・五軒に日蓮宗の總本山久遠寺あり。

【藤井】新羽縣北蒲原郡にありし村。明治三十九年に大字藤寄を聖徳村へ、その餘は鳥屋村・島崎村・横山村等と合併して本崎村を成す。【藤井】藤井村(愛知縣碧海郡)【藤井寺町】藤井寺町(大阪府河内國南河内郡の北部。古市町の西北に隣り、北は中河内郡に界す。全村地形低平にして大和川は北境を西流し、古市町にて石川より分流し来る河川が村の中央を西北に貫きて大和川に合す。米・麥・蠶のほか工業・畜産あり。縣道は四通八達し、中央を南北に貫くものは大阪市と古市町方面とを結び市街地は之に並びて發達し、之と交叉して西に長尾街道あり。堺市に達し、東は奈良街道延びて王寺町・龍田町方面に至る。社線大阪鐵道は中部を横斷して藤井寺驛(大正十一年設置)あり。古への恵我の一部にして、仲哀天皇の恵我長野西御陵あり。また仁賢天皇の恵我長野東御陵あり。また長野といひしを明治二十九年藤井寺村と改め、大正四年藤井寺村及び小山村を廢しその地域を以て藤井寺町を成す。(恵我長野西御陵)仲哀天皇の陵。大字内にあり。周濠を圍らす前方後圓墳にて數箇の陪冪を有す。天皇は舊藩を討たんと爲に筑紫に幸し、九年桓仁宮に崩御し給ひしが、賜して喪を發せず、

【藤井】藤井村(愛知縣碧海郡)【藤井寺町】藤井寺町(大阪府河内國南河内郡の北部。古市町の西北に隣り、北は中河内郡に界す。全村地形低平にして大和川は北境を西流し、古市町にて石川より分流し来る河川が村の中央を西北に貫きて大和川に合す。米・麥・蠶のほか工業・畜産あり。縣道は四通八達し、中央を南北に貫くものは大阪市と古市町方面とを結び市街地は之に並びて發達し、之と交叉して西に長尾街道あり。堺市に達し、東は奈良街道延びて王寺町・龍田町方面に至る。社線大阪鐵道は中部を横斷して藤井寺驛(大正十一年設置)あり。古への恵我の一部にして、仲哀天皇の恵我長野西御陵あり。また仁賢天皇の恵我長野東御陵あり。また長野といひしを明治二十九年藤井寺村と改め、大正四年藤井寺村及び小山村を廢しその地域を以て藤井寺町を成す。(恵我長野西御陵)仲哀天皇の陵。大字内にあり。周濠を圍らす前方後圓墳にて數箇の陪冪を有す。天皇は舊藩を討たんと爲に筑紫に幸し、九年桓仁宮に崩御し給ひしが、賜して喪を發せず、

【藤枝町】静岡縣駿河國志太郡の東南部。東に廣幡村、東南に西益津村、西南に青島町、西北に稻葉村、東北に聖架村あり。町域は瀬戸川の沖積平野にあり、同平野はもと沈降により海面下に没し、沖積層の堆積により平野となれるものなり。瀬戸川は町の西南町境を東南流す。町の西北部に未沈降の丘陵あり、また大字原の北方には高度約百米の浸蝕面發達す。鯉の養殖・蜜柑・茶・梨の栽培及び集散を行ひ、また甘藷切干を産す。交通は東海道五十三次の一として古くより驛亭として發達せしが、東海道

長門の豊浦宮に崩し、翌年二月大喪を發し梓宮を京師に奉還し、翌年(神功皇后攝政二年)此陵に葬り來る。延喜諸陵式に元城東西二町南北二町、陵戸一柵守戸四柵と定め、遠陵に班す。中世に所在を失ひ元祿以來幾多の説を生ぜしが、幕末修陵に際して現陵に御治定、慶應元年三月二十日修理竣工につきて巡檢使の發遣あり。殯斂地は山口縣下關市豊浦(もと豊浦郡長府町)なり。(墳生坂本陵)大字野中にあり。仁賢天皇の山陵。御陵形は周濠を有する前方後圓墳なり。御即位の十一年八月八日崩御あり、十月五日奉葬。陵は日本書紀・延喜諸陵式ともに墳生坂本陵とし、式の制、元城東西二町、南北二町、守戸五柵とし、遠陵に班す。扶桑略記には高さ二丈、方二町と記す。中世は山陵の所在不明に歸し元祿以來、種々検討せられしが容易に決せず。河内志は黒山村下黒山の墓山に擬定す。前内廟記は、今葛井寺町成就記といふのみ。歴代廟陵考・諸陵周成就記ともに「陵所不相知、墳生坂本も不相知、候」といひ、容易に決定するに至らざりしが後、南河内郡各金剛輪寺の僧慧聖阿闍梨初めて今の陵所を推し、幕末修陵の際これに従ひて修治を加へ、その竣工巡檢使廣橋右衛門督を遣しその狀を看、奉幣せしめらる。(小山城址)室町時代の末期、元龜年中三好実賢の據りし所。天正元年信長の三好氏を攻むるに當り、濠川一益

を以て富城の押へとす。(城山古墳)大字津堂にあり。長さ約一七〇米の前方後圓墳。永祿年間に三好実賢入道廣重の築城して、この墳上に本丸を置きし事あるを以て城山と稱せらる。明治四十五年後圓部の頂上を發掘して、竪穴式石室内より長さ約三米の組合せ式長形大石棺を發見し、鏡・玉類・刀劍身類等の遺物を出しし學界に知らる。(葛井寺)古義眞言宗。紫雲山三寶院開琳寺。仁和寺末。西國三十三所第五番札所。寺傳に神龜二年聖武天皇の御願により、僧行基の開創に係り、のち平城天皇の朝に阿保親王これを再興す。葛井寺の稱は、惟ふに此地もと百濟孫孫王の裔葛井氏舊居の地なりしにより、本寺また同氏の創建に係りし寺なりしなるべし。のち兵火に罹りしが豊匠秀頼再建し、徳川氏累代寺領朱印若干を附す。御詠歌「まあるより頼みをかくる藤井寺花のうてなに紫の雲」紫の雲のはやしを見わたせば法に標の花さきにけりし

【富士ツツシ】富士寫ヶ岳 福井市の北方約一八軒。石川縣江沼郡西谷村に峙つ。標高九四二米。山體は火山岩より成り山腰富士に似、一に小富士といふ。山頂部には晩春なほ残雪を遺く。【フジエ】葛江(播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に明石郡葛江郷あり、布知衣と訓す。その地今の同郡林崎村の邊一なるべく、萬葉集・第三卷に「あらたへ

の藤江の浦に鯉釣る白水郎と見えらむ旅行く吾を」とあるは此地なり。【藤江】愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外四村と共に廢し東浦村を置く。いま省線武豊線の藤江驛(昭和九年設置)あり。【藤江村】廣島縣備後國沼隈郡の南部。松永浦の東岸に位し、海水を隔てて松永町の東南と相對す。北は金江村、東は山南村、南は浦崎村に接す。面積四・二一方軒。東西に長き地形をなし、東半は山地に蔽はるるも西方に漸低し、西部海岸は平地に移る。海岸線は出入に乏しきも漁業發達散在す。耕地は山麓に開け牧畜また附近に行はる。米・麥・蠶・牛・馬・鯛・鮒及び酒類・鹽詰等を産す。松永町へバスの便あり。【藤枝町】静岡縣駿河國志太郡の東南部。東に廣幡村、東南に西益津村、西南に青島町、西北に稻葉村、東北に聖架村あり。町域は瀬戸川の沖積平野にあり、同平野はもと沈降により海面下に没し、沖積層の堆積により平野となれるものなり。瀬戸川は町の西南町境を東南流す。町の西北部に未沈降の丘陵あり、また大字原の北方には高度約百米の浸蝕面發達す。鯉の養殖・蜜柑・茶・梨の栽培及び集散を行ひ、また甘藷切干を産す。交通は東海道五十三次の一として古くより驛亭として發達せしが、東海道

山。建久年間に熊谷蓮生僧の創建。蓮生僧は關東下向の禪、阿田山麓の宮家福井夫妻これに歸依し、剃髮しその邸を以て寺となす。のちその子蓮因は親鸞の教化を授けてその門に入る。【藤尾村】宮城縣磐城國伊具郡の東部。西端は阿武隈川を隔てて角田町に接し、東は互理郡に接す。東境に四方山(二七四米)・深山(二八七米)等連りて西方に傾斜し、西部は角田盆地の一部をなして稍平坦なり。瀧・米・麥・蠶等を産す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、東北方の常盤線吉田驛へは約八軒あり。又この道路より西へ分岐し角田町に至るものあり。此地は和名抄、伊具郡藤尾郷の内なるべく、村内に北小屋館あり、互理氏の居りし所なり。【藤尾村】廣島縣備後國廣品郡の東北端。府中町の東北約五軒の山中に位し、北は神石郡に接す。面積三〇・三五方軒。村内諸處に山岳聳立し、京ノ上山(六一一米)・天神山(三八八米)等峙つ。平地無ければ、西南の山間窪地に小耕地あり、他は概ね山林に蔽はる。米・麥・木材・木炭・蠶・酒類等を産すれど、いづれも産額大ならず。西南部に東城街道貫通して府中町に達し、東部村界を油木町(神石郡・福山市へ通ずる縣道ありて自動車の便あり。この地は和名抄、葉田郡藤尾郷の内か。

【藤尾村】宮城縣磐城國伊具郡の東部。西端は阿武隈川を隔てて角田町に接し、東は互理郡に接す。東境に四方山(二七四米)・深山(二八七米)等連りて西方に傾斜し、西部は角田盆地の一部をなして稍平坦なり。瀧・米・麥・蠶等を産す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、東北方の常盤線吉田驛へは約八軒あり。又この道路より西へ分岐し角田町に至るものあり。此地は和名抄、伊具郡藤尾郷の内なるべく、村内に北小屋館あり、互理氏の居りし所なり。【藤尾村】廣島縣備後國廣品郡の東北端。府中町の東北約五軒の山中に位し、北は神石郡に接す。面積三〇・三五方軒。村内諸處に山岳聳立し、京ノ上山(六一一米)・天神山(三八八米)等峙つ。平地無ければ、西南の山間窪地に小耕地あり、他は概ね山林に蔽はる。米・麥・木材・木炭・蠶・酒類等を産すれど、いづれも産額大ならず。西南部に東城街道貫通して府中町に達し、東部村界を油木町(神石郡・福山市へ通ずる縣道ありて自動車

【藤尾村】宮城縣磐城國伊具郡の東部。西端は阿武隈川を隔てて角田町に接し、東は互理郡に接す。東境に四方山(二七四米)・深山(二八七米)等連りて西方に傾斜し、西部は角田盆地の一部をなして稍平坦なり。瀧・米・麥・蠶等を産す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、東北方の常盤線吉田驛へは約八軒あり。又この道路より西へ分岐し角田町に至るものあり。此地は和名抄、伊具郡藤尾郷の内なるべく、村内に北小屋館あり、互理氏の居りし所なり。【藤尾村】廣島縣備後國廣品郡の東北端。府中町の東北約五軒の山中に位し、北は神石郡に接す。面積三〇・三五方軒。村内諸處に山岳聳立し、京ノ上山(六一一米)・天神山(三八八米)等峙つ。平地無ければ、西南の山間窪地に小耕地あり、他は概ね山林に蔽はる。米・麥・木材・木炭・蠶・酒類等を産すれど、いづれも産額大ならず。西南部に東城街道貫通して府中町に達し、東部村界を油木町(神石郡・福山市へ通ずる縣道ありて自動車



フジオカ

富士岡 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

フジカ 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

フジカ 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

フジカ 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

フジカ 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

藤谷 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

富士川町 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

藤川 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

藤河 静岡縣駿河國駿東郡の東部。東に神奈川縣足柄下郡...

フジカ

伏木町 富山縣越中郡射水郡の北西端。小矢部川の河口左岸を占む...

フジカ

伏木町 富山縣越中郡射水郡の北西端。小矢部川の河口左岸を占む...

フジカ

伏木町 富山縣越中郡射水郡の北西端。小矢部川の河口左岸を占む...

フジカ

伏木町 富山縣越中郡射水郡の北西端。小矢部川の河口左岸を占む...

フジカ

で之が領主たり。伏木港は富山灣の西南隅小矢部川の海に注ぐ所にして、明治三十一年小矢部川を河港として改修工事され、僅かに三十年の間に輝き躍進をなし、富山縣下唯一の良港のみならず、日本に於ける屈指の港にて今は第二種重要港灣たり。伏木港の開發が遲延せし理由は、前田家が軍事上伏木の良港なるを知らざるを恐れし爲と、徳川幕府の領國によりしものなり。然も同港が風に外國と密貿易をなせしは、富山實業の基礎が密輸入外國産品にある事、富山縣内に多数の外國製品のある事によりて明なり。大字古府は國府の地なれば名づく。大字國府は國分寺のありし所。〔國府城〕聯興寺の地にありし古城址。未曾義仲、越後より兵を富城に進めし事あり、吉野時代は越中守新渡高親に屬し、戰國時代は上杉隆房居りて國政を見たり。〔氣多神社〕大字一宮に鎮座。縣社。祭神、大己貴命・奴奈加波比賣命。安永二年越中國を割きて能登國を置かれし時の鎮祭にして勤して越中一ノ宮と定めらるるといふ。神龜二年、天皇勅額奉輪を賜ひ、近郊九箇村の神領を寄せ給ふ。式内名神大社。大伴家持の崇敬格別なるものありといひ當時は社頭盛大なりしが、のち屋次兵火に罹りて衰頹、正保二年に至りて領主前田利常の崇敬厚くその新願所となる。例祭、四月十八日。〔聯興寺〕大字古國府にあり。眞宗本願寺派。雲龍山。寺傳に

親鸞の弟子善慶房信念(順徳天皇第三皇子彦成親王)の開創と傳ふ。のち衰頹せしかば、蓮如は北國下向の礎に建立せし土山御坊にこれを合併し蓮如の二男康乗を以てこれを管せしむ。永正年中、實如より本寺同格寺法格外の印書を受く。當時寺領十萬餘石、寺運頗る隆盛なりき。永祿二年に顯如より本山六院家の一に加へらる。その後再度兵火に罹りしも再建せらる。豊臣秀吉・國守前田氏累代の歸依厚く寺領を寄せらる。

フジキ

藤木村 秋田縣羽後國仙北郡の南部。北は大曲町、東北は六郷町、西南は平鹿郡角間川町に隣接す。面積九・三二方町。横手盆地の略ぼ中央部に在り、概ね平坦にして、堆積物は村の西部を北流し、厨川は東南方より来り之に合す。農業を以て村の主産業とし、米・大豆を産す。背中富・七面鳥の特産物もあり。羽州街道は村の西北部を斜斷し、北方の大曲町、東方の六郷町へハスの便あり。また中南部を東西に通ずる道路ありて、西方の角間川町、東方の奥羽本線飯詰驛へハス通ず。村内四十二箇の古蹟は昭和九年に史蹟保存假指定となる。〔フジキの西口〕伏黒村 福島縣岩代國伊達郡の西部。東は保原町に、西北は桑折町に、西南は信夫郡に接す。福島盆地に屬し、西南部に丘陵ある外概ね平坦にして、阿武隈川は西境と北境をなして東北に流る。米・木を産す。道路は村の中部

をほぼ東西に通じ、保原町・桑折町へハスの便あり。福島電氣鐵道伏黒停留所を置く。大字鎮時は古くより歌枕として知らる。金峯・八ツみちのくのおもひしのおにありながらこころにかかる逢の松原 太宰大貳長實。

フシコ

伏古 北海道十勝支庁河西郡にありし村。大正四年に廢され、帯廣町(のち市制を布く)・芽室村へ編入。〔フジコト〕藤原村 秋田縣羽後國山本郡の東北郡。二ツ井町の北方約九方町。東は北秋田町、北は青森縣に接す。面積一四一・二二方町。西北境に冷水嶺(一〇四三米)聳え、それより南方に駒ヶ嶺(一一五八米)・茂谷山(四五〇米)等の山嶺連りて西境をなし、その東に三蓋山(九五二米)・物見山(八五三米)聳え、東境は釣瓶落岬より南方に支脈延びて高嶺戸山(五四一米)・蔵ノ方山(四六六米)聳ゆ。鷹取川は北境に發源し、村の中部を南流し沿岸に稻穂地拓く。米・馬鈴薯・木炭・木材等を産す。また村内には金銀銅鉛鋅硫磺などの諸礦區あれども何れも發見す。中に多少知られたるものに黒石銀山・大良銀山あり。前者の礦種は金銀銅鉛鋅、後者は銀銅鉛鋅とす。後者は米代川の一支なる鷹取川の上流に沿ひ、古く文永年間を開採せらるると傳ふれども、いまは採掘せず。道路は村の中部を南北に通じ、南方の奥羽本線二ツ井驛へは約九方あり。また秋田縣營林署敷設

による軌道あり。人口密度は一方町につき三人なり。本村は桓武天皇の御宇に建設せられたる村なりといふ。當時、黒鷲丸といふ者、村内館ノ傍に居して近郊に威を振ひしも、坂上田村麿東征の際亡出。時に琴あり、彈するに天下無類の名琴なり。故に將軍これを名付けて「不二琴」と稱せしが、のち村名となり、さらに鷹琴に轉ずといふ。村内に大澤瀧之瀑布(高三一米、幅二米)・小比内西大澤布(高二一米、幅四米)・一の坂瀑布(高一六米、幅二米)・瀧之澤瀑布(高一六米、幅四米)・湯の澤瀑布(高一九米、幅四米)あり。

フジサカ

藤坂村 青森縣陸奥國上北郡の南部。三本木町の東と南に接す。村は南部の奥入瀬川沿岸地帯と北部の丘陵地帯とに分たれ、南北兩地帯は細き紐狀の麓下地帯によりて連繫せらる。南部地帯の北と南は山地をなし、奥入瀬川はその中部を東流し沿岸に水田拓く。北部地帯は三本木町の東部にありて臺地狀をなす。米・蕎麥・大豆等を産し、また紅薯を産す。陸羽街道は西南部をほぼ南北に通じ、北方の三本木町へは約四方、ハスの便あり。北部には社林十和田鐵道通じ高清水驛(大正十一年設置)を置く。もと相折村と稱せしが、明治二十二年藤坂村と改む。大字藤坂は羽州街道の藤島宿のありし所。明治天皇、明治九年秋羽御巡幸の際、及び明治十四年山形・秋

田及び北海道行幸の際、此の地に御小休あらせらる。

フジサキ

藤崎町 青森縣陸奥國南津輕郡の西部。弘前市の東北方約六方町。西・西南は岩木川・淺瀬石川を隔てて中津輕郡に臨む。面積九・二五方町。津輕平野の南部に位し全村概ね平坦なり。淺瀬石川は町の南境を西流し、岩木川に合す。岩木川は西境を北流す。町は農業を主産業とし、米を産す。又附近は苹果の好産地にしてこの栽培に従事せる町民はその六、七割を占め、その産額多し。羽州街道は町の西南方より来りて東方に向ひ、又これより西北に分岐する道路あり。弘前市へ自動車便あり。省線五能線藤崎驛(大正七年設置)を置く。また東南方の奥羽本線川部驛へは約二方あり。大正十二年町制を布く。藤崎は一に藤先に作り、安東氏の故城なり。藤崎城は當地方の古城址中、最大のものなり。安東氏は長體彦の一族にて、上古以來、東北婚居の豪族として知られ、安倍仲磨・安倍貞任もその一族に當り、貞任の二男高星は此の城主たりし事あり、高星五世の孫、安東太郎義勝は新田義貞に從ひ、その子貞季は北畠顯家に從ひて王事に盡力して、攝津安倍野に戦死す。安東の子孫藤崎城主たりしが、津輕爲信これを攻略し、天正十三年廢城となる。陸奥阿倍氏の族、この地に藤崎氏を稱せり。〔鹿島神社〕大字藤崎に鎮座。祭神、武

妻連命。社傳に延暦十二年に征夷大將軍坂上田村麿の開立勸請なりといふ。例祭七月三日。

フジサト

富士里村 長野縣信濃國上水内郡の北部。長野市の北約二〇方町。村は飯綱山・雲仙山(一八七一米)の火山の東北斜面に位置し概かに東に傾斜す。村の北部の黒姫・妙高・赤倉の諸火山と共に近時冬季スキー場として開發せらる。高田市は北方約四〇方町にあり。南方約一〇方町の豊野との間に南北に殆ど直線的なる狹隘を作り、一地溝線たる事を思はしむ。村は即ち北信と北陸の兩地方を通ずる北國街道と信越本線がかり、信濃川支流の鳥居川は戸隠山(一九一七米)と飯綱山の間に發し、村の北境を流れ東北隅より南流して信濃川に注す。米・麥のほか養蠶も行はれ林業も發達す。

フジサト

藤里村 岩手縣陸奥國江刺郡の西南部。水澤町の東北約一〇方町。西端は岩谷堂町に接す。北上山地の西斜面に屬し、東境には長倉山(三九二米)・鏡子山(三六五米)を、はじめ山地連りて西方に傾斜し、全村丘陵起伏して、伊手川は東方より來り、南境より支流を合して西北に流れ村の西北部に於て東方より一支流を合し、西南方に流る。農を主なる産業となし、米・大豆・小麥・大豆等を産し、又製炭行はる。道路は村の中部を東西に通じ西方の岩谷堂町へ約五方、ハスの便あり。

東北本線水澤驛(約一一方町、同線金ヶ崎驛へは約一三方あり。延暦年間信濃國の民、隈川(いま伊手川)流域に移り來りしを其始めとす。和名抄の江刺郡信濃郷はこれにして、信濃國に因みて名付けしもの。坂上田村麿蝦夷を征討せし折、本村富士山に將軍寺を建立す。鎌倉時代は葛西氏の統べたりしが、安土桃山時代に入りて葛西氏亡び、のち伊達氏の勢力下となりて明治に及ぶ。村内に豊田館址あり。〔豊田館〕大字藤田にあり。藤原経清とその子清衡の居城なりと傳ふ。東西五十七間、南北三十九間、當時、いま西方約一里の處を流るる北上川は、この所の西邊を流れしと傳へ、即ち河岸段丘の上を造れるものなるも敢て要害といふにはあらず。經清は曾て陸奥權守たりし人にて、互理太夫と稱せしが、安倍頼時的女婿たりしが故に、頼時の叛にくみし、この館に住みて諸處に轉戦し、遂に厨川橋の破れし時、生虜となり斬首せらる。後その子清衡は奥六郡を領するや父の遺地をつぎてこの城に據り、のち平泉に移れりと云ふ。移居の年代は東鑑に康保年中といひ、また別に嘉保元年となす説あるも確かならず。

【藤里村】宮城縣陸奥國栗原郡の東南部。高清水町の東に隣り、東は登米郡、南は遠田郡に接す。陸前平野の北部に位する。山岳丘陵に屬し、全村概ね丘陵をなし、東東南の方向に走る。川は村の北部・中

部を丘陵に沿ひて東東南に流れ燕栗沼に注ぐ。村の東南部なる燕栗沼の西岸は洪瀧地をなし米・麥・蕎麥・木炭等を産し、また鱒・河魚を産す。道路は村の中部をほぼ東西に通ずるものと、東部を南北に通ずるものあり。東北本線藤崎驛(明治二十三年設置)あり、社線仙北鐵道を分岐し村内に藤里驛(大正十二年設置)を置く。この地は和名抄、新田郡村郷の内なるべく、往時は浦生氏の馬場に踏みにじられし所なり。

フジサワ

藤澤町 岩手縣陸奥國東磐井郡の南部。千厩町の南約六方町。南は宮城縣に接す。北上山地の南部に位し、南方には蟹河山(四一八米)、西南境には三峰山(三一六米)聳え、北方に傾斜し、西北境には鳥森山・高島見山(三一四米)聳え南方に傾斜す。又東境には葉山(二四一七米)聳ゆ。全町山地多く、本郷川は西南方より、大平川は西北方より來り、町の北西部にて合して黄海川となり西流す。沿岸に耕地あり。農業・林業を主とし、麥・木炭・蕎麥を産し、又牧羊・養蠶等行はる。道路は町の西南より東北に通じ、市街は之に沿ひて東北部にあり、北方の千厩町へは約七方。この道路より西方に分岐せる道路は約一五方にして東北本線花泉驛に達す。各車馬の往来あり。當町と黄海村・澤衣村との境の邊には第三紀層發達し、り多くの金銀鐵礦あり、されど當町と黄

海村とに跨る一金銀山が昭和十年に事業を開始せるはか見るべきものなし。大正十五年に町制を布く。この地は坂上田村麻呂が蝦夷を討討し信濃・上野の民を移住せしめたるに始り、其後、藤原清衡・基衡・秀衡の三代の治に歸せしが、文治五年、泰衡が源頼朝のために敗亡せしより葛西清重の領となり、その一族、岩瀨氏の領地となる。岩瀨氏は天正十八年、豊臣氏のために破られ、その後伊達政宗の領する所となり、伊達氏の臣、大町源十郎、のちに新田宗三郎の領となり、元禄二年に奥山氏の領地となりて明治維新に至る。

【藤澤村】茨城県常陸國新治郡の西南部。土浦町の北隣にて櫻川に沿ふ。大部分は臺地にて畑地をなし、南境を東南に流る櫻川の流域は平地にて水田多し。農業を主とし米を産し、養蠶も行はる。縣道は土浦町に通じバスあり。社稷宮、波瀲道は南部を西北に走り、常陸藤澤驛(大正七年設置)を置く。昭和十三年に大字並掛を土浦町に編入す。村に藤澤城址あり。天正元年、小田氏治は太田三樂のために追られ、小田城を出でてここに據る、のち小田を復し歸住す。同十三年に本城を修めて再びここに居る。同十八年氏治逃れ去り本城も廢す。また藤原屋敷と稱するものあり。藤原藤房の富國配流の時の居所なりといふ。

【藤澤】上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に勢多郡藤澤郷あり、布知左波と訓す。いま勢多郡内ならんも評ならず。

【藤澤村】埼玉縣武蔵國大里郡の中部。豊岡町の南隣にある小村なり。武蔵野臺地の一部を占め、畑地多く、麥・茶・米を産し、養蠶行はれて繭の産多く、また織物の産もあり、豊岡町に縣道通じ、バスあり。社稷武蔵野鐵道は東部を北走し、武蔵藤澤驛(大正十五年設置)を置く。

【藤澤村】埼玉縣武蔵國大里郡の中部。深谷町の南隣にあり。全村平地にて農業行はれ米・麥の産多く、養蠶盛にて繭の産頗大なり。二條の縣道は深谷町に通じ自動車あり。同町に省線高崎線深谷驛(明治十六年設置)を置く。此地は和名人見原に屬す。大字人見は太平記に武蔵國の住人、人見四郎入道、恩阿女子討死の事あり、これ此地に在名を稱せしものなるべし。康正元年の頃、此地に合衆ありし事は諸書に見ゆ。

【藤澤町】神奈川県相模國高座郡の東南隅。相模灣に臨み、東は鎌倉郡片瀬町と隣る。北中は丘陵地をなし、南半は平地にて畑地多く、甘藷・麥・蕎麥・馬鈴薯等を産す。海岸は平坦なる砂濱をなす。東海道は中央を西走す、主なる乗落はこれに沿ひて發達し、舊東海道宿驛なり。省線東海道線これに沿ひ、東部に藤澤驛(明治二十二年設置)、西部に辻堂驛(大

正五年設置)を置く。また社稷小田原急行鐵道江ノ島線は東部を南走し、藤澤驛にて省線と交叉し、他に藤澤本町驛・本館驛・鶴沼海岸驛を置く。其他、鎌倉町との間に江ノ島電氣鐵道あり、海岸に沿ひて中郡大磯町に通ずる觀光道路もあり。此地は和名抄、高座郡大庭郷・上甘郷に屬し、東海道の藤澤宿のありし所。明治四十一年、藤澤大坂町・鶴沼村及び明治村を廢し新に藤澤町を置く。舊郡役所のありし所に、いま警察署・稅務署・大藏省預金部資金局出張所・湖南中學校・商業學校・中學校・女學校等あり。附近はまた海水浴場として知らる。大字辻堂は享保年中に江戸幕府の砲術場を開きし所なり。大字鶴沼はクワイエマの轉訛。相模灣に面し江ノ島を望み風光明媚なり。別荘地・海水浴場として著はる。【藤澤】明治天皇、明治元年に京都還幸の際、同二年東京御幸の際、同六年前根及び鎌倉行幸の際、同十一年北陸・東海御還幸の際、同十四年相模小田村行幸の際に、同二十四年近衛第二期小田村御幸の際のために、此地に風箏をどめさせらる。大字大庭の地に中世に大庭御所あり。鎌倉五郎景政の寄進に係り、子孫長く其下司職を奉じ、大庭を以て氏となす。よりて其領内を大庭庄とも稱せり。源頼朝を石橋山に破りし大庭景親、また頼朝に從ひし大庭景義は共に本村の人とす。同所に大庭城址あり。扇谷上杉氏の遺蹟に

に位し、土地概ね平坦にして、藤島川は西境を、京田川は略ぼ中部を各北流す。米の産多し。越後街道は北部を略ぼ東西に通じ、鶴岡市へはバスの便あり。羽越本線藤島驛は隣接せる渡前村に置く。この地は和名抄、出羽郡大庭郷の内なるべく、羽黒山別宮土佐林氏の治せし地。本郡の首邑にして舊郡役所のありし所。いま鶴岡區裁判所出張所及び庄内農學校あり。明治天皇、明治十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際の地に御小休あらせらる。【藤島城】往古より土佐林氏を領し羽黒の別宮職を兼たりしが、のち武藏氏氏は土佐林氏を屈倒し、羽黒山の別宮職を移り遂に土佐林氏を己が家臣となす。莊内を上杉氏が領するに及び天正十八年に藤島城を修し、栗田刑部に之を守らしむ。慶長年代不詳。

【藤島】福井縣吉田郡の九頭龍川南岸にありし莊名。いま東藤島・中藤島・西藤島の三村となる。延元三年閏七月、北國經營の任に當りし新田義貞は九頭龍川の北の河合城(吉田郡石森村の内)に陣し、越後よりの援兵を持ちて越後足利高經の軍を屠らんとせり。時に高經は白山蓋の平泉寺の僧徒を誘ひ河南に足羽七城を構へてこれに備ふ。藤島城はその一城にて東端に位し、その位置は今の東藤島村の藤島なり。義貞乃ち兵を分ちて七隊としこれ等の七寨に配置せり。既にして義貞は藤島の兵の動搖するを見て五十騎が

して、北條早雲の小田原城を陥るや、この城も亦その攻略するところとなる。當流小栗判官・四「名のみ鬼王鬼次が、心は佛の道に入り、浮世の絆ざんざりの、聲も亂る藤澤や、御寺をさして急ぎける、折しも上人力者共に雲興昇かせ御歸寺ある、兄弟門前に露き、御剃刀を執き候と發心の趣を一々残らず申し上ぐる」丹波與作待夜の小室節「小田原外郎、大磯、平塚、藤澤のさばりもなしに雙六のさいさも宜し、門出よし」箱根草「二下「おかしな事を聞ナア、おめへの領は寔に萬赤だが夫が何様した。實情に赤い。エ、ひつツこい、一度言へば澤山だア。其處で壘の泊りが藤澤で吾儕の顔が赤いなら、一トつ地目らう。我輩の赤をもいつか奪はれん、壘はゆかりの藤澤の前」【藤澤御方供養塔】指定史蹟。時宗總本山清淨光寺(遊行寺)境内にあり。方柱形の石塔にして中央や上方は折損し基石の上には建つ。應永二十五年十月の建設なり。應永二十三年十月より翌二十四年に互る間、上杉禪秀の亂に毀滅せる敵味方の人骨を供養せんがため建てたる銘あり。銘記ある塔婆として古きものに屬す。【大庭神社】大字大庭に鎮座。郷社。祭神、神産靈神。舊稱、天神社。式内小社に列し、當國十三座の一にして古來當村の鎮守たり。例祭、九月二十八日。【清淨光寺(遊行寺)】時宗大本山。藤澤山無量壽院と號し遊行念佛の根本道

りを奉ふて建つ授はんとして燈明寺願を遺む。途に賊兵三百と遭遇す。賊矢を發すること雨の如くなりしが、この時義貞の兵は福を有せず。將士身を以て義貞を庇ひしが、義貞の馬先傷つて仆れ、ついで義貞もまた流矢に中り斃せり。この地いま史蹟に指定さる。

フジサロク 富士山麓電氣鐵道

【藤澤町】山形縣羽前國東田川郡の北部。鶴岡市の東北約七軒。庄内平野の東南部

【藤澤町】山形縣羽前國東田川郡の北部。鶴岡市の東北約七軒。庄内平野の東南部

場たり。開祖一週の諸國を遊行し念佛教化を行ひしに似、歴代の宗主は廻國遊行をなす故に俗に遊行上人といひ、本寺をまた遊行寺と呼ぶ。延元三年足利尊氏は寺領六萬貫を寄せ且つ堂宇を修理す。後光嚴院より清淨光寺の勅額を賜はる。尊嚴法親王、本宗第十二世の法燈を製ぎ給ふや、阿波當寺は南朝の門跡となり、朝嗣、親王格に準せらるる例となる。爾後、足利氏を初め上杉氏・北條氏・武田氏等の歸依厚く、近世は徳川氏寺領百石の朱印を附し寺運大いに振ふ。寺寶中、後醍醐天皇御像(絹本着色)一幅は國寶。【安命寺】曹洞宗。寺寶の樂師如來坐像(木造)一軀は鎌倉期の作と推せられ國寶たり。【永勝寺】大字藤澤にあり。眞宗本願寺派。風谷山祥瑞院。親覺上人は、北條時氏の請により一切經校合の際に本寺に宿すや、時氏歸依し一寺を草して聖人をこれに居らしむと。

【藤澤村】長野縣信濃國上伊那郡の東北隅。高遠町の北方約七軒。諏訪盆地より伊那谷に至る樺木街道は村の中央を通過す。天龍川の支流なる藤澤川は村内に發し、高遠を過ぎ辰野町の南部にて本流に合す。村はこの藤澤川の從谷を占むるものにして、三方は山に圍まれ僅に南方へ川に沿うて開け長藤村に出づ。東は三義村、西は鉢伏山(一四五五米)・守屋山(一六五〇米)聳え、東箕輪村と湖南村(諏訪郡)に接す。北方、杖突峠(一四七七米)

を造れば諏訪盆地の宮川村に達す。樺木街道は一名杖突街道とも呼ばれ、中央線の前野茅野を過ぎ甲州並に中信地方に連絡し、更に大門街道より上田・長野に通ずる舊街道にして極めて重要な街道たりき。附近十六箇村は入の谷山中と云はれたり。林業を以て主業とする村は各部落毎に氏神に山神を祀る。近年は養蠶業普及し畑は桑園化多く、山村度は次第に低められつつあり。谷底は黒河内と並ぶ可なり。この地は東端に黒河内と並ぶが義せ、諏訪社領たり。また同書の建仁元年、越後城氏謀叛の時に、信濃住人、藤澤四郎清親とあるは此地の人なるべし。なほ徳川時代の高遠藩には木炭の産地として多く、純山村の色彩を持ち木炭がその主要なる年貢たり。

フジサワオオサカ 藤澤大坂

【藤澤町】山形縣羽前國東田川郡の北部。鶴岡市の東北約七軒。庄内平野の東南部

【藤澤町】山形縣羽前國東田川郡の北部。鶴岡市の東北約七軒。庄内平野の東南部

北境は海抜五七〇米にして南方に傾斜し、町の北半部は山地をなすも南半部は扇状地に属して積平坦なり。阿武隈川の支流南部を東南方に流る。米・蕎麦を産し、藤田郡よりは櫻桃出荷せらる。陸羽街道は南部を西南より東北に通じ、藤田町へ入る。東北本線藤田駅(明治廿三年設置)を置く。大正四年に藤田村を藤田町と改む。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際、同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、本町に御小休あらせらる。この地は青森州街道の藤田宿にて、東鑑文治五年八月大木戸厚信山合戦の後に、九日の夜藤田宿より鳥取越の間に取られて通みし山見ゆ。藤田郡の西の山に城址あり、往時より藤田氏累代ここに居り、伊達家譜第の家臣たりしに、延寶六年、右兵衛宗景に至りて、跡ありて家亡ぶ。大字石母田は石母田氏發祥の地にして、天文年中、石母田安房守源光頼あり、伊達氏の十四代植宗に仕へ、子孫は仙臺藩の名家に數へられ、栗原郡高清水の邑主となる。(石母田伊達石塔)本町石母田龍雲寺境内本堂の西側にあり。僧智戒が亡親の供養碑にして柱形の碑なり。碑面上部に大日の梵字あり、その下に元僧寧一山筆の銘文あり。

【藤田村】埼玉縣武蔵國児玉郡の東北隅。利根川の南岸にて本庄町の東隣にあり。東より南は大里郡の一部と隣り、北は群馬縣佐波郡の一部と接す。全村平地にて米を産し、發達盛にて藤の産多し。中山道は南部を西走し本庄町へ入る。村の中程より佐波・越後及び上野國沼田・縣橋邊への往來の分る所に往昔は佛堂を建て往還の榜示となせしより、傍示堂の大字名起りしと。こゝは舊箕野郡と藤田との郡界を示せしものなり。【藤田】武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に榛澤郡藤田郷あり。その地今の大字郡橋本村・寄居町の邊なるべし。【藤田村】和歌山縣紀伊國日高郡の西部。日高川の右岸に沿ひ御坊町の北に接す。村形は南北に細長し。北境に城ヶ崎(三〇九米)ありて北半は其斜面地をなす。南半は低平なる平野をなし東南の村境に沿ひて日高川西南流す。米・蕎麦を産し工業頗多し。特産には柑橘あり。南部は縣道四通八達し、御坊町へ入るの便あり。省線紀勢西線は南部を横斷し、道成寺驛(昭和五年設置)を置く。【藤田村】岡山縣備前國児玉郡の東北隅。兒島灣の西岸に位置し、興除村の東に隣接す。面積一五・一〇方町。もとは兒島灣の一部なりしも、河川の土砂に依る自然の埋立及び近年の干拓事業に依りて出現せる土地なり。土地は一般に低平肥沃にして農業盛なり。米・蕎麦を産し、また蕎麦の特産物となす。妹尾町・興除村にハスの便あり。明治四十五年に兒島灣埋立地を以て本村を置く。村名はこの開拓事業が大坂の藤田組に依りて完成されしに因るものなり。

【藤田村】山口縣玖珂郡にありし村。明治三十七年に益前村と共に廢されその地域を以て坂上村を建つ。【藤津郡】佐賀縣肥前國の西南部。佐賀縣八郡の一。多良岳・經ヶ岳の北斜面より北は鹽田川沿岸を占め東は有明海に面し、西・南は長崎縣東彼杵郡・北高來郡に界す。南境中央に經ヶ岳(一〇七六米)・多良岳(九八三米)等聳え、中・南部一帯はその斜面をなし東麓は海岸に迫るも、東北麓は特に淺き放射谷によりて切られたる渡狀緩き傾斜をなして海岸に及ぶ。北境附近には小丘陵陸續し西北隅に虚空藏山(六〇八米)あり、中央には虚空藏山(二八八米)、東部に杵島山(三四二米)・白岩山(三四一米)等あり。西北隅の虚空藏山に發する鹽田川は北部を東流して有明海に注ぎ、河口附近南岸に稍廣き平野開け、中川東流して海に入る。海岸は比較的屈曲乏しく砂洲發達す。南端に一三〇米の丘陵海中に突出し其南に竹崎港あり。付内處々に温泉あり。

【藤津郡】佐賀縣肥前國の西南部。佐賀縣八郡の一。多良岳・經ヶ岳の北斜面より北は鹽田川沿岸を占め東は有明海に面し、西・南は長崎縣東彼杵郡・北高來郡に界す。南境中央に經ヶ岳(一〇七六米)・多良岳(九八三米)等聳え、中・南部一帯はその斜面をなし東麓は海岸に迫るも、東北麓は特に淺き放射谷によりて切られたる渡狀緩き傾斜をなして海岸に及ぶ。北境附近には小丘陵陸續し西北隅に虚空藏山(六〇八米)あり、中央には虚空藏山(二八八米)、東部に杵島山(三四二米)・白岩山(三四一米)等あり。西北隅の虚空藏山に發する鹽田川は北部を東流して有明海に注ぎ、河口附近南岸に稍廣き平野開け、中川東流して海に入る。海岸は比較的屈曲乏しく砂洲發達す。南端に一三〇米の丘陵海中に突出し其南に竹崎港あり。付内處々に温泉あり。

【フジテタ】藤田村。青森縣上北郡にありし村。明治二十二年に四和村と改稱す。

【フジト】藤戸町。岡山縣備前國児玉郡の北部。倉敷市の西隣、都窪郡茶屋町の南に接し、東は倉敷川を以て興除村に界す。面積四・八三方町。地勢は概ね平坦なるも諸處に小丘の起伏を見る。倉敷川の本支流澁瀬して耕地長く拓く。米・蕎麦・粟・粟・藜・藜等栽培せらる。社線下津井便鐵道の天城驛に近し。倉敷市へ縣道通す。大正十四年に町制を施行す。赤木・元野の昔、源平二氏の戦へる藤戸古戰場は本町及び松江村に亘り、いま史蹟に指定さる。元暦元年二月、平家一ノ谷に敗るるや讃岐屋島に據る。その一隊たる平行盛等は別に備前兒島に城きて據る。同年冬、源範頼の軍これを攻めんとす。然も藤戸ノ流を渡る事を得ず。佐佐木盛綱は竊に土民に淺瀬を開き手兵六騎にて之を乘切り敵の不意を襲うて直に陥る。範頼この報を得て激賞措かず、盛狀を興へ兒島の地を賜ふ。世にこれを藤戸渡戦といふ。盛綱が騎渡の功を収めし藤戸の流はいま廣く田野と化せしが、櫻木・經ヶ岳・先陣地・笠無山・鞍掛岩等當時を偲ぶ地名を存す。(藤戸寺)大字藤戸にあり。古義眞言宗。御室末。僧行基の開創にして、往古は七堂伽藍完備せし名刹たりきといふも、今は寺運退轉す。

【フジドミ】藤田村。熊本縣肥後國鹿野郡の南部。熊本市の西南境より南方約二軒たらずにあり、面積三・一九方町。小村なり。全村地形低平にして田畑よく拓け米産多し。特産に七島蕎麦あり。東南方の川尻町に近くして、こゝはハスの往來するあり。また省線鹿兒島線川尻驛は東方約〇・五軒を距つるのみ。村名は明治二十二年に鹿野・倉敷の二村を合して本村を建つの際、各その一字を取りて名付けしものなり。

【フジネ】藤根村。岩手縣陸中國和賀郡の中部。黒澤尻町の西北約八軒。北上平野に屬し土地概ね平坦なり。尻平川は北境を、和賀川は南境を各東流し、村はそれ等諸川による扇狀地をなす。西部は森林・原野をなせども西南部には水田拓く。農を主たる生業となし、米・蕎麦・大豆・藜等を産し牧畜も行はる。和平街道は南部を東西に、瀬川街道は中部を西南より東北に通じ交通便なり。省線横濱線藤根驛(大正十年設置)を置く。本村は町制施行の際、藤根・長沼・後藤の舊三箇村を合して成れるものなり。

【フジノ】横野川。山口縣吉敷郡を流るる川。上流を仁保川といふ。仁保村の北部物見岳(七四六米)の東南麓に發源して西南流し、大内村の中部にて西流し、山口市の南部を過ぎりて西南流し、名田島村と蓋川村の境上を流れて海に入る。流域約三二軒、沿岸は概ね低平にして浦水に富み耕地よく拓け、下流は舟楫の便あり。

【フジノ】藤野。愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され櫻井村を置く。

【フジノ】藤野。愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され櫻井村を置く。

【フジノ】藤野。愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され櫻井村を置く。

【フジノ】藤野。愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され櫻井村を置く。

【フシテ】藤田村。青森縣上北郡にありし村。明治二十二年に四和村と改稱す。

【フシト】藤戸町。岡山縣備前國児玉郡の北部。倉敷市の西隣、都窪郡茶屋町の南に接し、東は倉敷川を以て興除村に界す。面積四・八三方町。地勢は概ね平坦なるも諸處に小丘の起伏を見る。倉敷川の本支流澁瀬して耕地長く拓く。米・蕎麦・粟・粟・藜・藜等栽培せらる。社線下津井便鐵道の天城驛に近し。倉敷市へ縣道通す。大正十四年に町制を施行す。赤木・元野の昔、源平二氏の戦へる藤戸古戰場は本町及び松江村に亘り、いま史蹟に指定さる。元暦元年二月、平家一ノ谷に敗るるや讃岐屋島に據る。その一隊たる平行盛等は別に備前兒島に城きて據る。同年冬、源範頼の軍これを攻めんとす。然も藤戸ノ流を渡る事を得ず。佐佐木盛綱は竊に土民に淺瀬を開き手兵六騎にて之を乘切り敵の不意を襲うて直に陥る。範頼この報を得て激賞措かず、盛狀を興へ兒島の地を賜ふ。世にこれを藤戸渡戦といふ。盛綱が騎渡の功を収めし藤戸の流はいま廣く田野と化せしが、櫻木・經ヶ岳・先陣地・笠無山・鞍掛岩等當時を偲ぶ地名を存す。(藤戸寺)大字藤戸にあり。古義眞言宗。御室末。僧行基の開創にして、往古は七堂伽藍完備せし名刹たりきといふも、今は寺運退轉す。

【フシテ】藤田村。青森縣上北郡にありし村。明治二十二年に四和村と改稱す。

【フシト】藤戸町。岡山縣備前國児玉郡の北部。倉敷市の西隣、都窪郡茶屋町の南に接し、東は倉敷川を以て興除村に界す。面積四・八三方町。地勢は概ね平坦なるも諸處に小丘の起伏を見る。倉敷川の本支流澁瀬して耕地長く拓く。米・蕎麦・粟・粟・藜・藜等栽培せらる。社線下津井便鐵道の天城驛に近し。倉敷市へ縣道通す。大正十四年に町制を施行す。赤木・元野の昔、源平二氏の戦へる藤戸古戰場は本町及び松江村に亘り、いま史蹟に指定さる。元暦元年二月、平家一ノ谷に敗るるや讃岐屋島に據る。その一隊たる平行盛等は別に備前兒島に城きて據る。同年冬、源範頼の軍これを攻めんとす。然も藤戸ノ流を渡る事を得ず。佐佐木盛綱は竊に土民に淺瀬を開き手兵六騎にて之を乘切り敵の不意を襲うて直に陥る。範頼この報を得て激賞措かず、盛狀を興へ兒島の地を賜ふ。世にこれを藤戸渡戦といふ。盛綱が騎渡の功を収めし藤戸の流はいま廣く田野と化せしが、櫻木・經ヶ岳・先陣地・笠無山・鞍掛岩等當時を偲ぶ地名を存す。(藤戸寺)大字藤戸にあり。古義眞言宗。御室末。僧行基の開創にして、往古は七堂伽藍完備せし名刹たりきといふも、今は寺運退轉す。

村と共に合し馬駒村を置く。

フジハコネ 富士箱根国立公園

富士箱根国立公園

フジハシ 藤橋村

國掛美濃の北部。大垣市の西北方約三二...

フジバシ 富二橋

フシハラ 節原

フジマツ 富士松村

新海郡の西北端。岡崎市の西北方約一五...

伏見

伏見村

【伏見村】 岐阜縣美濃國可兒郡の西北部...

伏見

伏見村

一九〇〇年に出す。本村には東西に中山道...

伏見

伏見村

天徳の月夜鳥様、さては上町の徳様、伏見...

伏見

伏見村

に備見山陵とあるは備見山陵の誤記なら...

伏見

伏見村

萬株の花真浦の外、櫻、藤、萩等を植...

伏見

伏見村

前橋市より赤城山頂に通ずる縣道は村の...

伏見

伏見村

東部を経て北走しバスの便あり。明治初...

狀地の末端の湧水を利用して發達せしものなり。斷層地形として模式的なる地域なり。東は遙かなる斜面にて次第に八ヶ岳の火山に高まり著しき對照をなす。上記兩山地の狹隘部に川も省線中央線も甲州街道も相並行して走り、前者は富士見驛(明治廿七年設置)を設く。村は西南に富士の雲峰を眺め、東に遙かなる斜面を持つ八ヶ岳あり、西に高峻なる赤石山脈に接し九五〇米の高度にて、白樺の林も茂り夏の氣温も低ければ近年避暑地として注目せられ、第二の避暑地たるものとす。六月十日、早稲が主にて、麥は冬季及び早春の寒冷により發育良好ならず。春霖は五月廿八日頃掃立てらるるも夏秋露が主なり。なほ冬季の寒冷を利用して凍豆腐や寒天を製造す。木村は平木・横吹新田・休戸・花場新田・木間・若宮新田・松日・大平・栗生・御射山神戶の若十箇村を合せしものにして、御射山神戶村・栗生新田村は往時は諏訪氏の所領にして他の八箇村は甲斐國に屬せしが、天文十八年武田氏領の分合により全部諏訪郡となりしもの。穂屋野の御射山神社、伏屋の舊蹟あり。富士見公園は明治天皇が明治十三年、山梨・三重及び京都行幸の際に御駐蹕あらせられし所。(武知温泉)蓋無川畔にあり。泉質アルカリ泉。加熱浴用。療養向。附近は山色水光の美あり、特産に過す。

【富士見村】山梨縣甲斐國東八代郡の北部。甲府市の東南方約四軒。笛吹川の中洲島の一部を占め石和町の西南に接す。甲府盆地の中央部に當り、河に廻らされたる平坦なる沖積地なれば水利よく水田多し。農・蠶業を主とし米・麥・繭・桑を産す。豊後(里道は東西に走り河を渡りて甲府市へ約四軒、省線中央本線石和驛及び社線富士身延鐵道甲府南口驛へ何れも四軒の道程にてバス通す。此地は和名抄、山梨郡石和郷の内。大字今井は清和源氏、武田氏の族令井氏の居りし所。(小石和館)大字小石和館の成徳院の境内を其地とす。武田信濃公死し、其子信方は京畿に走る。永享中、信重は本州の守護に復し、ここに館を設く。寶徳中、小山の城主山内伊豆守に襲はれて居館焼亡し、信重自殺す。其墓は成徳院に存す。(赤城神社)大字横山に鎮座。郷社。祭神、豊城入彦命。相殿神、大山祇命外十四柱。社地は國見ヶ岳にあり、風景絶佳、古松鬱蒼たり。例祭、四月八日。

【富士見】藤水 三重縣安濃郡にありし村。昭和十一年津市に編入す。【フジミネ】父二峰村 愛媛縣伊豫國上浮穴郡の西北部。仁淀川上流をなす河川の支流露峯川の源流地を占め、久万町の西と南を圍み、西北部は伊豫郡に界する山村。四角は山岳によりて圍まれ北境には三郷ノ辻(九三二米)聳え、北境には桂ヶ森(一一二四米)屹立す。露峯川は

の崇峻篤し。古來富士山根本宮と稱し、江戸時代を通じて朱印領二百六十石餘を有せり。明治十年に大宮の淺間神社の郷社と定めらる。(久遠寺)大字小泉にあり。本門宗。富士山。建武元年に日經の開創に係り、現に本宗七本山の一。舊寺領四十石を有す。【フジヤマ】富士山村 長野縣信濃國小縣郡の北部。上田市の南約六軒。九子町の西約四軒。中央に小池ありてそれより西南一帯は稍低平なる高原地を成し、耕地部はここに發達するも、北東部の三方に徐々に高く、東北境には七九七米の山あり。地勢上山地はその大部分を占め、低地には水田・桑園拓げ、米・繭・麥等を産す。縣道は上田市より來りて村の中部を東走し九子町に至り、交通はさして不便ならず。【フジヤマ】藤山 山口縣阿武郡にありし村。昭和六年に宇部市に編入す。【フジユ】浮因 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に碓氷郡浮因郷あり、浮は浮の誤なり、即ち夷浮の居りし地をいふ。その地今の碓氷郡島田村・群馬縣倉田村の邊なるべし。【フジユ】藤生 山口縣玖珂郡瀬村の大字。梅井線の藤生驛(明治三十年

設置)を設く。【フシユ】武州鐵道 社線。埼玉縣南埼玉・北足立二郡に跨る。東北本線蓮田驛より起り神根驛(北足立郡神根村)に跨る。全長一六・九軒。軌間は一・〇七七米にして蒸氣及びガソリンを併用し省線と連絡運輸をなす。【フシユミタケ】武州御嶽 武蔵國(東京府)の御岳山の別稱。【フジヨ】扶助 東海中部線の一驛(大正七年設置)。朝鮮慶尙北道慶州府江東面にあり。【フシワラ】節原 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に御井郡節原郷あり、其地は今の久留米市に當る。【フジワラ】藤原 栃木縣下野國鹽谷郡の中部。鬼怒川の上流に沿ひ面積大にて、北は鹽原町、南は河内郡の一部と隣る。東境に那須火山帯の高原山(一七九五米)あり。北境には高原山に續く。二方島屋山(一二六二米)・豐原山(一一〇一米)あり。また西境には葛老山(一一二四米)・大日向山(一一七七米)・月山(一二八七米)等の諸山連なり。これ等の山々はいづれも東西より町内へ傾斜し、町の中央はその掘合に當り、鬼怒川は掘谷をなして南流す。山地一帯は闊葉樹林多し。南部には川沿ひに狭き平地ありて米・麥を産し、蠶業も行はる。鬼怒川鹽谷一帯は山嶽・清池に臨みて風光佳なり。また鬼怒川

川沿の温泉ありて良き遊覽地となる。また發電行はれて鬼怒川發電所あり。會津西街道は川沿ひに北走し、桑原はこれに沿ひて發達す。下野電氣鐵道線またこれに沿ひ、町内に新高橋・鬼怒川温泉・新藤原(以上大正十一年設置)・鬼怒大湯・小佐越(以上昭和五年設置)・鬼怒立岩(昭和八年設置)の六驛を設く。また當町の所々に第三紀層よく發達し、而して金銀銅鉛亜鉛の礦脈頗る多し。されど現在採行中にて見るべきものとしては、高田高徳嶺山と南澤嶺山の二嶺山を挙げべく、何れも重要な嶺山たり。前者の嶺種は金銀銅鉛亜鉛鐵にて、昭和十年には、金銀銅鐵九八七五を産し、後者の嶺種は、金銀銅鉛鐵にて、同年には金銀銅鐵八三八五を産す。これに次ぐものを二、三挙げれば、高徳嶺山は金銀銅鉛鐵鉛山にて、昭和十年金銀銅鐵七九〇五を出し、豐徳嶺山は金銀銅鉛鐵鉛山にて同年金銀銅鐵三八七五、亞鉛鐵六五を出し、久富嶺山は金銀銅鉛鐵鉛山にて、同年金銀一四四五を出す。なほ幾多の嶺山あり、主

なるもの別表の如し(産額は昭和十年の年産、準は準重要嶺山)。昭和十年に町制を布く。鬼怒川・川沿の二温泉を有し近年頗る發達す。此地は明治戊辰の役、東軍が駐守四月を以て會津南方の拒を爲せし要害とす。明治元年、宇都宮藩主戸田氏の族戸田忠至山陰修補の功を以て藩屏に列し、此地に移りて高徳嶺と稱す。同三年下總曾我野に移封さる。(鬼怒川温泉)弱食鹽泉、無色透明。二百八十年前、沼尾重平ほか六名が鬼怒川を渡る際發見すと傳ふ。鬼怒川に臨み、東に高原山、西には日光山堂を負うて眺望雄大な(川沿温泉)無色透明の食鹽泉。概して朝風並に行樂向。日光諸山・高原山の兩嶺に挟まれたる鬼怒川溪間にありて、鬼怒・男鹿(五十里)二川の合流點にして山水の景致勝れたり。【藤原】水山村(群馬縣)【藤原岳】鈴鹿山脈の一峯。秀名市の北西方二五軒前後に位置し、東側は三重縣員辨郡西藤原村と治田村に、西側は滋賀縣愛知郡東小梅村に屬す。標高一六五

米。南境には他ヶ岳(一一〇〇米)連る。山頂部は廣大にして深き谷にて掩はる。その西麓は惟魯親王御隱遁の地として知らる。【藤原京】奈良盆地の南部にありし都城制の帝都。持統天皇の八年より文武天皇を経て元明天皇の和銅三年平城に遷都せらるるに至るまで、三代十六年間の帝都の地に於て、その位置は飛鳥京の西北に當り、いま奈良縣高市郡葛城村を主とし八木町・畷傍町・飛鳥村に互り、飛鳥川は東南より西北に對角線に此地を貫流す。藤原京は畷傍・天香久山・耳成山の間にありて長方形をなす。その四方に大門を構へられし事は、萬葉集卷一の藤原宮の御井の歌にても明かなり。この都は天子南面の態度を取るために南を正面とせしものにして、その規模の大體はこの都に於て修撰されし大寶令の規定によりてほぼ復はる。即ち中央を南北に通する朱雀大路によりて京を左・右兩京に分ちしこと、京を南北十二條に分ち更にこれを四坊つに分けしこと、これによりて各京四十八坊總計九十六坊より成りしことなり。いま耳成山の南に東西に通する初瀬街道はこの京の北大路にして、いま藤原神宮の前を南北に通する街道はその西大路に當るといはる。然るにこの都は土地南に高くして北に低く、宮城は最も低き位置にあること、其他、種々不便の點おはししものと見え、元明天皇の和銅三年

フシユ、フシワ

Table with 4 columns: 嶺山名, 産, 礦産, 業者. Rows include 高田高徳, 久富, 南澤, 高田高徳, 久富, 南澤, 金銀銅鉛鐵, 金銀銅鉛鐵, 金銀銅鉛鐵, 日本礦業會社, 日本礦業會社, 日本礦業會社.

フシワ フセ

には、盆地の北部なる平城に遷都が決定され、翌年炎上するに及び荒廢に歸せり。なほ萬原京の中心の大路を正北に延長すれば、それは正しく平城京の朱雀に合すといふ。

【藤原村】大分縣豊後國遠見郡の東北部。日出町の東北に接し、約一軒南に至れば別府灣岸に出づ。全村概ね山地をなし、西南部には唐木山(六〇三米)に連る一帯の高き山地あり。北部には八坂川東南流す。耕地は東南部の臺地狀の緩傾斜地に發達す。米麥を産し、村内竹林多し。日向街道は中央を南北に縱斷し、北部には之より分れて八坂川に沿ひ東方の杵築町に至る縣道あり。省線日豊線は八坂川に沿ひて北部を横斷し東方約一・五軒に杵築驛あり。同線はそれより南進し日出町に出で、日出驛は南方約〇・五の距離にありて自動車の便よし。村名は藤原國人の祠あるに起ると云ふ。岡田帳には、大神正字佐宮領、近部、藤原、井手村七十町、地頭戸次太郎時親法名道惠とあり。藤原國人は初め豊後守たりし時、教化大に行はれ百姓その徳を感戴して退慕止まらず、その宅地に就き生祠を造り奉祀すといふ。(横津神社)大字横津に鎮座。郷社。祭神、豊後長長。俊長の遺命によりて儀法を以て此處に葬り、廟宇を興ししもの即ち本社なり。

【フス 輔衆 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に伊那郡輔衆郷あり、その地今の

下伊那郡内ならんも詳かならず。【フスマタ 奈田 遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に山名郡奈田郷あり、布須萬多と訓す。その地今の周智郡森町の邊に當る。【アスリン 社 臺灣花蓮港廳花蓮郡にある善社。研海庄新城山の麓標高約四〇米の地に在り、地勢は概ね平坦にて農耕作に適す。全善農業に従事し盛なり。習慣・迷信に固執するは高砂族全般の通有性なれど特に農事に關したる迷信多し。例へば、耕作地に於て變死人ありし場合は、其土地を必ず放棄す、粟藁中の糞なるを糞分隣接地に戸敷三、人口七を以て移住し來る。明治三十年・同四十年・大正三年の三度に亘り、討伐腐腐を受けたる事實あり。タイヤル族のタロコ善に屬し、現戸數一八八、人口五七二(昭和十一年調査)。

【布施村】千葉縣上總國夷隅郡の東南部。野田町の北隣、御宿町の西隣にあり。大部分丘陵地にて森林あり。東北部は夷隅川の支流に沿ひ平地をなして米・麥・蕎麥を産し、養蠶も行はる。縣道は川沿ひに南進して御宿町に通じバスの便あり。同町に省線房総東線御宿驛を置く。この地は和名抄、夷隅郡長狭郷の地なるべし。大字下布施に上總介平廣常の布施城址あり。

【布施村】長野縣信濃國北佐久郡の中部。東に二軒を距てて岩村町あり、北方へはほぼ同距離にして小諸町に達す。南には葛科山(二五三〇米)・横岳(二四七三米)の火山聳ゆ。村は葛科山火山の北方への斜面が千曲川と、其の支流なる鹿曲川の浸蝕する谷によりて中央に南北に殘されし一山麓斜面にあり。從つて北に接する川邊村、東の南御牧村、西の本牧村と共に古來御牧平原と稱せられ平安時代に既に牧場として著名なりき。これは火山麓の草地を利用してのものにて今もなほ牧馬多し。村に山麓七〇〇米より葛科山中腹一三〇米に亘り殆ど山地にして耕地少し。村の中央を流るる布施川は村の北部より東流して南に千曲川に注ぐ。この從谷の底部を利用して僅に乾田開く。村は從つて養蠶・林業を主體とする山村にして、牧畜・百澤・入布・採炭・履材等の諸産業を中心として人口二、四一六(昭和十年)、面積二〇・七三方軒。

【布施】長野縣更級郡にありし村。大正三年に藤ノ井町と改稱す。【布施市】大阪府五市の一。大阪市の東に隣接せる工業都市。河内平野の中部に在り、西北は大坂市に、東北は中河内郡

農産の約百萬圓中、米は約六七萬圓、之に次ぐを果物等の三五萬圓とす。畜産は養蠶・養鶏を主とし其の額約二二萬圓なり。【種別 工場數 産額(萬圓)】 金屬工業 二二〇〇 八〇〇 機械器具工業 一三六 六四 化學工業 一六六 六四 紡織工業 九 九 窯業 一 一 食品工業 一三 一〇 其他の工業 三三 一〇 計 二二七三 九二〇

より河内農村狀を脱するに至り、大正十四年に布施・小阪二村に町制を布き、補綴村は昭和四年に町となる。これ等の町村は漸次合同してその自治制を合理化するを必要と認め、昭和八年には布施町と高井田村は組合して布施町と稱し、十二年四月には布施・補綴・小阪の三町と意岐部・彌刀・長瀬の三村とは組合して市制を布き、布施市を建つ。(鴨高神社)大字高井田字茶の木にあり。郷社。祭神、大鴨命。白鳳二年の創建。中世この地を以て山城石清水八幡の祭りに供せられし爲また八幡宮の稱あり。元和元年大阪夏の陣に兵火に歸せしも再建せる。例祭十月十七日。(川俣神社)大字川俣に鎮座。村社。祭神、彦彦命外三柱。式内社。例祭、十月二十九日。(長榮寺)大字高井田にあり、鴨高神社の北に隣る。百濟山と號し、眞言宗高野派高貴寺末。本尊は十一面觀世音。寺傳によれば推古天皇の御宇に聖德太子の創建、本尊は太子御自作といふ。後久しく荒廢に歸せしを寛延年中に盛雲和尚再建し、一度焼失せしも文政八年に再建す。【布施】兵庫縣丹波郡にありし村。明治四十二年に外二箇村と共に合して揖西村を建つ。【布施村】島根縣隱岐國周吉郡の東北部。隠岐列島島の東北海岸に在り、日本海に面す。南は東郷村、西南は中郷村、西北は中村に接す。面積一八・四九方軒。

り、海永年中、廣常殺されしにより城廢すと。大字上布施には柵址あり、また南方の龜ノ松には古墳あり、伊弉國造の墳なりと傳ふ。【布施村】長野縣信濃國北佐久郡の中部。東に二軒を距てて岩村町あり、北方へはほぼ同距離にして小諸町に達す。南には葛科山(二五三〇米)・横岳(二四七三米)の火山聳ゆ。村は葛科山火山の北方への斜面が千曲川と、其の支流なる鹿曲川の浸蝕する谷によりて中央に南北に殘されし一山麓斜面にあり。從つて北に接する川邊村、東の南御牧村、西の本牧村と共に古來御牧平原と稱せられ平安時代に既に牧場として著名なりき。これは火山麓の草地を利用してのものにて今もなほ牧馬多し。村に山麓七〇〇米より葛科山中腹一三〇米に亘り殆ど山地にして耕地少し。村の中央を流るる布施川は村の北部より東流して南に千曲川に注ぐ。この從谷の底部を利用して僅に乾田開く。村は從つて養蠶・林業を主體とする山村にして、牧畜・百澤・入布・採炭・履材等の諸産業を中心として人口二、四一六(昭和十年)、面積二〇・七三方軒。

居津村に、東は同郡玉川村・若江村に隣り、南は同郡八尾町・久寶寺村・加美村に、西南は同郡興村と界す。地勢平坦なれども南にやや高く海拔一〇米、大和川より分流する楠根川・長瀬川は市内をほぼ南北に流れ窪屋川に入る。東西約五・四軒、南北約七軒、面積二〇・四九方軒、人口昭和十二年末既に十萬を突破す。交通は省線片町線は本市を通過し、徳庵驛(明治二十八年設置)を置き、大阪と奈良を連ぬる社線大阪電氣軌道は布施驛を置き、支線は此處より分岐して奈良縣の櫻井に至り社線參宮急行電鐵と連絡運轉し市内に徳庵・長瀬・彌刀の三驛を置く。其他、大阪市營のバス、大阪乗合自動車會社のバス、並に大阪電氣軌道直營のバス等ありて大阪市との間を運行し交通頗る便利なり。本市の昭和十二年の生産總額は三〇、七三二、九九一圓にして、内、工業二九、三三九、五四七圓、農業一、〇六一、〇一五圓、畜産三、一四、五六七圓、水産一七、八六二圓にして、工業は實に全生産額の九五強を占め本市の工業都市たる事を示す。昭和十二年末の工場數及び工業額の大要を示せば別表の如し。工業の内百萬圓以上のものを産額順に列記すれば、機械及び附屬品を最大とし、工業用藥品・セロイド・磁器・陶磁器・綿織物の順位なり。なほこれに次ぎて針金・塗料・防水布合羽・ゴム製品・紙鉛・建築用金具等は何れも五〇萬圓以上なり。

Table with 3 columns: 種別 (Industry Type), 工場數 (Number of Factories), 産額(萬圓) (Production Value in 10,000 Yen). Rows include 金屬工業, 機械器具工業, 化學工業, 紡織工業, 窯業, 食品工業, 其他の工業, and 計 (Total).

【布施村】島根縣隱岐國周吉郡の東北部。隠岐列島島の東北海岸に在り、日本海に面す。南は東郷村、西南は中郷村、西北は中村に接す。面積一八・四九方軒。

【布施】 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に新川郡布留郷あり、蓋し布留は布勢の誤なるべし。その地今の下新川郡西布

【布勢】 富山縣越中國水見郡の南部。水見町の西南方約四軒。西部に一〇〇米餘の丘陵あり東に緩傾斜し、東部を布勢川北流して流域に平地開く。米を主産とす。縣道は布勢川に沿ひて水見町に至り降雪期以外はバスの便あり。古くは和名抄、射水郡布西郷の内にして、村名は蓋しその遺稱とす。(光久寺)大字飯久保にあり。眞宗大谷派。風香山。はじめて佛生寺村古池にありて眞言宗に屬せしが、康永二年に加賀専光寺の性専、飯久保城主なる狩野中務宣久の授を得て現地に移し堂宇を再興す。【布勢】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に高草郡布勢郷あり。その地今の氣高郡松保村の邊なり。【布勢村】 島根縣出雲國仁多郡の北部。斐伊川上流山中に在り、北は大原郡に界す。西は温泉村を挟みて飯石郡に對し、南は三成村、東は龜岡村に接す。面積二・〇九方軒。山脈に圍繞せられ、西北に岩伏山(四五六米)、東南に城山(五七八米)等聳ゆ。地勢は中央に低くして盆地狀低地をなす。西南の山中を斐伊川東流して溪谷を開く。農業を主に工業・林業稍行はる。米・蕎麥・清酒・木材・木炭等を産す。社線大次郎の出雲八代驛(昭和七年設置)を有し、また松江市へバス

【布勢】 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に新川郡布留郷あり、蓋し布留は布勢の誤なるべし。その地今の下新川郡西布

フセー フセツ

通す。古くは布勢郷に作り、和名抄に仁多郡布勢郷と見ゆ。

フセ

富勢村 千葉縣下總國東葛飾郡の東北。利根川の南岸にて手賀沼西部との中間にあり。我孫子町の西隣にて、北は利根川を隔てて相馬郡と相対す。東南部は丘陵地をなすも他は低地にて、利根川附近は和沼をばじめ沼澤地多し。農業行はれて米・麥を産し、また養蠶・養鶏も行はる。駅前街道は南部を東走し、省線常磐線また之に沿ふも村内には驛なく、我孫子町に我孫子驛を置き、バスあり。この地は和名抄、相馬郡意部郷の内。いま田中に孤山あり、古は湖中の島にして、辨財天堂ありて附近に知らる。「玉梅峯」と見え、又「布勢郷」其角の句あり。「東海寺」大字布勢にあり。新義言宗聖山派。紅蓮山松光院と號し布勢辨財天と俗稱す。往昔、空海、辨財天の靈異に感じ、平城天皇に奏し、大同二年創建すといふ。平將門の亂に堂宇鳥有に歸せしが、源經基これを再興す。境内に「涼しさや眞觀にすむかの山なれば」なる芭蕉の句碑あり。

フセー

扶西面 朝鮮平安北道鐵山郡の西部。東は郡邑鐵山面に接し、西は黄海に面す。昭和十年に南隣の丁惠面を併せて面積約七七方軒。南部に五峰山・漁郎山等二五〇米内外の山地、中・北部にも所々に一〇〇米量の丘陵性孤峰あり、それら山地間には低平地ありてなる芭蕉の句碑あり。

フセキ

浮石 朝鮮慶尙北道榮州郡の北東部。南西は郡邑榮州面に近く、これと丹山面の南部を隔て、北は江原道寧越郡下東面と接す。地は南北に長く、北半部は小白山脈の山地にてその東端には先達山・鳳凰山(八一九米)、西端には紫蓋峰(八五九米)等聳ゆるも、南半部は次第に低下し、北部に發する乃城川の支流その中央を南流し南東隣の奉化郡乃城面に出づ。農牧行はれ、米・麥・大豆・大麻・莞草等の産、畜産に牛あり。等外道路は四隣に通ずるも路面改善は行はず交通便ならず。鳳凰山中に古刹浮石寺あり、新羅文武王の八年に高麗大僧の創建に傳り、その無量壽殿は高麗時代に再建せられし鮮内最古の木造建築として著はれ、義想大師像を安置する祖師殿、またこれに次ぐ古建築にして四天王・兩菩薩の壁畫あるを以て聞ゆ。

フセガン

社 遼河花蓮港臨花遼郡にある舊社。新城を隔る約四軒、標高約六〇米の地に位し、新城山を背負ひて前にタツキリ溪を控ふる東南より西北に走る幅二、三町の平地あり。原住地元トモツ社社の耕地狹隘なるために過地を求め、戸數一三、人口六三を以て現在の土地に移住し來り。タイヤル族のタロコ蕃に屬する高砂族にして、大正三年に討伐を受け歸順したり。戸數一四七、人口七二三(昭和十一年調査)。

フセキ

夫赤面 朝鮮忠清南道鐵山郡の略北中央部。郡邑鐵山面の東隣にて面積約三四方軒。東端と中部とに南北に延互する高さ一〇〇米内外の低き丘陵地帯あり、その中間と西半部とは低平地にして水田よく拓け、丘陵には椎松よく繁

フセキ

論山川の上支仁川川は南隣の可也谷面との境を西流して後西部を北流し、連山川は略北流を西に流れて漣瀆の便よく米・麥・豆・棉花等の産多し、また吠の製糖行はれ、城大嶺山よりは金銀を出す。論山より大田方面への道路は中部を横ぎり、鐵道湖南本線の論山・連山兩驛にも近く交通便利なり。

フセキ

浮石 朝鮮慶尙北道榮州郡の北東部。南西は郡邑榮州面に近く、これと丹山面の南部を隔て、北は江原道寧越郡下東面と接す。地は南北に長く、北半部は小白山脈の山地にてその東端には先達山・鳳凰山(八一九米)、西端には紫蓋峰(八五九米)等聳ゆるも、南半部は次第に低下し、北部に發する乃城川の支流その中央を南流し南東隣の奉化郡乃城面に出づ。農牧行はれ、米・麥・大豆・大麻・莞草等の産、畜産に牛あり。等外道路は四隣に通ずるも路面改善は行はず交通便ならず。鳳凰山中に古刹浮石寺あり、新羅文武王の八年に高麗大僧の創建に傳り、その無量壽殿は高麗時代に再建せられし鮮内最古の木造建築として著はれ、義想大師像を安置する祖師殿、またこれに次ぐ古建築にして四天王・兩菩薩の壁畫あるを以て聞ゆ。

フセタ

布施田村 三重縣志摩國志摩郡の南部。御座半島の中央に位し、北は英虞灣に臨み、南は熊野灘に面す。地形窪地状をなし北岸は稍屈曲多きも南岸は平直なる砂濱をなす。低地少きも畑地よく拓く。米・麥・石花菜・蠶・茶の農産及び工業・畜産あるも水産は最も著しく真珠貝・鮑等を産す。道路平坦にしてバスの往來に不便ならざるも物資の輸送は多く海上による。

フセツ

武節村 愛知縣三河國北設樂郡の北端。岡崎市の東北四〇軒。北は岐阜嶺に據す。未曾山地の餘波の南に至る花崗岩山地にして八〇〇米前後の高厚性山地を成し、南部には水晶山(七八二米)あり。北境は矢作川流れ、斷層線をなし、これと直角に武節川(名倉川)合流す、これも斷層線と思はる。山地には草地多く、農業は川の流域のみに行はれ、

フセン

赴戦 朝鮮咸鏡南道鴨綠江對面に屬する河。咸鏡南道郡の中央に横ばる赴戦嶺(一四四五米)の峰蓋落なる泉水里附近に發源し、一四〇〇米餘の熔岩臺地なる蓋馬高原上を北流し、長津郡の江口浦にて長津江に合流す。流域凡そ一〇〇軒。本江は初めは新興郡東上面の高原上を縦流するも、約五〇軒にしてこの峡谷をなして北流す。朝鮮水力電氣株式會社はこの地形に著眼して東洋第一の水力發電所設立の計畫をたて、隘溪に一大壩堤を築きて堰止め人工湖を築へ、赴戦湖と稱しその湖水を地下水路によりて自然の流れに逆行せしめ、赴戦嶺の中腹を貫通して城川江に流下し、その落差にて二〇萬キロワットの水力發電をなさしめ、之を朝鮮窒素肥料株式會社農工場に發電し、この動力によりて硫酸アンモニヤ其他の窒素肥料の製造用に供す。

フセン

赴戦嶺 朝鮮咸鏡南道新興郡の嶺。新興郡の略北中央に位し、南部の郡邑新興より北方の長津郡の江口浦間の街道にて南麓の富田里より北方の蓋馬臺地の南麓部の大嶺斜面を急に、比高一〇〇〇米を登りし所にあり、海拔一四四五米。本嶺

フセン フセン

は北流して鴨綠江に注ぐ赴戦江と、南流する城川江との分水嶺をなす。最近、朝鮮水電株式會社の經營になる東洋第一の發電所の設けられし事に於て有名なり、今はターボアルカールの設備により富田里より容易に登ることを得。

フセン

富川郡 朝鮮京畿道二府二十郡の一。道の略北中部の西岸に位し、北は金浦郡、東南は始興郡に隣り、西は江華郡に面し、南面に浮舟水宗島・信島・矢島・長峰島・三木島・龍海島・大舞衣島の屬島を有す。面積約五三〇方軒。西北部に桂陽山(三九五米)ありて、その西岸に近く南方に延び、南部に蘇萊山(二七九米)等の丘陵性山地が東西に延互する外は地勢概ね低平にて、特に北半部の中央に富平平野ありて北方の金浦郡の漢江岸に連る。沿岸は水平的支那に富み、また海上には已述の如く多数の島嶼あるも遠淺の泥地多く、且つ潮沙干満の差頗る大にて港灣として利用すべきものなし。海岸中部に位する仁川府の仁川港の如きも閘門式船渠の建設によりて漸く港灣の機能を發揮するに止る。農業盛にして米を第一とし、麥・豆類・玉蜀黍・棉花・甘藷・馬鈴薯・大豆・白菜・甜瓜等の食用・工業産物多し、また梨子・林檎・葡萄等の果樹を出す。沿岸は鯛・鮭・石首魚・鱒・鰻等の漁獲物に富み、天日製鹽行はる。京城・仁川間の一等道路は

フセン

豊前 西海道十二箇國の一にて九州島の北東隅にあり。いま全國を三市六郡に分ち、門司・小倉の二市及び金敷・田川・京町・築上の四郡は福岡縣の管下、中津市及び下毛・宇佐の二郡は大分縣の管轄に屬す。この國は神武天皇御東征の御途徑に當り、菟狹津彦なる者が天皇を迎へて變し奉り、菟狹は即ち後の宇佐にして、やがて彼者は宇佐國造に任ぜらる。のち成務天皇の朝に至れば豊國あり。國造を定め給ひしこと國造本紀に見ゆ。その後、文武天皇の朝に豊國を分けて豊前・豊後となす。この時、宇佐國は豊前國に入りて宇佐郡となる。國府は仲津郡(いま京町郡)、祇園村大字草場(地)に置く。鎌倉時代の初め源賴朝は宇都宮信房を以てこの國の守護とす。信房、仲津郡の城井郷に居り、後には城井氏を稱す。後醍醐天皇の嘉祿年間には少貳氏筑前にありてこの國の守護を兼ね、足利氏の版するや信房五世の孫、城井多綱これに屬し、やがてこの國の守護となる。吉野時代には大内義弘この國の守護を兼ね、正平の頃に至れば肥後の菊池氏の勢力に

フセン

の國に及び、新田上野介義基を馬場城に置く。新田氏三代嗣ぎて後大内氏に滅ぼさる。既にして大内氏の滅亡するや、毛利元就は州の北部を攻め、弘治の頃には大友義興後より來りて國の大部を占有す。天正年中この國もまた國府の島津氏の侵略することとなる。天正十五年豊臣秀吉の九州を征伐するや島津氏を逐うて黒田孝高を中津に置きて六郡を與へ、毛利勝信を小倉に對して田川・金敷二郡を與ふ。關ヶ原役には孝高東軍に屬し加藤清正と共に九州を徇へ、毛利勝信を討ちてこれを降す。家康は孝高を筑前福岡に移し、細川忠興に全國を與へ小倉に治せしむ。寛文九年細川氏は熊本に轉じ、小笠原忠貞明石より來りて小倉に居る。忠貞その四子眞方を小倉新田に分封す。忠貞の兄の子、長次は中津に封ぜられしが、のち播磨安志に移され、享保十二年奥平昌成は山形より移りて此處に居り、幕末に至れば小倉(小笠原氏十五萬石)・小倉新田(千石)・小笠原の支藩(一萬石)・中津(奥平氏十萬石)の三藩ありしが、小倉は慶應年間毛利氏の軍に攻められて香春に移り、豊津藩と稱す。明治の初め以上三藩はいづれも藩となりしが、明治四年十一月これ等を廢して小倉縣を小倉に置き以て豊前一國を管す。同九年四月には一且これら福岡縣に合併せしが、八月には南部の宇佐・下毛の二郡を大分縣に移管して以て今日に至る。而して同二



十九年四月京都・仲津二郡を合して京都郡、築城・上毛二郡を合して築上郡となして六郡となり、同三十二年四月門司市が、翌三十三年四月に小倉市が何れも金教郡より、また昭和四年四月には中津市が下毛郡より獨立し、以て今日の如く三市六郡となる。

【豊前善光寺】日豊本線の二驛（明治三十年設置）。大分縣宇佐郡高家村にあり。【豊前長洲】日豊本線の二驛（明治四十四年設置）。大分縣宇佐郡長洲町にあり。

【フソー 扶桑村】愛知縣尾張國丹羽郡の北端。一宮市の東北約一三軒。東は犬山町に、北は岐阜縣に隣る。本村は木曾川の形成せる尾北扇状地の一部にして、東北より西南へと緩傾斜をなす。北部には木曾川西流し、東部には木津川水南流す。この用水に並行して名古屋水道南下す。本地域は扇状地のため桑畑多く、従つて養蠶盛にして製糸工場あり。水田は扇状地を開拓する細谷にのみ分布を見、木津川は木曾川より引かれこの扇面を潤す。畑地には大豆其他の蔬菜多く、名古屋に供給せらる。交通路は犬山を起點として放射狀に扇面に發達し、北部には遠見街道が通過し、社線名古屋電線は西南より東北へ通じて犬山に至り村内に柏森・下野・木津用水の三驛（共に大正元年設置）を置く。大字齊藤は和名抄の丹羽郡前刀郷の地と思はれ、いま前利神社あり。大字高木の字に福東（いま

福東）あり。此地の遺蹟に齊藤・福東米不喰八名と般若の標がづきと云はる。本村は明治三十九年、豊國村・山名村及び高塚村・柏森村の一部を以て置けるもの。（山名神社）大字山名に鎮座。郷社。祭神は八野若比賣命とも日本武尊とも稱し詳ならず。式内小社。往昔は相當の大社なりし由にて山名村の産土神として舊領主の崇敬殊に厚かりき。例祭八月十五日。（箱禁神社）大字高塚に鎮座。郷社。祭神、権野天神。創立年代詳ならず。國內神名帳に従三位と見ゆ。古來當地の産土神たり。例祭八月二十三日。

【フソキ 富曾龜村】新潟縣越後國古志郡の北端。長岡市の東北に接す。土地平坦にして豊饒なる越後平野の一部を占め、西境長岡市との間に信濃川の一小支流北に流る。米を主産物とし、桃・野梨等を特産し、長岡市に供給す。村内南部を東西に社線柳屋鐵道貫通し、宮下・小曾根（以上大正四年設置）、下新保（大正五年設置）の三驛を置き、省線信越本線は西部を掠め長岡市の城岡驛に近し。縣道は東西に走り見附町（南蒲原郡）・柳屋町等へ通ず。村名は明治廿二年諸村を合して本村を建てし際、主なる村たる富島・小曾根・龜貝三村の各一字を取りしもの。（龜澤寺）大字小曾根にあり。曹洞宗。虎峰山と號す。創建年次は詳かならざれども洞雲和尚の開創なり。本堂は十一面觀世音にして弘法大師の作といふ。（延

命寺）大字小曾根にあり。新義眞言宗豊山派。石動山と號す。弘仁中、弘法大師草創の古刹にして、本尊延命地藏は同大師の作に係るといふ。長岡市徳聖寺末にして、當國十二番の札所たり。

【フタ 布多】下野國（栃木縣）の古地名。和名抄に都賀郡布多郷あり、その地今の下都賀郡國府村・大宮村・家中村の邊に當る。

【フター】社。臺灣臺北州臺南府にある蕃社。大南澳溪の右岸及び支流ゴロツ溪との合流點より西南方約四軒、飯包尖山の北方無名山の山腹海抜約八〇〇米の地に位す。概ね東向の急傾斜地なれども社の所在地なる山腹は大部分緩傾斜地なり。地味肥え農耕に適す。明治三十五年、臺中州龍高郡番稱ハブスガヤより戸數三九、人口二七〇を以て移住し來り現在の社を形成せり。タイヤル族の南澳蕃に屬する高砂族の部落。戸數三六、人口二一〇（昭和十一年調査）。

【フタイ 一處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に大津郡二處郷あり、その地今の津和野山田村・深川町の邊に當る。

【フタイ 二處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡二處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡二處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 普代村】岩手縣陸中國下閉伊郡の東北端。西北は九戸郡に接し、東北及び東は太平洋に面す。面積六九・五四方軒。北上山地の東斜面に屬し、西境は六八〇米にして東方に傾斜し、西北境に高森（四七〇米）、東南境に七森（四二九米）、中部に卯子西山（四二四米）聳ゆ。普代川は南方より來り、村のほぼ中部を東北に流れ、太平洋に注ぐ。全村山地多くして海岸に迫り、海岸は斷崖をなす。林産最も多く、農産・水産共に次ぎ、他に木炭・麥・大豆・稗・馬鈴薯・粟・鮮魚等をも産す。交通は僻地にあるを以て便ならず。西南の岩泉町へは約四〇軒あり。

【フタイ 三處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に大津郡三處郷あり、その地今の津和野山田村・深川町の邊に當る。

【フタイ 四處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡四處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡四處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 五處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡五處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡五處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 六處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡六處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡六處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 七處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡七處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡七處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 八處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡八處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡八處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 九處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡九處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡九處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十一處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十一處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十一處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十二處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十二處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十二處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十三處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十三處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十三處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十四處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十四處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十四處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十五處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十五處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十五處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタイ 十六處】長門國（山口縣）の古地名。和名抄に厚狭郡十六處郷あり、布多并と訓す。その地は今の厚狭郡十六處郷村・厚東村の邊なるべし。

【フタエ 一江村】熊本縣肥後國天草郡天草下島の北部。早崎海峡に臨む。東西兩部は二〇〇—二五〇米の丘陵をなし中央を二江川が北西へ貫流し、河口左岸に繁華發達す。左方面面に通國島と呼ぶ孤洲あり。米・麥の農産及び水産あり。二江川の左岸に沿ひて走る縣道は東南方向の本流町へ通じてバスの便あり。同街道は一方海岸に沿ひて西南へ延び富岡町に至る。近海へは發動機船の便あり。古くは和名抄、天草郡志記郷の内とす。

【フタカタ 二方】成務天皇の朝に國造を置かれし國の一（國造本紀）。その地はいま兵庫縣但馬國の西部濱坂川の流域にありし二方郡を中心とす。美方・美合二郡を含める地なるべし。

【フタカタ 二方】但馬國（兵庫縣）の古地名。成務天皇の朝に國造を置きし二方國が大化改新後、郡となりて但馬國に入れるなるべし。和名抄は布太加太と註し久斗二方・田公・大庭・八木・陽口・乃城・熊野・温泉の九郷を管す。明治二十九年七美郡と合して美方郡を建て郡名を失ふ。

【フタカミ 二上】但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に二方郡二方郷あり、布多加多と訓す。其地は今の美方郡濱坂町の邊に當る。

【フタカミ 二上】富山縣射水郡にありし村。昭和八年に高岡市に編入す。

【フタカミ 二上】中國山脈の一峯。岡山市の北方約三四軒、岡山縣久米郡大増村の北嶺たり。標高六八九米。高度高からざれども附近の丘陵中に突出せる故に人目に著き易し。山頂は二峯に分れ、東西相對し、古へは顯・密の二寺ありて之を兩山寺と稱せしも、今は遺跡あるのみ。いま南麓に兩山寺あり。二峯の中間には龍池水と呼ぶ小池あり。山頂の展望佳なり。「玉くしげ」二上山の紅の雲梯引きて雨は霽にけり。平賀元義。

【フタカミ 二神島】愛媛縣温泉郡の海上にある惣那七島の一。東西に長く周圍約一〇軒。北方の惣和島との間に二子瀬戸をなす。

【フタカワ 二川】福島縣南會津郡にありし村。昭和三年に長江村と共に合して、江川村を

【フタカワ 二川】千葉縣上總國山武郡の北部。

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタエ 一江村】熊本縣肥後國天草郡天草下島の北部。早崎海峡に臨む。東西兩部は二〇〇—二五〇米の丘陵をなし中央を二江川が北西へ貫流し、河口左岸に繁華發達す。左方面面に通國島と呼ぶ孤洲あり。米・麥の農産及び水産あり。二江川の左岸に沿ひて走る縣道は東南方向の本流町へ通じてバスの便あり。同街道は一方海岸に沿ひて西南へ延び富岡町に至る。近海へは發動機船の便あり。古くは和名抄、天草郡志記郷の内とす。

【フタカタ 二方】成務天皇の朝に國造を置かれし國の一（國造本紀）。その地はいま兵庫縣但馬國の西部濱坂川の流域にありし二方郡を中心とす。美方・美合二郡を含める地なるべし。

【フタカタ 二方】但馬國（兵庫縣）の古地名。成務天皇の朝に國造を置きし二方國が大化改新後、郡となりて但馬國に入れるなるべし。和名抄は布太加太と註し久斗二方・田公・大庭・八木・陽口・乃城・熊野・温泉の九郷を管す。明治二十九年七美郡と合して美方郡を建て郡名を失ふ。

【フタカミ 二上】但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に二方郡二方郷あり、布多加多と訓す。其地は今の美方郡濱坂町の邊に當る。

【フタカミ 二上】富山縣射水郡にありし村。昭和八年に高岡市に編入す。

【フタカミ 二上】中國山脈の一峯。岡山市の北方約三四軒、岡山縣久米郡大増村の北嶺たり。標高六八九米。高度高からざれども附近の丘陵中に突出せる故に人目に著き易し。山頂は二峯に分れ、東西相對し、古へは顯・密の二寺ありて之を兩山寺と稱せしも、今は遺跡あるのみ。いま南麓に兩山寺あり。二峯の中間には龍池水と呼ぶ小池あり。山頂の展望佳なり。「玉くしげ」二上山の紅の雲梯引きて雨は霽にけり。平賀元義。

【フタカミ 二神島】愛媛縣温泉郡の海上にある惣那七島の一。東西に長く周圍約一〇軒。北方の惣和島との間に二子瀬戸をなす。

【フタカワ 二川】福島縣南會津郡にありし村。昭和三年に長江村と共に合して、江川村を

【フタカワ 二川】千葉縣上總國山武郡の北部。

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

【フタカワ 二川】山梨縣甲斐國中辰野郡の東南隅。笛吹川と荒川との合流點を占め、東は西山聖郡に接し、南は笛吹川を境に東

フタカ

八代郡に對す。甲府市の南方凡そ四野の地。土地平坦にして水利よく水田多し。

【二川村】 鳥根郡石見國美濃郡の東北部。北は那賀郡に界し、東は道川村、南は那賀村に接す。面積四〇・三六平方町。四

はれ、また酒類・木炭の産少からず。縣道南北に貫通し藤山町へパスの便あり。

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

フタカ

熱東海道本線はこの街道に沿ひ東西に通じ二川村(明治二十八年設置)を置く。

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

フタカ

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

フタカ

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

【二子山】 關東山脈中央火口山の一。神

フタコ—フタタ

頗る佳なり。東麓より南麓にかけては須雲川に沿ひ舊東海道通じ、南麓に體茶屋あり。登山は北麓の宮ノ下・元箱根村を結ぶ新國道に沿ふ處ノ湯より行ふ。

【二子山】 笠置山(新潟縣)の別名。

【二子】 鳥根縣八東郡にありし村。昭和四年改入村と合併して八東村を建つ。

フタコ

双子山

神戸市の北方約七軒、兵庫縣武庫郡山田村に時つ。標高六〇五米。北麓より山田川發して西流し、川を隔てて北西方に金剛童子山(五六六米)・稚子塚山(五九五米)等相對す。社線神有電鐵の谷上驛より登高するが、又は南嶺シヤクナケ山(六五三米)より麓走して建頂す。近時この山附近にハイキングを試みる者多からず。

フタコ

兩子

【兩子山】 佐賀市の西方約一四軒、佐賀縣小城郡東多村と南多村との境上に在り。標高三三八米、山體は火山岩より成る。東麓は筑後平野西端部に續く。

【兩子山】 阿蘇火山帯に屬する一峯。九州國東半島の中、大分縣東國東郡上國崎・西武藏・上伊美の三村境に在り。標高七二一米。侵蝕に破壞せられ二峯に分れし故に山名生ぜり。兩峯共に斷崖を以て繞らされ、山腹までは、森林をなし、山腹以上は草原をなす。谷は放射狀をなして數條刻まる。山頂の展望美しく、頂上に三浦梅園の天文觀測の遺蹟あり。山腹に榮老年間に僧仁開の建立と傳ふ兩子

ADONI

寺あり。秋季の紅葉は美し。登山路は社線國東鐵道の安岐驛より國東町を経て通じ、麓まで自動車便あり。

【二子山】 福島縣磐城國田村郡の南部。小野町の西方約一〇軒。南は石川郡に接す。阿武隈川はその西斜面に屬し、東北麓に一歪山(八五五米)、東南麓に蓬田嶽(九五二米)、西南麓に雲水峰(八五五米)あり。谷田川は東部に發源して西北に流る。米・藁・雜草・馬・木炭等を産す。道路は村の中部をほぼ東西に通じ、東方の小野新町、西方の須賀川町(バス)の便あり。本村は宇津峰(指定史蹟)の麓に在り。大字川曲は應永十一年の文書に川曲宮内大納言隆なる名見え、

フタシマ

一島村

大阪府河内國北河内郡の西南部。大阪府河内國北二軒にあり、面積一・五六方軒の小村なり。大阪平野の一部を占むるため地形極めて平坦、西部を養田川の一支流が西南流す。地味肥沃氣候温暖にて耕作に適し、米その他の農産物多く殊に蓮根は豊富なり、外に畜産・工業・水産あり。人口密度は一〇八人を算す。大阪市に近き故に車馬の往來頗しく、省線片町線の河津新田驛(は南方一軒餘)・(三島神社)大字三島に隣座。神社、祭神、天照大神・素戔鳴尊・大己貴命。創祀年代詳かならず。古來三島の氏神たり。例祭、十月二十二日。(兼登標)指定天然記念物。三島神社境内にあり。一株。根元に瘤起多し。日通幹圍約一二・五米。

フタジマ

二島

福岡縣若松市の町。筑登本線の二島驛(明治三十二年設置)を置く。

フタズカ

二塚村

富山縣越中國射水郡の西部。庄川の左岸、高岡市の南に接し、南は東礪波・西礪波二郡に界す。土地平坦にて沃野開け米産多し。其他に綿織物も産す。省線中越線西部を南北に貫通し二塚驛(大正三年設置)あり。縣道これに並行し、高岡驛は約二軒、交通便なり。古くは和名抄、射水郡富日

鎮山名	鎮區所在地	鎮區坪數	産額	備考
相 高 田	二瀬町	五五、〇〇〇	六、八〇〇	重
上 高 田	二瀬町・幸袋町	六三、六〇〇	六、六〇〇	重
庄 司	二瀬町・幸袋町	一一、〇〇〇	三、八〇〇	重
昭 和	二瀬町・幸袋町	一〇、八〇〇	三、八〇〇	重
二 瀬	二瀬町・幸袋町・飯塚村・飯塚市	五、八〇〇	一、〇〇〇	重

(重は重要鎮山、準は準重要鎮山)

フタタ

二田

秋田縣南秋田郡天王村の大字。船川線の二田驛(大正二年設置)あり。

二田村

新潟縣越後國刈羽郡の北部。西山丘陵の一部を占め、西は高嶺町を隔

て十三歳にて加賀縣樺太郡高名に歸し、二十餘年を経て高名と死別す。今古は思慕のあまり終にその塚(大字南樺太)にあり、俗に樺太塚と呼ぶ)の側に産を結び數年日夜哭泣の聲絶えず。仁和元年その貞節の旗を門閭に表し、位を授け田租を免せしむといふ(三代實錄)。村名の二塚は蓋しこれに因みしものなり。

フタナ

二名

【二名村】 愛媛縣伊豫國宇摩郡の西北部。南は川之江町に、北は香川縣に隣接し、西は鹽津に面す。二〇〇—三〇〇米餘の山峯連互して殆ど全村の地を占め、その西麓下に沖積平地を作る。地味狭小なるも地味肥沃なれば耕作に適し米・麥・藁等の産あり。山地は樹木に富み木炭・用材を出す外、楮・三椏を産し和紙の材料を提供す。海岸平地を四國街道走りてバスを通ず。又その東側を省線豫讃本線通過す、川之江驛まで約三軒。

フタタ

二田

【二田村】 愛媛縣伊豫國北宇和郡の北部。宇和島市の東北方三軒餘にありて北は東宇和郡に界す。北麓には八〇〇—九〇〇米の山脈連りて南へ急斜し南部はやや緩傾斜をなす。藁・米の産多し藁も産す。南部には縣道が東西に通じ之より分岐して南隣好郷村に出づる道路が數條あり。西南部には省線宇和島線通過して、二名驛・大内驛(共に大正三年設置)あり。古くは和名抄、宇和郡三間郷の内とす。大字の土居は戦國の時、此處を占據せし郷

フタタ

二田

てて日本海に近く、東は三〇〇米近き丘陵を境に三島郡に接す。東部丘陵はほぼ中央へ傾斜し、中央は西側して別山川西南流し狭長なる平野を沖積す。平地には田畑開け米の産多し、穀類の副産も行はる。富村は西山油田の一部にて、村内或は他町村に跨りて幾多の石油領域あり。下記西山・刈羽以外は何れも誤り。別山川に沿ひて省線越後線通じ、西山驛(大正元年設置)を置く。縣道また之に並走し、高嶺町へも分岐す。本村は往古二田ノ里の地域内にて、天和檢地の頃は原田保長橋庄に屬したり。(刈羽嶺山)富村と刈羽村とに跨り重要嶺山にして、昭和十年には原油一六一・二二八箱、瓦斯一四、四〇六、四〇〇立方米、粗製揮發油三九、五五五箱を出す(現在中野興業會社豫行)。(西山嶺山)西山油田中、現在最大石油山。二田村及び石地町・高嶺町・内郷村・刈羽村に跨り面積約四九〇萬坪。地質は第三紀層にて下部は黒色頁岩に凝灰砂岩を夾せるもの、中部は黒色頁岩・灰色頁岩と砂岩との層層、上部は砂質頁岩なり。油層は下部の凝灰岩及び中部の砂岩を主なるものとす。現在、日本石油會社の經營にて、昭和十年には原油一六、三七七箱、瓦斯六、一六九、五五〇立方米、粗製揮發油七、六四六箱を産す。なほ探油は各坑井より鐵管により中央油槽所へ集油し、同所より又鐵管にて柏崎製油所へ送油して精油行ばる。富嶺區附近の

フタタ

二田

地方民は古より石油を泉と稱し、また燃える水なども稱して越後七不思議の隨一に數へたり。瓦斯も竹筒などにて導き燃料に供したる如し。明治に至りて村人に手桶にて鑿井を試むる者ありしも成功せず、明治二十七八年の頃、日本石油會社が機械井を開鑿したるより股盛の基を開く。その最盛時は大正五年の頃なるとべく、大正の末頃に於ては尙七百人以上の鑽夫居たりしが、漸次衰頹して昭和十年十月末現在に於ては鑽夫數二四六六人たり。(物部神社)大字二田に鎮座。縣社。祭神、二田天物部命。崇神天皇の御宇、物部稚彥命は神託により神靈を南大崎前に遷し、のち更に現地に遷祀すといふ。式内小社に列す。領主上杉氏・藩主松平氏・徳川歴代將軍、各々社領を寄す。例祭、四月九日。

フタタ

二田

【二田】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ

二田

【二田】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に竹野郡二田郷あり、その地今の浮羽郡内ならんも詳かならず。

フタタ—フタナ

ADONI

士ありて大森・岡本・金山等の要害を管み土居氏を稱す。

フタバ 雙葉郡

福島縣磐城國の東部。東は太平洋に面し、北は相馬郡、西は安達郡・田村郡、南は石城郡に接す。面積九一九・七二方軒。阿武隈山地の東斜面に屬し、西端には北より高太石山(八六四米)・白馬石山(八二二米)・旭嶽(一〇五八米)・龍子山(九二二米)・大瀧根山(一一九三米)・萬太郎山(九六〇米)等連りて主分水嶺をなし、中部には手倉山(六三二米)・三郎森(六九五米)・大鷹島谷山(七九四米)・鬼太郎山(七五五米)等連りて副分水嶺をなす。西北境より室原川・高瀬川發源して各東南に流れ、海岸を離るる約二軒の點にて合して請戸川となり太平洋に注ぎ、西南境よりは木戸川發源して東南に流れ、流路を變じて東流し、太平洋に注ぐ。副分水嶺を過る地點は先行谷をなす。此等二川の間に中部山地より發して東流し太平洋に注ぐ諸河川あり、北より前田川・熊川・富岡川・井出川等なり。岩沼久之濱斷層線は部の中東部をほぼ南北に通じ、これによりて西部阿武隈山地と東部磐城隆起海岸と境せらる。海岸には略三段の段丘ありて、その下端は海岸をなす。前記、諸川は此の段丘面を開折して沖積平野を形成し、海岸は海屋と沖積交互に排列す。河川沿岸には水田稻作を産し、また麥・大豆・蕎麥・木炭等の産あり。北方は江町には陶器を産

す。陸前濱街道は東部を南北に通じバスの便あり。之より西方に分岐する道路には北に富岡街道、中部に郡路街道あり東部を省線常磐線通じ、北より浪江・長家・大野・夜ノ森・富岡・龍田・木戸・廣野・久ノ濱等の驛あり。明治二十九年積業部と糧業部とを合して雙葉郡と名づく。

フタマタ 二股

〔二股〕 樺太縣國津水村の大字。豊眞線の二股驛(大正十五年設置)を置く。〔二股〕 北海道釧路國山越郡長萬部村の大字。函館本線の二股驛(明治三十六年設置)あり。

フタマタ 二俣

〔二俣村〕 宮城縣陸前國桃生郡の中部。北は追波川を隔てて飯野川町に、南は牡鹿郡に接す。東南境に上品山(四六八米)聳え、西北方に傾斜し、西部は陸前平野の東南部なる大谷地低地帯に属し、東は北より北上用は西北境を南流し、追波川は北境を東流す。西北境は二川の分岐點をなす。麥・蕎麥・木炭を産す。道路は西部を南北に通じ、南方の石巻市、西方の石巻線又譯へばバスの便あり。石巻市へはまた汽船の便あり。此地は和名抄、桃生郡野野郷(一に船越郷ともいふ)の内なるべし。もと二俣村と稱せしが大正元年に二俣村と改稱す。

〔二俣町〕 靜岡縣遠江國磐田郡の中央西側。天龍川の左岸に位し、二俣川との合流點の段丘上に主要集落あり。町は天龍

川の河口集落として發達し山香村・水窪町方面と海岸地域との物資の仲地たり。社線遠州電鐵は濱松市に通じ、また天龍川の舟運あり。古くは和名抄、磐田郡曾根郷の地ならん。東武、文治二年の戦に遠江守安田義定が二俣山にて鹿を射獲りたる事を載す。蓋し此地とす。〔二俣城址〕 文龜年間二俣昌長の築くところといふ。元龜三年徳川家康の將中根正照等これを守りしが、甲斐の軍來り攻めて用水の設置を絶ちしかば力盡きて開城せり。翌天正元年家康二俣城に對して三砦を置き、長篠戦後、更に四砦を加へ以て長岡の計を建てしかば、同三年十二月守將依田信蕃また力竭き城を致して去る。同七年九月十五日、徳川信康當城に自殺す。その崩は清徳寺にあり。〔権ヶ路神社〕 大字龍島に鎮座。郷社。祭神、開港加美命・豊玉比賣命、外に天照皇大神外三柱を合祀す。式内唐宮神社を以て當社に充てらる。古來國守地頭領の崇敬篤く、慶長七年伊奈忠次は社領二十石を寄す。例祭、八月二十一日。

〔二俣西線〕

省線東海道線の一。愛知・靜岡二縣に亘る。東海道本線豊橋驛(豊橋市)より起り、新所原驛にて本線と分岐し三ヶ日驛・氣賀驛等の驛を経て金指驛(引佐郡金指町)に至る。全長三七・一軒。新所原驛(三ヶ日驛間は昭和十一年、都筑驛(金指驛間は同十三年の開設に係る)。

〔二俣東線〕 省線東海道線の一。靜岡縣小笠郡・周智郡に跨る。東海道本線掛川驛より本線と分岐し遠江橋木・原谷の二驛を経て遠江森驛(周智郡森町)に至る。全長一二・九軒。昭和十年の開設に係り三等車のみ運轉す。

フタマタガワ 二俣川村

神奈川縣武蔵國都築郡の南部。東は横濱市に接し、西より南は鎌倉郡に隣す。全村丘陵地にて針葉樹林多く丘陵間に農業行はれて麥・甘藷・馬鈴薯・粟等を産し、養蠶も行はる。縣道は中央を横走して濱濱市に通じ、社線神中鐵道また中部を西走して二俣川(大正十五年設置)・二俣下川(昭和八年設置)の二驛を置く。此地は和名抄、久良郡風川郷の内にして、中古は御厨郡接谷庄に屬す。大字二俣川は元久二年六月島山重忠、北條氏の奸計に遇ひ、撤かれて鎌倉に赴く途中、此所に於て北條義時及び時房の軍と激ひ、重忠は愛甲季隆の箭に中りて死し、一族郎黨百三十餘人これに殉す。

フタマタセ 二俣瀬村

山口縣長門國厚狭郡の東端。厚東川の上流に沿ひ宇部市の北に接す。東は吉敷郡に、北は小野村に、西は厚東村に隣す。面積三〇・一五平方軒。東北部と西南部には各々小山脈南北に連り、地勢やや西北に低くなる。厚東川は山麓を西南流し流域に小平野を展く。村内の大部分は山林地にして所々に池沼あり。沿岸に耕地拓け、村民

フタミ 二見

〔二見村〕 新潟縣佐渡國佐渡郡の西海岸。大佐渡の西南端を占め萬野灣口を扼す。相川町の南に接し、東は金北山脈の末端を境に深根町に隣接す。全村東より西と南へ傾斜せる丘陵にして、海岸は岩石岬角に富み、殊に西濱には長手崎の岬角ありて白鳥その他の諸島點在し形勝の地なり。主産業は農耕及び漁業にして米の産額最も多く野菜・果實の産もあり、水産類これに次ぐ。其他、林業・牧畜・畜産製造業等、多角的に産業經營行はる。海岸を迂回して縣道通じ自動車の便あり、また酒田港への航路あり。村名二見は古く一に二見にも作る。また大字大浦は古く大浦郷と稱し、附近諸村を統べたり。

〔二見神社〕 大字二見に鎮座。郷社。祭神、國常立尊。外に右衛門佐局を祀す。右衛門佐局は順徳天皇の宮女、天皇に供奉して當地に來りしものなり。江戸時代、除地五反二十歩を寄せらる。例祭七月十二日。(龍吟寺)新義眞言宗登山

漁。觀音院と傳稱す。本尊の聖觀音立像(銅像)は鎌倉期の作、現に國寶。

〔二見町〕

三重縣伊勢國度會郡の東部。宇治山田市の市街地より四軒餘の東方の海濱の地を占め、五十鈴川は南境の西半を東流し村の中央を北に貫き伊勢海に注ぐ。村内に丘陵起伏す。西部の大落町に續く海濱を二見ヶ浦(二見ノ浦)と言ひ後に管無山を負ひ前に伊勢海を擁し、海邊の奇岩怪崖起伏し風光明媚なり。米を主産物とし、特産物に産・叭等の窯工品(年産約七・八萬圓)及び産(約二萬圓)あり。鳥羽街道及び省線常磐線村を横斷して二見浦驛(明治四十四年設置)あり。また宇治山田市より電車を通す。この地は名勝二見ヶ浦のために發達せるもの。明治四十一年東二見・西二見の二村を合併して二見町とす。有名なる夫婦岩は伊勢灣沈降の名残にして、海岸より數十米を隔てて相對し、大なる岩は高さ九米、小なるは四米、大岩の頂には小華表があり、兩岩の頂は太き注連繩にて結ばる。毎年元旦には夫婦岩の間に旭日を照ふる爲に集まる者多く、また夏季は海水浴客も少からず。出世景勝・三ッあらめづらしと號布かる。二見の浦はげんぐと、松の村立ち色の濱、海船によくもにたるよな、あとは白雲とばかりを、故郷の夢とそらさめて、庄野につづく嶺山は、誰がため長き萬代と、かこつ涙ばせきもせて、何なか關の地獄堂。丹波興作待夜の

小笠郡(安濃の松原)と行り、阿清の海士のあこぎにも、過ぎにし方を思ひ出

て、二見の浦の二つ石。(江神社) 大字江に鎮座。皇大神宮攝社。祭神は皇大神宮儀式帳には天須磨留女命の兒、長日女命・大瀧御魂命・宇迦乃御玉命となす。一説に佐良日子命の倭命を齋ひ祀れる社といふ。延喜大御宮式及び神名式所載社。俗稱、海神。例祭、二月及び十一月十二日。(大江寺) 大字江にあり。眞言宗醍醐派。湖音山。寺内に天平年中に行基の開創と傳ふ。二見山の半腹にて二見ヶ浦を二畔に集めて眺望絶佳。本尊千手觀音坐像(木造)一軀は鎌倉末期の作にして國寶なり。

〔二見町〕

兵庫縣播磨國加古郡の南端にして播磨灘に臨み、明石市西隔より約九軒の西北、東は明石郡に界す。全村地形極めて平坦にして一望の沃野拓く。海岸は平堤なる砂濱なれど東部の東二見には防波堤を築き舟艇の寄泊に便す。米・麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・雜穀及び醬油・腐製品・蠶・皮革製品・木製品・紙等を産し、また沿岸漁獲物・水産製造物等もあり。海岸には縣道走り、之に沿ふ市街地より北方へ街道延びて途中にて二道に分れ南村に出て兩者とも山陽道を越え更に北方と東北方へ延ぶ。省線山陽本線土山驛は北境近く阿閉村地内にあり、それより西方へ社線別府輕便鐵道走る。海岸附近には社線山陽電氣鐵

フタミ 二實

相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡二實郷あり、いま高山寺本によりて二實と訂す。今の高座

フタミ—フチサ

郡内ならんも詳かならず。

フタミ

雙三郡 廣島縣(舊後國)十

六郡の一、縣の東北山中に位し、可愛川

上支流城地方を占む。西北は島根縣に界

し、東北は比婆郡、東は甲奴郡、南は世

羅・賀茂二郡に、西は高田郡に接す。面

積六三七・四四平方町。郡内は十日市・

三次・吉舎・三良坂の四町他十二箇村を

含む。地勢は北部山地、南部山地及び中

央低地の三部に分つべく、北部山地は北

境に國境山脈連立し、略その南斜面を占

む。概ね五百米より一千米の山嶺地帯に

して、ただ可愛川支流神瀬川の南流する

沿岸に平地を有す。南部山地は可愛川支

流馬洗川その他の流域にて、山間諸所に

沿岸低地を拓く。地勢南方に漸高す。中

央は本支流諸川合流して三次盆地を拓き

合流地帯に三次町の市街地發達し交通・

産業の中心をなす。山地には林産・鐵産

物を出し、低地には耕地拓け、米・麥の

産多く、一般に養蠶・牧畜行はる。省線

新橋線は中央を東西に貫通し、その鹽町

驛よりは省線福原線分岐し、また同じく

備後十日市驛よりは省線備後本線バスに

連絡す。明治三十年に三次郡と三郷郡を

合併して雙三郡と名づく。

フタミガウラ 二見ヶ浦・二見浦

【二見ヶ浦】 ↓二見町(三重縣)

【二見浦】 二見浦より管無山に至る。二

フタムラ

二村 讃岐國(香川縣)の

古地名。和名抄に鶴足郡二村郷あり、布

多無良と訓す。その地は今の綾歌郡飯野

村・川西村の邊に當る。

フタムラ 兩村 尾道國(愛知縣)の

古地名。和名抄に山田郡兩村郷あり、布

多無良と訓す。その地今の愛知郡豊明村

の邊なるべし。

フタモリ 二森 廣島縣甲奴郡にあ

りし村。明治二十八年に外三箇村と共に

合併して吉野村を建す。

フタラ 二荒山 男體山(勸業縣)の

別名。

フタンコ 武丹坑 臺灣臺

北州基隆郡雙溪庄の大字。此地に武丹坑

鐵業所あり、昭和十年には石炭一二、六

〇二二を産し、その價額八萬五千餘圓と

す。また此地に宜蘭縣の一驛武丹坑(大

正十一年設置)あり。

フチ 布智村 島根縣出雲國松江府の

中。今市町の西南約三町の地より南に

細長き地形を占め、北は高松村、東は古

志村、西は知井宮村に接す。面積八・〇

七平方町。南境に山脈連立し、村内の南半

部は山地に占めらるるも、餘りに北方に傾

く。北部は神戸川河口平野の一部に屬し

土地平坦肥沃、耕地多し。村民は農工業

を主産業となし米・麥・繭・鶏卵及び清

酒等の産額大なり。縣道は今市町に通じ

フチ

敷智(郡) 遠江國(靜岡縣)の古郡名。

續紀、靈龜元年紀に郡名初めて見ゆ。和

名抄は潤と註し、醍醐・赤坂・濱島・榮江・小

文・竹田・雄踏・足間・和治・濱松の十郷を

置く。近世は敷智の智を知らず。明治

二十九年四月、郡の大部分は濱名郡に入

り一部は引佐郡に入りて郡名を失ふ。

【敷智】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名

抄に野洲郡敷智郷あり、其地は今の野洲

郡内ならんも詳かならず。

フチ 長崎縣西彼杵郡にありし村。

明治三十一年に分割して一部を長崎市へ

一部を浦上山里村へ編入し、殘部を以て

小幡村を新設す。浦上山里村・小幡村は

現今この島居より第一の島居の間、約三

百米は徳川家康の寄附せる馬場大門と稱

す。甲州街道と馬場大門との交又點なる

この島居の前に花崗岩の標柱あり、刻し

て曰く「從之一之島居五町餘左右慶長

年中御寄附之馬場」と。馬場は現道路の

兩側にありて幅員各一〇米、神社に近き

方は民家立ち並ぶ。中央道路と馬場との

間にも土手を築きしものにて、その形

今も一の島居の近くに於て明かに認めら

る。標は此の土手に植ゑられたるもの、

即ち標並木にして大正十三年天然記念物

の指定を受く。いま存する標の總數は六

十本にして、そのうち最も大なるものは

この島居に近きものにして日通り八・三

フチエ

潤江 東京府南足立郡にあり

し村。昭和七年に他町村と合し、東京市

足立區を建す。

フチサキ 潤崎村 香川縣讃岐國小

豆郡小豆島の西部。西南一帯は海に面し

其中央の地帯によりて半島狀に突出する

土庄町に接し東は池田町に接す。全村丘

陵性にて、東部には傳法川が西南流して

土庄町に横切地帯部の東にて池田灣に注

ぐ。沿岸やや低地あり。全村數七六八戸

中、農業一九四戸、工業一一三戸、商業

一六四戸、水産業三一戸にして米・麥・

甘藷・鹽・鮑魚・胡麻油・種油・油粕・

醬油・蠶繭・雞卵等を産す。海岸に沿ひ

て道路通じ、土庄町に隣接するため比較

的交通の便よし。村名はフチザキ、フツ

ザキとも呼ぶ。この地は舊肥後戸庄の内

にして、大字上庄は肥後戸庄の意とす。大

字潤崎は潤戸内海國立公園の地となる。

【寶生院の舊村】 指定天然記念物。寶生院

境内にあり。樹幹は地上より一米ならず

して三大支幹となり、南・西・北の三方に

向ふ。全樹の根元の周圍約一五米、南方

の支幹は本幹より約一米の高さにて分岐

し、その部の周圍八米弱に達し、他の二

支幹の周圍はこれに及ばず。本幹は眞柏

の巨樹として有数なるもの。(八幡神社)

大字潤崎に鐵座。郷社。崇徳、品陀和氣

神外二柱。往昔この地は宇多天皇の皇子

FOUR

いと共に長崎市に編入さる。

フチエ 潤江 東京府南足立郡にあり

し村。昭和七年に他町村と合し、東京市

足立區を建す。

フチサキ 潤崎村 香川縣讃岐國小

豆郡小豆島の西部。西南一帯は海に面し

其中央の地帯によりて半島狀に突出する

土庄町に接し東は池田町に接す。全村丘

陵性にて、東部には傳法川が西南流して

土庄町に横切地帯部の東にて池田灣に注

ぐ。沿岸やや低地あり。全村數七六八戸

中、農業一九四戸、工業一一三戸、商業

一六四戸、水産業三一戸にして米・麥・

甘藷・鹽・鮑魚・胡麻油・種油・油粕・

醬油・蠶繭・雞卵等を産す。海岸に沿ひ

て道路通じ、土庄町に隣接するため比較

的交通の便よし。村名はフチザキ、フツ

ザキとも呼ぶ。この地は舊肥後戸庄の内

にして、大字上庄は肥後戸庄の意とす。大

字潤崎は潤戸内海國立公園の地となる。

【寶生院の舊村】 指定天然記念物。寶生院

境内にあり。樹幹は地上より一米ならず

して三大支幹となり、南・西・北の三方に

向ふ。全樹の根元の周圍約一五米、南方

の支幹は本幹より約一米の高さにて分岐

し、その部の周圍八米弱に達し、他の二

支幹の周圍はこれに及ばず。本幹は眞柏

の巨樹として有数なるもの。(八幡神社)

大字潤崎に鐵座。郷社。崇徳、品陀和氣

FIVE

して國府の營場に兼用せらる。これ世に

武藏總社と稱せらるる所以なり。更に國

内の諸神山中精靈顯著なる一宮より大宮に

至る六社を講びて祀る。世に六所宮と稱

する所以とす。例祭、五月五日。(高安

寺) 曹洞宗。龍門山等持院。貞和年中、

心悟中興し足利義氏これを授け、當時塔

頭十院、末寺七十五寺ありて寺勢隆盛な

りしも、のち兵火に罹りて寺運衰微す。

【善明寺】 天台宗。昔は當地安養寺末。

草創以來屢々災禍に罹り沿革の詳を聞く

も、延享元年證海これを中興すといふ。

【人見原】 古戰場。一に金井原といふ。

府中町の東。正平七年閏二月新田義宗が

足利義氏の軍をこの地に逐へ撃ち利あ

らずして入間川に退き、更に小手指原に於

て再び戦ふ。この時に義宗の別家義興・

義治は關戸にあり、三浦等の降兵を率

て急に鎌倉を襲ひこれを取る。

【府中村】 岐阜縣美濃國不破郡の中郡。

南は桑井町、北は揖斐郡に境す。大垣市

を西に去ること八町。村は南北に長く、

北半は山地にして古生層より成る池田山

(九二四米)の南斜面を成し、南流する川

には不破灘あり、下流は伏流をなす。こ

の山地の南部には洪積層の地塊接續し離

山・奥山等の分離丘陵二、三を見る。相

川は南境を流れ、この洪積層地は水田に

利用せらる。南部には桑園多く、山麓に

SIX

は柿・梨・栗等の栽培行はる。交通に南

隣の桑井町に古來中山道通じ、また東海

道として府中・同分寺間の通路なるが、

府中鎮正面に通ずる馬場大門は、いま

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

【府中馬場大門標本】 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

フチナ—フチユ

其四年八講宮の神託あり、親王家の合旨

に依り、安宗法師なる者社壇を設けこれ

を講神祀せしに始まるといふ。例祭八

月十五日。(寶生院) 大字上庄にあり。

古義眞言宗。皇跡山。大覺寺末。天平年

中に行基の草創、明徳年中に増修これを

中興す。寺觀郡内に冠たり。

フチナ 潤名 上野國(群馬縣)の古地

名。和名抄に佐佐孫潤名郷あり、和知奈

と訓す。その地今の佐波郡采女村の邊に

るべし。

フチノベ 潤野邊 神奈川縣相模國

高座郡大野村の大字。省線横濱線の潤野

邊驛(明治四十一年設置)を設く。

フチユー 府中 東京府武藏國北多摩郡の南部。

多摩川の北岸にて、南は南多摩郡と相對

す。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く

麥・繭を産し、南部の多摩川流域のみ平

地をなして米を産す。甲州街道は町の中

央を西走し、主なる繁華はこれに沿ひて

發達す。その他にも府道よく發達す。社

線京王電軌は町の中央を過りて西南に走

り、府中・分倍河原の二驛を設く。また

社線南武鐵道は南部を西北に走り、府中

本町・分倍河原の二驛(昭和三年設置)を

置く。本郡第一の市街にして甲州街道の

一驛たり。明治二十六年府中驛を府中町

と改む。舊郡役所のありし所に、いま

警察署・八王子區裁判所出張所・東京

高等農林學校・明星中學校等あり。また

府中として府中・同分寺間の通路なるが、

府中鎮正面に通ずる馬場大門は、いま

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

七等と此地に行幸ありて御泊遊ばさる。

府中馬場大門標本) 指定天然記念物。

道本線通じて便利なり。本村は和名抄の不破郡野郷の地にして、美濃の國府の置かれし地なれば府中と呼ばる。當時は西濃平野は卑濕地にして今日の如く干拓工事も進まず、中山道を掘する此地に國府が置かれしなり。和名抄には「美濃國府在「不破郡」と記され、國司館址は村内東南にありて里人の御館と呼べる地なり。大字新井は和名抄の不破郡新井郷の地なり。大澤は丘嶺寺山に源布あるためこの名を得たり。数原の觀音堂は如意山名勝寺と云へる大體並ありしが廢絶しその本尊たる傳教大師彫刻の觀音の傳のみ本堂に残り、智證大師の彫りたる不動明王の像も堂内に安置せらる。〔觀ヶ谷古墳〕村の北部、大字市之尾にあり。この古墳は美濃に於ける最も古き時期のものにして、珍奇なる石製品伴出古墳として早くより學界に著名なり。海抜二〇〇米の自然山頂に營まれし古墳に南北に長く堅穴を作り泥棺を納め、別に木箱の中に石製品(車輪石・四脚付圓盤・埴・高杯・合子・熊形埴)・鏡等の副葬品あり。これ等の出土品はいま東京帝國博物館の所蔵に歸す。なほこの連山の頂には同時代の古墳三基あり。〔美濃國府址〕その館址詳ならず。新撰美濃志、府中村の條に、里俗呼んで御館といふ地その遺址なることといへり。今その字地は郡府の東南隅にあり、附近一帶に古土器の破片多く、北方に傾きて古瓦の破片も散在し、弘法

傳説の古井もあり。當國神名帳内正六位上館守神社(宇屋敷御座、村社)もあればこの附近館址並に正倉院址たるべし。天平十二年、聖武天皇の美濃巡幸に不破領宮に在りて「皇帝國城を巡觀す、晚頭新羅樂・飛騨樂を奏す」とあり。また同十七年四月の地賀の條に「美濃國府正倉院址」の記事あり。當時、國府の規模輪奐の美を致せるを知るべし。治承四年源平合戦の際、平維盛の軍勢東國下向に際し、「九月廿日、みの國府につく」とあり。此頃ばなほ國府も榮えしと見ゆ。次で鎌倉幕府成り守護を置きたれば、之より次第に衰へたり。〔觀證寺〕大字平尾にあり。眞宗大谷派。永正年間蓮淳の開創に傳る。古く平尾御坊と稱し、末寺二百有餘を統べし互利たりきといふ。境内神樂、講堂整備す。〔民安寺石燈籠〕館守神社境内にあり。この邊の字を、みんなん寺といふ。民安寺は文和年間、後光嚴院、小島の領官より垂井の領官に還幸し給ひ、偶々大暴雨に難を避け給ひし事あり。その頃の寺は垂井の内に在りしものといふ。一徳兼良の藤川記にも垂井の民安寺とあり。銘に「民安寺 燈供三寶園本地明 光興日月 普利群生 至徳三年丙子八月 日願主 理宗敬白」とあり。

【府中村】三重縣伊賀國阿山郡の中部。西南端は上野町に接す。西北部は四二六米の山地をなし、東南部には約三〇〇米の丘陵あり。中部には箱根川が西南流して流域に低地開け、西南方に傾がる伊賀盆地に連る。半農半商の村にしてマイル會社・ゴム會社の工場あり。産物には米・麥・西瓜・蓮・叭、其他、蔬菜類一般あり。中部には縣道東北より西南に通じて上野町へパスの便あり。また西北部には省線關西本線走り佐那具驛(明治三十年設置)あり。古へ伊賀の國府のありし處。のち府中郡と稱せり。〔御藏山古墳〕指定史蹟。大字佐那具の天玉山下にあり。前方後圓墳にて一に丸山と呼ぶ樹木鬱蒼と繁り、長軸二百米に及び規模宏大なり。舊に崇神天皇の御代、四道將軍とて北陸地方に赴き平定の後この地に駐屯して薨じ給ふと傳へらるる孝元天皇皇子大彥命の御陵と稱す。〔散國神社〕大字一ノ宮に御座。國幣中社に列し散國津神を祀る。創立の年代不詳。貞觀九年に散國津神に従五位上を賜ひ、同十五年九月更に散國津大社神を正五位上に敘せられ、延喜の制大社に與かる。のち伊賀國の一宮となり、地方の名刹として上下の崇敬を受け、降つて江戸時代、慶長年間萬堂氏藩主として入都するやその尊崇篤く、社殿の造営をなし百七石餘の社領を寄進し、また祭事の復興をなす等大に力を盡すところあり。爾後、幕代の藩主相繼ぎて變らざる崇敬の意を表せり。例祭十二月五日。〔波多岐神社〕大字土橋に御座。郷社。祭神、大鷲尊。當國三ノ

宮と稱し、古來當郷の總社なりといふ。例祭、三月九日・十八日。【府中村】京都府丹後國與謝郡の中部。村の北部山地は主に花崗岩より成る丹後山塊の連綿部分にしてその南限に當る。地形は北に高く南及び東に傾斜し、與謝内海及び宮津灣に至る。海岸近くは平地にして、山地と平地との境界面近く北東—南西の斷層あり、南・東の斜面は即ち斷層崖に當る。斷層崖下の第四紀堆積層は本村唯一の耕地にして農耕の主産地たり。産粟は平地の農耕のほかは水産漁獲高多く、江尻棧橋附近よりケーブル乗場附近一帶は、土産物販賣店を並べ、海産製造物は土産物の特産品として知らる。日本三疊の一なる天橋立は、本村の江尻より南西の方向に延長約二軒、幅平均一〇〇米内外、主に花崗岩質の白砂中に第三紀層中の砂岩・礫岩等の細砂の成層より成り、白砂青松の一大砂嘴なり。その成因は北東より来る潮流が北方の沿岸地を浸蝕し、此處に堆積して今日の美量を現出せるものなり。天橋はもと文殊と相傳ふるものなるも、近世の洪水によりて切斷され、現在の如き状態に變化し、宮津灣と與謝内海と相通することとなり。天橋遊覽は普通は宮津線天橋立驛下車、文殊より乗船、與謝内海を航して江尻に上陸し、ケーブル・自動車等によりて北上し、成相山(五六九米)の傘松附まで登り遠望するものなり。此附近

より遠望の風光は最も佳く、日本三疊の一たるに當らず、思はず快を叫びしむ。本村は丹後國府の故地なり。天橋ケーブルの府中驛附近なる國幣中社散國津神は謂ゆる丹後一宮なり。その南西の大字國分に丹後國分寺の址あり。中世に府中庄あり、その開拓古きを知るべし。山上の古刹成相寺は西國二十八番の札所として遊覽・信仰の中心地をなす。天橋立〔散國神社〕大字大垣に御座。國幣中社。天水分神を祀る。丹後國の一宮なり。館守大明神といふ。また社名「散」をコト讀み、コノシツヤとも稱す。祭神に就きては現在の水分神の外に、住吉神とも、或は國常立尊とも、また伊弉諾大神ともなす説あり。地方の古名に於て朝廷の尊崇篤く、嘉祥二年に從五位下を授けられ、のち昇進して元慶元年從四位上に昇り、延喜の制、名神大社に列し、新年・月次・新嘗の案上幣幣に與かる。承暦四年御所に祭事を饗せし崇ありて社司に中祓を科せしむ。正應年間本社神田凡そ四十六町、朝幣十一町なりきといふ。以て當時は有勢なる社なりしをを知るに足る。降りて室町時代以降、領主・藩主の崇敬篤く、社殿の造営、社領の寄進等見るべきものあり。神主海部氏は世々本社に仕ふ。寶物中、藤原佐理筆と稱する額面は國寶に指定せらる。攝社に眞名井神社(受比賣命を祀る)あり。社傳によれば、天照皇大神丹後國與謝郡に御座座の

時、聖受大神御饗を奉供せし靈跡なりと云ふ。なほ境内社に天照皇大神社ほか三社あり。例祭は四月廿四日にて、この日また祭祭と稱する神事あり。神興供奉の徒は蕪の花を冠に懸く。〔國分寺〕大字國分内にあり。古義眞言宗。高野末。舊國分寺の遺址にして、延喜式に丹後國分寺料二萬兩、文殊會料一千兩と見ゆるは當寺の事なり。されど一説に國分寺址はいま加佐郡八雲村大字中山の邊にありといふ。或は曾祖兩國分寺の兩部に分立せしものか確ならず。いま一小堂を存するのみ。〔丹後國分寺址〕指定史蹟。現時の國分寺境内の本堂屋敷と稱せらるる地點に金塔址及び塔址の土壇あり。金堂の土壇は方形にして上に三十餘箇の礎石遺存し、うち圓形礎石を有するものあり。塔址はこより西南方約五〇米を距てて存し十六箇の礎石遺存す。また金堂址の南方九米に門址あり、礎石二箇を存し、そのうち一箇は圓形柱孔あり。〔成相寺〕大字成相寺にあり。古義眞言宗。高野末。西國三十三所第二十八番札所。俗稱、獨立觀音。寺傳に慶雲年間應眞の草創にて文武天皇勅願の道場なりと傳ふ。當時山内に六坊を有し堂宇壯麗を極めしといふ。寺境は眺望絶佳の地たり。寺寶中、紅玻璃阿彌陀如來像(絹本着色)一幅・丹後諸庄郷保總田數帳目録(紙本墨書)一冊は共に國寶なり。御詠歌「浪のおと松の響もなりあひに風ふさむたる天の橋立」

【妙立寺】大字中野にあり。日蓮宗。榮昌山と號す。寺傳に奉授の開基と傳へ、もと天台宗を奉ずと。後花園天皇御宇、身延山の日叡は本寺に留錫せる際、現宗に改む。これ、丹後國最初の法華道場たり。寺寶中、醍醐皇子一基は室町初期の作にて國寶たり。【府中町】廣島縣備後國廣島郡の西部。廣田川の中流北岸に位し、西及び北は岩谷村、東は廣谷村に接す。面積三・〇七方軒。南部の沿岸に平地開け、後背地は山地に蔽はれ北に漸高す。市街地は川に臨みて發達す。製絲工業を以て榮え、蠶糸・本織物等、産額約四六二萬圓に達す。特産物に府中味噌・桐細工物・府中琴あり。省線福鹽線の府中町驛(大正三年設置)あり。縣道南部を通じ松木町・庄原町等へ定期自動車便を有す。もと府中市村といひしが明治二十九年府中町と改め、大正十四年に出口町と合併して今の府中町とす。因に備後國府は國府村大字府川の地にありしといふ。〔甘南備神社〕郷社。祭神、大己貴神外二柱。和暦二年に國守佐伯宗綱、出雲國三穗崎より勧請といふ。式内小社に列す。例祭、陰曆九月九日。【府中町】廣島縣安藝國安藝郡の西部。廣島市の東に隣接し、船越町の西隣に位す。北は安佐郡に界し、南は廣島灣に臨む。面積一・七七方軒。東北は英彦々字山(六八二米)の西南麓にしてやや高き

も、東南より西方一帶は平野拓けて耕地多し。海岸線極めて短小なれば漁業は振はず。米・麥・油の産多し。また牛・馬・木炭・酒類も出す。省線山陽本線向津驛(大正九年設置)を從く。昭和十年に町制を布く。神武天皇の九州より大和平安に向はせられし時、駐師の城宮は本村の地ならんといふ。日本書紀に「至安藝國・居于埃宮」とあり、古事記には、於阿岐國之多都理宮、七年坐」とあるものにして、埃宮は多都理宮に同じ。のち安藝の國府の所在地たり。〔多家神社〕郷社。祭神、神倭伊波路彥古命。式内名神大社に列す。此地もと神武天皇御葬の遺址にして國府の要津に當るを以て、古代の屯倉のありし所なるべしといはる。文祿年間、毛利氏廣島に入城以來は社殿の造營、社領の寄進等屢次にして崇敬の誠を致せり。例祭、四月三日。【府中村】香川縣讃岐國綾歌郡の北部。坂出町の東南に接す。西北端に城山(四六二米)聳え、東南端に鷲ノ山(三二二米)聳居し、東北端には三七一米の山地あり。其他村内處々に小丘陵ありて其間に低地開け各低地は相連結す。綾川は中央を貫きて北流し、西南部には灌溉用湖沼あり。低地は田畑よく拓けて米麥の産多し。東北部には讃岐街道及び省線讃岐本線通じて北隔に鴨川驛(明治三十年設置)あり。中央には東西に走る道路あり。各道路は自動車の便よし。古くは和

名抄、阿野郡甲知郷の内にして、國府の所在地とす。(該國木九殿址) 國府址の西に連る所にして丘陵の麓にあり。(崇徳天皇、六百年開創御駐蹕あらせられて後崩じ給ひし木九殿の舊址と稱し、中央に高さ三米の記念碑あり。明治四十年の建設にして、藤原宮殿仁親王の御築筆なり。その境内なる藤原文庫に古瓦その他種々の郷土研究資料を陳列す。(國府址) 宇木村にあり。地字垣内の南邊に祖址築垣の一部を存し、舊き條里の痕跡あり。奈良時代の様式なる古瓦を出土す。なほ地字に板橋・印橋・正徳等の名あり。いま遺址に地字記念碑立つ。(府中山内瓦葺址) 指定史蹟。本村と山内村との界に跨りて存し、供き臺地の傾斜面に營まれ敷目あり。中には底面階段状をなし、且つ掘出しの部分有せるものありて、内部に奈良時代の瓦破片を多量に存す。(城山神社) 縣社。祭神、神代別命。此傳に神代天皇八年の創祀と傳へ、式内名神大社に列し當國二十四座の一。孝徳天皇御宇、此地を國府と定め、當社を以て總鎮守とせらる。以後歴代國守の崇敬社たり。例祭、十月九日。

フツ 布津村

長崎縣南國高來郡の東部。雲仙岳の東方に在り。雲仙火山より傾斜する裾野式地貌は、雲仙岳の一峰野岳の南方より噴出せる岩塊泥流より成る。北方の深江川に向ひ稍急坂をなす。ほか山地より海岸に至るまで一大堤防状

の傾斜丘陵をなし、末編大崎鼻にて海に没す。小川ありてこれを浸蝕しつつあるも未だ幼年期の小谷に過ぎず。此等の小谷に多少の水田を見るほか耕地の大部は如地なり。葉落は海岸に沿うて走る街道沿ひに多く發達し、傾斜丘陵地の面にも各所に散在し開拓新田・出屋敷等あり。何れも殆ど農耕墾墾なり。交通は社線口之津鐵道海岸に沿うて走り、布津驛(大正十一年設置)・布津新田驛(昭和四年設置)のあるほか沿岸汽船の寄港地にして、三徳・島原・長崎方面との往來自由なり。此地、島原の亂に際しては、官軍と敵軍との激戦地たりき。また布津驛の北西五軒、普賢山麓の高原狀臺地に天々洞古墳あり、横穴式にて瓦岩を以て造られ、玄室は奥行七尺餘、幅約七尺、高さ四尺五寸、古代、當地方首長の古墳ならん。本村の一部は雲仙國立公園の内とす。

フツオン

佛恩面 朝鮮京城道江華郡の東部。江華島の東岸中部に在り。北は郡邑内面(江華)との間に傾斜面を隔て、東は漢江の分流なる豐河を挟みて金浦郡大車面と相對す。面積約三五方軒。西北境上に穴口山(四六四米)、南境中部にも約三〇〇米の山地あるも、その他の大部分は澁れ平地にして東方に傾斜し耕地拓く。米・麥・豆類・棉花等を産し、桃・梨子等の果樹栽培行はる。また北部は錦湖金嶺の鐵礦に屬し砂金を産す。島内の諸河へは等外道路によりて通じ、對

岸へは渡船によるも交通なほ便ならず。フツカイ 物開 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置)。黃海道平山郡安城面にあり。フツカイチ 二日市町 福岡縣筑前國筑紫郡の中郡。太宰府町の西南に接し福岡海岸平野と筑紫平野とを結ぶ隘路を占む。西南半は西南境に聳ゆる天拜山の斜面をなし、東北部は東北方に聳ゆる寶湯山の山麓丘陵をなす。中央には南境附近に發する御笠川は西北流し沿岸に稍や低地開く。米を産す。中央低地は北九州と中九州とを結ぶ重要な道路にして省線鹿児島本線及び社線九州鐵道等通過し、九州鐵道の九段二日市驛よりは大宰府神社に至る支線東北方へ走り、また鹿児島本線二日市驛(明治二十二年設置)より社線朝倉鐵道起りて國道に沿ひ東南方へ走る。町名は置し昔毎月二日に市立して交易せしより起りしものなり。明治二十八年町制を布く。城内に高橋稲塚あり。即ち稲塚の首級を埋めし所といふ。古くは和名抄、御笠郡次田郷の地とす。(武藏温泉) 武藏川に臨む。泉質は含硫黄食鹽泉にして御前湯・藥師湯・川湯等に分る。近く西南に菅公が天に祈れりとい傳ふ天拜山を仰ぐ。古くは次田温泉といひ、萬葉集卷六に「帥大伴朝次田温泉に宿りて鶴の歌を聞きて作れる歌」(略歌)と見ゆ。(塔原廢寺塔址) 大字塔原の貯水池の傍にあり。塔址の土

フツコ

佛甲面 朝鮮全羅南道靈光郡の南部。北は郡邑靈光面に連り南は咸平郡海保・新光二面に接す。慶山脈の西南端に在り、東南境に佛甲山(五一六米)、西境に三角山(三五七米)等あるも、中部より北部にかけては澁れ平地にて丘陵の間に耕地拓く。佛甲川これを澁れ西隣の郡南面に出づ。農業茶をて米・麥・豆類・棉花の産少からず。咸平・靈光間の道路は中部を南北に貫きてバスを通じ交通便なり。

フツキ

福貴面 朝鮮京城道南道川郡の南端。東北部は郡邑波道面(論川)に接し、西は利原郡東面と境し、南は日本海に面す。面積約一一二方軒。赴鞍嶺山脈東斜面の末編の一部にて、西境北部に鶴峰(八七〇米)聳え、その山脚東南に延びて海に没し西半部は山地をなすも、北部には南大川支流の福大川東流して沿岸に平地を作り、その南を東西に連る丘陵を隔てし面の東南部にも平地ありて海岸に及ぶ。米・大豆・大麥・粟・蕎麥等の農産あり。元山・會峯間の街道は西境の摩雲嶺を越えて中部を東方に走り、鐵道成鏡線は海岸に沿ひ、次で東北に向ひ奇巖・龍崗・普夢里の三驛(共に昭和二年設置)を設け、交通不便ならず。

フツキン

勿禁面 朝鮮慶尙南道梁山郡の略中部。もとの上西面にて地は南北に長く、東南部は郡邑梁山に、西は院洞面(もとの下西面)に隣り、南は洛東江の下流によりて金海郡下西面と限らる。面積約四七方軒。北部より西半部にかけては殆ど山地をなし西境中部にては四五〇米を示し、東方に急傾す。ただ東部よ

り東南部にかけては東隣の梁山に續く平地ありて耕地拓げ米・麥・豆類・棉花等の産あり。梁山よりの京城街道は南部を横ぎり、鐵道京釜本線は洛東江岸に近く走りて勿禁驛(明治三十八年設置)を置く。勿禁には定期市開かれ農産・日用品等の賣買行はる。

フツコ

福興面 臺灣臺中州彰化郡一街六庄中の一。郡の西南隅に在りて瀕海の庄にして、北は鹿港街、東は秀水庄、南は員林郡埔鹽庄と北斗郡沙山庄に、それぞれ境を接し、西は臺灣海峡に面す。管内に麥塹厝溪・鹿港溪の流るるあり、土地總て平坦にして農耕地甚だ多く、八堡制による灌溉の便を得て水田遠く開け純農村を形成す。農産物は米を筆頭に甘藷・甘蔗これに次ぎ、蔬菜・柑橘の産亦多からず。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする家畜・家禽類多く、一般家庭に於て副業的に養う飼育せらる。林業は耕地防風林造林のほか見るべきものなし。庄の位置僻地に在るを以て民度一般に低し。明治製糖の鹿港・員林間社線は管内を西北より東南に貫通し交通の主脈をなす。これに沿ひたる指定道路にはバスの便を有し、部落相互間には部落道路よく發達す。管内はもと總て馬芝堡に包括せられ、住民の祖先は清の雍正年間福建省の泉州より移住せしものにして、屏東同族同郷相寄りて専心部落を形

フツコ—フツン

成し、逐年人口増加して今日の基礎をなすに至れり。【福興面】 朝鮮京城道南道水原郡南部の中央。東は郡邑洪仁面に隣り、南は高陽郡郡内面と界す。略矩形をなし、面積六三方軒餘。狼山林脈支脈の牛洞嶺西南境に峙ち、その山麓は西と南の境上に延び西半部は山地をなす。東半部にもまた西南境より續く山脚のなす丘陵地あるも、北境を東流する龍興江に入る小支流の谷ありて耕地拓げ、葉落は澁れこの地域に集る。米・大豆・粟・麥・稗等の農産あり。永興より平安北道楚山方面への二等道路は龍興江の南岸に近く東西に通ずるも交通なほ便ならず。【福興面】 朝鮮全羅北道淳昌郡の西北端。雙溪面の西南隅にて、西北は井邑郡内藏面に、東南は全羅南道潭陽郡龍面・月山面に、西は同道長城郡北下面・北上面に接す。面積七〇方軒餘。慶山脈西南端部の山岳地帯に在り、東北部に栢芳山(六二五米)、東南境に秋月山(七二九米)、北境に内藏山(七六三米)、西境に白羊山あり。西内山地多きも、南北兩山地より下る諸水は中央部の低地に會流して秋嶺川となり、東方に澁れ栢芳山麓を迂曲して雙溪面を過ぎ、後に梁山江に注ぐ。これ等の川筋に平地あり耕地比較的よく拓げ、米・麥・豆類・棉花・大麻・莞草等の農産あり。淳昌・非州間の三等道路に當るも交通なほ便ならず。

フツコ 佛甲面 朝鮮全羅南道靈光郡の南部。北は郡邑靈光面に連り南は咸平郡海保・新光二面に接す。慶山脈の西南端に在り、東南境に佛甲山(五一六米)、西境に三角山(三五七米)等あるも、中部より北部にかけては澁れ平地にて丘陵の間に耕地拓く。佛甲川これを澁れ西隣の郡南面に出づ。農業茶をて米・麥・豆類・棉花の産少からず。咸平・靈光間の道路は中部を南北に貫きてバスを通じ交通便なり。

フツサ

福生村 東京府武藏國西多摩郡の東部。多摩川の東岸にて、東は北多摩郡と隣る。武藏野臺地の一部を占め桑畑多く、養蠶行はれて繭の産多し。府道よく發達し、省線八高線は中央を北走して東福生驛(昭和六年設置)を置き、また社線青梅電氣鐵道は西部を西北に走り、福生驛(明治二十七年設置)を置く。熊川村と組合村をなし、役場を本村に置く。フツジョー 佛生岳 大峰山脈の一峰。奈良縣吉野郡上北山村と十津川村との境上に峙つ。標高一八〇五米。南稜に釋迦ヶ岳(一八〇〇米)、大日岳(一五九三米)、天狗山等聳き、北西稜に七面山(一五五七米)連る。この山の附近は南東流して北山川に落ちつ自川又川、西流して十津川に入る旭川の分水嶺をなす。山頂附近の山路に佛生の横掛と稱する名高き棧道あり。山頂の北東側直下には唐檜の純林あり。○大峰山脈

フツジョーザン 佛生山町 香川県讃岐國香川郡の東北部。高松市の南方三軒餘。東南部は木田郡に接す。全村地形低平にして灌溉用池多し。米産多く麥も出し素麵の名産あり、また食用鮭の養殖行はる。阿波街道は北部を横断し、高松市よりはこの町を過ぎて南方の鹽江村への道路ありて町街地はこれに當ふ。西北部に社線琴平電鐵佛生山驛(大正十五年設置)あり、これより南方へ社線鹽江温泉鐵道分岐す。もと百相村と稱せしが明治三十一年現町名に改む。(法然寺) 淨土宗。佛生山寺院と稱す。建永二年に法然は讃岐に配せられ那珂郡子松庄に一庵を結びて生福寺と稱し、彌陀如来像を彫りて奉安せしを本寺の創めとす。當寺は法然教後に寺勢衰へ、且つ天正の兵火に瀕り幾に存像のみを残せり。のち寛永八年松平頼重、寺基を現地に移して三十三門二十餘の大伽藍を建立、法然寺と名づけ同家の菩提寺となす。同十年準本山に列し、延寶三年寶祥長久新願不可思議寺の繪旨並に常樂衣の宣旨を賜はり、常に藩主の外護する所となる。寺境幽邃、眺望絶佳。寺寶中、觀世音功德圓・十五尊・源氏物語初卷の巻・紅葉賀の巻の外、釋迦涅槃像等國寶多し。

フツジョージ 佛生寺村 富山縣越中郡水見郡の南部。水見町の西南方約五軒。南は西福波郡に界す。全村丘陵性にして西及び南より東北に傾斜し、

フツチ—フツミ

緩かなる山脚によりて数條の谷に分る。布勢川は村内に發源して東北流し、流域に多少の耕地あり。米・藁を主産とし、その他の産あり。三條の村道により隣村に通じ、水見町より自動車あり。古くは和名抄、射水郡布勢の内なりし。明治二十九年分郡の際に水見郡に属す。墓本の勤王家、且つ劍豪として知られたる齋藤篤信(贈從四位)はこの地の人なり。

フツチ 富士 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に多藝郡富士あり、蓋し富士の誤なるべし。その地今の養老郡笠郷村・廣幡村の邊ならんか。

フツチヨ 佛頂 山名。

【佛頂山】 阿武隈山脈の一峰。水戸市の西方約二五軒。茨城縣西茨城郡北山内村に属し、西側は栃木縣芳賀郡蓮川村に延ぶ。標高四三一米。山中老樹繁りて幽邃なり。東麓に佛殿あり。この山、佛ノ山の假稱を有す。北麓に縣道佛ノ山峠の最高點(一九四米)あり、また南麓に奈良峠の最高點(三一一米)あり。

【佛頂山】 朝鮮忠清北道槐山郡の北部。南に郡邑槐山面に接し、北は忠州郡利柳面に、西北は陰城郡蘇伊面に界す。地々や南北に長く面積約七九方軒。車嶺山脈の支脈延びて北境の西部に御東山(三九五米)、東部に福愛峰(四八三米)、中部、南部にも高さ二一三米の山地東西に延び互す。漢江支流の達川は東南境を北流

し、陰城川は西北隅の蘇伊面より来り中部を東南に横ぎりて達川に合す。陰城川に沿ふ一軒内外の低平地と、南部を東流する小川の谷とに耕地拓く。米・麥・大豆・棉・莞草・燐草等の農産あり。槐山・忠州間の道路は東部を南北に通ずるも交通なほ便ならず。

フツツ 富津町 千葉縣上總國君津郡の西海岸。東京灣と浦賀水道との間に突出する富津洲の部分を含む。全町平地にて水田・畑地あり、米・麥を産す。特産物に富津南瓜あり。海岸は砂濱にて漁業行はれ、近海魚及び平貝・ばか貝・海苔等を産す。縣道は中央を走りて北隅青堀町、南隅大貫町に通じバス往來し、青堀町の省線房総西線青堀驛、大貫町の同大貫驛に出づるに便なり。富津は房総志村に古戸に作る。この地の謂ゆる富津鼻は斜に相模の走水と相對しその間僅に十餘軒。東京灣内の防禦上重要な地たり。されば、文化八年、松平中守定信、台命を奉じ、海防の砲臺を築き、戌兵を置きしより、弘化年間更にまた堅固なる一砲臺を洲の頂端に増築し、嶺前その成を撤し、嶺後に至り陸軍所轄に歸し、改めて舊址より東三百米の所に砲臺を築き堅固に倍し、のちに更に洲の西二軒の海中に砲臺を新築す。明治三十年町制を布く。〔八坂神社〕 大字富津に鎮座。郷社。祭神、瓊瓊杵尊之命。創立年代詳ならず。古來富津の鎮守たり。例祭、七

月七日。(大乗寺) 大字富津にあり。淨土宗。普賢山と號す。貞元中に鎮守府將軍大野東人の創建に係り、慧心僧都を請じて開山となす。永正中に相譽上人天台宗たりしを現宗に改む。故にこれを中興開山とす。慶安元年に徳川家光朱印領十七石を寄す。

フツト 古渡村 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。江戸崎町の東隣にて霞ヶ浦に臨む。南境附近は丘陵地をなすも、北部は霞ヶ浦沿岸の平地にて農産行はれ米・麥を産す。霞ヶ浦には白魚・公魚等の水産あり。縣道は平地を西走して江戸崎町に通ず。霞ヶ浦は水運の便長く江戸崎町と土浦町に汽船を通ず。此地古くは和名抄信太郎兼濟の内にし。

フツト 布土 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年に外一町一村と共に廢し河和町を設く。

フツト 拂戸村 秋田縣羽後國南秋田郡男鹿半島の東部、八郎湯の西岸。南に船越町に接す。八郎湯西の湖岸平野に位し、全村は平地にして湖沼・水田多し。村の生業は農を主とするも、八郎湯に臨めるため漁業を兼るものもあり。米・魚を産す。道路は村の中部を西北より東南に通じ船川線船越驛へは約四軒あり。本村は江戸末期の徳川家にして党野の開拓、植林、陸防溝築、河川開墾、嶺山採銅、馬匹改良に盡力せる渡部宗松の生地なり。

西四

フツトノ 風渡野 埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年に外六箇村と共に廢されて七里村を置く。

フツナイ 富津内村 秋田縣羽後國南秋田郡の東北部。五城目町に東隣し、東は北秋田郡に接す。地勢東部に高く、西方に傾斜し、東北境には赤倉山(三九八米)、北境に坊倉山(二八三米)、南境に瀨師山(三九五米)聳え、五城目川は東北部に發源して村の北部を西流し、沿岸に耕地拓く。米・木炭・木材を産す。五城目街道は北部を略ぼ東西に通じ、西方の社線五城目軌道五城目驛へは自動車の便あり。大字下山内に五丁目城址あり。五丁目采女正の居りし所、采女正亡びて後は秋田右近衛秀これに居城せりと。

フツミ 布都美村 岡山縣備前國赤磐郡の西北部。岡山を距る約二〇軒の北方山中に位し、久米郡福渡町の東方約五軒に存す。面積一八・九方軒。土地概ね二一三百米の山地に蔽はれ平地乏し。所々の山間平地に耕作行はれ、大部は山林に占めらる。墾墾の處に散在し、焚蕨を管み、また米・麥・木炭・柿・澤蓴等を産す。縣道は東部を貫通し、岡山市に到るバスの便あり。〔石上布都之魂神社〕 大字石上に鎮座。郷社。祭神素戔鳴尊。式内小社。布都之魂とは靈瀨の謂にして、即ち日本書紀にいふ素戔鳴命毒蛇を退治し給へる處正の劍なり。この靈劍の佩座に就きて書紀は或は大和國石上な

りといひ、或は吉備神部の許にありともいひ、前者は大和石上神宮にして、後者は即ち當社なりといふ。由來當社は石上神宮より遷し奉れるものか、或は當社より石上に遷せるものかに就きて異説紛々たり。近世は池田家累代の崇敬社なり。例祭、十月二十日。

フツヤ 物野面 朝鮮慶尙北道奉化郡の西部。郡邑乃城面の北隣にて、西は榮州郡浮石面に、北は江原道寧越郡下東面に界す。面積約一一〇方軒。北部は小白山脈の山地にしてその東境には玉石山(二二三五米)、文殊山(二二〇六米)、西境には先達山(二二三〇米)、鳳凰山(八一九米)等峙ちて峻嶮なり。南半部は南西界に鷹坊山(五八七米)あるも傾斜比較的緩く、北部山地に發する乃城川その東側の低地を南流しこれに沿ひて耕地拓く。農産に米・麥・大豆・棉・大麻・莞草等あり。交通はなほ便ならず。

フツンロク 社 臺灣高雄州潮州郡にある神社。平地新興庄餉潭の東北約四軒、海拔約六〇〇米の山腹に位す。もと新興庄南岸、現住地の西方約二〇軒の地に住したるも、常に福建人と争を生じ壓迫を受けたるを以て數度西方へ居を替へ、約二百五十年前に現在地に戸數約一二、人口七〇を以て移住し來り社を形成せり。パイロン族のパイロン番に屬する高砂族にて、本族の頭目は他の種族と異り純然たる世襲制なり。現在の戸數六

六、人口三一(昭和十一年調査)。

フテー 武貞面 朝鮮全羅南道潭陽郡の東部。西北部は郡邑潭陽面に接し、東は谷城郡火面・玉果面、東北は全羅北道淳昌郡金果面と界す。昭和七年十一月もとの武面・貞面の合併して一面を建てしもの。地東西に長く、面積一六方軒餘。東境は雲山(五二二米)、北境は瑞巖山(四五八米)、高飛山(四六三米)等の山地、南境にも高度四百米の山嶺東西に連り、中央部は幅一軒内外の低地東西に延びて田畑よく拓げ、榮山江支流の五龍川これを西流す。米・麥・棉花・大豆等のほかの産あり。三等道路は東西に通じ、潭陽・谷城等への交通は不便ならず。

フデオカ 筆岡村 香川縣讃岐國仲多度郡の西北部。普通寺町の西北に接し西北方約二軒には多度津町あり。土地平坦、灌溉の便よく米・麥・蔬菜の農産物頗る多し。また養蠶行はる。讃岐街道中央を横斷し、多度津町より琴平町に至る街道は東部を掠め、また中部には多度津町より普通寺町に至る道路斷斷するあり。普通寺町の省線土讃線金藏寺驛に近し。中央には社線琴平多宮電線走りて中村・筆岡の二驛(大正十三年設置)あり交通至便なり。村名は筆山の東麓なるより起ると。此地は舊の多度郡仲村・弘田の二郷を合せしものとす。(本島野神社) 大字中に鎮座。祭神、徳玉男命外

二社。例祭、九月十九日。(雲氣神社) 大字弘田に鎮座。郷社。祭神、豐宇氣大神・大雷神。式内小社に列し當國二十四座の一。例祭、十月二十日。(甲山寺) 大字弘田にあり。眞言宗普通寺派。賢王山多寶院。四國八十八所第七十四番札所たり。寺傳に、空海この地に瀟湘池を築きし功により朝廷より淨財を賜はりて堂宇を創建し、一山の形が昆沙門天の甲冑に類似せるにより甲山寺と號すといふ。御詠歌「十二神みかたにもてる軍にはおのれとこころ甲山かな」。

フテン 普天面 朝鮮咸鏡南道甲山郡の北半。南は雲興面・惠山邑、北は咸鏡北道茂山郡三長面、東は同郡三社面に隣り、西は鴨綠江によりて滿洲國安東省長白縣と界す。もと普惠面とよびしが、昭和九年四月西南部の惠山邑が分離せるにより今の名に改む。東西約三二軒、南北約六五軒、面積一三〇〇方軒を越ゆ。北境に朝鮮の靈峰白頭山(二七四四米)を越き、南内はその熔岩より成る臺地にして北東境に小白山・北胞胎山(二二八九米)、白沙峯(二〇五七米)、阿武山(一八〇三米)等の高峯連立する際天嶺山脈蜿蜒連互し、南内到的處密林を以て蔽はる。東南部山地より發し西南流して鴨綠江に注ぐ佳林川その他の河川の流域に平地ありて地味肥え農作に適す。木材を主産物として、他に蕎麥・蕎麥・大豆・玉蜀黍等の農産あり。近時南部の普天堡

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤川・太田川等數條の小川は北上川に向ひて東流し、また中央部を岩手郡太田村の零石川穴口より上水したる鹿渡用水路南流して水田六百町歩、畑

【不動村】 岩手縣陸中國紫波郡の西部中央。日詰町の西北約六軒。北は燧山村、東は徳田村・古館村、南は水分村、西は岩手郡御所村に隣接す。奥羽山脈東部支脈の扇狀地上にあり、西部は第三紀層なる北谷地山・金盞山等三〇〇一六〇〇米の山地にして、薪炭材を供給するほか重要な水源地をなす。東部は凡そ三軒の間、標高一〇〇米より一五〇米に及ぶ緩傾斜の平地をなし、洪積層の壤土を以て蔽はれ、大白澤



地二百町歩を灌漑す。米を主産とし、大豆等の農産もあり、養蠶及び苹果、梨等の果樹栽培も行はる。また農工品、蠶表・茶葉類の特産あり。なほ年々九月中旬より翌年四月下旬まで青壯年の酒屋備として各地に出稼する者少からず。中央を縣道川久保線は南北に通じ、盛岡・志和村に各バスの便あり。省線東北本線は本村の東部を縦貫し、隣村煙山村の矢幅驛に至る約四野の間は縣道大沼線通じ、また日詰町には村道を通ず。大字岩清水は永慶軍記に天正十六年、斯波安高守の邸當に岩清水有京亮なる者あり、これに在る名を稱せしものか。

【不動岳】日本北アルプス後立山山脈の一峯。東側は長野縣北安曇郡平村に、西側は富山縣上新川郡大山村に屬す。標高二五九五米。北麓は船窪岳・北葛岳(二五五一米)・蓮華岳(二七九九米)を経て、針ノ木峠最高點(二五四一米)に達し、南麓は鳥飼子岳(二六二二米)に連る。東斜面に不動潭南流して洞小屋附近にて高瀬川に落つ。西方は北流する黒部川の深谷を隔てて木挽山(二三〇一米)・越中平山(二五九一米)と對峙す。船窪岳乃至鳥飼子岳方面より縦走して登頂せらるるも走路難し。

三〇米。山奥圓形にして、山體石富土岩より成る。南麓は容積山(一四九九米)を経て火打山(二四六二米)に續く。東麓は矢代川、西麓は能生川に限られ、北方より名立川發す。

【不動岳】赤石山脈南方の一峯。大井川右岸の支流又川の西方に峙つ。靜岡縣榛原郡上川根村に屬す。標高二一七一米。北方に合地山(二〇四米)、南方に丸盆岳(二〇六八米)・黒法師岳(二〇六七米)・續き、北西方に中ノ尾根山(二二九六米)を望む。東方の寸又川を隔てては大無間山(二二二九米)と對す。

【不動堂村】宮城縣前田郡田子の西南部。涌谷町の西南約四野。南は鳴瀬川を隔てて志田郡に對す。面積五・三八方野。前平野の中部に位する大崎平野の東部を占め、西南部に積石陵あるほか、全村概ね平坦なり。鳴瀬川は南境を東南に流る。米・麥・蕎麥の産あり。道路は南部を東西に通じ、省線東北本線小牛田驛(明治二十三年設置)あり。以て今日に至る。

【不動堂村】宮城縣前田郡田子の西南部。涌谷町の西南約四野。南は鳴瀬川を隔てて志田郡に對す。面積五・三八方野。前平野の中部に位する大崎平野の東部を占め、西南部に積石陵あるほか、全村概ね平坦なり。鳴瀬川は南境を東南に流る。米・麥・蕎麥の産あり。道路は南部を東西に通じ、省線東北本線小牛田驛(明治二十三年設置)あり。以て今日に至る。

【不動堂村】宮城縣前田郡田子の西南部。涌谷町の西南約四野。南は鳴瀬川を隔てて志田郡に對す。面積五・三八方野。前平野の中部に位する大崎平野の東部を占め、西南部に積石陵あるほか、全村概ね平坦なり。鳴瀬川は南境を東南に流る。米・麥・蕎麥の産あり。道路は南部を東西に通じ、省線東北本線小牛田驛(明治二十三年設置)あり。以て今日に至る。

フトミ

穴に隠る。朝顔の從者その馬跡あるを見つて窺ふに果して駿馬あり。直ちに捕へて朝顔に獻す。故にその捕へたる地名を用ひて太夫馬と名付けしと傳ふ。此の地に今なほ馬跡石を産し好事家の來りて觀村となす者あり。(仁右衛門島)一名波太島また蓬島ともいひ字波太の東南に位し海岸を距つること一町餘、周圍十一町、面積六二〇坪、地勢峻角、概ね巖石にて土砂少く、平野仁右衛門なる者ここに居る。家傳に云ふ、治水年間、源頼朝石橋山の戦に敗れ身を以て此處に脱れし時、先祖仁右衛門遺事せるの故を以て此島を賜ふと。子孫連絶として今日に及ぶ。島の周圍にては伊勢蝦・榮螺・鮑等多く採集せらる。太海群より約一軒、外房遊覽者の來遊する者多し。

フトミヤマ

【太美山村】富山縣越中國西礪波郡の南端。西は加賀山脈を境に石川縣に接し、東はその分脈により東礪波郡に界す。全村九百一十五米の山岳に圍繞され、南端に小矢部川發源し西部に峡谷を作りつつ東北部に出づ。平地は東北部に少し開けて礪波平野に續く。面積は七四・三四方野にして本郡第一の大村なるも人口密度は二〇人にて最少なり。業者は西部谷沿ひに散在し、養蠶・林業に従事し、東北部には米・麥の耕作行はる。主産物は米・蠶・薪炭等なり。北部には福光町より縣道來り、村道により石川縣淺野川・犀川の上流に出で金澤市

フトミ

に至るを得。福光町よりバスの便あり。大字刀利に刀利嶺山あり。嶺は金銀嶺にして昭和十年より事業を開始したるが同年の産額は金銀嶺三處に過ぎず。

フトロ

【太樽村】北海道後志國檜山支廳太樽郡一帯を占む。後志國の西南隅に位し日本海に面す。北は檜郡、南は久遠郡に接し、西南海上には奥尻島を望む。面積二・二二五方野。本道半島の香取山脈は本村の東境を劃して南北に通じ、太樽岳(二〇五三米)・遊樂部岳(見市岳、二七六米)等の高峰を屹立せしめ、太樽川を發す。太樽川は山多き村内を西北に流れ數本の小流を合して海に注ぐ。沿岸低地に耕地拓け、米の産多し。海岸線は小出入に富むも南半は險崖をなし、主として中央部に宇太樽村ほか漁業集落集り、鰯・柔魚・鮭などの漁獲をなす。この地は明和年間開拓せられしもの如く、往時は純然たるアイヌ部落にして舊松前藩の支配を受け、文化四年幕府の直轄に移り、天明以降に至り始めて和人の移住するものあるに至れり。明治三十九年從來の太樽・良増石・古樽多・鶴沼の舊四箇村を合し本村を置け。村内には漁獲を始め金銀銅鉛等の幾多の礦産はあれど何れも採ばず、獨り大豊嶺山(過嶺)のみは昭和十年より事業を開始せり。宇太樽より洞瀨港へ船の便あり。

フナイ

【府内】朝鮮咸鏡南道德源郡の東北部。永興灣の西南岸に沿ひ、東南は元山府に近く、その間に南陽赤田面の東北部を隔て、西北は文川郡内面と界す。面積一二六方野餘。西北境と南境と中部には狼林山脈南部の支脈及び山岳起伏連なり、東南部は土地概ね平坦にして耕地あり、米・粟・麥・大豆等の農産を出す。元山・會寧間と元山・平壤間の道路ありて前者は東部を南北に、後者は中部山地を迂回して略東西に通じ、鐵道咸鏡線は前

フナイ

高麗にあり、古くは江都と稱し、高麗の高麗が蒙古の兵禍を災けて一時都を置きし處にて、四面城壁を築らす。郡監・警察署等の官衙及び學校あり。織物・干鰯・酒等の工業あり、毎月陰曆三・七日には市場開かれ商業また行はる。江華南門・傳燈寺・高麗朝の宮址をばじめ、邑の南より西にかけては洪陵(高麗高宗王陵)・坤陵(高麗元德太后陵)・碩陵(高麗熙宗王陵)・嘉陵(順敬太后陵)等の陵墓あり。道路の中心をなし島内諸面に通ずるも江岸を去るを以て舟楫の便よろしからず。

フナイ 富内面

朝鮮京畿道富川郡の略中央部。南西部は仁川府の東北部に接し、西は江華郡と西面を隔つ。北境に桂陽山(三九五米)、西境には鐵馬山(二二七米)、南境にも二百米程の山地あるもその餘の大部分は北隣の桂陽面、東隣の吾丁面・桂南面に續く調ゆる富平平野にて、中央部に葛月里の小丘ある外は平坦肥沃にて田畑よく拓げ、富平水利組合の灌漑地をなす。米を主とし麥・棉花・甘藷・白菜等の農産多く、甜瓜・西瓜・果實をも出す。京仁間の一等道路と鐵道京仁線は南部を横ぎり、後者は富平驛(明治廿二年設置)を置き交通便なり。

フナイ 船井

【船井郡】 京都市十七郡の一。丹波國の中部。西南部は兵庫縣多紀郡に界し、其南の西南隅は僅に大阪府豊能郡の北隅に接す。到るところ山地をなし、中央には

フナカ

丹波高地の主脈をなす佐々利山脈が一帶に横がり所々に山峰聳え、東境に黒尾山(五六八米)、略ぼ中央に美女山、西境に櫃ヶ嶽(五八二米)・三國嶽、西北部には三峰山等あり。南部は老坂山脈連り、西に南境に深山(七九一米)、南境中央に牛岡山、東南境には徳王ヶ嶽等の山峰あり。北部は飯盛山脈にして、西南方へ延ぶる二列の山地によりて西・北・東の三面を劃し、東境の長老嶽(九一七米)は郡の最高峯なり。山地は侵蝕よく行はれ陸地準平原面の平頂面は失せて、全く峻嶒山形をなす。河川は東南中に保津川及びその支流流れ、西北半には山良川支流の諸川あり。兩河川の流域は東北より西南の方向に連れる佐々利山脈に屬する四五百米の分水嶺によりて隔てられ、其中なる觀音峠は山陰道の重要な通路なり。東方より來る大堰川は東南部を流れ、東北隅に發して西南流する田原川を合せて東南折し途中にて、西南部に源流して東に流る河本川を合せて南谷田川に入る。東南中の岡水は凡て大堰川に合す。北部には山良上流の大野川ありて西に貫き、觀音峠附近より北流する高尾川を合し、其他の西北半の水を集めて西北部より河原郡に入る。西隅には土師川の上流西に流る。各河川の谷は深く且つ屈曲して埋積され所謂壯年地形の過程にありて、流域所々に僅少な盆地開く。殊に須知盆地・岡部盆地は稍廣く、東南隅の大堰川

フナカ 船形町

千葉縣安房國安房郡の西部。館山灣に臨み、東は那古町に、西北は富浦町と隣る。面積僅に一・六三方軒。北境は丘陵地をなすも南部の海岸に平地ありて米麥を産し、また養蠶も行はる。縣道は富浦町より來り、海濱に走りて那古町に通じバスの便あり。桑葉もこれに沿ひて發達す。省線房總西線は中央部を南走し那古船形驛(大正七年設置)を置く。海岸には沿岸鐵路の汽船寄港す。明治三十年に町制を布く。附近は海水浴場として知らる。此地は文明以來、里見氏代これを領し、徳川氏に至り幕領・諸侯の私領又は社領・旗本の采地等の沿革を経て王政復古となり、長尾縣・本更津縣を経て千葉縣の管下となる。(諏訪神社) 大字船形に屬座。郷社。祭神、建御名方之命。古來富村の鎮守たり。例祭、七月廿七日。(崖の觀音) 北嶺山の麓にあり、普門山大福寺と稱し、仁明天皇の御宇、慈覺大師の草創したるものにして、養老元年に行基菩薩の來りて自然石に十一面の觀音を刻みこれを祭る。のち火災に罹り御朱印その他の寶物鳥石に歸す。境内廣く木石の配合雅趣に富む。登れば中腹の自然岩窟中に堂宇あり、絶壁數十尺の高きにありて展望闊大伊豆七島一眺の中に入る。

フナカ 船形村

山形縣羽前國最上郡の南部。新庄町の南約九方軒。南は北村山に接す。面積七七・八六方軒。東境に熊ノ返山(八二八米)、東北境に大徳山(七一五米)、東南境に戸平山(五八二米)を攀て西方に傾斜す。小國川は村の中部を東北より西南に流れ、最上川に合し、最上川は西南境を西北に流る。小國川沿岸には耕地拓げ米・蕎麥を産し、山地には木炭・馬の産あり。羽州街道は西部を南北に通じ、北羽前街道はこれより東方に分岐し小國川に沿ひて東北方に向ふ。奥羽本線船形驛(明治三十五年設置)及び陸羽東線長澤驛(大正四年設置)を置く。此地は天平寶字三年紀に出羽國玉野、遊雲平支云々とある遊雲驛のありし所なるべし。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(木友炭山) 舟形村と北村山脈原村とに跨る飯盛山。舟形驛より約五百五十米の地點にありて鐵道は四十七萬二千坪、地質は第三紀新鮮層にて主に砂岩と頁岩とより成り、時に凝灰質砂岩の層を含む。殊に炭層の上盤の凝灰質砂岩なることは此處の地層の特徴とす。炭層は上三尺層・四尺層、本層(七尺)下三尺層が主なるものにして、また二尺以下の炭層が上記各層の上、又は下に整層をなす。淺野同業會社の經營に

フナカ 船形山

奥羽山脈の一峯。東側は宮城縣加美郡色麻・小野田の二村及び宮城縣大澤村に、西側は山形縣北村山郡常盤村に屬す。標高一五〇〇米。東側と北側の水は飯流に分れて鳴瀬川に注ぎ、西側の水は丹生川に合し、南側の水は大倉川に落つ。山勢峻拔にして中腹より上部には矮松密生し、高山性地貌を呈す。山上には船形明神(御所山神社)を祀り、往時は行者の登拜者多かりしも、今は登山者少し。この山は附近の笠神山・日天森・月天森・黒伏山と共に五山と稱され、御所山の別名あり。山頂に直徑一〇米の鐵ノ池を流へ、又山中に瀑布・絶壁・岩窟等あり。山名は東方より望めば山頂部平坦にして、その兩端少しく反り、宛も舟の形に似たるに因ると云ふ。登路は陸前國は吉岡町より舟形を経て通じ、羽前國は東根・天童の兩温泉より林道あり。

フナカ 船川

【船川】 省線房總西線の一。秋田縣南秋田郡内を走る。奥羽本線追分驛(金足村)に起り、二田・船越・船本・羽立の四驛を経て船川驛(船川港町驛)に至る。全長二六・六軒。船川驛より船川港驛に至る一・八軒の貨物専用線を分岐す。【船川】 秋田縣南秋田郡にありし村。明治

フナカ 船川

流城の八木町附近は總同盆地西北部の平地に屬す。田畑よく拓げて米・麥を産し、養蠶の副業も行はれ丹波栗の特産あり。郡内は岡部町・八木町・須知町の三町及び十八箇村を含み、平均人口密度は八八八にて最も多きは八木町の五六五人なり。山陰道が西南部を東南より西北に村を貫くほか各河川に沿ひて縣道四通八達し、省線山陰線は村の中央を東南より西北に貫通し各地方への連絡便なり。三代實錄貞觀十六年に郡名見え、和名抄は不登爲と註し、刑部・志麻・船井・出鹿・田原・城崎・野口・須知・鼓打・木前・餘戸の十一郷を置く。

フナカ 船岡

【船岡村】 宮城縣陸前國柴田郡の東部。北は白石川を隔てて槻木町、西は大堰町、南・東は伊具郡に隣接す。村の西北部に船山(三七七米)あり、西部と南部は稍高きも他は概ね平坦なり。白石川は北流を東流して阿武隈川に合し、阿武隈川は東境を北流す。米・蕎麥を産す。道路には北部を東西に通ずるもの、東部を南北に通ずるものあり。後者は角田町(伊具郡)行のバス通す。東北本線船岡驛(昭和四年設置)を置く。此地は和名抄柴田郡柴田郡の内にて柴田氏ここに居り、仙臺藩治の時柴田氏の采邑たり。(柴田城址) 四保館とも稱し、柴田家代々の居りし所にして正治三年、宮城四郡に攻められ、遂に亡ぶ。

フナカ 船岡山

↓京都市(二一九九米) 【船岡村】 鳥取縣因幡國八頭郡の中部。八東川の千代川に合する東南岸に位し、北は川を挟みて岡中村に對し、西は岡茶村に接す。面積五・二六方軒。南半は山地なれども北方に傾斜す。北境を八東川西流し更に大江山注ぎて大溪谷をなし千代川に合す。各間に耕地拓げて米麥を産す。一般に養蠶行はれて繭の産出多く南

フナカ 船川

治二十七年に船川港町と改む。秋田縣羽前國南秋田郡の西部。男鹿半島の南面に位し、東南は日本海に面す。西境に丸森山(二二七米)を攀て東方に傾斜し、東北方には寒風山脈、東北部はその南西麓をなす。全町概ね山地をなす。川は北部に發して東南に流れ日本海に注ぐ。沿岸に稍耕地拓く。船川港(内務省指定港)は東南部にありて背後に山地を負ひ、南方は南平澤の突出によりて巻の北西風を防ぎ、新潟以北唯一の避風港として重要なり。根ノ崎に燈臺あり、明治廿七年設置、不動自光、光達燈籠一八・五燈。米・水産物・木材等を産す。港は主に北海道との間に取引行はれ、豆鮑・石炭・木材等を移入し米・石油・木材・酒等を移出す。道路は海岸に沿ひて東北方に通じ、バスの便よし。奥羽本線追分驛より分岐せる船川線の船川驛(大正五年設置)・羽立驛(大正四年設置)及び船川港驛(昭和十二年設置)あり。本町はもと船川村と稱せしが明治二十七年に船川港町と改稱せり。男鹿名勝誌によれば延寶の頃までは一町餘り沖にありしが、漸々波浪に打たれて地は陥り、爲に住民は山を開拓して居所となす。戊辰の役に軍艦の牽泊あり、爾來、汽船の往來絶ゆることなしと。港の左右に砲臺址あり、明治二年、藩主これを建造せしが幾年ならずして停止す。

フナカ 船川

【船川】 省線房總西線の一。秋田縣南秋田郡内を走る。奥羽本線追分驛(金足村)に起り、二田・船越・船本・羽立の四驛を経て船川驛(船川港町驛)に至る。全長二六・六軒。船川驛より船川港驛に至る一・八軒の貨物専用線を分岐す。【船川】 秋田縣南秋田郡にありし村。明治

フナカ

フナキ 船木

【船木村】千葉縣下總國海上郡の東北部。利根川の南岸にて銚子市の西隣にあり。北は利根川を隔てて茨城縣鹿島郡の一部と相対す。大部分丘陵地にて針葉樹林あり。北部の利根川沿岸は平地をなして米を産し養鶏も行はる。縣道は川沿ひに走り銚子市に通じ、省線成田線これに沿ふも村内に疎なく、村境に近き西隣の椎葉村内に椎葉驛あり。省線徳武本線は中部を東走するも同じく疎なく、椎葉村内に猿田驛を置きバスの便あり。利根川は水運の便多し。此地は椎葉村と共に和名抄海上郡船木郷の地にて、大字中島の金屋屋敷を中島城址なりといふ。海上筑後守持秀ここに居りしと傳ふ。

【船木】遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に藤原郡船木郷あり、布奈木と訓す。今の榑原郡古田村、初倉村の邊か。

【船木村】岐阜縣美濃國本巢郡の南西部。北は鶴桑村、東は本田村、南は牛牧村、西は雲田村及び川崎村にそれぞれ接す。西濃平野の北部にありて、東境は五六川南流し、西境には輪中驛跡にて有名な厚川は自由蛇行をなして南下す。地は西濃特有の輪中地域の北部にて牛牧輪中に屬し、或は船木輪中とも云ふ。東は五六輪中、西は七崎輪中と隣る。産業は主として農業にて、米・麥・紫雲英・菜種の産多く、殊に紫雲英は本郷に於けるその種子の本場にしてこの地方にて毎年値

段決定せらる。また富有柚の産も多く、主としてトランプを以て名古屋市場に運ばれ、最近に梨栽培も盛なり。大字美江寺は街村をなし、東河渡宿より中山道はこの美江寺宿にあり、これより直角に南折し厚川を渡り西南に呂久の渡に至る。尤も今の中山道は美江寺南郷より南し、古橋輪中を経て迂回して舊路と合す。美江寺宿の鐘型の形意は徳里制の影響と、東より西直に西すれば掛懸川と敷川の合流點に遭遇するたため南折せしものと思はる。大垣市と北方町とを結ぶ大垣バス及び穂積より本村に至る最便バス通じ、大垣驛と穂積驛との中間に位置して、何れへもバスによる交通の便あり。目下工事中の省線見線は大垣市と根尾村大字根尾とを結び、本村東部を通過し北方町に至る豫定なり。本村は和名抄の本巢郡船木郷の地にて中世は船木庄と呼ばれ、美江寺は船木庄西方十六條と云はる。明治となりて十五條村と三日市場村は合併され重里と改稱さる。この十五條(重里)・十六條(美江寺)・十七條・十八條の字名は北の舊美江寺の十四條、南の牛牧村の十九條と共に古代の條里制の遺名にして、いま道路・境界・水路を見るも遺跡を存す。美江寺は舊名は十六條村にて、養老年中開削の古刹美江寺の寺號より轉名せるもの、昔は宿驛なりと同時にこの寺の門前町として榮ゆ。永祿年間焼寺となりて里名のみ残る。船木城址は町の東なる神明

神社の地にして、城主は和田八郎・和田佐渡守・和田伊豫守高成・和田將監高行と代々居城し、土岐氏に屬す。天文十一年九月三日夜放火され廢城となる。一書に杉本市兵衛も本城に住みし如く見ゆ。

【船木】近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に蒲生郡船木郷あり、その地今の蒲生郡岡山村・八幡町等の邊なるべし。願輔家集りささ波や船木の山のほととぎす岸をほらけて鳴渡るかなし。

【船木村】廣島縣安藝國豊田郡の中部。沼田川の下流に沿ひ、南は本郷町、北は大草村、東は高坂村に接す。面積二八・六九方軒。沼田川南部を東に流れ沿岸に神領平野を展開し、水利よく耕地多し。河岸を南北に去れば地勢は漸次に高くなり北境に於て四〇〇米に達す。米・麥・蕎麥・木炭・酒類・煙草等の産あり。省線山陽本線は河岸を走り、本郷驛に近く交通便なり。村内に鳴雪瀧あり、高さ四二米幅七米。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に高田郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の高田郡船木佐村の邊に當る。

【船木】安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に安藝郡船木郷あり、布奈木と訓す。その地今の吳市の邊に當る。

【船木町】山口縣長門國厚狭郡の中部。厚狭町の東南に接し、東は厚東村、南は高千帆町に界す。面積一六・三方軒。西

北及び南東部は山地に蔽はるるも地勢

起し二百米・百米・六十米・四十米の四段丘を形成し、新橋に屬す。夏季は涼しく平均二十五度六、冬季は暖くして平均六度四、年平均十四度四なり。全面積三八・九三方軒のうち其の四分の三は國有地にて耕地は全面積の二十分の一なり。地は昔は交通不便、物資の供給困難なるため山野を開墾して農耕を営み牛馬半漁を以て自給自足せり。明治維新に到り國有地に編入せられ、爲に村民の生活は漁業に單一化せられしが日清・日露役後、魚價高騰により村民經濟の収支は平均を保てり。最近魚獲の不漁、人口増加、生活程度の向上等より生活の安定を缺き他地方へ出稼に出の現状なり。本村は海岸線八里、純漁村にて戸数の九割九分まで漁業に従事す。而も沿岸漁業を營み、遠洋漁業は船員養成機關と金藏機關の缺除により皆無なり。主なる水産物は烏賊・鰯・鮑・昆布・ワカメ・フノリ・鰯・魚粕等なり。農業は耕地不足にして不採且つ幼稚なり。現在田三十町歩、畑百五十町歩にして米・麥・蕎麥等の栽培行はるれども村内の需要を先ずに足らず。林業は本村としては重要な産業の一にして、森林も盛んに行はるれども民有林少く日

日の費炭にも事缺く状態なり。山林は全面積の九割を占め其の六分の一は民有林なり。養蠶業は現在盛んならざれども漁村として最善の副業なり。畜産業は秣藁少きため不振なれども近來、養牛・養豚・

中央に傾き、有根川は兩山間を西南に貫流し中央に平地長く。國道沿岸に通じ縣道との分岐點に市街地發展す。附近に耕地あり、米・麥及び蕎麥を産す。工業額最高にして、船木郷の特産あり。社線船木鐵道の船木町(大正五年設置)・裁判所前(昭和八年設置)の二驛を置く。近隣にバスの便あり。大正六年町制を布く。町内或は他町村に跨りて多くの石炭鑛區あれど何れも採らず、ただ神田二坑のみは稍成績よく現に重要鑛山たり。鑛區は船木町と高千帆町とに跨り昭和十年には地炭一〇、二六九萬、粉炭四、四三三萬、此總價額六萬八千餘圓)を出し、同年六月末の鑛夫数は八〇人なり。之に次ぐものは宮田・船城の二炭鑛にて同年、前者は石炭三、五八三萬、後者は三、四二九を産す。深井・香匠・若山の諸炭鑛は現在に發つたる存在に過ぎず。船木の名は神功皇后三尊征伐の時この地の樹木を伐りて軍船となせしに因むといふ。古くは和名抄、厚狭郡久喜郷に屬せるものか。山陽道の驛次として發達し、もと郵役所の所在地たり。(同時八幡宮)・縣社・祭神、應神天皇外二柱。寶龜元年に豐前守宇佐

【船木鐵道】社線。山口縣厚狭郡にあり。山陽本線宇部驛に起り、古部驛(古部村)に終る。全長一七・七軒。軌間は一・〇六七米にして蒸氣・ケッソンを運轉し、省線と連絡運輸をなす。

【船木村】愛媛縣伊豫國新居郡の東部。新居濱市の東南方約四軒に位し、東及び南は宇摩郡に界す。南境には法皇山脈連りて西赤石山(一六二六米)・上兜山(一五六三米)等の高峰を起し、數多の淺き溪谷谷を造りつつ北へ急傾し、北盤は北部に於て東西に連る斷崖を以て移る。東北境には讃岐山脈に屬する丘陵あり。西北部には新居濱平野の東南部に屬する平野開け濠池沼あり。米・麥・蕎麥を産す。北部低地には國道東西に横斷し西方の西條町へバスの便あり。古くは和名抄、新居郡丹生郷の地とす。

【船木城村】兵庫縣丹波國水上市の中部。成松町の東約一軒半にあり。北部及び南部は五〇〇米程度の山地をなし、中央は平坦なる平野をなす。米・蕎麥・粟・粟菜・花卉・食用農産・製茶・鶏卵・瓦・蠶糸等を産す。南部に縣道及び省線細知山線東西に走り、黒井驛は東方約〇・五軒、石負驛は南方一軒餘にありて自動車の便よし。古くは船城郷に作り和名抄に水上郡船城郷と見ゆ。

【船崎村】富山縣越中區上新川郡の西南部。神通川の右岸。大久保町の東北に接す。北境を支流野川西流し流域に平野あり。東南隅に小佐波・御前山(七七七米)ありて西北方へゆるやかに山肢を引く。西部・北部には田畑開け米を主産し、蕎麥等を産す。西部を縣道南北に貫通し、北部にて上蘆町より

【船倉村】奈良縣大和國高市郡の西南隅。高取町の西に接し、西は南葛城郡に、南は吉野郡大淀町に界す。全山山地をなし、南境には三三四米の丘陵東西に連る。土地高燥にして僅に西北の一部に耕地拓けたり。米・蕎麥を産し寶珠の特産あり。西北部には縣道及び社線大阪電氣鐵道吉野線東北より西南に走り、市尾驛(大正十二年設置)あり。(如來寺) 大字市尾にあり。淨土宗。石峰山。空海の開創と傳へ、往時は末寺十箇寺を擁して寺運隆盛なりしが、いま四箇寺を存するのみ。

【船越】岩手縣隈田郡下閉伊郡の東南部。地形半島狀に突出して北に山田灣、南に船越灣を抱き、嶺山に於て山脈海に接するを以て斷崖の所多く、河川と稱すべきものなく平地少く、僅に半島の頭部に存するのみ。沿岸には對馬暖流・千島寒流の南下と黒潮の北上との錯綜するありて魚族の回遊に至大の關係あり。地質上、秩父古生層・中生層・火成岩より成り、石炭紀には海面下にありて水成岩を形成せしもの如し。凡そ閃雲花崗岩に屬し斑岩・砂岩・石英粗面岩の露出を見、一部に水成岩中、珪岩・粘板岩・頁岩を見る。第三紀以後第四紀にかけて隆

フナキ 船木

【船木村】千葉縣下總國海上郡の東北部。利根川の南岸にて銚子市の西隣にあり。北は利根川を隔てて茨城縣鹿島郡の一部と相対す。大部分丘陵地にて針葉樹林あり。北部の利根川沿岸は平地をなして米を産し養鶏も行はる。縣道は川沿ひに走り銚子市に通じ、省線成田線これに沿ふも村内に疎なく、村境に近き西隣の椎葉村内に椎葉驛あり。省線徳武本線は中部を東走するも同じく疎なく、椎葉村内に猿田驛を置きバスの便あり。利根川は水運の便多し。此地は椎葉村と共に和名抄海上郡船木郷の地にて、大字中島の金屋屋敷を中島城址なりといふ。海上筑後守持秀ここに居りしと傳ふ。

【船木】遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に藤原郡船木郷あり、布奈木と訓す。今の榑原郡古田村、初倉村の邊か。

【船木村】岐阜縣美濃國本巢郡の南西部。北は鶴桑村、東は本田村、南は牛牧村、西は雲田村及び川崎村にそれぞれ接す。西濃平野の北部にありて、東境は五六川南流し、西境には輪中驛跡にて有名な厚川は自由蛇行をなして南下す。地は西濃特有の輪中地域の北部にて牛牧輪中に屬し、或は船木輪中とも云ふ。東は五六輪中、西は七崎輪中と隣る。産業は主として農業にて、米・麥・紫雲英・菜種の産多く、殊に紫雲英は本郷に於けるその種子の本場にしてこの地方にて毎年値

段決定せらる。また富有柚の産も多く、主としてトランプを以て名古屋市場に運ばれ、最近に梨栽培も盛なり。大字美江寺は街村をなし、東河渡宿より中山道はこの美江寺宿にあり、これより直角に南折し厚川を渡り西南に呂久の渡に至る。尤も今の中山道は美江寺南郷より南し、古橋輪中を経て迂回して舊路と合す。美江寺宿の鐘型の形意は徳里制の影響と、東より西直に西すれば掛懸川と敷川の合流點に遭遇するたため南折せしものと思はる。大垣市と北方町とを結ぶ大垣バス及び穂積より本村に至る最便バス通じ、大垣驛と穂積驛との中間に位置して、何れへもバスによる交通の便あり。目下工事中の省線見線は大垣市と根尾村大字根尾とを結び、本村東部を通過し北方町に至る豫定なり。本村は和名抄の本巢郡船木郷の地にて中世は船木庄と呼ばれ、美江寺は船木庄西方十六條と云はる。明治となりて十五條村と三日市場村は合併され重里と改稱さる。この十五條(重里)・十六條(美江寺)・十七條・十八條の字名は北の舊美江寺の十四條、南の牛牧村の十九條と共に古代の條里制の遺名にして、いま道路・境界・水路を見るも遺跡を存す。美江寺は舊名は十六條村にて、養老年中開削の古刹美江寺の寺號より轉名せるもの、昔は宿驛なりと同時にこの寺の門前町として榮ゆ。永祿年間焼寺となりて里名のみ残る。船木城址は町の東なる神明

る港として南北航海の要津に當り最も惠まれたる時代なりき。鎌倉時代に入りて一時は花輪村根城館主なる閉伊源頼基の東海岸地方を統一するに及び之に屬す。吉野時代、北畠氏の臣南部師行來るに及び郷村擧げて北畠領家を授け、のち多賀國府靈山城・宇津峯城陥るに及びて、本村の豪族、顯家の子顯成を船越館に奉じて船越御所と稱し、之より三代(顯成・顯元・顯秀)六十餘年間(應永十八年まで)此處に據る。文中年間長れ多くも、長慶上皇は船越御所に御遷行あらせらる。上台陵は上皇の御陵と稱せらる。本村が朝廷と交渉多く感深き時代なりき。戦國時代となり大槌氏の治下に屬せし政令行はれず、徳川氏横領の世となり。元龜天正の頃、本村の豪族船越修理之丞及び弟金園調査は力を協せて三戸南部信直を輔佐して津輕三郡を平定し一族九戸政直を亡して統一するに及び本村始めて南部氏に歸し、本村また其の治下に入る。されど南部氏は生産の重點を農村に置きしを以て人民は打獵・凶作と重税とに苦しみ藩の財政また豊ならず、上下共に經濟難に陥り村民は北海道に逃散又は移住する者多かりき。享保二十年に藩内を十郡三十三通に分つに當り、本村は閉伊郡大槌通に屬し大槌代官所の支配を受く。村内に野置を置き、其の下に數人の老人ありて之を授け、若衆は其の命によりて公事事業を助く。村民の生産は牛馬牛漁なり

き。明治維新に村共有の土地は全部國有地に編入せられしを以て生産は漁業に單一化せらる。明治五年に岩手縣に入り本村には戸長、部落には組代を置く。本村は三面海なるを以て、往昔より魚・津浪の慘害を蒙り、其の都度他地方より移住し來るるを以て和協を缺くこと多し。明治廿二年町村制實施し、從來の通り船越區・田ノ濱區・大浦區の三部落を區域とせり。村理事者を更ふること十七代、村長代理九回、如何に本村が統制上難村なりしかを窺ふに足る。昭和七年に船越小學校を漁村郷土教育の指定校とせらる。同八年の津浪には人命に及ぼす異狀なかりしも被害甚大にして復興の途上あり。同九年に經濟更生村として指定せらる。同十年に前内大臣齋藤實親しく視察し教化村として指定す。同十一年十一月二十六日、長くも、秩父宮・同妃兩殿下御來り、民情を御視察あらせらる。村民恐懼感激し、協力一致して郷土の更生を期し、高恩に報ぜんとして進歩しつゝあり。

る外概ね平坦なれども湖沼多くして低濕なり。八郎湯沿岸に水田拓け、日本海岸は砂濱をなし、森林・草地あり。村の生産は農業四三%、商一四%、漁業六%にして、他は農漁・農業商業なり。米・湯の魚・佃煮等を産す。道路は中部を東西に通じ、東方の天王村とは長橋を架して聯絡す。各地にバス通す。省線船川線船越(大正三年設置)あり。町名は八郎湯の吐口に近く、天王村との間に往時は船にて交通せしを以て船越の名起ると云ふ。明治三十八年町制を布く。

臨み、地勢概ね平坦なる低地を以て蔽はる。後背地に小山地あり、海岸には沼田多し。一般に發芽管まれ、醤油・酒・味噌等盛んにして米・野菜・鰻魚等の生産これにつぐ。海上舟楫の便を有し、また海田市に近く交通便なり。昭和三年に町制を布く。

はり、三浦灣口の中央には黒島を初め小島嶼浮ぶ。西岸の前面にも無数の島嶼散在す。海岸は水産物に富み漁業多く、部落は沿岸に散在す。村内に鐵道四萬餘坪を有する金山嶺あり。鐵道は金山嶺船越船越化鐵にして昭和十年に事業を開始す。交通は發動機船の便ありて附近の町村と連絡す。要害地帯の一部なり。古くは和名抄、下縣郡船越郷の内とす。もと大船越・小船越の二村に分れたり。大船越・小船越は元來水道の名にして、のち村名に轉じしもの。大船越は寛文十三年宗氏の開墾するところと傳ふ。〔阿蘇氏御神社〕村社。祭神、天日神命。式内社。俗稱は日權現。例祭六月九日。

和名抄に高田郡船越郷とあるは本村ならんとす。

【船越村】兵部縣播磨國赤松郡の西部。上郡町の西に接し、西部・西南は岡山縣和氣郡に界す。全村三、四百米の山地をなし、南境には有名な船越峠と石塔山(四二二米)あり。一河川は西部に發して中央を東流し、流域の中部及び東部にやや平野開けたり。東部には舟越峠に發する一支流あり北流してこれに合す。沿岸に砂地地帯あり。米・粟・粟・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・果實・食用農産・鶏卵等を産し、また製菓品の産あり。東南部には山陽道通し船越峠を越えて岡山縣に出で、省線山陽線は東部を走りて上郡驛へは東方約二軒の距離にしてバスにて連絡す。元弘二年、後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の時、兒島高徳駕を奉ばんとしてこの地の船越峠に要せしが、車駕はこの地を經ずして美作國に向ひ給ひ、よりて高徳これを追うて美作院莊に至り、御館に忍び入り庭前の櫻樹を削りて赤心を二旬の詩に表はせりと傳ふ(太平記)。(八保神社)大字八保に鎮座。縣社。祭神、豊受姫命。創立年月詳ならず。仁明天皇承和七年に官社とせられ、ついで延喜の制に國幣の小社に列せられ、國內報に明神小社と見ゆ。例祭、六月十五日・十月二十五日。

命登天の靈跡にして和訓年間創立といふ。式内小社に列し古來四十五箇村の鎮守なりしが、いま當村及び附近七箇村の氏神たり。例祭、九月五日。

フナコ フナツ

【船越村】三浦縣志摩國志摩郡の南部。御座半島の頸部にあたる地帯に位置し、西は英虞灣に面し、東は太平洋に臨む。全村産地帯をなし、西部の英虞灣岸は岬・入江の出入複雑にして東部の太平洋岸は断崖・岩礁多き主部落は東岸にあり。米・麥・粟・蕎麥・鶏卵等を産し、工業及び茶の特産あり。水産物は最も多く、眞珠・鮑を産す。英虞灣北岸の鶴方と鳥羽へ遊覧船あり。

【船越村】志摩國(三重縣)の古地名。和名抄に英虞郡船越郷あり、その地今の度會郡五ヶ所村・神原村・南海村・穂原村・宿田曾村の邊なるべし。

【船越村】廣島縣安藝國安藝郡の西南部。廣島市の東南に連り、廣島灣に南面す。東は瀬野川をもつて海田市町に界し、北は畑賀村、西は府中町に接す。面積三・三〇方軒。廣島灣の東北隅なる海田灣に

【船越村】長崎縣對馬國下島下縣郡の東北部。東は對馬海峡に臨み、西は淺海灣に面す。村内平地なく、對馬上島と下島との間に西方より深く廣く侵入する淺海灣一帯の地を占め、海岸はマウス式出入をなし大小の岬角頗る複雑し、東西兩岸相迫りて港に接せんかと思ゆる地狭部も數多あり。東岸の中央に蘆ヶ浦、廣き三浦灣あり、防才岬崎によりて兩者を分つ。蘆ヶ浦口には沖島の大島・赤島等嶺

【フナサ】船佐村 廣島縣安藝國高田郡の東北部。三次町の西方約六軒の山中に位置し、可愛川南岸に横はる。北は川を挟みて備後國に界し、東は栗屋村、西は川根村に接す。面積五八・九八方軒。略正方形の地形をなし四周山脈に圍繞せられ、村内概ね海拔四〇〇―五〇〇米の高度を有す。ただ生田川の村心を東流するありて、山間に低地を開き可愛川沿岸と共に耕地を作る。山地の大部は山林に蔽はれ、所々に穀・船の産地あり。米・麥・粟・木村・木炭・酒類を産す。省線高橋線車立驛へ約一五軒、バスの便あり。

【船越村】兵部縣播磨國赤松郡の西部。上郡町の西に接し、西部・西南は岡山縣和氣郡に界す。全村三、四百米の山地をなし、南境には有名な船越峠と石塔山(四二二米)あり。一河川は西部に發して中央を東流し、流域の中部及び東部にやや平野開けたり。東部には舟越峠に發する一支流あり北流してこれに合す。沿岸に砂地地帯あり。米・粟・粟・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・果實・食用農産・鶏卵等を産し、また製菓品の産あり。東南部には山陽道通し船越峠を越えて岡山縣に出で、省線山陽線は東部を走りて上郡驛へは東方約二軒の距離にしてバスにて連絡す。元弘二年、後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の時、兒島高徳駕を奉ばんとしてこの地の船越峠に要せしが、車駕はこの地を經ずして美作國に向ひ給ひ、よりて高徳これを追うて美作院莊に至り、御館に忍び入り庭前の櫻樹を削りて赤心を二旬の詩に表はせりと傳ふ(太平記)。(八保神社)大字八保に鎮座。縣社。祭神、豊受姫命。創立年月詳ならず。仁明天皇承和七年に官社とせられ、ついで延喜の制に國幣の小社に列せられ、國內報に明神小社と見ゆ。例祭、六月十五日・十月二十五日。

【船越村】三浦縣志摩國志摩郡の南部。御座半島の頸部にあたる地帯に位置し、西は英虞灣に面し、東は太平洋に臨む。全村産地帯をなし、西部の英虞灣岸は岬・入江の出入複雑にして東部の太平洋岸は断崖・岩礁多き主部落は東岸にあり。米・麥・粟・蕎麥・鶏卵等を産し、工業及び茶の特産あり。水産物は最も多く、眞珠・鮑を産す。英虞灣北岸の鶴方と鳥羽へ遊覧船あり。

【船越村】志摩國(三重縣)の古地名。和名抄に英虞郡船越郷あり、その地今の度會郡五ヶ所村・神原村・南海村・穂原村・宿田曾村の邊なるべし。

【フナサ】船佐村 廣島縣安藝國高田郡の東北部。三次町の西方約六軒の山中に位置し、可愛川南岸に横はる。北は川を挟みて備後國に界し、東は栗屋村、西は川根村に接す。面積五八・九八方軒。略正方形の地形をなし四周山脈に圍繞せられ、村内概ね海拔四〇〇―五〇〇米の高度を有す。ただ生田川の村心を東流するありて、山間に低地を開き可愛川沿岸と共に耕地を作る。山地の大部は山林に蔽はれ、所々に穀・船の産地あり。米・麥・粟・木村・木炭・酒類を産す。省線高橋線車立驛へ約一五軒、バスの便あり。

【船越村】兵部縣播磨國赤松郡の西部。上郡町の西に接し、西部・西南は岡山縣和氣郡に界す。全村三、四百米の山地をなし、南境には有名な船越峠と石塔山(四二二米)あり。一河川は西部に發して中央を東流し、流域の中部及び東部にやや平野開けたり。東部には舟越峠に發する一支流あり北流してこれに合す。沿岸に砂地地帯あり。米・粟・粟・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・果實・食用農産・鶏卵等を産し、また製菓品の産あり。東南部には山陽道通し船越峠を越えて岡山縣に出で、省線山陽線は東部を走りて上郡驛へは東方約二軒の距離にしてバスにて連絡す。元弘二年、後醍醐天皇隱岐へ御遷幸の時、兒島高徳駕を奉ばんとしてこの地の船越峠に要せしが、車駕はこの地を經ずして美作國に向ひ給ひ、よりて高徳これを追うて美作院莊に至り、御館に忍び入り庭前の櫻樹を削りて赤心を二旬の詩に表はせりと傳ふ(太平記)。(八保神社)大字八保に鎮座。縣社。祭神、豊受姫命。創立年月詳ならず。仁明天皇承和七年に官社とせられ、ついで延喜の制に國幣の小社に列せられ、國內報に明神小社と見ゆ。例祭、六月十五日・十月二十五日。

【船越村】三浦縣志摩國志摩郡の南部。御座半島の頸部にあたる地帯に位置し、西は英虞灣に面し、東は太平洋に臨む。全村産地帯をなし、西部の英虞灣岸は岬・入江の出入複雑にして東部の太平洋岸は断崖・岩礁多き主部落は東岸にあり。米・麥・粟・蕎麥・鶏卵等を産し、工業及び茶の特産あり。水産物は最も多く、眞珠・鮑を産す。英虞灣北岸の鶴方と鳥羽へ遊覧船あり。

【船越村】志摩國(三重縣)の古地名。和名抄に英虞郡船越郷あり、その地今の度會郡五ヶ所村・神原村・南海村・穂原村・宿田曾村の邊なるべし。



同・慶法燬燬(約二萬圓)等これに次ぐ。交通は、省線徳武本線は市の西南部を西より東南に走り船橋驛(明治二十七年設置)下總中山(明治二十八年設置)の二驛を置く。社線徳武鐵道は東北方より南に走り徳武本線の船橋驛に接り、市内に塚田・馬込澤の二驛(共に大正十二年設置)を置く。また徳武本線とは並行して社線京成電氣鐵道通じ、京成中山・高橋・海神・京成船橋・大神宮下・京成花輪の六驛を置く。本市は二千五百有餘年前、景行天皇の四十年に皇子日本武尊御東征の際に神領をこの地に奉寄せられ海郷と稱へ給ひしが、同五十三年天皇行幸の際、靈雨しきり洪水大いに起り往來するに船を運れ橋とせしを以て海郷を改めて船橋と稱す。天皇の第四皇子五百城八彦尊と御孫富ノ邊、船橋へと向はせられ東國八十八箇所の領主となり給ふ。其後國主の領となりしが、のち承久元年四月千葉滿胤の管領となり千葉庄に屬す。慶長十三年徳川家康この地を以て幕府の直轄となす。降つて慶應四年知事佐々木直之助の支配となる。明治二年葛飾縣、同四年印旛縣の所管を経て同六年千葉縣管轄となり、同十一年東葛飾郡所屬に歸す。其後幾多の變遷を経て同二十二年船橋町と改稱す。爾來年々進んで人口益々増加し市況著しく隆昌となりしを以て、昭和十二年に隣接町村たる葛飾町・八榮村・法興村・塚田村の四箇町村を合併し、其區域

を以て市制を施行す。長くも明治天皇は明治六年(大和田原行幸)・同八年(習志野・下志津原行幸)・同九年(習志野行幸)・同十二年(千葉縣下行幸)・同十四年(三里塚行幸)・同十五年(千葉縣下行幸)の數度この地にて御前泊及び御小休遊ばされた。なほ本市には日本青年協會船橋支部あり。昭和八年の設立にして清浦伯爵を總裁とし、宇垣陸軍大將を會長とし、農村青年の人格陶冶と併せて近代科學的農業を體得せしめ、以て農村の中核たるべき青年を養成する道場なり。(意富比神社)大字五日市に鎮座。一に船橋太神宮ともいふ。縣社。祭神、天照皇大神。社傳に景行天皇四十一年日本武尊御東征の際、此地に早魃甚しく土民困窮せるを以て、尊即ち當町大字海神に伊勢神宮を奉寄して祈り給ひしに神成ありしを以てここに當社を創建すといふ。のち現地に轉す。延喜の制式内社に列せらる。源頼義・義家父子は社殿を造營し、同義朝・實朝は社殿六郷を寄せ、徳川氏の世に至り朱印五十石を附せらる。朝廷の御歸儀また從からざりき。例祭、九月十五日。(船橋無線電信所)行田新田にあり。主塔の長さ二〇〇米、これより傘形に空中線を張り、支柱十八本を四〇〇米の距離に立つ。海軍省が大正五年に建設せしものにして、目下東京無線電信局にて通信を取扱ふ。この局には大正五年ハルイを對手として對米國際通信を開始し、

其後、東京天文臺より發する中央標準時の放送・ニュース・航行警報・氣壓電報などの放送を相次いで開始せしが、大正十年より對米通信業務は原町送信所に譲り、今は南洋群島との通信を取扱ふ。(徳不動)八榮南金杉にあり。慈覺大師の作と傳ふる不動明王を安置す。境内に瀧あり、毎月二十八日の縁日には近郷よりの參詣者多し。(試砲臺址)五日市の了源寺内にあり。小丘にいま鐘樓を建つ。享和年間に徳川氏ここに砲臺を建造し鐘樓を試み砲術を練習せり。

印旛沼西端の北岸にて木下町の南隣にあり。西南は千葉郡の一部と隣す。全村丘陵地にて針葉樹林あり。南部の印旛沼沿岸のみ狭き平地ありて、米・藪・麥を産し、養蠶も行はる。木下街道は中央を北走して木下町に通じバスの便あり。木下町に省線成田線木下驛を置く。この地は宗像村と共に和名抄、印旛郡船橋郷の地にして、大字船橋寺には源三位頼政の敗死後、その家士首を携へてここに來り首を埋めしといふ。(船橋寺)大字船橋寺にあり。新義眞言宗豊山派。晴天山。神龜年中に行基の開創に係り、本尊阿彌陀如来はその刻するところといふ。のち衰頹せるを源頼政の臣、主の首級を此處に葬り本寺を中興すといふ。寺寶中、不動明王立像一軀は國寶なり。境内に源頼政墓と稱するものあり。

【船橋村】岡山縣備中國津日部の東北。西高梁川の右岸に沿ひ、北は古備郡、東は川を隔てて都賀村に對す。西南の一部は本郡の玉島町に連る。面積一〇・六七平方軒。古備郡界は一〇〇米の小山脈起伏し山林に蔽はれたるも河岸に向ひて低夷し、西南部に平地展く。高梁川とその水を以てしたる大貯水池の設備あり、農耕盛んなり。南部の開墾地を中新田と稱す。米・麥・藪・梨及び繭の産あり。省線山陽本線玉島驛・西阿知驛に近く、玉島町へもバス通す。和名抄に淺日船橋郷と云ふは本村及び長尾町の邊をも指す。

フナマ 船間 古江西線の一驛(大正十二年設置)。鹿兒島縣肝屬郡花岡村大字本谷にあり。

フナミ 舟見町 富山縣越中國下新川郡の北部。もと北陸道たりし縣道に沿ひ、黒部川扇狀地の東部を占む。東部に飛騨山脈の餘脈伸び來り一千米近き負釣山ありて西へ傾斜す。西北半は黒部川沖積原に屬し、地味肥沃にて米を多産し、黒部西瓜の特産あり。街は山麓縣道に沿ひ、地方的中心として商業行はる。泊町・入善町へ縣道バス通じ交通便なり。古くは和名抄新川郡佐味郷の内に屬せしもの如く、中世は愛本・山崎二村と共に應保と稱せらる。當町と愛本・内山の二村に互る白馬山の地域は高山植物群生し、いま白馬連山高山植物地帯として天然記念物たり。域内に舟見銀泉あり。冷銀泉と炭酸泉の二泉。土地高燥、舟川に臨み、悉に日本北アルプスを望む。

フナニ 船生村 栃木縣下野國鹽谷郡の南部。藤原町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相對す。高原山より南方に長く山地を占めて中央に鶴嶽(六六八米)

フネ 富寧 朝鮮咸鏡北道二府十一郡の一。道のほぼ東北部に當り、南は清津府及び鎭城郡に、西は茂山郡に、北は會寧及び鎭城の二郡に、東北は慶興郡に界し、東南は日本海に面す。東西約六〇軒南北約四〇軒、面積約一九〇〇方軒あり。西部をほぼ西南より東北に連る小長白山脈北部と、東部をこれに並行する會寧丘陵山地南部より成る地域にて、西境即ち茂山

大にて鎌倉時代の作と思はる。佛像の上方に岩窟あり、寶藏と稱し、岩頭より吊されたる銅により幸うじて建することを得、この岩窟は古來六十年ごとに関帳すと傳へ、明治十二年に開扉せられし時、銅板及び和紙など取出し、そのまま有志によりて保管せらる。

フナマ 船間 古江西線の一驛(大正十二年設置)。鹿兒島縣肝屬郡花岡村大字本谷にあり。

フナニ 船生村 栃木縣下野國鹽谷郡の南部。藤原町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相對す。高原山より南方に長く山地を占めて中央に鶴嶽(六六八米)

フネ 富寧 朝鮮咸鏡北道二府十一郡の一。道のほぼ東北部に當り、南は清津府及び鎭城郡に、西は茂山郡に、北は會寧及び鎭城の二郡に、東北は慶興郡に界し、東南は日本海に面す。東西約六〇軒南北約四〇軒、面積約一九〇〇方軒あり。西部をほぼ西南より東北に連る小長白山脈北部と、東部をこれに並行する會寧丘陵山地南部より成る地域にて、西境即ち茂山

大にて鎌倉時代の作と思はる。佛像の上方に岩窟あり、寶藏と稱し、岩頭より吊されたる銅により幸うじて建することを得、この岩窟は古來六十年ごとに関帳すと傳へ、明治十二年に開扉せられし時、銅板及び和紙など取出し、そのまま有志によりて保管せらる。

大にて鎌倉時代の作と思はる。佛像の上方に岩窟あり、寶藏と稱し、岩頭より吊されたる銅により幸うじて建することを得、この岩窟は古來六十年ごとに関帳すと傳へ、明治十二年に開扉せられし時、銅板及び和紙など取出し、そのまま有志によりて保管せらる。

フナマ 船間 古江西線の一驛(大正十二年設置)。鹿兒島縣肝屬郡花岡村大字本谷にあり。

フナニ 船生村 栃木縣下野國鹽谷郡の南部。藤原町の東南隣にて、鬼怒川の北岸に位し、南は川を隔てて河内郡の一部と相對す。高原山より南方に長く山地を占めて中央に鶴嶽(六六八米)

フネ 富寧 朝鮮咸鏡北道二府十一郡の一。道のほぼ東北部に當り、南は清津府及び鎭城郡に、西は茂山郡に、北は會寧及び鎭城の二郡に、東北は慶興郡に界し、東南は日本海に面す。東西約六〇軒南北約四〇軒、面積約一九〇〇方軒あり。西部をほぼ西南より東北に連る小長白山脈北部と、東部をこれに並行する會寧丘陵山地南部より成る地域にて、西境即ち茂山

大にて鎌倉時代の作と思はる。佛像の上方に岩窟あり、寶藏と稱し、岩頭より吊されたる銅により幸うじて建することを得、この岩窟は古來六十年ごとに関帳すと傳へ、明治十二年に開扉せられし時、銅板及び和紙など取出し、そのまま有志によりて保管せらる。

大にて鎌倉時代の作と思はる。佛像の上方に岩窟あり、寶藏と稱し、岩頭より吊されたる銅により幸うじて建することを得、この岩窟は古來六十年ごとに関帳すと傳へ、明治十二年に開扉せられし時、銅板及び和紙など取出し、そのまま有志によりて保管せらる。

郡界には坤峰山(一九二七米)・車輪山等
峙ち、西南界即ち鏡城郡との境上には支
脈の高城山(一七五六米)・農司原(一三二〇
米)・高城山(一〇九米)の諸峰あり。東
部には西に延峰(一〇四八米)・仙嶺・散
峰山(七四六米)、東に白砂峰(一一三九
米)・於石山・登永峰等の脈南北に延びて
日本海岸に低夷す。西部の坤峰山・高城山
間の谷に發する城川水は北流して小長白
山脈を截り茂山郡に出て鴨綠江に注ぐ
も、車輪山の東側に出づる輪城川は小長
白山脈と會寧丘陵山間の構造谷を南下
し清津府を貫きて海に入り、東部の富居
川・美清川等もみな南流して日本海に注
ぐ。以上諸川の沿岸と東南部の沿海に小
平地あるも大部分は山地にて耕地狭小な
り。農産に米・麥・雜穀(粟・稗等)・豆
類・大麻等あるも産額なほ多からず、沿
海には鱈・鯛・明太魚等の漁獲に富み、
如雲洞金山をはじめ鐵山少からず、金・
銀・銅・鉛等の鑛を出す。元山・會寧間
の道路と鐵道北鮮線は輪城川の谷を北上
して會寧郡に出て、北鮮線の古茂山驛上
りには西方茂山に向ふ社線成北線あり。ま
た清津府より慶興に至る道路は東南部を
通じて慶興郡に入る外は交通機關なほ發
達せず。行政上、富寧・西上・石幕・青
岩・連川・富居・三海・觀海の八面に分
かれ、郡廳を富寧面に置く。

は西上面に隣り、西南部は鏡城郡龍城面
と界す。面積四一〇方軒餘。西部には高
城山(一七五六米)・農司原(一三二〇米)
等の山地、東境にも延峰(一〇四八米)・
仙嶺等の脈ありて共に南北に延び、輪城
川は中央部を南に貫流し、それと支谷に
沿ひて幅狭き低地あり。産物に粟・稗・
大麥・燕麥等の農産あり。元山・會寧間
の一等道路と鐵道北鮮線は輪城川に沿ひ
て通じ、後者は富寧驛(大正五年設置)を
設く。驛の所在地なる富寧洞は面の中央
部に位し、郡廳・警察署等を置かれ、郡
の首邑たり。

フハ 不破
【不破郡】 咸興縣美濃國の西部に位し、
北は掛梁郡、東は安八郡及び大垣市、南
は海津郡及び安老郡、西は鐵原郡に
各相接す。西部には伊吹山脈が南北に
走り主として古生層より成り、北部は池
田山(九二四米)の南麓を占め、南部には
松尾山(二九八米)・桃配山等あり。その
東に續く南宮山(四一九米)を主峯とする
南宮山塊は安老山塊の續きにて牧田川の
横谷により開析されしものとす。本郡の
中央を西北より南東に流るる相川は、こ
の伊吹山脈を開析し洪積層を以て埋めら
れ、垂井町附近より伏流をなすが、夏季
霖雨の折は水害多し、關ヶ原以西は牧田
川の流域に屬して、和歌に名高き鹿古川
(鹿川)と西より今須川が流れ南部にて合
流す。今須川の谷は伊吹山脈を谷頭侵蝕
により低くして關ヶ原の狹隘を作り、冬
季は謂ゆる伊吹雪がこの谷を通じ西濃平
野を襲ひ、この附近は積雪甚多し。北東
部の金生山は海嶺による石灰岩の露出が
あり、フズリナ石灰岩・海百合石灰岩・
大理石を産する。その西南の青野ヶ原は
各務ヶ原・加茂野と共に美濃の三原野の
一と稱せらる。東南部は肥沃なる西濃平
野の一部をなす。産業としては農業を主
にして、米・麥・粟・稗・柿・栗を産し、
養蠶も亦盛なり。凡そ關ヶ原以西は森林
の産多く、干柿として大阪に移出され、
以東は栗に過しその産多し。北部山地に

は新炭の産多く、金生山には大理石の特
産あり。工業には關ヶ原及び垂井の日本
紡績工場があり、其他に自轉車・リム工
場あり。交通としては中山道中部を東西
に走り關ヶ原の谷より近江路に入り、其
間に東赤坂・垂井・關ヶ原・今須の四宿
を設く。往時は相當繁華なりしが今は街
村的形態を存し地方的中心をなす。一方
美濃路は大垣より西し垂井にて中山道に
合す。その昔には梳瀬川宿(赤坂)・青島
宿・野上宿(關ヶ原)が置かれし事もあり
き。また關ヶ原より分岐して西北の玉宿
(玉村)を経て北國路往還が近江に通ず。
鐵道には東海道本線が大垣より垂井驛を
經て關ヶ原驛に至り、關ヶ原ギヤップを
通過す。關ヶ原以西は急傾斜となり垂井
より後押が附せられ運輸上困難を感じ、
冬季はラッセル車活躍す。大垣よりはま
た赤坂線分岐し笠原・美濃赤坂驛を設
く。本郡は美濃國十五郡の一にして、行
政上、赤坂・垂井・關ヶ原三町外十二箇村
を含み、垂井は舊郡役所ありし地なり。
關ヶ原の狹隘は古來政治・交通・軍事上
の要衝にして、昔は不破ノ關置かれ、壬
申ノ亂・關ヶ原の戰こに行はる。また
府中村には國府、青島村には國分寺が
置かれ、關西文化はこの谷より西濃へ傳
播せり。本郡は和名抄に不破と註し、三
桑・山本・野上・高家・藍川・新居・表
佐・栗原・芝崎・眞野・有實・支部の十
二郷及び驛家郷を置かる。

フバイ 分倍河原・分陪河原

【不破郡】 咸興縣(咸興郡)
中野(咸興府)
フバサミ 文挾 省線日光線の一驛
(明治二十三年設置) 栃木縣上野郡落
合村小倉にあり。

フハチ 夫鉢面

朝鮮京畿道利用郡
の東北部。郡邑利用面の東隣にてこれと
漢江の支流福河川によりて境し、東は麗
州郡興川面・慶西面に接す。漢江中流或
平野の一部にて、東部に臺地性の丘陵地
あるも、最高點にて一五〇米に達せず、
その他は概ね低平にして耕地よく拓く。
米・麥・棉花を主とし、蔬菜類の産少から
ず。社線朝鮮京畿道は中部を東西に貫
きて茂村・竹堂の二驛(前者は昭和六年、
後者は同七年開業)を設け、忠州・長湍院
より利用を經て京城に至る京釜街道、利
川・麗州間の道路は南北を横ざり、前者
にはバスを通じ交通便利なり。面内の茅
釜山には高麗朝の隠士徐處士の墓あり。
また利用面との境をなす福河川は高麗の
太祖新羅救授軍を起せし時、地方人の嚮
導により渡渉の利を得たるより利用の地
名起ると傳へらるる川なり。

フベ 布部村

島根縣出雲國鹿野郡の
中央。廣瀬町の南に隣り、布部川上流流
域に位す。東は井尻村、南は比田村、西
は山佐村に隣接す。面積五八・〇七平方
軒。ほぼ方形の廣大なる地域を占む。村
内概ね山地にして西境を一小山脈南北に

フハ フモト

フハ フモト

フホク 府北面

朝鮮慶尙南道密陽
郡の中央北部。地は南北に長く南半は東
の密陽邑と西の武安面に挟まれ、北は慶
尙北道清道郡大城面と界す。面積約五六
方軒。東境に玉峰山(五三八米)、西境に
は兄弟峰(五〇七米)・終南山(六六四米)
の山嶺南北に連るも、中部には低平の地
域ありて密陽江の支流南流し水田よく拓
く。米・麥・豆・陸地棉等の産多からず。
また青柳五徳嶺山ありて金・銀・銅を出

フマ 府馬町

千葉縣下總國香取郡の
東部。全町丘陵地にて針葉樹林あり。北
部は北方の利根川畔に續く平地の一部を
なして水田あり。米を主とし他に蕎麥・麥
を産し養蠶も行はる。町の中央を縱走す
る鐵道は、北は利根川南岸の小見川町、
南は海上郡旭町に通じ何れもバスの便あり。
大正十四年に町となる。此地は和名
抄、海上郡布方郷の地にて、中世に千葉
氏の一族、府馬越前五郎あり。此地に在
るを稱せしもの。(府馬野址) 大字府馬
にあり。國分親頼の弟、時常(越前五郎)
初めて之に居り、府馬氏を稱す。時常に
至り里見氏に屬し、その將の正木時忠と
共に備木の諸氏と相戦ひ、また大須賀氏
と闘ひて死し城廢す。(府馬の大塚) 措
定天竺記念物。宇賀神社の境内にあり。
根廻り二七・五米、根幹境界の周囲一一
米、西方に一大支幹を出し、また南方に
一大支幹を分岐す。樹高二〇米。關東地
方に於ける樺の代表的巨樹なり。

フミ 富民面

朝鮮黃海道豊津郡
の東北部。郡邑馬山面の東隣にて、北は
海州郡の月津・茄佐、東は海南・松林の

フムナ 古野

信濃國(長野縣)の古
地名。和名抄に水内郡古野郷あり、布無
奈と訓す。その地今の上水内郡古里村・
若槻村の邊に當る。

フムハラ 文原

越後國(新潟縣)の
古地名。和名抄に古志郡文原郷あり。此
地は古志郡内ならんも詳ならず。

フモト 富本村 山形縣羽前國北村 山部の西部。福岡町の西方約八軒。西におよび南は西村山部に接す。西北方に葉山(一四六二米)聳え、本村はその東南麓にして、西北境は海拔約一二〇〇米、東南方に傾斜し、麓は山地をなすも東南の一部は山形盆地に属しやや平坦なり。千座川は西北部に發源して東南に流る。米・粟を産し、また草履表を特産す。奥羽本線福岡驛へは東方約七軒あり。村名は葉山の麓なるより起り、のち富本に作りしもの。

フモト 麓村 佐賀縣肥前國三養基郡の北部。鳥栖町の西北部に接し、西北隅は山嶺を隔てて福岡縣筑紫郡に界す。西北境に九千部山(八四八米)・石谷山(七五四米)等聳えて、西北部一帯はその東南斜面を占め東南部は低平地なり。米産多く、粟・麥の産も多し。省線長崎本線は東南部を掠めて通過し東南約一軒に鳥栖驛あり。古くは和名抄、養父郡養父郷の地にて、いま小字に養父の名を存す。大字立石の石谷山中に御手洗ノ瀧あり、高さ二二米、幅六米、壯觀なり。

フモン 普門面 朝鮮慶尙北道醴泉郡の東部。郡邑醴泉面の東隅にて、東は榮州郡文殊面及び安東郡北後面に、東南は同郡西後面・豊山面と界す。東南境上に鶴駕山(八八二米)・普門山(六四三米)・大風山(五〇七米)等連立してその山脚西北に下り、面の東南半部は山地多し。乃

扶餘 朝鮮忠清南道の一府十四郡の一。道の南西部に位し、東は論山郡に接し、南東は錦江下流を隔てて全羅北道益山郡に對し、南西は舒川郡に、西は保寧郡に、北は青陽郡に隣る。面積六二五方軒、瑞山・天安に次ぎ道中第三位の大郡なり。東嶺山脈西南端の餘脈は郡内に連互し、西北隅に碧住山(六八〇米)の東嶺、西境上は峨眉山(六四五米)・月明山(五四四米)との東北には月下山(四二六米)・祝融峰(四五五米)等ありて郡の西北半部はやや山地高く林相また見るべきものあり、東南半部はその南部の聖興山・錦城山、西南境上の老姑山・遠通山、東部の大嶺峰いづれも高度は二百米臺に過ぎざる起伏緩慢なる丘陵性山地にて稚松・楡木に蔽はれるもの多し。錦江は東北境より南東部に於て東南に轉流し、更に東南境にて曲折し南境の東半を西流し、この間右岸に琴江川(之川)・思山川・金川等、左岸に石城川等の支流を容る。錦

扶餘 江及びこれ等諸支流の沿岸には低平なる地ありて田・畑よく拓く。米・麥・豆の穀類、棉花・大麻・苧麻等の農産多く、苧布・酒・紙等の工業、近時金・銀・鉛等の礦産も少からず。首邑扶餘を中心として公州・論山・江景・舒川・青陽方面に道路を通じ何れもバスの往來ありて交通また不便ならず。扶餘は古く夫所里といふ。百濟聖王の時、熊津(今の公州)より郡を遷し南扶餘と改めしが、義慈王に至り新羅と唐の連合軍の爲に滅さる。新羅文武王は總管を置き、曾孫景徳王に至り扶餘郡に改む。新羅の衰ふるや高麗の領となり、顯宗は公州に屬せしめ、明宗の時に縣制を置きしが李朝に至り縣監に改め、後また郡に復して郡守を置く。大正三年に鴻山・林川の二郡と石城・普城・公州三郡の各一部とを併せて今の行政區劃となり、郡廳を扶餘面に置く。人口一二萬餘。

扶餘 朝鮮忠清南道扶餘郡の首邑。錦江の下流轉流部の左岸に沿ひ、東北は公州郡龍川面に界し、北西は江を挟みて青陽郡青陽面に對す。面内は百米臺の、稚松を蔽く丘陵地が南北に波状をなして起伏するも、其間には東西の方向に約五條の低地ありて面の北より西の境を環流する錦江岸の平地に横き、田・畑よく拓く。農産に米・麥・豆・棉花・麻・苧、工業に苧布・紙、礦産に加尺金、銀等あり。扶餘(舊西里)は面の西部錦江岸に峙

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の所在地にて、鐵道湖南本線清津の論山をばじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ道路を通じバスの便あり。百濟の第二十五代聖王より第三十代義慈王に至る間の國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物多考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址ありて、その月影臺の軍倉址よりは兵火のために炭化せる米・麥等の炭を出す。山の最高處の望月臺に洞視樓ありて眺望に富み、その北方崖下の江畔に古刹草堂寺あり。

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の所在地にて、鐵道湖南本線清津の論山をばじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ道路を通じバスの便あり。百濟の第二十五代聖王より第三十代義慈王に至る間の國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物多考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址ありて、その月影臺の軍倉址よりは兵火のために炭化せる米・麥等の炭を出す。山の最高處の望月臺に洞視樓ありて眺望に富み、その北方崖下の江畔に古刹草堂寺あり。

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の所在地にて、鐵道湖南本線清津の論山をばじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ道路を通じバスの便あり。百濟の第二十五代聖王より第三十代義慈王に至る間の國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物多考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址ありて、その月影臺の軍倉址よりは兵火のために炭化せる米・麥等の炭を出す。山の最高處の望月臺に洞視樓ありて眺望に富み、その北方崖下の江畔に古刹草堂寺あり。

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の所在地にて、鐵道湖南本線清津の論山をばじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ道路を通じバスの便あり。百濟の第二十五代聖王より第三十代義慈王に至る間の國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物多考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址ありて、その月影臺の軍倉址よりは兵火のために炭化せる米・麥等の炭を出す。山の最高處の望月臺に洞視樓ありて眺望に富み、その北方崖下の江畔に古刹草堂寺あり。

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の所在地にて、鐵道湖南本線清津の論山をばじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ道路を通じバスの便あり。百濟の第二十五代聖王より第三十代義慈王に至る間の國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物多考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址ありて、その月影臺の軍倉址よりは兵火のために炭化せる米・麥等の炭を出す。山の最高處の望月臺に洞視樓ありて眺望に富み、その北方崖下の江畔に古刹草堂寺あり。

扶餘山(一〇六米)の南麓に位し郡廳の所在地にて、鐵道湖南本線清津の論山をばじめ公州郡邑公州・青陽郡邑青陽等へ道路を通じバスの便あり。百濟の第二十五代聖王より第三十代義慈王に至る間の國都たりし地、五層の古塔、百濟遺物多考品陳列館あり、扶餘山上には半月城址ありて、その月影臺の軍倉址よりは兵火のために炭化せる米・麥等の炭を出す。山の最高處の望月臺に洞視樓ありて眺望に富み、その北方崖下の江畔に古刹草堂寺あり。

【芙蓉】湖南本線の一驛(大正元年設置)。朝鮮全羅北道金堤郡白鳩面にあり。 フラ 府羅面 朝鮮平安北道龍川郡の南西部。西は郡邑龍川面に隣り、東は内中面・外下面に接し、南は黄海に面す。鴨綠江口東岸の沿海平野の一部にて、北西部に低き丘阜地ある外は極めて平坦にて肥沃なり。海岸は近年その一部を干拓し、ここに不二西餅農場を開く。この農場は全鮮屈指の大規模のものにして、運搬浦はこの中心聚落をなし、大正水利組合の灌漑地となり米を主とし大豆等の農産多く沿海には蟹その他の漁獲物あり。海岸には諸島の多島の築港あり。この築港は運搬土砂の沖積により水路の變遷常なきと、冬季結氷の缺點ある鴨綠江口に、安全なる不凍港を得んと計畫せられしものにて、面の南岸なる陸繋島の多島の南端郭車嘴とその南方海上に點綴する小多沙島・大多沙島間を埋立するべく大正十五年以降の繼續事業としてこれが工事を進め、昭和十一年にその大部分を完了し目下築港工事中に屬す。互船の出入は不可能なるも西鮮唯一の不凍港として價値極めて高く、多島島鐵道の開通を見る時は西鮮の重要港として發展を期待せらる。この多島島鐵道は新義州より多島島對岸に至る三八軒(他に途中の楊市より京義本線の南市驛に至る豫定路線あり)の鐵道にして、軌間の一四三・五米、昭和十年十二月以來、建設工事中なり。

浮來山 朝鮮總督府鐵道元東部線の一驛(昭和十二年設置)。咸鏡南道高原郡上山面にあり。 フライザン 富良野 富良野町 北海道石狩國上川支廳空知郡の中部。空知川の支流に沿ひ、面積三〇・五・一二方軒。東北十勝國境に大雪火山群の諸峯重疊して町内の東部を壓し、西境は夕雲山脈南北に互りて空知支廳を隔て諸川の分水嶺をなす。東西山地に挟まれし中央に低地あり。空知川は兩山地に發したる數多の支流を集めて北流し灌漑の便大なり。米・甜菜・馬鈴薯・燕麥等の産額甚だ大にして製粉・製菓業行はる。空知川下流の島ノ下温泉はタロール礦泉として第七師團の療養所あり。東部山地に硫黄の産出あり。省線根室本線は中央を南北に通じ、南部(昭和二年設置)・下富良野(明治廿三年設置)・島ノ下(大正二年設置)三驛を置き、下富良野驛より富良野驛分岐す。本町はもと下富良野村と稱す。明治廿九年に男湯郡占冠村を本村の一部を割きて南富良野村を置き、同時に占冠村を南富良野村の所轄とす、大正四年に下富良野村よりその一

富良野 富良野町 北海道石狩國上川支廳空知郡の中部。空知川の支流に沿ひ、面積三〇・五・一二方軒。東北十勝國境に大雪火山群の諸峯重疊して町内の東部を壓し、西境は夕雲山脈南北に互りて空知支廳を隔て諸川の分水嶺をなす。東西山地に挟まれし中央に低地あり。空知川は兩山地に發したる數多の支流を集めて北流し灌漑の便大なり。米・甜菜・馬鈴薯・燕麥等の産額甚だ大にして製粉・製菓業行はる。空知川下流の島ノ下温泉はタロール礦泉として第七師團の療養所あり。東部山地に硫黄の産出あり。省線根室本線は中央を南北に通じ、南部(昭和二年設置)・下富良野(明治廿三年設置)・島ノ下(大正二年設置)三驛を置き、下富良野驛より富良野驛分岐す。本町はもと下富良野村と稱す。明治廿九年に男湯郡占冠村を本村の一部を割きて南富良野村を置き、同時に占冠村を南富良野村の所轄とす、大正四年に下富良野村よりその一

富良野 富良野町 北海道石狩國上川支廳空知郡の中部。空知川の支流に沿ひ、面積三〇・五・一二方軒。東北十勝國境に大雪火山群の諸峯重疊して町内の東部を壓し、西境は夕雲山脈南北に互りて空知支廳を隔て諸川の分水嶺をなす。東西山地に挟まれし中央に低地あり。空知川は兩山地に發したる數多の支流を集めて北流し灌漑の便大なり。米・甜菜・馬鈴薯・燕麥等の産額甚だ大にして製粉・製菓業行はる。空知川下流の島ノ下温泉はタロール礦泉として第七師團の療養所あり。東部山地に硫黄の産出あり。省線根室本線は中央を南北に通じ、南部(昭和二年設置)・下富良野(明治廿三年設置)・島ノ下(大正二年設置)三驛を置き、下富良野驛より富良野驛分岐す。本町はもと下富良野村と稱す。明治廿九年に男湯郡占冠村を本村の一部を割きて南富良野村を置き、同時に占冠村を南富良野村の所轄とす、大正四年に下富良野村よりその一



東部に古登山(七五九米)、南には宇連山(九一九米)、西端に鞍掛山(八八二米)・大鈴山(一〇一一米)・明神山等が連続し、北部より鴨山川が東部に流れ、振草川と東端に於て合流す。また南部には神田川・宇連川が發源し何れも横入蛇行をなし、氾濫原は發達せず、従つて農耕地も少く、山林よりは薪炭を産す。寒帯は散村形態をなす山村なり。交通は主にこれ等の谷が利用せられ、鴨山川の對岸には別所街道通じ、この川には多くの發電所分布す。村内に鐵道三七萬餘坪を有する古戸鐵山あり、金銀銅安寶母尾山にて、昭和十年より事業を開始す。

フリヨ

扶梁面 朝鮮全羅北道金堤郡の南西部。東北は金堤邑との間に月村面を隔て、東南は井邑郡甘谷面と新奉仁面、西南は扶安郡白山面に接す。面積約一九方軒。全北平野の西部をなす東津平野の中央部に當り、東津江は西南端を蛇行を續けて西北流して海に注ぎ、その支流の院坪川とその分枝は北端を西流す。土地平坦にして、略ど東津江水利組合灌溉地の水田をなす。米を第一とし、麥・棉花等の栽培盛に行はる。金堤・古阜間、奉仁・扶安間の道路通じ、交通不便ならず。

フリン

富林面 朝鮮慶尙南道宜寧郡の北部。南は柳谷面に接し、北は陝川郡青徳・赤中の二面と接す。略ぼ方形をなし面積三三方軒餘。東端の洛西面との

境には鷹峰(二五三米)の嶺南北に連り、中部以西には玉嶺山(二七三米)其他の山地あるも、南隣の柳谷面より来る馬山川は東部を北流し、西隣の鳳凰面より来る新反川は中部を東北に流れ、面の中央部にて馬山川を合せ北流して青徳面に出て洛東江に注ぐ。この兩川の洪氾原には田地、合流地より北方の兩岸には畑地よく拓け、米・麥・豆類の農産多し。面色新反里は西南部の新反川沿岸に位し、南方宜寧への三等道路に當るも交通は甚だ便ならず。

フリン

普林面 朝鮮平安南道江西郡の東南部。大同江の右岸に沿ひ平壤・鎮南浦間の略中間に位し、東南は江を隔てて中和郡海陽面に對す。東半は中央部に接し、西端は西海郡に接す。東半は中央部に接し、西端は西海郡に接す。面積約二七〇方軒、その東端を東南流して大同江に入る鳳凰江の沿岸と南半に中央部に高さ一〇〇米内外の丘陵あるもその周圍には平地畑地よく、畑よく拓く。農産に米・大豆・棉花等あり。平壤・鎮南浦間の一等道路は西北端を過ぎ、鐵道平南線も略ぼ同方向に走り、その岐路・臺城二驛(北隣の東津浦面内)に近く交通不便ならず。

フルイ

古井 愛知縣瀬尾郡にありし村。明治三十九年に外七箇村と共に廢され長崎村を設く。長崎村は知立町及び手橋村・上重原村と合併して知立町を建つ。

フルイ 古家 駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に駿河郡古家郷あり布留以信と訓す。今の駿東郡内ならんも詳ならず。

フルイ

古市 三重縣宇治山田市の町名。内外兩宮の間にある小繁華なる地なり。全国より集まる伊勢参りの寒客を目的の花街あり。旅館屋や料理店にて繁昌せし町にして宇治と山田との間に發達せしもの。寛政八年五月四日、福岡貢(本名は孫福齋宮)が此地の油屋にて刃傷事件を知し、それが演劇化せられ「伊勢音頭戀戀」として評判となり、今日も弘く知らる。膳栗毛・六下・妙見町のうへへば、すぐに古市にて、借家軒をならべ、ひきたつるいせおんどの三味せんいさましく、うかれうかれて千束とせいへるに至れば、女どもみななげしり出て、ようござんしたすくにお二階へ……さア御案内いたしましよと、ていしゆをさきにおのおの二階へ上り云々。

フルエ

古江 遠中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡古江郷あり、布留江と訓す。今の氷見郡神代村・宮田村・太田村の邊なるべし。萬葉・一七・大王の 遠の朝延ぞ……葦鴨の 多集く舊江に、一昨日もし新給道・三・さみだれの古江の村の宮屋形軒までかかる田子の浦波、定圓。

古江村 鳥根縣出雲國八東郡の西北部。約二軒にあり。北は佐太村、西は秋鹿村に接す。面積一七・九三方軒。朝日山(三四二米)の東南麓を占め、西北部一帯は高峻なるも湖岸に傾斜す。東部及び沿岸は平地展け一小川灌溉して地味肥沃、耕地多し。湖岸に聚落多く、米・麥・湖水漁獲物の産あり。また牧畜・林業・塗表製造業盛に行はる。縣道は湖岸に通じ、松江市にバス及び社線一類電氣鐵道の便あり、近隣には定期船の寄航あり。明治四十一年、古智志村・古志村・長江村を合併して古江村と名づく。(丹花庵古墳)指定史蹟。大字古智志丹花庵にあり。上岡下方

二百石を有せり。寺寶中、神功皇后御紀(二卷(紙本着色))・譽田宗廣御紀三卷(絹本着色)・秘澤御紀全段御紀一巻(一頁(銘詞守)は國寶。例祭、九月十五日。[源田半人墓] 大字自然石の古碑あり、二〇〇程、幅九〇程の自然石の古碑あり、これと並びて源田半人正妻御碑と刻せる古碑あり。半人は大阪方の勇士にして、大阪夏の陣にここに戦死せり。

フルイ——フルエ

フルイチバ 古市場 鳥根縣那賀郡にありし村。明治四十三年に西浜村と合併して三保村を建つ。

フルイ

古宇部 北海道後志支庁管下の一郡。後志國に屬し、北は釧路・美濃の二郡と、東は古平郡と、東南は岩内郡と境を接し、西北より西南は、南は日本海に臨む。面積約二二〇方軒。積丹半島の西南部を占め、北端にはカンネアンチ山(一一四三米)・樽内岳(一〇九一米)・大天狗山(八五二米)等東西に連り、東端上には南古美山(八一四米)・當丸山(八〇〇米)・熊退山(八〇五米)等北より南に互り、土地は西南方日本海に向ひて

傾斜す。古宇川・釜川・玉川等はこれ等の山地に發し西南に流れて海に注ぐも何れも小流にて流れ早し。土地は概ね山地にして耕地少きも、沿海は鰯・鮭等の豊漁地として夙く著はれ、近年は沖合漁業に進展せり。道路海岸に沿ひて通じ、泊村並より岩内郡岩内町へはバスの便あり。南部の泊、北部の神惠内二村に分る。

フルエ

古江 遠中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡古江郷あり、布留江と訓す。今の氷見郡神代村・宮田村・太田村の邊なるべし。萬葉・一七・大王の 遠の朝延ぞ……葦鴨の 多集く舊江に、一昨日もし新給道・三・さみだれの古江の村の宮屋形軒までかかる田子の浦波、定圓。

フルエ 古江 遠中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡古江郷あり、布留江と訓す。今の氷見郡神代村・宮田村・太田村の邊なるべし。萬葉・一七・大王の 遠の朝延ぞ……葦鴨の 多集く舊江に、一昨日もし新給道・三・さみだれの古江の村の宮屋形軒までかかる田子の浦波、定圓。

フルエタ

古枝村 和賀縣肥前國津郡の東部。鹿島町に隣接し、東北部に濱町を圍みてその北に繞る地域の東岸は

フルカ——フルカ

有明海に面す。南部は南方に響ゆる経ヶ...

フルカワ

宮城縣前國志田郡の西北部。...

フルカ

長壽山。天正年中に兵火に罹り...

フルカ——フルサ

フルカ

東線陸前古川驛(大正二年設置)を置く。...

フルカ

古川町。宮城縣前國志田郡の西北部。...

フルカ

古河目尾。石川縣前國志田郡の西北部。...

フルカ

し、東半は中生層より成る安峰山(一〇...

フルカ

金巻移封の後、元禄八年これを毀つ。...

フルカ

フルサワ

古澤 千葉縣上野國夷隅郡の東北部。夷隅川の北岸にて東より北は長生郡の一部と隣る。中部より北部にかけては丘陵地にて針葉樹林多く、南部は夷隅川流域の平地にて米・蕎麦を産し養鶏も行はる。縣道は北走して長生郡一宮町に通ずるものと南都を東走して長生郡太東村に通ずるものとあり。太東村に省線房総東線の太東驛ありてバスを通ず。

古澤村

富山縣越中郡婦負郡の北部。富山市の西に接し、奥羽山丘陵の西北斜面を占む。また西北の一部は射水郡に界す。平地は西南半に開け水田多く、丘陵地は茶園・桑園に利用さる。米を第一に、次で茶、副業に蕎麦の産あり。南北・東西に走る道路は村内に交錯し、富山市・奥羽間にバスがあり、省線北陸本線奥羽驛へ近く交通便なり。

古庄

徳島縣那賀郡羽ノ浦町の大字。省線牟岐線の古庄驛(大正五年設置)を置く。

古關村

山梨縣甲斐國西八代郡の中部。本酒湖西岸、御坂山脈中にある。東南隅の雨ヶ嶽(一七二七米)を初め村は山岳起伏し数峰の谷に分る。耕作地に乏しく概ね森林帯及び林業・製炭に従ふ者多し。農産物は蕎麦・粟・蕎麦・大豆等の種類頗又は柿等に養蚕も多少ある。流域約五〇軒。

古濱村

三重縣伊勢國桑名郡の西部。桑名市の西北に接し、西南部は員辨郡に界す。養老山脈東南部の丘陵は南境に沿ひて東西に連り北方へ緩傾斜す。西北部にも小丘陵あり。多度川は西方より來りて北部を東流し、流域に低地開くも殊に東半に廣し。米・蕎麦の産多く蕎麦・蕎麦の外に工業・林産・鹽産あり。西北部には縣道東西に通じて自動車往來す。東北方一・五軒餘に社線參宮急行電線養老線の下野代驛(大正九年設置)あり。この地は和名抄、桑名郡尾津郷の内ならんと云ふも詳ならず。大字御衣野は一に溝野に作り、日本武尊東夷御征伐の途次、御剣を掛け給ひし處。八劍宮と稱するはその御遺蹟と傳ふ。

古平

北海道後志支庁後志國古平郡の一部を占む。北は小樽灣に面し、東は余市町、西は美園町に接す。面積一九八・六七方軒。南北に狭長なる地形を有し北を除く三周は二條の山脈に圍繞せられ、

フルビラ

北海道後志支庁後志國古平郡の一部を占む。北は小樽灣に面し、東は余市町、西は美園町に接す。面積一九八・六七方軒。南北に狭長なる地形を有し北を除く三周は二條の山脈に圍繞せられ、

フルハ

フルハ—フルミ

フルタカマツ

香川県高松市東部の北に高松市の東方約六軒。北は尾島町に界す。東南部に一〇〇—一五〇米餘の丘陵ゆるやかな起伏をなして耕作する他は低平なる高松平野の東北の地を占め、地味肥沃なれば農業盛にして特に畑作多し。また北部より相引川東西に流れ、春日川は西部を北流し灌漑の便よし。米・蕎麦を初め果實・雜草を産す。北部の村境に並行して高松市より来る縣道ここを通り、また四國水力電鐵高松停留場あり、省線高松本線は縣道の南側を東西に走り尾島驛(大正十四年設置)あり。古くはこの邊一帯の地を高松郷と稱せしが近世に至り高松の名は香川郡に移し、此地を高松郷と呼ぶ。此は元暦二年の戦場にて、源義経が尾島内裡を襲ひし時、向浦なる平藏・高松の兩郷を襲きたる事、東鑑・源平盛衰記等に

フルタテ

岩手縣陸奥國紫波郡の中部。日詰町の北部に接す。面積七・〇八方軒。北上平野に属し全村概ね平坦なり。北上川は村の東境を南流し、その支流北境を東流して北上川に合す。米・蕎麦・馬鈴薯・大豆を産するほか清酒・焼酎を出す。陸奥街道は村の中部を南北に通じ、東北本線日詰驛(約五軒、同線矢幅驛へは約六軒、日詰・盛岡間の定期バスは村内を通り交通便なり。〔志波城址〕延暦年間、坂上田村麻呂が蝦夷征討のために築きしものなり。城址は本村の二日町新田にあり。昭和二年、その遺址より陶器の破片を發掘すること百數十箇所、當時の民家の址なるべしといふ。〔城山〕志波城址の南にあり。志波城最後の防禦地としての城跡なるべし。吉野時代以來見利氏の一族新波氏これに居りしが天正

フルトネ

埼玉縣東部の川。南埼玉・北葛飾郡の境を南流し、

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の

フルマキ

群馬縣上野國群馬郡の東部。利根川の西岸にて澁川町の



フンキ—フンコ

主産とし、副産あり。東西に走る国道ありて省線北陸本線動橋驛に近く、東方には社線温泉電氣軌道に沿ふ郡谷村間のバス通す。

フンキヨク 文玉面

朝鮮平安北道江界郡の北西部。鴨綠江岸に沿ひ、郡邑江界へは東南約四〇軒。西北は江を隔てて滿洲國安東省輯安縣に對す。面積約二一四方軒。東南境上には駒鑿山(八八三米)をはじめ高度八—九百米内外の山嶺相連り、それ等の山脚は江岸に迫りて殆ど平地を缺き、ただこれら山地より下りて江に注ぐ溪谷と江岸に幅狭きものあるのみ。森林深く良材を有し、農産に粟・玉蜀黍・豆等あり。面色滿浦鎮は江岸の平地に位し、鐵道滿浦本線の豫定終點にして、東南は江界、西南は清原、東北は惠山への道路を通じ、いづれもバスの便あり、江岸の一要地たり。

フンケ—開慶

【開慶郡】 朝鮮慶尙北道二十二郡の一。道の北西隅に位し、東は醴泉郡に、南は尙州郡に隣り、西は忠清北道槐山郡、北は同じく堤川郡及び丹陽郡と界す。面積九三三方軒。小白山脈は郡界に連なり、北境には文鏡峰(一六二二米)、西北境には烏嶺山(一〇一七米)、西南境には長成峰(九一五米)等を起し、これら諸峰の支脈は東南或は南方に分派して郡内東部に黃地山・功徳峰、中部に雲達峰・檀山・烏井山、西部に白都山・九王峰、南西境

に青嶺山・道嶺山等九〇〇—一〇〇〇米の山岳等を起す。錦江は東部山地の水を併せて南流し醴泉郡界をなして乃城川に合し、また西北部の水を合する烏嶺川と西南部山地より来る龍岩川は郡の中央部にて合流し順江となり、更に東南に流れ尙州郡に出て洛東江に注ぐ。郡内は山地多きも以上諸川の沿岸には所々に小低地開けて主要農産地帯をなす。農産に米・麥・豆・棉花・大麻・楮・莞草・柿等あり、蠶業も行はれて繭を産し、工業に酒・織物等を造す。釜山・京城街道は中部を北上し、西北境にある烏嶺の南方、梨花嶺を越え槐山郡に出て忠州に向ひ、路上にバス通す。醴泉に向ふ道路はこの街道の南にて分岐して東し、社線朝鮮鐵道北線は京釜本線金泉驛より北上して略ぼこの道路と並走し安東に達し郡の南部と中部は交通不便ならず。新羅の始め冠文縣といひ、のち冠山縣と改め古寧郡(成昌)に屬す。高麗時代に開寧と改稱して尙州に隸せしむ。のち開慶となし恭讓王の時監魯を置き、李朝太宗の代、縣監に改む。大正三年、行政區域の變更により今の郡となり、開慶・麻城・加恩・德岩・茂溪・戸西南・水嶺・山陽・山北・東普の十面を管し郡監は開慶面上里に置かる。

【開慶面】 朝鮮慶尙北道開慶郡の首邑。郡の北部に位す。昭和九年、東隣の身北郡を併せ、東西約一五軒、南北約一二軒の面積を有す。南は麻城面に接し、北は忠

清北道堤川郡、西北は同道槐山郡と界す。小白山脈の中に在りて、東南境には雲達山(一〇九七米)・檀山、中央北部に主屹山(一〇六六米)、西南境に有名なる烏嶺山(一〇一七米)、西南境に白都山(一〇六四米)等聳え山地多し。南部には順江の支流烏嶺川と東北より来るその支流との會流地に小平地ありて開慶の市街ここに建つ。米・麥・豆・棉花・大麻等の農産、開慶嶺山の雲石等の礦産あり。釜山・京城間の道路は尙州・成昌を経て來り、西境の梨花嶺を越えて槐山に至り、バスを通す。梨花嶺の北方には烏嶺の遺址あり、三韓時代の築造に於て傳へられ、今も第一圓門と城壁の址を存す。また馬院里には麻姑城址、主屹山の西麓には金龜寺(郡内山北面金龜里所在)の末寺たる惠國寺あり。

フンコ 豐後

【豐後國】 西海道十二箇國の一。九州島の東北部にあり、いま大分・別府の二市及び西國東・東國東・徳見・大分・北海部・南海部・大野・直入・珠球・日田の十郡に分ち大分縣の管下に屬す、この國は豊前國と共に往昔の豊國をなすものなり。かの國造本紀に見ゆる大分國は、書記發行紀に見ゆる須田國と同じく、國造本紀の國前國・日多國と共に國郡制定のとき郡となりて豊國に屬し、文武天皇の朝、豊國を前後二箇國に分つに及び豊後國に配せられしものなるべし。國府はい

MARK

ま大分市の古國府の地に置かる。平安時代の末期、緒方氏・白杵氏等の族がこの國を分領せしが、鎌倉幕府の初めに大友義直が豊西奉行に任じ、守護として府内(國府)にありて領し、子孫世襲す。建武中興の時にはその五世の孫貞宗、守護に任ず。足利尊氏の叛するや、その孫氏時等これに屬し、肥後の菊池氏と戦ふ。永正年中に至れば、貞宗七世の孫義直は筑後の東境を侵し、天文の季には、義直の子義興、菊池氏を滅して肥後を併せ、大内氏の滅亡に乗じて兵を豊前・筑前に出してその地を掠め、永祿年中に筑後を取り、肥前の龍造寺を討ちてその威は九州の北部六國に及ぶ。然るにその子義統に至り以上の諸國は相繼いで背き、天正十四年に島津氏の率攻するに及びて府内陥り、義統は出奔す。翌十五年、豊臣秀吉の九州を征伐するや義統の舊封を復す。然るに朝鮮の役に義統罪あり、封を削りて周防に屬し、國內を分ちて中川秀成を同じ、毛利高政を佐伯に、太田宗隆を白杵に、福原直高を府内に、熊谷直隆を安岐に、垣見家純を富率に各分封す。既にして國々原役起り、太田・熊谷・福原・垣見の四氏は亡び、佐伯の毛利氏・同の中川氏のみ残り、爾來、世襲して幕末に至る。其他の諸藩は屋々領主を更へ又は藩の廢置あり、幕末に至れば佐伯・同二藩の外、白杵に稻葉久通(五萬六千石)、府内(大分)に松平(大松)近説(二萬二千

百石)、杵築に松平親良(三萬二千石)・日出に木下俊綱(二萬五千石)、春に久留島通堵(一萬二千五百石)の五藩を算す。この外、日田は幕府の直轄地にして代官に居りしが、明治元年迄早く日田縣となり、他の七藩も明治四年七月、何れも同名の縣と改稱す。同年十一月には以上の八縣を悉く廢して大分縣を大分に置き、全國を管し、引續き今日に至る。この國の郡は從來八郡なりしが、明治十三年五月國東郡を東西二郡に、海部郡を南北二郡に分ち、また明治四十四年四月大分市が大分郡より獨立し、大正十三年四月別府市を遠見郡より獨立して今日の如く十郡となる。

【豊後水道】 四國の西端の佐田岬と九州の地嶽ヶ鼻との間にある海峡。瀬戸南海の西南に於ける重要な入口なり。中央に高島あり、兩岬を結ぶ結晶片岩の海嶺の深さは一三〇米より淺きも、兩側に潮流のため深き海盆を生じ、南側は三五四米、北側は四八一米、瀬戸内海第一の深所なり。海峡の幅は一・四軒にて、平均深度九・一五米、断面積は一・一一方軒にして瀬戸内海の他の出口の合計より大きく、従つて多量の海水がこより出入す。底質は砂礫にて岩盤さへも露出す。海洋要素、例へば水温・鹽分・水色・透明度等は多少は變化するも、水道内外にては餘り大なる變化なし。この潮流は大體潮位と位相とが一致し、満潮時に

は潮流は内海に向ひ最大となり、干潮時には外海に向ひて最大となる。されど嚴密には約半時間早く轉流するも、これは不完全なる反射波の加はるためなり。流速は五—七節にて瀬戸内海の他の瀬戸と同程度なり。昔は連吹名門と呼ばれ、神武天皇御東征の時ここに推根津彦が先鋒となりて東進せり。瀬戸内海的重要入口として附近一帯は要塞地帯なり。【豊後郡】 豊後本縣の一郡(昭和三年設置)。大分縣直入郡界内にあり。【豊後竹田】 豊後本縣の一郡(大正十三年設置)。大分縣直入郡界内にあり。【豊後中川】 久大線の一驛(昭和九年設置)。大分縣日田郡中川村にあり。【豊後大分】 大分縣玖珠郡野上村にあり。【豊後富土】 山布岳(大分縣)の別名。【豊後三芳】 久大線の一驛(昭和九年設置)。大分縣日田郡三芳村にあり。【豊後森】 久大線の一驛(昭和四年設置)。大分縣玖珠郡森町にあり。

フンコ—フンサ

【豊後中川】 久大線の一驛(昭和九年設置)。大分縣日田郡中川村にあり。【豊後大分】 大分縣玖珠郡野上村にあり。【豊後富土】 山布岳(大分縣)の別名。【豊後三芳】 久大線の一驛(昭和九年設置)。大分縣日田郡三芳村にあり。【豊後森】 久大線の一驛(昭和四年設置)。大分縣玖珠郡森町にあり。

フンコ—文光面

朝鮮忠清北道槐山郡の略ぼ中央部。郡邑槐山面の南隣にて面積五六方軒餘。小白山脈支脈の山地にて東・南・西の三方には高さ五百米内外の山嶺起伏す。それら山嶺間を北流する諸小流は面の北部を西北隅の淨梨面より率り東流する東津川支流に合し、それ等の川筋に幅狭き平地ありて耕地をなす。麥・米・大豆・棉花・芋等の農産

を出す。槐山・青川間の道路は東北より西南に通じバスの便あり。

フンサン 文山

【文山面】 朝鮮咸鏡南道安邊郡の中央西部。南大川中流域に當り、東西約一〇軒、南北約一六軒、面積約一五四方軒。大寺峰・雪峰山は西境上に聳えて土地西邊に高く、西半部は殆ど山地なるも東半部には南大川とその支流東西に並びて北方に流れその流域に低地ありて耕地拓く。農産に米・麥・粟・豆・稗・野菜あり、京城・元山間の一等道路と鐵道京元線南北に走り、後者は龍潭院・釋王寺・南山の三驛(共に大正二年設置)ありて交通便なり。雪峰山の東面に臨濟宗の古刹釋王寺あり、高麗の太祖李成桂は漢城會使たりし時、吉州千佛寺の五百羅漢を移して建立せしものと傳へ、伽藍壯麗、寺庭多し。當面に大嶺嶺山及び豐登嶺山あり。前者は昭和十年には金一、二六、七九九瓦、銀一四二、九八七瓦、金銀一〇七七(總價約四十三萬圓)を産し、また同年六月末の銀一、三〇一たり。後者は同年には金銀一、三六一(價額十萬五千餘圓)を産し、また同年六月末の銀一、四一五(釋王寺)面の西境に近く、釋王寺驛より西北方約四軒、バスを通す。松林中に位し李朝太祖の創建に係る名刹なり。今の建物約二百八十年前の再建、李朝歷代の菩提寺として信仰厚く、伽藍殿堂三十餘棟に餘り、朝鮮

内務に見る安壯麗美の古刹なり。毎春、古典的なる釋尊降誕祭を行ひ參詣者多く、また附近松茸の産を以て名あり。

【文山面】 朝鮮咸鏡南道安邊郡の南部。北は金津川を境として春柳面に對し、南は永興郡仁興・徳興の二面に隣る。面積約七四方軒。西境に雪峰山峙ち、南境に徳化嶺あり、それ等の山嶺東北に延び、面の西南の大部は概ね山地なるも、北境には金津川東流し、南西の山地より下る小流はみなこれに注ぎ、米・麥・粟・大豆は低地ありて耕地拓く。未・芋・栗・大豆、大麥等を産す。鐵道咸鏡線は東境に近く、南北に走り、文峰驛(昭和二年設置)を設け、道路またこれに並走し、東部は交通不便ならず。當面に榮登金山ありて昭和十年には金銀四四〇(價額五萬餘圓)を産す。また興平金銀ありて鐵道は永興郡に跨り、同年には金銀五、六三五(價額約二十八萬餘圓)を産す。永興金山はその嶺區、當面と永興郡に互り、同年には金三一、九九八瓦、銀九、五五八瓦、金銀一、六七九(此總價額二十三萬餘圓)を産す。【文山面】 朝鮮黃海道安岳郡の東部。西南部は郡邑安岳面に隣り、東北は龍寧江を境として黃州郡青龍面・舍人面の西部と相對す。面積五八方軒餘。西半部の中部以北には高さ百米内外の丘陵東西に互するも、その餘は緩平野の北部に當る平坦地にて獲川は南境を、水合江は北

MARK





の龍巖浦、鴨綠江對面の東北部なる中江、

Table with columns: 龍巖浦, 鴨綠江, 年平均, 氣温高極, 氣温低極, 年降水量, 初霜, 初雪, 終雪. Includes data for 龍巖浦 and 鴨綠江.

〔交通〕鐵道京義本線は黄海沿岸を東南より

〔交通〕鐵道京義本線は黄海沿岸を東南より西北に貫き、定川・宣川・車榮館等の郡邑を連ねて新義州府に終り、鴨綠江の大鐵橋により、滿鐵安東線に連絡す。其間に孟中里驛にて博川線を岐つ。また平元西部線順川驛に起る滿浦本線は寧邊郡に入り清川江岸を測上し、先魯江に沿ひて下り江界に至る。道路には京義街道ほぼ京義本線と並走する外、道内各所に二等、三等道路通じ、京義本線の雲田驛より奉川・碧潼へ、宣川驛より龜城・朔州へ、車榮館驛より鐵山へ、南市驛より鐵山と龍巖浦へ、新義州驛より南は龍巖浦へ、東北は義州・昌城・楚山・清原・滿浦・龜城・中江驛・厚昌江口等鴨綠江岸の郡邑へ、其他、博川・雲山・寧邊・雲山・江界・滿浦驛、江界・厚昌・厚昌江口等の間に、何れも乗合自動車の運行行はれ、高原及び山岳地帯を除けば交通不便ならず。清川江は下流に舟楫を通じ、鴨綠江は十月末より三月上旬に至る結氷期を除けば上流遼山驛まで舟運の利あり。沿海部の淺なれば良港乏しきも新義州・龍巖浦の港ありて、鎮南浦・仁川・大連等へ汽船の

便あり。〔産業〕農業は本道住民の最重要産業にて、農家は全戸数の六七%餘に

Table with columns: 種別, 従業金額, 百分一戸一人當り. Lists various agricultural products and their values.

〔交通〕鐵道は京義本線西部を南北に貫きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、これを幹線として平南線は平壤・鎮南浦間を結び、平壤炭礦線は大洞江驛より東方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平元西部線は同じく西浦驛より分岐して既に陽徳に及び、その順川驛より鴨綠江岸の滿浦驛に通ずべき滿浦本線分岐して、いま平安北道江界郡江界まで開通せり。また价川線は京義本線新安州驛と滿浦本線价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義本線と、鎮南浦街道は平南線と略平行し、元山街道は平壤より東して江東・成川・陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路に鎮南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京

〔交通〕鐵道は京義本線西部を南北に貫きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、これを幹線として平南線は平壤・鎮南浦間を結び、平壤炭礦線は大洞江驛より東方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平元西部線は同じく西浦驛より分岐して既に陽徳に及び、その順川驛より鴨綠江岸の滿浦驛に通ずべき滿浦本線分岐して、いま平安北道江界郡江界まで開通せり。また价川線は京義本線新安州驛と滿浦本線价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義本線と、鎮南浦街道は平南線と略平行し、元山街道は平壤より東して江東・成川・陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路に鎮南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京

Table with columns: 種目, 價格, 百分比. Lists various agricultural products and their prices and percentages.

〔交通〕鐵道は京義本線西部を南北に貫きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、これを幹線として平南線は平壤・鎮南浦間を結び、平壤炭礦線は大洞江驛より東方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平元西部線は同じく西浦驛より分岐して既に陽徳に及び、その順川驛より鴨綠江岸の滿浦驛に通ずべき滿浦本線分岐して、いま平安北道江界郡江界まで開通せり。また价川線は京義本線新安州驛と滿浦本線价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義本線と、鎮南浦街道は平南線と略平行し、元山街道は平壤より東して江東・成川・陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路に鎮南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京

に代り、高麗亡ぶや李朝の朝鮮となる。

朝鮮太宗の十八年八道を定めし時平安道となり、明治二十九年十三道に分割せられたり、始めて平安北道となる。

〔平安南道〕朝鮮十三道の一。北朝鮮黄海道に於ける三道の中央に位し、南は黄海道に、北は平安北道に隣り、東は咸鏡南道に界し西は黄海の支瀾たる西朝鮮灣に面す。面積約一四、九三〇方軒、十三道中の第七位に居り、四國地より少しく狭し。行政上、平壤・鎮南浦の二府、大同・順川・孟山・陽徳・成川・江東・中和・龍岡・江西・平原・安州・价川・徳川・寧邊の十四郡に分かれ、道廳は平壤府に置かる。〔地形〕東境には狼林山脈及び北大峰山脈等ほぼ南北に連り、概ね山地にして土地高峻なるも、中部は之より分岐する妙香山脈その他の支脈の地にして次第に低く、西部は更に低夷し、大同江下流域及び黄海沿岸には平地廣し。即ち東部山地には北東城の小白山(一一八四米)を最高峰とし、狼林山(二〇一四九六米)・黃峰(一七三六米)・洞水山(一七四七米)・白山(七二四六米)・屏風山(二二五二米)・白山・北大峰等、黄海道界には假嵐山(一四八六米)・霧巖山、平安北道界には舞臺峯(一七六二米)・龍門山等聳立す。中部の徳川・价川・順川・成川・江東諸郡の地には月峰山(一〇二三米)・飛虎山(六二二米)・雲峰(八八〇米)・萬

山嶺・雲峰山・帝釋山等あるも何れも一

〔交通〕鐵道は京義本線西部を南北に貫きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、これを幹線として平南線は平壤・鎮南浦間を結び、平壤炭礦線は大洞江驛より東方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平元西部線は同じく西浦驛より分岐して既に陽徳に及び、その順川驛より鴨綠江岸の滿浦驛に通ずべき滿浦本線分岐して、いま平安北道江界郡江界まで開通せり。また价川線は京義本線新安州驛と滿浦本線价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義本線と、鎮南浦街道は平南線と略平行し、元山街道は平壤より東して江東・成川・陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路に鎮南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京

〔交通〕鐵道は京義本線西部を南北に貫きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、これを幹線として平南線は平壤・鎮南浦間を結び、平壤炭礦線は大洞江驛より東方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平元西部線は同じく西浦驛より分岐して既に陽徳に及び、その順川驛より鴨綠江岸の滿浦驛に通ずべき滿浦本線分岐して、いま平安北道江界郡江界まで開通せり。また价川線は京義本線新安州驛と滿浦本線价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義本線と、鎮南浦街道は平南線と略平行し、元山街道は平壤より東して江東・成川・陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路に鎮南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京

〔交通〕鐵道は京義本線西部を南北に貫きて平壤・順安・肅川・新安州を繋ぎ、これを幹線として平南線は平壤・鎮南浦間を結び、平壤炭礦線は大洞江驛より東方勝湖里に達し、平壤・元山を繋ぐべき平元西部線は同じく西浦驛より分岐して既に陽徳に及び、その順川驛より鴨綠江岸の滿浦驛に通ずべき滿浦本線分岐して、いま平安北道江界郡江界まで開通せり。また价川線は京義本線新安州驛と滿浦本線价川驛を連ぬ。道路には京義街道は京義本線と、鎮南浦街道は平南線と略平行し、元山街道は平壤より東して江東・成川・陽徳を経て元山に向ひ、其他、二等道路に鎮南浦より黄海沿岸に近く北に延りて京



ス製品・穀物・製粉等にして、穀物は家内工業による徳川丸(船穀)・成川明油等の製穀物を主とし、品質産額共に鮮内第一に位置す。なほ平壤を中心として殆ど無産炭と稱せらるる陶土を原料とする製陶業は著率の發達を期待せらる。鐵産には石炭・金・銀等を主とす。殊に大同江下流流域を中心とする無煙炭の埋藏量は八億噸と稱せられ、江東炭嶺をはじめとし、江西・大興・平壤等の十四炭嶺の採行ありて約六五〇萬圓を産し、金・銀・銅・鐵その他を合すれば一二〇〇萬圓に垂んとす。

【平溪庄】 臺灣臺北州基隆郡の西南部。東は雙溪庄に接し、西は七星郡汐止街・文山郡石碇庄に、北は本郡の瑞芳・七堵二庄に、南は文山郡坪林庄に各々隣す。地形は略ぼ長方形にて、管内は概ね山地なり。管内を流るる主なる河川は基隆河の上流即ち十分寮河にして、本庄の西南山地に發源し、管内の中央を流れて庄の東部より外に出づ。平地はその沿邊に見らるのみ。主産業は農業にして、總人口の約五割は新業に従事し、その生産額は庄下の財源の主要部分をなす。主なる農産物は、米(蓬萊種・在來種)の約十二萬圓、茶・甘藷・蔬菜・果實の約二十萬圓なり。畜産業は専業となすものなきも、各農戸にては概ね豚・牛・家禽の飼養をなし、重要な副業をなし、その價格約十三萬圓に達す。されど本島人は古來の習慣上、牛を食すること少なく、専ら農耕勞役に使役す。庄下は山地多きも大森林なく、従つて製材業盛ならざるもなほ若干の木材を出し、其他、木炭・薪・竹材・竹筒・籐等を産す。鐵産の主なるものは石炭にて、その探掘は沿革古く、今は年約百五十萬圓を採掘す。商工業に於ては特に見るべきものなし。管内の交通は官線たる平溪線の庄内に施設せらるる

【一エ】 兵營面 朝鮮全羅南道康津郡の北東部。西は鶴川面に接し、東は長興郡有治面・長興面に隣る。南北約八軒、東西四軒内外あり。東境中部に修仁山(五六一米)嶺りその山嶺南北に延びて、面の東半部はその山地に屬す。西北部は鶴川面に横つ平地にて耕地拓げ番多し。耽津江支流の錦江は鶴川面より面の南部を東に貫き長興面に出づ。米・豆・麥・棉等の農産あり。長興より木浦方面への二等道路は錦江筋より中部を北方に通じてバスの便あり。

【一イ】 米院面 朝鮮忠清北道清州郡の東部。清州邑の東約一五軒、北は槐山郡清安面、東は同郡青川面、南は報恩郡山外面に隣す。小白山脈の支脈起伏し、東南境には俗離山の西北嶺なる神仙峰(六四四米)・周峯(五八四米)、中部には米東山(五四六米)、北西境には坐龜山(六五七米)・九女峯(四九七米)・加來山(五四六米)等あり。米院川は北西境の山地に出でて南流し、北西半部の諸水を合せ、南境に至りて西隣の珉城面より来る新川に會す。新川は更に南東部の山間を迂迴曲流し北東に向ひ青川面に出づ。管内殆ど山地なるもこれら河川の谷には所々に巾狭き低地を存し水田比較的よく發達す。農産に米・豆・麥・棉花等あり。清州より珉城面を経て槐山に至る道路は中部を斜に横ざりバスの通す。

【一キ】 平居面 朝鮮慶尙南道晉州郡の西部。晉州邑の西隣にて、南は南江とその支流徳川江によりて奈洞面に對し、西南は大坪面に接す。東西四軒内外、南北約八軒を有する北半部は北隣は鳴石面の中部に突入り、その東北西の三境には二〇〇米内外の山地に圍まる。その山地の餘部南半の東部に延び大部分は山地をなす。南江は大坪面より南部の中央を貫き、西より来る支流徳川江を合して南境を東北流し、その沿岸の低地と、北部山地の間より東南部を流る。羅佛川に沿ふ地とに耕地拓く。米・麥・豆・棉花・大麻の農産あり。晉州・河東間の二等道路は南部を略東西に、晉州・全州間のものには北部を西北に走り、共にバスの運轉ありて交通不便ならず。

【一カ】 平海面 朝鮮江原道蔚珍郡の東南部。北は其城面に隣り南は慶尙北道盈徳郡谷面に界し、東は一帯日本海に面す。面積約六三万軒。大白山脈の東斜面にて、西隣の温井面との境には三一四〇〇米の山嶺南北に連りて東面を以て概して便利よく、庄内に青楓坑・石底・嶺脚寮・十分寮の四寮(共に昭和四年設置)を設く。庄下の教育状況は概して普及發達し、瑞芳小學校分校の他、公學校二、分教場一、及び青年團、國語講習所等設置せらる。この地は往時は唐人の跳梁にまかせし地にて、漢民族の當地方に入墾せしは、約百八十年前の事にして爾來、移住する者多く、専ら藍の栽培に従事し、硝庄なる暖々は、本庄にて栽培收穫せし藍の集散市場として一時は盛況を極めたり。されど其後、文明の發達に伴ひ歐洲諸國の化學染料の發明輸入と共に、本庄下の藍は其製品に厩用せられ、現在にては全く其影を没するに到れり。されど是に代りて炭鐵業發達したるを以て、現今に於ては本庄は炭鐵町として亦盛なり。本庄の地は清領當時に建てられた石碇堡(いま本庄と七星郡汐止街)に屬し、石碇堡は我が領臺後も其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月の地方制度改正により本庄下の二庄(現大字)を割きて平溪庄とし基隆郡の管轄下に歸せしめたり。

【一ク】 平家面 中國山脈の一峯。南側は山口縣玖珂郡廣瀬村に、北側は島根縣鹿足郡朝倉村に屬す。標高一〇六六米。北麓は吉瀬川、南麓は中瀬川の流域地たり。【平家平】 四國山脈の一峯。北側は愛媛縣宇摩郡別子山村に、南側は高知縣土佐郡大川・木川の二村に屬す。四國の山には珍しき臺地的なる山容を呈す。東麓には三ツ森山(一四三〇米)・大坐禮山(一五八八米)嶺し、西麓に冠山(一七三二米)・笹ヶ峰(一八六〇米)連る。北側面は北東流する吉野川支流の御山川の發源地、南側面は東流する吉野川の上流地たり。人跡稀にして登山は相當困難なり。【平家山】 阿蘇火山帯の一峰。大分縣玖珠郡春町と東飯田村との境に時つ。標高一〇二三米。山中にクマガイの美林、ミヤマキリシマの群落を見る。山頂よりは北部・中部の九州の山々を圍り、東方近くはカト山(一〇三三米)・福万山(一

【一ゲ】 平元 朝鮮總督府鐵道の一。成鏡南道高原郡内を走る。成鏡本線の高原驛より分岐して西方に走り城內驛(水洞面)に至る。全長三〇・〇軒。【平元西部線】 朝鮮總督府鐵道の一。平安南道を東西に通す。京義本線の西浦驛より起りて東に向ひ順川・長林寺を経て陽徳方面に通す。全長一二三・九軒。この線は將來更に東方に延びて日本海岸の元山府に達すべきもの。【一ゲ】 平原郡 朝鮮平安南道の西部。北は安州、東は順川、南東は大洞、南西は江西の諸郡に隣接し、西は黄海に面す。面積九八四方軒餘。東境には慈母山脈の險骨山(四〇二米)・青龍山(五四六米)・慈母山(五五九米)・降龍山(五四六米)に連り、中部には降龍山より西南方に向ひて起伏する衆頭山(二六一米)・金剛山(二五五米)・萬徳山(二四三米)の丘陵地あるも、いづれも老年期の山地にて傾斜緩慢なり。普通江その間の平地を南流して平壤に至りて大同江に注ぎ、郡の北部と西南部海岸地帯に至る所平坦にして郡名に背かざる大平原地域をなし、百丈川は北部を潤して安州郡地をなして西流する。艾山江に合し、中瀬江は中部を西に流る。沿岸は小灣入多き千湯地連く連り漢川浦の漁港ある外餘地に乏し。査(水田)・田(畑地)よく拓げ、農産は米

【一コ】 平康 朝鮮江原道二十二郡の一。道の北西部にて東は淮陽・金化に、南は鐵原に、西と北西は伊川の諸郡と接し、北東は成鏡南道安邊郡と界す。南北に長方形の地域を占め面積一三三四方軒、諸郡中の第七位に居る。東境には白岩山(一一〇米)の山嶺南北に延びて長岩山(一〇五二米)・白峰(一〇九五米)等となり、西境には北部に望岩山(一一五〇米)、南部に島徳山(八八二米)・大王徳山(七八九米)あり、中部の北には屹岩山(一三四四米)屹立して西の靈岩山に對し、南に青龍山(八四九米)・凡北山(九〇八米)等あり。これら中部の山地と東境山脈の間は潤ゆる竹藪地帯の一部にて海拔二〇〇一五〇〇米を有する高原をなし、その南半は南流する漢灘川・平安川・驛谷川(共に臨津江支流)、北半は北流する南大川の上流地たり。西北部にはまた臨津

【一ケ】 平溪 臺灣臺北州基隆郡の西南部。東は雙溪庄に接し、西は七星郡汐止街・文山郡石碇庄に、北は本郡の瑞芳・七堵二庄に、南は文山郡坪林庄に各々隣す。地形は略ぼ長方形にて、管内は概ね山地なり。管内を流るる主なる河川は基隆河の上流即ち十分寮河にして、本庄の西南山地に發源し、管内の中央を流れて庄の東部より外に出づ。平地はその沿邊に見らるのみ。主産業は農業にして、總人口の約五割は新業に従事し、その生産額は庄下の財源の主要部分をなす。主なる農産物は、米(蓬萊種・在來種)の約十二萬圓、茶・甘藷・蔬菜・果實の約二十萬圓なり。畜産業は専業となすものなきも、各農戸にては概ね豚・牛・家禽の飼養をなし、重要な副業をなし、その價格約十三萬圓に達す。されど本島人は古來の習慣上、牛を食すること少なく、専ら農耕勞役に使役す。庄下は山地多きも大森林なく、従つて製材業盛ならざるもなほ若干の木材を出し、其他、木炭・薪・竹材・竹筒・籐等を産す。鐵産の主なるものは石炭にて、その探掘は沿革古く、今は年約百五十萬圓を採掘す。商工業に於ては特に見るべきものなし。管内の交通は官線たる平溪線の庄内に施設せらるる

【平溪線】 臺灣總督府鐵道の一。臺北州基隆郡にあり。瑞芳庄にある宜蘭線の三組驛より西方の基隆郡平溪庄にある鶯

【平溪線】 臺灣總督府鐵道の一。臺北州基隆郡にあり。瑞芳庄にある宜蘭線の三組驛より西方の基隆郡平溪庄にある鶯

【平溪線】 臺灣總督府鐵道の一。臺北州基隆郡にあり。瑞芳庄にある宜蘭線の三組驛より西方の基隆郡平溪庄にある鶯

【平溪線】 臺灣總督府鐵道の一。臺北州基隆郡にあり。瑞芳庄にある宜蘭線の三組驛より西方の基隆郡平溪庄にある鶯

江の支流たる古味香川とこれに合する龍治川の流入蛇曲の峡谷あり。農業行はれ米・豆・麥・棉花・大麻等を産し、畜牛また少からず。鐵道京元線の高原を南北に貫き、その平原より東南は金化に、西方は伊川に道路通じて、バスの便あり。行政上、平康・縣内・南・西・木田・楸津・高柳の七面に分かれ、人口約六・五萬。郡廳は平康面に置かる。北境には三防嶺の南端たる國師洞の峡谷あり、西南部なる木田面の青龍山には黒金剛(小金剛)の名跡あり。

【平康面】朝鮮江原道平康郡の郡邑。郡の南部に位し、北西より南東に延び、南境の東半は南面に隣り、西半は鐵原郡北西と界す。面積約一一一方軒。竹筴嶺地溝帯高原の一部にて、西境に結城山(五八九米)、東境に松羅山(五七八米)、南境中部に鴨山(四五二米)あるも大部分は三〇〇米内外を有する平地にして耕地あり米・豆・麥・棉花の農産あり。郡廳の所在地にして、また鐵道京元線の平康驛(大正二年設置)あり、西南は伊川、東南は金化方面へのバスの接續地點たり。

【一〇ク 椗谷面】朝鮮慶尙北道盈徳郡の北東端。南は郡邑盈徳との間に寧海・丑山の二面を隔て、北は江原道蔚珍郡平海・温井面に界し、東は日本海に面す。西境北部に雲山(七五八米)聳え、西は概ねその山地に屬し、ただ南東部に平坦地ありて海岸に達しここに耕地

拓げ、米・麥・豆等の農産あり。沿海は鶯・蟹・鮑等の好漁場たり。慶州より盈徳を経て蔚珍方面への二等道路は東部を縱走してバスを通ず。

【一〇ク 瓶谷面】朝鮮慶尙南道咸陽郡の略に中央部。東南は郡邑咸陽面に、西は柏田面に接す。面積四八方軒。小白山脈支脈の元山(一〇三二米)は北境西部に、掛冠山(一一二二米)は北境中部に聳え、それ等の山嶺南方に延び大部分は山地をなす。ただ南部に西隣の柏田面より来る南江の支流渭川の東流するあり、その河岸に幅狭き平地ありて耕地をなす。米・麥類・豆・棉花の農産あり。交通は咸陽に出づるを最も便とす。

【一〇ク 平坂町】愛知縣三河國岡崎郡の北部。半田市の東南一五軒。北は碧海郡地村に、東は西尾町・福地村に、南は寺津町に接し、西は衣ヶ浦に面す。北部は東北より西南に矢作川流れ衣ヶ浦に注ぎ、南部にも悪水あり。此地は矢作川のアルム上に、南部はその先端に當る。之は矢作川の沖積作用と埋立によるなり。本町には新田墾墾も多く、大字中畑の卯の新田は寛永十六年に開墾せられ、市川新田は、古新田と新々田に分れ、前者は延寶七年に後者は貞享元年の開墾にかり、當時は平坂港三間屋の一と稱せられし市川氏の姓を取りしもの。新實新田は延享三年の開墾、當時は平坂港三間屋の一新實氏の姓が冠せられ、古

居新田は寶曆六年の開墾にて、開發者は下居氏なり。西小郷新田は延享二年の開墾にて、開發者は知多郡の西村・小島・郷野の三氏にして、その頭字を取りて名付けしもの。小栗新田は文政十二年の開墾にて、知多郡の小栗氏の開發になり、奥田新田は元治元年に愛知郡の奥田氏の開發とす。西奥田新田は明治十七年に名古屋市の奥田氏により開發さる。南新田は同三十五年の開發たり。このアルム上は廣く水田化され米の産多し。また此地は寛永十二年に定められたる三河國五ヶ津の一つにして、附近の魚類が集散され、南端アルムには鯉等の水産養殖行はる。此地はまた三河木綿の産地に屬す。交通は平地にあるためにして、社線三河鐵道は南部より直角に西に折れ、諸投方面に至り、中畑・三河平坂・三河浦の三驛(共に大正十五年設置)を置き、西尾より社線名古屋鐵道が至り、羽塚・平坂・港前の三驛(大正三年設置)あり。明治二十六年町制を布き、同三十九年に中津村と共に廢され、西野町村大字田貫、奥津村の七大字とを以て平坂村を置き、大正十三年再び町制を布く。北部は古く和名抄、幡豆郡八田郷に屬し、大字矢田は郷名の轉なるべし。

【平山面】朝鮮黄海道平山郡の東部。北は郡邑寶山面に、南は金岩面に隣り、東は鐵道江支流の九淵川を隔てて金川郡白馬面に、南東は同金川面に對す。面積六〇方軒餘。鐵道江は中部を彎流して南に貫き、江岸と東境をなす九淵川に沿ふ部分低平にして畑地よく拓げ、西半部は高さ二百米内外の丘陵起伏しその中央部にまた小低地を作る。麥・豆・棉花等の農産あり。京義街道と鐵道京義本線は西部中央の低地を南北に通ずるも四五近との交通便ならざるを以て後者は驛を設けず。曾て平山郡廳ありしも今は北隣の寶山面に移さる。

【一〇ク 坪山】朝鮮咸鏡南道北青郡にありし面。新北青・俗厚の兩面に分割編入さる。

【一〇ク 平治岳】久住山(大分縣)の二峰。

【一〇ク 平遮那】臺灣總督府鐵道阿里山線の二驛(大正七年設置)臺南州嘉義郡善地平遮那にあり。

【一〇ク 平昌】朝鮮江原道平昌郡の郡邑。郡の南端に位す。東・南・西はそれぞれ寧越郡の美濃面・北面・酒泉面に界す。面積一六六方軒餘。北境東部に南屏山(一一五〇米)、南東境に三方山(九八〇米)、北西隅に獅子山の二峰白徳山(一三五〇米)等聳え、東部・西部に共に哈豆山地をなす。ただ中部に流入蛇曲して南流す

居新田は寶曆六年の開墾にて、開發者は下居氏なり。西小郷新田は延享二年の開墾にて、開發者は知多郡の西村・小島・郷野の三氏にして、その頭字を取りて名付けしもの。小栗新田は文政十二年の開墾にて、知多郡の小栗氏の開發になり、奥田新田は元治元年に愛知郡の奥田氏の開發とす。西奥田新田は明治十七年に名古屋市の奥田氏により開發さる。南新田は同三十五年の開發たり。このアルム上は廣く水田化され米の産多し。また此地は寛永十二年に定められたる三河國五ヶ津の一つにして、附近の魚類が集散され、南端アルムには鯉等の水産養殖行はる。此地はまた三河木綿の産地に屬す。交通は平地にあるためにして、社線三河鐵道は南部より直角に西に折れ、諸投方面に至り、中畑・三河平坂・三河浦の三驛(共に大正十五年設置)を置き、西尾より社線名古屋鐵道が至り、羽塚・平坂・港前の三驛(大正三年設置)あり。明治二十六年町制を布き、同三十九年に中津村と共に廢され、西野町村大字田貫、奥津村の七大字とを以て平坂村を置き、大正十三年再び町制を布く。北部は古く和名抄、幡豆郡八田郷に屬し、大字矢田は郷名の轉なるべし。

【平山郡】朝鮮黄海道平山郡の東部。北は郡邑寶山面に、南は金岩面に隣り、東は鐵道江支流の九淵川を隔てて金川郡白馬面に、南東は同金川面に對す。面積六〇方軒餘。鐵道江は中部を彎流して南に貫き、江岸と東境をなす九淵川に沿ふ部分低平にして畑地よく拓げ、西半部は高さ二百米内外の丘陵起伏しその中央部にまた小低地を作る。麥・豆・棉花等の農産あり。京義街道と鐵道京義本線は西部中央の低地を南北に通ずるも四五近との交通便ならざるを以て後者は驛を設けず。曾て平山郡廳ありしも今は北隣の寶山面に移さる。

【一〇ク 坪山】朝鮮咸鏡南道北青郡にありし面。新北青・俗厚の兩面に分割編入さる。

【一〇ク 平治岳】久住山(大分縣)の二峰。

【一〇ク 平遮那】臺灣總督府鐵道阿里山線の二驛(大正七年設置)臺南州嘉義郡善地平遮那にあり。

【一〇ク 平昌】朝鮮江原道平昌郡の郡邑。郡の南端に位す。東・南・西はそれぞれ寧越郡の美濃面・北面・酒泉面に界す。面積一六六方軒餘。北境東部に南屏山(一一五〇米)、南東境に三方山(九八〇米)、北西隅に獅子山の二峰白徳山(一三五〇米)等聳え、東部・西部に共に哈豆山地をなす。ただ中部に流入蛇曲して南流す

居新田は寶曆六年の開墾にて、開發者は下居氏なり。西小郷新田は延享二年の開墾にて、開發者は知多郡の西村・小島・郷野の三氏にして、その頭字を取りて名付けしもの。小栗新田は文政十二年の開墾にて、知多郡の小栗氏の開發になり、奥田新田は元治元年に愛知郡の奥田氏の開發とす。西奥田新田は明治十七年に名古屋市の奥田氏により開發さる。南新田は同三十五年の開發たり。このアルム上は廣く水田化され米の産多し。また此地は寛永十二年に定められたる三河國五ヶ津の一つにして、附近の魚類が集散され、南端アルムには鯉等の水産養殖行はる。此地はまた三河木綿の産地に屬す。交通は平地にあるためにして、社線三河鐵道は南部より直角に西に折れ、諸投方面に至り、中畑・三河平坂・三河浦の三驛(共に大正十五年設置)を置き、西尾より社線名古屋鐵道が至り、羽塚・平坂・港前の三驛(大正三年設置)あり。明治二十六年町制を布き、同三十九年に中津村と共に廢され、西野町村大字田貫、奥津村の七大字とを以て平坂村を置き、大正十三年再び町制を布く。北部は古く和名抄、幡豆郡八田郷に屬し、大字矢田は郷名の轉なるべし。

【平昌江】朝鮮江原道南部の河。漢江支流。平昌郡の北境に近き白山脈支脈中に發源して南流し、平昌邑附近に至り山地を流入蛇行して南流を續け、寧越郡に入るや西面新川里に於て西北より来る涓川江を容れ、之より東・南に蛇曲流し、寧越邑の南方にて漢江に入る。流程約一〇〇軒に及ぶも、概ね兩岸相迫りて平地少なく、舟便・水利の便に乏し。但し下流々城に於ける標高の崖は著はる。

【一〇ク 平莊村】兵庫縣播磨國印南郡の東部。加古川の右岸に接し高砂町(加古郡)の東北約五軒にあり。東北は加古郡・加東郡に接し、南は川を隔てて加古郡に界す。村内鐵道部の所々に丘陵起伏し、中央に低地開け南境を西南流する加古川を越えて南方へ廣く連

る平昌江ありてその沿岸の所に幅狭き河成平地ありて耕地拓く。米・麥・大豆・粟・玉蜀黍等の農産、平越・南石・寧昌等の嶺山より金・銀を出す。邑内(中里)は面の中央部、平昌江の北岸に建ち、郡廳・警察署・地方法院出張所等の官衙あり、また寧越・堤川・旌善・江陵方面への交通上の要點にして、毎月定日に開市ありて地方商業の中心地をなす。その魯山の中央には文祿の役の際に郡守權斗文の築きたりとい傳ふる城址を存す。後坪里の龍嶺山には龍山亭ありて江山の眺望に通し、南山中腹の小丘上には松鶴樓あり、また春花秋楓の景に富む。

【平昌江】朝鮮江原道南部の河。漢江支流。平昌郡の北境に近き白山脈支脈中に發源して南流し、平昌邑附近に至り山地を流入蛇行して南流を續け、寧越郡に入るや西面新川里に於て西北より来る涓川江を容れ、之より東・南に蛇曲流し、寧越邑の南方にて漢江に入る。流程約一〇〇軒に及ぶも、概ね兩岸相迫りて平地少なく、舟便・水利の便に乏し。但し下流々城に於ける標高の崖は著はる。

【一〇ク 平莊村】兵庫縣播磨國印南郡の東部。加古川の右岸に接し高砂町(加古郡)の東北約五軒にあり。東北は加古郡・加東郡に接し、南は川を隔てて加古郡に界す。村内鐵道部の所々に丘陵起伏し、中央に低地開け南境を西南流する加古川を越えて南方へ廣く連

る。北隣の山中に湖水あり。米・麥類・粟・高粱・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵・畜製品等の産物あり。中部には縣道が東西に貫通し東方約三・五軒にある社線播丹鐵道の國包驛(上莊村)へバスを通す。また西南方二軒餘の省嶺山陽本線加古川驛へバスの便あり。此地は和名抄、印南郡益氣郷の内か。もと幣ノ莊といへり。(平莊神社)大字山角に鎮座。郡社。祭神、品陀別大神・大國主大神・天照皇大神等七柱。もと若一王子權現・若王子七社權現・山角權現とも云へり。古來平莊の氏神にして、社領十三石四斗餘を有せり。例祭、十月二十一日。

【平城村】奈良縣大和國生駒郡の東北部。奈良市西北部より僅か西に在り、北は京都府相樂郡に界し、東北隅は木津町に接す。東部及び西部は一五〇米程度の臺地狀の丘陵あり。中央には西北より東南の方向に平野開けて奈良盆地に接し、秋篠川の小浜が北境に發して南流し南方にて佐保川に入る。米産多く麥・繭も出す。東部には社線奈良電氣鐵道南北に走りて平城驛(昭和三年設置)あり。鐵道もまた東部を南北に通す。古の平城京の西北部に當るより村制實施の際に平城村と名づく。もと高野原と汎稱せしもの如し。地に成務天皇・稱徳天皇・神功皇后・垂仁天皇の皇后の御陵あり。大字秋篠に名刺秋篠寺あり、また歌枕として知らる。

【平城村】奈良縣大和國生駒郡の東北部。奈良市西北部より僅か西に在り、北は京都府相樂郡に界し、東北隅は木津町に接す。東部及び西部は一五〇米程度の臺地狀の丘陵あり。中央には西北より東南の方向に平野開けて奈良盆地に接し、秋篠川の小浜が北境に發して南流し南方にて佐保川に入る。米産多く麥・繭も出す。東部には社線奈良電氣鐵道南北に走りて平城驛(昭和三年設置)あり。鐵道もまた東部を南北に通す。古の平城京の西北部に當るより村制實施の際に平城村と名づく。もと高野原と汎稱せしもの如し。地に成務天皇・稱徳天皇・神功皇后・垂仁天皇の皇后の御陵あり。大字秋篠に名刺秋篠寺あり、また歌枕として知らる。

る。北隣の山中に湖水あり。米・麥類・粟・高粱・蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵・畜製品等の産物あり。中部には縣道が東西に貫通し東方約三・五軒にある社線播丹鐵道の國包驛(上莊村)へバスを通す。また西南方二軒餘の省嶺山陽本線加古川驛へバスの便あり。此地は和名抄、印南郡益氣郷の内か。もと幣ノ莊といへり。(平莊神社)大字山角に鎮座。郡社。祭神、品陀別大神・大國主大神・天照皇大神等七柱。もと若一王子權現・若王子七社權現・山角權現とも云へり。古來平莊の氏神にして、社領十三石四斗餘を有せり。例祭、十月二十一日。

【平城村】奈良縣大和國生駒郡の東北部。奈良市西北部より僅か西に在り、北は京都府相樂郡に界し、東北隅は木津町に接す。東部及び西部は一五〇米程度の臺地狀の丘陵あり。中央には西北より東南の方向に平野開けて奈良盆地に接し、秋篠川の小浜が北境に發して南流し南方にて佐保川に入る。米産多く麥・繭も出す。東部には社線奈良電氣鐵道南北に走りて平城驛(昭和三年設置)あり。鐵道もまた東部を南北に通す。古の平城京の西北部に當るより村制實施の際に平城村と名づく。もと高野原と汎稱せしもの如し。地に成務天皇・稱徳天皇・神功皇后・垂仁天皇の皇后の御陵あり。大字秋篠に名刺秋篠寺あり、また歌枕として知らる。

王の邑なりしと傳ふ。(秩木之寺間御陵) 崇仁天皇皇后日奈御命の御陵。俗に御陵山と呼ぶ。前方後圓墳にして周濠を有し、曾て大形の盾・鐵道等の埴輪樹物・鏡・石製品を出せり。(狹城前池後陵) 成務天皇の御陵。康平年間に興福寺僧の山陵發掘の事あり。中世、陵所不明となりしが、のち現所を推し幕末修陵の際修治を加へらる。(狹城前池上御陵) 神功皇后の御陵。里俗五社神と稱し、南面せる前方後圓墳にして周濠を有し、松樹繁茂す。(高野陵) 稱徳天皇の御陵。額紀、高野山陵に作る。中世以後は山陵荒廢しその所在を失ひしが、文久三年現所と推定、修補を加へらる。(秋篠寺) 大宇秋篠にあり。淳和天皇の御陵。光仁天皇の勅願に依り、寶龜十一年善珠の開創と云ひ、光仁・桓武兩天皇の勅願寺たり。額日本紀同年と弘仁三年の各條に、勅封各一百戸の施人ありし事を載す。中世以後は衰頹す。堂宇中、本堂は圓寶、本尊藥師如來及び兩脇侍(木造)の三尊の外、技藝天立像(木造)一軀・梵天立像(木造)一軀・教説菩薩立像(同上)一軀・帝釋天立像(木造)一軀等は共に圓寶なり。

平壤

平壤(平壤) 西鮮第一の大商工都市。平安南道大同郡の略中央に位し、大同江に跨る。市域は東西四・三軒、南北八・四軒、

面積二三万軒餘。市の主要部は大同江の西岸に沿ひ、ほぼ南北に連りて錦繡・瑞氣・蒼光(倉親)等の丘峯をなす丘陵地とその南端に横く大同江の氾濫原の平坦部となす。府は大同江の南岸を東西に展開する大同平野を控へ、大同江の水運に恵まれ、また天然の要害たるを以て夙く史上に著はれ、以來、箕子朝鮮・衛氏朝鮮・高句麗等歷朝の國都たりし處なり。箕城・樂浪・西京・西都・錦京・柳京等の別名を有す。明治四十三年の日韓併合に先づ既に鐵道京義本線開通して平壤驛(明治四十一年設置)を南部に設け、次で鎮南浦に至る平南線成り、寺洞・勝湖里の炭礦開發につれて平壤炭鐵礦敷設され、東部に船橋里驛(大正九年設置)置かれ、更に西北部に京義本線西平壤驛(昭和四年設置)開かれて陸運交通の中心となり石炭の外、鐵礦の産出ありて工業勃興し、今又西鮮に於ける政治・經濟・商業・運輸・交通の中心となり人口一七・二萬を算して釜山府と伯仲し、鮮内第三の大都市となれり。江西の市街は南北に長く延長し、その北半部は舊城内の地に於て舊市街といひ、主として鮮人の住居地をなし、中央と江岸を縦貫する幹線道路と、これに直交する僻街門通・大同門通等の改修道路ある外は迂曲曲折多き街路をなす。その北方なる萬壽臺の南麓と西部の丘陵地は官衙學校區にして商業學校・

崇實專門學校・崇義女學校・高等女學校・光成中學校・正義高等女學校・平壤中學校等あり。新市街は南部の平坦地を占めて舊市街に比すれば面積遙に廣く街衢井然たり。その中央部にある平壤驛前より東北大同橋畔に達する大通あり、南町・八千代町・黄金町・本町及び大和町等これと交りて南北に走り、その東北部は主要商業區をなし、大和町通は最も繁華なり。西北部の瑞氣山丘陵とその傾斜面はまた官衙・學校・住宅地區をなし、瑞氣山の東北に平壤府廳・平安南道廳、西に歩兵第七十七聯隊・高射砲隊、南に醫學專門學校・覆審法院・地方法院あり。驛の西南方にはもとの平川里にて陸軍兵器製造所・農業學校及び平安南道種畜場その他の種畜場多し、府の最北端の箕林里には大同郡廳・地方專賣局・公設運動場あり。江東の船橋里は平川里及び北部の箕林里と共に昭和四年に編入されし新市域の一部にして、大同橋に關りて新市街と連絡す。大正九年に設立せられし大日本製糖・朝鮮電氣の兩會社の工場を始め、西鮮合同電氣・朝鮮煉炭・片倉煉炭・帝國煉炭・朝鮮鑛寸・平安鹽池等、大小數十に上る工場あり、更にその郊外なる大同江西の地には飛行第六聯隊・航空支隊・國際航空路の着陸場(平壤飛行場)・師範學校・競馬場等設けられ、一大工場地帯をなす。工業の隆昌と共に西鮮物産の集散地に行はれて商業また活況を呈し、特に平壤栗・平壤牛・

ハムは特産物としてその名高し。東洋拓殖會社支店をはじめ各種の會社數約一二〇(うち商業會社二六、工業會社三〇)、朝鮮銀行支店その他の銀行六を數へ、また昭和十年の貿易總額一、九七〇萬圓(輸出額三九四萬圓、輸入額一、五七六萬圓)に上り、そのうち外國貿易は主として滿洲國・關東州との間に行はる。府内には名勝古蹟また多し。(瑞氣山公園) 府の中央部にある小丘にて、東南は平壤市街の大平を俯瞰し、西北には普通門の麓を望む。丘上に日清戰役の記念碑建てり。(大同門) 大同江畔に屹立せる三層樓、京城口に當り一に東門と呼ばる。約五百年前、李朝太宗六年の創建に於ける今の建築は宜祖の改築せるものにて結構華大技巧精妙の藝術品たり。(綠光亭) 大同江の北、江岸の懸崖に建つ。約四百年前、慶司許敬の建てしものにて觀月その他の宴に用ゐられしといふ。上流を望めば半月・綾羅の島洲が大同江の碧波の中に浮び一輪の輪を展べたるが如し。その北方に平壤名物の妓生學校あり。「七星門」北部の慶上里にあり。平壤六門の一。(平壤神社) 七星門の東に鎮座。國幣小社。天照大神を祭祀す。例祭、五月一日。(乙密臺) 北の牡丹臺と共に錦繡山峯の一角にして、臺上に四處亭あり、約六百年前の建築に於ける。牡丹臺との間に支武門・浮碧樓を挟み、その東方には綾羅島を望み、明確なる平壤風景の核

心なす。附近一帯は日清戰役平壤戰の古蹟にて四處亭の柱には今も當時の無数の彈痕を留む。「支武門」平壤の北門にて乙密臺・牡丹臺間の鞍部に位し、日清戰役に元山支隊の原田一等卒が挺身城壁を感天門扉を拂して全小隊を導入せし處として著はる。門の下部なる穹窿狀の石門は當時のままなりと。「浮碧樓」乙密臺の東北、斷崖の上に建つ。約一千年に前高句麗の新興上人が建立せるもの、平壤最古の建造物。樓名は香宗西遊の際、息從李顯をして命名せしめしもの。洛々たる大同の碧水に臨み、綾羅島山下に横はり、宛然江に浮ぶが如き觀あり。「牡丹臺」府の最北端、錦繡山中の最高所に位し、昔時山上に烽火臺を設けし處。日清戰役に清軍が放列を敷きて我が元山支隊を苦しめたる古戰場にて當時の砲臺の址を存す。古野櫻栽植せられ花時の華嚴を以て著はる。「箕子陵」乙密臺の西麓松林中にあり。約八百年前、高句麗の肅宗の奉養に始り、のち李朝に成宗増修して碑を建つ。松嶺風々、往時を語るが如き感ある靈地なり。「普通門」府の西境、京義本線と普通江との接觸地點に位す。平壤の西門にて義州口をなし、昔時國賓迎送の要門たり。今の門は高句麗の成宗の重修せしもの。日清戰役に野津中將の率ゐし第五師團軍の本隊はこの門より進軍して平壤を占領せり。(崇仁殿・崇靈殿) 高等女學校の隣にあり。崇仁殿には箕子

の位牌を安置し、崇靈殿には國祖檀君を奉祀す。(船橋里) いま府の東部工業地帯たる船橋里は、日清戰役に大島少將の率ゐたる混成旅團が平壤の敵軍を攻撃牽制せし古戰場にて、大同橋畔下流の林中にその忠魂碑建てり。「沿革」平壤は朝鮮の始祖檀君の都せし處。周の起るや殷の遺臣箕子、一族を率ゐ來りて都し子孫相承くること四十一世、箕準に至りて燕の亡區郡藩のために滅さる。然るに幾何ならずして漢の武帝は論の孫右渠を滅し朝鮮を統一して四郡を置き、平壤はその樂浪郡治となる。漢末に扶餘族は漸く勢力を得て高句麗國を建て、十一代東川王は始めて平壤に都す。其後、唐の高宗は高句麗を伐ちて都城を攻略し平壤郡府を設く。高麗の太祖王建またここに都を建設して西京と稱し、孫の成宗に至り西都と改む。のち幾多の興廢を経て李朝太祖に至り都を漢城(今の京城府)に定むるや平壤に監祭府を置く。日韓併合後に平安南道・平壤郡等を置きしが大正三年に府制を布きて今日に及ぶ。

【平壤炭田】 朝鮮平安南道大同・江東・江西の三部に跨り、平壤府を中心とする大同江流域にあり。東西約八〇軒、南北約四八軒の地積を占め、朝鮮無煙炭田中の白眉なり。夾炭層は石炭紀乃至三疊紀に屬し、二―三層の石炭層あれど、變動激しく膨縮定まらず。この炭田に屬する炭礦中、昭和十年に年額十萬圓以上を示せるものは平壤・三神・大寶・大文山・貞柏(以上大同郡)・大成・江東(以上江東郡)・江西(江西郡)の各炭礦なり。

【平壤炭礦】 朝鮮平安南道大同郡にあり。海軍省に屬し、昭和十年には無煙炭一四九、九五〇噸(價額九九萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員一、七一五人とす。

【平壤炭礦】 朝鮮總督府鐵道京義線の一段。平安南道の西部にあり。京義本線の大同江畔より分れて東方の勝湖里方面に通ず。全長二三・三軒。沿線は謂ゆる平壤無煙炭の饋來に、到る處に炭坑あり、また勝湖里附近よりはセメント原礦の産出多し。

【平壤炭田】 朝鮮平安南道大同・江東・江西の三部に跨り、平壤府を中心とする大同江流域にあり。東西約八〇軒、南北約四八軒の地積を占め、朝鮮無煙炭田中の白眉なり。夾炭層は石炭紀乃至三疊紀に屬し、二―三層の石炭層あれど、變動激しく膨縮定まらず。この炭田に屬する炭礦中、昭和十年に年額十萬圓以上を示せるものは平壤・三神・大寶・大文山・貞柏(以上大同郡)・大成・江東(以上江東郡)・江西(江西郡)の各炭礦なり。

【平壤炭礦】 朝鮮平安南道大同郡にあり。海軍省に屬し、昭和十年には無煙炭一四九、九五〇噸(價額九九萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員一、七一五人とす。

【平壤炭礦】 朝鮮總督府鐵道京義線の一段。平安南道の西部にあり。京義本線の大同江畔より分れて東方の勝湖里方面に通ず。全長二三・三軒。沿線は謂ゆる平壤無煙炭の饋來に、到る處に炭坑あり、また勝湖里附近よりはセメント原礦の産出多し。

【平壤炭田】 朝鮮平安南道大同・江東・江西の三部に跨り、平壤府を中心とする大同江流域にあり。東西約八〇軒、南北約四八軒の地積を占め、朝鮮無煙炭田中の白眉なり。夾炭層は石炭紀乃至三疊紀に屬し、二―三層の石炭層あれど、變動激しく膨縮定まらず。この炭田に屬する炭礦中、昭和十年に年額十萬圓以上を示せるものは平壤・三神・大寶・大文山・貞柏(以上大同郡)・大成・江東(以上江東郡)・江西(江西郡)の各炭礦なり。

【平壤炭礦】 朝鮮總督府鐵道京義線の一段。平安南道の西部にあり。京義本線の大同江畔より分れて東方の勝湖里方面に通ず。全長二三・三軒。沿線は謂ゆる平壤無煙炭の饋來に、到る處に炭坑あり、また勝湖里附近よりはセメント原礦の産出多し。

いふ。天正二年四月、朝倉景鏡、國守同義堂を執して當寺に籠るや、國中の眞宗門徒は大舉して此殿・佛閣全部を一炬に附すとす。近世は社領四百三十石を有せり。例祭、五月五日。(舊安成院庭園)指定名勝。舊平泉寺支成院書院の庭園にして、慶長年間には作造せられたる如し。前方に平地を構へ後方は斜面にあり。脚下に乾池、北面に傾りて小池あり。園の背後には杉・松・楠等、老樹繁生し、丘腹に若杉疎立して彫刻處々に點在し、配するに石燈籠數基を以てす。閑寂の景趣に富む。

平三村

千葉縣上總國市原郡の東南部。鶴舞町の東南隣にて東は長生郡、南は夷隅郡と隣る。全町丘陵地にて針葉樹林多く、中央部を榮老川の支流北流す。山地には林産多く、川沿ひの狭き平地には米・麥・蕎麥を産し、養蠶も行はる。縣道は川沿ひに縱走し、北は鶴舞町、南は夷隅郡大多喜町に通じ、いづれもバスの便あり。鶴舞町の社線小浜鐵道鶴舞町駅及び大多喜町の省線水原線大多喜町に出づるに便なり。此地は近世に平三郷と稱せし地なり。大字平三にあり。平三城址は土橋平三の居りし處。里傳によれば、平三は天慶の亂に味方に利あらずして長南に走り、城陷ると云ふ。(西願寺) 大字平三にあり。天台宗。清泰山。承平二年、當地の領主、平三將經が創建し寺内に熊野三社遷現を勧誘すと。

のち戦國時代に入り、兵亂絶ゆることなく屢々兵火に罹りて堂宇の大半廢滅す。現堂中、阿彌陀堂は俗に光堂と稱し、室町時代の建立に係り國寶たり。

坪村

朝鮮總督府鐵道慶全南道線の一驛(大正十四年設置)。

平澤面

朝鮮京畿道振威郡の東南部。東は安城郡、南は忠清南道天安郡に接し、水原邑と天安邑とのほぼ中間に在り。東西約六軒、南北約八軒。北部及び東部の處々に丘陵起伏するも概ね三・四〇米を越えず、城内悉く謂ゆる平澤平野中であり、南境には安城川西に流れ、その支流中部以北を灌溉して水利よく農業頗る盛なり。産物は米を主とし、其他、麥・豆類・棉花・荳草・杞柳及び各種の蔬菜・果實(梨)あり、副業に陶器製造・養蠶行はる。總督府鐵道京釜本線及び京城・釜山間の一等街道はほば並行して中部を南北に貫き、前者を平澤驛(明治廿八年設置)あり、同驛を中心として道路網よく發達し交通便なり。驛附近に市街地ありて内地人の居住者や多く、振威郡廳・地方法院出張所等置かれまた京畿道内農業の中心地なるを以て穀物検査所支所・農産倉庫等の施設あり、市場は米穀の取引活潑なり。此地はもと平澤郡の中心にして、大正三年まで郡衙置かれしが、同郡及び水原郡の一部を合併して振威郡を建つるや、改めて振威郡

廳の所在地となる。平澤舊邑は驛の東北約四軒の地點にあり。

平鎮

臺灣新竹州中壢郡の東南部。東は大溪郡大溪街、西は木溪楊梅庄、南は大溪郡龍潭庄、北は中壢街にそれぞれ接す。管内は概ね平地なるも西南部に小丘陵あり、地勢は南より北に傾斜す。主なる河川は老街溪・新街溪にして常に水少量少く、雨期氾濫して農作物に害す。水利の便は比較的良好的を以て、農業は甚だ盛にして、二期作良田多く、米産額多し、其他農産の主なるものは甘藷・甘藷・落花生・蔬菜・西瓜・果實等にして、山手丘陵地帯は古來茶の産地として有名にして、その品質また優良なり。農産總額は年約百萬圓に達す。また農家に於ては、副業として豚・水牛・黄牛・山羊・家禽を飼育する者多く、産額多くして、庄生産物の重要なものの一なり。工業の主なるものは、製糖・精米及び煉瓦・木製品・葦等の製造にして、何れも規模小にして生産額少し。本庄は中壢街の商團に屬し、庄下に於ては僅に農民相手の小賣場を見るのみ。金融機關には平鎮信託利組合一を有するのみ。公學校二のほか、公民講習所・國語講習所・國語講習會・青年團等の教育機關設置され國語による皇民化運動盛なり。本庄の地の開拓は清の乾隆の半以後にして、新街溪及び老街溪の下流より上陸したる漳州

人の手により漸次開墾せらる。のち廣東人の來住する者多く、道光初年以來は屢次開(福建人)・粵(廣東人)の分領械闘行はれ、現在この地方には廣東人の住する者多し。同治以來、廣東人は庄内山手丘陵地帯に茶樹の栽培をなし、現に北部臺灣の特産たる烏龍茶の生産地として有名なり。此地方は乾隆五十年、桃園堡なる一堡を建てられ、我が領臺後も行政區劃の一として用ひられしが、大正九年十月同堡中の八庄(現大字)は割かれて一區劃となり、平鎮庄と名づけらる。

餅店

朝鮮總督府鐵道京釜本線の一驛(明治三十八年設置)。

屏東

臺灣高雄州内二市の一。阿緞平野(屏東平野)の中央部。淡水溪左岸に沿ひ、東は屏東郡長興庄、南は東港郡萬丹庄にそれぞれ境を接し、西は淡水溪を隔てて鳳山郡の大樹・大寮二庄、北は香子寮溪を隔てて屏東郡の九塊・鹽埔二庄に對す。一望渺茫たる平野にして地味肥沃、水利の便に恵まれ農業盛なり。一方、市街は新興都市として躍進的發展の途上あり、街衢整然、到る處にカウチヤム・棟仔・龍眼等の老木蒼蒼として繁え、椰子・檳榔樹・蜜柑・嫩刀木また

臨所に建立し、熟帶都市たるの特徴をよく發揮す。市街の外縁は田畑遠く遶り、熱と光とに恵まれて一般作物の生育良好を極め、農産豐富なるに伴ひ、之が加工工業たる製糖・精米・鳳梨罐詰製造盛なるのみならず、阿緞平野に於ける商業の中心として重きをなし、一面、産業都市たるの特異性を有す。主要農産物は米・甘藷・蔬菜・甘藷・バナナ・果物類等とし、殊に木瓜著はる。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き豚・鶏を主とする家畜・家禽頗る多く、市外に普く飼育せらる。工業は東洋第一の稱ある臺灣製糖會社を始め、諸種の大小工場臨所に散在す。本市はまた從來飛行第八聯隊の所在地として知られ、加ふるに飛行團司令部、その他軍關係機關の新設擴充あり、帝國最南端の國防都市として名實共に具はる。軍關係以外に屏東市役所・郡役所・警察署・郵便局・總督府醫院・專賣支局・法院出張所・稅務出張所・農事試驗場等の官公署と中學校・女學校・農業學校・小公學校あり。阿緞平野に於ける交通の中樞をなし、官設潮州線は西隣の鳳山郡より下淡水溪の大鐵橋を渡りて入り來り、屏東驛(大正二年設置)より南に轉じ潮州に至る。また屏東驛より北方里港に達する臺灣製糖の社線あり。道路は市街地を中心として四隣各主要地との間に放射狀に發達し、多くバスの便を有す。管内はもと港西中里に屬し、古くは平埔蕃族マカ

マオ部族のアイカワ社の據地にして阿緞は之に宛てたる近音譯字とす。又アイカワ(阿緞)社はマアカワ(打刺)社の轉訛せしものにて、初め今の高雄港附近に占居せしが、明末の海寇林道乾の虐殺暴掠を被り、この地方に退避せしなり。當時この地方は森林繁茂の地なりしを以て林の字を添へ、阿緞林または鶴林と稱し、清の康熙四十年代に閩人により始めて部落を形成せられ、阿緞庄と呼び、乾隆の初め頃より市街として發達し、後に同音の佳字を宛てて阿緞街または阿侯街に作れり。我が領臺後、明治廿六年土地査定の際、阿緞と一定し、現行制度前は阿緞廳の所在地にして、大正九年現行制度施行の際、高雄市の膠着半屏山の東に在るを以て阿緞を屏東と改稱し、屏東街として屏東郡に編入せられしも明治八年十二月市制を布く。(阿緞神社) 縣社。祭神、北白川宮加久親王。明治四十五年鎮座式を行ひ大正十五年縣社に列す。

屏東

西部の平地より成り、東部山地に發源する老溪・二重溪・武洛溪・香子寮溪・隘寮溪等の大小河川は何れも西流して西隣の下淡水溪に注ぎ、臨所に廣大なる扇狀地を形成して廣大なる阿緞平野(屏東平野)を展開す。該平野地帯は土地平坦にして道路四通八達し、概ね水利の便に富み、地味肥沃なるを以て、州下有数の農耕地として一大富源をなす。加ふるに昭和二年以來施行し來りし下淡水溪治水工事竣功せしより、諸溪の氾濫及び洪水の脅威を一掃し、廣大なる新生地を浮現して廣川敷地約九千甲の内、六千餘甲の農耕地を得るに及び、郡下の農業更に一大躍進を示すに至れり。東部善地は總面積の約五分の三に相當し、山岳重疊して連互す。西部行政地域は長興・鹽埔・高樹・里港・九塊の五庄に分轄し、郡役所を屏東市に置く。管内は殆ど農村より成り、主要農産物は米・甘藷・甘藷・芭蕉・蔬菜類・烟草・豆類・鳳梨等にして何れも産額多く、特殊農作物に黄麻・芋・麻・龍眼・榴あり、果物類にては屏東木瓜の名既に人口に膾炙し、その大きき及び風味は全島に冠絶す。畜産は大に見るべきものあり、州下有数の畜産地にして牛・豚・鶏を主とし、品種改良の結果産額著しく増進し、改良堆肥の普及による探肥上の利益と相俟ちて農家經濟の有力なる一支柱をなす。内地人農業移民は里港庄に千餘村、九塊庄に日出村、鹽埔

屏東

庄に常盤村を形成し、主として烟草耕作に従事す。林業にては塩林に見るべきものなく、薪炭・竹材・竹・木耳等の林産物もある産額多からず。郡下の善人は總てパイロン族に屬する僥僥者にて教化・授産等理番に努めたる結果、著情不穩、漸次定地耕作をなすに至れり。鐵道は臺灣製糖の社線たる里港線を有するのみにして、里港驛にて官設潮州線に接續す。道路は甚だよく發達し、橋梁の完備と共に乗合自動車の發達も著しく、各庄より東南隣の屏東市に集中す。郡下は往古平埔蕃族たる上淡水・武洛・梧槽・阿緞等社蕃の占居地に屬し、清領後漢人の移殖と共に漸次蕃族を山脚へ驅逐して開拓せしものなり。清領時代には鳳山縣治下に屬し、明治廿八年帝國領臺後數次行政上の變遷を経て大正九年に至り、地方制度の根本的改革と共に一部を形成して高雄州の管下となり、昭和七年十二月六縣庄及び六縣分室管内善地を屏東郡管轄し、また潮州郡の一部を郡下鹽埔庄に編入し、翌八年十二月屏東街は市に昇格して本郡より分離せり。

平洞面

朝鮮全羅南道羅州郡の北部。郡邑羅州の北約一〇軒にあり。東は光山郡松汀邑及び東谷面に接す。東西七軒餘、南北約四軒の楕圓狀をなす。西半部は丘陵に起伏し、北地には伏龍峰(二七米)ありてやや高

山陵西方へ延び、その南に周回約三軒の池あり。東半部は極めて低平なる平野にして、東北境を黄龍江流れ、その支流中部を灌溉して肥沃なる耕地拓く。産物は米・麥・棉・蠶等を主とす。總督府鐵道湖南本線は東南部を貫き、その松江里驛に近く、また北境近く光州・靈光間道路通するを以て交通不便ならず。

一ナ 平南

【平南鐵山】朝鮮平安南道にある金山。本據は平壤郡東岩面御重里にて京義線石炭驛より御重里間一二軒はバス通じそれより一軒にて本據に達す。鐵區は東岩面の外に順川郡合人面・慈山面に及び、大正十三年の登録に係り昭和十年重要鐵山に列す。地質は凡そ半片麻岩より成り、鐵床はこの片麻岩に脈状せる合金石英脈にして主要なるものは大和派と數島派とす。前者の鐵脈は比較的連續して優勢なるも、後者は走向斷層或は鐵脈分裂し尖滅せる所多し。鐵石は乳白色或は灰白色の石英に多量の黄鐵礦・方鉛礦と少量の閃石鉛礦とを伴ふ。昭和十年には金銀鐵二、〇〇三萬噸(實額七萬四千餘噸)を産し、同年六月米の従業員二六〇人。

【平南線】朝鮮總督府鐵道京義線の一。平安南道の西南端を通ず。京義本線の平壤驛より分岐し太平驛・臺城驛等を経て鎮南浦に通ず。全長五五・二軒。

一ニチ 平日島

↓金日面(朝鮮)

【一ナ 平浦】↓龍浦面(朝鮮) 文山郡の東部。東は宜寧郡龍潭・基隆郡雙溪庄、西は本郡下の石院庄、北は基隆郡平溪庄、南は宜寧郡龍潭庄にそれぞれ隣接す。管内は概ね山地にして平地少く、人口稠密の都會地を距ること甚だ遠きを以て、全くの僻村たるを免れず。隨つて交通の便甚だ悪しく、庄下に於ける産業の發達は遅々たるものなり。見るべき産業としては、僅に農業・林業あるのみ。農業に於ては田畑の面積狭小なるを以て生産額は小なるも米・果實・蔬菜等を出し、山手畑地よりは粗製茶を出す。林産に於ては木材・竹材・木炭・薪・樟腦等を出し庄下の重要財源をなすも、その交通の不便は本業發達上重大なる障害をなし、豊車を運ぶに於てもその生産は僅少なり。道路等に於ても全くその設備悪しく、現在に至るも交通は徒歩を以てせざるべからざる状態なり。本庄の地は清國の領有せし當時に設けたる行政區劃の一なる文山堡に屬し、本庄附近は本堡中にても最も開拓後れし地方なり。本庄地方に漢族の入墾せしめられたるは高麗・成豊年間の際に屬し、移住せし漢族も當時此地方に住居せし蕃人のため屢々害を被りたり。されど往時は臺北地方より宜蘭方面に出づるには必ず此地を通過せざるべからざりしを以て、現庄役場の所在地なる坪林には早く一肆街を形成し、臺北・宜蘭間の一宿驛となりしを以て、我が領土後は宜蘭線設けられて鐵道による臺北・宜蘭間の連絡成りしを以て、現在坪林の肆街も全く昔日の面影を留めず。大正九年十月文山堡廢止せられ、同堡中の十三庄(現大字)の地を割きて坪林庄を建つ。(坪林橋)新店溪の上流なる北勢溪に架り、宜蘭道の要驛坪林庄坪林の街端に在りて坪林站の魚場たる清流に臨み、坪林庄下の一名所たり。

一ナ 平和

【平和村】千葉縣下總國匝振郡の中部。八日市場町の東隣にあり。九十九里濱沿岸平地の一部を占め、北半に水田、南半に畑地あり。農業行はれて米・麥・蠶を産し蠶繭も行はる。縣道は八日市場町と東方の海上旭町方面に通じ、八日市場町へはバスの便あり。省線總武本線は北郡を東定するも村内に驛なく、八日市場町に八日市場驛を置く。

【平和村】愛知縣尾張國中島郡の西南隅。一宮市の南西方約七軒。北は明治村、東は千代田村に接す。濃尾平野のアルメ上部にありて、村は南北に細長き矩形をなし、西部より南部へは日光川が流れ、東部にも天井川ありて割合に低地をなす。本村は砂地より成るため桑畑多く、水田は日光川によりて灌溉さる。また畑も多く、大根・蔬菜等栽培され名古屋市の供給圈内に屬す。交通は便よく、西部に

は南北に遠見街道通じ、南部にて東より津島町へ至る津島街道と交叉す。南部を社線名古屋鐵道通過し、六輪驛(明治三十二年設置)を置く。明治三十九年に六輪村・左右川村を廢し、三宅村と井長谷村の一部を以て本村を建つ。比較的新しく開發されし處にして、新聞・新聞等謂ゆる新田繁華あり、アルメの開發過程が見らる。この地は和名抄、中島郡三宅郷の地なるべし。

一ナ 閉伊

【閉伊(郡)】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

【閉伊(郡)】陸奥國の古郡名。明治以後陸奥國に屬す。續紀靈龜元年紀に陸奥國閉村とあるは本郡の前身なるべし。延暦

年中、坂上田村羅目が蝦夷を征して閉伊村に至るとあり、弘仁年間、文室總羅呂が幣伊村の賊を伐つとあるも、未だ郡名をなさず。よりに延喜式・和名抄も郡名を載せず。東鑑に閉伊郡の名初めて見ゆ。以後これに従ふ。明治十三年五月閉伊郡を分ちて東西南北中の五となし、同三十年四月、西・南閉伊郡を併せて上閉伊郡とし、東・北中の三閉伊郡を合して下閉伊郡とし以て今日に至る。

【閉伊川】岩手縣下閉伊郡にある川。北上山脈の兜神山南麓に發源して東流し、蛇曲流して川井村に至り、南方より來る小國川を右岸に入れ、茂市村にて西北方より來る刈屋川を左岸に入れ、更に東流し宮古町にて宮古灣に注ぐ。流程約九二軒。一に宮古川といひ、宮古街道河岸に沿ひて通ず。

【閉伊崎】↓重茂村(岩手縣下閉伊郡) 北部。雲出川の左岸に沿ひ久居町の西に接して北は安濃郡に界す。北部は益地をなして風早池あり(古の一志池ならんといふ)。南半は地形低平にして雲出川が南境に沿ひて東南流す。農業を生産業として米・蠶の産多く竹・熊手・タオ等の特産あり。縣道及び社線中勢鐵道が中部を東西に横斷し戸木・羽野の二驛(大正十年設置)あり、また自動車も往來し交通の便よし。戸木は和名抄、壹志郡日置郷の遺稱なるべし。天正年中、國司北畠

氏の庶流本處具庚(一に長政)築城して居り、のち國司具教を廢し織田信長の子信雄を奉じ具教の嗣とす。天正十二年信雄除封、具教は戸木城に據り抗戦せしがのち賊軍に往き織田秀信に仕ふ。

【日置村】山口縣長門國大津郡の西北海岸。深川町の西北に隣接し、東北は日本海及び深川灣に臨み、西北は油谷灣、西南は菱海村、南は依山村に接す。面積五〇・一平方軒。北部を東西に運る山脈あり、兩谷(五五七米)屹立して宇津賀村を界す。日本海岸は山脈の東端迫りて斷崖をなし、その南麓に平地展げ中央より油谷灣岸に連し耕作感なり。南部また荒蕪なる山地に蔽はる。農業を主とし米・麥・蠶を産し、漁業や行はる。省線山陰本線は東西に貫通し廣渡土驛(昭和三年設置)・長門古市驛(昭和四年設置)あり。また縣道を以て深川町及び豊浦郡栗野村へバス通ず。古くは日置郷に作り、和名抄に大津郡日置郷と見ゆ。(日置八幡宮)大字日置上に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。例祭、九月二十四・二十五日。

【碧海】愛知縣三河國の西南隅にあり、三河國十郡の一。北は西加茂郡に、東は額田郡・岡崎市に、南は幡豆郡に、西は愛知郡・知多郡に接し、衣ヶ浦に臨む。三河平野の大部を占め埴川・矢作川のデルタ地域なり。主として洗積層の地帯に

て東の矢作川、尾三國境をなす埴川の流域には沖積地も見らる。北部には逢妻川が埴川に合流して衣ヶ浦に注ぎ、中部には明治用水が洗積層地を潤し、南部の油ヶ浦は舊海灣の遺跡とす。肥沃なる三河平野には三河米を産し他に麥・大豆・落花生・甘藷を産す。謂ゆる安城ヶ原は原野にして荒蕪たりしが、明治となり用水の開鑿行はれて工産物にはガラ紡にも養蠶も盛んにして農産物にはガラ紡による木綿織物多く、瓦・陶器・煉瓦・酒も多し。水産には衣ヶ浦に行はる海苔及び淡水魚の養殖が見らるのみ。交通路は舊東海道が東南より西北にかけて通過し、矢作・知立の二宿が置かれたり。省線東海道本線はこれに並行し、安城・刈谷兩驛を置く。刈谷より南へ衣ヶ浦に沿うて社線三河鐵道通じ小垣江・吉濱・高濱港・北新川・新川町・新須磨・大濱港の諸驛を置き、刈谷より東北向へは三河鐵道母線通じて知立・三河八橋・若林・竹村の各驛を置く。本郡は和名抄に阿手美と註し、姓氏録には青海と見え、今も一にアオミと呼ぶ。而して和名抄は智立・采女・刑部・依網・鷲取・谷部・大市・碧海・檜・普見・河内・櫻井・太岡・藤野・藤家の十五郷に分ち、後世幡豆郡の大川・大濱の二郷は本郡に入り、藤野郷は加茂郡に編入さる。行政上、知立・刈谷・高濱・矢作・安城・新川・大濱の七町と九箇村に分る。

【碧海電氣鐵道】社線。愛知縣碧海・幡豆の二郡に亘る。社線名古屋鐵道今村驛(碧海郡安城町)より分岐し、更に名古屋鐵道の西尾驛(幡豆郡西尾町)に至る。全町一五軒。軌間一・〇六七米にして電車を運轉し、省線と連帯運輸をなす。

【碧城面】朝鮮咸鏡北道會寧郡の北部。會寧邑の西南に隣り、北は圖們江を隔てて滿洲國烏省和龍縣と相對す。東西八一〇軒、南北は一五軒に餘り、ほぼ西北―東南に長し。小長白山脈に屬する五峰山(一三三〇米)西南境に聳え、西境に沿うて北走し圖們江岸に迫り、南部・東部にも山嶺連るも漸次北方に向ひて低夷す。會寧川は中東部を北流して圖們江に注ぎ、その下流と圖們江に沿うて平地ひらけ農耕行はる。米・麥・豆類等の農産ある外、北部一帯は豊富な炭層を埋藏し、風儀炭礦等より良質の石炭を産し採掘す。會寧川に沿うて滿鐵北鮮西部線と會寧・元山間一等道路はば並行して走り、前者の中島驛(大正六年設置)あり、會寧驛へも近く、北部の江岸に沿うては會寧炭礦線通じて水鏡・風儀の二驛(共に昭和三年設置)あり。會寧・茂山間道路これと並走し、交通不便ならず。永綏驛に近く西村洞に土俗、宋帝の墓と傳ふる將軍塚、一名皇帝塚あり、恐らくは女眞族の家ならん。中島驛の南方約四軒、大樺山麓の中島洞に日露戰役に戦死せる勇士の忠魂碑あり。水

【碧海電氣鐵道】社線。愛知縣碧海・幡豆の二郡に亘る。社線名古屋鐵道今村驛(碧海郡安城町)より分岐し、更に名古屋鐵道の西尾驛(幡豆郡西尾町)に至る。全町一五軒。軌間一・〇六七米にして電車を運轉し、省線と連帯運輸をなす。

キス キト

綾河・中島河には定期に市場開かる。
キスイ 碧水 省線札沼線の
一驛(昭和六年設置)。北海道石狩国雨龍
郡北龍村にあり。

キチン 碧珍面

朝鮮慶尙北道星
州郡の北部。星州面の西北に接し、西北
より北へかけて金泉郡助馬面・甘川面・
慶所面に接す。南北に長く約一二軒、東
西は約七軒あり。北半は山地にして、西
北境稍高く高麗七七八八米に達するも、
東北境を隔るものは低く大狼山(三六〇
米)著はるのみ。南部、特に東南部は
百米以下の丘陵起伏し、北部山地に發源
する洛東江小支なる伊川これを灌漑し、
沿岸は低平にして稲作畑畑開く。米・
蕎麦・大豆・大麻・繭・柿等を産す。南部
に里道四通するも、交通未だ便ならず。
海平河は面邑にして此處に碧珍將軍の遺
跡あり。

キテ 碧蹄面

朝鮮京畿道
高陽郡の北部。京城府の北北西約一二軒
にあり。北は坡州郡に、東は揚州郡に接
す。地は東西に長く矩形を呈し、東西約
一三軒、南北五七軒。東北隅に高麗約
六百米の山聳え、山腹は南と西に連りて
丘陵を作り、また西半にも百一二百米の
丘陵起伏し、中部を北流する曲陵川の流
域と西部丘陵地間に耕地開く。産物は
米を第一とし、其他、蕎麦・豆類・繭等あり。
曲陵川に流うて義州街道通じパスの
便あり、交通不便ならず。主邑高陽は東

部に偏在す。ここにかの碧蹄館の古蹟及
び文廟あり。碧蹄館附近は文祿役の古戦
場にして、文祿二年、小早川隆景・立花
宗茂・浮田秀家等の連合軍が、李如松の
親率せる明軍の中堅を礮石嶺の北、碧蹄
館の南の地に擊破し、如松を萬死の窮地
に陥れたるは史上著名なるところとす。
西南隅の高峰山(二〇九米)には山城址あり。

キト 碧桃

朝鮮總督府嶺
南道全西郡の第一驛(昭和八年設置)。全
羅南道光州郡孝徳面にあり。

キド 碧瀆

朝鮮平安北道の中部。東及
び東南は楚山郡に、西と西南とは昌城郡
に接し、北は鴨綠江を距てて滿洲國安東
省寛甸縣と相對す。東西約四〇軒、南北
四〇一五〇軒、ほぼ倒三角形をなす。南
積約一二五方軒。南部に飛來峰山脈東
西に走り、南境には東より大峰山(一一
四九米)・兩嶺(七七六米)・丹楓山(一
一五九米)・雲峰・飛來峰(一四七〇米)
等連り、支脈數條北に向ひて出で、雲梯
山・盤松山等、何れも一千米以上の
山を起しつゝ漸次北方に低夷するも、鴨
綠江岸に近くなば盤松峰・東主峰・朴李
山等四一六〇米等聳え、城內繞りて平
地に乏し。かくて北境を蛇曲流する鴨綠
江、東境を同じく蛇曲して之に注ぐ忠清
江の沿岸にも低地を見るべきものなく、
其他、南部山地に發源し北流して鴨綠江

キス

に入る東川・南川・南洞川等もあるも、何
れも利用價値少し。郡の生産物總價額は
昭和十一年に於て四〇三萬餘圓にして、
工業物の一九〇萬圓を第一とし、農産物
の一三七萬圓、礦産物の四五萬圓、林産
物の三二萬圓これに次ぐも、主産業は農
業とす。耕地は一六、〇〇〇ヘクタール
に近きも、その六割強は畑にして、田は
六〇〇ヘクタールに達せず、殘餘は火田
にして、火田民はなほ約三千戸を數ふ。

キト

農産物は米(五萬石)・粟(三萬石)・大豆
(二萬石)・棉(在來棉、一五萬斤)・大麻
(五萬斤)・其他、玉蜀黍・蕎麥・蕎麥・
大豆及び各種の蔬菜あり、副業に養蠶・
養鶏・養蜂並に牛・豚の飼育何れも比較
的普及し、産高は九萬石、六萬圓あり。
工業は生絲・麻布・綿布・絹布・酒類・
履物・硝子工品・醬油・味噌・肥料・木炭
(四五萬圓)・裁縫品等を主なるものとす。
礦産は金銀・黒鉛等を主とし、金銀礦
は昭和十一年の生産額は四四萬餘圓、從
業者數は二三人に近く、吾北嶺山は著
名なり。交通は北部に義州・惠山嶺間二
等道路東西に走りて碧瀆・碧瀆の諸邑を
連れ、碧瀆より南下し東川に流うて東倉
方面に道路を敷き、何れもパスを通じ、
また鴨綠江にはプロペラー船その他の軍
行おれど、交通未だ不便なるを免れず。
本郡を碧瀆面ほか七箇面に分ち郡廳を碧
瀆面二洞に置く。本郡は昔、女眞の地な
りしが、約五百六十年前、高麗の恭愍王

これを驅逐して除穢となし、次で李朝
の太宗王二年に碧瀆郡と改め、爾來幾多
の變遷ありて今日に至る。

碧瀆面

朝鮮平安北道碧瀆郡の北部。
東・南・西は太平・鶴會・城南・松西の
各面に圍まれ、北は鴨綠江を距てて滿洲
國通化省寛甸縣と對す。東西約一三軒、
南北六一二軒。飛來峰山脈の北斜面に
て、その山脈數條何れも五五六百米の高
度で以て南より直ちに鴨綠江岸に迫
り、東境の東主峰(六二五米)、南境の朴
李山(五九六米)や著はる。河川は何れ
も南より北へ流れ、東川と南川を主なる
ものとし、南川は河口に近く合流して東
南川と稱し鴨綠江に注ぎ、此等沿岸に狭
長の低地ありて農耕行はる。域内大部分
は林野にして耕地は田約一二〇ヘクタール、
畑約一〇〇ヘクタールに過ぎず。
米・粟・玉蜀黍・大豆・棉花・大麻・繭等を出
し、養蠶・醸造やや盛んに、また西北部
に礦業行はる。西境の嶺上嶺を越え、碧
瀆邑を過ぎ同司道を経て東方楚山に通ず
る二等道路あり、碧瀆より北へ東倉・
青山場市に至る三等道路を敷き、何れも
パス通す。碧瀆邑は東南川の右岸、鴨綠
江岸に近く位し、繞らずに城壁を以てす。
郡廳・地方法院出張所・警務署保護區・
金融組合・機關組合・檢物検査所及び私
立新明學校等あり。また碧瀆市ありて穀
物・生牛・蠶物等の取引盛なり。邑の内
外には五事軒・彈琴亭・六角亭等の古蹟

キヒ

碧美面

朝鮮黄海道各山郡
のほぼ中央部。郡邑各山の北北東約一五
軒。東西に長く約二〇軒、南北六一二
軒あり。北大峰山脈南嶺の山地にて、西
境に栢山(二四〇米)、東北境に杜霧山
等、一千米以上の高峰對峙し、南境には
生旺山を始め七七八八米の山連り、餘曠
域内に入んで平地に乏し。大同江支流の
南江、中部を南より北へ貫き、東西兩山
地に發する杜霧江その他の支谷を穿れ、
沿岸に狭長なる低地ありて耕地ひらく。
ほぼ中央の文岩里附近にて南江は兩岸の
奇岩相迫りて淵をなし、紫霞潭と稱して
著はる。産物は米・蕎麦・大豆・繭・栗そ
の他蠶穀あり。谷山邑と陽徳舊邑(東陽)
とを繋ぐ二等道路中部を南北に通じパス
の便あり、文岩里附近よりは東へ杜霧江
を隔りて元山方面に出づる道路を越つも
交通未だ便ならず。

キヨ 碧養面

朝鮮江原道
通川郡の南部。通川面に南隣し、西及び
南は淮陽郡上北面・安豊面と界し、東北
は日本海に面す。東西約一八軒、南北六
一三軒ありて、やや東北・西南に長し。
大白山脈の東斜面なるを以て西部及び南
部一帯は山地をなし、雨動山(一〇九六
米)・古尹山(二九六米)等聳ゆるも、東
方に低夷し、これら山地に發する諸水は
集りて廣橋川となり、西南・東北の方向
へ流れ、通川面を経て日本海に朝し、こ

キヒ クリ

クリ ユカ 碧流河

朝鮮河會 關東州釜山市民政署管區の
東端。西は東老海會に、北は城子海會に
接し、東は碧流河の下流によりて滿洲國
安東省莊河縣に接し、南は黄海に面す。
北部に高さ三三四〇米の丘陵ある外は概
ね平坦にて海岸地區は鹽田よく發達し穀
子高鹽田地域の東部をなす。農産に豆・
玉蜀黍・高粱等あり、鹽田よりは天日製
鹽の産多し。金福鐵道の終點城子驛に近
く交通不便ならず。

クリ ユカ 碧流河

關東州の東北境をなす川。滿
洲國奉天省遼平縣東南部の山地に發し、
南流して復縣の東境を經、下流は關東州
の城子驛會・碧流河會の東境をなして黃
海に入る。流程約一〇〇軒。

クリ 平群

安房國(千葉縣)の古郡名。

續紀美老二年の條に初見。和名抄は信久
利と註し碓河・建良・石井・狹間・長門・
大里・穂田・川上・白濱の九郷及び餘戸
一を管す。給弁抄は平郡に作りヘゲと
謂じ、伊呂波字順抄は平栗に作り、里
見八代傳・一ノ一「南海道阿波國なる。
民をこへ通し給ひて、やがて安房とぞ
呼ば給ひぬ。日本書紀卷行紀に、所云流
の水門是也、安房は僅に四郡にして、平
郡といひ、長狭といひ、安房といひ、朝
夷といふ。

平群

千葉縣安房國安房郡の西北部。
岩舟町の東隣にあり。全村丘陵地にて森
林多く北に伊豫嶽(標高三七〇米)、東に
富山あり、中央を平久里川西南に流る。
川沿ひに耕地ありて米・蕎麦・繭を産し、養
鶏行はれて鶏卵の産多し。縣道は西走し
て岩井町に通じ、同町に省線房総西線岩
井驛ありてパスの便あり。又これと分れ
て南走する縣道は館山北條町方面に通じ
パスの便あり。この地は和名抄、平群郡
大里郷の地なるべし。村内の伊豫嶽の頂
上に少彦名命を祀る小祠あり。里見八代
傳・一ノ五「御富山は安房國第一の高峰に
て、伊豫嶽と伯仲す」(天神社)大字平
久里中に鎮座。郷社・祭神、菅原道真・
木花咲耶姫命。文和二年、細川相模守は
夢告に感じ、京都北野天神を勧請すと傳
ふ。領主細川・里見氏等の崇敬あり、社
領を寄す。平久里九領村の鎮守。例祭、
九月二十五日。

大和國(奈良縣)の古郡名。
天武紀に能波郡とあるは本郡の舊名。奈
良朝の初め平群と改めしものか。天平二
年の大稅帳に平群郡の名見ゆ。和名抄は
平栗に作り、信久利と謂じ、那河・能波・
平栗・夜麻・坂門・額田の六郷を管す。
ヘゲリは即ち邊國の轉化ならん。明治三
十年四月下郡と合して生駒郡を建て郡
名を失ふ。

平群

奈良縣大和國生駒郡の西部。
生駒山脈東斜面に位し、東南部は龍田町
に接し、西は山嶺を隔てて大阪府中河内
郡に界す。西境には生駒山脈が約四五〇
米前後の高度を以て連り、西南境に高安
山(四八八米)あり。山脈は東方へ緩傾斜
し、東境にも約三〇〇米の丘陵が南北に
連り、兩山地の間には龍田川が南流し沿
岸にやや低地あり。米の産多し蕎麦・繭も
あり。龍田川に沿ひて清瀬街道通じ、龍
田町・北葛城郡王寺町及び北隣の南生駒
村へパス通す。和名抄に平群郡平群郷と
あるは本村及び生駒町・南生駒村に當り
之を平群谷とも呼べり。大字標原に鎮座
の村社伊古麻山神社は式内大社にて素
戔鳴命・稻稻田姫命を奉祀、俗に龍宮と
稱す。(朝議孫子寺(信貴山)大字信貴
知にあり。古義眞言宗。信貴山歡喜院。
俗稱、孫子寺・星沙門堂・信貴山。聖徳
太子が物部守屋討伐に際し富山中に發願
し、戰勝後に佛舎を創せし給る。のち
明惠これの中興し醍醐・村上天皇の勅

平群

版所となる。永隆三年松永秀富山に築城し信貴山城と稱せしが、天正四年織田信長に攻められ寺坊は兵火に罹る。慶長七年に至り豊臣秀頼堂宇を再建し、その版所となす。徳川氏よりは世々保護をうけたるも家光・吉宗の歸依疎に厚かりき。もと富寺獨立の一山なりしが、明治維新以後、高野山に屬す。寺域は海抜千七百尺の山上にあり、谷深くして山高く樓閣懸絶として登越多し。坂路凡そ三十三町、一町毎に石標を置くも現在はタープカーに依るの便あり。本堂は最高所にありて星沙門天を安置す。寺寶中、信貴山縁起・楠正成の遺品と傳ふる兜一頭・袖一雙・喉輪一懸の武器類及び延長七年寄進施入の銘ある金銅鉢等はいづれも國寶たり。殊に信貴山縁起は全三巻、富山毘沙門天の靈驗を述べたる謂ゆる繪詞にして、繪巻物中の最傑作として甚だ著名なり。〔普門院〕大字信貴畑にあり。法相宗。貞觀年中、法隆寺遺跡の富屋なりと傳ふるも、その沿革明かならず。本尊聖觀音立像(木色)は弘仁期の作にして國寶たり。〔金勝寺〕大字地原にあり。新義真言宗登山派。壇原山。古は本堂・講堂・三重塔等その他塔頭三十六坊慈を連れて壯觀を極めし、近世衰微す。堂後に一巨石ありて佛像を彫刻す。〔千光寺〕大字鳴川にあり。眞言宗醍醐派。元上山。役小角の開創に係るといふ。小角は約三十七に及ぶまで富山中に在りて修行し、般若窟に日夜持念せしが、一日巖石中に千手觀音を得て安置すと傳ふ。現に元仁二年四月鐫の銘ある古鏡存す。〔平群〕筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡平群郷あり、信久利と訓す。その地今の早良郡金武村の邊に當る。〔平群〕日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に兒湯郡平群郷あり、その地は兒湯郡三納村の邊に當る。〔コ部子山〕一に日子岳ともいふ。讃岐山地の一峰。東側は福井縣大野郡西谷村・土庄村に、西側は今立郡下池田村・上池田村に屬す。標高一四六五米。山頂には四時雪を積む故にこの山の北面を銀南峰と呼ぶ。東嶺は銀南峰(一四四一米)なり。南嶺を眞原嶺(最高點九五八米)の山路東西に横斷す。

行し、般若窟に日夜持念せしが、一日巖石中に千手觀音を得て安置すと傳ふ。現に元仁二年四月鐫の銘ある古鏡存す。〔平群〕筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に早良郡平群郷あり、信久利と訓す。その地今の早良郡金武村の邊に當る。〔平群〕日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に兒湯郡平群郷あり、その地は兒湯郡三納村の邊に當る。〔コ部子山〕一に日子岳ともいふ。讃岐山地の一峰。東側は福井縣大野郡西谷村・土庄村に、西側は今立郡下池田村・上池田村に屬す。標高一四六五米。山頂には四時雪を積む故にこの山の北面を銀南峰と呼ぶ。東嶺は銀南峰(一四四一米)なり。南嶺を眞原嶺(最高點九五八米)の山路東西に横斷す。

〔サカ〕戸坂村 廣島縣安藝國安藝郡の北部。廣島市の東北部に外接し大田川の東岸に沿ふ。北及び西北は安佐郡に界し、東は本郡温品村に接す。面積五・八六方軒。東南部は約二〇〇米の山地をなすも河岸に傾く。附近は廣島市の郊外地をなし、市街發達し耕地拓く。農業最も盛んにして、米・麥・蕎麥・果實等を産し園を特産物とす。省線新橋線は南北に貫通し、戸坂野(大正十五年設置)あり。

〔ヘスカドール〕群島 臺灣澎湖羣島の謂にして、西曆一七世紀の初期、本島に一時依據せし和蘭人の本群島を呼びし稱なり。〔戸田〕山口縣周防國都濃郡の西南海岸。徳島灣に面し、灣水を隔てて徳山市の西部と相對す。東は福川町・夜市村、西南は佐波郡に接す。面積二〇・七五方軒。三周山を繞らし佐波郡界に大平山(六三一米)屹立す。夜市川東部を流れ沿岸僅に平地を有するほか、他の大部は山林地なり。純農村にして米・麥・蕎麥等の産物多く、林業稍行はる。海岸は出入多きも山地海に落込みて險崖をなし海岸荒蕪乏し。村民は概ね中央より東部平地に聚る。省線山陽本線は南部を貫通し戸田(夜市村地内)に近し。〔櫻田八幡宮〕大字戸田村に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・田心姫命・瀧津姫命・市井島姫命。宇佐八幡宮より勧請せるものならんといふ。永正六年降神村より今の地に奉遷す。〔戸田〕山口縣都濃郡夜市村にあり。設置。山口縣都濃郡夜市村にあり。明治三十六年、御幸村と改む。〔タ部田〕熊本縣鹿毛郡にありし村。西南郡。東は修善寺町・中野野村、北は西浦村、南は土肥町にそれぞれ接し、西は豊後國に臨む。東境には死火山遠藤山(九八二米)聳え、南境及び北境にも四五百米の山連互し、それ等は何れも西方

なるため、北川流域の住民が寛延三年に藩廳の許可を得て堰堤工事を施し、本流たる別宮川に落つる水の制水工事をなしたるものが第十堰にて、治水工事をなしたるものも第十堰にて、吉野川の増水期には河水が一時に別宮川に押寄せ、沿岸の名西・徳島・板野の諸地方に氾濫し洪水の害を被ること甚大なりしが、近年は吉野川の改修工事が完成してその患を免るに至れり。〔別山〕立山(富山縣)の一峯。白山本の南方に位置し、東側は岐阜縣大野郡白川・莊川の二村に、西側は石川縣能美郡白峰村に屬す。標高二三九九米。山體は保線層の上に噴出せる角閃富士岩及び火山灰より形成せらる。古名を小白山と云ひ、飛騨國にては四海波岳とも呼ぶ。北方は二〇〇〇米以上の遺積を以て白山本峯に續き、南方は三ノ峰・二ノ峰・一ノ峰を經て徳島灣に連る。登山は普通白山本峯より縦走して行はる。〔別山〕白山(富山縣)の一峯。白山本の南方に位置し、東側は岐阜縣大野郡白川・莊川の二村に、西側は石川縣能美郡白峰村に屬す。標高二三九九米。山體は保線層の上に噴出せる角閃富士岩及び火山灰より形成せらる。古名を小白山と云ひ、飛騨國にては四海波岳とも呼ぶ。北方は二〇〇〇米以上の遺積を以て白山本峯に續き、南方は三ノ峰・二ノ峰・一ノ峰を經て徳島灣に連る。登山は普通白山本峯より縦走して行はる。〔別山〕白山(富山縣)の一峯。白山本の南方に位置し、東側は岐阜縣大野郡白川・莊川の二村に、西側は石川縣能美郡白峰村に屬す。標高二三九九米。山體は保線層の上に噴出せる角閃富士岩及び火山灰より形成せらる。古名を小白山と云ひ、飛騨國にては四海波岳とも呼ぶ。北方は二〇〇〇米以上の遺積を以て白山本峯に續き、南方は三ノ峰・二ノ峰・一ノ峰を經て徳島灣に連る。登山は普通白山本峯より縦走して行はる。

に低下し、諸處に小從谷を作る。中央西部に一罅入ありて良港を成し、灣頭附近に低地ありて耕地及び部落發達する外は殆ど山地を成す。主産業は農にして谷地を利用して米・麥等を出し、また林産・水産等もあり。西部を伊豆半島鐵路の歩道南北に通ずるもバスの便なし。戸田港は東京灣汽船の寄港地にして沼津及び土肥港に船便あり。この地は和名抄、那賀郡井田郷の内にして、本村の大字井田はその遺稱なり。戰國の世には富永氏が地頭たり。戸田港は安政元年十一月、下田に碇泊の露國軍艦アイアナ號が海嘯のため艦底を破り、爰に來り修補せんとし再び暴風に遭ひ宮島神に没す。乗組員は悉く救助せられてここに寄寓し、材料の供給を受けて造船に着手す。露人は不完全なる器械と不熟練なる工匠により苦心修造し数月ならずして二艘を成す。これをスターネル形船と稱す。一艦は我が國に應じて建造せしもの。當時この造船を助けし我が船匠は之に依りて大艦製造の術を學び、自ら君澤形と稱する一船型を造る。君澤とはその舊郡名を取りしもの。かくて提督アーチャーソン等百餘名はその船に乗りて歸國し、その他同年二月に米國商船に乗りて歸國す。安政二年露人、下田に來り、義のスターネル形船に大砲五十二門を添へ徳川幕府に獻じ、戸田灣在中の恩を謝せり。〔郡田神社〕大字戸田に鎮座。祭神、大國主命。創立年

ヘツカイ 別海村

代詳かならずれども、延喜の制、國幣の小社に列し、伊豆國神階に「從四位上(だの明神)」と見ゆ。天正二十年の再建にして本殿・幣殿・拜殿・廡屋等あり。例祭、陰曆九月九日。〔ヘツカイ〕別海村 北海道根室國根室支庁野付郡一郡より成る。根室灣に東面し東北は野付崎に對す。北はトホロ川を以て標津村、西及び南は山脈を以て釧路國と界す。面積一三八六方軒。西境に山脈連るも高峻ならず。村内は概ね海蝕臺地に覆はれ海岸に平地存す。西別・色丹・春別等の諸川は傾斜に沿うて西部の山中より村内を東流し海に注ぐ。沿岸は低濕なる荒地多きも東南の平野には植民地餘々に開け主として農・漁業を營む。大豆・小豆・麥類・豌豆・大根・馬鈴薯及び鱒・鮭等を産す。省線標津線通じ奥行白・西別(共に昭和八年設置)・春別(昭和九年設置)の三線を置き、また省線計根別線の西春別線(昭和十一年設置)あり。根室港へは定期航路を有す。大正十二年に本村を置き、同時に根室郡を野付郡と改稱す。

ヘツギ 戸次村

〔ヘツギ〕戸次村 大分縣豊後國大分郡の東南部。大分市の東南方約六軒にあり。大野川の右岸に沿ひて南北に稍長く南は大野郡に接し、北東は北海部郡と界す。東部は一帶に約二―五百米の山地をなし、西部には低地發達し、西境に沿ひて大野川が屈曲しつつ北流す。米・麥を

ヘツク 別宮川

〔ヘツク〕別宮川 徳島縣吉野川下流に於ける本流の別名。吉野川は下流の名西郡藍畑村第十堰に於て北方に吉野川、南方に別宮川と二分分派をなす。別宮川は第十堰より川口に至る延長一七軒、左岸に板野郡、右岸に名東郡及び徳島市を分つ境界をなし、下流にては河幅一・四軒に達し津々として海に朝す。由來、吉野川本流は第十堰に於て北方に北川(現稱吉野川)を分つが、地形上、水は平時は本流(現稱別宮川)に流下して北川の水量は減少し、流域地帯の灌溉・通航に不便

ヘツン 別子鑛山

を以てこれを別子式鑛床と稱す。鑛床は片狀層理に平行に含まれ、走向の方向に一、八〇〇米以上、傾斜の方向に一、二〇〇米以上引續き、厚さ三米乃至一〇米にして世界にも有数なる大鑛床なり。鑛石は塊狀含銅黃鐵礦・塊狀黃鐵礦・鑛狀鐵(鑛狀に黃鐵礦・黃鐵礦を含む)等にして製鐵は越智郡宮原村に屬する四阪島に於て行はる(なほ電氣精冶工場・鑛山事務所等は新居濱市にあり)。昭和十年には酸化鐵礦一八一・五七二噸、硫磺九八・四五二噸、セレンニウム七・三二〇噸、丹礬六二四・五八二噸を産し、この他價額一、四九六萬餘圓、同年六月末の發見にて始め西條藩領なりしが、のち公料となり、住友某これが支配となりて同四年探採せし以來運轉として住友家の發行するところ、いま住友別子鑛山會社の名に於て經營せらる。別子山は實に富嶺山名の由つて來る所にして古へば此地に本據ありしも、明治廿七年別子山の北背に第三通洞の開通するに及び本據は角野村方面に移り行けり。今日、別子鑛山の名はあれど別子山村の人口は僅に千三四百人、之に反し角野村は一萬人を超え、また富嶺區の跡中萩村も八千數百人なり。次に明治時代富嶺山の製鐵所を置きし新居濱は當時は寧々たる一寒村なりしが、今は附近の村落を併合して三萬餘人の市となりし

は別子銀山に負ふと云ふも過言にあらざるべし。

ヘツシヨ 別所

【別所】 熊登半島、七尾灣北灣の西岸に時つ。東側は石川縣鳳凰郡穴水町、西側は鹿島郡西岸村に属す。東側の七尾灣に沿ひて省線七尾線が南北に通ず。山勢は南に延び、三ヶ口岬に至りて海に没し、七尾灣北灣と南灣とを分つ。

【別所村】 長野縣信濃國小縣郡の西部。上田市の西南方一・五軒。東南には洞窟山(二・六六六米)あり。村内には院内・大湯の硫黄泉湧出し、田澤・若掛・鹿島湯・靈泉寺等の諸温泉と共に上田南部の温泉保養地帯を形成す。中にも別所は特に近年漸く都人士の遊ぶ者多く、發展しつつあり。村内には東に女神岳(天狗岳、九二六米)、西に大神嶽(一三五六米)あり、共に火山性にして、この兩山の間にあり發する湯川の谷底並に扇状地には水田發達す。湯川は略東西に流れ、村はこの谷の兩岸の丘陵地の斜面部を悉くとし、農産と共に製糖の製造を行ふ。

社線の上田温泉電軌の別所温泉駅あり、上田市へは廿一分にて達す。温泉地は村の略中央に位置し、附近に北向觀音あり、栗原の主體をなす。別所の地名は觀音堂の領内の謂なりと云はる。温泉は湯川の渓流に臨みその右岸に湧出す。旅館の内湯のほか石湯・大師湯・大湯があり、石湯は自然の岩石を割りて蓄積とせる原始的の温泉なり。泉質は何れも無色透明の硫化水素泉にて温度は四一—四三度。皮膚病・リウマチス・神經痛・婦人病に效能あり。この温泉は日本武尊御東征の折御來宿あり、七箇所温泉を聞かれ、七箇所と命名せられしに始ると傳ふ。附近には安樂寺の八角四重塔、北向觀音堂、常樂寺・平橋茂家・愛宕山遊園等があり、峠道に香掛・田澤の二温泉にも行かる。此地は中世は鹽田庄に属し、鎌倉執權の時、北條義時の三男重時の子、陸奥守義政これが地頭たり。(安樂寺)曹洞宗。行基が壇場を建立して薬師を祭り、のち平維茂が戸隠山の兎賦退治を祈りて諸堂を建立す。八角四重塔(室町期)・惟仙和尚坐像(木造、胎内に嘉曆四年七月造の銘あり)一軀、惠仁和尙坐像(同、胎内に嘉曆四年九月造の銘あり)一軀は何れも國寶。別稱、別所觀音、北向觀音。

【別所村】 兵庫縣播磨國美祿郡の西端。三木町の西に隣り、西及び西南は加古郡と界し、東南は明石郡に接す。北境に低き丘陵連り、中部及び南部は臺地をなして針葉樹多く、北部に廣く低地が東西に延びて隣村に連り、加古川の支流は丘陵の麓を西流す。田畑よく拓けて農産物多く米・麥類・粟類・蕪菜・花卉・果實等を産し、なほ雜糧・製糖品・木製品等あり。縣道は中央を東西に走るもの、東部を南北に連るものあり。また社線播磨鐵道は低地を横断して別所・石野の二驛(大正五年設置)あり。この地は和名抄、美祿郡高野郷の内なるべし。

【別所村】 兵庫縣播磨國印南郡の西部。西は飾磨郡と界し姫路市の東方二・五軒にあり。北部より東部にかけては丘陵をなし西南隅にも一六七米の山あり、中央は平坦なる平野にして天川は西南部を買きて東南流し南方約三軒にて播磨灘に入る。米・麥類・蕪菜・花卉・粟類・食用農産・果實・雜糧・製糖品・双物等を産す。中部には山陽道通じ自動車の往來頻繁にして、これに並走する省線山陽本線の曾根驛(東隣の阿彌陀村)に出づるに便なり。此地は和名抄、印南郡佐治郷に大字佐土は郷名の遺稱。中世に赤松氏の族この地に別所氏を稱す。佐治

ヘツト 別東面

【別東面】 朝鮮咸鏡南道三水郡の東端。郡邑仲坪場の東北約一〇軒。西を除く三面は甲山郡に圍まれ、北は同郡惠山邑に接す。東西・南北各約一五軒の不规则なる方形をなす。四邊は山に圍まれ、中央南側には雲柱峰(一五八六米)屹然として雲山山脈南東に連りて臺地地形を呈するも、北部と西南部とは比較的低し。盧川江は南より來り南境の在德嶺西麓にて曲流し、次で中西部を北流し、東北方より來る雲龍川を容れ惠山邑に入り、沿岸線に低地開く。耕地は新谷また山腹の山間に依り、蕪菜・粟・蕎麥・大麻及び若干の米を出し、牧畜・養蜂行はる。義州・惠山嶺間の二等道路は中央を、惠山嶺・甲山間二等道路は東北部を通じ、前者は楠木里より郡

ヘツトガ 別當

省線根室本線の一路(大正九年設置)。北海道根室國根室支廳根室郡和田村にあり。

ヘツナイ 別内面

朝鮮京畿道楊州郡の中部。議政府の東南約五軒、京城府の東北約八軒にあり。東西五軒、南北一二軒の矩形をなす。東北境に蘇利峯(五三七米)聳え山腹南走して面界を限り、西境には水落山(六三八米)・佛岩山等連り、餘脈は城内に繞りて平地に乏しく、總に中部以南を流るる漢江支流の玉宿川と、西北部に源流する漢川との流域に耕地を見る。米・麥・豆類・蕪等を産す。城内に幹線道路の通ずるなく、交通は不便なり。面の東北部、接面及び抱川郡蘇屹面につづく蘇利峰の山中は光陵キマキキ棲息地として著はれ、この鳥は天然記念物に指定せらる。

ヘツフ 別府

【別府村】 埼玉縣武蔵國大里郡の中部。熊谷市の西北方約五軒にある小村なり。全村平地にて水田多く、米を主産し、他に麥・蕪を産す。縣道は西部を南走し西隣の播磨村にて中山道に合す。また南隣の玉井村には省線高崎線原野ありて自動車あり。この地は和名抄、播磨郡那珂郷の内なり。大字東別府の中央に古城址あり、これ別府次郎行隆、長子龍行より代々傳へたる居館にして、大字西別府は

行隆の次男、行動の所領たり。別府小太郎清重の名は平家物語・源平盛衰記等に見ゆ、これ一族なり。

【別府市】 山口縣長門國美祿郡の北部。伊佐町の東北に接し、北は天津郡深川町と界し、南は秋吉村に、東は共和村に、西は面積二六・五方軒、地形は南北に長く伸び、村内概ね荒蕪なる山地にて占めらる。北境に花尾山(六七〇米)聳え、その南麓に小平地ありて耕作行はる。その南部はまた山地にて東南部は秋吉臺の一部に屬し扇状のカルスト地形なり。農業を以て生業となし米・麥・蕪等を産す。縣道は東西に貫通し共和村・於福村にバスの便あり。古くは和名抄、美祿郡賀萬郷に屬す。(壬生神社)大字堅田に鎮座。郷社。祭神、高靈神・神功皇后・仁德天皇。文德實錄に仁壽元年壬生等四神に從五位下を授くと見ゆる壬生が當社なりと傳ふ。後柏原天皇の御宸筆にて足利義隆の寄進と傳ふる扁額一面を藏す。例祭、九月二十七日・二十八日。

【別府市】 大分縣の温泉都市。東は別府灣に臨む。西部に雨乞岳(一〇七四米)・城ヶ岳(一六八米)・鶴見岳(一三七五米)等の高山連立し市街は概して東南邊に形成せらる。而して本市は世界有数の山岳都市にして二〇〇米以下の低地は僅に四分の一、五〇〇米以上の山岳地は實に四八%を占む。總面積は一〇一方軒、六大都市に比しても神戸よりは一九方軒

廣く、大分市に比して約五倍、中津市の約六、五倍に當る。人口は六二、三四六(昭和十年度)にして大分市を凌ぎて縣下第一位たり、されど人口密度は六一七人にして市としては少し。斯の如き現時の盛況を以て明治廿二年町村制施行當時の人口三千五百を擬返り見るに如何に驚異的發展を遂げしかを知る。斯く急進なる發展を遂げし一大動因とも見るべきものは温泉地として泉量の豊富なることによると云ふを得べし。一晝夜の湧出量は實に二十五萬石(一人當四石餘、全國温泉湧出量の約一六%)に達し、この豊富なる温泉は共同温泉・旅館内湯は勿論、舊市域の家庭・別荘等に於てすら約五百の湧出口をもち、全體の温泉孔は實に二、二四九に達し(昭和十一年一月)、停車場の洗面所、理髮店の用水、家庭の洗濯にまで使用せらる。従つて浴用温泉も取に浴槽に満しおく外、湯灌・蒸氣・砂湯等幾多異なる用法見らる。このほか餘剰温泉は近時生産的方面に利用され、温泉・浴室に引きつて花卉・蕪菜の栽培に、鶏卵の孵化に、湯ノ花の製造に、飼の糞尿に實に多角的に利用せらる。一方、産業方面を見るに、一箇年百二十萬餘の遊覽保養客を迎ふる別府は純粹の消費都市にして大分・中津の經濟都市とは趣を異にす。農産としての米・麥等あるも特筆すべきは高等蕪菜・花卉の栽培なり。殊に最近これ等の事業に温泉が利用せられ、促成

栽培は著しく増進せしを以て温泉地帯に於ける農業は新分野を開拓しつつあり。また工場工業は煤煙と騒音の關係上、保養都市には禁物なるため大規模な工場は却場以外に一本も見ざるを得ず。よつて工業は全く家内工業にて全人口の約一四%を占む。そのうち特に土産物製造としての竹木製品・菓子類は戸數に於て八二%、職工数は八一%を占む。生産額に於ても約七八%を占め別府の工業を代表す。また一部農業地帯に於ては蕪菜の製造行はれ年生産約二萬枚あり。これは同東半島製糖地帯の南限をなすものとす。昭和九年度の重なる工業を舉ぐれば左の如し。

品名	製造戸數	職工數	生産額
竹製品	1,110	1,110	110,000
菓子類	1,110	1,110	110,000
木製品	1,110	1,110	110,000
其他	1,110	1,110	110,000
計	4,440	4,440	440,000

上述の如く土産品の製造盛んなるもなほ較・タオル・人形・針などは大阪・名古屋・四國・博多・廣島等より移入せらるるもの多し。また食料品・化粧品・被服類其他移入の多き事は別府の特徴にて、次表は別府の消費都市なることを物語る好例とす。なほ明礬温泉に於ける湯ノ花の製造と、魚川奥地(湯山)に於ける硫酸白土の採掘は温泉と密接なる關係を持つ



昭和八年別府港移出入額
移出 九、一五五、〇〇〇
移入 八、九六〇、〇〇〇
同年別府港貨物發送到着數
發 六、六五五、〇〇〇
到 三、八五五、〇〇〇

特殊なる生産業として注目すべきものなり。湯ノ花は約二十餘棟の小屋によりて年二十萬圓の生産あり、主に浴用として大阪・神戸方面にその五割、東京・京都に各一割餘、其他は別府の土産品として出荷す。この製造はさして努力を要せざるため殆ど副業として行はる。硫酸白土は温泉の作用をうけて珪石八五%を含み、セメント原料として極めて重要な地位を占め、大阪産業セメント株式會社の手によりて一日約百噸の採掘行はれ、船にて大阪木津川尻の本工場に送らる。交通は先づ陸上は省線日豊本線が市の東部を南北に走り、別府・東別府・魚川の三驛（共に明治四十四年設置）を置き、大分市との間には社線別府大分電線ありて數驛を置く。海運は明治八年頃より大阪・別府間に開かれ、其後、幾多の汽船會社の競争によりて漸次發達し、昭和二年十一月以來は郵便と郵便の一日二回發着となれり。なほ別府港は開港場ならざるも宮島と共に外國船の入港設備を許され國際的觀光地として指定せらる。空運は昭和

累年人口統計

明治三年	三、〇〇〇	大正九年	三、六五七
同 五年	三、〇〇〇	同 十一年	三、七六三
同 七年	三、〇〇〇	同 十三年	三、八七〇
同 九年	三、〇〇〇	同 十五年	三、九七七
同 十一年	三、〇〇〇	同 十七年	四、〇八四
同 十三年	三、〇〇〇	同 十九年	四、一九一
同 十五年	三、〇〇〇	同 二十一年	四、二九八
同 十七年	三、〇〇〇	同 二十三年	四、四〇五
同 十九年	三、〇〇〇	同 二十五年	四、五一二
同 二十一年	三、〇〇〇	同 二十七年	四、六一九
同 二十三年	三、〇〇〇	同 二十九年	四、七二六
同 二十五年	三、〇〇〇	同 三十一年	四、八三三
同 二十七年	三、〇〇〇	同 三十三年	四、九四〇
同 二十九年	三、〇〇〇	同 三十五年	五、〇四七
同 三十一年	三、〇〇〇	同 三十七年	五、一五四
同 三十三年	三、〇〇〇	同 三十九年	五、二六一
同 三十五年	三、〇〇〇	同 四十一年	五、三六八
同 三十七年	三、〇〇〇	同 四十三年	五、四七五
同 三十九年	三、〇〇〇	同 四十五年	五、五八二
同 四十一年	三、〇〇〇	同 四十七年	五、六八九
同 四十三年	三、〇〇〇	同 四十九年	五、七九六
同 四十五年	三、〇〇〇	同 五十一年	五、九〇三
同 四十七年	三、〇〇〇	同 五十三年	六、〇一〇
同 四十九年	三、〇〇〇	同 五十五年	六、一一七
同 五十一年	三、〇〇〇	同 五十七年	六、二二四
同 五十三年	三、〇〇〇	同 五十九年	六、三三一
同 五十五年	三、〇〇〇	同 六十一年	六、四三九
同 五十七年	三、〇〇〇	同 六十三年	六、五四六
同 五十九年	三、〇〇〇	同 六十五年	六、六五三
同 六十一年	三、〇〇〇	同 六十七年	六、七六〇
同 六十三年	三、〇〇〇	同 六十九年	六、八六七
同 六十五年	三、〇〇〇	同 七十一年	六、九七四
同 六十七年	三、〇〇〇	同 七十二年	七、〇八一
同 六十九年	三、〇〇〇	同 七十四年	七、一八八
同 七十一年	三、〇〇〇	同 七十六年	七、二九五
同 七十二年	三、〇〇〇	同 七十八年	七、三〇二
同 七十四年	三、〇〇〇	同 八十年	七、三四九
同 七十六年	三、〇〇〇	同 八十二年	七、四五六
同 七十八年	三、〇〇〇	同 八十四年	七、五六三
同 八十年	三、〇〇〇	同 八十六年	七、六七〇
同 八十二年	三、〇〇〇	同 八十八年	七、七七七
同 八十四年	三、〇〇〇	同 九十年	七、八八四
同 八十六年	三、〇〇〇	同 九十二年	七、九九一
同 八十八年	三、〇〇〇	同 九十四年	八、〇九八
同 九十年	三、〇〇〇	同 九十六年	八、二〇五
同 九十二年	三、〇〇〇	同 九十八年	八、三一二
同 九十四年	三、〇〇〇	同 一百零年	八、四一九

十年以來大阪・松山間の航路が毎週一週別府まで延長せらるる事となり、爾來旅客發達・遊覽飛行に當れり。「沿革」古くは和名抄遠見郡遠見郷の内に、中世は石垣庄に屬し宇佐宮領たり。別府なる名稱は田制の名目に出でしものにして、國府の別館、または郡家の別邑などと解くは誤りなり。此地の名は古くより知られ、伊豫風土記・有馬風土記等に大己貴命・少彦名命の二神がこの温泉に浴し給ひ、その靈效を衆庶に説かれし事を載す。また神武天皇御東征の時、珍彦なる者が舟を出して帝を迎へ、帝はこの温泉に浴し給ふと傳へらる。降つて元祿七年の貝原益軒紀行に、當時より百二十年前に大地震ありて古への別府村は悉く海底となり、當時の別府村はその數町西に當るものなる由を載す。而して同書に民家百軒と見ゆれば當時は相當繁盛せしもの如し。明治廿九年に濱藤町と合併して新たに別府町を建て、大正十三年は市制を布く。昭和十年に至り石垣村・朝日村及び魚川町を編入し大別府市を建設したり。

「別府温泉」市内には別府市・觀海寺・觀瀾・堀田・明礬・榮石・魚川・新別府・山布院・塚原等の諸温泉あるほか海に山に丘に野に隨所に湧出して湯の池・湯の澗・湯の川・湯の海をなし、宛然温泉王國の觀を呈す。多くの温泉地が一種または二、三種の泉質を有するに對しこの温泉は數種の泉質を有す。殊に最も多きは炭酸泉にして不老泉・補湯泉・田ノ湯温泉・壽温泉等何れもこれなり。其他、炭酸に鹽類を含みし鹽湖泉・濱船温泉・竹瓦温泉・海岸砂湯あり、鐵輪には鹽類性硫黄泉・炭酸性硫黄泉・含鐵酸性泉があり、明礬には硫黄酸性泉・含鐵硫黄泉、榮石には含鐵鹽類泉、魚川には鹽類泉、新別府には酸性泉、觀海寺には炭酸性鹽類泉、堀田には硫黄酸性炭酸泉、塚原には硫黄酸性泉等その殆ど總てが泉質を異にす。著名温泉十五箇所の醫治效用表を綜合するに實に六十餘種の病氣に適應し、殆ど萬病を癒すもの如し。殊に干潮時海岸に行はるる砂湯の天然浴場もこの地の誇りの一にて捷橋の北側と北濱海岸に設けらる。「地獄」地獄とは地下より絶えず熱湯・熱池・熱氣を噴出す場所をいふ。八幡地獄・鶴見地獄・海地獄・坊主地獄・船屋地獄・かまど地獄・血の池地獄等何れもこれにしてその凄慘奇詭の光景は思はず餘若たるものあり。殊に最も大なるものは海地獄にして廣さ二六四方米の碧綠高熱の湯池と、小壺を隔てて三三アールの澄

以て海門寺と號せしといふ。中興開山は曹洞、再中興を玉潤とす。「實相寺」鶴見にあり。曹洞宗。寶泉山と號す。然哉禪師の草創にかゝる。茂林秀峯禪師を開山とす。中興開山は乾月和尚なり。本尊釋迦如來を安す。「曹源寺」北石垣に在り。臨濟宗妙心寺派。長江山と號す。天元元年に開創せられ、開基は吉富山城守道貞、開山は石垣寺二世一念和尚なり。初め久光山道泉寺と稱し天台宗に屬せしが、慶安元年に大友氏の臣吉富嘉兵衛附道忠これを再建し、府内の萬壽寺三世乾兒禪師を中興開山として現宗に改む。即ち道忠を中興開基とす。本尊に釋迦如來並に文殊・普賢兩菩薩を安す。「寶泉寺」南石垣にあり。臨濟宗妙心寺派。石雲太平山と號す。承安三年の開創にして、初め石雲山寶泉寺と號し阿彌陀如來を本尊として天台宗に屬せしが、至徳二年に領主大友親泰これを再興し、大分郡府内の大智寺の開山なる獨芳禪師を開山とす。應永七年に太平山寶泉寺と改め現宗に轉す。本尊に釋迦如來を安す。

頭に於ては四十尋近くになり、一般的湖底地形と相異す。湖の北部に守江港、南西部に大分港・別府港あり。其他の海岸は絶壁をなす部分多し。湖内よりは鰻・鱒・鯉・鰻・鰻等の漁獲物あり、沿岸にては煮乾鰻・乾鰻・乾鰻等を製造す。

「別保」別保 北海道釧路國支釧路郡の釧路村と昆布森林とに跨り、面積約八十九萬畝。昭和十年には地畝四三、八五二〇九畝、粗粟一、三九九一畝（此地債額六萬餘圓）を出し、同年六月末の總夫數二九九人、現に重要嶺山に屬し太平洋炭礦會社の經營とす。

「別保村」大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川河口近くの左岸に沿ひ、東北は川を隔てて鶴崎町に對す。面積三・七八方畝。西部はやや丘陵をなすも、他は地形平坦にして東境に沿ひて大野川北流す。耕地多く拓け米・麥を産す。省線日豊本線鶴崎驛へは東北一軒足らず。この地は和名抄、大分郡武藏郡の地なるべく、近世は高田郷に屬し細川家領たり。天正年中には鶴崎の城主吉岡氏所領高田三百町と稱せられし地。「專想寺」大字森町にあり。眞宗本願寺派。文明八年、曾天然の開創に係る。天然は後に本願寺蓮如に歸しその弟子となりて名を淨祐と改め、遠く西國・中國に教化を布きしより、遂にその末寺に歸するもの、周防・長門兩

國に百七十餘箇寺、豊前・豊後並に肥後に百四十四箇寺、其他若干箇寺を有するに至れりといふ。

「ヘツヤマ」別山 新潟縣刈羽郡内郷村の大字。刈羽郡の北東限をなして分水嶺たり。鰻石川の支流なる別山川は此處に源を發して南流す。此地に別山嶺山あり。嶺區は此地と三島郡西郷村とに跨りて約四十萬坪、石油山にして重要嶺山に列す。地質は凝灰質頁岩にて薄き中粒砂岩を夾む。油層は凡そ一〇七〇—一、二八〇米なり。中野興業會社の經營にて昭和十年には原油三、〇〇四坪、瓦斯一、一二五、七八五立方米、粗製揮發油六七五坪（此地債額二〇萬餘圓）を出す。當嶺山地方は謂ゆる西山油田地帯にして、東方約四軒の地點に於ては日本石油會社が先に敷坑を掘鑿して成功したり。而して此地は、その同一油帯の範圍なるべしとの鑑定のもとに、全山に何等露頭を現すことなきにも拘らず、大正九年試掘して成功したるものなり。

「ヘツリヨ」別良面 朝鮮全羅南道順天郡の南部。順天邑の南約五軒。南方一帯は汝自灣に臨み、西南は寶城郡茂橋邑に隣る。東西約一軒、南北約七軒。西境に五峰山（五九一米）・帝釋山（五六三米）聳え、西半部は山岳重疊すれど、東半部は比較的低く、尖山（二九八米）・烽火山（二三六米）等の尖峰あるも、此等丘陵の間と海濱とに平地ありて田畑拓く。

「ヘノマツ」軸松 大阪府東北部にありし村。大正十四年堺市に編入す。

「ハル」邊春村 福岡縣筑後國八女郡の西南部。福島町の西南方約五軒にあり。南及び東南は熊本縣玉名郡及び熊本郡と界す。周囲は約四五〇米以下の山脈によりて圍まれ西境の中央に宮形山（四五〇米）あり。東南隅に發する矢部川の支流は中央を北流し先友村に出でて西北方約四軒にて本流に合す。沿岸に僅に低地ありて耕地開け、聚落發達す。米麥の産あり。國道は河谷に沿ひて村を貫き、福島町及び東南方の熊本郡山鹿町へバスを通す。天正三年、龍造寺隆信、軍を起してこの地の戸原親連が戸原城を圍む、同九年、鍋島信生また戸原を攻め、親連は散れて走り、城陷る。

ヘヒタ 蛇田村 宮城縣陸前國田郡の西北部。東南と南は石巻市、北と西は桃生郡に接す。陸前平野の東南部なる大谷地帯に属し全村概ね平坦。北上川は東北境を東南に流る。米・麦・蕎麦・粟・馬等を産す。道路は村の中部を西北より東南に通ず。社線宮城電線蛇田驛(昭和三年設置)を置く。(彌昌寺)山下にあり。臨濟宗妙心寺派。桂林山。萬治二年に雲居國師の開山、瑞巖寺末たり。田邊將軍の墓あるを以て名高し。

別府

【別府町】兵庫縣播磨國加古郡の西南部。播磨海に面し海岸は平に西へ行けば一軒餘にて加古川河口の高砂町地域に到る。全村地形低平にして海岸は小嶺地をなす。松の名所にして木高く樹深きまきは方なく美し。米・麦類・食用農産物・蔬菜・花卉・鶏卵等のほか紙の産額多く。海産品・皮革製品・木製品等も出し、海濱は水産盛にして漁獲物多く水産製造物もあり。殊に鮎は古來美味を以て知らる。近時、多木製肥料の人名高し。縣道は海岸近く走り、社線山陽電氣鐵道線は市部を通過して別府北口驛(大正十二年設置)あり。また東部には社線別府郵便鐵道ありて別府港驛(大正十年設置)あり。昭和三年町制を布く。もとの阿閉莊一本の別府と稱せり。【別府郵便鐵道】社線。兵庫縣加古郡にあり。社線播磨丹波道の野口驛より別府驛

驛(別府町)に至る一四軒と、省線山陽本線土山驛より別府港驛に至る四軒との二線あり。軌間は一・〇六七米にして、蒸氣・ガソリンを併用し省線と連帯運輸をなす。

【別府村】高知縣土佐國高岡郡の西北隅。仁淀川の右岸に沿ひ越知町の西に接し、北は吾川郡と界し、西は愛媛縣上浮穴郡に隣る。長さ約二〇軒、幅約四軒にして東北より西南に細長し。全村山岳重疊して高峻なり。總じて南境に高く北部に低下す。南境西側は鳥形山(一四六〇米)聳えその北に三方山(一四七米)あり。北境に沿ひて仁淀川は屈曲しつつ東流し、中央に一支流あり村を貫きて北流し本川に合す。蕎麦・米・林産・工業・水産あり。山地にては三稜の栽培盛なり。特産には山葵あり。中央の河川に沿ひて縣道が南北に通ずれども交通は未だ不便なり。昔、藤原純友、伊豫に於て反旗を翻したる時、此地に別府氏なる者ありてこれに應じたるため誅せらる。蓋し村名は別府氏に出でしものか。本村と越知町、大洞村に跨る横倉山は安徳帝御陵傳説地たり。(五所神社)大字川波に鎮座。郷社。祭神、大山積神・笠山積神外三社。例祭、一月九日・七月七日。(春日神社)大字別枝に鎮座。郷社。舊稱、春日大明神。主祭神、天兒屋根命・天兒奉命外二社。相殿、竹葉推命。例祭、八月二日・十二月十九日。

ヘヒツ 邊別 北海道上川支廳石狩國上川郡神樂村の大字。省線富良野線の邊別驛(明治三十二年設置)あり。

逸見

【逸見】神奈川縣横須賀市の町名。省線横須賀線の横須賀驛(明治二十二年設置)及び社線湘南電氣鐵道の逸見驛(昭和五年設置)を置く。この地は英人にして徳川家康に仕へ領地を三浦郡に得、よりて日本名を三浦按針と稱したるウヰリアム・アダムスの居りし所。いま丘上に安針塚と稱する按針夫妻の塔あり。

速見

【速見】山梨國(山梨縣)の古地名。和名抄に互摩郡速見郷と見え、俗見と訓す。その地は今の北巨摩郡の八ヶ岳の南麓に當る。中世、當郡に逸見莊あり、蓋しこの地に於て逸見は遠見を誤りしものなるべし。新羅三郎義光の三子義清、那を得て甲斐に來り武田氏の祖となる。その子清光此地に居り逸見太郎と稱す。

部屋村

【部屋村】栃木縣下野國下都賀郡の西南部。藤岡町の東北隅にあり。巴波川は東境を南流し、村の南半は石川沼その他の沼澤ありて低潤なり。北半の平地には農業行はれ水稲・雑穀・大豆・小麦・豆類・甘藷・蔬菜類を産し、養蠶も行はる。特産物に茅・藁・葎等あり。縣道は藤岡町、北方の栃木市・間及び東方の間々田町に通じ、栃木市・間々田町に接する高砂族の部落。戸数三八、人口一九四(昭和十一年調査)。

社

社 臺灣臺中州郡高郡にある郷社。合歡山より西北方に走る稜線上三〇六五米の無名山の西方、北瀨溪左岸山腹(一五一五米)の地に位し、殆ど急斜面をなす。約二百年前、同郡カムウヤウ社より原社の人口増加土地狹隘なるを以て分遷移住し率り社を形成し現在に至る。性情強にして明治四十二年より毎年の齋戒を受けたもなほ頑強に反抗せるを以て四十五年猛烈なる砲撃を受け、爲に勢力漸く衰き、銃器を提出し歸郷せり。マイヤル族のマレツパ蕃に屬する高砂族の部落。戸数三八、人口一九四(昭和十一年調査)。

戸波村

【戸波村】高知縣土佐國高岡郡の東部。須崎町の東北約五軒にあり。南は浦ノ内村に接し、約二軒南方に到れば浦ノ内湖に出づ。南境には三〇〇米程度の丘陵が連りて村界をなし、西境には虚空藏山(六七五米)ありてこれより東北方へ延ぶる連嶺は北境を隔る。各山麓は中央に稍狭り平地は東部に發達す。西境に發する仁淀川の一支流は中央を流れて東に向ふ。米・麦を産するも發達感にして藪の産額著し。其他に生薑・生絲・昔酒等を産し、また栗・豌豆等の物産頗る多し。中央を縣道横断して東部にて二條に分岐す、共にパスの便よし。この地は和名抄、高岡郡高岡郷の内にして、中世は高岡庄と稱せし地。(戸波城)宇岩戸にあり、井場城・伊乃甫木城・惠良城な

あり。この地は和名抄、寒川郡池邊郷の内なるべし。阿曾沼系國に足利大夫成行の孫、有綱は戸矢七郎と稱せりと見え、源平盛衰記に戸屋又七郎の名見ゆ、これ同人なるべく、而して此地に在名を稱せしものか。

平良村

【平良村】廣島縣安藝國佐伯郡の中央海岸。東方の一部は廣島灣に面し、廿日市町の西方に連る。面積七・三三万軒。東南部は河岸平野に占めらるるも西方に漸高す。海岸平野及び中央山間低地に耕作地拓げ、西部山地に木材及び炭を産す。米・麦・蕎麦・酒類及び曲木樽子・コルク製品の特産あり。省線山陽本線廿日市驛(明治卅一年設置)は宇後田にあり、交通便なり。もと平良莊と云ひ嚴島神社の社領たり。(逸谷神社)大字上平良に鎮座。國幣中社。祭神、遠谷神。創祀年代詳かならざるも、弘仁二年、名神の列に振して四時の奉幣にあづからしめ、貞觀元年、從四位下を、同九年從四位上を授けられ、次で延喜の制、官幣の大社名神に列し、新年のほか、月次・新嘗の幣にあづかる。天慶三年、正四位下に昇せらる。後に本國の二宮、遠田大明神と稱せらる。古來、嚴島神社と相並べる名詞にして朝廷の殊遇あり以外に、戰國時代に於ては、大内・毛利氏の崇事あり、江戸時代に入るや、藩主淺野氏相ついで崇敬したり。大正十三年、郷社より國幣中社に昇格す。例祭十月十二日。

戸來

【戸來村】青森縣陸奥國三戸郡の西北部。五戸町の西南約一七軒。北・西は上北郡、西南は秋田縣に接す。面積一・一六・六万軒。西境に戸來岳聳えて東方に傾斜し、北部には大黒森(五五六米)聳ゆ。五戸川の上流は村の西部に發源し、北部及び南部を各東流し東部に於て合し、なほ東に向ふ。沿岸に耕地拓く。村内は山地多く山林・牧場原野等の面積廣し。米・麦・蕎麦・馬鈴薯等の農産物及び木炭・馬等を産す。省線東北本線の三戸驛へは東南約一四軒。一般に交通便ならず。人口密度は一方軒につき三一人なり。(三根神社)大字戸木に鎮座。郷社。祭神倉稻魂命。永享元年の創祀と傳ふ。例祭、八月二十七日。

奥羽火山帯の一峯

【戸來岳】奥羽火山帯の一峯。十和田湖の東方、青森縣三戸郡戸來村と上北郡十和田村との境に峙つ。標高一五九米、山體は火山岩より成る。南麓にアツキ坂の山路を乗越す。

平良崎村

【平良崎村】青森縣陸奥國三戸郡の中部。三戸町の東北方約五・五軒。北境には高山(一七二米)聳えて南方に傾斜し、南方に名久井岳(六一五米)峙ち、村はその北麓をなす。馬淵川は村の中部を西南より東北に流れ、沿岸に耕地拓く。古來蕎麦圃を業とし牛蒡・胡蘿蔔の名産地なりしも近來は苹果の産地となる。陸前街道は西部を南北に通じ、

ヘライ

【別府町】兵庫縣播磨國加古郡の西南部。播磨海に面し海岸は平に西へ行けば一軒餘にて加古川河口の高砂町地域に到る。全村地形低平にして海岸は小嶺地をなす。松の名所にして木高く樹深きまきは方なく美し。米・麦類・食用農産物・蔬菜・花卉・鶏卵等のほか紙の産額多く。海産品・皮革製品・木製品等も出し、海濱は水産盛にして漁獲物多く水産製造物もあり。殊に鮎は古來美味を以て知らる。近時、多木製肥料の人名高し。縣道は海岸近く走り、社線山陽電氣鐵道線は市部を通過して別府北口驛(大正十二年設置)あり。また東部には社線別府郵便鐵道ありて別府港驛(大正十年設置)あり。昭和三年町制を布く。もとの阿閉莊一本の別府と稱せり。【別府郵便鐵道】社線。兵庫縣加古郡にあり。社線播磨丹波道の野口驛より別府驛

別府

驛(別府町)に至る一四軒と、省線山陽本線土山驛より別府港驛に至る四軒との二線あり。軌間は一・〇六七米にして、蒸氣・ガソリンを併用し省線と連帯運輸をなす。

ヘヒタ

【別府町】兵庫縣播磨國加古郡の西南部。播磨海に面し海岸は平に西へ行けば一軒餘にて加古川河口の高砂町地域に到る。全村地形低平にして海岸は小嶺地をなす。松の名所にして木高く樹深きまきは方なく美し。米・麦類・食用農産物・蔬菜・花卉・鶏卵等のほか紙の産額多く。海産品・皮革製品・木製品等も出し、海濱は水産盛にして漁獲物多く水産製造物もあり。殊に鮎は古來美味を以て知らる。近時、多木製肥料の人名高し。縣道は海岸近く走り、社線山陽電氣鐵道線は市部を通過して別府北口驛(大正十二年設置)あり。また東部には社線別府郵便鐵道ありて別府港驛(大正十年設置)あり。昭和三年町制を布く。もとの阿閉莊一本の別府と稱せり。【別府郵便鐵道】社線。兵庫縣加古郡にあり。社線播磨丹波道の野口驛より別府驛

ヘヒツ

【部屋村】栃木縣下野國下都賀郡の西南部。藤岡町の東北隅にあり。巴波川は東境を南流し、村の南半は石川沼その他の沼澤ありて低潤なり。北半の平地には農業行はれ水稲・雑穀・大豆・小麦・豆類・甘藷・蔬菜類を産し、養蠶も行はる。特産物に茅・藁・葎等あり。縣道は藤岡町、北方の栃木市・間及び東方の間々田町に通じ、栃木市・間々田町に接する高砂族の部落。戸数三八、人口一九四(昭和十一年調査)。

ヘヒツ

【平良村】廣島縣安藝國佐伯郡の中央海岸。東方の一部は廣島灣に面し、廿日市町の西方に連る。面積七・三三万軒。東南部は河岸平野に占めらるるも西方に漸高す。海岸平野及び中央山間低地に耕作地拓げ、西部山地に木材及び炭を産す。米・麦・蕎麦・酒類及び曲木樽子・コルク製品の特産あり。省線山陽本線廿日市驛(明治卅一年設置)は宇後田にあり、交通便なり。もと平良莊と云ひ嚴島神社の社領たり。(逸谷神社)大字上平良に鎮座。國幣中社。祭神、遠谷神。創祀年代詳かならざるも、弘仁二年、名神の列に振して四時の奉幣にあづからしめ、貞觀元年、從四位下を、同九年從四位上を授けられ、次で延喜の制、官幣の大社名神に列し、新年のほか、月次・新嘗の幣にあづかる。天慶三年、正四位下に昇せらる。後に本國の二宮、遠田大明神と稱せらる。古來、嚴島神社と相並べる名詞にして朝廷の殊遇あり以外に、戰國時代に於ては、大内・毛利氏の崇事あり、江戸時代に入るや、藩主淺野氏相ついで崇敬したり。大正十三年、郷社より國幣中社に昇格す。例祭十月十二日。

【平良村】廣島縣安藝國佐伯郡の中央海岸。東方の一部は廣島灣に面し、廿日市町の西方に連る。面積七・三三万軒。東南部は河岸平野に占めらるるも西方に漸高す。海岸平野及び中央山間低地に耕作地拓げ、西部山地に木材及び炭を産す。米・麦・蕎麦・酒類及び曲木樽子・コルク製品の特産あり。省線山陽本線廿日市驛(明治卅一年設置)は宇後田にあり、交通便なり。もと平良莊と云ひ嚴島神社の社領たり。(逸谷神社)大字上平良に鎮座。國幣中社。祭神、遠谷神。創祀年代詳かならざるも、弘仁二年、名神の列に振して四時の奉幣にあづからしめ、貞觀元年、從四位下を、同九年從四位上を授けられ、次で延喜の制、官幣の大社名神に列し、新年のほか、月次・新嘗の幣にあづかる。天慶三年、正四位下に昇せらる。後に本國の二宮、遠田大明神と稱せらる。古來、嚴島神社と相並べる名詞にして朝廷の殊遇あり以外に、戰國時代に於ては、大内・毛利氏の崇事あり、江戸時代に入るや、藩主淺野氏相ついで崇敬したり。大正十三年、郷社より國幣中社に昇格す。例祭十月十二日。

近海漁業の根據地なれば、港口を扼する重要な位置を占めたる本州に辨慶岬を設く。

ヘンケト

沼

【ヘンケ沼】 北海道天鹽國留萌支廳天鹽郡乾延村の西海岸。天鹽川下流平野の北部サロベツ原野の南部、謂ゆる下サロベツ原野中に在り、天鹽川支流サロベツ川に沿ふ。南北の長さ約二・五軒、幅約一・五軒、略ぼ楕圓形をなし南部より排水せる一極の河川を以てサロベツ川に連る。南方約二軒の低地を隔ててヘンケ沼存す。面積やや大なり。東岸より約一軒の地をオンネベツ川はサロベツ川と略ぼ並行に南流す。附近土地肥沃にして農耕に適す。西方はサロベツ川を隔てて太平洋岸に近し。

【ヘンケ沼】 北海道釧路國釧路支廳阿寒郡の西北部、雄阿寒岳(二七七一米)の東麓に在り、阿寒國立公園の略ぼ中央に位置す。一名、上ノ湖と稱し、西北に約半軒の排水口を以て下ノ湖に連り、下ノ湖は更に雄阿寒岳の北麓をインベツ河となりて約二軒を流れ阿寒湖に注ぐ。阿寒湖は阿寒川の水源地なり。即ち三湖相連りて雄阿寒岳の北麓を圍み、雄阿寒岳は宛ら湖中に臨む圓形の半島の如し。ヘンケト一は最小湖にして南北に細長く、長さ約二軒、幅約半軒に過ぎず。蓋か北方にはサマツケヌブイ岳を仰ぎ、山上火山湖の風景美を遺憾なく備ふ。

ヘンサイテン

辨財天嶺山 鹿兒島縣掛箱郡掛箱村にある金嶺山。嶺區九萬八千坪。重要嶺山にして昭和十年には金銀粗額一、七八六萬(價額約一五萬圓)を出し、同年六月末の積込数は四九人とす。

ヘンサン

邊山 朝鮮全羅北道扶安郡の西半部に連る山地の稱。黃海に向ひて突出する邊山半島を占め、北部に倚上峰(五〇九米)、中央に雙仙峰(四四八米)、南に甲南山等あり、山勢秀拔にして附近は風に風光明媚を以て聞ゆ。山中に發する中溪川は西北流して海に入り、河口に李朝時代に發米の積出港たりし海倉あり。

【辨天沼】 北海道釧路國釧路支廳阿寒郡の南部。安平川の下流南岸に位置し、勇拂川との合流地の約二軒の東方なり。東西・南北の長さ各々約二軒の略ぼ圓形の沼にして、安平川河口平野上に在り。周辺の地勢頗る低湿、無人の境なり。南岸より二軒にして太平洋に達す。東方の厚賀村界に小丘陵地ありて繁落存す。古小

ヘンテン

辨天 安平村の南部。安平川の下流南岸に位置し、勇拂川との合流地の約二軒の東方なり。東西・南北の長さ各々約二軒の略ぼ圓形の沼にして、安平川河口平野上に在り。周辺の地勢頗る低湿、無人の境なり。南岸より二軒にして太平洋に達す。東方の厚賀村界に小丘陵地ありて繁落存す。古小

なり。繁落は散村形態に分布發達し、豊島に面事務所を置く。【豊島】 朝鮮京畿道の西部、江華海内の島。大阜島の西南約二〇軒の海上にある。周囲五軒の小島。この沖合は明治二十七年六月二十四日、坪井航三少將の率いる第一遊撃隊吉野・秋津洲・浪速の三艦が清國北洋艦隊中の巡洋艦濟遠・廣乙二隻と會戦し、清艦に多大の損害を與へたる古戦場として有名なり。此島は行政上、宮川郡大阜面に屬す。

ホ

ホ

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

ホ

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

ホ

ホーエ

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

【博】 朝鮮平安北道楚山郡の略中央。熊岳山の南方約二〇軒。蓋馬岩岩臺地の西北縁を成し地形頗る高峻にして、東境に姑蘇山(一七六三米)・白頭山(一六二二米)・西境に加徳山(一〇七〇米)得湖山(一〇八一米)等聳えて城內山岳車疊し、平地極めて乏しく唯僅に古面川及びその支流豊面川沿岸に低地を見るに過ぎず。耕地は前記兩川の河岸段丘及び山腹の緩斜面を開墾して耕地と成せるも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民は農耕を以て生業とし、傍ら採石日稼に従ひ、また朝鮮酒の醸造に従事する者多し。産物は大豆・粟・麻・蕪草・山參・蜂蜜・黒鉛等あり。道路は熊岳山より東の二等道路、面の西部を南北に縦貫せるも坂路・峻道・絶壁する所に横ばり交通頗る不便

ホーエー——ホーオ

立分難して一市を建てしを以て支那名を  
豊榮と改む。

ホーエー 寶永山 山名、富士山

ホーオー 鳳凰 山名

【鳳凰山】日本南アルプスの北端鳳凰山  
地の主峯。西北方に時つ甲斐駒ヶ岳と共  
に、日本に於ける花崗岩山として高度・  
山岳美に於て代表的なるもの。甲府盆地  
の西方、山梨縣北巨摩郡清野村・駒城村  
の境上に聳立す。西南方は白根山と相對  
し、富士川支流の早川の上流野呂川の溪  
谷あり。北西方はゴロ澤ノ頭(高嶺)・  
朝霧岳を経て駒ヶ岳に連る。山は三峯よ  
り成り、地蔵ヶ岳・觀音ヶ岳(二八四一  
米)・藥師ヶ岳(二七六二米)北西より南東  
に連峙す。北端に位する地蔵ヶ岳は奥ノ  
河原をその西腹に據り、頗る奇岩に富み、  
絶頂には二箇の巨岩相抱くが如くに對立  
す。古人之を大日岩と稱し、大日如來に  
擬して尊崇し、法王山の山名も之より生  
ぜしもの如く、寛永年間前後の作製と  
推定せらるる日本の繪圖にも變體假名に  
てこの山名記入せられたり。然るに江戸  
時代の中期より地蔵佛の信仰盛となり、  
この岩も地蔵菩薩に擬せられ、地蔵佛な  
る俗稱を附するに至れり。岩の高さ約一  
八米。長く處女峯として登山は不可能な  
りと考へられしが、一九〇四年(明治三  
十七年)日本アルプスの早期登山者たる  
ウオルター・ウェストンによりて此巨岩  
への登攀は始めて成功したり。登山は多

KOR

里に面事務所を置く。

ホーオクザワ 法泉澤 山名、青森縣

【報恩郡】朝鮮忠清北道の南部。南は沃

【鳳凰山】朝鮮全羅南道羅州郡の東南部。  
郡邑羅州の東南方約一〇軒にあり。東南  
部は四〇〇米内外の山地相連れども漸次  
西北方に傾斜し、西北部一帯は花崗岩山  
地の傾斜されし老年期の丘陵相連り、そ  
の緩斜面は克く開墾せられ耕地相連る。  
唯灌溉不便にして水田少なく畑作農業卓  
越す。住民は農業を主とし養蠶をなす者  
少なからず。産物は大豆を主とし棉花・  
小麥・大豆これに亞ぎまた綿布・竹細工  
品を産す。最近製糖の他果樹の栽培盛ん  
となるに非り將來の出荷大いに期待せら  
るゝものあり。道路の改善未だ充分なら  
ず、運輸は今尙馬背に依るの狀態にあり。  
墾務密度は比較的小にて其主なるものに  
竹石里・玉山里・柳谷里・長盛里・龍田  
里・新洞里・黃龍里・臥牛里・節谷里・  
烏林里・徳林里・雲谷里等ありて、竹石

KOR

報恩・俗離・馬老・炭釜・三升・水干・  
檀南・檀北・内北・山外の十面に分かれ、  
郡廳は報恩面三山里に置かる。

【報恩面】朝鮮忠清北道報恩郡の略中央。

【報恩郡】朝鮮忠清北道の南部。南は沃  
川郡及び忠清南道大徳郡に、西北は清州  
郡に、北東は槐山郡に、東は慶尙北道尙  
州郡に界す。面積五九九方軒、道内十郡中  
の第七位に居る。小白山脈北部の西面に  
て、東北境上には九峯山の別名ある俗離  
山嶺りその最高峯たる天皇峰は海拔一〇  
五七米に達し、その脈北西に延びて昆崙  
峯(八七三米)・尙丹山(七六七米)となり、  
なほ東境には九屏山(八七七米)あり。  
南部には鳳鳴・三升山・金積山、西部に  
は國師峰・九龍峰・皮盤嶺・局師峰等い  
づれも五―六百米級の山峰あり、それら  
の山腹郡内に延びて山地頗る廣し。郡の  
大部は南流して錦江に合する靑川の流  
域、北部は北流する鮮川の上支の流域に  
屬す。前者には中央部に位する報恩、南  
部の三升面、東部の炭釜面東部等にや、  
廣き低地ありて耕地よく拓く。農を主生  
業とし、養蠶行はれて産物の産少からず。報恩  
を中心として南は永同、南西は沃川、北  
西は清州、東北は槐山方面へ道路通じい  
づれもバスは往來あり、東北郡を除けば  
郡内の交通はさのみ不便ならず。行政上

ホーオンジ 法恩寺山 山名、白山火  
山帯の一峯。主峯白山の南西方約一八軒

に當り、九頭龍川の右岸に位する消火山。  
福弁縣大野郡北谷・平泉寺の二村と勝山  
町とに跨る。標高一三五七米。南東流に  
細ヶ岳(一六二五米)あり。

ホーカ 放火島 山名、電線(朝鮮)

ホーカ 奉化郡 朝鮮慶尙北道の

北東隅。南東は英陽郡、南は安東郡、西  
は榮州郡に接し、北は江原道寧越郡・三  
陟郡、東は同新寧郡と境す。面積一二七  
三方軒、道内二十二郡中安東・慶州二郡  
に次ぎ第三位を占む。大白山脈中に位し  
北境中部には、その主峯大白山(一五四  
九米)、東部には嶺山(二六〇米)、西部  
には先達山等聳え、中部には飛龍山(一  
九五米)、王頭山(一〇四四米)、文殊山  
(二二〇六米)東西に並立し至る處山地を  
なす。三陟郡南部に發する洛東江の上流  
は大白山・嶺山間の山谷を南流して郡の  
東北を貫き蔚珍郡と境をなし、後また飛  
龍山の奇谷を蛇行し中部よりの溪水を集  
めて安東郡に出て、乃城川は文殊山と先  
達山の間に於て南流し郡の西部山地の  
諸水を受けて榮州郡に出づ。以上二川の  
流域に當る中央部と西部には共に小平地  
ありて耕地拓け郡の主要地区をなす。農  
産に米・麥・大豆・棉花・大麻・楮・莞  
草等、工業に酒類・織物等あり。乃城・  
春陽・蘇洞里(小川面)・才山等には定期  
に市開かれて地方的商業行はる。乃城よ  
り南西は榮州に、東方は春陽を経て蔚珍  
に、南東は安東方面へ二等及び三等道路

ホーカ——ホーカ

通じてバスの往來あるも郡内一般の交通  
はなほ便ならず。乃城・物野・鳳城・法田・  
春陽・小川・才山・明湖・祥雲の九面を  
含み、人口約八萬、一方軒の密度六三人  
にて人口は倍増薄なり。郡廳は乃城面に  
置かる。

ホーカ 彭佳嶼 山名、アロンコート或は

大時山嶼とも呼ばれ、臺灣本島屏東角の  
東北方三〇哩の洋上に位して玄武岩より  
成り、海岸は懸崖をなす小島。周囲四軒、  
面積は一・四方軒に過ぎざるも、臺灣  
鐵路の要所にあるため、明治四十二年白  
色圓形燈塔の燈臺が設けられ、海拔一  
二五米の岩上に燈臺を設す。燈臺は四白光に  
て毎十五秒に一閃光を發す、光達距離三  
〇哩、別に霧笛の設置あり。

ホーカ 鳳下 朝鮮總督府嶺南平原

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海面】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。

産物の主なるものは米・大豆・大麥・馬  
鈴薯・蕎麥等にて、畜産に生牛・蜂蜜等  
あり。また百年嶺山の嶺區に屬し、金・  
銀・タングステンを出す。道路は郡邑線  
源より来る三等道路臨津江に沿ひて南下  
し江原道伊川に通ずるも坂路多く交通便  
ならず。墾務は江に沿ひて發達し、其主  
なるものに上流より深淵里・外白日里・  
石泉里・内古邑里・東化里・法洞里・上  
盤岩里・下盤岩里・長安里・古道里・清  
漢里等ありて法洞里に面事務所を置く。

ホーカイ 豐海 山名

【豐海郡】朝鮮咸鏡北道慶興郡の西南隅。  
臨津府の西に隣りす。東境に甘吐峰、北  
境に保老地峯、西南境に大安山等ありて  
城内山岳重疊し、平地極めて乏しく東南  
部は日本海に面し海岸一帯岩石海岸にし  
て、リヤス式海岸を成す。住民は農業ま  
たは漁業に従事す。産物の主なるものに  
は粟・稗・黍・蕎麥・大豆・苧麻等あり  
て、米は全く耕作せられず全部これを移  
入す。海産物には鮭・鱒・鱈・鱈・明太  
魚・海參・牡蠣等あり。交通は一等道路  
西南境域より來り海岸に沿ひて北上し羅  
津・雄基に通ずる他は等外線にして、改  
修未だ充分ならず、峻坂多く交通一般に  
便ならず。墾務密度極めて疎にして海岸  
地帯に厚倉・新洞・大楡洞・上津洞等、  
内陸に鶴果洞・楸洞・松林洞・月峰洞・  
月山洞・武倉洞・月城洞・太陽洞等あり  
て新洞に面事務所を置く。(天恩嶺山)

KORP

嶺區は豐海面と富寧郡豐海面とに跨る。  
嶺は金銀にて昭和十年より採掘し同年  
重要嶺山に列す。本嶺は豐津港の北方約  
二〇軒の地點にて梨津より山元まで牛馬  
を運ずるのみ。嶺區一帯の地質は黒雲母  
花崗岩より成り、嶺區はかの花崗岩に脈  
胎せる含石英英脈にして、鑽石は酸化鐵  
なるも未だ露頭の砂中なり。現在採取  
ら嶺區にある漢谷に賦存する砂金を採取  
しつつあり、昭和十年には金二八、八〇  
〇両、銀七、二〇〇両(この總價額約九  
萬圓)を出し、同年六月末の従業員は一  
九〇人とす。

【豐海面】朝鮮黃海道松禾郡の西北隅。

郡邑松禾の西北方約一五軒。南境に館嶺  
(三三一米)聳ゆるも、其他は土地極めて  
低平、南川の沼澤原に屬し地味頗る肥沃  
にして、北端は黃海に直面し砂濱をなす。  
住民の多くは農業に従事し、沿海の津江  
浦・川北里民は漁撈に従事す。また製鹽  
行はる。産物の主なるものは米・小麥・大  
豆・棉花・煙草等にして大豆は品質優良  
なり。水産物には鱈・石首魚・鱈・食鹽  
等あり。道路は東南方松禾、東北方殷栗  
へ何れも約一五軒、三等道路を通じバス  
の便あり。其他道路域内を放射狀に通じ  
交通便なり。また南川河口の津江浦は沿  
岸の良泊をなし鎮南浦より隔日に汽船來  
往し、水陸共に交通便なり。豐山の棄落は  
面の略中央に王座の如く坐し、之が周圍  
に城上里・細橋里・川南里・文憲里等あ

り。豊山は面事務所所在地にして郭領所・金蔵組合・警察官駐在所等あり、また防層二・七の日に開く市場ありて、綿布・麻布・雑穀類・日用品・水産物等の取引活潑なり。

ホーカイ 寶蓋面

朝鮮京畿道安城郡の東北部。郡邑安城の東北に相隣接す。東境に清涼山(三四一米)、西境に飛鳳山(二三二米)の聳ゆる外著しきものなく、概して花崗岩の丘陵を成し開墾し難く行はれ地球肥沃にして農業盛に行はる。氣候は寒暑共に酷烈なり。住民は一般に實朴勤勉にして農業に従事し一部行商を行ふ者あり。主要農産物は米・大豆・大豆・粟・馬鈴薯等にして工業品には眞鍮製器具及び朝鮮紙等あり。殊に眞鍮器は其の名を朝鮮に知られたるも近年は其の製造不振なり。社線京南鐵道京畿線は西方安城より東より南西部を横断して東方長湖港に通じ城内に麻田驛(昭和二年設置)あり。道路は安城より来る三等道路の東西に横断せる他、道路制より發達し概して坦路にて交通便なり。聚落よく發達し、殊に西南部は聚落密度頗る大なり。其主なるものを加峴里・加士里・内老里・九士里・登旺里・佛峴里・峨川里・上三里・欽坪里・新長里・迪加里等とし面事務所を加士里に置く。

ホーカク 鳳鶴

朝鮮總督府鐵道平元西部線の一驛(昭和三年設置)。平安南道順川郡舍人面にあり。

ホーキ 伯耆

伯耆國 山陰道八箇國の一。國內を東伯・西伯・日野の三郡に分ち、鳥取縣の管轄に屬す。この國は古くは伯伎と稱し、成務天皇の朝には國造を置き給ふ(國造本紀)。國府は久米郡(いま東伯郡の中)社村の大字國府の地に置かる。この國の史上に最も顯はれたるは吉野時代なり。即ち元弘三年後醍醐天皇の隱岐を脱してこの國に到り給ひし時、國人名和長年天皇を船上山に奉じて勤王の旗を擧げ、功によりてこの國の守となりやがて守護に補す。建武二年足利尊氏の板くに及び翌延元元年京都に遷死し、顯興その職を嗣ぎしが、のち征西將軍顯貞親王に従つて九州へ赴く。尊氏乃ち山名時氏を以て本國の守護とす。然るに時氏事を以て尊氏を怨み、遂に正平七年八月吉野朝廷に降

恐絶の内讎の繰返されたる處、この山の占領は實に旅順陥落の主因となれり。山名は乃木將軍の留守に當り、男子功名期克難の七言絶句より出づ。(高崎山) 留靈山の北方にあり、もと老成瀨山といふ。明治三十七年八月十五日我高崎砲隊が攻撃占領せしよりその名起る。(老成山) 南部海岸に近し。山麓の刁家屯は石斧・石器・土器等の出土するより名高く、また附近には漢代の牧羊城址あり。

ホーカワ 芳川村

静岡県遠江國濱名郡の東南部。濱松市の東南約三村、天龍川の右岸に位す。東西二二三村、南北三村餘、面積七・五方村。全城天龍川の氾濫原に屬して地頗る低平、耕地造く難し。天龍川は古來、本村の東より西に互りて屢次河道を變ぜしものにて、西隣白鳥村を南流する馬込川の如きも天龍川の舊水路たり。農業盛んにして、米・麥・蔬菜の産多く、縣立農事試験場分場も設けらる。他に工業・畜産や、見るべきものあり。濱松市より来る道路中部を東南に通じて天龍川對岸なる掛塚町に達し、また北方者線東海道本線天龍驛に出づる道路あり。濱松市・天龍驛へ何れもバス通じ交通便なり。昭和十年人口五六〇三人、一方村面積七四六人に郡内にて最も稠密の部に屬す。この地は和名抄、長下郡老馬郷の地に大字老馬開けその遺稱なるべし。(津毛利神社) 大字都盛に鎮座。郷社。祭神、高津波津見神外五神。社傳に據るに、當國の南海は謂ゆる濱江灘にて波濤暴激、通船無雙の難所なるを以て、元正天皇御宇、舍人親王・右大臣藤原不比等は勅を奉じ濱江灘の鎮守として、養老年中これを創建す。式内社にして諸武將の崇敬厚かりき。近世社領八十石を有せり。古來近郷一帶四十六箇村の總鎮守たり。例祭、十月十四・十五日。(頭陀寺) 眞言宗。大嘗年間創建と傳へ、應神如來を安置す。今の本堂・三重塔婆及び樓門は、何れも外部に未達のあとを存し、江戸時代中期の再建なり。

ホーガン 鳳岩

朝鮮總督府鐵道吉州郡吉州邑にあり(昭和八年設置)。成鏡北道

ホーキ 等・等木

【等川】 阿木縣の東部を南流する郡河川の一支流。源を豐原火山(高麗火山)のカムアラ内に發す。即ち高麗山・輝岬ヶ嶽の北側の水は集りて赤川・鹿渡川となり謂ゆる化石湖豐原の湖底堆積物を開墾して四段の段丘を造る。上豐原・中豐原の聚落はこの段丘上に發達す。外輪山の内壁及びカムアラ内部の小支流を集めて火口湖となりて東流し、次第に深く基盤岩を穿ちその河谷に豐原温泉ありて知らる。古町・門前・福渡戸・豐登・豐湯等の諸温泉聚落が發達す。更に東流して折形山(一〇八六米)と安戸山(一一一五米)

り、本國にあつて兵を擧げ、漸次に附近の諸國を併せ、丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・隱岐の諸國に及び、兵を率ゐて京都に攻め上る。尊氏及びその子義詮は近江に出奔し、ついで兵を率ゐて京都に迫る。時氏もつて國に歸り足利直冬を戴きて再び京都に上る。尊氏等また防ぐこと能はず再び近江に走り、既にして義詮は時氏に諭して吉野朝廷に叛かしめしかば、正平十八年には時氏足利氏に降し、足利將軍義満の時に義満等によりてその領有する國數は十一箇國に上り、我が國數六十六箇國に對して六分の一に當る。よつて六分一殿と稱せらる。時氏は後これ等の諸國を諸子に分與し、本國はこれを長子師義に與ふ。師義死してその子氏幸嗣ぎ、國の東部の松崎に居る。既にして弟の滿幸は兄を護して國外に逐ひ義満より本國の守護を獲しが、後死して氏幸再び守護となり、久米郡の倉吉に居り、爾後子孫相傳ふ。後、大永年間出雲の尼子經久來攻して之を滅ぼし全州その領有する所となる。永祿年中安藝の毛利元就は尼子氏を滅ぼすに及び、東部には南條氏を羽衣石(松崎の南方)に復し、西部には泉山(米子の東方)に杉原氏を置く。天正八年羽柴秀吉、織田信長の命を奉じて山陰道を平定し、南條氏を降す。天正十年六月信長の死により秀吉が毛利氏と和するに及び本州は全部その領有に歸す。天正十九年に至り本國の中を

ホーカク 豐角面

道清道郡の西端。郡邑清道の西方約一五村。西南境に受福山(五九三米)・妙峰山(五一三米)等聳立し清大東方に傾斜す。之等山地に發源せる諸流は清道川の上流となりて南流し東部に稍平地を見る。住民は農業を主とし、傍ら養蠶をなす者あり。農産物の主なるものは米・大豆・棉花・煙草等にして特に大豆は品質、産額共に優位にあり。又朝鮮紙・綿布・食器等の工業品あり、主として家内工業に屬す。僻處に位置し道路の發達未だ充分ならず。聚落は殆ど東西部に集り、其主なるものに聖谷洞・縣里洞・鳳岐洞・黒石洞・車山洞・徳陽洞・月峰洞・松西洞等ありて面事務所を松西洞に置く。

ホーカト 方家屯會

關東州旅順民政界管區の西南端。旅順市・水師營會の西に接し、西と南は海に圍まる。東南部は老成尾牛島となりて旅順の南口を扼し、西には高崎山、北西部には雙島灣あり。北東境には留靈山・高崎山、南端部には老成山等の丘陵あり、中部は概し平坦にして農業行はれ、豆類・落花生・野菜類等を産し、雙島灣岸には鹽田ありて天日製鹽行はる。旅順市に接して道路よく交通便利なり。(留靈山) 山は海拔二〇三米、日露戦役の旅順包圍戦に於ける激戦地。明治三十七年九月十九日古田回線攻撃開始以來、十二月五日これを占領するまで奪回さる、こつ前後五回、壯絶

ホーキ 伯耆

吉川廣家に與ふ。關ヶ原役後、家康は吉川廣家及び南條氏の封を改めて中村一忠を米子に對して全國を領せしめしが、慶長十四年一忠卒して嗣なく國除かれ、更に加藤貞泰を米子に、關一政を黒坂(日野郡の中央)に對す。元和三年に至り貞泰伊豫大洲に轉じ、一政もまた國を除かれ、一國を因幡鳥取の池田光政に併せ賜ふ。寛永九年光政、備前岡山に遷るに及び一族の池田光仲これに代りて鳥取に居り本國をも併せ領し、子孫相傳ひて明治維新に至る。明治二年鳥取縣を置かやその管下となり、明治九年八月には鳥取縣の管下に移しが、明治十四年九月に鳥取縣の復活さる、に及び再びその管下となる。本州はもと河村・久米・八橋・汗入・會見・日野の六郡なりしが、明治二十九年四月に河村・久米・八橋の三郡を合して東伯郡とし、汗入・會見二郡を併せて西伯郡とし、日野郡と共に三郡となりて今日に至る。

ホーキ 豐基面

朝鮮咸鏡北道會寧郡の西部。會寧邑の西南約一〇村。東境に玉峰山・玉城山・民沙岬等聳立し、南端に東嶺山屹立し、西境には民事岬聳えて城內山岳重疊し頗る高峻なり。周緣山地に發源せる諸流は中央部に合して市乙川となりて北流し、のち豆滿江に合流す。平地極めて乏しく河岸段丘上に蕪類の平地を見るに過ぎず。全山朝鮮落葉松の美林を以て被はれ、年々伐採數萬尺に達し重要な

る産業を成す。住民は農を主業としまた...

ホーキ 寶木村

朝鮮咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホークンジ 法勤寺村

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケイ 豊溪面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

併して現在の寶木村を建つ。大字寶木に...

ホーキネ 符根村

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーキニ 鳳鳴面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケツ 望月

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 方峴面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 鳳峴面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 鳳峴面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 鳳峴面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 鳳峴面

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

濱邊なり風光頗る佳なり。住民は寶木に...

ホーキヨ 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーキヨ 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

多く、平均海抜は約一五五乃至一八八に...

ホーキヨ 枋橋

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーキヨ シン 方魚津邑

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

ホーケン 寶鏡山

咸鏡北道會寧郡碧城面にあり...

らる。豚・黄牛・家禽の飼育は頗る盛に
して年畜産額は約五〇萬圓に達し、特に
豚・鶏は露下の需要を満たして餘りあり、
毎年十數萬圓を本島に搬出す。黄牛は主
として勞役に使用する。林業は全く見るべ
きものなきも、舊記によれば、往時は相
當樹木繁茂せしもの、如くなり。近年露
當局は規畫造林の普及に努力し、島々に
木麻黄等を植林す。四面海を繞らす本島
は水産業は甚だ有望なるも、漁民の資力
貧弱なるを以て大規模の經營は不可能な
り。されど近時發動機油船増加し沖合漁
業に移りつゝありて同時に漁獲高も年々
増加しつゝあり。年産額約一五〇萬圓に
して鱈・鱈・口美鯛・鰯・鰹田鰻・鰻・
鰻・鰻等の順序なり。また近年發見せら
れたる珊瑚も重要な水産物の一にして
年産約二〇萬圓に達す。其他に養牛・
鱈鱈・蒲鉾・鰻田鰻等の水産製造物を出
す。また製身具として加工し、用ひらる
る文石は甚だ珍貴なるものにして、世界
に於てイタリヤと本島にのみ産し、將軍
嶼・東吉嶼等の岩礁中に産す。されど近
年露獲の結果著しく其生産を減じつゝ、あ
り。工業に於ては小規模なる落花生油・
製氷・電氣・石灰・煉瓦・水産物加工の工
場を有するのみ。本島下の教育状態を見
るに、學校教育に於て小学校一、公學校
十、分教場八にして、其の狀勢甚だ遺憾
なるも、地理的關係上其の普及困難なり。
露下の交通は地理的關係上主として海路

に依らざるを得ざるも、陸路も近年著し
く發達し、自動車の運行を見るに到れり。
各離島間の交通は主として、定期・不定
期の發動機船あり。臺灣本島との交通は
沿岸西線定期航路に當り、總督府の命令
航路なり。また本島の臺南と本島間には
最近定期航空路開かれたり。露會をばじ
め本島下の主なる官公署は主として馬公
街に設けらる。本島は其地理的關係より
して、史實に富み、また史蹟多し。本島
の存在が漢族に知られれば最も古くして
遠く隋代に在りたるもの如く、福建海
防考に「隋開皇中、遣使貢陳毅、略澎湖
地、瓊島三十有六、如排衙云云」と見ゆ
る是なり。歐米人のハスカードと稱する
は、もと和蘭人の「Van der Ploeghe」と
呼びしに起因したるものにて、西曆紀元
一七二六年に成りし和蘭人宣教師グアレ
ンダインの著書「臺灣及び之に於ける和
蘭貿易の記事」に載する地圖中には、本
島下の數島に和蘭語の名稱を附す。また
宋代に成る文獻考に「琉球國在泉州
之東、有島曰澎湖……」の記事見え、同
時代に成りし諸著志には、本島が泉州府
同安縣に隸せし事を載す。されば本島に
往時より漢民族の住居せし事は疑なかる
べし。其後明代に到り、白沙嶼の東南な
る瓦碇港の丘上に小城營を築き、巡檢を
置き汛兵を駐屯せしめ、島民より漁獲若
干を徵せり。其後本島は海賊の依歸する
處となり、是が對策に就きては、本國政

府の腐心する處なりき。嘉靖十二年海賊
林道乾なる者此地に據り、支那邊海を暴
掠せしこと舊記に明なり。蘭人の初めて
本島海上に現れしは西紀一六〇四年にし
て、其後、一六二二年ライエムセンは船
艦十七隻を以て再び兵を率ゐて澎湖島に
來り、今の馬公港に上陸し、城營を築き
砲臺を砲々に設けて、久居の計をなせし
が、明朝政府と媾和し、蘭人は本島を去
りて臺灣本島に根據地を定むる事とせ
り。其後明朝勢力の失墜と共に各處に亂
あり、爲に漢民族の本島に亂を連れて移
住する者多く清の康熙元年頃までに漳泉
二府の漢族にして澎湖本島及び白沙・漁
翁の三島に部落を形成するもの數十所と
稱せらる。是より先、明の遺臣鄭成功の
一時據る所となりし事あり、常に本島は
臺灣の門戸として重要な位置を占めたり。
清の領臺後、本島は臺灣府臺灣縣に
隸屬す。康熙六十一年に朱一貴の亂を臺
灣に作すや文武官位は盡く難を本島に避
け、次で征剿軍此地を根據地として兵馬の
計を進めたりと云ふ。其後光緒十年には
清佛戰爭の餘波本島に及び、グーメルイ
中將露下の艦隊七隻來襲するありて、古
來本島は臺灣海峽を通過する内外諸艦船
の寄泊地となり、亂臣賊子または海賊
の據點となるに條件甚だ良かりしもの、
如し。明治二十八年、我國は臺灣征略に
先ち、混成旅隊を編制し、二月二十八日
本島の東南なる林投灣(現前西庄)に上陸

して、遂に本島を占領したり。
【澎湖群島】 臺灣澎湖廳の管轄内に屬す
る大小六十四の島嶼よりなる一群を澎湖
群島となす。臺灣本島と支那大陸との中
央海上に位置す。澎湖廳
【澎湖本島】 臺灣澎湖廳下最大の島嶼に
して、本島下の中心地をなす。澎湖廳廳
(光緒十九年)に「形如蓮花、其餘嶼如荷
葉散點」と云へるは即ち本島なり、島内
に大城山・太武山の丘阜を有す。而して
南西に馬公港開く。
【澎湖水道】 臺灣澎湖群島と臺灣本島と
の間を稱して澎湖水道「Beatare Water」
と稱す。
【澎湖港】 澎湖本島・漁翁島・白沙島の
三島を抱きて構成する港。港内廣闊、多
數の船隻を容るゝに足り、周辺の島嶼は
風波を遮屏して、暴風怒濤を避くるに足
る。
ホーコ— 鳳岡
【鳳岡】 成鏡線の一驛(大正十三年設置)。
朝鮮成鏡北道鏡城郡鳳岡面にあり。
【鳳岡面】 朝鮮全羅南道光陽郡の西端。
郡邑光陽の北に相隣接す。小白山脈に屬
する白雲山(二二六米)東方に聳え、餘
勢域内に延亘して山岳重疊し、唯僅かに
中部を南流する鳳岡川の溪谷に沿ひて狭
長なる耕地の横はるに過ぎず。谷壁は頗
る急斜面にして開墾による耕地化は期待
し難く従つて農産物による入口の支持力
乏しく近時光陽・麗水方面に出稼する者

ホーザ 芳草 志願國(三重縣)の古
地名。和名抄に英虞郡芳草郷あり、その
地今の度會郡島津村・吉津村の邊に當る。
ホーサイ 豊盛面 朝鮮忠清南道
天安郡の西南部。北は天安邑との間に數
城面を距て、南は廣徳面に、東南は燕岐郡
を義面に、西は牙山郡雄峯面に接す。東
西七軒餘、南北五八軒。西南境に大華
山(四五五米)聳え東北に緩傾斜し、東北
部に百米臺の丘陵起伏するも、中部を東
南へ西北に貫流する曲橋川の上支なる熊
川及び豊西川の流域に稍々廣き平地がら
く。米・麥・大豆・陸地棉等を産す。東
部を鐵道京釜本線南に走り、北方天安
驛、南方小井里驛に近く、鐵道の西方を
天安・廣亭里間道路通じ交通不便ならず。
ホーサカ 寶坂村 福島縣岩代國
河沼郡の西部。野澤町の西北に隣り、東
は東峠を距てて野村に界し北及び西は
新潟縣に接す。越後山脈の東斜面に屬し
西境には北より古惣座山(五二二米)・土
埋山(六九七米)・黒森山(五六〇米)・目
指嶽等連りて東方に傾斜し、東境には輝
峰山(五三五米)聳え、全行概ね山地をな
し、東光頭川は西南境に發源し村の中部
を北流して阿賀川に合す。米・蕎麥・大豆・
木材等を産し、また東部の大字屋敷は蛋
白石の産地として知らる。産出の蛋白石
は鏡珠岩の中に細狀をなして介在し、淡
青色半透明のもの多し。道路は北部を東
南より西北に通ず。北方磐西線德澤驛

へは約三軒あり。野村・上野尻村と共
に組合村を成し、役場を野村に置く。
【網木澤】 車峠を下ること約五百米にあ
り。口碑に依れば、往古藩主藩生兵衛
を遣らんとて寶現村字屋敷の東南約一千
米餘のオパール鑛山より大なるオパール
の母岩を發見し、數百人の工夫を費して
此地迄運搬せしが、遂に網切れたるため
その石の運搬を中止せりといふ。時人此
地を稱して網切れ澤と稱せしが、のち網
木澤となるに到れり。(須荷嶽) 上野尻
村より西南方一千米許にあり。中腹の小
峰嶽と云ふ所に少しの平地あり。往昔何
人が住せし所といふ古井あり、旱歲に雨
を斷る所とす。また山上の樹木を伐採す
れば神の祟りありとて斧を入ることな
し。(神樂瀧) 寶川の阿賀川に注ぐ一千
米餘の上流に瀑布あり、神樂瀧といふ。
深夜時々樂を奏する音響を聞くと云ひ傳
ふ、蓋し水勢岩石に激するに依りて發す
るならん。
ホーザワ 坊澤村 秋田縣羽後國
北秋田郡の西部。鷹巣町の西に接す。南
境には蟹澤山(一六七米)聳え北方に傾斜
し、東北部また山地をなし、中部は蟹澤
盆地に屬し平坦なり。米代川は中部を西
流す。米・蕎麥を産す。羽州街道は北部を
東北より西南に通じ、奥羽本線鷹巣驛へ
はパスの便あり。この地は戊辰の役に激
戰のありし地。伊勢堂は寛永八年の建立
にして、建立の際に土中より鏡と鏡口を

多し。住民の多數は農業に従事し副業と
して養蠶・採薪に従事す。農産物の主な
るものは米・大豆・粟・蕎麥・棉花に
て、殊に棉花は換金作物として當地の
最も重要農産物なり。道路は光陽より西
方の阿羅に通ずる三等道路南部を東西に
横斷すれども、直接に交通上與る所少な
し、ただ光陽より北方の求禮に通ずる鐵
道道路は最近改修を見、稍便となる。
ホーコ— 豊巻鑛山 下郷谷面
ホーゴ— 逢郷 島取縣八頭郡にあり
りし村。明治三十八年本村及び登米村を
廢しその區域を以て丹比村を置く。
ホーコ— 茅港尾 臺灣臺南
州曾文郡下營庄を主體とし、その東隣宮
田庄の一大字南廓を包含せし一區の舊區
別名。清の雍正十二年に建てられたり、のち
東・西二堡に分れ、東堡は宮田庄の西端
南廓及び下營庄の東部茅港尾・鹿耳寮の
二大字を合したる地域に、西堡は下營庄
の西部十六甲・下營・大屯寮を合したる
地域に相當す。我が領臺後も依然存続せ
しが、大正九年地方制度改正により廢せ
られ、前記二庄に分割せられたり。
ホーコク 方谷 省線伯備線の一驛
(昭和三年設置)。岡山縣上房郡中井村に
あり。
ホーコク 豊谷面 朝鮮成鏡北道
鏡城郡の北端。郡邑鏡城の東に隣接す。
一般に東部は山地を成せど西方に漸次
緩傾斜し、豆滿江に臨む西部一帶は土地

低平にして稍許地の發達を見る。産物は
大豆・粟・蕎麥・稗等にしてまた綿布及
び鳥類等あり。會寧・穩城間の一等道路
は西の略中央を南北に縱貫し軍用上重要
なる幹線にして兼合自動車の便あり。又
中央より西方鐘城に二等道路を敷きこれ
亦自動車の便あり。偏境に位置せるを以
て地域廣大なるに比し聚落密度極めて小
にして而も豊饒潤の外、雲巖洞・館山洞・
豐川洞・東浦洞等を數ふるに過ぎず。
ホーコク 豊國 福國田川郡にある石炭山。
(豊國炭礦) 福國田川郡にある石炭山。
鑛區は伊田町・後藤寺町・糸田村・金田
町の四ヶ町村に跨りて一〇八萬餘坪。重
要鑛山に屬す。鑛區の地質は第三紀夾炭
層にして頁岩・砂岩・礫岩の層層、炭質は
微結晶にして八尺炭・四尺炭の如きは就
第一等炭として名あり。昭和十年には塊
炭三八、三一〇噸、粉炭二六〇、四五六
噸、切込炭一九、九二〇噸、粗炭一六五、
五五三噸(この總價額四〇三萬餘圓)を出
し、同年六月末日の鐵夫數は一、九〇四
人とす。明治十七年の開坑にて、もと海
軍艦隊炭田なりしが現在も明治鐵業會社
の經營に屬す。
【豊國】 省線宮床線の一驛(明治三十年
設置)。福國田川郡糸田村にあり。
【豊國鑛山】 福國縣と大分縣に跨る金銀
山。峯尾野村(福國縣)
ホーザ 方座浦 島津村(三重縣
度會郡)

ホーコ— 鳳岡
【鳳岡】 成鏡線の一驛(大正十三年設置)。
朝鮮成鏡北道鏡城郡鳳岡面にあり。
【鳳岡面】 朝鮮全羅南道光陽郡の西端。
郡邑光陽の北に相隣接す。小白山脈に屬
する白雲山(二二六米)東方に聳え、餘
勢域内に延亘して山岳重疊し、唯僅かに
中部を南流する鳳岡川の溪谷に沿ひて狭
長なる耕地の横はるに過ぎず。谷壁は頗
る急斜面にして開墾による耕地化は期待
し難く従つて農産物による入口の支持力
乏しく近時光陽・麗水方面に出稼する者

へは約三軒あり。野村・上野尻村と共
に組合村を成し、役場を野村に置く。
【網木澤】 車峠を下ること約五百米にあ
り。口碑に依れば、往古藩主藩生兵衛
を遣らんとて寶現村字屋敷の東南約一千
米餘のオパール鑛山より大なるオパール
の母岩を發見し、數百人の工夫を費して
此地迄運搬せしが、遂に網切れたるため
その石の運搬を中止せりといふ。時人此
地を稱して網切れ澤と稱せしが、のち網
木澤となるに到れり。(須荷嶽) 上野尻
村より西南方一千米許にあり。中腹の小
峰嶽と云ふ所に少しの平地あり。往昔何
人が住せし所といふ古井あり、旱歲に雨
を斷る所とす。また山上の樹木を伐採す
れば神の祟りありとて斧を入ることな
し。(神樂瀧) 寶川の阿賀川に注ぐ一千
米餘の上流に瀑布あり、神樂瀧といふ。
深夜時々樂を奏する音響を聞くと云ひ傳
ふ、蓋し水勢岩石に激するに依りて發す
るならん。
ホーザワ 坊澤村 秋田縣羽後國
北秋田郡の西部。鷹巣町の西に接す。南
境には蟹澤山(一六七米)聳え北方に傾斜
し、東北部また山地をなし、中部は蟹澤
盆地に屬し平坦なり。米代川は中部を西
流す。米・蕎麥を産す。羽州街道は北部を
東北より西南に通じ、奥羽本線鷹巣驛へ
はパスの便あり。この地は戊辰の役に激
戰のありし地。伊勢堂は寛永八年の建立
にして、建立の際に土中より鏡と鏡口を

ホーサー 方山

【方山】朝鮮平安北道義州郡加山面にある金銀山。昭和十年には金銀一、二、三六萬(價額一六萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員二五二人なり。

【方山面】朝鮮江原道楊口郡の西北部。郡邑楊口の北西方約一〇軒にあり。大白山脈の西斜面に位し地勢高峻ならざるも城内は山岳地帯を成し高度九〇〇—一〇〇〇米に及ぶものあり。北漢江の支流に属する水入川は東部を南方に向つて貫流し、西岸稍低平にして本地域に於ける最も重要な農耕地を決定す。住民は農及び牧畜を主とし副業として漆・採薪及び養蠶等の業に従事す。河川は水浅く、舟楫便ならざるも、灌溉及び漁獲の便あり。道路は南方楊口邑より来る三等道路東部を水入川に沿ひ北上せる他、道路網やや發達せるも、外路線にして車を通ぜず。聚落は主として水入川溪谷に最も多く分布し、上流より慈湖・古方山里・松峴里・長坪里・瓢里・漆田里・金岳里・坪里・五味里・皮毛介等あり。また西部山中には長財里・天尾里・高陽洞・水於口等ありて面事務所を長坪里に置く。

ホーサー 鳳山

【鳳山面】朝鮮平安北道清原郡の東北端。清原面に北隣す。三面山地を以て圍繞し、西境は鴨綠江を距てて滿洲國通化省輯安縣と境す。即ち北境には鳳遼山(七九八

米)、東境には開谷山(七九五米)、南境には清高山(六七〇米)・蔡對嶺(五〇七米)等聳立す。鴨綠江の支流亮骨江略中央を著しく蛇曲流して西流し、沿岸に稍廣き河成段丘の發達を見、耕地並に主要聚落は概ね此段丘上に分布す。地味瘦薄にして農産豊かならず隨つて生計困難なる者尠からず。産物は黍・大小豆を主とし、米・粟・粟等にしてまた少額の大麥・糠草・蜂蜜・硯石等あり。道路は北方高山嶺より来る二等道路は面の略中央を南北に縦貫し、乗合自動車あり。

【鳳山面】朝鮮平安北道寧邊郡の西端。郡邑寧邊の北西方約一五軒にあり。三面丘陵を以て圍繞し、西南境は大寧江を隔てて泰川郡長林面に相對し、自然的境界により盆地を形成す。周緣山地に發源せる諸流は盆地床に集りて鴨綠江の支流となり西境に於て大寧江に合流す。盆地床は地味肥沃にして灌溉の便よく水田よく發達するも、盆地床周緣の扇狀地は水利乏しく畑作農業卓絶す。住民は専ら農業に従事し、婦人は機械に従事する者少からず。産物は米・大麥・蕎麥・粟の他、棉花栽培に努め近年増産しつゝあり。また、明・鐵器・生牛・牛皮等あり。三等道路は略中央を横斷して西方泰川、東方寧邊兩邑に乘合自動車を通じ其他の諸流も邑谷間を核として放射狀に發達す。聚落は概ね盆地の周緣に分布す。

【鳳山郡】朝鮮黄海道の中央部北側。東

は海興郡、南東は平山郡、南西より西にかけては義寧郡、北は黃州郡に各々境を接す。面積八四二方軒、全道十七郡の第十一位に居り、新溪・信川・瑞興の諸郡と伯仲の間にある。北境には保命山(五八四米)・高麗王山(五七一米)・可馬峰(四八一米)・正方山(四八〇米)等、中部には九山(五〇七米)・鳳陽山(五四一米)・遮日峰(六〇六米)等、いづれも東西に連なるも、老年期の山容を示し傾斜急峻ならず。瑞興江はこの山脈の中間を、銀波川は鳳陽山・遮日峰の南谷を共に西流し、郡の北西境を北流する義寧江に注ぐ。郡の北西部よりこれら二川の沿岸にかけては沖積地帯を成し、耕作の便よく米・大豆・棉花・大麻等の産多し、また果樹の栽培盛にして苹果・梨・栗等を出し、礦産には石炭・螢石・石灰岩・陶石・高嶺土等多し。工業に織物・蠶工品・蠶業品・木製品等あり。京義街道と鐵道京義本線は瑞興江流域平野を東西に走り、のち西北に向ひて黃州郡に入り、京義本線沙里院驛より北は社線朝陽道海城南方に走り、また南は義寧、西は安岳を経て一は股栗方面へ、他は鎮南浦方面の道路ありてバスの便あり。行政上十四面に分ち、郡廳を沙里院邑に置く。人口約一一・六萬、一方軒の密度一三五人。

【鳳山嶺】朝鮮黄海道鳳山郡にある石炭山。嶺は洞仙面と文井面に跨る。明

は海興郡、南東は平山郡、南西より西にかけては義寧郡、北は黃州郡に各々境を接す。面積八四二方軒、全道十七郡の第十一位に居り、新溪・信川・瑞興の諸郡と伯仲の間にある。北境には保命山(五八四米)・高麗王山(五七一米)・可馬峰(四八一米)・正方山(四八〇米)等、中部には九山(五〇七米)・鳳陽山(五四一米)・遮日峰(六〇六米)等、いづれも東西に連なるも、老年期の山容を示し傾斜急峻ならず。瑞興江はこの山脈の中間を、銀波川は鳳陽山・遮日峰の南谷を共に西流し、郡の北西境を北流する義寧江に注ぐ。郡の北西部よりこれら二川の沿岸にかけては沖積地帯を成し、耕作の便よく米・大豆・棉花・大麻等の産多し、また果樹の栽培盛にして苹果・梨・栗等を出し、礦産には石炭・螢石・石灰岩・陶石・高嶺土等多し。工業に織物・蠶工品・蠶業品・木製品等あり。京義街道と鐵道京義本線は瑞興江流域平野を東西に走り、のち西北に向ひて黃州郡に入り、京義本線沙里院驛より北は社線朝陽道海城南方に走り、また南は義寧、西は安岳を経て一は股栗方面へ、他は鎮南浦方面の道路ありてバスの便あり。行政上十四面に分ち、郡廳を沙里院邑に置く。人口約一一・六萬、一方軒の密度一三五人。

【鳳山嶺】朝鮮黄海道鳳山郡にある石炭山。嶺は洞仙面と文井面に跨る。明

治續業會社の經營、昭和十年に有煙炭三七四二八萬(價額約二一萬圓)を出す。

【鳳山面】朝鮮慶尙北道金泉郡の西北部。東南方金泉邑との間に金陵面を距て、北は忠清北道永同郡黄金面に、西は同じく梅谷面に接す。東西・南北各八・九軒あり。小白山脈の東斜面にして、北境に卵舍山(七三四米)・秋風嶺・駒窟山(七四三米)等、西境に可城山(七二四米)等連なり、北より凡そ二條の支脈南走するも、漸次東南に低夷し、東南部の直指川の流域に稍々廣き平地横ばる。米・大豆・棉花・蠶等を産す。中部を鐵道京釜本線と釜山街道南北に通じ、南は直指寺驛を経て金泉驛へ五軒餘、北は有名なる秋風嶺を隔てて忠清北道に通じ、南部の主色大和洞と金泉邑間にはバスの便あり。

【鳳山面】朝鮮慶尙南道陝川郡の西北端。郡邑陝川の西方約一〇軒にあり。小白山脈に属する香道山(一三三四米)・宿星山(八九九米)等北境に聳立し、東南境には小龍山(五二〇米)屹立せるのみならず、城内にも講徳山(五八五米)・月峴山(六一六米)等ありて平地に乏し、其の間を黃江及其の支流沙川匯入蛇曲を成し、至る處峡谷美を成して南流し、風光美に富む。耕地極めて乏しく大麥・粟・蕎麥・大豆・稗等を産すれども、漸く自給自足せるに過ぎず。道路は東方陝川より来る二等道路北部を東西に横斷し、南部には昌昌に通ずる三等道路沙川に沿ひ南下す。

【鳳山面】朝鮮慶尙南道陝川郡の西北端。郡邑陝川の西方約一〇軒にあり。小白山脈に属する香道山(一三三四米)・宿星山(八九九米)等北境に聳立し、東南境には小龍山(五二〇米)屹立せるのみならず、城内にも講徳山(五八五米)・月峴山(六一六米)等ありて平地に乏し、其の間を黃江及其の支流沙川匯入蛇曲を成し、至る處峡谷美を成して南流し、風光美に富む。耕地極めて乏しく大麥・粟・蕎麥・大豆・稗等を産すれども、漸く自給自足せるに過ぎず。道路は東方陝川より来る二等道路北部を東西に横斷し、南部には昌昌に通ずる三等道路沙川に沿ひ南下す。

前者には乗合自動車の便あり。其他は坂路多く交通便ならず。聚落は黃江沿岸に多く分布す。

【鳳山面】朝鮮全羅北道金堤郡の略中央部。昭和十年と雙坎面と下層面の一部を合併新置せる面にして、西北は金堤邑に接し、南は鳳南面に隣りす。全北平野の一部にて西部に鳳山(一三四米)屹立し、東部に高山(六四四米)を中心とする低き高臺地ある外は、平野に平坦なる低地に、水田よく拓け、斗月川は北部を西南流して、東部臺地の低部には地帯多く灌溉に便にして農業繁え、米(金堤米)を主として、棉・麥・大豆等を産し、また金堤砂金地帯に當り砂金の産あり。金堤・金海里及び金堤・金山里間の道路通じ、鐵道南本線金堤驛に近く交通便なり。

【鳳山面】朝鮮全羅南道潭陽郡の西南部。郡邑潭陽の南に隣接す。昭和六年と九岩面を改稱せるもの。潭陽平野の一部を成し土地低平にして耕地よく發達し、榮山江及びその支流飯岩江これを灌溉し水田發達す。地味肥沃にして氣候また比較的溫和、農産に適す。と全南有數なり。産物には米・大麥・大豆・棉花等の農産物を始め、工藝品に麻布・鹿・柳・笠類・扇子等あり。鐵道光州線と二等道路は南方光州府よりほぼ直走し來り北に縱走して潭陽に通じ、前者の馬項驛(大正十一年設置)あり、交通便なり。

ホーサー 豊山

【豊山】北鮮西部嶺の一郡(大正六年設置)。朝鮮咸鏡北道會寧郡昌斗面にあり。【豊山郡】朝鮮咸鏡南道の中北部。道管内二府十六郡の一。北は甲山・三水の二郡、東は瑞川郡、西は長津・新興の二郡、南は瑞川・北青・新興の各郡に接す。東西約九〇軒、南北四〇一七〇軒、面積三九二六方軒に及び塔玉嶺より稍廣し。四境殆ど山脈に圍まれ、西境は最も高くして北より頭雲峰・大岩山・遮日峰・北水山・白山(二七九米)・玉蓮山等二千米以上の雄峰嶺として連り、餘勢東方に延びて白山(二四七九米)・東谷山・北水山(二二五二米)・黃峰等また二千米以上の高度を保持して郡の西中部に廣大なる臺地をつくり、東北より西南に向つては赴戰嶺山脈域内を横きりて天火嶺・黃土嶺・希砂峰(一七六〇米)・厚峙嶺(一三三五米)・三峰・希砂峰・明堂峰を起し以て日本海に注ぐ河川と鴨綠江に入る河川との分水嶺をなし、東境に檢徳山・萬塔山等また二千米以上の高きを以て南走す、其他餘脈縱横に延びて峻嶺を極め、平均海拔一千米以上にして、郡廳所在地なる豊山面新豊里の如きも標高一、一五〇米を算す。河川は西南隅に黃水院江發し東北流して盧川江となり、地境里川を容れて更に北に蛇曲流し、西北部には熊耳江發して藥水川・西洞川等を併せ、甲山郡に入りて盧川江に合し、北流を續けて鴨綠江に入る。また東北境の天火嶺に南大川發

し南流すること五〇餘軒、瑞川郡を過ぎて日本海に朝す。近時、黃水院江及び熊耳江の水を堰止して大貯水池數個を設け、此水を豊山面梨坡里附近より分水して東方赴戰嶺山脈を横斷せしむ、天南面に入るや水路はほゞ南大川と並行して南走し、洪君里及び魚坪里に於て大發電所設けらる。これ謂ゆる黃水院系の盧川江水電事業にして、出力二二萬キロワットに及び、北鮮・西鮮及び京城方面に互りて送電せらる。農業を主生業とし、耕地面積約四二、〇〇〇ヘクタールを有するも、大部分は畑地にて、水田は僅に三六ヘクタールに過ぎず、且つ尙ほ約二、六〇〇ヘクタールの火田を有す。農産物は蕎麥(一四萬石)・馬鈴薯(八七四萬貫)・大麥(四萬石)・大麻(五萬貫)・亞麻(二〇萬貫)の外、粟・稗・蕎麥・大豆等あり、之等のうち亞麻は帝國製麻會社に販賣し、蕎麥は陸軍糧秣として供給せらる。副業には養蠶・牧畜・養蜂等行はれ、家畜は牛・豚の外、綿羊も飼育せらる。林野面積廣大にして用材(二六萬圓)・薪材(五三萬圓)等を出し、礦産には金銀・砂金の産多し、南部の豊山富興洞金山は著はれ、東部洪君里附近にはマグネサイト

の埋藏多し。工業には麻布・木製品・蕎麥粉・農具・麻靴・農具・炬燵等あり。道路は北青方面より厚峙嶺を越て中部の把撥・黃水院里・豊山邑等を經、呼麟嶺(一一八六米)を越えて甲山・三水に至る

もの、及び黃水院里より西南に横れて咸興に出づるもの兩二等道路ありてバスを通ずる外、豊山邑より西方長津、東南瑞川に、また東部を南北に縱走して甲山・瑞川を結ぶ道路等あり。交通未だ便ならず。本郡は豊山・熊耳・安水・天南の五箇面より成り、大正三年府郡廢合に際し北青郡より安山・安水の二面、甲山郡より豊山・熊耳・天南の三面を割き同年三月に新設せしものなり。

【豊山面】朝鮮咸鏡南道豊山郡の中北部。東は天水面、南は安山面、西は熊耳面に接し、北は甲山郡長平面・三南面に界す。廣袤、東西は北部にて約二〇軒、南部にて約三六軒、南北一〇一〇軒、その面積四八五方軒餘に及ぶ。全城高原狀地貌を呈し、東境には觀峰(一八四〇米)・黃土嶺(一五八九米)・倭嶺峰、北境には慶徳山(一八三八米)、南境には紫星山(一五四二米)等連り、城内には圓峰(一五二九米)等あり、海拔最低九〇〇米、豊山邑は一五〇米を測る。東部に盧川江南北に蛇曲し、西より来る地境里川を容るるあたりは流路に沿ひ東西約七軒の盧川江水電貯水池を築き、此水は面の東南隅に於て分水せられ東方、洪君里に向つて流る。平地乏しきを以て専ら畑作農業營まれ、水田は北部の盧川江沿岸に僅かに行はるのみ、なほ山地には火田多し。亞麻・蕎麥の産多し、其他に粟・稗・大豆・蠶等の農産あり。豊山邑には亞麻



工業・酒造・製粉等行はる。西部に二等道路通じて北青・甲山方面にバスあり、豊山邑よりは西方長津に三等道路を岐つし、交通未だ不便なり。豊山邑は地境里川左岸に位し、街衢整然たる市街地をなす。豊山郡廳・成興地方法院出張所、森林區・農事試験場北鮮支場農事試験地、種羊場等の官署あり、市況活潑にして、毎月三・八の日に開く新豐市場は取引高年一六萬圓に及ぶ。本面はもと里仁面と稱し甲山郡に屬せしが、のち豊山郡に入り、近年に至り現稱に改めらる。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の剝離による老年期の丘陵性地形を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河岸段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に穀類・麻布・棉花・煙草・蠶等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ慶北豊山・鳴洞の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より来る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線を放射狀に岐み交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には除

層三・八の日に開く市場ありて取引活潑なり。【豊山面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南部。郡邑淳昌の南に隣接す。西北方に豊山郡・慶徳山の餘脈西北部に及びて山地を成せども、東部は南流する龍津江右岸の平地にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成す。農産物は米・小麥・大豆・棉花・棉花・煙草・大麻・苧麻等にしてまた舊式の家内工業による麻布・綿布の機械行はれ、淳昌綿布は市場に著はる。其他朝鮮紙の産あり。道路は淳昌より来る道路最近改修を見、南方玉果とも自動車を以て連絡し、交通や便となれり。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の剝離による老年期の丘陵性地形を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河岸段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に穀類・麻布・棉花・煙草・蠶等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ慶北豊山・鳴洞の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より来る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線を放射狀に岐み交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には除

【豊山面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南部。郡邑淳昌の南に隣接す。西北方に豊山郡・慶徳山の餘脈西北部に及びて山地を成せども、東部は南流する龍津江右岸の平地にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成す。農産物は米・小麥・大豆・棉花・棉花・煙草・大麻・苧麻等にしてまた舊式の家内工業による麻布・綿布の機械行はれ、淳昌綿布は市場に著はる。其他朝鮮紙の産あり。道路は淳昌より来る道路最近改修を見、南方玉果とも自動車を以て連絡し、交通や便となれり。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の剝離による老年期の丘陵性地形を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河岸段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に穀類・麻布・棉花・煙草・蠶等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ慶北豊山・鳴洞の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より来る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線を放射狀に岐み交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には除

【豊山面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南部。郡邑淳昌の南に隣接す。西北方に豊山郡・慶徳山の餘脈西北部に及びて山地を成せども、東部は南流する龍津江右岸の平地にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成す。農産物は米・小麥・大豆・棉花・棉花・煙草・大麻・苧麻等にしてまた舊式の家内工業による麻布・綿布の機械行はれ、淳昌綿布は市場に著はる。其他朝鮮紙の産あり。道路は淳昌より来る道路最近改修を見、南方玉果とも自動車を以て連絡し、交通や便となれり。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の剝離による老年期の丘陵性地形を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河岸段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に穀類・麻布・棉花・煙草・蠶等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ慶北豊山・鳴洞の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より来る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線を放射狀に岐み交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には除

【豊山面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南部。郡邑淳昌の南に隣接す。西北方に豊山郡・慶徳山の餘脈西北部に及びて山地を成せども、東部は南流する龍津江右岸の平地にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成す。農産物は米・小麥・大豆・棉花・棉花・煙草・大麻・苧麻等にしてまた舊式の家内工業による麻布・綿布の機械行はれ、淳昌綿布は市場に著はる。其他朝鮮紙の産あり。道路は淳昌より来る道路最近改修を見、南方玉果とも自動車を以て連絡し、交通や便となれり。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の剝離による老年期の丘陵性地形を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河岸段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に穀類・麻布・棉花・煙草・蠶等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ慶北豊山・鳴洞の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より来る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線を放射狀に岐み交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には除

【豊山面】朝鮮全羅北道淳昌郡の東南部。郡邑淳昌の南に隣接す。西北方に豊山郡・慶徳山の餘脈西北部に及びて山地を成せども、東部は南流する龍津江右岸の平地にして地味肥沃、郡中第一の農産地を成す。農産物は米・小麥・大豆・棉花・棉花・煙草・大麻・苧麻等にしてまた舊式の家内工業による麻布・綿布の機械行はれ、淳昌綿布は市場に著はる。其他朝鮮紙の産あり。道路は淳昌より来る道路最近改修を見、南方玉果とも自動車を以て連絡し、交通や便となれり。

【豊山面】朝鮮慶尙北道安東郡の西部。安東邑に西隣す。昭和九年四月、もと豊山面・豊北面と豊西面の一部とを合併新設せし面にて、東西約一五軒、南北は之より稍々短かし。一帯に花崗岩の剝離による老年期の丘陵性地形を成し、洛東江南境を蛇曲流路し沿岸に河岸段丘の發達を見る。耕地は丘陵の緩斜面及び河岸段丘上に發達するも水田は少なし。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機械に従ひまた行商に従事する者あり。産物は大豆・大豆を主とし其他に穀類・麻布・棉花・煙草・蠶等あり。社線朝鮮鐵道北線東西に通じ慶北豊山・鳴洞の二驛（共に昭和六年設置）あり。道路は東方安東より来る二等道路面の略中央を東西に横斷し、豊山よりは更に支線を放射狀に岐み交通比較的便なり。聚落は多く河岸段丘上若くは丘陵南斜面に位置す。主邑豊山には除



をなすも、他は平地開け、櫻川西境を南流す。農業行はれて、米・小麦・大豆を産し、製糖・製材行はる。縣道よく發達し北走するものは流波町に通ず。聚落は北部の丘陵の南麓に發達す。社稷波波鐵道は中央を西北に走り、常陸北條郡(大正七年設置)を置く。この地は和名抄、筑波郡清水郷の内なるべし。多氣大塚の故城にして、中世、北條の地頭が在住したるにより邑名を北條となす。建久年中、八田知家の季子時家、この地の地頭となり、子孫數世相續す。(多氣城址)多氣山にあり、常陸の大塚平良望の孫、維幹の築く所と傳ふ。子孫相續ぎ、七世義幹に至り、府中に移り、爾後小田氏の有となり北條城と稱す。

【北條】千葉縣安房郡にありし町。昭和八年北條町・館山町を廢し、館山北條町を新設す。  
【北條】靜岡縣田方郡山田村の舊地名。いづれ木・四日市邊をいふ。北條氏の起りし所。常陸山行

【北條町】兵庫縣播磨國加西郡の中部。飯路市の東北方一〇軒餘に當る。北條には低き丘陵が西北より東南に連り、其他は東南部と西南部に稍々丘陵ある外は平坦なる低地をなし、加古川の一支流南流す。米・麥・豆・柿等を主要農産とす。産・菓・實等を産し、また製糖品・豆・木製品・竹製品・瓦・皮革製品・履物・魚味・増・鰯等の産物あり。交通の中心に

して縣道各方面へ通じ、飯路市を初め四方の福崎町、南方の加古川町、東北の社町及び東北方の中町へそれ／＼パスを通じ、また社稷播丹鐵道栗生・北條間の終點に當り北條町驛(大正四年設置)を置く。もと酒見北條と云へり。一に北條は播磨風土記に、修布里邑邊郡村とある地にして、北條は品置郡の訛なりと。(住吉神社)大字北條に鎮座。縣社。祭神、底筒男命外四神。元正天皇養老元年の創建といふ。奉祀に往古は國司の崇敬厚く、田圃四十餘町を有し、また保安三年勅令始まり國中第一の神事見物なりしとあり。式内小社に列し、近世は酒見寺(當社)と酒見大明神といふ)と共に六十石を寄せらる。例祭、四月二日・三日。(酒見寺)古義眞言宗。泉生山。高野山東。天平年間行基の地に遊歴し、酒見明神に新念しその靈告により堂宇を創建す。乃ち公田四十餘町を賜ひ、酒見神社(現稱、住吉神社)別當寺となる。平治元年炎上するや、二條天皇勅して堂宇を再建せしめ給ふ。池田氏・木田氏等の尊崇を受け、寛永年間、僧隆中興す。

【北條町】愛媛縣伊豫國温泉水郡の西北。東は正四村に、北は藤波村に、南は河野村に界し、西は窪田に臨む。面積〇・四三方軒。高嶺半島西岸の山麓下に發達せる沖積平地の一部を占む。北境に立岩川流れて水利の便あり。従つて農耕よく行はれ米・麥・豆等を産す。また漁業行は

る。寶城江は海岸に近き寶城面の南境小分水界に發し西部の山地間を曲折北流して順天郡の西部に出でその川筋に中流き平地を造り、また後橋色の東南岸及び得浪河北岸の干潟地は次第に干拓せられつありて共に主要農産地をなす。農産物は麥・米を主とし棉花・苧麻・豆類等あり。水産また少からず。工業に綿布・麻布・苧布・草履表・紙等あり(寶城・後橋・福内里(福内面)・栗浦里(寶城)等には商業行はる。鐵道要全西部線略中部を東西に走りて後橋・寶城等を連れ、また後橋よりは寶城・順天・金池・高興へ、寶城よりは長興・和順方面へ、いづれもパスを通ず。行政上後橋色外十一面に分かれ、人口約一〇・五萬。

【寶城郡】朝鮮全羅南道南部の略中央。北東は順天郡に、南東は大牛島よりなる高興郡に接し、南はその高興半島の西側に灣入する得浪海に臨み、南西は長興郡と、北西は和順郡と界す。面積六六三方軒餘、道内二十一郡中の第七位を占む。小白山脈南西端部の山地にて、北境の望日峰(六八二米)の山嶺は郡の中部に延びて尊帝山(七〇四米)・方丈山(五三六米)となり、尊帝山よりの一山肢は東南境上の斗榜山(四六〇米)に連る。また西境には天鳳山(六〇九米)・碧玉山(四七九米)・日林山(六二四米)等の山峰あり、海に近き日林山・方丈山・斗榜山の間にまた低き分水嶺ありて相連る。ために郡内は得浪海斜面、東北部の後橋浦の小地域及び西部の寶城江流域の三地區に分

る。寶城江は海岸に近き寶城面の南境小分水界に發し西部の山地間を曲折北流して順天郡の西部に出でその川筋に中流き平地を造り、また後橋色の東南岸及び得浪河北岸の干潟地は次第に干拓せられつありて共に主要農産地をなす。農産物は麥・米を主とし棉花・苧麻・豆類等あり。水産また少からず。工業に綿布・麻布・苧布・草履表・紙等あり(寶城・後橋・福内里(福内面)・栗浦里(寶城)等には商業行はる。鐵道要全西部線略中部を東西に走りて後橋・寶城等を連れ、また後橋よりは寶城・順天・金池・高興へ、寶城よりは長興・和順方面へ、いづれもパスを通ず。行政上後橋色外十一面に分かれ、人口約一〇・五萬。

ホーシヨ—寶城

【寶城郡】朝鮮全羅南道南部の略中央。北東は順天郡に、南東は大牛島よりなる高興郡に接し、南はその高興半島の西側に灣入する得浪海に臨み、南西は長興郡と、北西は和順郡と界す。面積六六三方軒餘、道内二十一郡中の第七位を占む。小白山脈南西端部の山地にて、北境の望日峰(六八二米)の山嶺は郡の中部に延びて尊帝山(七〇四米)・方丈山(五三六米)となり、尊帝山よりの一山肢は東南境上の斗榜山(四六〇米)に連る。また西境には天鳳山(六〇九米)・碧玉山(四七九米)・日林山(六二四米)等の山峰あり、海に近き日林山・方丈山・斗榜山の間にまた低き分水嶺ありて相連る。ために郡内は得浪海斜面、東北部の後橋浦の小地域及び西部の寶城江流域の三地區に分

ホーシ—ホーシ

れ國・嶺等の産あり。市街は西北部に開け、中央を縣道南北に走りて南方松山市に連絡す。その東方を省線豫讃本線經貫し伊豫北條驛(大正十五年設置)を置く。町はまた漁港をなし商工業を營む。昭和十年の人口五一〇三人、一方軒密度一七八七人を示し非常に稠密なり。此地は和名抄、風早郡高田郷の内なるべし。河野新大夫親經の父親孝は北條大夫と稱す、此處に在名を稱せしもの。北條氏は物部氏の族にして、鶴知氏の一流なり。明治三十一年に町制を布く。附近はいま海水浴場として知らる。北條港は内務省指定港灣たり。萬葉卷十五に見ゆる風早の浦は此の地の海岸なるべしといふ。「吾か故に妹歎くらし風早の浦の沖邊に露たなびけり」

【北條町】彭城面。朝鮮京畿道振威郡の南部。平澤面の南西に隣り、南は忠清南道牙山郡忠浦面・天安郡成歡面と接す。東西約一〇軒、南北五・六軒。一畝畝の平澤平野中に位し、處々に起伏する丘陵も最高四〇米程度に過ぎず。安城川は北境を環流し、西北境に至り著しく河淵を増し次で南方に曲流す。米・麥・大豆・蔬菜・柿・楓等の農産多く之等の産物は平澤邑に於て集散せらる。平澤・牙山間三等道路東北・西南に通じてパスの便あり、交通不便ならず。本面は昭和九年四月、もと西面・芙蓉面を合併して新設せしものに係る。

【北條町】朝鮮京畿道振威郡の南部。平澤面の南西に隣り、南は忠清南道牙山郡忠浦面・天安郡成歡面と接す。東西約一〇軒、南北五・六軒。一畝畝の平澤平野中に位し、處々に起伏する丘陵も最高四〇米程度に過ぎず。安城川は北境を環流し、西北境に至り著しく河淵を増し次で南方に曲流す。米・麥・大豆・蔬菜・柿・楓等の農産多く之等の産物は平澤邑に於て集散せらる。平澤・牙山間三等道路東北・西南に通じてパスの便あり、交通不便ならず。本面は昭和九年四月、もと西面・芙蓉面を合併して新設せしものに係る。

【北條町】朝鮮京畿道振威郡の南部。平澤面の南西に隣り、南は忠清南道牙山郡忠浦面・天安郡成歡面と接す。東西約一〇軒、南北五・六軒。一畝畝の平澤平野中に位し、處々に起伏する丘陵も最高四〇米程度に過ぎず。安城川は北境を環流し、西北境に至り著しく河淵を増し次で南方に曲流す。米・麥・大豆・蔬菜・柿・楓等の農産多く之等の産物は平澤邑に於て集散せらる。平澤・牙山間三等道路東北・西南に通じてパスの便あり、交通不便ならず。本面は昭和九年四月、もと西面・芙蓉面を合併して新設せしものに係る。

ホーシヨ—望城

【望城面】朝鮮全羅北道望城郡の北部。北境の東中は忠清南道論山郡江景邑・彰雲面に境し、西半は錦江を隔て、扶餘郡世遺面に對す。面積三二方軒餘。全北平野の北部にて、東部と中部に巾狭き低き臺地南北につづく外は面内到處低平にて、江景川とその支川は東部・中部を北流し、西北境には松亭江ありて田畑よく拓け、米の産多く、棉・麥等をも出し、吠の製糖行はる。鐵道湖南本線の江景驛に近く、江景・鳴山間の道路中部を南東に走り交通便利なり。

ホーシヨ—鳳城

【鳳城面】朝鮮慶尙北道奉化郡の略中央部。郡邑乃城面の東北隣にて土地南北に長く、面積六六方軒餘あり。大白山脈の文殊山(一一〇六米)北境に聳え、北半部はその南側の傾斜面にて山地深きも中部以南は二三百米の丘陵地多く、北東部山地に發する乃城川の上支中部を西南流して乃城面に出で、その川筋と、南部の支谷に幅狭き低地あり。米・麥・豆・柿・大麻・莞草等の農産あり。乃城・英陽間の二等道路は中部を、乃城・英陽間の三等道路は南部を横ぎり共にパスの便あり。

【鳳城面】朝鮮咸鏡南道徳源郡の中部。元山府の西南南約一五軒、南は豊下面、東南は江原道伊川郡に、北は文川郡、西は平安南道陽徳郡・黃海道谷山郡に接す。東西一八一二〇軒、南北一〇一七軒、面積約三〇〇方軒。馬息嶺山脈東北・西南に走り、北境に頭流山(一三二四米)・徳谷山聳立し、東北境に馬息嶺・伏回嶺等、南境には高年嶺・梨徳山等連り、城内にも華蓋山・五峰山・細谷山・馬岩山等聳まりて低地に乏し。北部山地に臨津江發源し中部を南流す。産物に大豆・大麻・苧・牛・木炭等あり。北部に元山平壤間の一等道路東西に走り馬息嶺及び西北境阿茂嶺の嶺を越えてパス通じ、途中より南走して伊川に至る道路を設つも、交通は便ならず。ほは中央の互里は一中心をなし、市場あり、年

【鳳城面】朝鮮咸鏡南道徳源郡の中部。元山府の西南南約一五軒、南は豊下面、東南は江原道伊川郡に、北は文川郡、西は平安南道陽徳郡・黃海道谷山郡に接す。東西一八一二〇軒、南北一〇一七軒、面積約三〇〇方軒。馬息嶺山脈東北・西南に走り、北境に頭流山(一三二四米)・徳谷山聳立し、東北境に馬息嶺・伏回嶺等、南境には高年嶺・梨徳山等連り、城内にも華蓋山・五峰山・細谷山・馬岩山等聳まりて低地に乏し。北部山地に臨津江發源し中部を南流す。産物に大豆・大麻・苧・牛・木炭等あり。北部に元山平壤間の一等道路東西に走り馬息嶺及び西北境阿茂嶺の嶺を越えてパス通じ、途中より南走して伊川に至る道路を設つも、交通は便ならず。ほは中央の互里は一中心をなし、市場あり、年

【鳳城面】朝鮮咸鏡南道徳源郡の中部。元山府の西南南約一五軒、南は豊下面、東南は江原道伊川郡に、北は文川郡、西は平安南道陽徳郡・黃海道谷山郡に接す。東西一八一二〇軒、南北一〇一七軒、面積約三〇〇方軒。馬息嶺山脈東北・西南に走り、北境に頭流山(一三二四米)・徳谷山聳立し、東北境に馬息嶺・伏回嶺等、南境には高年嶺・梨徳山等連り、城内にも華蓋山・五峰山・細谷山・馬岩山等聳まりて低地に乏し。北部山地に臨津江發源し中部を南流す。産物に大豆・大麻・苧・牛・木炭等あり。北部に元山平壤間の一等道路東西に走り馬息嶺及び西北境阿茂嶺の嶺を越えてパス通じ、途中より南走して伊川に至る道路を設つも、交通は便ならず。ほは中央の互里は一中心をなし、市場あり、年

ホーシヨ—法性

【法性寺村】朝鮮江原道旌善郡の西部。未原町の北に接し、西は琵琶湖に面す。地形極めて平坦にして、南境に沿ひ天野川西流して湖に注ぐ。農業を主とし主産物には米・苧麻・食用蛙・筍等あり。縣道及び省線北陸本線通過し、後者の法性寺驛(昭和六年設置)あり。湖上舟運の便また良し。奈良時代の頃、木村の地内の法性寺と稱す。大寺ありて南都興福寺に屬せり。明治二十二年町制實施の際、字賀野・飯・世繼・長澤の四村は合して舊寺名に因み法性寺村といへりといふ。山内一豊の妻女は木村出身なりといふ。(明治天皇長澤御小休所)指定史蹟。大字長澤の福田寺にあり。明治天皇北陸東海御巡幸の際十二年十月十一日御小休せられし處。(坂田宮・岡神社)大字宇賀野に鎮座。郡社。祭神、天照皇大神。延喜式内社と傳ふる岡神社(祭神豐受毘賣命)と岡殿に傳ひます。兼仁帝の御宇、倭姫命の天照大神御座の地を求め遷り給ひし時、近江甲可の日雲宮に次いで岡殿坂田宮に二年留りましこと倭姫命世記に見ゆ。本社創立は、に始るといふ。江戸時代藩主井伊氏の崇敬あり、坂田一郡の總社とせられ、一に坂田大神宮とも云へり。例祭、四月十六日。(福田寺(長澤御坊))大字長澤にあり。眞宗本願寺派。布施山。俗稱、長澤御坊。寺傳に白鳳十二年勅命により息長宿禰の祖これを開創し、

もといまの西黒田村園原の地にありしといふ。寛平六年宇多天皇、菅原道真を遣はして太政官符を賜ふ。爾後歴朝の尊崇厚し。延文年間現地に移す。延徳年間運如此地に駐錫すること三年、自ら壽像を留む。元龜二年、第十一世覺範、本願寺十一世顯如の命を奉じ領主淺井氏に屬し織田氏に拮抗す。而して淺井長政の遺子第十二世を嗣ぎ正壽と號す。寶曆年間本願寺十七世法如の第五子本寺に入りてより遷枝地となり長澤御坊と稱せらる。明治三十八年本願寺派別格別院となる。

ホーヨーシ 法成寺村 法成寺村は、廣島縣西國津安郡の西部、福山市を距る約八軒の西北山中に在り、東は下加茂村、他の三方は廣島郡に接す。面積三・六三平方軒。略々圓形の地形を有し概ね丘陵高地に在るも、南部に隣村より接續する蘆田川の沖積平野あり。附近に耕地多し。山地には鐵及び木炭・薪材等を産す。農業最も盛んにして米・麥・蕎麥の産多し。省線福南線の驛家驛に約二軒、利用の便あり。もと東法成寺・西法成寺の二村に分れしが、明治二十二年に合併して法成寺村となす。下加茂村と組合村をなし下加茂村に役場を置く。

ホーシン 鳳津面 朝鮮平安南道江東郡の北部、江東面の西北に隣り、東は成川郡通仙面と界す。昭和四年にも馬山面・鳳池面各一圓及び高泉面・古邑面の各一部を合併して新設せしものに係り、同年六月末の鎮夫數は五十六人、現在日本鐵業會社の經營に屬す。

ホーセコ 寶迫嶺山 鹿兒島縣大島郡東天城村にある重要嶺山。嶺約四八萬坪、鐵種は金銀銅なるが、昭和十年には銅二、四〇〇噸(價額五萬餘圓)を出し、同年六月末の鎮夫數は五十六人、現在日本鐵業會社の經營に屬す。

ホーセツ 寶節面 朝鮮全羅北道南原郡の北部、南は郡邑南原邑との間に王峙面を挟み、北は長水郡の南西隅を占むる山西南面に隣る。土地南北にや、長く小白山脈とその支脈の山地にて、東境中部には天皇峰(九一〇米)峙ち、面の東半部は傾斜急峻の山地をなし、西半部はその山麓の緩傾地帯に屬して耕地拮げ、特に西北境の城山(三七九米)、西南境の龜龍山(三八八米)の間に低平の地あり。農産に米・麥・大豆・棉等あり。養蠶も行はる。郡邑南原に至る道路西部の低所を南北に通ずるも交通は便利ならず。

ホーセン 抱川郡 朝鮮京畿道の北部、東は加平郡、南と南西は楊州郡、北西は漣川郡に隣り、北東は江原道の鐵原・金化・春川三郡に界す。面積八二〇方軒。土地や、南北に長く四境山地ありて自ら一地域をなす。東境には白雲山(九〇四米)・國翠山(一一六八米)・清溪山・雲岳山・鶴金山等北より南に連り、西境には南部に天寶山、その北方に海龍山・鍾岳山等五百米蓋の山嶺あり、北部には鳴城山(九二三米)・觀音山(七三三米)・佛舞山・寶藏山等東西に並立す。またその

ホーセ—ホーソ

ホーセン 豊川面 朝鮮慶尙北道安東郡の西部、洛東江中流の南北に跨り南西は義城郡新平面に、北西は醴泉郡知保面・虎鳴面に隣り、安東邑を距る西方約

ホーセン 鳳泉 鳳泉は南部の西面新邑里に置かる。

ホーセン 鳳泉 鳳泉は南部の西面新邑里に置かる。

ホーセン 鳳泉 鳳泉は南部の西面新邑里に置かる。

ホーセン 鳳泉 鳳泉は南部の西面新邑里に置かる。

ホーセン 鳳泉 鳳泉は南部の西面新邑里に置かる。

ホーセン 鳳泉 鳳泉は南部の西面新邑里に置かる。

り、東西約一三軒、南北は七一〇軒あり。東部は四一五米の山地にて東北境に玄明山(五二八米)、東南隅に鸞峰山(五三三米)、他に黒岩峯等聳え、西方に急傾斜し、中部以西は百一二十米の丘陵處々に起伏す。大同江は玄明山西麓にて沸流江を容れ、次で中部を東北一西南に貫流し、流域に平地ひろく。米・小麥・大豆・粟・蕎麥・棉花・繭・大麻・栗等を産し、養蠶特に盛にして江東面は有名なり。西北部を倉人場・重川間の道路通じパスの便あり、江東邑にも道路通じ、大同江には舟楫の便あり。

ホージン 豊仁 北鮮東部線の一驛(昭和六年設置)。朝鮮咸鏡北道穩城郡美浦面にあり。

ホーイズ 保津村 京都市丹波國南桑田郡の東北部、山陰線嵯峨驛と龜岡驛との中間はメアングラをなす保津川の溪谷にして、鐵道は八箇のトンネルを以て此の地帯を通過す。この溪谷こそ保津村の地域なり。凡そ龜岡の北方保津川以北愛宕山塊を其の區域とす。地形上、北方山地帯と南西部低地帯との二區に分たる。其の境界線をなすものは第三紀頃活動せる一大斷層線にして、山地の西斜面は一の斷層崖なり。北方山地は古生層より成り、保津川の溪谷を跨り、南方鳳山山地に連續す。保津の繁華は殆んど斷層崖下の臺地に一大集村をなして立地し、保津川沿岸の平

地には繁落を見る事少きも、本村が古來丹波より木材を京都に下す筏の集散地たる關係上河岸近くにも發展せしものなるべく、西垣内は其れなり。延喜式に記載せる丹波國瀨頭津は此地と言はれ、平安京當初より既に流筏業行はれしものならん。保津川の舟下りとは、普通龜岡の北方保津橋下より鳳山迄、約一二軒の間を高瀬舟にて下るものにして、普通二三十人乗一棹に舟夫前部二人、後部一人にて巧に棹にて棹舟、巨巖の間を縫ひ急瀬を飛沫を擧げて乗切るものなり。其の下り所要時間約一時間十分にて鳳山大悲閣下に達す。此の保津峽間鑿が慶長の大土木家角倉了以の手に成りしは、よく世人の知る所。村内に滿傳の鑛山二あり、何れも二萬餘坪の鑛區を有し、一は古くより採掘せられ、他は昭和十年より採掘せられしが、現在のところ何れも微々たり。

【保津川】 桂川

ホーセー 法聖面 朝鮮全羅南道靈光郡の北部、靈光面の北隣にて東北は全羅北道高敞郡孔骨面に隣る。鳳嶺山脈南西端部に當り、高さ二百米内外の丘陵起伏するもその間所々に小低地ありて田畑拮げ、米・麥・豆・棉花等の農産の外に蠶・叭等の手工品を出し、北西端の法聖浦は西隣白嶺面と北隣弘農面との間に位置する灣岸に依りて漁港をなし定期の開市には商業榮ゆ。法聖浦より靈光へは二等道路、東北方高敞へは三等道路通じて、

二〇軒なり。昭和九年省製南面に省製西面の大部分を合併して建てし面にて、面積九〇方軒を越す。洛東江は中部の花山(約三〇〇米)の東南西の裾を環流して西に流れ、面を南北に分つ。南部は舊豐南面の地にて至る處三―四百里の山地をなし、たゞ西北部の江岸低地に耕地拮げ、北部は舊豐西面の部分にて花山を除けば百米位の丘阜起伏するのみにて概ね平坦にして、田畑よく發達す。米・麥・豆・棉等の農産あり。東北隅豐山に出づれば安東・醴泉街道にはパスの便あるも、面内の交通はなほ便ならず。

ホーセン 寶泉村 群馬縣上野郡新田郡の中部、太田町の西南隅にて、西は木崎町、南は尾島町と隣す。全村平地にて、水田・畑地多く米・麥を主産し、養蠶も行はる。縣道は太田町・木崎町・尾島町に通じ社線東武鐵道伊勢崎線は南部を西走し、細谷驛に近し。大字田島は近世、岩松氏の新田館のありし所。新田系圖によれば岩松時象の末子、又太郎經國を田島と稱す。經國の住せし館か。大字山良は新田氏の族山良氏の居りし所。太平記・岩松文書等に山良氏の名見ゆ。大字脇屋は新田經良の弟、義助が脇屋次郎と稱し、住せしところ、子孫また脇屋氏を稱せり。

ホーセン 寶泉寺 省線宮原線の一驛(昭和十二年設置)。大分縣玖珠郡南山田村大字菅原にあり。

ホーセン 寶泉寺 省線宮原線の一驛(昭和十二年設置)。大分縣玖珠郡南山田村大字菅原にあり。

ホーセン 寶泉寺 省線宮原線の一驛(昭和十二年設置)。大分縣玖珠郡南山田村大字菅原にあり。

ホーセン 寶泉寺 省線宮原線の一驛(昭和十二年設置)。大分縣玖珠郡南山田村大字菅原にあり。

ホーセン 寶泉寺 省線宮原線の一驛(昭和十二年設置)。大分縣玖珠郡南山田村大字菅原にあり。

ホーセン 寶泉寺 省線宮原線の一驛(昭和十二年設置)。大分縣玖珠郡南山田村大字菅原にあり。

スの便あり、交通不便ならず。

ホーセー 報青川 朝鮮忠清北道東部の河。錦江支流。龍恩郡の西北部なる九龍山(五四四米)東麓に發源し、東方俗離山に出づるも其他郡内の諸水を聚めて南流し、次で沃川郡内を南西に流れ下流に於て著しき蛇入蛇曲をなすつ沃川郡普城面西境にて錦江に合す。流域約六〇軒。山地を曲流するを以て流域に廣闊なる平地少なく、舟楫の便また乏し。

ホーセー 鳳西面 朝鮮黃海道延白郡の中西部、鳳北面の西に隣り、東南は延安面に西は海龍面に接す。南北に長く約一〇軒、東西三一五軒あり。東南隅に飛鳳山(二八二米)聳え、北部に百一二十米の丘陵起伏し東北境最も高く西及び南に低夷し、中部以南と西部とは概ね低平にて西南部の高麗五八米の小丘や著はるのみ。水利組合事業發達して農耕盛に行はる。米・小麥・豆類・棉花・果實等の農産多し。南部に社線朝鮮鐵道海城と京城・海州間二等道路は並行して東南一西北に延じ、前者に鳳西驛(昭和六年設置)あり。南部に天然記念物として指定さるる延安ツル波來地あり。

ホーセー 寶生嶺山 朝鮮咸鏡南道定平郡高山面にある嶺山。鐵種は金銀銅鉛亜鉛なるが、昭和十年には金銀一、〇三四噸(價額一萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員は一六七人、現在三菱鐵業會社の經營に屬す。

ホーロー 安房 上総・下總の三國の稱。【房總半島】 關東地方東南部の半島。東及び南は直接太平洋に面し、西は東京灣及び浦賀水道に臨む。北方のみ關東の關體部に續く。關體部との境界はほぼ千葉市―片貝町を連ぬる線なり。行政上凡て千葉縣に屬し、上總及び安房二國を包含するため房總なる地名生ず。半島は一帶に低山性の地形をなし、地質構造上、西方の三浦半島と、もと陸続きなりしが、浦賀水道の掘削によりて分離し、半島となるものなり。本州島太平洋沿岸の三大半島の一にて、他に伊豆・紀伊半島と共に通過の景観の所少なからず。

【房總東線】 省線神武線の一部。千葉縣にあり。總武本線の千葉驛より蘇我驛を過ぎ、房總半島を横斷して大網・茂原・上總一ノ宮・大原・勝浦・上總興津・安房小湊・安房天津等、太平洋岸の諸驛を経て安房鴨川驛に至る(九三・六軒)。この線と房總西線とを直通して房總半島循環運轉をなし、約六時間にして一周す。沿線各地は冬暖夏涼、避暑遊樂地として著はれたる温泉類の促成發達を以て知らる。〔主要接続線(及び連絡線)〕(千葉)總武本線。(蘇我)房總西線。(大網)東金線。(茂原)社線南總鐵道。(大原)本原線。(安房鴨川)房總西線。

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

【房總西線】 省線總武線の一部。千葉縣にあり。房總東線の蘇我驛より分岐し、

ホーソ—ホーテ

ホーソ 水東津・大貫・保田・安房北條等の房総半島東海岸諸郡を経て太平洋岸に出で安房鴨川に至る(一九・四軒)。この線と房総東線とを直通して房総半島諸郡をなす約六時間にして一周す。沿線各地は避暑地として知らる。(主要接続線及び連絡線)(蘇我)房総東線(五井)社線小湊線(水東津)久留里線(安房鴨川)房総東線

ホーソ—シヨマエ 放送所前(昭和七年設置)京城市西橋町にあり。

ホーソノ 祝園(京都府相楽郡)にあり。昭和六年木村と和名抄、相楽郡祝園(波布曾乃と訓す)の地とす。

ホータ 芳田村(兵庫縣播磨国加西郡)の東北隅。北緯町の東北約五・五軒に位し、北と東は多可郡、東南は加東郡に接す。東北には約一五〇米の丘陵連り東北第一帯も丘陵によりて隔まる。北方より流れ来る加古川支流は中央を貫きて東南流し沿岸に平野開け、東北部に中央に南方へ通ずる僅少な低地ありて沿岸平野と連絡す。米・麥類・食用農産・蔬菜・花卉・繭・果實及び鶏卵・木製品・薬製品・竹製品・漆・木材・林産品・沿岸漁獲物の産物あり。西部には南北に縣道通じ、社線播磨中村線(東北約六軒)ハスの便あり。本村の地は風土記

託賀郡に見ゆる法太里の内にして、和名抄に多可郡に属す。本村の地なるべし。

ホータク 飽託郡(熊本縣肥後國)の西部北端。熊本縣十二郡の一。隼川河口右岸に位し白川流域及び金峯山麓を含み、中部より南部にかけて熊本市を挟む。西北部は金峯山麓が横り、郡境に熊ノ嶺(二ノ岳、六八五米)聳え、其南に金峯山(六六六米)が秀麗なる山容を呈す。東部は阿蘇火山麓の臺地、其他は概ね平坦にて熊本平野の一部をなす。東方より来る白川は熊本市を貫きて中央を西々南流し河口近く坪井川を合流し島原海灣に入る。東南方より来る隼川は西南境に沿ひて略西流し同じく島原海灣に注ぐ。海岸は砂濱にして遠くまで淺瀬をなす。耕地は少く、農産物は米・麦・大豆・豆類・蔬菜・果實・繭・鶏卵等あり。郡内は小島町・高橋町・川尻町の三町外三十二箇村を含み、一方新人口密度四一三人、最も多きは高橋町の五、四二六人にして、最も少きは川尻町の一〇九人を算す。鹿兒島街道は熊本市を貫きて中央を南北に縦斷し、熊本市を中心として之より東北方高池郡限府町方面へ至るもの、東南方同郡大津町方面へ向ふもの、東方の上益城郡木山町へ至るもの及び同郡新船町方面へ至るもの等ありて本郡を貫く。省線鹿兒島本線は熊本市を通過して郡の中央を南北に走り、熊本驛よりは省線豊肥本線が分れて東方に走り、同驛より西岸の

れ灌漑の利多し。内には田畑よく拓け、米を主として、外に麥・大豆・棉等の農産あり。裡里・釜禮里より大田方面への道路は南部を横ぎり、またこれより全州への道路分岐し交通不便ならず。

ホートク 豊徳面(朝鮮平安南道) 徳川郡の東北端。徳川面の東北に接し、東は寧邊郡太極面・寧邊面と、北は平安北道寧邊郡百道面と界す。東西約一五軒南北約一〇軒。北部は妙香山脈に属する山地にして、東北境に寺項山(九九一米)聳え、山脈南走して享谷山(六四六米)を起し、西北境に九六七米の山あり南に延びて豊徳山(七二八米)を築立せしむ。大體に於て南方に低夷するも、南境にも三―四百里の山連り三峰(四九五米)・鐵馬山(四九四米)・徳州嶺(三四二米)・直隴嶺(三二八米)等あり。北部山地に三條の川發して、南境近く曲流する大同江に入り、沿岸に狭長なる平地ひろく、米・大麻・大豆・小豆その他の雜穀、及び大麻・檀草等を出し、蔬菜は白菜多く良質を以て知らる。南部に新安州・咸興間一等道路通じ徳川・寧邊等にハスの便あるも、中部以北は交通不便なり。

ホーナイ 保内村(新潟縣越後國) 岩船郡の西南部。荒川の左岸。岩船町の東北約七軒にあり、南は北浦原郡に界す。東南半は五七〇米の丘陵略中央へ傾斜し、西北半は荒川の沖積平野に属し、数條の分流により灌漑の便よし。水田・

百貫石及び南部の川尻町へは社線熊本電氣軌道線あり、また熊本市内の豊肥本線春竹驛より東南方には社線熊延鐵道が延び、鹿兒島本線の上熊本驛よりは東北方へ向ふ社線菊池電氣軌道あり、熊本市を中心にして交通の便よく各道路はハスの往來繁し。明治十三年五月飽託・託賀二郡の中より熊本區獨立し、同二十九年四月に至り前記の二郡相合して飽託郡と稱す。

ホータツ 寶達(石川・富山兩縣界に聳ゆる山) 能登半島の頭部に位置し標高六三七米、半島第一の高峯にて海岸より急に六百餘米を抜くために風に晒され、山頂の寶達御前には四周に土垣を繞らし、うち手連比咩神社を祀る。山中に葛及び藥草を産す。東側三二〇米の地點に樽見瀧ありY字型に二條の瀧懸り、合して子浦川となり、末は羽咋町の西に於て海に注ぐ。石川縣側の登山口は省線七尾線寶達驛に下車して東方約四軒の麓町寶達より登るを便とす。寶達は東方二軒までは驛より人車鐵道が敷設され、この地域に於ける鑛石・石灰岩の採出に供ふ。富山縣側の登山は省線北陸本線福野驛にて下車し、瀧谷・澤川の諸部落を経て梨木峠に出で、鶴坂を経て登る。山上の展望絶佳なり。

「寶達」省線七尾線の一驛(明治三十一年設置)。石川縣羽咋郡北莊村にあり。

ホータン 峰潭面(朝鮮京畿道水原) 奉恩共に開け、米・繭の産多し。荒川には漁業も多少行はる。省線羽越本線西北部を北走し坂町驛(大正三年設置)あり、之より荒川の谷に沿ひて東方へ省線米坂線を分岐す。縣道また四通し羽前今泉町へ至るハス通ず。この地は和名抄、豊船郡坂井郷の内なるべく、近世は何保かの内なりしものなるにより保内の名生ぜしものと思はる。

ホーナン 鳳南面(朝鮮全羅北道) 金堤郡南部の中央。昭和十年舊草處面と下龍面の大部分とを合併して新に建てし面にて、北は鳳山面に隣り、北西隅は金堤邑の南境に接し、南は井邑郡甘谷面と界す。全北平野の一部にて、南部と北境に三〇米内外の高處ある外は悉く低平にして、院坪川中部を潤し、その支流斗月川北西部を灌ぎ田畑廣く連る。農産には金堤米の稱ある米を主とし、棉・麻等あり、叭の製織行はれ、殊に東隣金山面に亘りては有名なる金堤砂金鑛の鑛區をなし金(約二〇〇萬圓)・銀の産出あり。金堤邑内の鐵道湖南本線金堤驛に近く交通便利なり。

ホーノツ 坊ノ津(西南方村) 高森線の地稱。九州中部を横斷す。豊肥本線(一四八・〇軒)は鹿兒島本線熊本驛を發して東に向ひ立野驛より阿蘇山の北

原部のほぼ中央。水原邑の西南約八軒。南北約一軒あるも、東西は北部にて約五軒、南部にてその半ばあるに過ぎず。西境に建達山(三三七米)あり山麓南北に延び、東南境には樓山山麓、山麓北方に延ぶ。北半は比較的低下にして、ここを灌漑して女帝灣に入る川の流域に耕地ひろげ、また建達山東麓に發する川は南流して汾郷灣に注ぐ。米・麥・豆類・蔬菜等を主産す。中部を南北に水原・發安場間の道路走り、北境を社線京東鐵道水原線がすめて、交通やや便なり。

ホーチュー 坊中(省線豊肥本線の一驛(大正七年設置)) 熊本縣阿蘇郡黒川村にあり。阿蘇登山ハスの起點なり。奉化郡の略中央部。西は郡邑乃城面との間に鳳城面を隔て、北は春陽面に隣る。土地や、東西に廣く面積約八〇方軒。王頭山(一〇四四米)の東南麓東境を南方に延び東南隅に梅津山(五〇八米)を起し、西境に加富時の南端のびて五百米臺の高地をなし、中部にも四一五百里の山地ありて面を東西の二區に分つ。北隣春陽面より来る清東江の支流は東部の谷を南に貫き、それに合する支流は西部の低地を東南流し、共に南隣明湖面に出づ。以上二川に沿ふ地には耕地拓けて、米・麥・豆・棉等を産す。乃城・春陽・發安場間の二等道路東西に走りハスの便あり。

ホーデン 法典(千葉縣東葛飾郡) 郡火口原を過ぎて九州山脈を横斷し、大野川に沿うて北に進み別府海岸の日豊本線大分驛に至る。高森線(一七・七軒)は立野驛より分岐し白川に沿うて阿蘇山の南部火口原を走り高森驛に至る。

「豊肥本線」 豊肥線(豊肥本線) 豊坪面(朝鮮江原道平昌郡の西北部) 郡邑平昌の北方約二〇軒。東西約一三軒、南北約二〇軒、面積約二二四方軒。城内一帯に山地にして北部は最も高く、興亭山(二七七米)あり、西境に泰岐山(二二六一米)、南境には大美山(二二三二米)聳ゆるも、中部は稍々低し。平昌江北部山地に發する東南流し沿岸やや平地ひろく、粟・玉蜀黍・米・麥・大豆等を産し、養蠶・牧牛・養雞等も行はる。中部に横城・珍富間道路通ずるも交通不便ならず。主邑吾洞里は中部東端の小盆地中に位し、定期に開く市場あり。

ホーフ 防府市(山口縣大市の一) 縣の南部に位し、鐵路下關より二時間、廣島へ二時間半の距離にあり。東境に大平山(六三一米)、北境に矢筈岳(四六〇米)聳え、また西方遙かに右田岳・櫻殿寺山等の秀嶺を望み、南は瀬戸内海に面す。これ等山地は東北部の一小部分に限られ、他は即ち縣下第一の廣表を有する防府平野の大部分を占め、地勢平坦にして土地頗る開闢なり。中國山脈に源を發する佐波川は西北境を劃して流す。昭

ホーテ—ホーフ

ありし村。昭和十二年、船橋市に編入さる。

ホーデン 寶殿(省線山陽本線の一驛(明治三十三年設置)) 兵庫縣印南郡未田町にあり。

ホーデー 鳳東(朝鮮平安南道价川郡の東南部) 昭和十年三月、もと順川郡鳳鳴面一區及びもと价川郡外東面の大部分を合併併設せし面にて、南は順川郡、東は徳川郡に接し、東西一五軒に近く、南北は西部にて約八軒、東部にて約一八軒あり。城内山岳重疊し、東北境に葛仁峰(一〇八八米)、北部に五峰山・姑射山(一〇二二米)等聳え、東南部にも八一九百米の山嶺連る。中部を大同江東より西へ貫き姑射山の東南に盆地あり、これと同山の西南麓とに平地ひろげ、農耕行はる。米・粟・大豆・棉花・繭等を産す。江岸に沿ひ道路通ずるも交通不便なり。

【鳳東】 朝鮮地督府鐵道京義本線の一驛(大正十二年設置)にして、新聞紙の到着に限り著驛す。朝鮮京畿道開豊郡進風面にあり。

【鳳東面】 朝鮮全羅北道完州郡の北西部。全州府の北方約一二軒に位し、これと草浦面を隔て、西は益山郡王宮面と界す。面積四六方軒餘。全北平野の北東部に當り、北東境上に鳳寶山(三七〇米)の脈連互し土地南西に緩く傾くも一般に低平にして特に南東部は平坦なり。萬頃江の上流高山川とその支流、を南西に流

和十二年現在の人口は五四、四一五、面積六四・四八万坪、一方坪の人口密度は八四四人弱にして、都市としてはその密度未だ小なるも、これを同地域に於ける昭和十年度の四〇、四五六人に比すれば一三、九五九人の膨脹にして相當なる發展といふを得べし。氣候は最高は平均八月三二・二度、最低は平均十二月一・二度、年平均一七・一度にして概して温暖なり。産業中その首位を占むるものは工業なり。地形上頗る有利なる位置を占むるを以て近年工業都市として愈々膨脹を見せつ、あり。殊に人造絹織の産出頗る多く昭和十二年度（以下何れも同年度の産額を以てす）の産額約九百萬圓、それに亞ぐば人造絹織にて約二百萬圓あり。他産（約二百萬圓）・鐵器（約八十萬圓）・清酒（約六〇萬圓）・織製品（約三十萬圓）・醤油（約二十萬圓）・菓子類（約二〇萬圓）等各種類に亘る。農業は廣大なる平野を有するを以て頗る發達し、農作者戸數三、二五六にて全戸數の三割強を占む。農業中、米産は最も多くして約五萬四千石、價格約百七十萬圓とし、甘藷（約三萬圓）・生大根（約三萬圓）・馬鈴薯（約二萬圓）・胡瓜・里芋・玉葱・漬菜等何れも相當量の産あり。また氣候溫暖なるを以て果樹の栽培も行はる、も蜜柑の約三萬圓を除きては餘り見るべきものなし。養蠶は同戸數九十戸、且つ何れも副業的に行はれその産額は甚だ微々たるもの

なり。畜産は牛・馬・豚何れも飼養せらる、も何れも生産額尠くなく、僅に豚の年生産三八三頭を見るのみ。養鶏は近年頗る盛となり、飼養戸數百戸、羽數三萬羽にして年生産額二萬六千圓とす。海岸線長く且つ良港灣を擁するを以て漁業盛んに行はれ、漁撈・製鹽・養蠶等の業主總數六三二、被養者總數は五六〇あり。沿岸漁獲物は頗る多種多様に亘るも、海老（約八萬圓）・トリカヒ（約七萬圓）・鯛（約三萬八千圓）・草魚（約一萬五千圓）・烏賊（約一萬圓）等をその最たるものとし遠洋漁獲物としては比目魚（約九萬圓）・鯛（約七萬圓）・鰯（約一萬六千圓）・鱈（約一萬三千圓）等あり。水産製造は盛んにして蒲鉾は三十萬圓を超え、海老の煮乾も相當量出つ、あり。附近は鹽田多く三田尻の産地として知らる。交通は山陽本線中部を東西に走り、三田尻驛（明治三十一年設置）を置き、宮野驛（同治三十二年設置）を置き、宮野驛より社線防石鐵道を分岐し、城内に同防衛市・給本・人丸の三驛（給本驛は大正九年設置、他は大正八年設置）を置き、また三田尻驛にて省營自動車防長線と接続す。國道山陽街道は東方より山陽本線と平行し來り、市の中央より北折し佐波川を渡り城外に出づ。本市一帯の地は往昔景行天皇の御代既に周防國の所屬なり。大化二年周防の國府を此地に定めしを以て後世防府または府中と呼べり。室町時代大内氏の所領たりしことあるも、弘治三年毛利氏の領

有する所となり、爾來廢藩に至るまで累代毛利氏の所領たりしなり。明治元年百較の制度釐革せられ、同四年廢藩置縣となり、その後郡區町村編制法施行の際、半禮村・江泊村・佐波村・三田尻村・田島村・濱方村・向島村・仁井令村・植松村・伊佐江村の十ヶ村に區分せり。明治二十二年町村制實施の際、右十ヶ村を合併し半禮村・佐波村・三田尻村・中關村・華城村の五ヶ村とし、總て同三十五年佐波村・三田尻村を合併して防府町を置き、大正十五年に中關村を中關町と改稱す。防府町を中心とせる是等隣接町村は藩治時代より其の管轄を同じくし、其の利害を等しくするを以て時運の推移に伴ひて合併の急務を感じ、昭和十一年防府町・中關町・半禮村及び華城村の二町二ヶ村を廢し、其の地域を以て新たに防衛市を設置せらる。市の大字三田尻の三田尻港は市街より少く東に離るるも古來山陽道の要津たり。大字宮市は長崎街道の宮市宿の地。幕末の勤王家、伊藤百合五郎（龍從五位）・福田理兵衛（龍從五位）は此地の人なり。

御嶽神社は桑山の東方中腹、塔尾にありしが、それと知らず、天明五年、雲霧公が其地に納涼臺を建てし時、古墳に掘當りし銅鏡一面のみを獲し、貴人の舊家なりと判り鏡一面のみを獲し、其他の古器は石匠を新造して納め山頂に埋め小祠を建てたり。明治三十五年十月に至り來目皇子の御嶽神社と決定し、宮内省の所管に屬することとなり。同山西麓には幕末勤王の女御野村望東尼の墓あり、東麓には維新志士の墓並に招魂場あり。山上の眺望は頗るよろしく、巨費を投ぜし全山の公園施設工事は、全く山容を改むるに至り、一大遊園地と化せり。

には神輿を奉じ此所に至る例となれり。今その大部分を補助防衛工場の敷地にとれる跡開闢は、安永五年毛利重就の築造なるものなり。御嶽所より更に西數町、福家町高橋山のあたりは、毛利氏が慶長年間水軍の根據地を三田尻に置きし以來、明治維新に至るまで、その船倉の所在地たりき。

鎌倉時代武家の世となりては、國司あるも名のみにて、王朝時代の如き勢力なかりき。獨り周防國は、東大寺再建に當り文治二年、その租賦を以て造營の資とせられ、東大寺大勸進傳法興重源上人、周防國國司の職務を管掌し、爾來法皇相繼ぎて國務を執りて大内氏末葉の頃まで及び、更に東大寺支配の國領たる國衙土居八町の地は、時に盛衰變遷ありしが、その所領たる形式は永く殘りて、江戸時代の末期までも、其の地域内に於ては、國衙の址も土居八町の區域も今猶ほ判然と之を知るに足る。

これを迎へ、翌年五月まで春遊せし處とす。明治十八年明治天皇山陽道御巡幸の際、七月二十九日御餐會を召され、同三十一日御小休所となりたる處にして舊規様を存す。

當國守に任じていとの社妻となすと。大内氏・毛利氏等屢次社殿を修造せり。舊社額百六十五石と傳ふ。社寶中、著名なる松崎天神緣起（紙本彩色）六卷・大日如來坐像（木造）一軀は國寶たり。例祭、十二月五日。

ホーフ——ホーヤ

尼は筑前福岡の人、勤王の女傑にて、當時福岡藩に佐幕論起りし爲め蝦夷に流さる。蝦夷にあること一年餘の後、高杉東行に救出され、馬関及び山口に滞在後、終始天神へ祈願の爲めに來りしが、間もなく病を得て永眠し此地に葬りたり。行年六十二歳、後その功を追賞され正五位を贈らる。

〔晩天樓〕維新前、尊王討幕の志士が密會し、謀議を凝せし記念家屋なり。もと宮市前小路南側の藤村旅館の中二階にして、上に六疊二室あり、下は漬物部屋・薪炭部屋に充て、二階の窓が小格子作りにて一見倉庫の如く、二階の段梯子は押入の中に在る爲、朝夕出入の數多き旅客の注意を免れ、志士の密議所としては居竟の場所たりしならん。座敷の床柱には烈士の劍舞のあと鮮かに刀痕を留め、坂本龍馬・高杉晋作などの筆蹟も殘され、人をしてそよるに當年志士の面影を偲ばしむるに足る。春風第一樓は五重塔の建築を中止せしものにして、防長先賢の寫眞數多掲げられ、その略歴を記す。

〔大觀樓〕毛利家三田尻別邸は昔の大觀樓にて、毛利重就(美雲院公)がその隱居所として營業せしものにして通稱お茶屋と云はる。維新前、敬親・元徳が、屢々藩内外の志士と國事を謀議し、また文久三年、三條實美以下の七卿が西軍に當り暫く滞留せし所なり。明治十八年明治天皇本願行幸の御、御立寄遊されし光榮を

三二

にある金銀山。昭和十年には金一七、九二七五、銀一四、五四八五、金銀銅二九七七(この總價額約八萬圓)を出し、同年六月末の従業員は二七七八なり。

ホーメートー 鳳鳴島會館 關東州警備店民政署管區の西北部。關東海の東北岸に近き鳳鳴島、西中島、交流島、踏船島、平島等を含み、東と北は瀨田國奉天省復讐の南西岸と相對す。主島鳳鳴島は東南部に位し東西・南北各八軒内外、中部を略々東北より西南に延びし山地あり、中央部の大頂山は海拔約二五〇米を有し、東・西兩斜面に平地あり。西中島はその西北に横はりて東北より西南に延び、長さ約一四軒、巾二四軒、南・中・北部に高さ一五〇米内外の山地あり、その中間と東岸に平地あり。平地には農業行はれて高粱・大豆・落花生等を産し西中島の東岸、交流島の北中等には鹽田ありて製鹽行はる。

ホーヤ 保谷村 東京府武蔵國北多摩郡の東北。東京市の西隣にて、西は田無町、南は武蔵野町と隣し、北は埼玉縣北足立郡と隣す。武蔵野盆地の一部を占め、全村畑地多く、米・麥・大豆・里芋・甘藷・馬鈴薯・西瓜・胡瓜等を産し、製鹽も行はる。府道よく發達し、殊に青梅街道は東京市より來り田無町を経て西走す、社線西武鐵道は南部を西走して東伏見・西武神津の二驛(何れも昭和二年設置)を置き、また社線武蔵野鐵道は北

部西走して保谷驛(大正四年設置)・田無町驛(大正十三年設置)あり。(條註地蔵)大字上保谷字又六にある地蔵。例年八月二十四日の歳日には、求婚の男女集ふといふ。

ホーヨ 豊後海峡

〔風陽面〕朝鮮忠清北道堤川郡北部の中央。郡邑堤川面の西隣にて、西は白雲面に、北は江原道原州郡神林面に境す。面積一五七方軒。東嶺山脈中に位し北東境に石橋梁(九〇六米)、北西界に九島山(九八五米)、南境には國師峰(六三二米)等あり、それらの山脈内に延びて殆ど山地をなし土地高燥なり。東嶺堤川面に發する堤川は中部を西に流れ、北嶺神林面より南下する支流その他面内の諸水を合せ西嶺白雲面の東南部に出づ。これら河川の川筋に所々に狭少の低地あり。農産に米・麥・豆・棉・橘等あるも産額は多からず。堤川・忠州街道は中部を横ぎり西境の朴達嶺(四五七米)を越えてマスの便あり。

〔風陽面〕朝鮮慶尙北道義城郡の中部南側。東北は郡邑義城面に接し、南西は軍威郡軍威面に隣りす。面積約六四方軒。面内に高さ二一三百米の丘陵起伏するも義城面より來る南大川は略中部を東西に貫流し、中央部に南東嶺召文面より來る大坪川を合し、西境近くにて北嶺安平面より來る安平川を合せ風陽川となり、

ホーヨ——ホーラ

擔ひ、間崖口に於ける御上陸御乗船の地、毛利家多々良本邸内の標別邸と共に遺蹟地として保存を指定せらる。相賢閣は今のお茶屋の後、即ち三田尻別邸の直ぐ南隣に建てられありしものにて、文久三年長藩が攘夷を實行するや、平野國臣その他諸藩の志士の來り投ずるもの多く、悉くここに宿泊せしめしものにて、宛然攘夷討幕策謀の中心地の觀ありし故、相賢閣と名づく。

ホーフ 豊府 大分縣大分郡にありし村。明治四十年本村外二町二村を合し大分町を置き、大分町は同年市制を布く。ホーフクジ 保福寺峠越 青木村(長野縣) 木村(長野縣) 白部のほば中央。西は風西面に、南は郡廳所在地延安面に接す。東西平均六軒、南北九一二軒、南境に飛鳳山(二八二米)登て延安邑との境を劃し、東境には龍角山(三六五米)あり山腹南境に沿うて南北に走り南部に乾支山(二三八米)聳ゆ。北西部・北部また百一二百米の丘陵起伏すれど、中部以南に低地拓け、特に乾支山を中心として東と西に豐沃なる水田横はる。黄海水利組合の水路は乾支山に延長一・五軒の隧道を穿ちて東西に走り、以て灌漑に便す。米・麥・大豆・棉花等を主産し、豚・鶏の飼育また盛なり。また北部には白鳳嶺山の嶺區の一部ありて金・銀を出す。延安・瀨野里間及び延安・

西嶺比安面に出でて落東江支流の涓川に合す。これら南大・大坪・安平三川の川筋には狹長の低地ありて香田(細地)拓け、農業行はれて米・麥・大豆・大麻・橘・菘草等の産あり。大坪・安平間の二等道路は軍威面より來り橋李院橋によりて南大川を渡りその右岸に沿ひて東北に走りマスの往來ありて交通不便ならず。

ホーヨ 豊陽面

高興郡の略中央部。高興半島南西の支半島の頭部に位し、北東は郡邑高興面に隣り、西は地峽によりて豊陽面に繋り、南は居島島との間の海に、北は得浪嶺の支脈に面す。面積四三方軒餘。東境に天燈山(五五五米)の山地ありその山腹中部に延び丘陵となるも、その間と海岸沿ひに所々小低地ありて農業行はれ、米・麥・大豆・棉等を産し、沿岸は干潟地多く海苔・鰾等の漁利あり。高興より豊陽面への道路は北部を西方に、豊南里への道路は南方に通じ、また豊南里は沿海鐵路の寄港地をなし交通不便ならず。

ホーヨ 毛無山 毛無山とも云ふ。小樽市の南東嶺にして、東面は後志支廳朝里村に屬す。標高五四八米。西麓に小樽中學校あり。この附近は近時スキー場として名高く、山麓部には好スロープ・ジャンプ臺等あり。照明に依り夜間スキーも可能なり。登山はスキーに依るを最速とし、小樽中學校より三軒八にて達頂す。

平山間道路は並行して南北に通じ、交通不便ならず。面内低地に鶴の渡來するもの多く、延安ヶ原渡來地として天然記念物に指定せらる。

ホーマン 寶満山 龍門山 法美 因幡國(鳥取縣)の古郡名。日本後紀嘉祥元年に郡名初めて見ゆ。和名抄は波不美と註し大草・津井・稻羽・服部の四郷を管す。拾芥抄には法味に作る。のち岩井郡との間に郡境多少異同あり。明治二十二年鳥取市獨立し、二十九年四月に岩井・法美二郡と共に岩美郡を建て郡名を失ふ。〔法美〕鳥取縣岩美郡にありし村。明治四十年本村及び新殿村・國府村を廢し、宇部野村を建つ。

ホーメー 鳳鳴 朝鮮黃海道各山郡の西北部。郡邑谷山の北約一五軒、北西は平安南道成川郡崇仁面と界す。西北―東南に長く約二五軒、幅は平均八軒あり。西北部境界に勿羅山(一一〇米)・西百年山(一一七米)登れ、東境には鳳鳴(一一七九米)・相山(一一四〇米)等連り、城内にも山岳重疊して平地極めて乏しく、これ等山地に發する諸湧水は南流して南江に入る。住民は畑作農業に便し穀類・大麻等を作り、其他に木炭等を出す。溪に沿うて道路通ずるも交通不便なり。〔鳳鳴金山〕朝鮮慶尙北道星州郡伽泉面

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峽谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勢少からず。

ホーライ 鳳來

〔鳳來村〕山梨縣甲斐國北巨摩郡の西部。釜無川上流右岸に沿ひ、北と西は長野縣に界す。村の略中央を南北に赤石主脈の二〇〇〇米―二六〇〇米の諸峰連り、北端は釜無川の谷に終る。釜無川は南部山中に發源し西境を北流し、北隣にて北より一支を合し山麓を略六十度にて迂迴し東境に出で東南流す。東南部河岸には段丘平地開け農耕行はる。農産を主とし米・麥・粟・桑を産し、副産としての寒天製造・製炭また盛にして多額の産あり海外にも輸出す。東部河岸を信州往還走り、對岸の者輪中央本線小淵澤驛へ約三軒。また富士見驛へは自動車の便あり。古くは和名抄、巨摩郡鳳來郡の内なるべし。本村はもと大武川・山口・上敷來石・下敷來石・島原・松原等の諸村なりしを、大武川の大と島原の島とを以て大島とし鳳の字を充て、上・下敷來石の來の字を組合せて村名とす。(鹽澤鎮泉)泉貫、含磯鹽類泉。療養向。鳳風山より發し釜無川に注ぐ大武川の南岸にあり、北に八ヶ嶺、南に富士・甲斐駒ヶ嶺を望み、閑靜なる境地にして夏は涼し。

〔鳳來峽〕愛知縣の東部三河の豊川谷は地質構造上重要な意味を有する所謂中央裂線の一部を構成し、天龍川の水系も一時はここを流下せりと稱さるるも、豊川の上流三輪川沿岸は特に風致勝れ、世に鳳來峽と稱せらる。鳳來寺山東麓湯谷

の浴場附近の三輪川は河床の岩石を穿ちて峽谷を造り、清冽なる流は或は小瀧をかけ瀧を作り、水成岩を貫く岩脈は浸蝕に抗し河床に突出する等奇勢少からず。

ホーライ 蓬萊 〔蓬萊山〕金華山(宮城縣)の別名。〔蓬萊山〕比良山脈の一峯。琵琶湖の西岸、滋賀縣滋賀郡木戸・葛川の二村境上に峙つ。標高一〇〇三米。南麓に打見山(一一七四米)・櫻現山(九九五米)等連り北麓に武奈ヶ岳(一一二四米)續く。東方に琵琶湖を俯瞰し、西麓は北流する安曇川に流はる。世に云ふ比良の暮雪とはこの山を中心とする風光を指し、また比良登りとはこの山と解する人多し。この山四月下旬まで山頂より南東にかけ雪田を見、暮雪岳の別名を有す。登山は江若鐵道比良口驛にて下車し行はる。

〔蓬萊面〕朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南八軒餘。東西、南北とも各六軒餘あり。一〇〇米臺の丘陵地その大部分を占め、北境を南大川、南境をその支流魚川、づれも西方に流れ、流域には狹長なる平地開く。米・小麥・豆類・粟・棉花等の農産ある外、北部の南大川小支流岸より砂金を出す。北境近く社線朝鮮黃海道通じ水橋驛(昭和四年設置)あり、中部を信川・松都間道路東西に貫きマスの便あり。主邑水橋里は南大川左岸に臨み、松承温泉を近くに控へ、金礦組合・市場等あり、市況活潑なり。

三二

ホーラー—ホーリ

〔蓬萊面〕朝鮮全羅南道高靈郡の南東部。北の内羅老島、南の外羅老島を主要部とし附近の小島嶼を含み面積四六方町餘。内外羅老島共に高さ二百米内外の山地あり、山脚海に迫りて海岸をなす處多し。沿岸所々に小低地あり桑落發達す。農・漁業行はれ多・豆・粟・魚類等を出す。面の中、内外羅老島の接近部の西面に支島・洞洋島の二小島南北に横ばり、その間に新羅里の嶺地を擁し、春秋の漁季には漁船來集して繁昌す。また外羅老島の南部、外草里の湯根汝島には四白光(毎五秒一閃光)、光達距離十八哩の燈臺の設けあり。

ホーライジ

鳳來寺村 愛知縣三河國南設楽郡の北部。豊橋市の北方三〇町。北は海老町・北設楽郡三輪村に、南は長藤村・東郷村に、西は作手村に隣る。此地の山地は花崗岩・古生層・第三紀層等より成り、北部には龍頭山(七五二米)・龍山(七五八米)あり、中部には鳳來寺山(標高六六三米)あり、西部には彦坊山・御嶽山(六六三米)連る。北部より東へ東海川この山地を切り川を合せ流入曲流をなしつつ東南に流れ、南部にて海老川を合す。本地方は山間部なれば農耕地は少く、林業に依存し、椎茸栽培・製炭・製材盛なり。交通路には海老川の谷には伊奈街道が通じ、街道は社田山口鐵道の鳳來寺・武蔵野・三河大石の三線共

に昭和四年設置)あり。和名抄の設楽郡鳳來郡は此地にして、大字武蔵野の地名今に残る。鳳來の地名は民部式等にもあり、また康正二年の造内禮段國役引付に「九百五十文産部近江守殿三河設楽郡鳳來郡」と見ゆ。大字鳳來の中央小丘には鳳來古城址あり、左右及び前面に巴川を繞らし後に山を負ふ。鳳來宮内左衛門實時始めて此地に來り、久次に至る凡そ五代居住す。大字布里に菅沼新助の居城あり、武蔵野の豊平古城址には松平宮内左衛門住む。大守愛郷の島田古城址は菅沼定成が居城し、兩城には菅沼定繼の臣山川清兵衛居り。明治三十九年に本村と布里村・一色村・只持村・豐瀬村・愛郷村を併し、新たに鳳來寺村を置く。〔鳳來寺山〕指定名勝・天然記念物。鳳來寺村にある名山。赤石山脈が弓狀に曲れる巖層部に設楽第三紀層の裂層を衝き往時の水脈に噴出せし石英粗面岩の塊狀火山なり。鳳來寺山は鳳來寺山(六八四米)・龍山(七五八米)・明神山(一〇一六米)等より成る鳳來寺火山群を形成す。鳳來寺山は山頂に近く、削壁を突き立て聳立する岩壁を露出し、多くは暗きまでに覆れる原始林に蔽はれ、岩壁には石耳洞等の岩生植物群落あり。三河第一の靈場鳳來寺堂宇は岩壁を背にし幽邃なる森林の間に布置さる。靈鳥鳴法僧の鳴聲は毎年夏季夜間この林間に聞かるといふ。寺道の門谷には、大寶年間より産するといふ金鳳石おとび鳳鳴石より作る鳳來寺

HO110

てて神領五百石を附し、併せて寺領千三百五十石となる。かくて徳川治世三百年間、幕府の優遇御ノ間御禮格にて寺威諸大本山の上であり、其繁榮比類なかりしも、明治維新の際土地の事あり、一山賣祭其極に達せり。往時は寺内に二十一坊ありしも今は僅かに二院を有するのみ。寺域三十七萬七千三百餘坪、巖山の半版にあり海拔二千三百尺、老樹古杉其間を點綴し、眺望絶佳、山中或は湧水あり、或は幽禽啼き、地方稀有の靈山なり。〔鳳來寺山〕↓鳳來寺村

ホーラク

寶樂鐵山 愛知縣三河國南設楽郡の北部。豊橋市の北方三〇町。北は海老町・北設楽郡三輪村に、南は長藤村・東郷村に、西は作手村に隣る。此地の山地は花崗岩・古生層・第三紀層等より成り、北部には龍頭山(七五二米)・龍山(七五八米)あり、中部には鳳來寺山(標高六六三米)あり、西部には彦坊山・御嶽山(六六三米)連る。北部より東へ東海川この山地を切り川を合せ流入曲流をなしつつ東南に流れ、南部にて海老川を合す。本地方は山間部なれば農耕地は少く、林業に依存し、椎茸栽培・製炭・製材盛なり。交通路には海老川の谷には伊奈街道が通じ、街道は社田山口鐵道の鳳來寺・武蔵野・三河大石の三線共

ホーリ

豊利 北野東部線の一驛(昭和七年設置)。朝鮮咸鏡北道穩城郡柔浦面にあり。

ホーリ

房裡溪 愛知縣中部西邊の大河南安流の一分流、一名蓬山溪の稱あり。もとその海に注ぐ所に蓬山港を形成せしも、今は廢る。

ホーリ

寶立村 石川縣能登國珠洲郡の中部。飯田町の西南約六町。西は鳳至郡に境し、東は海に面す。西北境に寶立山(四六九米)聳立し、其支脈西境を劃しつ、南走し諸處に二・三百米の山を起す。夫等は何れも東に傾斜し、村す。水産業は、枋山庄に比すれば盛なるも、未だ幼稚の域を脱する能はず、また資金少なきを以て大規模に之を行ふを得ざる状態にあり。主なる魚獲物はボラ・イモチ・鱈魚・マガクラ・イトヨリ・サゴシ・イワシ等にして、年約二十五萬圓程度を捕獲す。畜産業は主として農家に於て副業的に營まるとして、牛・豚・家禽の飼育盛なり。其の屠畜は多く庄下の重要財源をなす。商工業に於ては、特に見るべきものなし。教育に於ては、公學校一、分科場二を有する他、社會教育機關として青年團・少年團を有し、また國語講習所等は諸所に設けられて、時局下本島人の皇民運動化に邁進す。本庄下には鐵道の便なくとも、昔より高嶺方面より臺灣南端の恆春地方への交通路に當れるを以て道路比較的設備整ひ、近年は自動車の便あるを以て管内貨物の運輸に不便を感ずる事少し。また本郡の中心市街地たる潮州より手押鐵道の便あり。本庄の地に漢族の足跡ありしは、明末鄭氏の時代にあり、次で清の康熙頃より林邊溪上流に漢族の移住するに従ひ、其地に在りし平埔蕃族のアアカア(阿加)社、一名マツソア(欽崇)社が移動を企てし地域にて、往時は到る所森林繁茂せしが、閩粵人は最初伐木の目的を以て進み、了りて開墾に着手せり。而して海岸地方先づ開墾、康熙末年には枋寮地方開拓の緒に鼓き、漸次北流尾・水底寮の拓成を

HO111

ホーリ—ホーリ

内の大部分は丘陵性山地をなす。鶴岡川は西境邊に發源して東流し、その河口邊に低地ありて耕地拓け、部落も散れこ、に發達す。主産業は農にて米・粟を主産す。縣道は飯田町より來り海岸に沿ひて南走しバス通す。本村は明治四十一年、鶴岡・見付・黒峯の三村を合して置けるもの。和名抄 珠洲郡草見郷の内。村内の寶立山の一峯黒峰に要害址あり、三州志によれば、黒峯法立山は阿部列官義宗を城主とするも事蹟詳ならず。(加志波良比古神社)大字極原に鎮座。郷社。祭神、加志波良比古神。式内の古社にして、崇神天皇の御宇、大神の當地に降臨し給ひける時に創まるといふ。例祭、陰曆三月二十四日。

ホーリ

法隆寺 奈良縣大和國生駒郡の南部。龍田町の北に接し西北より東南にやや長し。西北部に松尾山(三二六米)等の山地あり東南方へ傾斜す。東南部は奈良盆地の一部を占め地形平坦にして、宮内川は東南隅をかすめて南流し約二町南方にて大和川に合す。北部は森林地帯にして東南部に田畑拓け米を産し、また麥・蕎麥の産もあり。東南部には修理整然たる道路東西南北に通じて交通の便よく、南方約一町には青線關西本線法隆寺驛ありてバスの便あり。古くは本村及び宮内郡の邊を班鳩里と汎稱せり。法隆寺あり、この地は佛法興隆の靈地たると同時に推古時

代美術の調査として著名なり。(法隆寺)大字法隆寺にあり。法相宗。具には法隆寺開創と稱し、又所在の地により伊弉諾大神・斑鳩寺等の名あり。南都七大寺の一にて現に法相宗三大本山の隨一。推古朝、先帝用明天皇の遺願を果さん毎天皇及び聖德太子の創建し給ふ所。創建は凡そ推古天皇十五年頃。當初は學問寺の名を示す如く佛敎講學の道場にて我國初期佛敎興隆の先驅をなせり。和銅年間三論宗第二傳知藏の本寺に住して三論宗盛となり、神泰入るに及び法隆寺三論宗を形成す。次第に堂宇整ひ、天平寶字八年百高塔の分置に本寺また其一に列し寺觀漸く莊嚴を極めし源平兩氏の戦亂を経て寺運衰頹はれり。天福元年頃より天正十三年・慶長九年・元祿七年と數度に亘り修理、明治に至り三度目の大修理を行ふ。古來、三論・法相兩宗を兼學せしも、明治初年以後法相宗と定め同十五年その大本山となる。世に云ふ法隆寺再建非再建の問題は、天智天皇九年の大災に堂宇全燬、其後再建せしとする説と、金堂・塔婆・中門・歩廊の一部は創立當時のまゝとする説との論争にて未だ結論を見ず。本堂は聖德太子(聖德太子作)の遺蹟二萬八千四百九十七坪。一山東西兩院に分たれ、飛鳥・天平・藤原・鎌倉・室町各時代に亘る建造物等を連ね、所藏の繪畫・彫刻・美術工藝また各時代の碑を集む。國寶は人口に膾炙するもののみにて

も數十點の多きに上り、その主なるものを擧ぐれば、絹本着色佛五尊同筆蓮花圖二曲屏風一雙・金銅彌伽如來坐像一軀・同聖師如來坐像一軀・金銅觀世音菩薩立像一軀・木造聖觀音立像一軀・藥師像・四天王像等あり。尙ほ國寶中、持國天・增長天の把持する劍は模造品にて、當初のものとは帝室御物ナリ。(中宮寺)眞言宗泉涌寺派。聖德太子創建七箇寺の一。俗稱、中宮尼寺(斑鳩(鳩)尼寺)。その地、穴穂郡間人太後の宮址と傳ふ。西大寺觀尊の復興のち尼寺となり、江戸時代、比丘尼御所の一として皇族・女院寺主となり斑鳩御所と稱す。如意輪觀音・天壽國曼荼羅その他は國寶。

ホーリ

枋寮庄 愛知縣南設楽郡の中部。豊橋市の東方約三町。東は直ちに高嶺州藩地に接し、西は郡下の住冬庄に、北は林邊溪を隔て、新井庄に、南は臺灣海峽及び枋山庄に接す。管内は概ね平地なるも東部庄境には高山連亘す。主なる河川は林邊溪にて北部庄境を東より北西流し、管内の水利に便す。本庄下の重要産業は農業・水産業・畜産業等なるも、農業は最も盛にて住民の大部分は之を産業とし、生産額は諸産業の上位にあり。其の主なるものは米・甘蔗・芭蕉・甘藷・鳳梨・柑柿・蔬菜等にて、約百二十萬圓の生産額を有



ホーリ

見、乾隆二十年代には枋寮に一律街を形成し、爾來、新聞・大館營の地は漢族又は平埔番族の手により開かれたり。清領後この地方に漢東下里なる一行政區劃を建てしが、我が領後其の區劃は行政區劃として用ひられ、大正九年同里中の八庄(現大字)の地を割きて、枋寮庄を建て、乃木將軍(當時中將)が第三旅團を統率し十月十一日拂曉、枋寮海岸香子嶺、大武力間に上陸せるを記念する爲、大正十二年枋寮庄の有志相謀り、願金して碑を建立せり。

ホーリン

【風林郡】 臺灣花蓮港廳三郡の一。廳の略中央部に位置す。東は白馬跳躍する太平洋に面し、西は花蓮郡下の蕃地に、北は同郡下の南庄に、東南は新港郡長濱庄、西南は玉里街に夫々接す。東部には臺東海岸山脈の峻峰南北に縱走し、郡の平地は中央山脈の秀峯南北に連亘す。郡の平地は此の兩山脈のなす縱谷平野にして、南北に狹長なり。主なる河川は花蓮溪及び秀姑巒溪にして、本郡一帯は其の上流地帯を占む。本郡の諸産業は、之を西海岸のそれに比する時は、著しく闊却せられ來りし觀あり、従つて本郡管内産業中見るべきは農業・畜産業等にて、農業に於ては米・甘蔗・甘藷・黍・粟・高粱等なり。畜産業は牛・豚の飼育にて、農耕地以外の廣大なる土地は放牧地として利用せらる。

商工業に於ては殆ど見るべきものなし。されど之等農産物に於ても郡下の需要を充たすに足らず、従つて郡下住民の必需品は概れ、臺灣西海岸、内地等より移入せざるべからず。また諸文化施設に於ても、西海岸に比し甚だしく遅る。教育機關には、小公學校、國語講習所等設けらる。交通に於ては、官線たる臺東線本郡の略中央を南北に貫き、管内に林田・風林・山崎・萬里橋の四驛を設けたるを以て、比較的便利なるも、管内各庄間の交通に於ては、必ずしも便利良好なりと稱すべからず。本郡管内は往昔より山蕃の蹂躪に任せてたる土地にて、其の開拓も西海岸に比し甚しく遅れ、漢民族の同地方に點々と移住を見たるも今を距る遠からざる昔に屬す。我が領後、當局は東海岸の開拓に大に力を注ぎたりして、何分にも當時は豐饒の地なりしを以て、其進歩發達は現在に於ても遅々たるの感あり。されど最近、當局は其の移民村たる林田村等に於て、農産指導に努力しつあるを以て、近き將來に於ては、本郡管内の開発は著しきものあるべし。昭和十二年十月、支廳の制を改めて郡制となし、其下に庄を設く事となり、現在本郡は風林・山崎・新社の三庄を管轄す。

ホーリン

【風林郡】 臺灣花蓮港廳風林郡の北部に位置し、東は新社庄、西は花蓮郡蕃地に接し、北は花蓮郡南庄に、南は瑞穗庄に夫々隣接す。地は謂ゆる縱谷平野の一部を占め、チャカン・萬里橋・馬太城溪等の支流を持つ加籠々溪ありて其の平野を潤す。本庄は風林郡下の中心地にて、諸産業に於ても最盛なる地なり。主なる産業は農業・牧畜等にして、農産の主なるものは、米・甘蔗・甘藷・蔬菜等なり。大字林田には林田村と稱する内地人の移民村あり。大正三年、花蓮港廳當局が郡下農業開發のため内地各府縣より移民を募集して此地に移住せしめたるなり、爾來其の業績良好にして、諸耕作に従事す。主なる農産物は米・甘蔗等なり。商工業等に於ては特に見るべきものなし。文化施設に於ては、他庄に比すれば良好なるの中心地なるを以て、交通は他庄に比して便利良好、鐵道に於ても本庄下を官線臺東線の南北に縱貫するあり、また管内は近年まで山蕃の住地にして、漢民族の足跡の聞地方に及びしは今より百年を遡り得ざるべし。隨つて其の沿革上、特に摘記すべき事少し。もと風林郡と稱し、風林支廳管轄下たりき。

ホーリン

【芳林郡】 朝鮮江原道平昌郡の南部。平昌面に北隣し、西は横城郡、西南は寧越郡と界す。昭和九年四月もと大和面のうちなる芳林里・雲橋里・住村里を以て新設せしものに係る。東西約一八軒、南北は西部に於て八一二軒あるも東に至るに狭し。四面山を

以て繞らし、北境に大美山(一二三二米)、西南境に獅子山ありて對峙し、西境には酒峰(八九七米)・門峰(八二三米)・東境には南屏山(一一五〇米)あり。東部に平昌江東北・西南の流路をとり北西部山地に發する水を容るるも、沿岸平地の見るべきものなく、露間及び山麓傾斜地に耕地や拓くるのみ。粟・大豆・玉蜀黍・煙草・蕎麥・雜穀・藥草等を産し、また平昌金山ありて金・銀を出す。西方より門時を驗えて二等道路來り、東部に於て平昌江岸に達し、次いで平昌・江陵間二等道路と合し、何れもバスの便あり。主邑芳林里は兩道路の交會點に位置す。

ホーレーコ

【澎湖】 澎湖廳澎湖一島。澎湖廳の南端。扶安を距る南方約一五軒、南は萬浦面と萬浦港奥の泥海に接す。面積三五方軒餘。北西境には玉女峰・龍潭峰・龍峰等の二四米臺の山峰あり、北境東部にも舟山(三一米)あるも、大部分は低平にして、特に中部より東南部と、西部沿海等には田畑よく拓け、また南西部には鹽田少からず。米・黍・大豆・綿・菜菔・食鹽等の産あり。萬浦・扶安間の道路中部を南北に通じてバスの往來ありて交通便なり。

ホー

【寶飯郡】 愛知縣三河國の東南部にあり、三河國十郡の一。北は額田郡と

ホイタ

南設楽郡は、東は八名郡に、南は豊橋市、瀧美郡に隣り、瀧美河を抱く。北部山地は古生層より成り、南岸には花崗岩より成る部分僅に認めらる。南半は豊川平野に屬し、豊川は東南境を劃し、自由航行をなして瀧美河に注ぐ。西南端は御前崎(瑞田島)と呼ばれ、河内には大島・小島・佛島・竹島等散在す。本郡の農業地域は豊川平野にて米・黍・大豆・甘藷・生薑等を産し、水産業は瀧美河及び伊勢海に於て行はれ、鱈・鯛・鰻等の漁獲あり、三谷には水産試験場あり。工業物には三谷附近の織機物・瓦・清酒・醬油・味噌・足袋等あり。交通は古くより要衝に當り、舊東海道は郡を東南より西北赤坂の狹隘を抜け三河平野に出で、御油・赤坂の宿場が置かれ、姫街道は國府より分れ東に走る。鐵道は東海道本線が御街道に沿はず、海岸を御油・三河三谷・蒲郡を経て同略に至る。また社線名古屋電鐵の豊川線は舊東海道に沿うて豊橋に至り、社線豊川鐵道は豊川の右岸を北上す。本郡は雄略天皇の朝、國造を置かれし國にて延喜式その他には實低に作り、拾芥抄に至りて實飯となり、元來はホイにあらずかなり。而して和名抄には穂と出で、形原・赤穂・美養・御津・宮地・宮理・賀茂・度津・藤東・宮島・豊川・雀部・霧家の十三郷に分れ、現今は行政上、豊川・牛久保・蒲郡・國府・御油・三谷・赤坂・小坂井・形原の十町及び八村に分ち、元

【ホイダ】 穂井田村。岡山縣備中國吉備郡の南端、南は淺口郡に界し、高梁川下流右岸に近く、支流小田川に沿ふ。北は備前村・吳村、西は小田郡に接す。面積一四・五平方軒。北境近くを小田川東流し、沿岸に平地を拓くも、後背地は山脈連り、西境に彌高山(三〇八米)聳ゆる。沿岸及び山間低地には米・黍・穂後増せられ、村内一般に養蠶・蠶桑業行はる。省輸山陽本線玉島驛(淺口郡長尾町)に約四軒。岡山市にバス通ず。古の穂北郡の地にて戰國の頃、穂井田氏あり、天正末年穂井田爲實、毛利氏に降服し、その子高資三村家親の爲に殺さる。是より毛利元就の三男元清、穂井田氏を討し備中國を鎮せり。

【ホエン】 埔鹽庄。臺灣臺中州員林郡の西北端。東は彰化郡秀水庄、西は北斗郡二林街、南は溪湖街、北は彰化郡福興庄に各々境を接す。地勢絶て平坦、地味肥沃にして水利の便に恵まれ、純然たる農村部落より成る。米の産額に郡下各街庄の首位にあり、甘蔗・甘藷の産出甚だ多く、蔬菜・黄麻また尠からず。農家の副業として豚・鶏を主とする家畜家禽類を養く飼育し、多く管外に搬出せらる。工業としては製糖精米・落花生油製造の小工場散在する外、見るべきものなし。明治製糖の員林・鹿港間社線は東部を縱走し、溪湖・鹿港間の指定道路これに沿

【ホキタ】 穂北。日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄に見湯郡穂北郡あり、その地今の見湯郡上穂北村の邊に當る。

【ホキツ】 浦吉島。瀨田面(朝鮮全羅南道麗島郡)。

ホク——ホク

楚山郡と界す。東西・南北各二〇軒に餘り、西北端は長く延びて江界郡、楚山郡に挟まれ、面積三六八方軒あり。四面山に圍まれ、北境に大巖山(一五六六米)・武双峯・狗峯嶺(八一五米)・額登山(一四五二米)等連り、城内にも一千米に近き山嶺を立するも漸次南方に低夷す。而して北部の概率を中心として東西に延ぶる連嶺を分水嶺とし、嶺北に熊川江、嶺南に加羅江流れ、共に南流して清川江に入り、沿岸僅かに低地ありて耕地ひろく。産物は大豆・粟その他の穀類及び牛・馬等ある外、中部の明金洞附近より金を出す。熊川江に沿ひ鐵道浦清浦線南北に通じ、南に明文、北に价古の二驛(共に昭和十年設置)あり、熊川富山洞の二等道路は之に並走するも、交通なほ便ならず。市内に長城の遺址あり、これ高麗皇宗の時、女眞族の來寇に備へて築きしものにして、義州より寧遠・永興を経て咸興高城嶺に至りし長城の一部とす。

【北面】朝鮮平安南道价川郡の東北部。南は价川面・朝陽面、東は徳川郡下面に接し、北は平安北道寧邊郡と界す。東東北・西西南に長く約二〇軒、幅は七一〇軒あり。東半部は妙香山脈中に入りて高峻にして西方に傾斜し、東南境には月峰山(一〇三三米)あり、山肢西に延びて南境を劃し飛虎山(六二二米)を起す。西半部は低き丘陵地をなし、西北境を流るる清川江岸にやや廣き平地拓く。米・粟・大豆・棉等の農産の外、自作金鐵等より金・銀を、龍潭炭礦・鳳泉炭礦より無煙炭を、价川第一鑛山等より黒鉛を出し、また价川鑛山の鑛區の一部にも當る。西部江界に沿うて鐵道浦清浦線・安州・富山洞間二等道路通じ、前者に院里・鳳泉・自作の三驛(共に昭和八年設置)あり、後者はバス通ず。院里は清川江に臨める主邑にして、鑛山聚落の中心をなし、市場あり。(价川鑛山)北面にある鑛山。鑛より重要鑛山なりしが、昭和十年頃より更に活氣を呈し、同年には従来の蒸氣機關に依る索道を電動機に變更し、或は第三坑に電氣捲揚機を新設する等のことあり、十一年には露峰・岩峰方面の鑛石を滿浦院里驛に輸送するため新設の索道を新設する等發展見ゆるべきものあり。院里鑛山會社の經營にて昭和十年には銀六、八二九萬(價額約九三三萬圓)を出し、同年六月末の従業員は三五八人とす。(价川第一鑛山)北面にある黒鉛山。价川第二鑛山と同一人の經營にて第二鑛山より以前に重要鑛山に列す。品位は第二鑛山のものより劣劣るも、産額は昭和十年の如きは第二鑛山の約二倍を出せり。即ち同年には土狀黒鉛六、三〇四萬(價額十二萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員は一〇七人なり。(价川第二鑛山)北面にある黒鉛石炭山。鑛區は清浦院里驛の南東方約六軒、龍虎山の北西二帶の地を占む。地質は凡そ平安系に屬す。

【北面】朝鮮江原道海州郡の西南部。揚口面の西北に隣り、西は華川郡と界す。西北境を頂點とする不規則なる三角形をなし、面積約七二方軒あり。四面殆ど山を以て圍まれ、西南境に四明山(一一九八米)ありて南部は最も高く、西北部はた六・七百里の山地をなして城柱峰(六二六米)あり、中部に水入川東より西へ流れ、沿岸に狭長なる平地ひろく。米・粟・棉・煙草・藥等を産す。水入川に沿うて揚口・華川間三等道路通じバスの便あり。

【北面】朝鮮江原道海州郡の東北部。嶺南面の北に隣り、東は襄陽郡、北は杆城郡と界す。東西二四・二八軒、南北は東部に於て約一八軒あり西方に狭まり、面積三三〇軒餘あり。大白山脈の西斜面にして、東境には雪岳山脈蜿蜒として連り東南隅に雪岳山(一七〇八米)、その北段に神仙峰(一一八三米)等聳え、北境には七節峰(一一七二米)・栗峯山(一一七一米)・明嶺山・大巖山(一一三六米)、南境には加里峰(一一一九米)・寒溪嶺(九三五米)等連り、中東部には峻山(一四三〇米)聳まりて、東半部は特に峻嶒を極め、城内平地に乏しく、ただ中西部は比較的低くして、ここに嶺北川・北川の兩川、東西兩山地の淡水を聚めて南流し、沿岸に狭長なる平地ひろく。住民は主として畑作農業に従ひ、粟・蕎麥をつくる外、養蠶・藥草採取・牧牛等をなす。交通路は從來、北川の流路に沿ひ、西南・東北に麟蹄邑より日本海岸地方に出づる二等道路通じしが、東北境に大開嶺(六四二米)の峻あるに依り、近時嶺の西南麓より北へ新道を開き杆城邑にバス道路を造するに至り。其他、東南部の北川支谷に沿ひ直接麟蹄邑に出づる道路等もあるも

高麗に移れり。城址は土築なりしたため多くは廢蹟して昔日の傳なしと雖も、八角の古石塔遺存して當時の隆盛を想はしめ驛の東約一軒にある龜跡と共に泰封時代の遺物として一顧に値す。

【北面】朝鮮江原道海州郡の西南部。揚口面の西北に隣り、西は華川郡と界す。西北境を頂點とする不規則なる三角形をなし、面積約七二方軒あり。四面殆ど山を以て圍まれ、西南境に四明山(一一九八米)ありて南部は最も高く、西北部はた六・七百里の山地をなして城柱峰(六二六米)あり、中部に水入川東より西へ流れ、沿岸に狭長なる平地ひろく。米・粟・棉・煙草・藥等を産す。水入川に沿うて揚口・華川間三等道路通じバスの便あり。

【北面】朝鮮江原道海州郡の東北部。嶺南面の北に隣り、東は襄陽郡、北は杆城郡と界す。東西二四・二八軒、南北は東部に於て約一八軒あり西方に狭まり、面積三三〇軒餘あり。大白山脈の西斜面にして、東境には雪岳山脈蜿蜒として連り東南隅に雪岳山(一七〇八米)、その北段に神仙峰(一一八三米)等聳え、北境には七節峰(一一七二米)・栗峯山(一一七一米)・明嶺山・大巖山(一一三六米)、南境には加里峰(一一一九米)・寒溪嶺(九三五米)等連り、中東部には峻山(一四三〇米)聳まりて、東半部は特に峻嶒を極め、城内平地に乏しく、ただ中西部は比較的

【北面】朝鮮江原道海州郡の東北部。嶺南面の北に隣り、東は襄陽郡、北は杆城郡と界す。東西二四・二八軒、南北は東部に於て約一八軒あり西方に狭まり、面積三三〇軒餘あり。大白山脈の西斜面にして、東境には雪岳山脈蜿蜒として連り東南隅に雪岳山(一七〇八米)、その北段に神仙峰(一一八三米)等聳え、北境には七節峰(一一七二米)・栗峯山(一一七一米)・明嶺山・大巖山(一一三六米)、南境には加里峰(一一一九米)・寒溪嶺(九三五米)等連り、中東部には峻山(一四三〇米)聳まりて、東半部は特に峻嶒を極め、城内平地に乏しく、ただ中西部は比較的

ホク——ホク

に壁を結びて鉄殺せられしといふ。花山は嘉根山が西走して本營に至り俄然斷落する處にあり、金山老樹鬱葱、高麗忠義王二年に築ける古城址あり。高宗の朝、安南王族と稱せらるる花山君李龍祥が元寇の亂に蒙古の大軍を撃破せる故跡にて城下に受降門と碑を遺存す。

【北面】朝鮮京畿道加平郡の北部。郡廳所在地なる郡内面の北に隣り、西北は抱川郡、北及び東は江原道華川郡と界す。西北—東南に長く約二〇軒。幅は一〇軒に餘る。北境に開寧峰(一六八米)・石龍山(一一五五米)・華岳山(一四六八米)等聳え、西部には明智山(二六七七米)屹立し、東南境には北信山(八六七七米)・龍冠山(七三五米)等連りて、全城殆ど山地をなし、中南部に聳る修徳山東南麓に平地のやや見るべきものあり、開寧峰山中に發する漢江小支その他の諸水は昔ながら肥平地に聚まり南方加平邑を経て本流に注ぐ。郡内處處に耕地ひろげ、米・麥・豆類・雜穀・蕎麥等を産し、また東北郡山地に金銀の鑛産あり。踏谷に沿ひ道路通じ、加平邑及び抱川郡・江原道春川郡等へ出づるを得るも、途中峻坂ありて交通不便なり。

【北面】朝鮮京畿道開豊郡の西北部。開城府の西北約八軒。北より東北は黄海道金川郡と界し、西は咸鏡道江界を距て同じく金川郡並に延白郡と相對す。東西五—八軒、南北約一〇軒、面積約七一方軒。

する洛東江によりて昌寧郡吉谷・釜谷の二面と隔てらる。南北に略長方形をなし面積約七三方軒。西境南部に齊臺山ありてその山嶺南東に延び、北西—東境にも高さ二—三百米蓋の丘陵性山地あり。中央部を北流する小河ありてこれに入る東西の小支谷と、北部の洛東江岸に沿ひて耕地拓く。米・麥・大豆・棉等を主産物とす。等外道路を造するのみにて交通なほ便ならず。

【北面】朝鮮慶尙南道東萊郡の北西部。東萊邑の北隣にて、北は梁山郡東面と界す。面積四方軒餘。東北境には嶺馬山の南嶺連なり、東南境には九月山嶺あり、また金井山は西北境に峙ちてその山嶺南方に延び、西隣の龜浦面に屬する山中には任那時代に成りし金井山古城址あり。東北部と西南部には巾狭き低地ありて水營江の上流をなす。米・麥・大豆・棉花等の農産あり。東萊・蔚山、東萊・梁山(京釜街道)間の道路あり前者は東北に、後者は西北に走り共にパスを通じ交通便なり。(梵魚寺)金井山の東谷にあり。約一千年前、新羅の眞德王(或は武烈王)の創建にかり、通度寺・海印寺と本道三大寺の一に數へらる。境内樹木鬱蒼、深溪清流ありて幽邃の仙境をなす。今の堂宇は文祿の兵燹後に再建せしものにて結構、昔日に及ばざといふ。

ホク——ホクカ

東境に鳳鳴山(四一一米)聳え西方に緩傾斜し、中部以西は丘陵地帯にして、臨津江岸の孤雲山(一七七米)や著る。西境を蛇曲して南流する臨津江と、東方に發して之に注ぐ支流との沿岸にやや廣き平地ひろげ、田畑連る。米・麥・豆類・雜穀・蕎麥等を産し、また三寶・開北・倉浦・龍亭の諸嶺山の鑛區存して金銀を出す。中部東側に御道京義本線南北に通じ龍鏡驛(大正十二年設置)あり、咸鏡道の舟楫の便もありて、交通不便ならず。(三寶嶺山)北面にある金銀山。鑛區は北面の加士尾里と龍鏡里とに跨る。富嶺區一帯の地質は輝石片麻岩より成り、鑛床は同岩石中に脈絡せる含石英脈にして、既如の鑛脈は八條とす。脈幅は凡そ〇・一—五〇〇・五米なるも時に一米に及び、また露頭の延長五〇〇米に及ぶものあり。鑛石は灰白色石英にして少量の黄鐵礦・方鉛礦・閃鋳礦・黄銅礦を含む。昭和十年には金銀鑛一、五五七七(價額約六萬圓)を出し、同年重要鑛山に列す。また同年六月末の従業員は一一一人とす。

【北面】朝鮮京畿道振威郡の東北端。水原邑と平澤邑との中間に位し、東は龍仁郡、東南は安城郡と界し、北は水原郡の烏山に近し。東西約六軒、南北五—八軒。東北部に一〇〇—一五〇米の丘陵は江南に連り、鳳鳴山(二〇九米)最も高く、東南隅にも標高これと略相等しき丘陵東西に互りて起伏するも、中部南側を東より西に振威川流れその西岸と、中部以西は廣き平地ひろげ、特に後者は烏山に續く豊沃なる平野にして西境を南流する振威川支流により灌漑せられ、頗る農産に富む。米・麥・豆類・棉花・杞柳・莞草・薺菜・纈味等を産す。西部平野を鐵道京釜本線と釜山街道差走し、前者の烏山・西井里兩驛に近く、釜山街道は南部に於て東折し主邑鳳南里を過ぎて安城邑に至る道路を岐ち、交通便なり。鳳南里は一に振威と呼び、鳳鳴山南麓、振威川右岸に位する舊邑にして、市場・學校等あり。

【北面】朝鮮忠清南道天安郡の東部。西は天安邑との間に木川面を隔て、北東部は忠清北道鎮川郡柏谷面と境を接す。面積五八方軒餘。車嶺山脈の地にして土地南北に長く、東境に介竹山(四五二米)・鶴城山(四九四米)・銀石山(四五六米)等連り、北西境に聖居山(五七九米)ありて概山山地をなす。並川の支流北境に發して東西兩山地の中間を南流し、その兩岸に低地あり、特に南部の平地はや、廣く畝・田よく拓く。米・麥・豆・陸地棉等の農産あり。天安・鎮川間の道路南部を横ぎりてパスを通じ、北隣笠場への等外道路は川に沿うて漕り交通不便ならず。

ホク——ホクカ

【北面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の北西部。昌寧郡の北東方約一二軒、南は昌寧面に隣り西は咸安郡北東部と境し、北は東萊

行はれ、南西は井州邑に接し、北は淨海、奉仁二面に、東南は七寶面に隣る。南境は中部に位する七寶山(四七二米)の山嶺東西に延び、その山脚數條北方に延びて丘陵をなすも、それら丘陵の間に何れも巾狭き低地ありて耕地よく拓け水田多し。米を第一とし、麥・豆・棉花等の農産あり。井邑・全州を繋ぐ一等道路略中部を南北に通じ、井州邑内の鐵道湖南本線の井邑驛に近く交通便なり。

【北面】朝鮮忠清北道清州郡の北部。北二面に接す。地東西に廣く約一五軒、南北は最廣部に七軒内外あり。東境には九女山(四九七米)あり、それより南境東半には四百米蓋の山嶺つづきて上黨山城址の邊に達す。面の大部分は低き丘陵を起伏するも概ね平坦にして特に西境を南流する美湖川左岸と北境を西流する美湖川支流に沿ふ地とは耕地廣く水田よく發達す。農産には米を主とし麥・豆類・棉花等を出す。清州・忠州街道は略中部を南北に貫き、また社線鐵道忠北線は美湖川と支流との沿岸平野に沿ひて走り井下・梧根場・内秀の三驛(共に大正十二年設置)を設け交通便なり。

【北面】朝鮮忠清北道清州郡の北部。北二面に接す。地東西に廣く約一五軒、南北は最廣部に七軒内外あり。東境には九女山(四九七米)あり、それより南境東半には四百米蓋の山嶺つづきて上黨山城址の邊に達す。面の大部分は低き丘陵を起伏するも概ね平坦にして特に西境を南流する美湖川左岸と北境を西流する美湖川支流に沿ふ地とは耕地廣く水田よく發達す。農産には米を主とし麥・豆類・棉花等を出す。清州・忠州街道は略中部を南北に貫き、また社線鐵道忠北線は美湖川と支流との沿岸平野に沿ひて走り井下・梧根場・内秀の三驛(共に大正十二年設置)を設け交通便なり。

【北面】朝鮮慶尙南道長城郡の北西部。北は北二面、東は北上面、東南は長城面に隣り、西は全羅北道高敞郡高敞・古水二面に界す。面積三〇方軒餘。慶嶺山脈南西部の支脈延びて、東境に山城山(三八三米)・月出峰(三〇九米)となり、南西境には文殊山(六二〇米)の北嶺ありて山脈南北境上を各東方に連り内山地多し。北二面より來りて東部を南流する介川と、西部山地より發し東流してこれに合する支流との川沿に平地ありて田畑拓く。米・麥・大豆・棉花・蕎麥等の農産あり。長城・高敞街道は中部を東西に通じ、鐵道湖南本線は東部を南北に走り、新興里驛(大正三年設置)を設く。

【北面】北越 一般に越中・越後二國の邊を指して北越と稱するも、主として越後國をいふ。

ホクガク 北岳山 朝鮮京城府の北部

【北面】朝鮮京畿道開豊郡の西北部。開城府の西北約八軒。北より東北は黄海道金川郡と界し、西は咸鏡道江界を距て同じく金川郡並に延白郡と相對す。東西五—八軒、南北約一〇軒、面積約七一方軒。

【北面】朝鮮忠清南道大徳郡の北中央。大田府の北方約一二軒、東および北は錦江の中流を挟みて忠清北道清州郡文義・賢郡の二面に對す。面積約四方軒。中部を南北に連る東西二條の丘陵あり、東のものには南境の株機臺址の邊にて四三—一〇米、中部の燕峰にて二四八米、西のものは最高處にて二〇〇米内外を示す。東部丘陵の東西には狭長の低地あり、各小流ありて北に流れ錦江に入る。西部丘陵より西は概ね平坦にして、特に北西境を北流する甲川が錦江に會流する邊には低平なる沖積地あり、これら河邊の平地には田畑よく拓け、米・麥・豆・棉花・莞草・西瓜・大根等の農産を出す。また砧石の産地として知らる。大田・天安間の一等道路と鐵道京釜本線北西部を差走し、後者の新浦津驛(明治三十八年設置)あり。

【北面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の北西部。昌寧郡の北東方約一二軒、南は昌寧面に隣り西は咸安郡北東部と境し、北は東萊

【北面】朝鮮慶尙南道昌寧郡の北西部。昌寧郡の北東方約一二軒、南は昌寧面に隣り西は咸安郡北東部と境し、北は東萊

に登ゆる山。北漢山の山腹南に延びて起す山にして標高三四二米。李大祖この山の南麓に王宮を營み景福宮と稱す。宮城の一部に總督府廳舎建つ。宮城府

ホクキツ 北橋村 群馬縣上野國勢多郡の西部。赤城山西南斜面の一部を占め利根川の東岸にあり。西は川を隔て、群馬郡津田町その他と相對す。村は赤城山中腹以下の緩傾斜面を占め、東部には森林多く、西部の山麓は農業、養蠶行はれて、大麥・小麥・米・甘藷・蕎麥を産す。また馬・牛・豚・鶏・兎・山羊・羊等の畜産多し。縣道南走して前橋市に通ずるも、また北部より西走して津田町に通ずるものあり。この地は和名抄、勢多郡勢多郡の地にして、大字眞壁はその遺稱なり。

大字八時に不動山城址あり。長尾左衛門尉伊豆の房城にして、永正六年、越後の長尾爲景と心を合せ山上杉氏に背き、上杉憲房は大軍を帥るて向井・沼田兩城を攻むるの時、伊豆は不動山城を保つ。村内に利根川を利用せる佐久發電所(出力五五、〇〇キロワット)あり。〔木曾三社神社〕大字下箱田にあり。神社。祭神、宇氣母智神外三神。瀧之宮または箱田明神とも稱す。木曾一族の祈願所。その後武門の崇敬厚く、徳川幕府は之を一藩の鎮守とし、前橋城主代々管轄の事を司り、殊に酒井氏の信仰最も厚かりといふ。例祭、三月二十一日。

ホクコ 北後面 群馬縣前橋市北後面

の北西部。東南の先端部は安東邑の西邊に接し、西は龍泉郡界に、北は榮州郡の長壽面・平恩面に境す。面積約七五方軒。南境の中部に天燈山(五七五米)、西隅に鶴見山(八八二米)峙ち、その山腹北方に下り、北西境を西流する乃城川岸に迫り、面の西北半部は殆ど山地をなす。東半の東南部は長く南方に延びその東境には二百米臺の丘陵地あるもその西には洛東江の小支流松夜川の上流南流しその川筋に小低地ありて耕地拓く。米・大豆・棉等の農産あり。安東・榮州を繋ぐ道路は松夜川の谷に沿ひて南北に通じ、道の便あり、また安東邑には社神廟鐵道北線の終端驛なる慶北安東驛ありて、面の東半は交通便利なり。

ホクコ 北港

〔北港部〕 臺灣臺南州二市十郡の一。州の北西邊海岸帯にあり。北は舊尾尾港南は北港溪に依りて形成されたる扇狀地を占む。東は新虎尾溪(北港溪に注ぐ)を隔てて斗六郡に、北は舊尾尾港を隔てて嘉義・東石二郡に、北は舊尾尾港を隔てて虎尾郡に對し、西は臺灣海峡に面す。かくの如く北東南三面を溪流に依りて圍繞せられ、地勢は東より西に向ひて緩かに傾斜展開し、平野遠く連りて丘陵を認めず。河川は常時水量乏しく舟楫の便なし。海岸線は彎曲少く沿海淺淺にして碇泊に便なる灣港を有せず。行政上、北港街及び元長・四脚・口湖・水林の四庄に區分

三郡面に北隣し、北は江後郡と界し、東は日本海に面す。東西長くして約一三軒、南北八一一二軒あり。大白山脈の東斜面にして、西南境の中峰山・頭陀山等も、一三五〇米前後の標高を有し、東北部に草嶽山(五三二米)あるも、海岸に向つて緩傾斜す。西部山地に箭川發し東流すること約一五軒にして海に入り、その下流流域には稍々廣き平地横はる。海岸は約一〇軒の間、殆ど低砂濱をなすを以て泊津を缺く。米・麥・大豆・大麻・棉花等の産あり。海沿ひに三陸・江陵間二等道路走りバスの便あり、之に沿ふ北坪里より西方の旅客方面へ三等道路を設ち交通の便なり。北坪里は箭川右岸に臨む邑にして、金融組合・市場等あり。西南部の三和里に古刹三和寺あり、附近に武陵溪・龍湫・頭陀山等の勝地あり、北坪里より自動車道ハイキングに好適なり。

〔北三面〕 朝鮮慶尙北道漆谷郡の北西部。大邱・金泉間の街道に當り、前者を距る北西約三五軒、後者より隔たること南東約二〇軒、面積四七方軒餘。北西隅は金島山(九七七米)の南面、南西部は境上に聳ゆる鉢炭山(七八二米)・椹嶺山(七四二米)の東・北の斜面にて山地をなし、東部にも二百米臺の丘陵性山地あるも中部には廣き平地ありて鏡湖川西隣金泉郡南面より之を東流し南隣若木面に出で東境をなして南流する洛東江に注ぐ。中

ホクコ 北三面

し郡役所を北港街に置く。郡下には從來水利の便なかりしが、大正十四年嘉南大圳工事一部完成と共に元長庄の一部に通水を見、爾來逐年その面積を増加して現在郡下全體を灌溉すと雖も、水利なほ不十分にして、耕地は兩期作田甚だしく、大部分は早期作田と畑となり、本部耕地の特異性をなす。米・甘藷を二大農産物とし、之に次で甘藷・落花生・蔬菜の産出また夥し。此等の外に特用作物として黄麻の栽培廣く行はる。畜産は農家副業の首位を占め、勞役用の水牛・黄牛を除き、鶏・鵝を主とする家畜家畜類多く、一般家庭に於て善く飼育せらる。林業は耕地防風林及び海岸造林に指を屈すべく、海岸一帶に木麻黄の美林造成せられ、産業衛生上裨益する所頗る大なり。水産業は不振にして、沿岸漁業及び養殖業あるも、漁業による漁獲物多からず、養殖業は虱目魚・鱈魚・牡蠣最も多し。工業は製糖業を第一とし、大日本製糖の北港製糖所あり、之を除けば僅て小規模の工業若しくは家庭的手工業にして大なる消長なし。商業は農村相手の小賣商を主とし、北港街を中心に行はる。交通網は北港街に集中せられ、大日本製糖の社線三あり。北港・斗南間・北港・小梅間・烏麻間・嘉義間に通ず。海岸道路を除き主要道路は北港街より放射狀に出で、乗合自動車發達して四隣各主要地を連絡す。

〔北港街〕 臺灣臺南州北港郡の主邑。郡

の東南部に位置し、北港溪左岸に沿ひ、三角狀地形を呈す。東南は北港溪を隔てて嘉義郡新港庄及び東石郡六脚庄に對し東北は元長庄、北は四脚庄、西は水林庄に夫々境を接す。土地は平坦にして市街は北港溪時あり、階々整備せられて街衢整然、新興の空氣に燃え、市街地を除けば田畑遠く展開す。米・甘藷・甘藷・黄麻・落花生・豆類・蔬菜を主要農産物とし、殊に甘藷は農作物中首位を占む。畜産は水牛・黄牛・豚・山羊・鶏・鵝・鴛等の家畜家畜類多く、一般農家に於て善く飼育せらる。製糖業は工業の主眼にして大日本製糖の製糖所を有す。交通は至便といふべく、大日本製糖の經營に係る北港・斗南間・北港・小梅間・烏麻間・嘉義間の三私設線を有する外、嘉義・朴子・土庫・海口・三條崙・新港等各地との間に乗合自動車を通ず。管内はもと大樞東頂嶺の一部をなし、明末以來漢族の寄居地となり、清朝領有の初め、疎立の開拓を經、往時は榮港街と稱し、早く康乾年間、閩の漳州人により肆店を創建せられ、當時北港溪は水深くして船を此地に廻らしむるの便ありき。雍正九年には榮港を島内貿易港として開き、且つ縣丞を新設し、地方を稽查し、兼れて船隻を査することとせり。現市街は初め漢南なる舊南港(嘉義郡新港)と合して榮港街と稱し、當蒙正商は多く南部に集中せり。然るに乾隆十五年洪水のため

部の低地には水田・畑よく拓げ、東境洛東江岸に畑地多し。農産に米・麥・大豆・陸地棉等あり、果樹栽培も行はれて苹果の産あり、また叭の製織あり。大邱・金泉街道にバスを通じ、鐵道京釜本線若木驛(南隣若木面)に近く交通便なり。

ホクサン 北山面

〔北二面〕 朝鮮全羅南道長城郡の北西部。東は北上面に、南は北一面に隣り、西北は全羅北道高靈郡高靈面及び新林面に、北は同邑郡雲巖面に界す。面積四五方軒餘。廣嶺山脈西南部の山腹によりて四境を圍まれ、東北境上には高度四一六百米、西北境の中登山は七四三米、南西境にては三百米臺を示す。北境山地より出づる諸溪はみな南流し南東に流れて合一し黃龍江に入る介川となり南隣北一面に出で、これ等の諸溪兩岸の平坦地は互に相連りて一盆地をつくり水田及び畑地比較的廣く發達す。農産は米を主とし麥・大豆・棉花等あり。長城・井邑街道は北上面より來りて東北部を南北に通

ホクサン 北一面

の東北部に位置し、北港溪左岸に沿ひ、三角狀地形を呈す。東南は北港溪を隔てて嘉義郡新港庄及び東石郡六脚庄に對し東北は元長庄、北は四脚庄、西は水林庄に夫々境を接す。土地は平坦にして市街は北港溪時あり、階々整備せられて街衢整然、新興の空氣に燃え、市街地を除けば田畑遠く展開す。米・甘藷・甘藷・黄麻・落花生・豆類・蔬菜を主要農産物とし、殊に甘藷は農作物中首位を占む。畜産は水牛・黄牛・豚・山羊・鶏・鵝・鴛等の家畜家畜類多く、一般農家に於て善く飼育せらる。製糖業は工業の主眼にして大日本製糖の製糖所を有す。交通は至便といふべく、大日本製糖の經營に係る北港・斗南間・北港・小梅間・烏麻間・嘉義間の三私設線を有する外、嘉義・朴子・土庫・海口・三條崙・新港等各地との間に乗合自動車を通ず。管内はもと大樞東頂嶺の一部をなし、明末以來漢族の寄居地となり、清朝領有の初め、疎立の開拓を經、往時は榮港街と稱し、早く康乾年間、閩の漳州人により肆店を創建せられ、當時北港溪は水深くして船を此地に廻らしむるの便ありき。雍正九年には榮港を島内貿易港として開き、且つ縣丞を新設し、地方を稽查し、兼れて船隻を査することとせり。現市街は初め漢南なる舊南港(嘉義郡新港)と合して榮港街と稱し、當蒙正商は多く南部に集中せり。然るに乾隆十五年洪水のため

を占め、底邊に當る南境にて東西約一二軒、南北は約一〇軒なり。北境と東境に低き山地ある外は土地概ね平坦にて美湖川に西南境を南流し、支流寶崗川は曾坪面より來り中部を西流してこれに合す。これら河川の沿岸には平地廣くその他中部・南部の低地にも耕地よく拓げ、米を主として麥・豆類・棉花等の農産多し。當面に龍門金礦あり、鑛種は金銀にて昭和十年には金一六、二一三、銀一五、二七九五(この總額五萬餘圓)を出し、同年六月末の従業員八七人なり。清州・忠州街道中部を略北東に通じ、社神廟鐵道忠北線またこれと並走し、その内秀驛(北一面内)及び清安驛(曾坪面内)にも近く交通便利なり。

〔北二面〕 朝鮮全羅南道長城郡の北西部。東は北上面に、南は北一面に隣り、西北は全羅北道高靈郡高靈面及び新林面に、北は同邑郡雲巖面に界す。面積四五方軒餘。廣嶺山脈西南部の山腹によりて四境を圍まれ、東北境上には高度四一六百米、西北境の中登山は七四三米、南西境にては三百米臺を示す。北境山地より出づる諸溪はみな南流し南東に流れて合一し黃龍江に入る介川となり南隣北一面に出で、これ等の諸溪兩岸の平坦地は互に相連りて一盆地をつくり水田及び畑地比較的廣く發達す。農産は米を主とし麥・大豆・棉花等あり。長城・井邑街道は北上面より來りて東北部を南北に通

ホクシ—ホクシ

じてバスの便あり、また鐵道湖南本線は北境の蘆嶺のトンネルを潜りて東部の平坦地を南方に走り、四街里驛(大正三年設置)を設け、木炭・薪・竹炭等の産物を集散す。

ホクシ 朴子街 臺灣臺南州東石郡の主邑。郡の中央部に位置し、朴子溪の南岸に沿ひ、嘉義の西方二四軒にあり。東は大保・鹿草二庄、西は東石庄、南は義竹・布袋二庄に夫々境を接し、北は朴子溪を挟んで六脚庄と相對す。地勢平坦にして中央に荷荷碼頭あり。地味甚だ肥沃ならず、また水利不十分なりと雖も農業を主産業とし、耕地は二期作田僅少にして概ね單期作田及び畑なり。米・甘蔗・甘藷・蔬菜・落花生を主要農産とす。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする家畜家禽類多く、一般農家の重要副業として背く飼育せらる。工業は大規模のものなく、摺摺精米・製麵・製油・磚瓦製造の小工場散在す。市街は郡下交通の中樞を爲し、主要道路放射狀に發達し、東は嘉義を始め、南は鹽水、北は北港等、内外各主要地との間に通じ、大抵乗合自動車の便を有す。管内はもと東北半は大城郡西堡に、西南半は大城田西堡に屬し、前者は明末、後者は清領後康熙年間にて共に閩人により開拓せられたり。現市街附近一帶は明の永曆三十五年頃、閩の泉州府安溪の人、林馬なる者によりて開かれたるものに係り、當時朴

子溪(牛稠溪)は現市街地の南を流れ、水深くして此地に一の港を形成し、戰艦港といひ、河口より船隻を廻らしむることを得たり。清の雍正四年泉州同安の陳金生なる者、溪流に沿ひて此地に來り、居を定めて商業に従ひ、翌年同籍の商賈波來し、肆店を設けて貿易に従ひしより漸次一小市街を形成し、戰艦港街と稱せり。同九年には島内貿易港として開かれ、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に「戰艦港、臺灣小商船往來貿易」と見ゆ。而して市街の傍に一大朴樹(楓)ありしより後に朴仔脚街と呼ばるゝに至り、臺灣府志に「朴仔脚街、舊爲戰艦港街、今更名」と記せり。爾後この地方の中心市場として發達せしが、嘉慶年間溪流は流路を市街の北に變じたる爲め船隻の碇泊地としての價値を失ひ、河川に東石港の開かるゝありて市況の一變を來せり。然れども尙ほ嘉義より東石港に通ずる要路に當るを以て東石港の輸出入貨物は必ず本街を経過する爲め、依然として地方經濟上重要な地位を保ち、我が領臺後は樞仔脚に改め、大正九年更に舊名を取りて朴子と改稱せり。

ホクシドー 木寺洞面 朝鮮全羅南道谷城郡の南部。北は寶城江によりて石谷・竹谷二面と境し、南は順天郡月燈・雙巖・住巖三面に隣接す。小白山脈南部の支脈南境上に延び、それより分れる飛來山(八〇二米)は東境北部に、峨嵋

山(五八三米)は南西部に聳え、東西に山地あるも、その中間の谷と西と北の境をなして北東流する寶城江岸と平坦地ありて耕地拓く。農業を主業とし米・大豆・陸地棉等を主産物とす。管内には外道踏あるのみならず、北隣の竹谷面に掘れば全羅綠鴨線に至る街道ありてバスの便あり。

ホクシホ 朴子埔 臺灣地府鐵道阿里山線の驛(昭和八年設置)。臺南州嘉義郡竹崎庄朴子埔にあり。ホクシユ 北州 新吉原遊里の異稱。江戸城より北にある故にいふ。北國。異名六帖・序「この六帖は青樓の精數と北州の全盛とを折中す」

ホクシヨ 北上 朝鮮全羅南道居昌郡の北西部。郡邑居昌面の北西方約一五軒、南西は成陽郡西上面と、北西は全羅北道鎮安郡・茂朱郡の一部とに界す。面積一二四方軒、郡内第一の大家なり。小白山脈の東南斜面にて、その興徳山の山嶺は東境を南方に延び、西境には德壽山(一五〇八米)、南西界上には金鏡山(一三六三米)・月峰山(一二七二米)峙ち、管内殆ど山地をなす。渭川の請上支は北西山地に出て南東部に合流し、南東渭川面に出て、それ等の川筋に巾狭き谷地ありて農業行はる。米・麥・豆等の農産あるも産額多からず。德壽山に南嶺の一名山にしてその溪谷に訪仙亭・四仙臺・噴雲潭・六方亭・

三三〇

噴雲潭・龍岩亭・櫻臺等、謂ゆる八潭八亭中の名勝あり。

「北上」朝鮮全羅南道長城郡の北部の中央。土地南北に長く、長城面の北隣にて、東は北下、西境の南半は北一、北半は北二の諸面に隣接し、北は全羅北道井邑郡笠原面に界す。面積五二方軒。蘆嶺山脈南西部の山地にて、北部の東境には白羊山(七二二米)・加仁峰(六七七米)、北西界上には雲巖山(六三二米)、南部の東境に支峰(四八一米)、西境には山城山(三八三米)等の諸峯ありて山地廣し。ただ榮山江支流の黃龍江は東隣北下面より中部に入り、北部山地より南下する支流を合し、更に南部の中央を南流して長城面に出て、その兩岸の氾濫原には巾約一軒に達する耕地帯ありて、畜を主とし畑地拓く。農産に米・麥・大豆・棉、林産に薪材・木炭等あり、吠の製造行はる。長城・井邑間の一等道路は南部の西側を通じ、それより較る、潭陽街道は東方に走り共にバスの便あり。また鐵道湖南本線四街里驛(西隣の北一面内)にも近く交通便なり。

ホクシヨ 北城 長野縣信濃國北安曇郡の中部。仁科三淵の一なる青木湖の北七軒。經川の上流なり。村の西境は日本アルプスの白馬嶽(二九九三米)・杓子岳・鈴ヶ岳(二九〇三米)・廣松岳(二六九六米)の峻峰が聳え、東境は妙高・戸隠山塊の八方

山(一六六二米)・物見山(一四四一米)・新山(一三三八米)あり、南北に通ずる經川の狹隘に發達せる村とす。本村は南接する神城村と共に四ヶ城盆地を形成し地質時代には一湖水たりしが、西方日本アルプスよりの幾多扇狀地の砂礫によつて埋められ、經川の下部侵蝕によつて干潟せしものなり。村は附近の地方と共に古來四ヶ城馬の産地として著名にして、山麓を利用せし牧場もありしが、近年は養蠶業が之に代る主要副業となれり。近年は日本アルプス登山の一起點として本村の字四ヶ各は發展せり。村より見れば白馬嶽・鈴ヶ岳の雄峯が望まれ、杉川の溪谷によれば直ちに主峯に近づき得、これ即ち近時登山者を吸引するに至りし所以なり。省線大糸南線通じ信濃四ヶ各・信濃森上の二驛(共に昭和七年設置)あり。本村は深谷・細野・新田・鹽島・野平・大出・藤平・嶺方の舊八箇村を合して成れるもの。此の白馬連山高山植物地帯は指定天然記念物たり。(諏訪社)字大林に觀音・神・健甕名方命外四柱。創立年代不詳。江戸時代には松本藩主の崇敬社にして、社領の寄進、禁制の下附等の事あり。また近郷の産土神。

ホクシ—ホクセ

面積約四九方軒。西南境最も高くして約六百米の嶺高山あり、南境に雲巖山、北部に黃石山等二三百米の丘陵連るも、中部は西方山地に發して管内に注ぐ南川江その他の河川の洪瀉原に屬して土地低平、且つ地味肥沃なる耕地ひろく。海岸は孤狀を呈し低砂濱にして良泊を缺く。農産に米、水産に鱈・牡蠣等あり。中部に鐵道成鏡本線と元山・會亭間一等道路ほ並行して通じ、前者の文野驛(大正五年設置)あり、交通不便ならず。同驛附近は白沙青松の勝地にして海水浴場として著はれたライオン・サン石油會社の油槽あり。此處に住友文野製練所設けられ、乾式法によりて金を製練す。驛の南に雲巖山古城址あり、往昔、女眞族が北邊を侵掠しその勢ひ猖獗を極むるに當り、李朝太祖この城に入り奇功を奏せし所に於て、文廟の役に加藤清正の屯せしも、此城なりと傳ふ。

ホクシケン 北嶺 朝鮮平安北道寧邊郡の東北部。寧邊邑と熙川邑との中間に位し、西南は南嶺面、東北は熙川郡南面、東は平安南道寧邊郡太極面と接す。東西約三〇軒、南北八一〇軒、面積約二二二方軒。東部に朝鮮四大名山の一なる妙香山聳え、東北境の思嶺峰(一九〇九米)を風主とし、北境に香爐峰・法主峰、南に降仙峰・兄弟峰等あり、峻嶺を極むるも、西半部は三―四百米の丘陵地にて西北境には元運山(四六二米)あり。妙香山の西麓、面のほぼ中部を清川江東北―西南に貫き、この沿岸と、西部丘陵地とに耕地ひろく。米・粟・大豆・玉蜀黍・棉花・大麻・馬鈴薯・牛・薪材等を産し、また金・銀を出す。清川江の左岸を鐵道滿浦本線通じ北嶺・妙香山の二驛(共に昭和九年設置)あり、右岸には安州・江界間二等道路走り、北嶺驛より北西方の温井方面へ輕便鐵道を敷ち交通不便ならず。妙香山中には普賢寺・檀君宮等あり。妙香山

を現住地に集團せしめ、ゴタスイ社を形成したり。アマール族のゴタロコ藩に屬する高砂族の部落。戸數四二、人口二二〇(昭和十一年調査)。

三三二

ホクセ 北青 朝鮮咸鏡南道の北東部。道管内二府十六郡の一。北は豐山郡、東は端川・利原の二郡、西は新興・洪原の二郡に接し、南は日本海に面す。東西約五六軒、南北約七二軒、面積二三八二方軒に及ぶ大郡なり。東・北・西の三面は山地を以て開墾せられ、北部に高峻にして南方に漸次低夷す。即ち北境山地は蓋馬高原の東南端部を占めて赴嶺嶺山脈に屬する厚峰嶺(一三三五米)・南山峰・三峰(一九八七米)・希沙峰(二一七米)等連なり、數條の支脈日本海岸に向つて南走し、東境には冠岩山・廣嶺(五六二米)・嶺山・慶峰等、西境には太白嶺・發義峰(一四七七米)・畢頭峰(一三〇四米)・魚物大

嶺(七八八米)・南嶺(南嶺嶺(三二五米)等あり。厚崎嶺に發する南大川は中部を南流し、西より八嶺川・車吉川、東より坤坂川等大小幾多の支流を樹枝狀に集めて日本海に朝し、下流に謂ゆる北青平野の洪源を形成す。海岸は海陸・砂濱斷續して延長五〇軒に餘り、殊に西部は陽化層・新浦港あり、前面に馬島を控へて好適地をなし、陽化層の東角なる松島岬以東には十數軒の孤島を描く淺海をつくり、更に南大川河口に新昌港あり。南大川河口の西方には大田湖・枝琴田湖・龍湖の三大湖あり。農業を主産業とし米一二萬石(昭和十二年、以下準之)・大麥三・六萬石、大豆六・六萬石、粟八・八萬石、その他雜穀を産し、副業に養蠶・牧畜(牛・豚・鶏羊)・養蜂・養蠶等行はる。穀物中、米は道内にて消費する他、咸鏡北道に移出し、大豆は主として大阪・神戸・下關・伏木・敦賀の諸港に向け積出さる。沿海には魚介の利多く、新浦・新昌は漁港として著はれ、鱈(五五五萬圓)・明太魚(一七五萬圓)を筆頭に鱈・鱈・鰻等の漁獲高合計七五八萬圓に上り之に伴ひて水産製造盛んにして、乾明太魚(一七三萬圓)・明太魚卵(六七萬圓)・鱈(一七三萬圓)・トマトサーモン・鮭味付、計一〇六萬圓)・鱈粉(一五六萬圓)・鱈一(三九萬圓)・明太魚肝油(四六萬圓)・鱈油(三六五萬圓)等、合計一三三四萬圓の産出あり、新浦・新昌兩港には鱈油製

工場等軒を連ね、其他の工業に製絲(一二萬圓)・木製品・蠶工品・木炭等あり。交通は南部海岸に近く東西に地層府鐵道咸鏡本線走り、西より東へ新浦・陽化・義湖・俗厚・新北青・新昌・房山・乾白の各驛あり、新北青より良家を経て北青に至る北青線を分岐する外、南部に元山・會寧間一等道路通じ、北青より北方厚崎嶺を越えて豊山・甲山に至るバス道路あり、道路網比較的密にして、且つ新浦・新昌には定期船寄港し、特に南半部の交通至便なり。行政上、北青邑・新浦邑及び新北青面は各一箇面に分ち、郡廳を北青邑に置く。本郡は三國時代に高句麗に屬し久しく女眞の據るところなりしが、高麗宗二年、尹璵は女眞を逐ひ各所に山城を築けり。のち元に領せられ三徽と稱せしが、恭愍王五年、舊城を復し安北と稱し千戶防廳所を置き、同二十一年青州と改め控使を置き萬戶を兼せしむ。李朝太祖七年、改めて青州府となし太宗十七年に至り北青と稱し、爾來、五百餘年を経て建陽元年(明治二十九年)に郡となし今日に至る。

【北青邑】朝鮮咸鏡南道北青郡の中部南偏。北は徳城、東は房山、西は佳會、西南は厚昌の各面に、南は新北青面に開き、東北・西南に長く、面積約八〇〇方町。東境に赴龍嶺山脈の支脈連なりて大嶺山(一四六二米)聳え西南に傾斜し、南境には徳嶺山(八〇〇米)あり。西南部に乾鏡北道と分岐しつづ南流する南大川の洪源に屬し、地味肥沃なり。農産は米(九千石)・大豆(三千石)・粟(五千石)・大麥・蕪等に於て、養蠶・牧畜また行はれ、工業に生糸・木炭・味噌・醬油等あり。鐵道北青線西南部を通じて終點驛、北青(昭和四年設置)あり。邑内を中心として元山・會寧間一等道路通ずる外、甲山方面へ二等道路を出し、惠山驛・新芝坡驛行きのバス發して交通至便なり。邑は南大川左岸に位し、奥地豊山・甲山・惠山嶺への門戸をなし、物資の取引盛にして、郡内の産物、特に水産物の集散大に行はれ、東里に開市する北青市の取引高は一年一二〇萬圓を超す。昔より北青の名邑として知られ郡廳・地方法院支廳・道立醫院・專賣局出張所・公立農業學校・公立職業學校・噴霧支店・東駐在所・良徳水利組合・咸南合同電氣支店その他諸會社あり。邑に北青城址あり、高麗宗宗の時、尹璵の築きしものと云ひ、周圍三・五軒に餘る方形にして、高さ六米、嘗て東西南北の四門並に十三砲樓を有し郭外に甃塼を築らし、李朝時代、南兵營所在地として相當の設備ありしと、今は大部分破壊せられ、僅に城壁の一部を遺存す。郭外に東井公園あり。

【北青線】朝鮮總督府鐵道の一。咸鏡南道の北東部にあり。北青郡新北青面の咸鏡本線新北青驛より分れて北方の北青驛に至る。全長九・四町。

ホクセ——北勢

【北勢】臺灣總督府鐵道臺中線の驛(明治三十六年設置)。新竹州竹南郡後龍庄にあり。

ホクセ——新店溪(臺灣)

【北勢溪】北川面 朝鮮慶尙南道河東郡の中部東偏。南西は良昌面と境す。長橋面に隣り、東は泗川郡昆明面と境す。面積約三三方町。北部・南部共に高さ約四・五百米の山地東西に連るも中部にはその割合をなす東西に巾狭き低地あり。米・麥・大豆・大麻・楮等を産す。河東・晉州間の道路中部を東西に走りバス通す。

ホクセ

【北勢線】北川面 詳しくは南滿洲鐵道株式會社鐵道局北勢線と稱し、朝鮮總督府鐵道なるも、現在は國策上、滿鐵に委管經營せしむ。日滿交通上の要路に當る清津・羅津及び雄基の謂ゆる北勢三港を連ね、滿洲國鐵道と連絡するものにして、日滿連絡の最捷路をなす。咸鏡北道雄基郡柔浦面の南陽驛より開河江右岸に沿ひ雄基・調我・慶源・新阿山・阿香地・九龍坪等を經て慶源郡雄基邑の雄基驛に至る一四四・〇軒の北勢東部線(も)と開河江と稱せしもの)及び咸鏡北道清津府の清津驛より北走し雄基・富寧・古茂山・會寧・上三峰・雄城・海州等を經て前記南陽驛に至る一七〇・二軒の北勢西部線とを幹線とし、前者は南陽より開河江中心に至る一・二軒、雄基より羅津に至る一五・二軒の各支線を、後者は上

三峰より三峰橋中心に至る一・四軒の線、及び會寧より新島林に至る一・七軒の會寧炭礦線を分岐す。而して北勢西部線の雄城驛に於て總督府鐵道咸鏡本線に、同じく古茂山驛にて社線朝鮮鐵道咸鏡北線に接続し、また羅津及び清津に於て何れも北日本汽船航路・日本海汽船航路と連絡して東日本諸港に至る。運輸系統は清津より會寧・上三峰を経て南陽に至り、また羅津より雄基・慶源を経て南陽に至り、共に滿洲國に入り開河江より京開線によりて吉林を經、新京に直通し、また上三峰より鐵道局朝鮮線に連絡す。軌間は一・〇六七米(廣軌)にて蒸氣運轉とし、朝鮮線と接続するもの外は何れも省線と運送運輸をなす。

北勢線

【北勢東部線】北勢線  
【北勢西部線】北勢線  
ホクシー 北倉面 朝鮮平安南道 鳳川郡の北部。鳳川面の東北に隣り、東は殷山面、北は价川郡鳳東面・中南面に界す。西北―東南に長く約 五軒、幅は平均五―六軒あり。東北部と東南部に山脈連り、東端に雲峰(八八〇米)聳え、漸次西及び西南に低夷して五峰(二七〇米)を起し、大同江畔に至りて短む。大同江は北西部より西南部にかけて南流し、江岸に沿ひやや廣き平地がらく。米・大豆・棉花・小麥その他穀類及び金・銀を出す。西部を順川・价川間三等道路南北に通ずるも交通未だ便ならず。主邑北倉里は大

ホクダイ 北大

【北大】朝鮮咸鏡南道東北部を流るる河。端川郡北斗日面の北境なる頭流山・天火嶺の南斜面に發源し、摩天嶺山脈に沿うて、その西側に縱谷を造りつつ南流し、汝海津の東にて日本海に注ぐ。流程約八〇軒。

【北大峰】朝鮮平安南道の東境に近く、陽徳郡雙龍面・吳江面に跨りて聳ゆる山。北大峯山脈の主峯にして、標高一三二七米。

ホクダイホー 北大峰山脈

【北大峰山脈】朝鮮平安南道の東境に近く、陽徳郡雙龍面・吳江面に跨りて聳ゆる山。北大峯山脈の主峯にして、標高一三二七米。山脈の北に於て、ほぼ平安南道と咸鏡南道の界を南北に走る山脈。狼林山脈の南縁なる狼林山(二〇一四米)附近に起り平安南道寧邊郡中東部を横きりて咸鏡南道界に達し白山(一七二四米)を起し、之より峠道界に沿うて南走し、屏風山(一五四九米)・鐵壁山(一〇九五米)・白山(一四九二米)を連ねて主峰、北大峰(一三二七米)となり、なほ正南に走りて黃海道に入り、餘勢は栢山(二四〇米)・大角山(二二七米)等を起し體成江左岸に沿うて京畿道に入り開豐郡内に大屯山・帝釋山・天摩山等七百七米の諸峯を連ね、漢江・禮成江の合流點附近に至りて短む。山脈の北に於て大同江上流東西に横谷を刻むも、以南に於ては日本海斜面と黄

ホクタン 牧丹面

【ホクタン】朝鮮黃海道延白郡の西北隅。延安邑の西北約一五軒。西は海州郡、北は平山郡と界を接す。東西約一〇軒、南北約五軒あり。北境に牧丹山(三〇四米)・雲頭峯(三〇七米)あり、後者の山脈南に延びて東南境に樂山(二七三米)を起し、また城内に百米臺の丘陵隨處に起伏す。花陽川西境を劃して南流し、その支流弓下川は雲頭峯に發して東部を灌漑し一度南接せる弓掛面に入るも再び西南境に現はれ、本流に合し、之等流域に稍々廣き平地あり、なほ東北部牧丹山東麓にも平地ひろく。前記兩川の合流點附近に、近時その水を堰止して成れる黃海水利組合の大貯水池あり。米・小麥・棉等の農産あり。延安邑より来る道路中部を東南―西北に貫き、西北端の主邑羅漢里に達し、花陽川右岸に通ずる海州・南川店間二等道路に合し、自動車を通ず。羅漢里は牧丹山下に位し、地方的中心にして、金融組合・市場等あり。附近は羅漢坊と稱し、處々岩壁清流に臨みて風曲し一勝地たり。嶺學牧院(李總)高麗末革命の際、世を匿ひ官位を棄て餘生を送りし地にして、誅掃亭・釣台・牧隱遺像等完全に保存せらる。

ホクチヌー 北中面

【ホクチヌー】北中面 朝鮮平安北道龍川郡の西北部。龍川面の東北に隣り、新義州府の正南約一五軒、西の一部に於て鴨綠江に臨む。東西約一〇軒、南北五―七軒。東部に百米程度の丘陵東西に連る外、城内處々に五〇米前後の丘陵起伏するのみ、河川の著るしきものなしと雖も、大正水利組合の水路によりて灌漑の利あり、農耕盛に行はる。米・大豆の産多し。龍岩浦・新義州を運ぶ二等道路中部を通じ、途中より東折して舊邑に出づる路線あり、何れもバスを通じ、交通便なり。

ホクチン 北鎮面

【ホクチン】北鎮面 朝鮮平安北道雲山郡の西北隅。東は委延面、南は城面に接し、東北は楚山郡、西北は昌城郡と界す。雲山の北約二五軒、南北の長軸二〇軒を有する略々菱形をなし、東西は最廣一五軒あり。四面山にて圍まれ、北境に龜嶺徳山(一三二六米)、東境に大岩峰(一〇二六米)・東林山(一六五五米)、西境には九峯山(八八一米)、南端には道里山(八四一米)聳ゆ。西北境山中に發する九龍江西北―東南に流れ、中南部の草里池(周圍約八軒)の餘水を容れ、沿岸に狭長なる平地ひろく。ほぼ中央に雲山金鑛あり。金の採掘・製練大規模に行はれ、産額朝鮮第一なり。其他米・粟・玉蜀黍・牛等を産す。山間の僻地なるにも拘らず、金山會社經營の道路沿ひに通じ、主邑北鎮を中心として西北は於自嶺(四七四米)を隔て大嶺洞嶺山・昌城方面へ、東南は温井温泉に到り更に雲山・龍川の各色

へ至るバスの便あり、其他、北境の時を  
曉え楚山方面に至る道路もあり、交通の  
や便利なり。北嶺は内地人居住者も多く  
市場・金融組合・内地人小学校等あり。  
〔雲山金山〕 大岩嶺にあり、鑛種は一切  
鑛物なるも、東洋第一の金山として世に  
知らる。地質は片麻岩・花崗岩等より成  
り鑛脈は之等の中に存在する含晶石英脈  
にて、主鑛脈は大岩鑛脈及び橋洞鑛脈と  
す。昭和十年には金一、三六三、四九五  
五(價額四二一萬餘圓)、銀一、一五九、  
三九五五(價額八萬餘圓)、金銀鑛一〇冠  
(價額一萬餘圓)を出し、同年六月末の従  
業員は三六五人なり。富嶺山は明治二十  
九年北米合衆國人レーランドの開鑛に係  
り、現在オリエンタルコンソリデーテツ  
ド・マイニング・アンド・インベスチメント  
・カンパニーの經營にて、  
勿論本邦の重要鑛山たり。

ホクト 北斗

〔北斗郡〕 臺灣臺中州二十一中郡の一。  
州の西南端に位置し、濁水溪下流の北岸  
に沿ひ、同溪の本支流に依りて形成せら  
れたる扇狀の沖積平野を占む。東及び北  
は員林・彰化の二郡に接し、南は濁水  
溪を隔て、臺南州の成尾・斗六二郡に對  
し、西は臺灣海峡に面す。行政上北斗・  
二林の二街及び田尾・埤頭・沙山・大城・  
竹塹・溪洲の六庄に區分し、郡役所を北  
斗街に置く。地勢は東より西へ緩傾斜を  
爲すも一般に土地平坦にして、西部沙山・  
二林方面には往時季節風に依りて生じた

る多くの砂丘あり、概し高からず。海岸  
線は出入に乏しく、沿海また淺淺にて海  
運に便ならず。管内平野は地味鹹して肥  
なるも灌漑の便十分ならず。然れども夙  
に農業部として名あり、米・甘蔗・甘藷・  
落花生・蔬菜等の産多く、特用作物とし  
て豆類・黄麻・果樹類廣く栽培せらる。  
畜産は勞務用の水牛・黄牛を除き、豚・  
山羊・鶏・鵞等の畜産家畜類多く、一般  
家庭に於て副業的に飼育せらる。も、特  
に養豚を以て著はれ、肉豚の年々管外に  
搬出せらる。もの甚だ多し。沙山庄には  
官營の内地人移民行あり。林業は地勢の  
關係上、海岸地帯に於ける土砂防止保安  
林及び耕地防風林のみにて、此等の造成  
により産業衛生上利益する所尠からず。  
沿岸地方に於ては水産業行はる。も概し  
て不振なり。商業は地方消費を對象とす  
る小賣商にして、主として北斗・二林兩  
市街を中心に行はる。工業は製糖業を除  
けば何れも小規模にして家庭副業的工業  
の域を脱せず。溪洲庄に鹽水港製糖の溪洲  
製糖所、沙山庄に合資會社三五公司源成  
農場あり、共に製糖を爲す。鹽水港製糖  
の社總は東員林郡の鹽水港中橋より  
起りて北斗街及び溪洲・埤頭・竹塹三庄  
を経て西部の二林に達す。鹽水港製糖は  
北斗街及び溪洲を南北に貫き、指定道路・  
保甲道路四區八通して、北斗街を中心  
に聯合自動車完成し、郡内外各主要地を  
連絡す。當地方には冬季には季節風による

平地番抜マツタケ社の所在地たりしよ  
り、近昔の譯字を宛てて北投の地名起れ  
り。此地に礦産を産出する事は早く西班  
牙人の占領時代より、北投社より礦産  
を産し、漢族の此地に至りて土著と交易  
せしこと、西班牙人の記録に見ゆ。康熙  
二十三年の臺灣府學教授林爽光の臺灣紀  
略には「礦産於上淡水、土人取之以易鹽  
米芬布」といひ、同三十六年浙江省仁和  
の人都永河、初めて此地を探検し、今の  
士林に礦を設けて製煉に從へり。温泉の  
泉質は概し硫黄・炭酸泉にて、往時は  
徒らに養蠶の間に委ねられ、人の顧るも  
のなかりしが、我が領臺後開かれてより  
漸次發達して現在の如く臺灣第一の温泉  
郷となるに至れり。(竹子湖) 本庄の一  
大字。山腹に大なる環狀の竹藪あり、そ  
の狀恰も湖に近似するを以て名稱起れり  
といふ。北投を距る東八軒餘、七星山の  
中腹にあり。標高六五〇米餘、内地標・  
左來標・露頭ありて景観を以て聞え、盛  
夏の候は氣温臺北に比して約十度低く、  
静養に好適す。また水稻蓬萊種の原種地  
として其名著はれ、無料休憩所・公共浴  
場の設備あり。士林・北投兩方面より草  
山を隔て連する自動車道路完成し、ハイ  
キング遊地として喜ばる。(北投石) 北  
投溪流中にあり、硫黄鹽と硫酸バリウム  
の合成せしものにて、學術上貴重な研  
究資料として重んぜらる。昭和八年史蹟  
天然紀念物調査委員會に依り天然紀念物

飛砂激甚を極むる爲め、トラホームの患  
者多く、海岸地帯の沙山・大城二庄に特  
に甚だし。

〔北斗街〕 臺灣臺中州北斗郡の主邑。郡  
の東邊中央部に位置し、東は員林郡田中  
庄、西は埤頭庄、南は溪洲庄、北は田尾  
庄に夫々境を接す。地勢平坦、市街は管  
内の略々中央にありて縱貫道路に沿ひ、  
領臺當初までは彰化・鹿港に結託する地  
方經濟上の中心市場たりしが、縱貫鐵道  
を敷設するに當り、此處を避けて東隣田  
中庄を通過することとなりし爲め地の利  
を失ひたるも、濁水溪の度重なる氾濫に  
よりて田圃を流失せらる。等の原因に依  
り、爾後漸次衰微せり。然れども濁水溪  
兩岸堤防の完成及び之に伴ふ郡下農業の  
躍進的發展により、農産物の集散地とし  
て復興の氣運に向ひ、街衢整然、商況活  
潑なり。市街の外は田圃開墾、米・甘  
藷・甘蔗・蔬菜・豆類・黄麻等の農産物  
夥からず。農家副業として豚・鵞を主班  
とする家畜飼養を善く飼育し、これら  
畜産の生産額注目に値す。市街は郡下交  
通の中樞となり、縱貫道路の貫通する外  
主要道路は放射狀に發達し、員林・田中・  
二水・二林・溪洲等、内外各主要地との間  
に概し聯合自動車を通じ、また鹽水港製  
糖の社總は東隣田中街にて縱貫線に連絡  
し、西方二林街に達す。管内はもと東嶺西  
邊に包括せられ、附近一帶と共に清の康  
熙五十四年に專人黃利英なる者、大墾首

として指定せられたり。(紗帽山) 大字  
北投にあり。即ち草山温泉の西に近く聳  
立する圓峰を帯びたる山。帽子を伏せた  
るが如き山容を呈するより山名となる。  
標高六四三米。新北投驛より六軒餘。ハ  
イヤンが好遊地なり。

ホクト 北投

〔北投鎮〕 草屯街(臺灣臺中州南投郡)  
の北部。仁川府の西北方に、江華島の  
南、永宗島の西に、東より西へ並ぶ信島、  
晚島・西晚島・飛加之・蛇蟻・蛙蟻等の  
無人小島より成り、遙か西方海上の新島  
また本面に屬す。信島は主島にして標高  
約一〇〇米、東北・西南にやや長く約四  
軒あり。長峰島は廣き前者に相伯仲する  
も東西約八軒にて最高點は一五〇米を測  
る。諸島間途は何れも淺淺にして干潮時  
には泥濘道く連なり、附近は大船の航行  
に適せざれども、仁川港との間に舟運の  
便あり。島民は牛馬牛漁にて放牛また行  
はる。沿海は鰻の産多く、また官信金銀  
ありて金・銀を産す。

ホクト 北投

〔北投庄〕 臺灣臺中州七里郡の西端。大  
屯火山臺南麓及び之に續く淡水・基隆

として開拓を企てし所にて、當初同籍の  
佃戸を招きて着手せしが、雍正以來乾隆  
年間に入り、多數の閩の漳泉人相次いで  
移來せしにより、其の勢力は遂に專人を  
壓し、或は兩者の軋轢によりて專人の退  
去となり、或は閩人の富豪の爲に買取せ  
られ、嘉慶初年に及び專人の跡を絶つに  
至るといふ。市街の前身は乾隆三年頃、  
東嶺溪南岸の舊社總仔庄附近(今の溪洲  
庄大字舊層の一部)に建てられし東嶺街  
にして、街名は同二十九年に成りし臺灣  
府志(續修)に見ゆ。嘉慶十一年に漳泉人  
の分類械闘に際し、全街兵燹に罹り次い  
で東嶺溪の水害を被り、市街沖壞せしよ  
り、道光元年更に地を嘉慶初年頃にて建  
られし河洲内の賣斗庄にトし新に市街の  
創建を設計し、同二年に至りて成る。乃  
ち臺南州の斗六に關聯し、且つ賣斗の近  
音に因み、住字を宛てて、北斗街と稱す。  
其の東嶺街を移建せしを以て、一に東嶺  
北斗街とも稱せしこと彰化縣志に見え。  
また舊地名を慣用し賣斗街或は賣斗仔街  
の稱呼をも存せしことは同治五年に成り  
し林豪の東嶺紀事に見ゆ。我が領臺後は  
辨務署に次いで支廳所在地たりしが、大  
正九年もとの北斗街を西北斗、北斗庄を  
を東北斗と改稱し、北勢寮庄を合し、以  
上三大字を一括して北斗街となる。

米・小豆・糖・油(一五〇六米)等を起  
し、西北境には赴嶺山脈約一七〇〇米  
の高度を以て西に走り、その支脈西境を  
劃し檢德山(二一五〇米)・鳳塔山(二二  
〇三米)等聳え、餘脈は城内に火城峰(一  
七二三米)以下の高山を起すも、漸次南  
方に低夷す。頭嶺山中に北大川發し諸水  
を聚めて南流するも沿岸平地を缺き、住  
民は専ら畑作に従事し、火田民の居住な  
は少からず。産物は栗・燕麥・大麻・繭・  
生牛の外、鑛産多く、大同金山より金は  
銀を出し、昭和十年には金一、三〇八  
五、銀三、〇一五、金銀鑛二、〇七三  
萬(この總價額二一萬餘圓)を産出し、同  
年六月末の従業員は二一九人、現に重要  
鑛山たり。その他、清潭鑛山より金・銀  
を、龜手鑛山より雲母を、雲松鑛山より  
金銀銅鐵硫化鐵を出す。また北部の陽川  
里附近にマクササイトの超大なる鑛床あ  
り主要部分の鑛量分にて六五、七〇〇  
萬噸と稱せられ、品質・鑛量ともに滿洲  
大石橋産の鑛石に匹敵すべきものとして  
注目さる。同鑛石は與南色の日本マダネ  
シムール金屬株式會社工場にて直接還元  
法により製煉せらる。城津より来る二等  
道路東南より西北に貫き天火嶺(一六九  
六米)を越えて甲山方面に通じバスの便  
あり。其他、河谷に沿ひ端川に出づる道  
路あるも交通不便なり。面色新編は火  
嶺峰南麓、北大川支谷中に位し、交通の  
要衝に當り、また定期に開く市場あり。

兩河時一帯の平野を占む。東及び南は士  
林街、北及び西は淡水郡の三芝庄及び淡  
水街に夫々隣接し、北部には竹子山・七  
里山・大屯山等聳え、丘陵連りて東北の  
大部分を占め、漸次西南に傾斜し、淡水・  
基隆兩流域に至り臺北平野の一部を形成  
す。丘陵は開かれて果樹園となるもの  
多く、柑橘・桃・李・芭蕉・鳳梨等の果  
物類を産し、平野には水田展開して米の  
産出尠からず。主要農産物は此の他に甘  
藷・蔬菜類あり。味里岸の丘陵よりは石  
材、嘔嘔別よりは陶土を産し、陶器の製  
造行はる。大字北投の北投硫黄山は古來  
著名にて、いま德記合名會社の採行に係  
り、昭和十年には硫黄二七七冠(價額約  
一萬九千圓)を産出す。また鹿窟の特産  
を有し、畜産は豚・鵞・鶏等の家畜・家禽  
類一般家庭に善く飼育され、多く臺北市  
に供給す。北投温泉の名は既に人口に膾  
炙し、新北投は本島最古最大の温泉郷と  
して州營の公共浴場の外、各種團體の俱  
楽部・療養所・別荘・温泉旅館等或は軒  
を並べ、或は隨所に散在して臺北市を近  
邊に控へ一の別天地を形成し、遊覽地と  
して繁榮を極む。この一帯は大屯國立公  
園に包括され、臺北よりは淡水線(新北  
投驛に至る線を分岐す)及びアスファルト  
舗裝道路を通じ、前者にはゲソニック  
、後者には同營バス及び自動車商會  
の循環バスを運行し、交通至便なり。管  
内はもと芝蘭二堡の一部をなし、當初は

ホクト 一 一 一

多くの砂丘あり、概し高からず。海岸  
線は出入に乏しく、沿海また淺淺にて海  
運に便ならず。管内平野は地味鹹して肥  
なるも灌漑の便十分ならず。然れども夙  
に農業部として名あり、米・甘蔗・甘藷・  
落花生・蔬菜等の産多く、特用作物とし  
て豆類・黄麻・果樹類廣く栽培せらる。  
畜産は勞務用の水牛・黄牛を除き、豚・  
山羊・鶏・鵞等の畜産家畜類多く、一般  
家庭に於て副業的に飼育せらる。も、特  
に養豚を以て著はれ、肉豚の年々管外に  
搬出せらる。もの甚だ多し。沙山庄には  
官營の内地人移民行あり。林業は地勢の  
關係上、海岸地帯に於ける土砂防止保安  
林及び耕地防風林のみにて、此等の造成  
により産業衛生上利益する所尠からず。  
沿岸地方に於ては水産業行はる。も概し  
て不振なり。商業は地方消費を對象とす  
る小賣商にして、主として北斗・二林兩  
市街を中心に行はる。工業は製糖業を除  
けば何れも小規模にして家庭副業的工業  
の域を脱せず。溪洲庄に鹽水港製糖の溪洲  
製糖所、沙山庄に合資會社三五公司源成  
農場あり、共に製糖を爲す。鹽水港製糖  
の社總は東員林郡の鹽水港中橋より  
起りて北斗街及び溪洲・埤頭・竹塹三庄  
を経て西部の二林に達す。鹽水港製糖は  
北斗街及び溪洲を南北に貫き、指定道路・  
保甲道路四區八通して、北斗街を中心  
に聯合自動車完成し、郡内外各主要地を  
連絡す。當地方には冬季には季節風による

ホクト 一 一 一

平地番抜マツタケ社の所在地たりしよ  
り、近昔の譯字を宛てて北投の地名起れ  
り。此地に礦産を産出する事は早く西班  
牙人の占領時代より、北投社より礦産  
を産し、漢族の此地に至りて土著と交易  
せしこと、西班牙人の記録に見ゆ。康熙  
二十三年の臺灣府學教授林爽光の臺灣紀  
略には「礦産於上淡水、土人取之以易鹽  
米芬布」といひ、同三十六年浙江省仁和  
の人都永河、初めて此地を探検し、今の  
士林に礦を設けて製煉に從へり。温泉の  
泉質は概し硫黄・炭酸泉にて、往時は  
徒らに養蠶の間に委ねられ、人の顧るも  
のなかりしが、我が領臺後開かれてより  
漸次發達して現在の如く臺灣第一の温泉  
郷となるに至れり。(竹子湖) 本庄の一  
大字。山腹に大なる環狀の竹藪あり、そ  
の狀恰も湖に近似するを以て名稱起れり  
といふ。北投を距る東八軒餘、七星山の  
中腹にあり。標高六五〇米餘、内地標・  
左來標・露頭ありて景観を以て聞え、盛  
夏の候は氣温臺北に比して約十度低く、  
静養に好適す。また水稻蓬萊種の原種地  
として其名著はれ、無料休憩所・公共浴  
場の設備あり。士林・北投兩方面より草  
山を隔て連する自動車道路完成し、ハイ  
キング遊地として喜ばる。(北投石) 北  
投溪流中にあり、硫黄鹽と硫酸バリウム  
の合成せしものにて、學術上貴重な研  
究資料として重んぜらる。昭和八年史蹟  
天然紀念物調査委員會に依り天然紀念物

ホクト 一 一 一

飛砂激甚を極むる爲め、トラホームの患  
者多く、海岸地帯の沙山・大城二庄に特  
に甚だし。

ホクトー——ホクフ

ホクトン 北屯庄 臺灣臺中州大屯郡の東部東端。臺中市の北に連る。東西に狭長の略矩形をなし、東は東勢郡新社庄、西は西屯庄、北は豐原郡の潭子・大嶺二庄、南は臺中市及び太平庄に夫々境を接す。東境に頭科山あり、ために東半は山地丘陵をなすも、西半は土地平坦にして臺中平野の一部をなし、地味肥沃、灌溉の便に恵まる。平地帯は水稻・甘蔗・甘藷・蔬菜・煙草・落花生・黄麻等の農作物豊富にして殊に米の産額莫大に上り、東部丘陵帯には果樹園よく發達し芭蕉・鳳梨・柑橘其他の果物類を多く産出する。畜産は勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・鶏を主とする家畜家畜類多く、一般家庭に於て副業的に等しく飼育せらる。山地帯には相思樹等の造林若々として行はれ薪炭・竹材・竹等の林産物豊からず。工業は種精米及び製油の小工場各地に散在する外見るべきものなし。臺中線は西部平地帯を縱走するも管内には驛を有せず縱貫道路これに沿ひ局勢バスを運ず。東北端大坑との間には輕便軌道(手押電車)の便あり、平地には都府道路四通八達し、臺中市を南隣に接へ交通便利の際、庄役場所在地北屯は現行制度實施の際、三十張犁を改稱せしものにして、管内にも三張犁下集に屬し、西部は當初平埔蕃族マセマへ部族の所在地にして、清の康熙末年以來漢人に依りて開拓の緒を開かれたるより、留後移來者年を逐ひて多きを加へ以て今日の基礎を爲せり。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り堡を廢せられ、三十張犁を北屯と改稱し、且つ一街(四張犁街)十六庄を十七大字となし、之を一括して北屯庄となれり。

ホクナイ

北内面 朝鮮京畿道慶州郡の東北部。西南は漢江を距てて慶州と相對し、北は楊平郡と界す。南北に長く約一三軒、東西は北部にて約五軒、南部にて約一〇軒あり。東部に三百米臺の山南北に連り、東南境に漢山(三六五米)あり、西北境に錦山(五四三米)臺あり、山股西境に沿うて南走するも、南部に百米以下の低平地あり。東西兩山地面を金塘川南流し、南境を東より西西北に流るる漢江に合し流域に耕地拓く。農産に米・麥・粟・大小豆・棉花・莞草等あり、牧畜・養蠶行はれ、北部に慶長第二嶺山、西部には松山金山等ありて金・銀を出す。西部に慶州・楊平間道路通じ、金塘川に沿ひては北方區域に至る道路あり、漢江には舟楫を通じ、驪州を對岸に控へて交通不便ならず。面色堂陽里は金塘川右岸に位し、市場あり。漢江の北岸に臨み神勒寺あり、三韓時代の古刹にして、境内に有名なる磁石五重碑あり。嶺山南麓の上嶺里、高陵院址には九百餘年前の建立に係る元宗大師碑あり。

ホクニ

北二面 北二面(朝鮮) 北二面村 北二面村 岐阜縣美濃國

郡上郡の北端。岐阜市の北方五五軒。東は高宮村に、南は白鳥町に、西は福井縣大野郡石白村・上穴馬村に相接す。西部は屏風山脈が起り、北境には大日嶽(一七〇八米)、西境には毘沙門嶽(一三八五米)屹立す。上ノ保川は東部より來り、南折し白鳥町に至る。洞ヶ谷の上流には阿彌陀ヶ池が懸り、南部には上ノ保川に沿ひ地溝狀盆地發達す。川の流域には水田見らるるも、大字前谷附近には自然生山の藪栽培され、名古屋方面に移出さる。交通路は上ノ保川の谷に沿うて飛騨の隔絶境、莊川に運ずる飛騨街道あり。また美濃街道通ず。省線美濃線は南白鳥町よりこの地に通じ北濃(昭和九年設置)を設く。また飛騨街道に沿うて省營バス白城線通じて莊川に至る。此地は和名抄の郡上郡栗原郷の地に於て、江戸時代は郡上藩に屬せり。歩鯉島には馬尾崎あり、向小島良には各種の紙を産す。(白山神社)大字長邊にあり。縣神、伊弉諾命外二神。養老二年の創建といひ、當寺澄長寺開創と同時にその鎮守として白山三社の權を動請し、白山中宮と稱せりといふ。例祭、五月五日。(長邊寺)大字長邊にあり。天台宗。別稱、阿名院。養老年間、僧泰澄の開創。のち白山權現の別當寺となり、また天台別院の繪旨を賜ふ。明治維新後は寺運稍々傾く。

ホクフ

北部 朝鮮黃海道信川郡の北に隣り、北西の一部に於て海に臨む。東西五軒餘、南北約八軒あり。東境に峰巒(三二八米)あり山股南北に連り、一肢また西に延びて金徳山等の丘陵を起す外は概し低平にして、北部と南部とに平地をひらけ、特に西南境を劃して海に入る漢川右岸には廣き田地つづく。海岸は干潮時には泥濘灘を連る。農産に米・麥・棉花等あり。西北部より二道面に跨りて有名なる殷栗嶺山の礦區をたどり、鐵を産す事多く、昭和十年には鐵五五、六九二(價格三十萬六千餘圓)を出し、鐵嶺は金山浦(金山里)より輸出さる。殷栗・長連・今ト里を連る二道面東南境を掠め、西部には殷栗・金山里間三等道路通じバスの便あり、北部にも金山里より東走し面色堂山を過ぎ長連に至る道路通じ、交通不便ならず。二道面

外、里道四通し交通便なり。主色石塘里は北境近く位し、金徳組合・市場等あり。海東郡の南東端。康津灣の南西部に濱し南東は狭き海面を隔てて莞島の北半を占むる莞島郡外面と相對す。地北東より南西に狹長にして面積八〇方軒餘。北西境上に頭嶺(七〇三米)・大屯山(六七二米)・建嶺山(四九九米)等の諸嶺を負ひて南東海岸に傾斜し、海岸に沿ひて諸所に狭き平地あり、海岸は淺淺の干潟地に於て出入あるも良泊を缺く。農・漁行はれ農産に米・麥・豆・棉等、水産に石首魚・鰻・蟹・海苔等あり。郡邑海南よりの三等道路あり、中部海岸の南倉里は莞島への渡船場にて面内交通上の要點なり。

ホクヘー——ホクモ

の如き特殊作物また多からず。特に本庄産の茶は古來鳳凰茶と稱する高級品にて風味甚だ良く名聲高し。農家の副業として豚・鶏を主とする家畜・家畜類多く飼育さる。林業は甚だ注目し、廣大なる山林面積を擁すると、地勢地味共に新業に好適すると依り州下林業の中心たりと同時に、庄に於ける重要産業の一なり。造林事業よく發達し、造林面積甚だ廣く、樹種は廣葉杉・相思樹を主とし、他に桐・油桐・シヤツ・苦楝・竹類等ありて、主要地には廣葉杉の模範林を設けらる。工業は煉瓦・瓦・落花生油・茶油製造の小工場を有するに過ぎず。庄の中心地たる北屯と東部の竹東との間に軌道(手押電車)および乗合自動車有する外は交通不便なり。管内はもと竹北一堡に包括せられ、明末、鄭氏時代に驅逐せられて山中に逃竄せる土著の根柢となりし爲め開拓は北方諸地方に比して遠かに遅れ、清の道光十四年に至りて漸く官許の合資開墾たる金廣福は防番の大隊を設け、土著を退けて開墾に着手し、同二十年頃北屯はその中心市場として著しく發達せり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月、堡を廢し、もとの七庄を七大字に改め、之を一括して北屯庄と稱す。

ホクモン

北門 臺灣臺南州二市十郡中の一。(北門郡)

州の西南部海岸帯に位置し、南北に細長き矩形をなし、北は八獎溪を隔てて東石郡に對し、東は曾文郡に連り、南は曾文溪を挾んで新化・新豐二郡に境し、西は臺灣海峡に面す。行政上、佳里街及び西港・七股・將軍・北門・學甲の五庄に區分し郡役所を佳里街に置く。土地概し平坦にして往時季節風によりて形成せられたる二三の狹長なる小砂丘あるのみ。海岸線は出入に乏しく、沿海淺淺にして海岸線を距たる約一哩の海面には之と略平行して一帯の砂洲を現出す。港灣としては王爺港・北門港・青山港・國聖港あるも何れも或克船を容るるに足るのみ。河川は南北境の二溪を除き、管内に急水溪・將軍溪・七股溪あり、共に西流して海に注ぐ。海岸線附近は土地低濕にしてアルカリ性土壌多く、嘗て其の幾分を専ら養魚池として利用せるに過ぎざりしが、多年土地改良を圖りたる結果、漸次耕地化して著しく生産價値を増大せしのみならず、近時工業の需要増加に伴ひて廣大なる鹽田の開墾を見、全島第一の産鹽地となるに至れり。管内の西半部は海底の自然隆起に依る浮置地にして、濕潤強鹽分を含み、固より植物の生育に適せず、また各溪流が屢々氾濫して耕地を荒廢に歸し、交通を杜絶せしめたる等は、當郡の生産的開發をして遲滞の餘儀なからしめたる主要原因なりしが、今や排水・防水施設等々整備しつつあり、加ふるに嘉南

北門

大洲の洪水並に産業道路の開通を見るに至りて全く面目を一新せり。然れども水利尚ほ不十分にして耕地は兩期作田甚だ少く、大部分早作田及び畑地なり。米・甘蔗・甘蔗を三大農産物とし、米は水稻五八割、陸稻四二割の割合にして、其他蔬菜・落花生・大麥・小麥・黄麻等廣く栽培せられ、甘蔗より製したる糖蜜の生産額莫大なり。畜産の内、養豚はその飼料たる甘蔗の産出多きを以て旺盛を極め、郡外に輸出するもの多し。水産業は農業に次ぐ主要産業たり。海岸帯の諸部落は概し牛農半漁村にして古來より養殖業盛に行はれ虱目魚(まさげ)を主要養殖魚とす。本郡産のもの風味特に優れ、刺身に適するを以て需要甚だ多く、總生産額の過半を管外に輸出す。製鹽業は北門・七股二庄に於て行はる。工業は地勢上工業地たるの要素を缺き、明治製糖の蘆壩工場に於ける製糖業を除けば概し規模小にして見るべきものなきも、農漁村の副業的家内工業として帽子編織業に行はれ注目せらる。商業は地方消費を目的とする小賣商にして佳里街を中心地となす。明治製糖の社線は東隣曾文郡の鐵貫線香子田驛より麻豆を経て佳里に至り、北轉して學甲を経て、更に西轉して二重港(北門庄)に達す。道路・橋梁いづれも完備し、郡内外各主要地との間にバスの便を有す。



ホクモ—ホクリ

位置し、八雲溪・將軍溪間同の海岸帯を占む。東は甲申庄に接し、北は八雲溪を隔てて東石郡の布袋・養竹二庄に、南は將軍溪を隔てて將軍庄に對し、西は臺灣海峡に面す。急水溪は北部を流れ、土地低濕にして強鹽分を含み、且つ水利の便なきため水田の見るべきものなく、農業甚だ不振にして甘藷・甘蔗・陸稻を主作とするも、産額は郡下他市庄に比すべくもあらず。之に反し製鹽業及び水産業は庄の主産業にして、鹽田・養魚池盡く開け、虱目魚及び牡蠣の養殖最も多し。帽子編業の盛なることは郡下の首位にあり、一般家庭に於て普く行はれ、また主要副業として養豚・養鶏注目し、専ら賣出所・郵便局・税關監視所・大日本製鹽出張所・臺灣製鹽出張所あり。北門港よりは主として鹽を輸出し、其他の貿易額大ならず。東北水街(新營郡)、東南佳里街(北門郡)との間に夫々道路ありて聯合自動車の便を有する外、明治製糖の社線は東南二重港(大正四年設置)に移り、それより手押臺車にて北門に連絡す。管内はもと總て甲申堡に屬し、北門は現行制度實施の際、北門嶼を改稱せしものにして、清の乾隆時代までは一孤島をなし、其後、附近海底の自然隆起により陸に本土と連絡するに至る。東隣甲申庄と共に康熙三十二年頃より開人に依りて開拓の緒に就き、古くより鹽田及び魚塩(養魚池)發達す。

【北門】臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛(明治四十三年設置)嘉義市檢町にあり。ホクモンシヨ 北門嶼 北門庄

ホクリク 北陸 畿内八道の一。東山道の北に位置し、西は山陰道に隣り、北は日本海に面す。いま若狹・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡の七國に分れ、行政上は福井・石川・富山・新潟の四縣の管轄に屬す。本道は古事記にある高志道にして日本書紀・崇神紀には四道將軍派遣の條に「北陸」とあれど、これは追記にして當時の稱呼にあらず。國體本紀によりて北陸道に當る邊に置かれし國々を見るに、崇神天皇の朝に國邊を置かれし久比岐國(いま越後の西部、頸城郡)、成務天皇の朝の佐渡・伊弉諾(いま越中の西部、射水郡)・能登・角鹿(いま越前の西部、敦賀郡)・三國(いま越前坂井郡の内)・高志(越前)・越後の中部に古志郡として残る)の諸國、反正天皇の朝の江沼郡(いま加賀の西部、江沼郡)、元龜天皇の朝の若狹國、雄略天皇の朝の加賀(加賀)・羽咋(能登の南部、羽咋郡)の二國等の十餘國ありしが、大化の改新國郡制定の時これ等の多くは郡となり、若狹・越中・佐渡の三國は國として残りしものと思はる。既にして天武天皇の十二年十二月に諸國の境界を定められしことあり、この際、越前國は越前・越中・越後の三國に分れしものなり。而してこの時はいまだ北陸道の名稱なかりしものか、聖武十四年九月使を東海・東山・山陽・山陰・南海・筑紫の六道に遣はし、國司・郡司及び民の消息を

【保倉村】新潟縣越後國中頸城郡の北部。高田市の東北約五町。保倉川中流の左岸。全村平低にして頸城平野の一部を占め、保倉川は北境を曲流し、飯田川その他の支流と共に村内を灌漑す。北岸には小沼澤地を所々に殘す。水田多く米を主産とし、藁の副業あり。社線頸城鐵道北四ヶ屋驛(大磯村地内)・明治村驛(明治村)に近く、縣道東西に走り、南北に走る他の一條と東部に交錯す。直江津町(ハス)の領あり。此の地は和名抄、頸城郡太守領の内なるべし。

【保倉村】新潟縣越後國中頸城郡の北部。高田市の東北約五町。保倉川中流の左岸。全村平低にして頸城平野の一部を占め、保倉川は北境を曲流し、飯田川その他の支流と共に村内を灌漑す。北岸には小沼澤地を所々に殘す。水田多く米を主産とし、藁の副業あり。社線頸城鐵道北四ヶ屋驛(大磯村地内)・明治村驛(明治村)に近く、縣道東西に走り、南北に走る他の一條と東部に交錯す。直江津町(ハス)の領あり。此の地は和名抄、頸城郡太守領の内なるべし。

巡察せしめられし時にも北陸道の名は洩れたり。しかし文武天皇の大寶元年には北陸道を置かれあり、これに若狹・越前・越中・越後・佐渡の五國を配せり。この頃は、越後國の北部は日本海岸近く秋田地方に至りしが、孝德天皇の朝に神皇・磐舟の稱を置き、元明天皇の和銅五年には出羽國を置き、これを東山道に屬せしめし爲、北陸道の北端は自ら定まり、また文武天皇の大寶二年に越中國の四郡(頸城・古志・三島・魚沼)を越後に屬せしめしを以て、越中・越後の境界は明かとなり。次で奈良時代に至り、元正天皇の養老二年越前國の羽咋・能登・鳳凰・珠洲の四郡を割きて能登國を置さしが、聖武天皇の天平十三年十二月能登國を廢し、之を越中國に併せ、同十五年二月には佐渡國を廢しこれを越後國に併せたり。しかし間もなく孝謙天皇の御代に至り、天平勝寶四年十二月佐渡國を復し、天平寶字元年五月には能登國を復活し、次で平安時代の初め嵯峨天皇の弘仁十四年三月には越前國江沼・加賀の二郡を以て加賀國を置き、こゝに初めて七國となれり。爾來北陸道は東海・北門兩道と共に京都と東國とを結ぶ要路となれり。いま東海道本線の米原驛より分岐し越前方面に向ふ鐵道を北陸本線と云ふは、主として北陸道を通ずるに依るなり。七國のうち若狹・越前・福井縣、加賀・能登の二國は石川縣、越中富山縣、越後・佐渡の

二國は新潟縣の管下に屬す。

【北陸街道】 中仙道の關ヶ原驛または鳥居本驛より分れ、琵琶湖の東岸を北に進み、横木峠を越えて越前に入り、武生・福井を経て加賀に至り、大聖寺・小松・金澤を経て、越中に入り、高岡・富山を経て海岸に沿うて越後に入り、今町(直江津)よりまた海岸を巡りて新潟に至る街道を云ふ。約百三十里。なほこれに續いて新潟より念珠ヶ岡(鼠ヶ岡)に通ずる街道を羽前街道と云ひ、直江津より越後に信濃に入るものを北國街道と云ふ。

【北陸線】 國有鐵道の一。北陸本線・小濱線・三國線・七尾線・中越線・水見線・新湊線及び大糸北線の總稱。主として中部地方の日本海斜面に通ず。

【北陸本線】 國有鐵道北陸線の幹線。主として中部地方日本海岸に沿ふ。東海道本線米原驛より起り、琵琶湖東岸を北進して日本海岸の敦賀驛に出で、それより福井・大聖寺・金澤・高岡・富山・魚津・糸魚川を経て信越本線直江津驛にいたる三六六・五軒・及び敦賀驛より分れ敦賀港に至る二・七軒と敦賀港より敦賀新港に至る一・二軒(貨物線)とあり。此線は近畿以西諸地方と東北・北海道地方とを連絡する最短徑路として真日本交通の要部をなし、大阪・青森間に直通急行列車を運轉し約廿一時間にて達す。(主要接続線(連絡線)東海道本線・社線近江鐵道(米原)・小濱線(敦賀)・社線越前電氣

ホクリ—ホケン

【越中】 社線京都電氣越前電氣(福井)・三國線・社線永平寺鐵道(金津)・社線溫泉電氣(大聖寺・敦賀)・七尾線(津幡)・社線加越鐵道(石巻)・中越線(高岡)・高山本線・社線富山鐵道・社線富山岩鐵道(富山)・社線富山山電(滑川・魚津)・社線黒部鐵道(三日市)・大糸北線(糸魚川)・信越本線(直江津)。

【北陸】 北陸面 朝鮮黃海道義州郡の北端。靑草邑の北北東約八町。東境を載寧江、西境を西江に挟まれたる狹長の地を占め、南北約一軒、東西は南部に於て約五軒あり。東は黃州郡、西は安岳郡と相對す。前記兩川は面の北端に於て合流し、全城その洪源に屬するを以て地味頗る肥沃、各種の農産に富む。米を主産し北粟無砂米は夙に聲價高し。その他小麥・粟等を生産す。南部を蒙泉・新換浦間の道路通じ、載寧江・西江には何れも舟楫の便あり、交通不便ならず。

【北陸】 北陸 日本内地諸島の西南部を稱する市帶に對する稱にして、日本内地諸島の東北部をいふ。



ホシノ——ホスエ

○六米)登え、西南方に傾斜し、西南部は山形盆地の東縁なる山寺扇状地に属す。主生葉は農にして、米(三、七三〇石)・蕎麦(二五、七五〇貫、一七、三六二圓)を産し、また特産物に根株(六、三二一貫)・葡萄(二四、五〇〇貫)あり(昭和十二年)。道路は南より西北に通じ、省線奥羽本線天童驛へはバスの便あり。

ホシノ 星野村

福岡縣筑後國八女郡の東北部。矢部川の一支流野川の水源地を占め、黒木町の東方約二軒にあり、北は浮羽郡に、東は大分縣日田郡に、南は箱崎より東南に延長し、四周の村境は山脈を以て圍まれ、東の大分縣境には熊波山(九六〇米)登え、西北隅には鷹取(八〇二米)あり。南境には高峯・大山(五九〇米)・竹山(九〇五米)等あり。星野川は東南部に發して中央を西北流し、流域に稍耕地あり。聚落之に沿ひて點在す。黒木町へバスの便あり。米・麥を産し、山地は木材・薪炭を供す。富村内には第三紀層安山岩を以て成る處多く、幾多の金銀の鑛山あり。主なるものは別揚の金井星野・鶴生星野・豊山の三鑛山とす。(金井星野鑛山)金銀山。鑛區約四一萬坪、金井鑛山會社の經營にて、昭和十年には金二二二、二九二瓦、銀六二〇、五一三瓦(この總價七四萬餘圓)を出し、同年六月末の鑛夫數五三一人、現に重要鑛山に屬す。(鶴生星野鑛山)本鑛は星野村内にあり、鑛區は豊原村の地域に亘り、地層

一六二萬餘坪、鶴生金山會社の經營にて昭和十年には金七二、二一〇瓦、銀三三二、九八〇瓦(この總價二四萬餘圓)を出し、同年六月末の鑛夫數は二二八人、現に重要鑛山に屬す。(豊山鑛山)金銀山にて鑛區は星野村と大分縣日田郡津江村とに跨り約九二萬坪、本鑛は星野村に置く。昭和十年には金八、六七二瓦、銀五、六八四瓦(この總價八萬六千餘圓)を出す。現在、重要鑛山たり。本村と浮羽郡に屬せしが、明治二十九年本郡に編入さる。中世は黒木氏と同族なる星野氏ここに據り、南北朝の頃官軍に應じ、矢部寄港に屬す。その後戰國の頃大友氏に屬せし。天正年中、板蓋て島津氏に屬す。同十四年、立花宗茂と筑前に戦ひ敗死し家また滅ぶ。(宝山熊野神社)大字星野に鎮座。祭神、伊弉丹命・連玉男命・素戔嗚命。後關河天皇の嘉祿二年、星野領主八郎、紀州熊野権現を勧請し、無漏山權現と稱せしを本社の創祀と傳ふ。後島羽天皇隱岐に遷され給ひし時、秋津神祇の爲に祈願せられたり。例祭、九月九日。

ホシノオカ 星岡

元弘年間古戰場。松山市外の愛媛縣温泉郡石井村大字星岡にあり。元弘三年閏二月この國の土居通者・得能通者(義兵を率ひ、將に土佐に向ひて進軍せんとせし時、長門探偵北條時直、周防・長門の兵を率ゐ、船三百餘艘を以て伊豫國に渡り、この處に

於て土居・得能の軍と戦ひて敗れ、時直父子一時行方を失ひし處。今、ここに當時の事蹟を録せし表忠碑あり。

ホシノシヨ 星生山

九住山(大分縣)の一峯。

間と海岸とは平地らけ、農耕適地に乏しからず。海岸は概ね干潮時に泥濘を露呈せしめ、特に北部の砂灘海岸に於てその然るを見、從つて良泊を缺くも、鹽田諸所に發達す。産物に米・麥・豆類・棉花および鹽その他の水産あり。また標成大榮金山ありて金・銀を出す。西南岸の晩湖里と東方の平澤の間に三等道路通ずるも、交通未だ便ならず。

ホスエ 保津川

↓桂川  
高野の北端。高山市の西隣。北は吉城郡國府村に、南より西は清見村に隣る。飛騨高原の南部、石英斑岩よりなる山地にて北境に見量山(九七七米)聳つ。此の山地を切りて川上川西南より東北に流れ河岸に盆地を作り、東部には宮川北流し兩川相合す。聚落はこの河岸盆地に散在的に分布し、農耕地はここに集中され、養蠶も盛なり。川上川の谷に沿つて郡上街道が通じ、北部には香嶺高山本線通じ、上枝驛(昭和九年設置)を置く。此地は和名抄の大野郡三枝驛の地にして、後風土記に「今の上枝の邊をば三枝驛と云ひ美衣水と呼ぶ」と見え、中世は川上庄または川上郷と呼べり。この川上と三枝の舊稱の二字を採りて上枝村とし、江戸時代は高山藩に屬し其後は事領たりき。明治二十二年七月分村の議起り、清見村内の川上郷の五ヶ村、三枝郷の五ヶ村が分離し上枝村を成せり。(新官報社)大字新

宮に鎮座。祭神、奇明本主神・伊弉丹命・速玉男之命・事解男之命。大八幡會を祀祀す。關河天皇本長年間の創建と傳ふ。領主平・飛騨・三木・金森等の諸氏の崇敬蒙らす。もと熊中社・新宮白山權現宮といひ、明治に入り現社に改む。例祭、九月十日。

ホスミ 穂積

〔穂積村〕 關島縣岩代國安積郡の南部。郡山市の西南約一〇軒。東南は岩瀬郡に接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西境は海拔約八百米にて東方に傾斜し、東南部稍平坦なり。安積疎水は本村を南北に通ざる。米・麥・大豆・蕎麦を産す。道路は東南部を略東西に通じ、郡山市及び南方の三和村へバスの便あり。(宇奈己呂別神社)大字八幡に鎮座。祭神、瀧津比賣命・磐田別命。式内名神大社。例祭、十月十九日。  
〔穂積村〕 新木縣下野國下都賀郡の中部。小山町の西隣にて、南は間々田町と隣接す。全村平地にして東部を思川西南に流れ、水田多く、米を主産す。また養蠶行はれて繭の産あり。縣道は小山町に通じバスの便あり。同町にて陸羽街道に合しまた同町に省線東北本線小山驛あり。此地は和名抄、都賀郡生馬郷の内なるべく中世は中庄と稱せし地。  
〔穂積村〕 山梨縣甲斐國南巨摩郡の東北部。諏訪町の西に接し、西北は中巨摩郡に界す。全村山林に富み、西より東へ傾

斜する峻嶒の山脈により小谷に分たれ、聚落散在す。養蠶を主とし繭の外に米・麥・木炭等を多少産す。里置により諏訪町へ約四軒。交通餘り便ならず。(法妙寺)日蓮宗。徳榮山。本宗本山。一に小室山・小身延と稱す。文永十一年、日蓮身延隱棲の途次、當地に惠長法印なる者法術を以て著はると聞き、日興・日向を伴ひ來りて法論を試み之を敬服す。法印爲りて之に歸し、一日毒餅を携へ來り日蓮に毒殺せんとせしに看破せられ、遂に前非を悔ひ其弟子となる。日蓮即ち日傳と命名し中老に列せしむ。而して眞言宗を改めて法華の遺傳となし、日蓮を岡山に推して自らこれに次すといふ。

ホスミ 穂積

〔穂積村〕 長野縣信濃國南佐久郡の中部。千曲川の上流にして、蓼科火山(二五三〇米)と關東山塊との間を南北に通ずる從谷の東部にあり。岩村町の南方約一八軒。北は海瀬村、南は小海村、西には千曲川を隔てて畑八村あり。面積は一〇、六七方軒。村は千曲川の發源に於て三段の河成段丘あり。第一段丘は約一〇〇〇米の高度を示し、筆石の部落あり、第二段丘は九〇〇米にして穴原の部落があり、第三段丘は八〇〇米に位置し村の主要耕地を提供し、高岩・東馬流の聚落あり。水田は第三段丘にありて千曲川に沿ひ極めて狭し。從つて村は山林及び畑作を主業とす。千曲川に沿ひ省線小海線通じ佐久穂驛・高岩・馬渡の三驛(共に大

正八年設置)あり。  
〔穂積村〕 岐阜縣美濃國本巣郡の西南隅。大垣市の東方約六軒。北は本田村に、東は長良川を隔てて稲葉郡市橋村・日置江村に對し、西は牛牧村に接す。此村の附近は等高線一〇米以下の低地にして諸川輻輳し、即ち東境には長良川が、中部には中川が、西境には五六川が並行して流れ、墨俣の北にて合流す。而して諸川は天井川をなすため、夏季霖雨の時洪水は多く、屢々水禍を被れり。此地方にては村民の協力によりこの水害より免れん爲に輪中を形成し安全を計れり。即ち長良川と中川の間は穂積輪中をなし、中川と五六川の間は五六輪中の一部をなす。近年は長良川の改修工事の爲め水害その跡を絶てり。此地は西濃平の中央に位置し農業を主業とするも、地は輪中地域なれば大川より灌漑水を引く事を得ず、よつて百間堀と稱する掘抜きにより灌漑せらる。また飲料水も悪く、百間堀により下層の水を飲用に供す。主産物は米・麥・蕎麦、特産物には紫雲英種子あり。別府附近にてはまた柳行李・マスクットの特産もあり遠く外國にまで輸出され、代用品時代の産見となる。交通は南北に中央を墨俣街道が通じ、北部には東西に東海道の本線通じ、穂積驛(明治三十九年設置)を置く。本驛は柿・柳行李等の輸送多し。また驛よりは南方墨俣町へ墨俣乗合自動車の便あり。下穂積の部落はもと長良川

ホスエ 保津川

の遺傳に沿ひたりしが、改修工事のため墨俣街道に移住せり。本村は和名抄の本里郡穂積郷の地にて中世も穂積郷と呼ばれ、別府は黒木庄の東方にて別府郷と云はれたり。江戸時代は加納藩に屬せり。上穂積の古城址は長井藩頭領の居城と云ふ。孝女廣瀨の女の出身地なり。(勝連神社)大字別府に鎮座。祭神、伊弉丹命・宇多天皇。相殿神、柳稻田姫命。例祭、四月三日。  
〔穂積〕 愛知縣東加賀郡にありし村。明治三十九年、本村を廢し大字則定、鷺山を盛岡村に、外五大字を松平村に編入。  
〔穂積〕 尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に丹羽郡穂積郷あり、その地今の丹羽郡千秋村の邊に當る。  
〔穂積〕 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡穂積郷あり、保都美と訓ず。その地今の三島郡春日村の邊に當る。  
〔穂積〕 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に賀茂郡穂積郷あり、その地今の加東郡加茂村・穂野町に當る。

ホスミ——ホセー

ホソイ—ホソカ

大豆・蕎麦・木炭を産し、沿海地方は明太魚・阿部・鰯等の産多く、三湖・茂桂里はその中心地にして、特に後者にては香椎漁場の大敷網漁業盛なり。鐵道成鏡本線と逸南・洪原間直路は並行して西南へ東北に延び、前者の三湖驛(大正十三年設置)あり、三湖は前面に前敵島を控へ郡下有数の大漁行なり。西南境の成鏡嶺は、高麗時代に元軍を撃破せし古戰場といふ。

ホソイリ

細入村 富山縣越中郡舟橋郡の東南部。神通川の左岸。高原川・宮川の合流點を占め、南に宮川を境に岐阜縣飛騨國に接し、東は神通川により下新川郡に界す。南北に細長く、支流久留須川との谷を分つ一〇〇〇米餘の山地南北に走り、東境を北流する神通川の谷に當りて溪谷をなす。林業及び鑛山業に従事するもの多く、神通川には鮎の特産あり。倉嶺高山本線と飛騨街道は共に神通川・宮川に沿ひて東部を貫通し、前者の橋原・諸谷の兩驛(共に昭和五年設置)あり、屋敷多し。冬季は雪害を受ける事多し。所なり。本村は黒瀨谷の東、神通川の西岸にして、飛州往來の險路に當る。近世は輪原保と稱せし地なり。大字諸谷は富山藩の時に飛騨口の關所を置きし所。村内に神通川水系宮川を利用せる日本電力製電所(出力四五、四〇〇キワット)、日本海電氣伝送電所、及び常虹の瀧(高三八米、幅二米)等あり。また八人足家

ホソエ

細江 岐阜縣飛騨國吉城郡の中部。高山市の西北方一五村。北は坂上村に、東は柳川村に、南は古川町に、西は小栗利村・河合村に接す。飛騨高原の中央に位し、山地は中世層および花崗岩より成り、北部には高山(一三三六米)、南境には安山山(一〇五五米)聳え、西境には宮川が曲流しつつ峽谷をなして西北方に流る。南部は古川盆地の北部を占め地溝状をなし、戸市川は東北方より來りて宮川に合す。農業は主として農業にして古川盆地には米・野菜を産し、其他、蕎麦・木炭の産もあり。交通路は古川盆地より宮川に沿うては越中街道西折道通じ、杉崎より分れ、東方山地へ迂曲道折して登り、神原峠を越え船津方面へ通る越中街道東折道あり。倉嶺高山本線は宮川谷に通じ古川驛に近し。此地は和名抄の荒城郡飽見郡の地なるべく、中世は小島郡の中に在り、江戸時代は高山藩に屬し、のち幕

ホソカ

領となる。細江の地名は村の中央に細江と稱する細流あり、これを萬葉集に見ゆる(斐太の細江(大和國高市郡鴨公村大字飛騨)に準らへて、名づけしものならん。此地方は飛騨國にても最初に開拓されし地にして、先住民の居住地も多く同地よりは石器・土器を出土し、また大小古墳五十數ヶ所あり。南朝の忠臣藤原高基は飛騨國司に任ぜられ、以來三百數十年小島城に居城せり。(高田神社)大字大江に鎮座。郷社。祭神、不詳。合祀、白山比咩命外三神。式内小社。中世以來白山社または白山大権現と稱せしも、文化年中に舊名(即ち現稱)に復し社殿を改修す。例祭、九月六日。

ホソカ

細川 省轄新築線の一驛(昭和二年設置)。北海道釧路國釧路郡釧路村にあり。

ホソカ

細川 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

【細川村】 兵庫縣播磨國美蓋郡の中部。神戸市の西北部より北方へ約一五村を隔つ。西北部は加東郡に接し、村形は頭を

ホソカ

持上げたナメタガの如き形をなし、東方は尖尾をなす。四周は二百一三百米以下の丘陵により圍まれ西の頭部には東北

ホソカ

方より來る美蓋川西南へ貫流し、流域に稍廣潤なる低地開け北及び南の隣村へ續く。東部に源流する河川は中央を西流して之に合す。米産多く多麩・蔬菜・花卉・

ホソカ

粟・粟藁・食用農産・果實・繭等の農産及び繭・醬油・藁製品・林産等もあり。美蓋川に沿ひて縣道通過しバスを通ず。

ホソカ

中世の細川莊にして、和歌所の所領なる關係より、世々冷泉家に屬せり。かの冷泉爲家が、この地を長子爲氏に與へしが不孝の事あり、これを奪ひて異父弟爲相に與ふ。然るに爲氏これを横領して惡ざりしかば、爲相の生母阿佛尼、鎌倉幕府に訴へて裁決を請はんとせしことは世

ホソカ

に有名にて、阿佛尼のこの時の紀行が即ち「十六夜日記」なり。かくてこの地は後年冷泉家に歸し、かの藤原保高も此地に生る。保高の父爲純、曾て播磨の豪族則所長前に位せられ、爲純・爲純父子これ

ホソカ

にバス通じ、同町の省轄信濃松井田町に出づるに便なり。

ホソカ

【細野】 長野縣北安曇郡松川町の大字。省轄大糸南線の細野驛(大正四年設置)あり。

ホソカ

【細野村】 京都府丹波國北桑田郡の南部を占め、東より南にかけては山城國葛野郡及び京都府に接し、謂ゆる丹波高原の山間村落にて全山山岳重疊し、ただ僅かに村の東境より西境に曲折を描いて下る細野川流域に極めて僅少の平地を見るのみ。村は殆ど分水嶺をなす山地を以て圍繞せられ、他村との交通には四一五米の峠を攀じ登らざるべからず。その主な

ホソカ

る時は東に伏見坂・笠崎・雲月峠・田尻峠あり、南方には松尾峠、北方に長野坂・栗尾峠あり。その中、笠崎と栗尾峠とは府道周山街道の時に改修せられ京都路にして、近時京都より丹波の北端鶴ヶ岡に至る省營バスも此の峠を越すものなり。川は大堰川支流の細野川(其の上流は餘野川)及び支流鹿見川は何れも曲折を描くは、城內が幾つかの地塊に分かれたり、河はその間を流るためとす。全村殆んど山地なるを以て林業を主業とし、山間の小盆地に僅かの米を産するのみなり。丹波杉は世に名高く、本村にも其の栽培行はれ京阪地方に送らる。薪炭の業また古くより盛なり。かく山間の一僻村にて、林業の他見るべき産業なきため、

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

【細川村】 兵庫縣播磨國美蓋郡の中部。神戸市の西北部より北方へ約一五村を隔つ。西北部は加東郡に接し、村形は頭を

ホソカ

持上げたナメタガの如き形をなし、東方は尖尾をなす。四周は二百一三百米以下の丘陵により圍まれ西の頭部には東北

ホソカ

方より來る美蓋川西南へ貫流し、流域に稍廣潤なる低地開け北及び南の隣村へ續く。東部に源流する河川は中央を西流して之に合す。米産多く多麩・蔬菜・花卉・

ホソカ

粟・粟藁・食用農産・果實・繭等の農産及び繭・醬油・藁製品・林産等もあり。美蓋川に沿ひて縣道通過しバスを通ず。

ホソカ

中世の細川莊にして、和歌所の所領なる關係より、世々冷泉家に屬せり。かの冷泉爲家が、この地を長子爲氏に與へしが不孝の事あり、これを奪ひて異父弟爲相に與ふ。然るに爲氏これを横領して惡ざりしかば、爲相の生母阿佛尼、鎌倉幕府に訴へて裁決を請はんとせしことは世

ホソカ

に有名にて、阿佛尼のこの時の紀行が即ち「十六夜日記」なり。かくてこの地は後年冷泉家に歸し、かの藤原保高も此地に生る。保高の父爲純、曾て播磨の豪族則所長前に位せられ、爲純・爲純父子これ

ホソカ

にバス通じ、同町の省轄信濃松井田町に出づるに便なり。

ホソカ

【細野】 長野縣北安曇郡松川町の大字。省轄大糸南線の細野驛(大正四年設置)あり。

ホソカ

【細野村】 京都府丹波國北桑田郡の南部を占め、東より南にかけては山城國葛野郡及び京都府に接し、謂ゆる丹波高原の山間村落にて全山山岳重疊し、ただ僅かに村の東境より西境に曲折を描いて下る細野川流域に極めて僅少の平地を見るのみ。村は殆ど分水嶺をなす山地を以て圍繞せられ、他村との交通には四一五米の峠を攀じ登らざるべからず。その主な

ホソカ

る時は東に伏見坂・笠崎・雲月峠・田尻峠あり、南方には松尾峠、北方に長野坂・栗尾峠あり。その中、笠崎と栗尾峠とは府道周山街道の時に改修せられ京都路にして、近時京都より丹波の北端鶴ヶ岡に至る省營バスも此の峠を越すものなり。川は大堰川支流の細野川(其の上流は餘野川)及び支流鹿見川は何れも曲折を描くは、城內が幾つかの地塊に分かれたり、河はその間を流るためとす。全村殆んど山地なるを以て林業を主業とし、山間の小盆地に僅かの米を産するのみなり。丹波杉は世に名高く、本村にも其の栽培行はれ京阪地方に送らる。薪炭の業また古くより盛なり。かく山間の一僻村にて、林業の他見るべき産業なきため、

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

【細川村】 兵庫縣播磨國美蓋郡の中部。神戸市の西北部より北方へ約一五村を隔つ。西北部は加東郡に接し、村形は頭を

ホソカ

持上げたナメタガの如き形をなし、東方は尖尾をなす。四周は二百一三百米以下の丘陵により圍まれ西の頭部には東北

ホソカ

方より來る美蓋川西南へ貫流し、流域に稍廣潤なる低地開け北及び南の隣村へ續く。東部に源流する河川は中央を西流して之に合す。米産多く多麩・蔬菜・花卉・

ホソカ

粟・粟藁・食用農産・果實・繭等の農産及び繭・醬油・藁製品・林産等もあり。美蓋川に沿ひて縣道通過しバスを通ず。

ホソカ

中世の細川莊にして、和歌所の所領なる關係より、世々冷泉家に屬せり。かの冷泉爲家が、この地を長子爲氏に與へしが不孝の事あり、これを奪ひて異父弟爲相に與ふ。然るに爲氏これを横領して惡ざりしかば、爲相の生母阿佛尼、鎌倉幕府に訴へて裁決を請はんとせしことは世

ホソカ

に有名にて、阿佛尼のこの時の紀行が即ち「十六夜日記」なり。かくてこの地は後年冷泉家に歸し、かの藤原保高も此地に生る。保高の父爲純、曾て播磨の豪族則所長前に位せられ、爲純・爲純父子これ

ホソカ

にバス通じ、同町の省轄信濃松井田町に出づるに便なり。

ホソカ

【細野】 長野縣北安曇郡松川町の大字。省轄大糸南線の細野驛(大正四年設置)あり。

ホソカ

【細野村】 京都府丹波國北桑田郡の南部を占め、東より南にかけては山城國葛野郡及び京都府に接し、謂ゆる丹波高原の山間村落にて全山山岳重疊し、ただ僅かに村の東境より西境に曲折を描いて下る細野川流域に極めて僅少の平地を見るのみ。村は殆ど分水嶺をなす山地を以て圍繞せられ、他村との交通には四一五米の峠を攀じ登らざるべからず。その主な

ホソカ

る時は東に伏見坂・笠崎・雲月峠・田尻峠あり、南方には松尾峠、北方に長野坂・栗尾峠あり。その中、笠崎と栗尾峠とは府道周山街道の時に改修せられ京都路にして、近時京都より丹波の北端鶴ヶ岡に至る省營バスも此の峠を越すものなり。川は大堰川支流の細野川(其の上流は餘野川)及び支流鹿見川は何れも曲折を描くは、城內が幾つかの地塊に分かれたり、河はその間を流るためとす。全村殆んど山地なるを以て林業を主業とし、山間の小盆地に僅かの米を産するのみなり。丹波杉は世に名高く、本村にも其の栽培行はれ京阪地方に送らる。薪炭の業また古くより盛なり。かく山間の一僻村にて、林業の他見るべき産業なきため、

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

【細川村】 兵庫縣播磨國美蓋郡の中部。神戸市の西北部より北方へ約一五村を隔つ。西北部は加東郡に接し、村形は頭を

ホソカ

持上げたナメタガの如き形をなし、東方は尖尾をなす。四周は二百一三百米以下の丘陵により圍まれ西の頭部には東北

ホソカ

方より來る美蓋川西南へ貫流し、流域に稍廣潤なる低地開け北及び南の隣村へ續く。東部に源流する河川は中央を西流して之に合す。米産多く多麩・蔬菜・花卉・

ホソカ

粟・粟藁・食用農産・果實・繭等の農産及び繭・醬油・藁製品・林産等もあり。美蓋川に沿ひて縣道通過しバスを通ず。

ホソカ

中世の細川莊にして、和歌所の所領なる關係より、世々冷泉家に屬せり。かの冷泉爲家が、この地を長子爲氏に與へしが不孝の事あり、これを奪ひて異父弟爲相に與ふ。然るに爲氏これを横領して惡ざりしかば、爲相の生母阿佛尼、鎌倉幕府に訴へて裁決を請はんとせしことは世

ホソカ

に有名にて、阿佛尼のこの時の紀行が即ち「十六夜日記」なり。かくてこの地は後年冷泉家に歸し、かの藤原保高も此地に生る。保高の父爲純、曾て播磨の豪族則所長前に位せられ、爲純・爲純父子これ

ホソカ

にバス通じ、同町の省轄信濃松井田町に出づるに便なり。

ホソカ

【細野】 長野縣北安曇郡松川町の大字。省轄大糸南線の細野驛(大正四年設置)あり。

ホソカ

【細野村】 京都府丹波國北桑田郡の南部を占め、東より南にかけては山城國葛野郡及び京都府に接し、謂ゆる丹波高原の山間村落にて全山山岳重疊し、ただ僅かに村の東境より西境に曲折を描いて下る細野川流域に極めて僅少の平地を見るのみ。村は殆ど分水嶺をなす山地を以て圍繞せられ、他村との交通には四一五米の峠を攀じ登らざるべからず。その主な

ホソカ

る時は東に伏見坂・笠崎・雲月峠・田尻峠あり、南方には松尾峠、北方に長野坂・栗尾峠あり。その中、笠崎と栗尾峠とは府道周山街道の時に改修せられ京都路にして、近時京都より丹波の北端鶴ヶ岡に至る省營バスも此の峠を越すものなり。川は大堰川支流の細野川(其の上流は餘野川)及び支流鹿見川は何れも曲折を描くは、城內が幾つかの地塊に分かれたり、河はその間を流るためとす。全村殆んど山地なるを以て林業を主業とし、山間の小盆地に僅かの米を産するのみなり。丹波杉は世に名高く、本村にも其の栽培行はれ京阪地方に送らる。薪炭の業また古くより盛なり。かく山間の一僻村にて、林業の他見るべき産業なきため、

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

【細川村】 兵庫縣播磨國美蓋郡の中部。神戸市の西北部より北方へ約一五村を隔つ。西北部は加東郡に接し、村形は頭を

ホソカ

持上げたナメタガの如き形をなし、東方は尖尾をなす。四周は二百一三百米以下の丘陵により圍まれ西の頭部には東北

ホソカ

方より來る美蓋川西南へ貫流し、流域に稍廣潤なる低地開け北及び南の隣村へ續く。東部に源流する河川は中央を西流して之に合す。米産多く多麩・蔬菜・花卉・

ホソカ

粟・粟藁・食用農産・果實・繭等の農産及び繭・醬油・藁製品・林産等もあり。美蓋川に沿ひて縣道通過しバスを通ず。

ホソカ

中世の細川莊にして、和歌所の所領なる關係より、世々冷泉家に屬せり。かの冷泉爲家が、この地を長子爲氏に與へしが不孝の事あり、これを奪ひて異父弟爲相に與ふ。然るに爲氏これを横領して惡ざりしかば、爲相の生母阿佛尼、鎌倉幕府に訴へて裁決を請はんとせしことは世

ホソカ

に有名にて、阿佛尼のこの時の紀行が即ち「十六夜日記」なり。かくてこの地は後年冷泉家に歸し、かの藤原保高も此地に生る。保高の父爲純、曾て播磨の豪族則所長前に位せられ、爲純・爲純父子これ

ホソカ

にバス通じ、同町の省轄信濃松井田町に出づるに便なり。

ホソカ

【細野】 長野縣北安曇郡松川町の大字。省轄大糸南線の細野驛(大正四年設置)あり。

ホソカ

【細野村】 京都府丹波國北桑田郡の南部を占め、東より南にかけては山城國葛野郡及び京都府に接し、謂ゆる丹波高原の山間村落にて全山山岳重疊し、ただ僅かに村の東境より西境に曲折を描いて下る細野川流域に極めて僅少の平地を見るのみ。村は殆ど分水嶺をなす山地を以て圍繞せられ、他村との交通には四一五米の峠を攀じ登らざるべからず。その主な

ホソカ

る時は東に伏見坂・笠崎・雲月峠・田尻峠あり、南方には松尾峠、北方に長野坂・栗尾峠あり。その中、笠崎と栗尾峠とは府道周山街道の時に改修せられ京都路にして、近時京都より丹波の北端鶴ヶ岡に至る省營バスも此の峠を越すものなり。川は大堰川支流の細野川(其の上流は餘野川)及び支流鹿見川は何れも曲折を描くは、城內が幾つかの地塊に分かれたり、河はその間を流るためとす。全村殆んど山地なるを以て林業を主業とし、山間の小盆地に僅かの米を産するのみなり。丹波杉は世に名高く、本村にも其の栽培行はれ京阪地方に送らる。薪炭の業また古くより盛なり。かく山間の一僻村にて、林業の他見るべき産業なきため、

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。

ホソカ

【細川村】 兵庫縣播磨國美蓋郡の中部。神戸市の西北部より北方へ約一五村を隔つ。西北部は加東郡に接し、村形は頭を

ホソカ

持上げたナメタガの如き形をなし、東方は尖尾をなす。四周は二百一三百米以下の丘陵により圍まれ西の頭部には東北

ホソカ

方より來る美蓋川西南へ貫流し、流域に稍廣潤なる低地開け北及び南の隣村へ續く。東部に源流する河川は中央を西流して之に合す。米産多く多麩・蔬菜・花卉・

ホソカ

粟・粟藁・食用農産・果實・繭等の農産及び繭・醬油・藁製品・林産等もあり。美蓋川に沿ひて縣道通過しバスを通ず。

ホソカ

中世の細川莊にして、和歌所の所領なる關係より、世々冷泉家に屬せり。かの冷泉爲家が、この地を長子爲氏に與へしが不孝の事あり、これを奪ひて異父弟爲相に與ふ。然るに爲氏これを横領して惡ざりしかば、爲相の生母阿佛尼、鎌倉幕府に訴へて裁決を請はんとせしことは世

ホソカ

に有名にて、阿佛尼のこの時の紀行が即ち「十六夜日記」なり。かくてこの地は後年冷泉家に歸し、かの藤原保高も此地に生る。保高の父爲純、曾て播磨の豪族則所長前に位せられ、爲純・爲純父子これ

ホソカ

にバス通じ、同町の省轄信濃松井田町に出づるに便なり。

ホソカ

【細野】 長野縣北安曇郡松川町の大字。省轄大糸南線の細野驛(大正四年設置)あり。

ホソカ

【細野村】 京都府丹波國北桑田郡の南部を占め、東より南にかけては山城國葛野郡及び京都府に接し、謂ゆる丹波高原の山間村落にて全山山岳重疊し、ただ僅かに村の東境より西境に曲折を描いて下る細野川流域に極めて僅少の平地を見るのみ。村は殆ど分水嶺をなす山地を以て圍繞せられ、他村との交通には四一五米の峠を攀じ登らざるべからず。その主な

ホソカ

る時は東に伏見坂・笠崎・雲月峠・田尻峠あり、南方には松尾峠、北方に長野坂・栗尾峠あり。その中、笠崎と栗尾峠とは府道周山街道の時に改修せられ京都路にして、近時京都より丹波の北端鶴ヶ岡に至る省營バスも此の峠を越すものなり。川は大堰川支流の細野川(其の上流は餘野川)及び支流鹿見川は何れも曲折を描くは、城內が幾つかの地塊に分かれたり、河はその間を流るためとす。全村殆んど山地なるを以て林業を主業とし、山間の小盆地に僅かの米を産するのみなり。丹波杉は世に名高く、本村にも其の栽培行はれ京阪地方に送らる。薪炭の業また古くより盛なり。かく山間の一僻村にて、林業の他見るべき産業なきため、

ホソカ

村を置く。

ホソカ

【細川】 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村を廢し岩津村を置き、昭和三年に同村は町制を布く。この地は足利氏の支流細川氏の居所にして大給松平氏の出身地たり。